

青森県埋蔵文化財調査報告書 第463集

三内丸山遺跡34

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書9
掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—

平成19年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第463集

三内丸山遺跡34

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書9
掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—

平成19年度

青森県教育委員会



第26号掘立柱建物跡



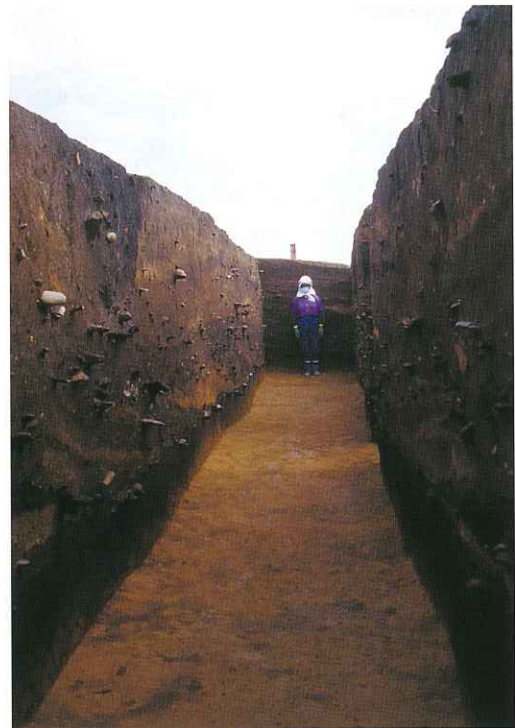
第26号掘立柱建物跡 ピット4 木柱検出状況



南盛土全景



1・4トレンチ土層断面



1・4トレンチ土層断面

序

青森市に所在する三内丸山遺跡は青森県総合運動公園拡張整備事業に係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年度から平成6年度まで県教育委員会が発掘調査を行いました。

調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが明らかとなりました。特に大規模な遺構、多種多量の出土遺物から、縄文時代前期中葉から中期にかけて約1500年以上継続して営まれた円筒土器文化を代表する大規模な集落跡であることが判明しました。

本書はその成果の一部をまとめたものですが、今後三内丸山遺跡の解明及び埋蔵文化財の保護と研究に役立てば幸いです。

最後に調査及び本書作成に御尽力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

青森県教育委員会

教育長 田村 充治

例 言

- 1 本報告書は平成4～6年度に実施した青森県総合運動公園拡張整備事業に係る三内丸山遺跡の発掘調査のうち、旧野球場建設予定地で『三内丸山(2)遺跡Ⅱ』（青森県埋蔵文化財調査報告書第157集 平成5年度 青森県教育委員会）で報告済みの3塁側スタンド部分を除く区域で、『三内丸山遺跡30』・『三内丸山遺跡32』（青森県埋蔵文化財調査報告書第423・444集 青森県教育委員会）に報告された部分を除く縄文時代の掘立柱建物跡及び南盛土についての報告書である。他の遺構の報告書については『特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧』（p301）を参考にさせていただきたい。
- 2 調査の概要については、『三内丸山遺跡X』（青森県埋蔵文化財調査報告書第250集 平成9年度 青森県教育委員会）の「第Ⅰ章 調査に至る経過と調査要項」、「第Ⅱ章 調査の方法と経過」、「第Ⅲ章 遺跡の概要」を参照されたい。
- 3 三内丸山遺跡は、平成14年3月19日付けで周知の遺跡範囲に変更がなされている。旧遺跡名での小三内遺跡（旧遺跡番号01017）、近野遺跡（同01065）の一部、三内丸山(1)遺跡（同01020）、三内丸山(2)遺跡（同01021）が統合され、三内丸山遺跡となった。新遺跡番号は01021番である。
- 4 本遺跡の遺構番号は、種類毎に通し番号を付してある。
- 5 挿図の縮尺は、各図に示している。
- 6 遺構図面の記載にあたっては、土器－P、石器・石－S、ロームブロック－L.B.の略号を用いた。
- 7 掘立柱建物跡については発掘調査時及び整理作業時に高島成侑 前八戸工業大学教授の指導を受けた。
- 8 石器・石製品の石材の種類鑑定については、山口義伸青森県立浪岡高校教諭に依頼した。
- 9 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。
 - (1) 遺構番号は一部を除いて発掘調査時のものを用いている。
 - (2) 遺構内外の堆積土の注記は、「新版標準土色帖」（小山、竹原1990）を用いた。
 - (3) 原則として、遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。
 - (4) 遺構名については配置図・観察表中で以下の略称で表記している。

第○号掘立柱建物跡－○掘立 第○号ピット－○ピット
 - (5) 縄文原体は、山内清男「日本先史土器の縄紋」（先史考古学会 1979）を参考に分類し、記述はそれに従った。ただし、観察表では以下のように省略した。

結節回転文－結回、単軸絡条体○類－単絡○、結束第○種－結束○、多軸絡条体－多軸絡

また表中では、縄文原体の回転文の場合は種類のみ、押圧文（捺糸圧痕・側面圧痕）の場合は種類の後に「押」を付けている。馬蹄形の圧痕については「R馬蹄押」のように表記を分けている。隆帯・貼付帯上の施文文様は「貼」の直後に括弧書きした。
 - (6) 観察表中では、以下の略語で縄文原体以外の土器文様や付着物等を記載している。

竹管状工具による刺突－竹管刺突、半截竹管状工具による刺突－半竹刺突、ヘラ状工具による刺突－ヘラ刺突、折り返し口縁－折返

炭化物付着（部位）－炭（部位）、漆塗布（部位）－漆（部位）、赤色顔料付着（部位）－赤色（部位）。

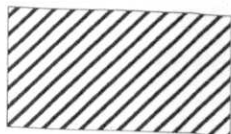
付着物等の部位については、外面全体－外、内面全体－内、口頸部外面－口外、口頸部内面－口内、胴部外面－胴外、胴部内面－胴内、胴部外面の上半部－胴外上、胴部外面の下半部－胴外下、胴部内面の上半部－胴内上、胴部内面の下半部－胴内下、底部外面－底内、底部外面－底内と略記した。

(7) 石質は以下のように略称する。

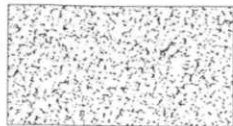
玉髓－玉、頁岩－頁、玉髓質珪質頁岩－玉珪、珪質頁岩－珪頁、黒曜石－黒、鉄石英－鉄、凝灰岩－凝、砂岩－砂、安山岩－安、流紋岩－流、閃緑岩－閃、緑色細粒凝灰岩－緑細凝、細粒凝灰岩－細凝、溶結凝灰岩－溶凝、軽石－軽、輝緑岩－輝、花崗岩－花、花崗閃緑岩－花閃

10 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室が保管している。

11 図中に使用したスクリーントーンは以下のものを表す。



地山



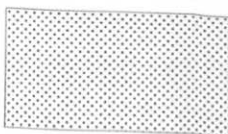
石器磨面



石器敲打痕



石器光沢



柱痕跡・木柱

12 遺物の分類

(1) 土器

土器は時代ごとに次のように分類した。

第Ⅰ群 縄文時代草創期～早期

第Ⅱ群 縄文時代前期

1類 円筒下層 a 式より古く位置付けられる土器群

2類 円筒下層 a 式に位置付けられるもの

3類 円筒下層 b 式に位置付けられるもの

4類 円筒下層 c 式に位置付けられるもの

5類 円筒下層 d 式に位置付けられるもの

さらに2つに細分する 1 d 1 式

2 d 2 式

6類 1～5類で時期を特定できないもの

第Ⅲ群 縄文時代中期

1類 円筒上層 a 式に位置付けられるもの

2類 円筒上層 b 式に位置付けられるもの

3類 円筒上層 c 式に位置付けられるもの

4類 円筒上層 d 式に位置付けられるもの

5類 円筒上層 e 式に位置付けられるもの

6類 1～5類で、時期を特定できないもの

7類 榎林式以前に位置付けられる大木式土器系のもの

8類 榎林式に位置付けられるもの

9類 最花式・中の平皿式に位置付けられるもの

- もの
- 10類 大木10式併行に位置づけられるもの
- 11類 8~10類で時期を特定できないもの
- 第IV群 縄文時代後期
- 1類 十腰内遺跡第I群以前に位置づけられ

- るもの
- 2類 十腰内遺跡第I群に位置づけられるもの
- 第V群 縄文時代晩期
- 第VI群 弥生時代

(2) 石器

石器は形態・機能ごとに次のように分類した。

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| A類 石鏃 | b 撥形 " |
| a 有茎T基のもの | F類 ピエス・エスキーユ |
| b 有茎Y基のもの | G類 不定形石器 |
| c 尖基 " | a いわゆるスクレイパー類 |
| d 平基 " | b いわゆるR. フレイク |
| e 円基 " | c いわゆるU. フレイク |
| f 凹基 " | H類 石斧 |
| B類 石槍 | a 磨製石斧 |
| a 無茎のもの | b 打製石斧 |
| b 有茎 " | I類 敲磨器類 |
| C類 石匙 | a 主に凹のあるもの |
| a 縦型のもの(以下のd~gに該当するものを除く) | b " 敲打痕 " |
| b 横型のもの (") | c " 磨痕 " |
| c 斜型のもの (") | J類 半円状扁平打製石器 |
| d 両面加工で石槍状の先端をもつもの | K類 抉入磨製石斧 |
| e " 石錐状の " | L類 石皿・台石 |
| f 四角形の短辺部分に抉りをもち、長辺部分を刃部とするもの | M類 石棒類 |
| g 細部加工がほとんど加えられないもの | a 石棒 |
| D類 石錐 | b 石刀 |
| a 棒状のもの | c a、bの区別のできないもの |
| b つまみがあるもの(以下のcに該当するものを除く) | N類 石錘 |
| c 先端のみつくりだしたもの | O類 石冠 |
| d 石鏃を転用したもの | a 三角柱状もしくは斧上の突出部を持つ磨製石器 |
| E類 石篋 | b 北海道式石冠 |
| a 短冊型のもの | P類 石核類 |
| | a 石核 |
| | b 原石 |

- c 剥片・碎片(剥片石器の製作に関するもの)
- d 剥片・碎片(礫石器の製作・使用に関するもの)
- Q類 その他
- R類 異形石器
- S類 砥石
 - a 楕円礫を素材とし、顕著な擦痕をもつもの
 - b 扁平あるいは板状の礫を素材とするもの
 - c 大型のもの (L類から分離されるもの)
- T類 軽石・軽石製品
 - a 使用痕・加工痕の認められないもの
 - b 使用痕・加工痕の認められるもの
- U類 角柱状の礫・礫石器
 - a 使用痕・加工痕の認められないもの
 - b 使用痕・加工痕の認められるもの
- V類 擦切具
- W類 礫・礫片

目 次

口 絵
序
例 言
目 次

第IV章 縄文時代の検出遺構と出土遺物

第7節 掘立柱建物跡(3)	1
第8節 南盛土	21
1. 調査の経緯と方法	21
(1) 調査の経緯	21
(2) 調査の方法	21
2. 南盛土の範囲と層序	22
(1) 南盛土の捉え方と範囲	22
(2) 層序と堆積状況	22
3. 各層の検出遺構と出土遺物	27
(1) 1トレンチの検出遺構と出土遺物	27
(2) 4トレンチの検出遺構と出土遺物	110
(3) ポイント4の検出遺構と出土遺物	193
4. 小結	214
(1) 円筒上層式土器の変遷	214
(2) 1・4トレンチ、ポイント4から見る南盛土の形成過程	222
(3) 土偶、土・石製品について	225
観察表	229
写真図版	247
特別史跡三内丸山遺跡報告書一覧	309
報告書抄録	311

第7節 掘立柱建物跡(3)

第26号掘立柱建物跡(1図~19図、写真1~21)

〔位置と確認〕 VII B~D-89~91に位置する。地山まで下げたところで、茶褐色の円形の落ち込みを確認した。

〔調査経過〕 平成6年6月下旬、VII B・C-90・91で長径約1mの茶褐色の落ち込みを確認し、第9865号ピットとして登録した。中心部分に柱痕跡の可能性のある部分が認められたため、土層の堆積状態を確認する目的で北側半分のみを掘り下げていたところ、6月21日に木柱の一部を確認した。掘立柱建物跡を構成する柱穴と考えられたため、周囲で他の柱穴の有無を確認したところ、規則的に配置された残り5つの柱穴を検出した。このため第26号掘立柱建物跡として、北東隅の柱穴をピット1に、以下反時計まわりにピット6まで柱穴名を付け、精査を実施した。最初に確認した第9865号ピットはピット5に名称を変更した。ピット5については、木柱の長径に対して、柱穴の長径が小さすぎるため、周囲を掘り下げて確認したところ、当初堀方と考えていたのは、柱痕跡だったことが判明した。

本遺構の東側では、平成4年に重複した掘立柱建物跡(第11~15号掘立柱建物跡)を検出し(位置関係を5図に示した)、木柱も1本出土していたが、それよりさらに大規模な遺構であること、建物跡ではないのではないかと、との声もあったことから、調査担当者一同で今後の調査方法について検討を行った。この結果、未着手のピット2については、木柱が直立していたのかどうかを確認するため、柱痕跡を確認後、半分を5cmずつ掘り下げて、その都度平面図を作成することとした。また、他の柱穴との時間差、及び柱穴と埋土の時間差を確認するため、遺物の出土地点をドット・マップ化することとした(4図下段)。更に、建物外側に雨落溝や、柱の抜き取り痕がないか、確認に努めることとなった。

〔重複〕 なし。

〔規模〕 桁行2間(約8.4m)、梁行1間(約4.2m)である。主軸方位はN-55°-Eである。

〔平面形式〕 正方形を2個連結した状態の長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕・木柱〕 全ての柱穴で柱痕跡及び木柱を確認した。ピット1は開口部150cm×150cm、底面126cm×118cm、確認面からの深さ(以下、同じ)143cm、ピット2は開口部184cm×172cm、底面138cm×120cm、深さ152cm、ピット3は開口部175cm×159cm、底面135cm×124cm、深さ169cm、ピット4は開口部214cm×209cm、底面155cm×153cm、深さ146cm、ピット5は開口部188cm×180cm、底面183cm×175cm、深さ179cm、ピット6は開口部194cm×165cm、底面138cm×132cm、深さ135cmである。ピット6の南東壁際には径約35cm、深さ7cmの小ピットが確認された。埋土は、ロームを主体とし、極めて硬く締まっていた。砂が部分的に混入することと併せて、他の掘立柱建物跡の埋土の様相とは異なり、木柱の周囲をつき固めていたものと考えられる。図4上段は、5cmずつ掘り下げて確認した柱痕跡の範囲を約20cm間隔ほどで抜き出し示したものである。

ピット2~5で確認された木柱は、残存状態が良好で、中でもピット2の木柱は最も太く、径86cmである。それぞれの木柱底面では、部分的な炭化と石斧による整形痕が確認できる。ピット1・6出土木柱の遺存状態は悪い。材質はいずれもクリである。

ⅢC-89
×

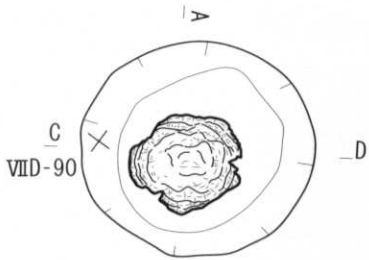
ⅦIB-90
×



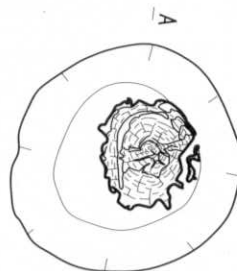
ピット1



ピット6



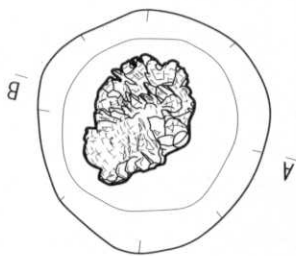
ピット2



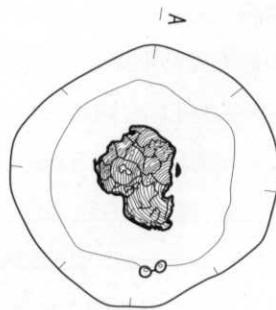
ピット5

ⅦIC-92
×

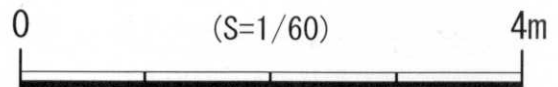
ⅦID-91
×



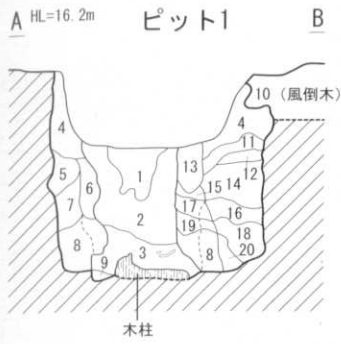
ピット3



ピット4

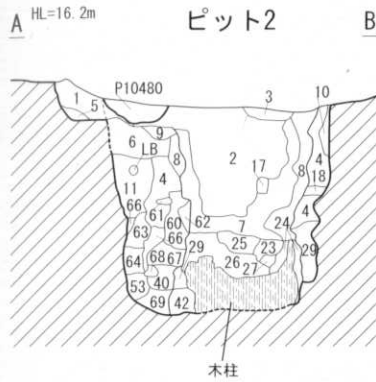


1 図 第26号掘立柱建物跡 (1)



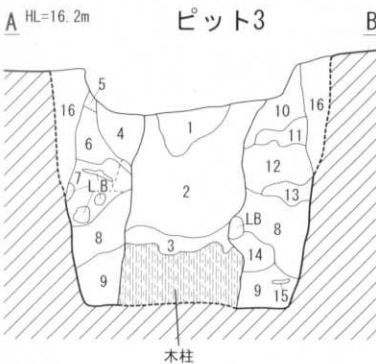
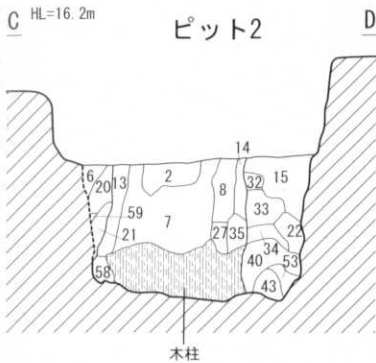
ピット1

第1層	黒褐色土	10YR3/2	砂質シルト、炭化粒微量、焼土極微量。
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	砂質シルト、炭化粒少量、焼土極微量。
第3層	黄灰色土	2.5Y4/1	砂質シルト、炭化粒多量。
第4層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	シルト質粘土、炭化粒微量。
第5層	黄褐色土	10YR5/6	シルト質粘土。
第6層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	シルト質粘土、細砂を微量含む。
第7層	黄褐色土	10YR5/6	シルト質粘土、炭化粒微量。
第8層	浅黄色土	2.5Y7/3	砂質シルト。
第9層	灰オリーブ色土	7.5R6/2	砂質シルト。
第10層	黒褐色土	7.5YR2/2	砂質シルト。
第11層	にぶい黄褐色土	10YR7/4	シルト砂。
第12層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	砂質シルト。
第13層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	砂質シルト、炭化粒微量。
第14層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	シルト砂。
第15層	黄褐色土	10YR5/8	微砂質シルト、炭化粒微量。
第16層	明黄褐色土	10YR6/6	シルト砂、炭化粒微量。
第17層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	微砂質シルト。
第18層	黄褐色土	10YR5/6	砂質シルト、炭化粒微量。
第19層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	微砂質シルト。
第20層	にぶい黄褐色土	10YR6/3	砂質シルト、炭化物極微量。



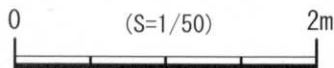
ピット2

第1層	褐灰色土	10YR4/1	粘質シルト、炭化物粒・ローム粒・焼土粒微量。
第2層	黒褐色土	10YR3/1	粘質シルト、炭化粒微量。
第3層	黒褐色土	10YR3/1	粘質シルト、明黄褐色土(4層)少量、炭化粒微量。
第4層	明黄褐色土	10YR6/8	弱粘質シルト、炭化粒微量。
第5層	黄褐色土	10YR5/8	弱粘質シルト、ローム粒微量。
第6層	黄褐色土	10YR5/8	弱粘質シルト、ローム粒微量。
第7層	灰黄褐色土	10YR4/2	弱粘質シルト、炭化粒・焼土粒微量。
第8層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	弱粘質シルト、炭化粒・ローム粒微量。
第9層	明黄褐色土	10YR6/8	粘質シルト、炭化粒・ローム粒・微砂微量。
第10層	明褐色土	7.5YR5/8	粘質シルト、ローム粒微量、鉄分凝固あり。
第11層	明褐色土	7.5YR1/8	粘質シルト、炭化粒微量。
第13層	灰褐色土	7.5YR4/2	炭化粒微量。
第14層	黄色土	5Y7/6	粘質シルト。
第15層	明黄褐色土	10YR6/8	粘質シルト、鉄分沈殿あり。
第17層	黄色土	5Y7/6	粘質シルト、炭化粒微量。
第18層	明黄褐色土	2.5Y6/8	ロームブロックの層。
第20層	明褐色土	7.5YR5/8	粘質シルト。
第21層	浅黄色土	5Y1/4	粘質シルト。
第22層	黄色土	5Y7/6	粘質シルト。
第23層	にぶい褐色土	7.5YR5/4	粘質シルト、炭化粒微量。
第24層	灰色土	N5/1	粘質シルト、炭化粒・ローム粒・微砂量。
第25層	明赤褐色土	5YR5/8	粘質シルト、炭化粒微量。
第26層	灰色土	N4/0	
第27層	灰色土	N5/0	微石粒微量。
第29層	黄灰色土	2.5Y6/1	粘質シルト、微砂量。
第32層	明黄褐色土	10YR6/8	粘質シルト。
第33層	明黄褐色土	2.5Y7/6	砂質シルト、砂分強。
第34層	淡黄色土	5Y8/4	粘質シルト。
第35層	明黄褐色土	2.5Y7/6	粘質シルト。
第40層	浅黄色土	5Y7/3	弱粘質シルト、炭化粒少量、微砂量。
第42層	暗緑灰色土	5G4/1	弱粘質シルト、微砂微量。
第43層	灰白色土	5Y7/1	粘質シルト、微砂量。
第53層	浅黄色土	5Y7/4	粘質シルト。
第58層	にぶい黄色土	2.5Y6/3	粘質シルト、炭化粒・砂分微量。
第59層	明褐色土	7.5YR5/8	粘質シルト。
第60層	褐色土	7.5YR4/4	粘質シルト。
第61層	淡黄色土	5Y8/3	粘質シルト。
第62層	明黄褐色土	10YR6/8	粘質シルト。
第63層	灰褐色土	10YR4/1	粘質シルト。
第64層	黄色土	5Y7/8	粘質シルト。
第66層	灰褐色土	5YR6/2	弱粘質シルト。
第67層	灰白色土	5Y7/2	粘質シルト、砂分少量。
第68層	淡黄色土	5Y8/3	砂質シルト、砂分大量。
第69層	灰白色土	5Y7/2	粘土質シルト。

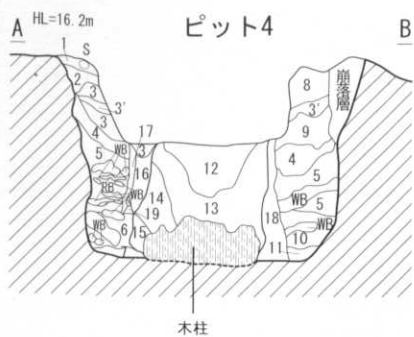


ピット3

第1層	黒色土	10YR2/1	粘質シルト、炭化物微量。
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘質シルト、炭化物・明褐色土粒(7.5YR5/8)微量。
第3層	灰色土	N4/0	粘土質、炭化物粒微量。
第4層	灰褐色土	7.5YR5/2	粘質シルト、炭化粒・ローム粒微量。
第5層	黄色土	2.5YR8/8	弱粘質シルト、鉄分微量。
第6層	褐色土	7.5YR4/6	粘質シルト、淡黄色土(5Y8/4)微量。
第7層	黄色土	2.5Y7/8	粘質シルト、鉄分・淡黄色土(5Y8/4)少量、黄色土(5Y7/4)中。
第8層	灰白色土	5Y8/2	粘質シルト、明黄褐色土(2.5Y6/8)少量。
第9層	灰白色土	5Y7/1	粘質シルト 灰色土(5Y5/1)・砂ブロック・砂分少量、明黄褐色土(2.5Y6/8)微量。
第10層	オリーブ黄色土	5Y6/4	粘質シルト、黄色土(2.5Y8/8)中量、炭化物粒微量。
第11層	褐色土	7.5YR4/6	粘質シルト、鉄分・黄色土(2.5Y8/8)微量。
第12層	黄色土	2.5Y7/8	粘質シルト 炭化粒・灰白色土(5Y5/2)・灰黄褐色土(10YR5/2)微量。
第13層	にぶい黄褐色土	7.5YR5/3	粘質シルト、灰白色土(5Y8/2)微量。
第14層	灰色土	5Y6/1	弱粘質シルト、砂分少量、淡黄色土(5Y8/4)・明黄褐色土(2.5Y6/5)微量。
第15層	黒色土	N2/2	粘質シルト。

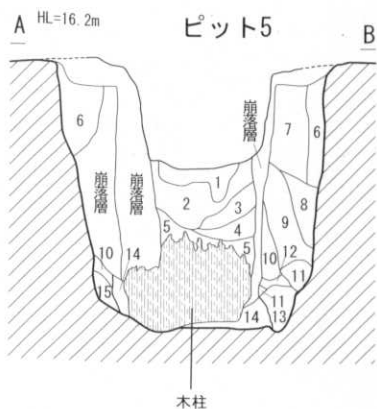


2図 第26号掘立柱建物跡(2)



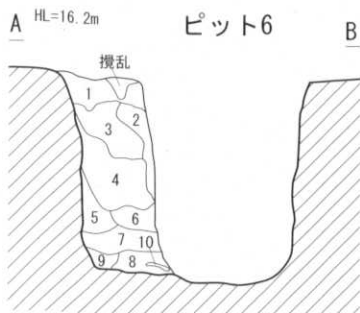
ピット4

第1層	黒褐色土	10YR3/2	シルト質、φ1~10mmの炭化物粒・φ1mmの焼土粒微量。
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	シルト質砂、φ1~7mmの炭化粒微量。
第3層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	シルト質砂、φ1~5mmの炭化粒微量。
第3'層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	シルト質砂、ガラス質の粒(φ1~2mm)を含む。
第4層	明黄褐色土	7.5YR5/6	粘質シルト、φ1~5mmの炭化粒少量。
第5層	褐色土	7.5YR4/3	粘質シルト、φ1~5mmの炭化粒少量、φ1~2mmの焼土粒微量。
第6層	灰黄褐色土	10YR5/2	粘質シルト、φ1~5mmの炭化粒少量。
第7層	灰黄色土	2.5YR6/2	粘質シルト、φ1~3mmの炭化粒微量。
第8層	明黄褐色土	10YR6/6	シルト質砂、φ1~10mmの炭化粒微量・φ1mmの焼土粒極微量。
第9層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	砂質シルト。
第10層	褐色土	10YR4/6	粘質シルト、φ1~2mmの炭化粒微量。
第11層	明黄褐色土	10YR6/6	粘質シルト。
第12層	黒褐色土	10YR3/2	粘質シルト、φ1~5mmの炭化粒中量、φ1~5ミリの焼土粒微量。
第13層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	シルト質砂、φ1~5mmの炭化粒中量、φ1から10mmの焼土粒微量。
第14層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	粘質シルト、φ1~5mmの炭化粒少量、φ1~2mmの焼土粒微量。
第15層	灰黄褐色土	10YR5/2	シルト質粘土、φ1~3mmの炭化粒少量、φ1~3mmの焼土粒微量。
第16層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	φ1mmの炭化粒微量。
第17層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	
第18層			
第19層			



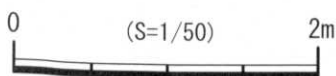
ピット5

第1層	黒褐色土	10YR3/1	シルト質粘土、φ3mmの炭化粒・φ1mm~3mmのローム粒・2層土微量。
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土質シルト、φ5mmの炭化粒少量、φ1~3mmのローム粒微量。
第3層	明黄褐色土	2.5Y7/6	粘土質シルト、φ3mm~5mmの炭化粒少量 φ5mmの白色ローム・φ5mmのローム粒微量・2層土微量。
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	φ5mmの炭化粒・φ3mmの焼土粒微量。
第5層	褐灰色土	10YR4/1	シルト質、φ3mm~5mmの白色ローム・砂微量。
第6層	明褐色土	7.5YR5/6	シルト質、φ2~3mmの焼土粒、φ2mmのローム粒・φ2mmの炭化粒・小礫微量。
第7層	浅黄色土	2.5Y7/4	シルト質 φ2~3mmの炭化粒・φ2~4mmの焼土粒・φ2~3mmのローム粒・砂微量。
第8層	浅黄色土	2.5Y7/3	φ5mmの炭化粒・φ3mm~5mmの焼土粒・砂微量。 にぶい橙(7.5YR6/4)ローム混入、鉄分沈着
第9層	明黄褐色土	2.5Y6/6	砂少量、φ5~10mmの炭化粒微量、明褐色土(7.5YR5/8)混入、鉄分沈着。
第10層	淡黄色土	5Y8/3	φ5mmの炭化物・砂・9層土微量。
第11層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	φ5mmの炭化粒・小礫・砂・鉄分の塊微量。
第12層	にぶい黄褐色土	10YR7/3	φ2~3mmのオリブ黒色土(5Y-3/1)・砂・小礫微量。
第13層	灰白色土	5Y1/2	砂質粘土、φ3~7cmの白色ローム多量、灰色砂質粘土少量、炭化物極微量。
第14層	黒色土	5Y2/1	微砂質粘土 φ2~3cm灰黄色粘土少量、炭化物・φ1cm灰オリブ色砂質粘土微量。
第15層	灰オリブ色土	5Y5/2	φ5cmの黄灰色砂質粘土多量、φ2cmの灰オリブ色粘土少量、炭化物極微量。

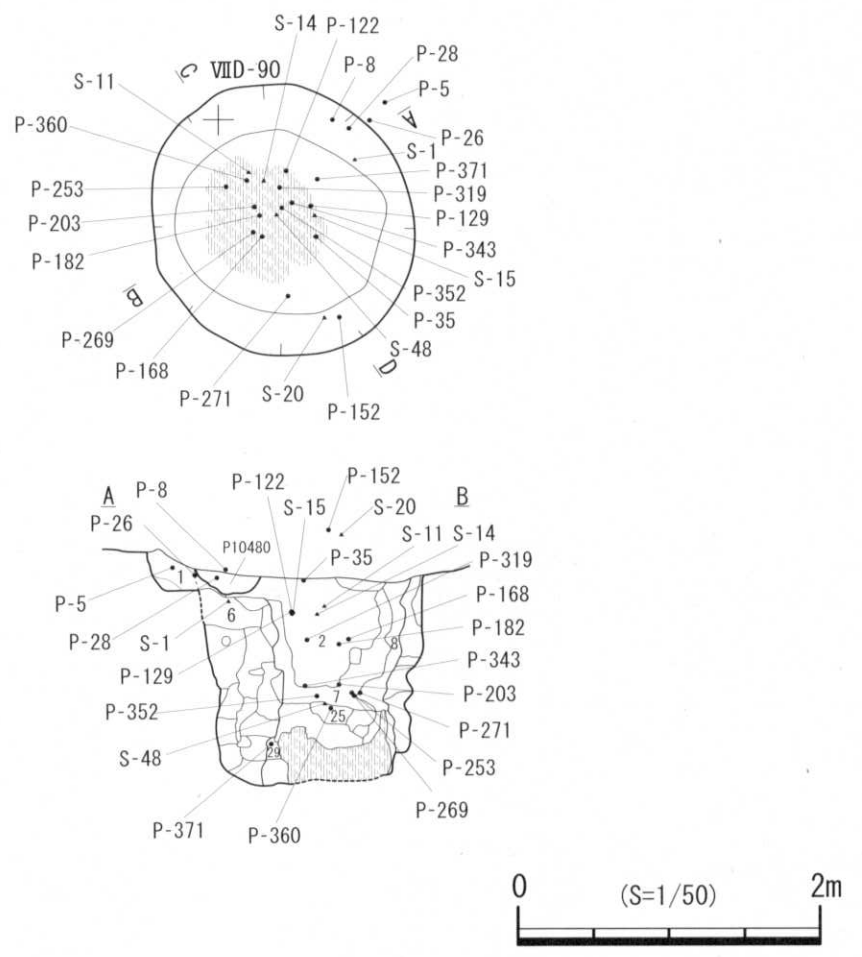
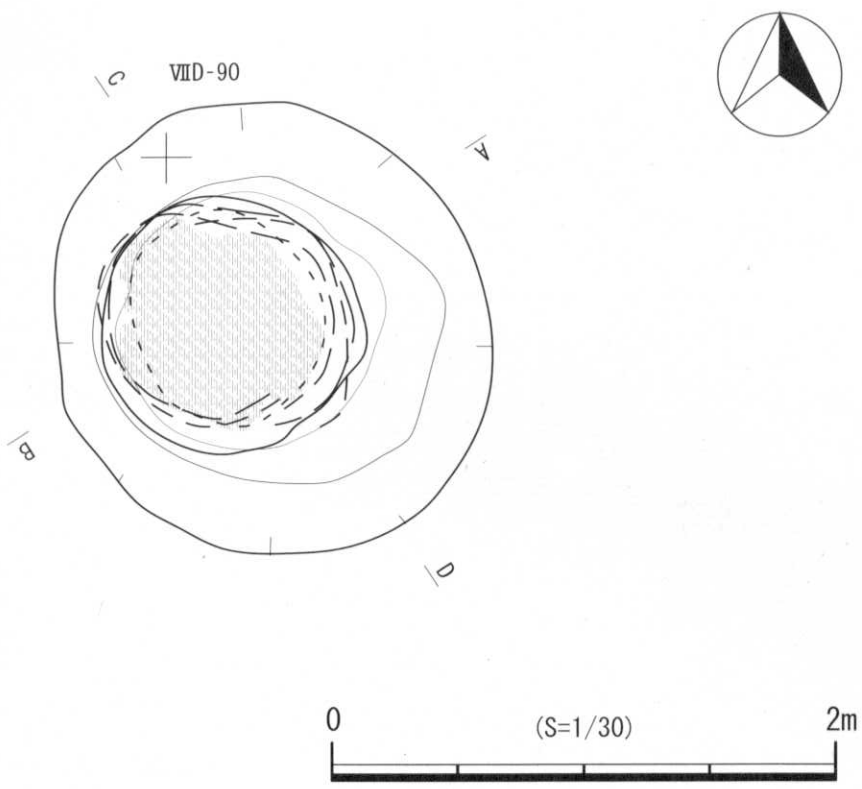


ピット6

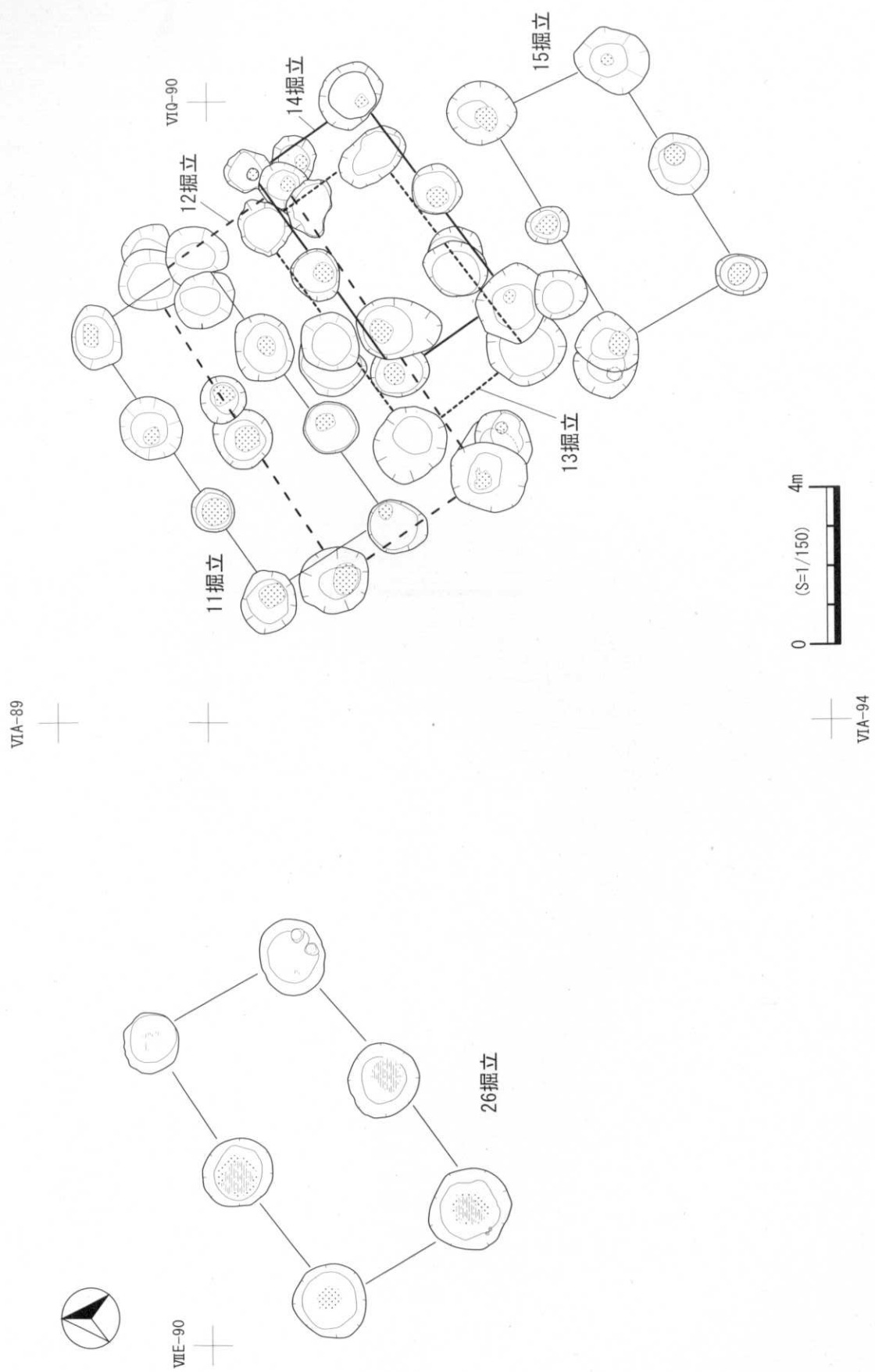
第1層	褐色土	10YR4/6	砂質シルト、φ0.5mmの焼土・小礫・φ0.2~0.3mmの焼土粒・鉄分の塊微量。
第2層	明褐色土	7.5YR5/6	シルト質、φ0.3~0.5mmの炭化粒・φ0.3~0.5mmのローム粒微量、3層土混入。
第3層	明褐色土	2.5Y6/6	シルト質、φ0.5~1.0mmの炭化物・φ0.5~1.0mmの砂微量、2層土混入。
第4層	明褐色土	7.5YR5/8	シルト質・小礫・明黄褐色土(2.5Y7/6)・鉄分の塊混入。
第5層	明褐色土	7.5YR6/6	粘土質シルト、炭・砂・鉄分の塊微量、淡黄色土(2/5Y8/4)混入。
第6層	明褐色土	10YR6/6	粘土、砂極微量、5層土・にぶい橙(7.5YR6/4)粘土混入、鉄分沈着。
第7層	にぶい黄褐色土	10YR4/6	粘土、砂・淡黄色土(2.5Y8/3)の粘土ブロック少量 φ0.2~0.5mmの炭化物微量、鉄分の沈着あり。
第8層	にぶい橙褐色土	7.5YR6/4	粘土、砂少量、鉄分の塊・沈着あり。
第9層	灰褐色土	7.5YR6/2	粘土、φ0.2~0.3mmの炭化粒・砂微量。
第10層	褐灰色土	10YR4/1	粘土、砂微量。



3図 第26号掘立柱建物跡 (3)



4图 第26号掘立柱建物跡 (4)



5 図 第11~15号・第26号掘立柱建物跡

[柱間寸法] 桁・梁方向とも4.2mである。

[出土遺物]

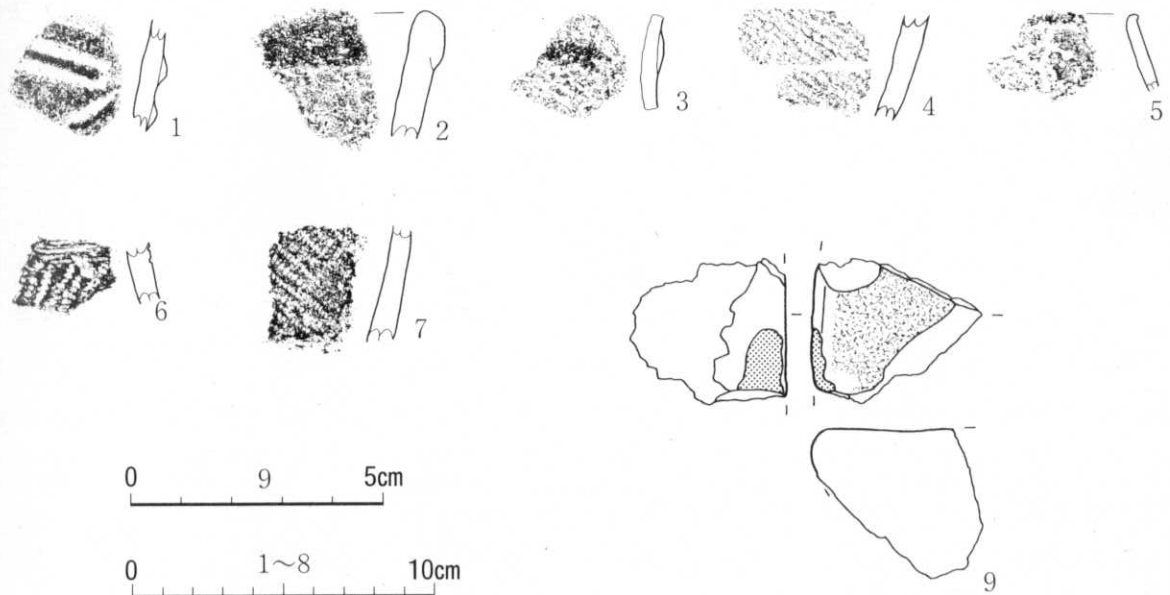
ピット1

土器は柱の埋め土に相当する第4・8・14層からⅢ群4・6・8類が出土した。

6図1は貼付文様が施された胴部片である。2は折り返し状の口縁を呈する破片で、胎土・焼成はⅢ群8類のものである。3は円筒上層式の破片で、貼付文様の存在が確認できる。柱痕部に相当する第2層からはⅢ群6・9・11類が出土した。

5は無文の口縁部で、Ⅲ群9類の広口壺の破片と考えられる。6、7は縦位の単節斜縄文が認められる胴部破片である。

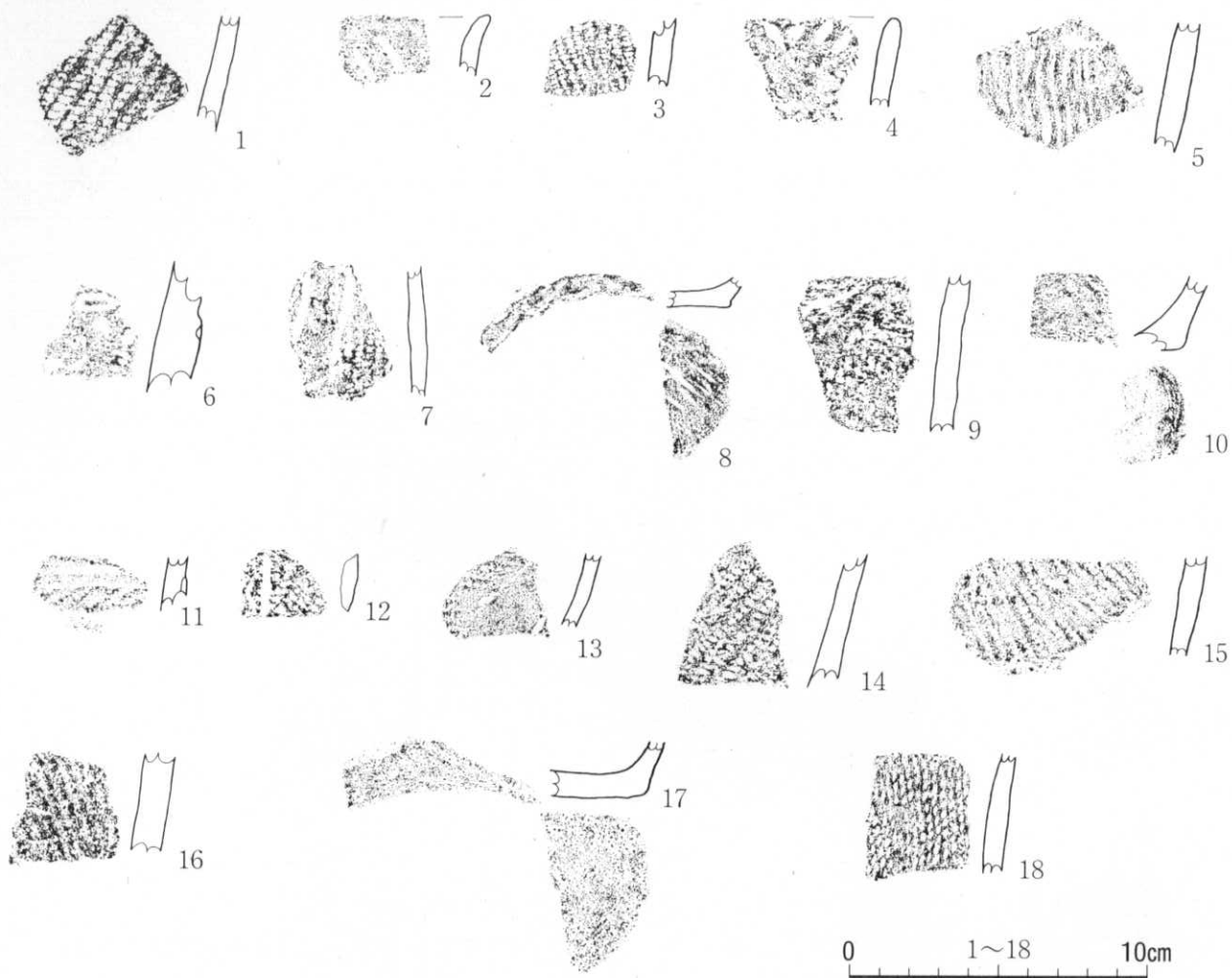
石器は石皿の一部と考えられるもの1点を図示した。安山岩製で、上面は良く磨られている。側面にみられる敲打痕は二次利用によるものと思われる。図示したものの以外では石皿の小破片や磨製石斧の小破片、剥片、被熱痕のある礫、礫の破片などがみられる。(集合写真参照)。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット1	14		貼付		不明		Ⅲ-4	P-33	FP3
2	"	8	折返口縁						P-93	FP10
3	"	4		貼付斜縄文(RL?)		剝離		Ⅲ-6	P-19	FP1
4	"	2		RL		不明		Ⅲ-6	P-24	FP2
5	"	2	無文			ミガキ		Ⅲ-9	広口壺口縁部 P-64	FP6
6	"	2		RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-11	P-44	FP4
7	"	2			RL	ミガキ		Ⅲ-11	P-42	FP5

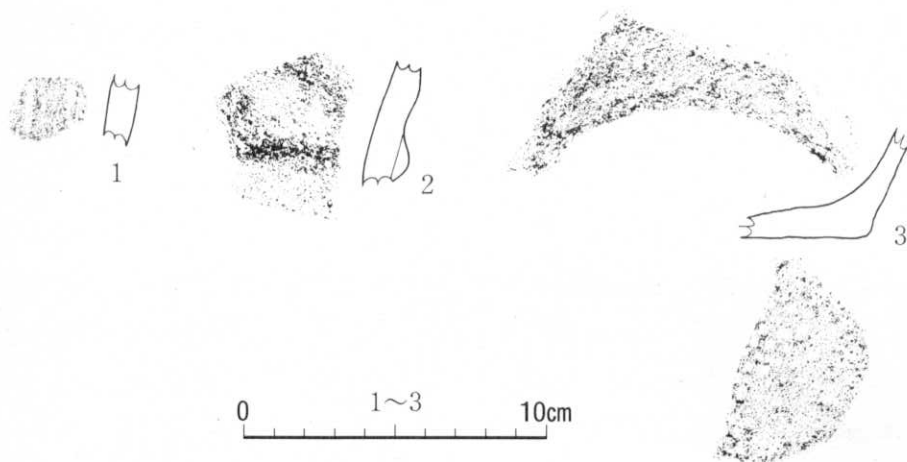
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備 考	整理番号
9	26掘立ピット1	フク土	(58)	(68)	(60)	(223.4)	安	L	I b S-1	50141

6図 第26号掘立柱建物跡出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ビット2	2			RL	ミガキ		Ⅲ-11	P-71	FP7
2	"	26		RL		ミガキ		Ⅲ-11	P-360	FP28
3	"	24		LR		ミガキ		Ⅲ-11	P-371	FP29
4	"	14	RL押			ミガキ		Ⅲ-5	P-271	FP24
5	"	7		R単絡1		不明		Ⅱ-6	P-352	FP27
6	"	7		沈線, R押, 刺突		ミガキ		Ⅲ-3	P-343	FP26
7	"	7		沈線, RL		ミガキ		Ⅲ-10	炭(内外面)P-269	FP23
8	"	7				ミガキ	沈線?	Ⅲ-6・11	P-253	FP22
9	"	2	R結回	RLR		ミガキ		Ⅱ-2	繊維混入 P-28	FP14
10	"	2				不明	不明	Ⅲ-6・11	P-203	FP21
11	"	2		LR, 貼(LR?)		不明		Ⅲ-4	P-35	FP15
12	"	2		RL, 沈線		不明		Ⅲ-8・9	P-8	FP12
13	"	2		沈線, LR		ミガキ		Ⅲ-10	P-168	FP19
14	"	2			RL	ミガキ		Ⅲ-11	P-122	FP16
15	"	2			LR	ミガキ		Ⅲ-11	P-182	FP20
16	"	2			RL?	ミガキ		Ⅲ-11	P-319	FP25
17	"	2				不明	不明	Ⅲ-11	P-129	FP17
18	"	1		L単絡1		ミガキ		Ⅱ-6	P-5	FP11

7図 第26号掘立柱建物跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット2	1			斜縄文(LR),沈線	不明		Ⅲ-8・9	P-26	FP13
2	"	—		貼付		不明		Ⅲ-6	P-152	FP18
3	"	"				不明	網代痕	Ⅲ-11		FP81

8図 第26号掘立柱建物跡出土遺物(3)

ピット2

土器は柱痕部からⅡ群2類、Ⅲ群3～6・8～11類が出土した。

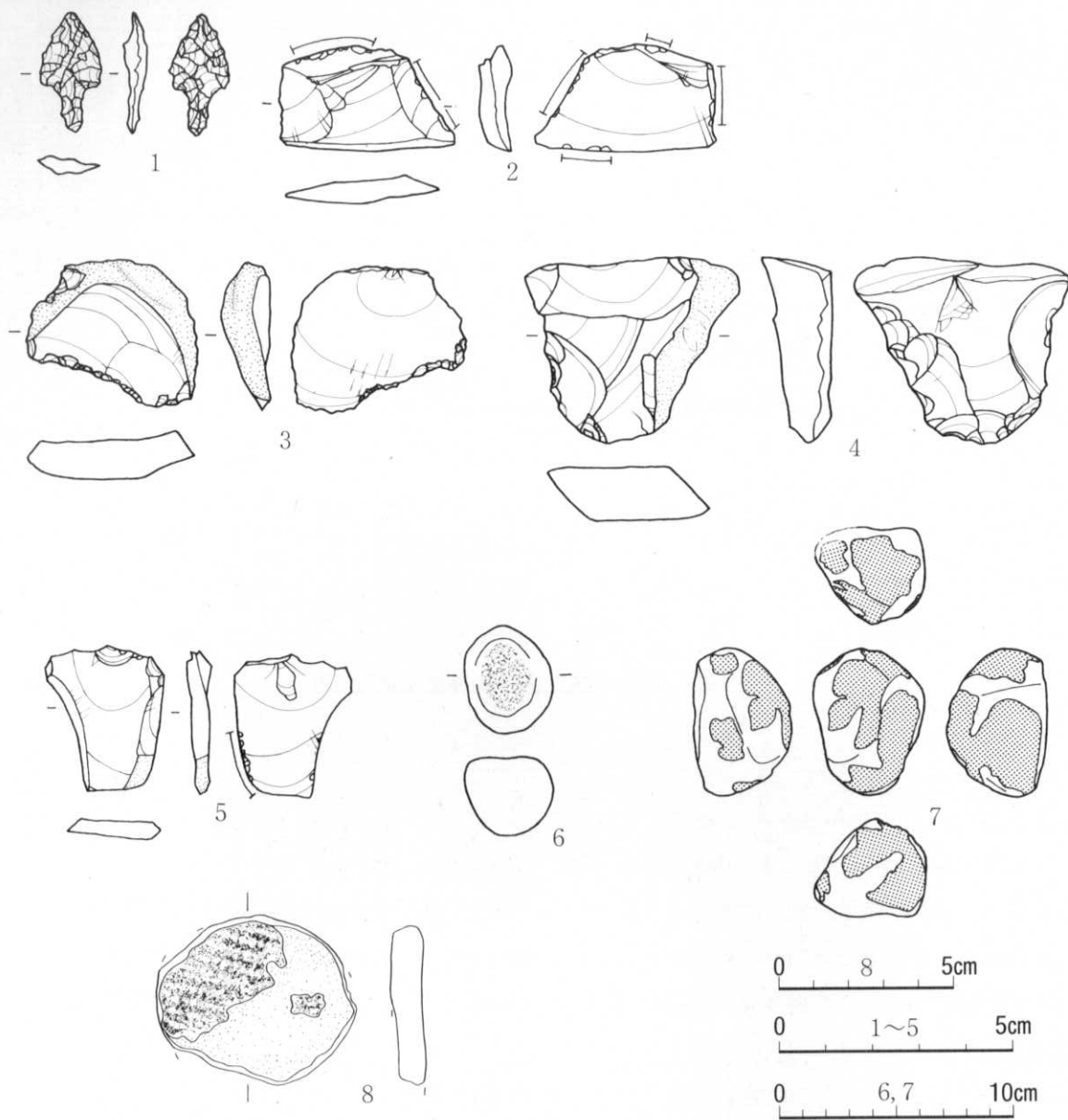
7図4、8、7図6は胎土に繊維を含む破片で、8は円筒下層式前半期、6は後半期に属するものと思われる。7図5は半円形の刺突が施された厚手の破片で、Ⅲ群3類に分類される。7図10は縄文地文上に貼付がなされた破片で、Ⅲ群4類の特徴を持つ。7図3はヘラ状工具による刻みが施される口縁部で、Ⅲ群5類である。

7図1は外反する口縁部に沈線が施されており、縄文中期後半に属する破片である。7図1、3、7図14～16は縦位の単節斜縄文が施される胴部片で、同じく縄文中期後半に属する。7図12、8図1は縄文地文に縦方向の沈線が重なる縄文中期後半の破片で、Ⅲ群11類である。7図7は、沈線区画文内に縄文が充填施文された胴部片で、Ⅲ群10類である。

7図8、10、17、8図3、9はⅢ群11類の底部破片である。7図8は外面に赤色顔料が残存し、底面には細い工具による磨き傷が見られる。8図3の底面には網代編みの圧痕が残る。

石器は、石鏃、Rフレイク、Uフレイク、磨痕のある礫、敲打痕のある礫の7点を図示した。9図2～6は柱痕部から出土したものである。9図3、4、5には礫表皮が残存し、4の剥離は非常に粗いものである。9図7は親指～中指で支えて用いるのに丁度良い大きさ・形状で、ほぼ全面に敲打痕がみられる。図示したもの以外では剥片、被熱痕のある剥片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる(集合写真参照)。

また、ピット2の堆積土から土器片利用円盤が1点出土した(9図8)。一部欠損しており、摩滅が激しい。土器片を利用したもので、縁辺部を打ち欠き後に擦って成形している。



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ビット2	—	26	13	5	1.1	珪頁	A a	S-1	55378
2	"	2	23	39	7	6.0	珪頁	G c	S-14	55383
3	"	7	31	38	11	11.5	珪頁	G c	S-11	55389
4	"	25	40	46	15	20.9	珪頁	G b	S-48	55393
5	"	7	31	26	5	2.5	珪頁	G c	S-35	55390
6	"	2	46	38	34	75.7	安	I c	S-15	55420
7	"	—	63	47	42	149.0	安	I b	S-20	55410

番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	表面	裏面	種類	備考	整理番号
8	26掘立ビット2	14	(50)	(10)	(26.2)	RL		土器片利用円盤	P-273	7305

9図 第26号掘立柱建物跡出土遺物(4)

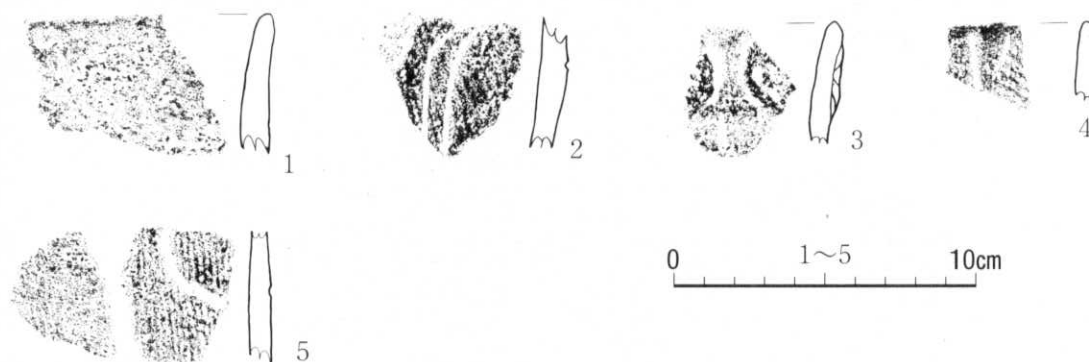
ピット3

土器は底面からⅢ群11類、柱痕部からⅢ群7、9～11類が出土した。

11図11は、細い貼付による区画文様が施された厚手の破片で、Ⅲ群7類である。10図2は、縄文地文上に沈線が施される胴部片である。二本組み沈線による逆U字または波状のモチーフであったと思われる、Ⅲ群9類に分類される。

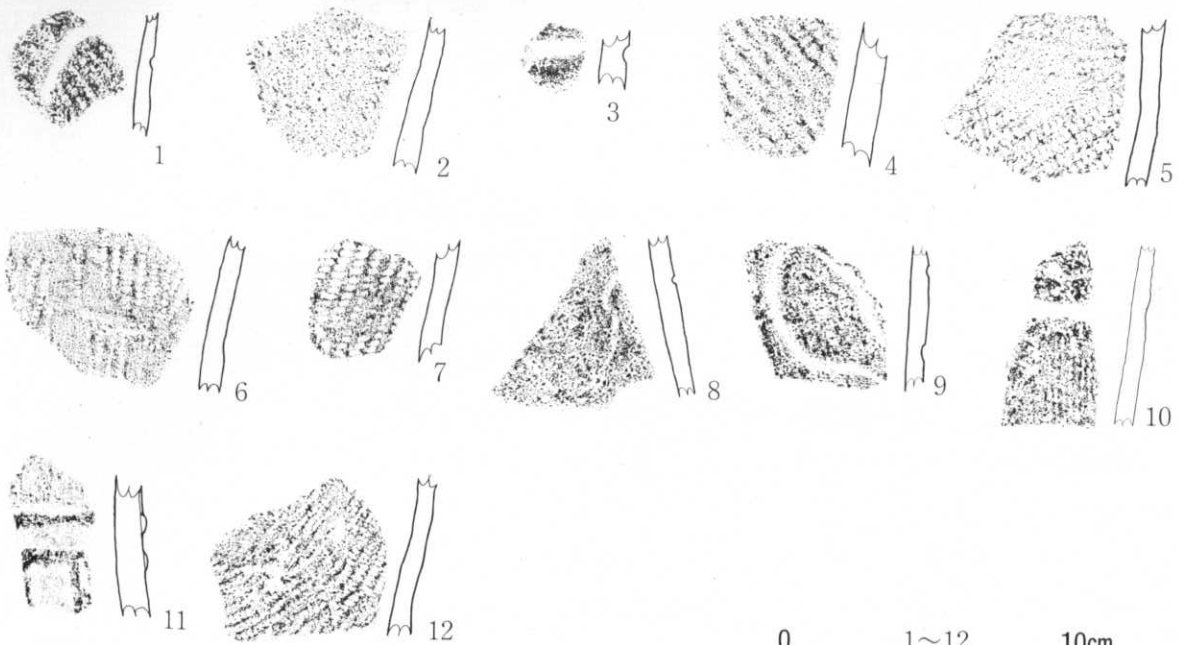
10図4、5は、縄文地文上に沈線が施される破片である。4の沈線は口縁から垂下し、Ⅲ群10類に分類できる。11図1はいわゆる磨消縄文の破片で、Ⅲ群10類である。10図3はヒレ状の貼付装飾が施された口縁部破片で、Ⅲ群10類である。11図3、8、9は沈線のみが施された破片で、Ⅲ群11類に分類される。10図1は縄文の回転施文が施される破片であるが、摩滅が激しいため原体種は不明である。11図6、7は縦位、4、12は斜位の縄文のみが施された胴部片である。

石器は、石槍とRフレイク、Uフレイク、敲打痕のある礫、砥石の5点を図示した。12図1、2、3は柱痕部からの出土である。12図9は石筥に似た形状であるが、尖り気味の上端部と器体の薄さから無茎石槍と判断したものである。12図2には被熱によるハジケが観察される。12図5の砂岩製の砥石は全面によく使い込まれたもので、断面の屈曲度合いからすると磨製石斧や石棒等の整形に用いられたものかと推定される。図示したもの以外では剥片、被熱痕のある剥片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる（集合写真参照）。



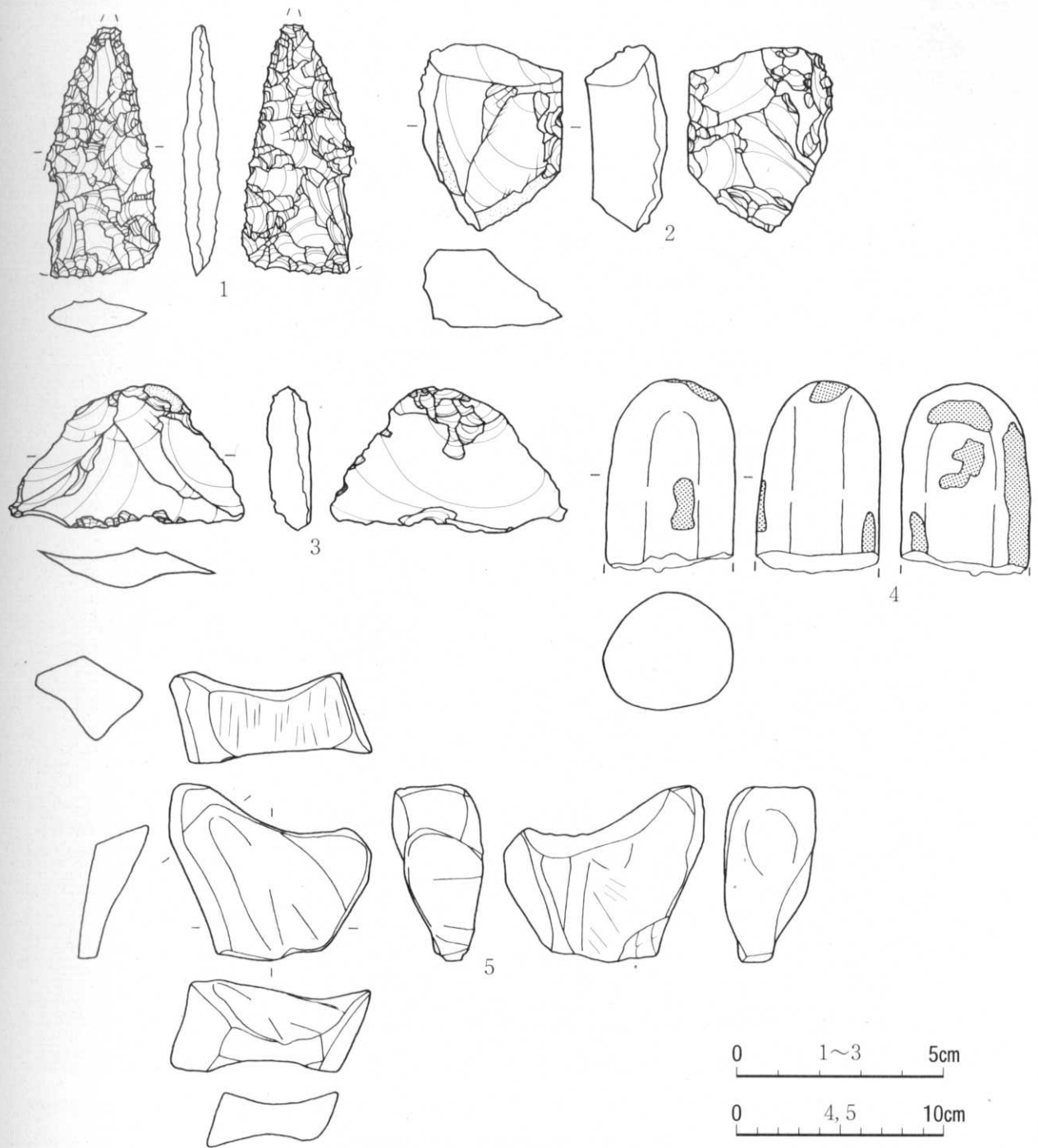
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット3	底面	斜行縄文(LR?)	斜行縄文(LR?)		不明		Ⅲ-11	摩滅激しい、P-17	FP31
2	"	2		RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-7	P-202	FP45
3	"	2	ヒレ状貼付(刺突)	沈線		不明		Ⅲ-10	P-211	FP46
4	"	2	沈線、RL			ミガキ		Ⅲ-10	P-168	FP41
5	"	2		R単絡1、沈線				Ⅲ-10	P-75	FP33

10図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (5)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ビット3	2		磨消(沈線, RL)		ミガキ		III-10	P-229	FP48
2	"	2			斜行縄文(LR?)	ミガキ		III-11	P-127	FP37
3	"	2		沈線		ミガキ		III-11	P-139	FP38
4	"	2		LR		ミガキ		III-11	P-144	FP39
5	"	2		LR, LR押		ミガキ		III-11	P-154	FP40
6	"	2			RL	ミガキ		III-11	P-175	FP42
7	"	2		RL		ミガキ		III-11	P-191	FP44
8	"	1		波状沈線		不明		III-10	P-116	FP34
9	"	1		斜行縄文、沈線		ミガキ		III-10	P-117	FP36
10	"	1			単絡1	ミガキ		III-11	P-116	FP35
11	"	フク土	貼付			不明		III-6	全体摩滅	FP75
12	"	"			LR	ミガキ		IV-11	P-224	FP47

11図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (6)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ピット3	2	62	(22)	9	(15.8)	珪頁	E	S-9	52280
2	"	2	45	35	20	30.3	珪頁	G b	S-15	51691
3	"	フク土	35	52	11	14.0	珪頁	G c		50089
4	"	フク土	(94)	63	60	(503.7)	凝	I b		50158
5	"	2	(86)	98	44	(239.8)	砂	S	S-19	52356

12図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (7)

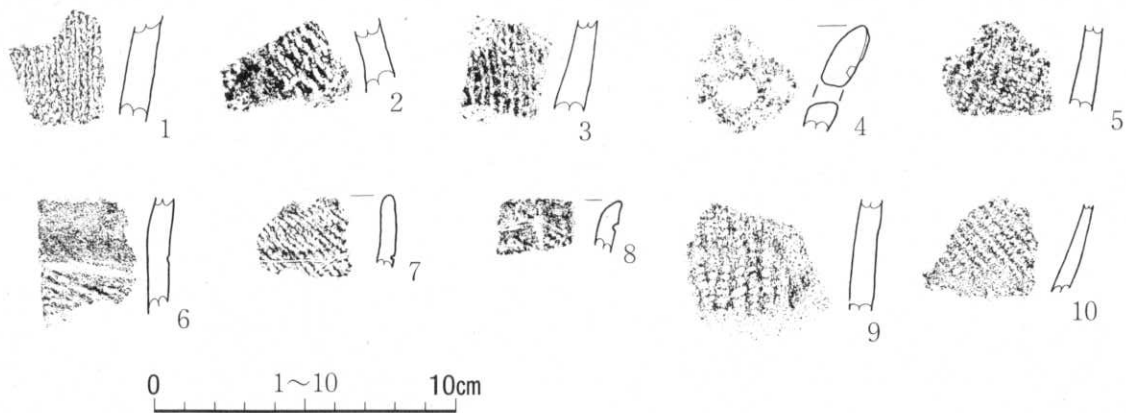
ピット4

土器は柱痕部に相当する13層からⅡ群6類、Ⅲ群3・9～11類が出土した。

13図1～3は単軸絡条体が縦位に回転施文される胴部片で、円筒下層式の後半期にあたる破片と思われる。4は貼付、棒状工具による刺突、楕円孔が見られる弁状突起の破片で、Ⅲ群3類である。

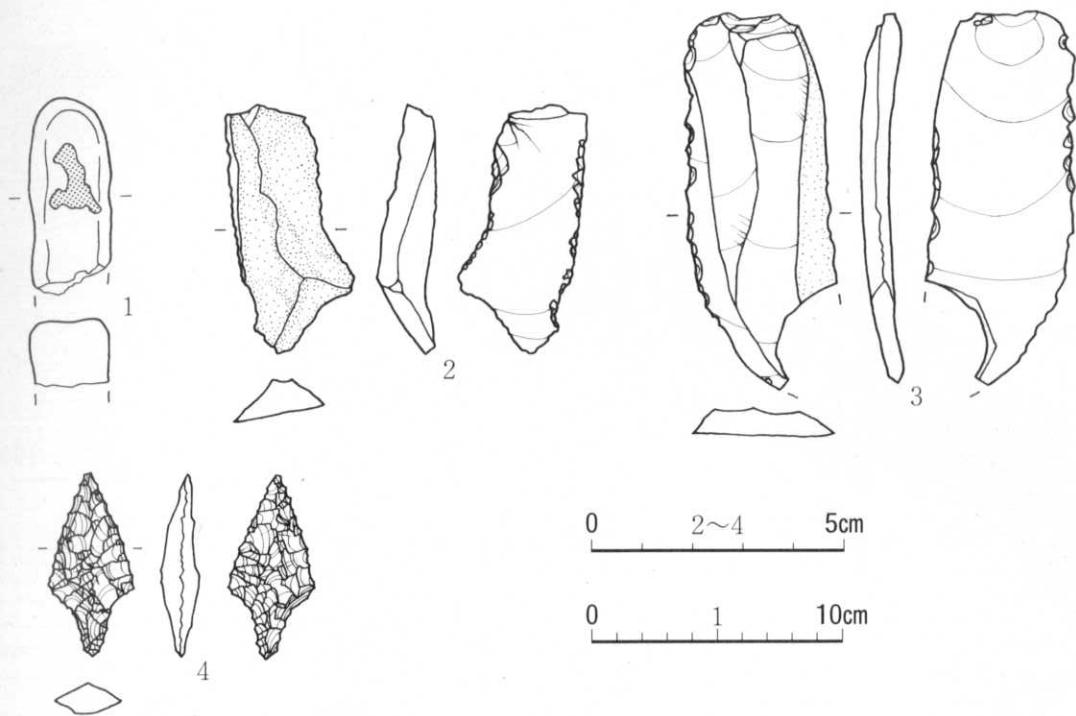
13図5、9、10は縄文のみが施された胴部片で、胎土、色調等からⅢ群11類に分類される。13図6～8はいわゆる磨消文様が施されたⅢ群10類の破片である。

石器は、敲打痕のある礫、Uフレイク、石鏃の4点を図示した。14図1～3は柱痕部からの出土である。14図3は縦長剥片の両サイドが刃部として機能している。図示したもの以外では剥片、被熱痕のある剥片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる（集合写真参照）。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット4	13		L・R単絡1a?		ミガキ		Ⅱ-6	P-41	FP50
2	"	13			L単絡1	ミガキ		Ⅱ-6	P-69	FP53
3	"	13		RL	R単絡	不明		Ⅱ-6	全体摩滅 P-79	FP55
4	"	13	突起(貼付,刺突)			不明		Ⅲ-3	全体摩滅 P-71	FP54
5	"	13			LR	ミガキ		Ⅲ-6・11	P-80	FP56
6	"	13		磨消(LR,沈線)		ミガキ		Ⅲ-10	P-96	FP58
7	"	13	LR,沈線			ミガキ		Ⅲ-10	P-83	FP57
8	"	13	LR,沈線			不明		Ⅲ-10	P-37	FP49
9	"	13		RL		ミガキ		Ⅲ-11	P-57	FP51
10	"	13		RL		ミガキ		Ⅲ-11	P-67	FP52

13図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (8)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ピット4	13	(79)	33	(27)	(106.8)	凝	I b	S-8	55458
2	"	13	50	25	11	8.5	珪頁	G c	S-4	55400
3	"	13	(74)	(30)	8	(15.0)	珪頁	G c	S-76	55405
4	"	8	37	17	8	3.0	珪頁	A b	S-1	52281

14図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (9)

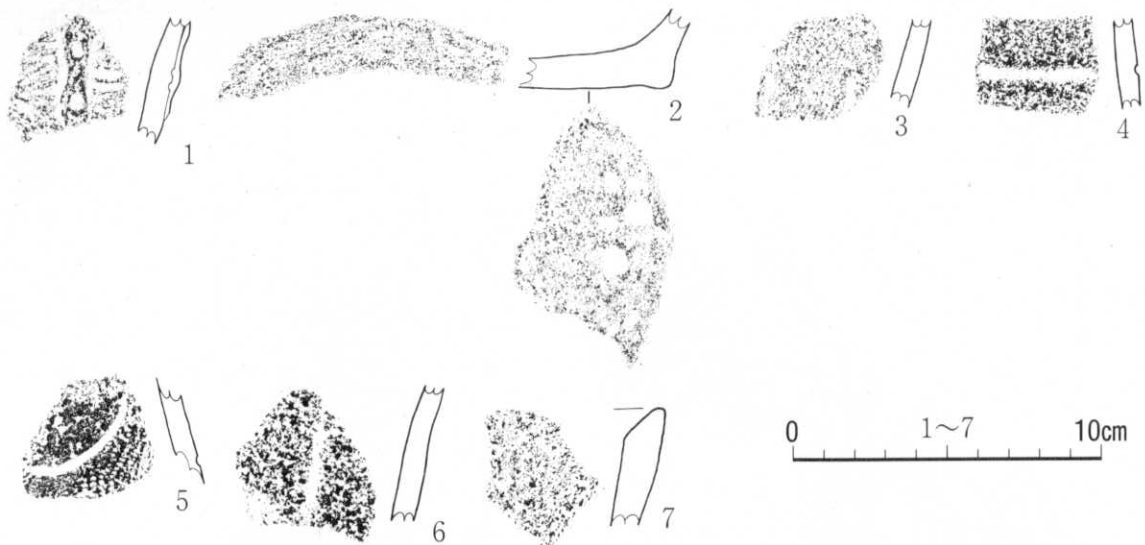
ピット5

土器は堆積土からⅢ群5・10・11類が出土した。

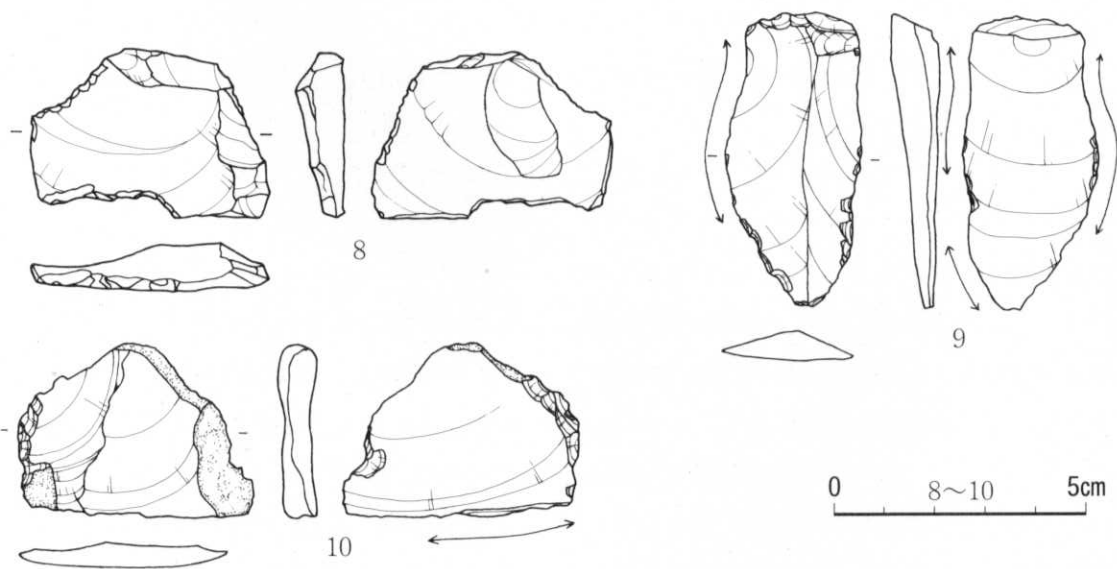
15図1は沈線による弧状文と、指頭押圧を伴う貼付帯が施されるⅢ群5類の胴部片である。15図3、4は沈線のみ残存する破片で、Ⅲ群11類に分類される。5、6はいわゆる磨消文様が施され、Ⅲ群10類に相当する。7は器面の磨耗が激しいため全く文様が残存しないが、口縁の断面形状からⅢ群11類とした。

石器は、Rフレイク、Uフレイク、凹の発達した敲打痕のある礫、石皿(?)の6点を図示した。15図9は縦長剥片の両サイドが刃部として機能している。16図3の剥離は非常に粗いものであるが、厚手の刃部として利用されている。図示したもの以外では剥片、敲打痕のある礫の破片、角柱状の礫の破片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる(集合写真参照)。

ほかにピット5の堀方下部より、焼成粘土塊が1点出土している。直径3cmほどの粘土塊2つを接合した状態で焼成したとみられ、接合痕が明瞭である。焼成不良のため灰白色を呈し、粘土中には炭化物が混入している。表面には指跡がみられる。

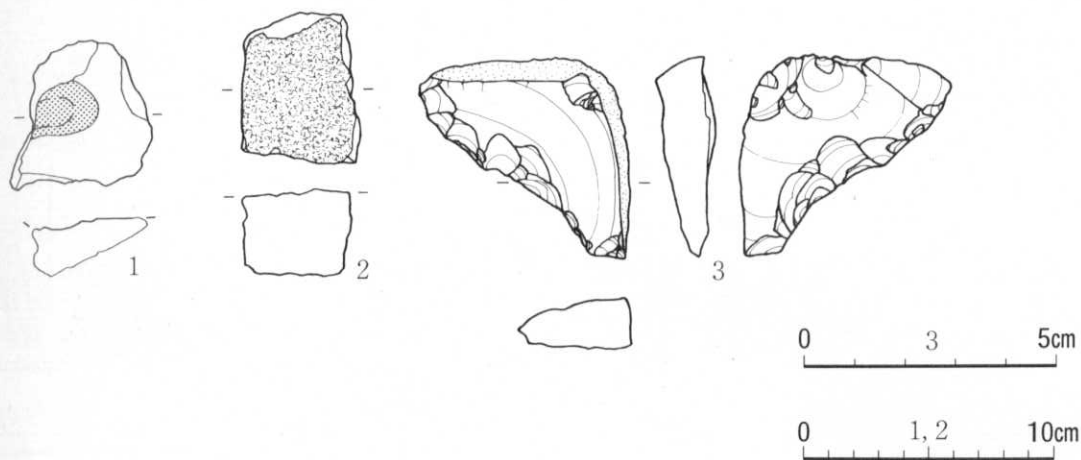


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ビット5	フク土		貼付(指頭瓦),沈線		ミガキ	III-5		FP59	
2	"	フク土			不明	網代痕?	III-11	器面磨磨	FP62	
3	"	フク土		沈線			III-9・10	器面磨磨	FP64	
4	"	フク土		沈線,斜行縄文		不明	III-11	器面磨磨	FP61	
5	"	フク土		RL,沈線		ミガキ	III-10		FP60	
6	"	フク土		沈線,斜行縄文	RL	ミガキ	III-9・10	器面磨磨	FP65	
7	"	フク土	器面磨磨				III-10		FP63	

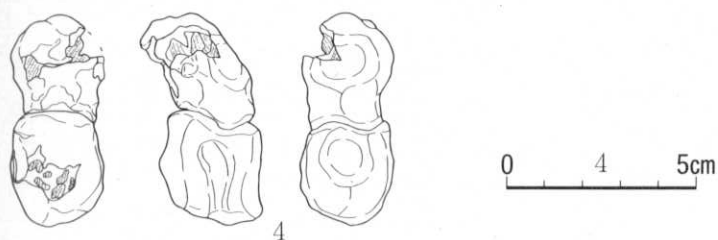


番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
8	26掘立ビット5	フク土	33	48	10	11.5	珪頁	G b・G c		40391
9	"	フク土	59	27	10	11.0	珪頁	G c		40370
10	"	フク土	55	47	8	13.2	珪頁	G b		50093

15図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (10)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ピット5	フク土	(59)	(57)	(25)	(55.2)	凝	I a		50178
2	"	フク土	(60)	(48)	(36)	(98.8)	凝	L		50180
3	"	フク土	40	42	15	16.5	珪頁	G b		40394



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	表面	裏面	種類	備考	整理番号
4	26掘立ピット5	掘方下部	(57)	(32)	(29.3)	指跡		焼成粘土塊	W-1	7303

16図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (11)

ピット6

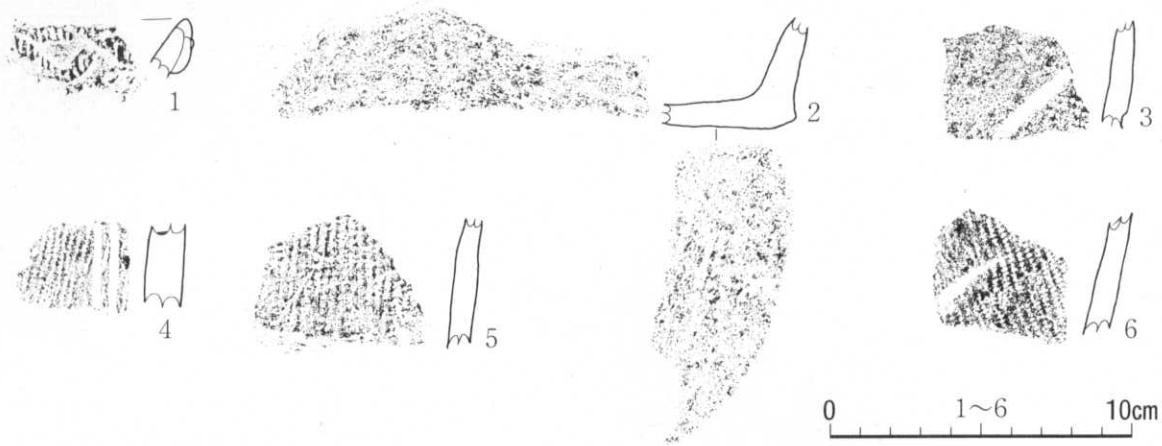
柱の埋め土に相当する4層からⅢ群3類が、堆積土全体からⅢ群6・8～11類が出土した。

17図5は、コイル状の縄文原体が縦位施文された胴部片で、胎土には繊維が混入される。Ⅱ群6類である。17図1は、ヘラ刻みを伴う波状の貼付文様が施される口縁部片で、Ⅲ群3類と考えられる。

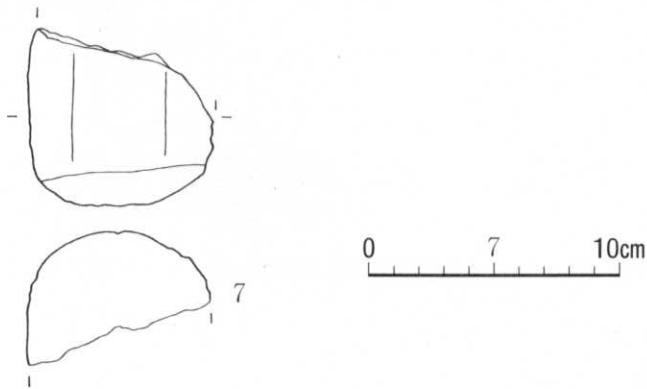
4は縄文を縦位施文したのち沈線が施された胴部片で、Ⅲ群9類である。

12は磨消縄文モチーフの胴部破片で、Ⅲ群10類に分類される。2は全体の磨耗が激しく判別が難しいが、底面に網代圧痕と思われる痕跡が認められる。

石器は、石棒1点を図示した(17図7)。全面が整形され、一部には被熱による黒化範囲が観察される。図示したもの以外では剥片、礫、礫の破片などがみられる(集合写真参照)。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット6	4	貼付(ヘラ刻み)			ミガキ		Ⅲ-3	P-43	FP70
2	"	フク土				不明	網代痕?	Ⅲ-11		FP80
3	"	フク土		沈線, LR		不明		Ⅱ-10		FP71
4	"	底面						Ⅲ-8・9	P-39	FP69
5	"	底面		L単絡(コイル)				Ⅱ-6	繊維混入 P-38	FP68
6	"	底面		RL		ミガキ		Ⅲ-11	P-37	FP67



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
7	26掘立ピット6	—	(71)	(75)	(58)	(279.9)	凝	Ma		55463

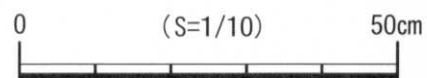
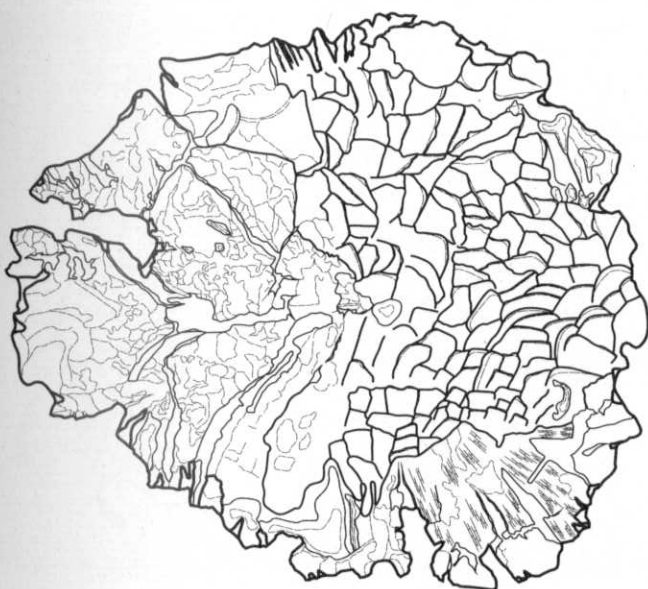
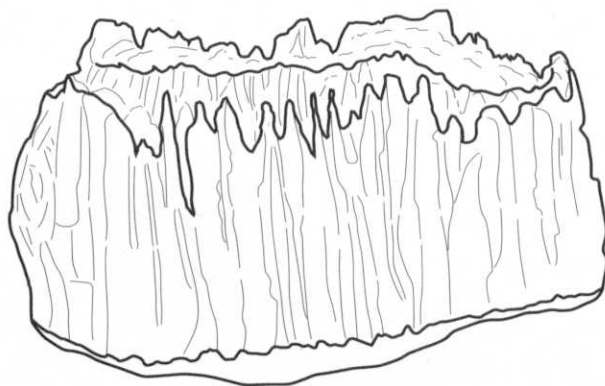
〔時期〕 遺構の時期を決定できる遺物はわずかである。ピット3・6底面から大木式系の土器が出土したことから、中期後半期に位置づけることができる。放射性炭素年代測定結果からも同様の年代が得られている。
(岡田、木村、中村、木村、小笠原、秦、水谷)

17図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (12)

ピット2



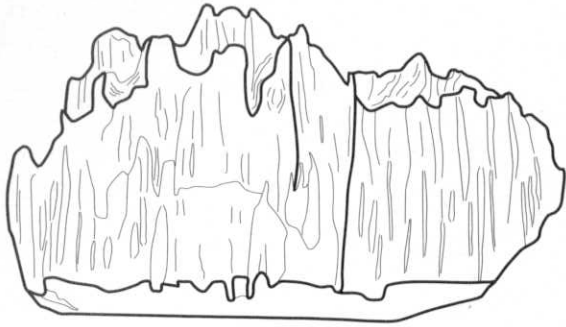
ピット3



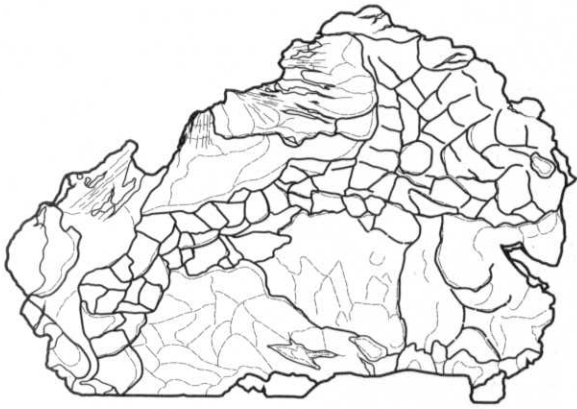
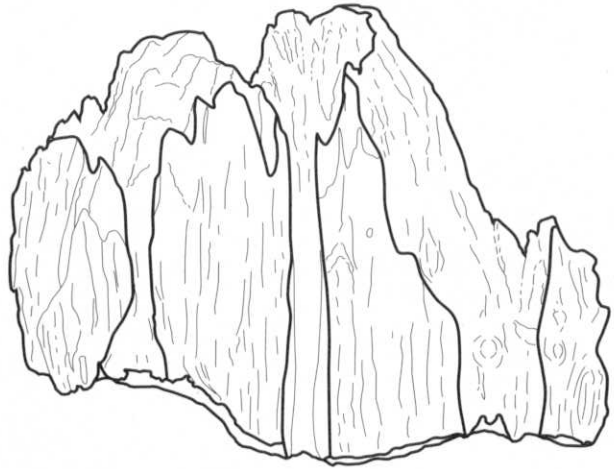
出土位置	残存長径(cm)	残存短径(cm)	残存高(cm)	樹種
ピット2	85	76	45	クリ
ピット3	86	79	50	クリ

18図 第26号掘立柱建物跡出土木柱 (1)

ピット4



ピット5



0 (S=1/10) 50cm

	残存長径 (cm)	残存短径 (cm)	残存高 (cm)	樹種
ピット4	76	53	42	クリ
ピット5	77	71	61	クリ

19図 第26号掘立柱建物跡出土木柱 (2)

第8節 南盛土

1. 調査の経緯と方法

(1) 調査の経緯

南盛土は旧野球場内に位置し、平成5年度にその存在を確認した。トレンチ調査を行い、厚さや範囲の確認に努めた。平成6年8月に発掘調査の中止と遺跡の保存が決定して以来、調査体制は縮小し、精査途中の遺構の完掘と、今後の整備に向けた調査が目的となった。南盛土はトレンチ内に入り見学できるよう整備することとなり、幅約1mだった1・4トレンチを見学者に対応できるよう50cm拡張することとした。また、両トレンチの間の1m四方のブロック（「ポイント4」と呼称）も取り除き、長さ約17mのトンネル状に見学通路を設けることとした。本報告はトレンチを拡張した際の調査の記録である。

(2) 調査の方法

南盛土は、平成5年度に最大厚約2mにも達する包含層であることが確認された。初めに南北方向に試掘溝を設定し掘り下げ、その厚さと遺物量の多さに驚いたが、その後、範囲確認のため8~10mほどの間隔で南北方向に3列、8mほどの間隔で東西方向に4列のトレンチを設定した。トレンチの本数は計24本である。なお、東西120ライン以北は部分的に精査が進んでいたこともあり、トレンチ調査と並行して面的な掘り下げをしたところもある。

当初、盛土全体の完掘を目指し、各トレンチは厚さと堆積状況を確認することを第一義としたため、急ぎ掘り下げたものである。そのため、遺物の取り上げは第三層一括とした。遺跡の保存と調査の中止の決定以降は補完的な調査となった。

すでにローム面まで掘り下げていた1・4トレンチの北側を拡張することとなり、土層の堆積状況を確認することから開始した。盛土は主に厚さ5~10cm程度の薄い層が重層し、堆積層の平面観察と同時に、断面の観察を行い、確実に各層の広がりや厚さを確認した。層序を確認し、上層から順に剥いでいきながら、調査を進めた。1トレンチでは、各層の平面分布を記録し、目に付いた出土遺物は出土地点を記録し取り上げた。しかし幅50cmと狭く、遺物の出土は限定的で、しかもそれらは廃棄の状態を示していると考えられ、有意な出土状況を示しているものとは思われなかった。ただし、トレンチの調査ですでに縄文時代中期後葉から中期初頭にかけての土器の型式として連続した出土を確認しており、堆積層が中期の良好な包含層であることを確認した。そのため、遺物の取り上げには細心の注意を払った。

4トレンチでは、層序を確認しながら遺物の取り上げを行った。ポイント4も東・南・西壁の断面観察をし、層序を確認しながら遺物を取り上げた。

調査に当たり最も困難だった作業は、各トレンチなどの層の対比である。薄層の連続で盛土全体またはトレンチ全体を区切るような明確な鍵層がなく、それぞれの時間的な前後関係が不明なものも少なくない。あまりにも微細な堆積層であり、それぞれのトレンチで層番号をつけたこともあり、1・4トレンチ、ポイント4で層番号は対応しない。その点は不備であるが、層の端部では層界が不明瞭で、細分できる部分といくつかの層をおおまかに捉えた部分がある。層番号は各トレンチで固有のも

のである。別に対応表を示したので、それを参照されたい。

2. 南盛土の範囲と層序

(1) 南盛土の捉え方と範囲

南盛土は堆積土層中に炭化物や焼土、二次堆積のローム質土など明らかに自然堆積層とは異なる堆積層で形成されている。盛土として把握したのは、以下の条件によるものである。

- ・炭化物や焼土、二次堆積のローム質土などによる人為的な堆積層であること
- ・自然的な要因による地形改変の可能性の低い場所が、周辺地形とは異なる状態を示していること
- ・一定の範囲に限られた区域が、繰り返し継続的に使用されていること
- ・遺物も多量に含むこと などが挙げられ、その範囲を盛土として把握した。

南盛土は南側緩斜面に形成されており、高まりの様子はよく観察される。同様に土砂が多量に廃棄された区域として、第6鉄塔地区に代表される台地北斜面がある。低い斜面部への廃棄により、台地がせり出した状態である。原地形が平坦面ないし緩斜面か、斜面の違いである。広義においては、双方とも盛土として理解することができる。

南盛土は、調査開始前の地表面でも周辺より小高くなっているのが確認でき、昭和47年に青森土木事務所により作成された青森県運動公園地形図でも、周辺よりも一段高い様子が記録されている。

確認した南盛土の範囲(図1)は、北東端がVIC-112~VIE-111、北西端がVIO-110~VIQ-113、南東端がVIK-129、南西端がVIP-129~VIR-128である。当初「盛土」としての意識がなく、平成4・5年度にすでに調査が進み、部分的には掘り下げられていたところもあるため、西側を除きそれぞれの周縁部は、厳密に言えば若干の異同があるかもしれないが、おおむね上記のラインと言ってよい。117ライン付近で緩く屈曲し、全体としてL字形のような平面形で、南北約70m、東西40m前後の規模である。

(2) 層序と堆積状況

各トレンチはローム層上面まで掘り下げた。その上層の第V層(漸移層)上部には第IV層(黒色土)が堆積し、その上に盛土が形成されている。第IV層中からは、縄文時代前期の土器が出土しており、層位的には矛盾はない。また、盛土層の上層には第II層が堆積する。この層中からは、大木10式併行期の土器が出土する。なお、通称「北の谷」の第II層中上位では白頭山火山灰が確認されている。そのため、時期的にも第III層に相当する盛土層は縄文時代中期初頭から後葉にかけてのものという、大まかな位置づけが可能である。

各トレンチの細分層は、黒色土が全体の5割で、その間に炭化物や焼土、二次堆積のローム質土の細かな堆積層が確認される。これらは純層を形成する場合もあるが、黒色土層などに混入するものも多い。特に炭化物は、判別しやすいこともあるが、土層断面全体で確認できるほどである。これらは、層位的な年代測定資料として供されている。

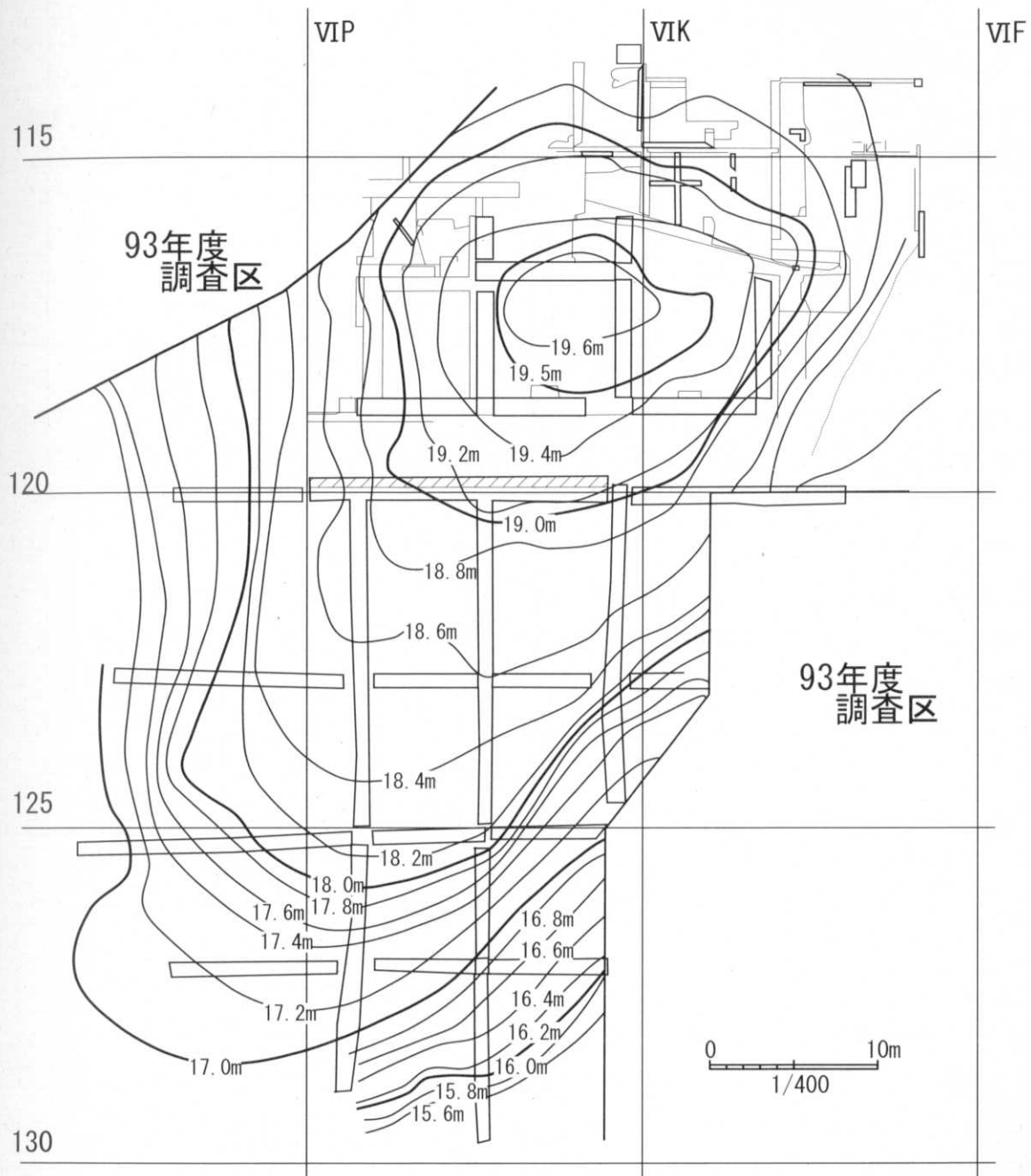
二次堆積ロームは他の混入物を交えずに確認されることが多い。供給源は遺構掘削による排土と見られるが、具体的な遺構は不明である。可能性としては、道路跡(修繕も含めて)やフラスコ状土坑などが挙げられる。

焼土層の多くは、上下層との境が明瞭である。その場での焚き火の可能性もあるが、焼土遺構(炉

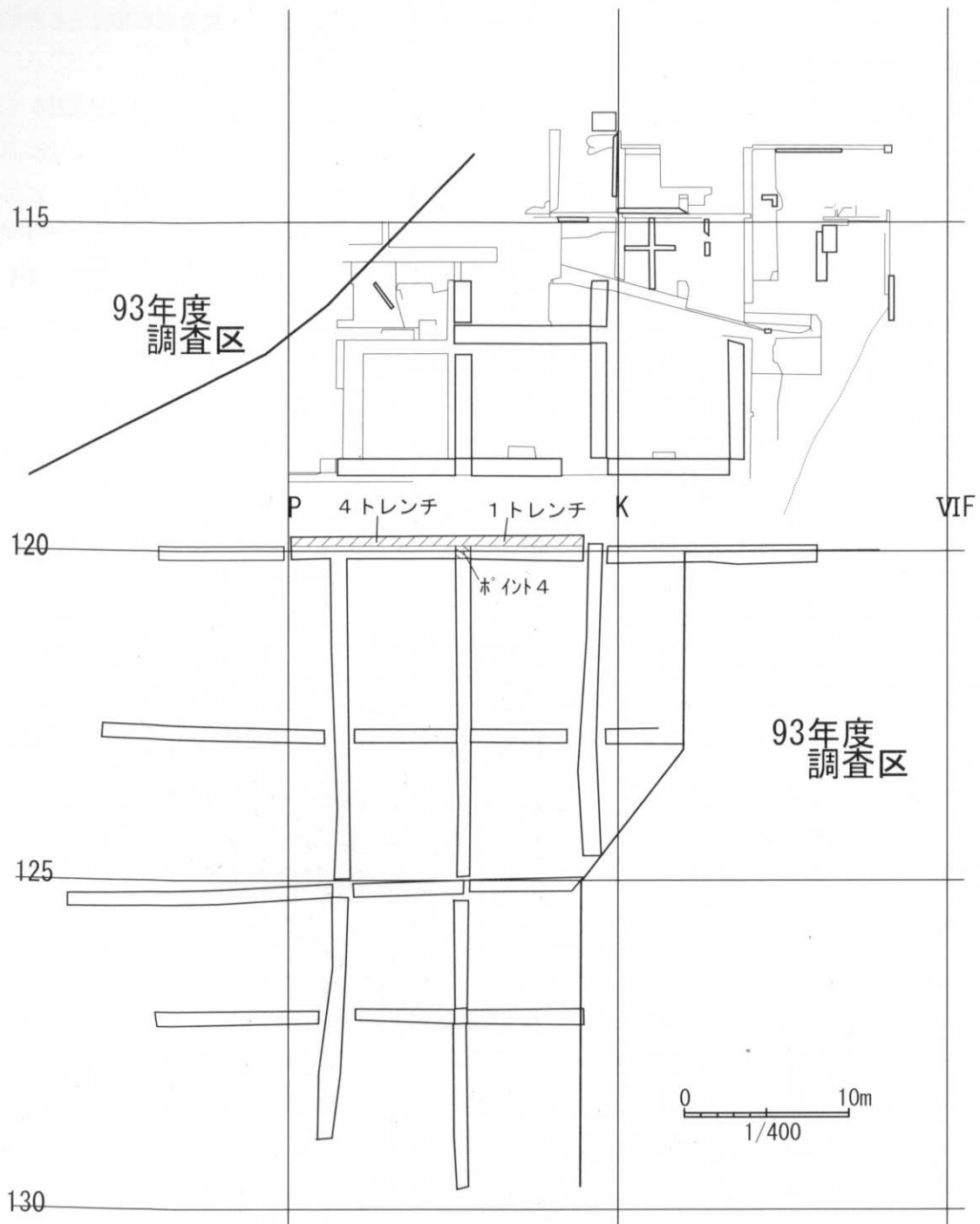
も含めた) などに見られる、漸移的な被熱痕跡が確認されるものは少なく、焼土の集積による廃棄層であると考えられる。

これらの土砂は厚い部分でも10cmほどの非常に薄い層をなす。各層中で層厚の差はほとんどなく、層端ほど薄くなる。土砂以外にも、土器が密集し、あたかも敷かれたような状態で出土している部分も見られる。黒色土やローム層などは互層となるが、堆積に規則性は見られない。

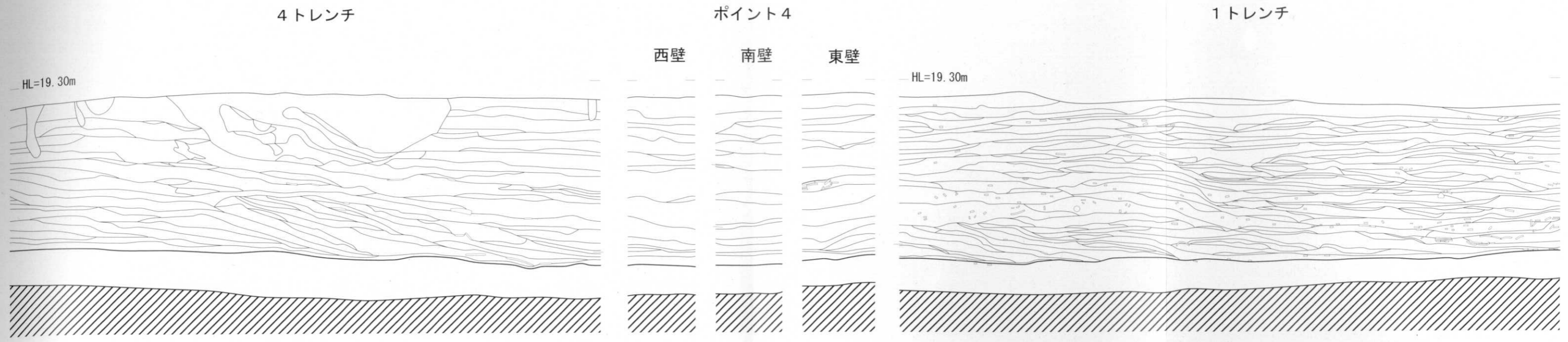
堆積順としては、1・4トレンチに限って言えば、下層で東側へ傾斜する堆積状況を示す部分が多い。堆積状況から判断して、西側から東側へ向かって盛土の範囲が拡大したものと見られる。また4トレンチの上半、1トレンチの大半は、水平な堆積として確認され、盛土範囲の確定及び全域の上方への拡大として判断できる。



20図 表土除去後の等高線図



21図 トレンチ配置図



22図 1・4トレンチ、ポイント4土層断面図

3. 各層の検出遺構と出土遺物

(1) 1トレンチの検出遺構と出土遺物

1トレンチはVIK~M-119に位置する。120ラインに沿って設定したトレンチを、北側に50cm拡張した範囲である。確認面の標高は、19.05~19.15mである。確認面から第IV層上面までの厚さは151~172cmである。第IV層の厚さは25~35cmである。

本トレンチからの検出遺構はない。

盛土部分は144層に細分した。部分的には細々分し、' (ダッシュ) で示した層もある。ロームや炭化物、焼土など土質が明瞭に区別できる層は、各廃棄単位をほぼ表しているものと思われる。しかし、黒~褐色土層については複数の廃棄単位を一括して認識している可能性もある。調査段階で十分な観察に努めたものの、144層の細分層=廃棄の回数とは必ずしもならない。

盛土の時期は円筒上層 a 式期から最花式期である。このトレンチでは各土層の分布図と遺物の出土位置図 (24~34図) を作成した。限られた範囲ではあるが、記載に当たっては、各層の広がりや厚さ、構成する土質、出土遺物について触れることにする。

以下に、各層の堆積土と出土遺物について述べる。出土遺物は必要に応じて記載し、石器のチップについては10g~30gを少量、30g~40gを中量、40g以上を多量と記載する。

第1層

VIL・M-119・120に最大厚15cmで広がる。堆積土は黒褐色 (10YR2/2) 土を主体とし、炭化物が微量、焼土粒がごく微量含まれる。遺物は、土器は最花式土器を主体に出土した。2は粘土紐を渦巻き状に貼付したものである。石器は石槍が1点出土した。

第2層

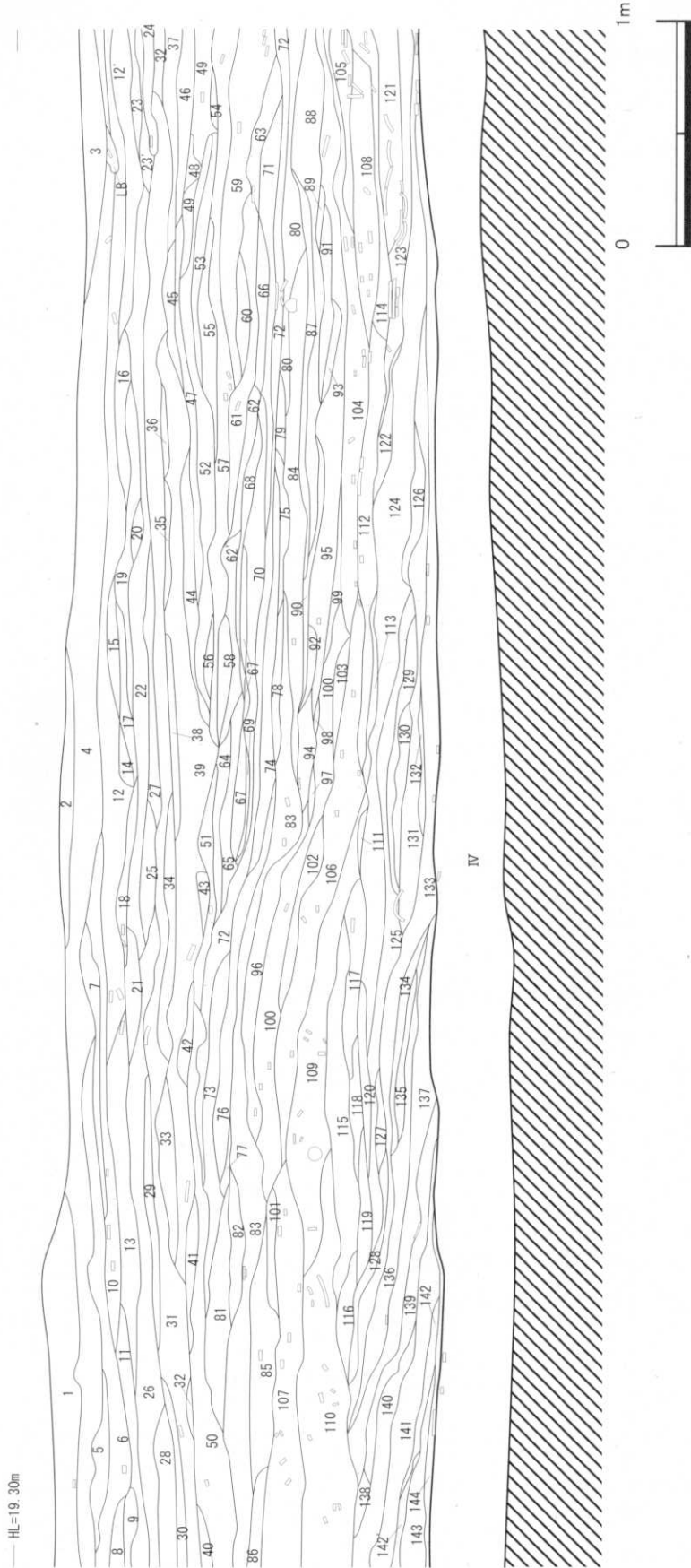
VIL-119・120に幅約1.4m、最大厚6cmで分布する。堆積土は暗褐色 (10YR3/4) 土を主体とする。ロームと黒褐色土との混合土で、浮石粒が中量、炭化物が微量含まれる。遺物の出土量は少ない。榎林式土器が出土した。35-9は幅が広く浅い沈線が施文される。石器は石皿?が1点出土した。

第3層

VIK-119・120に最大厚11cmで確認された。堆積土は褐色 (10YR4/4) 土を主体とし、炭化物や白色浮石が少量含まれる。出土遺物は少ない。土器は榎林式~最花式土器が出土した。36-1は表面が摩滅しているが、頂部が渦巻状で、垂下する沈線が施文される。

第4層

VIK~M-119・120の1トレンチ全体に、最大厚15cmで広がる。堆積土は黒褐色 (10YR2/2) 土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器片が少量出土した。榎林式土器を主体とする。

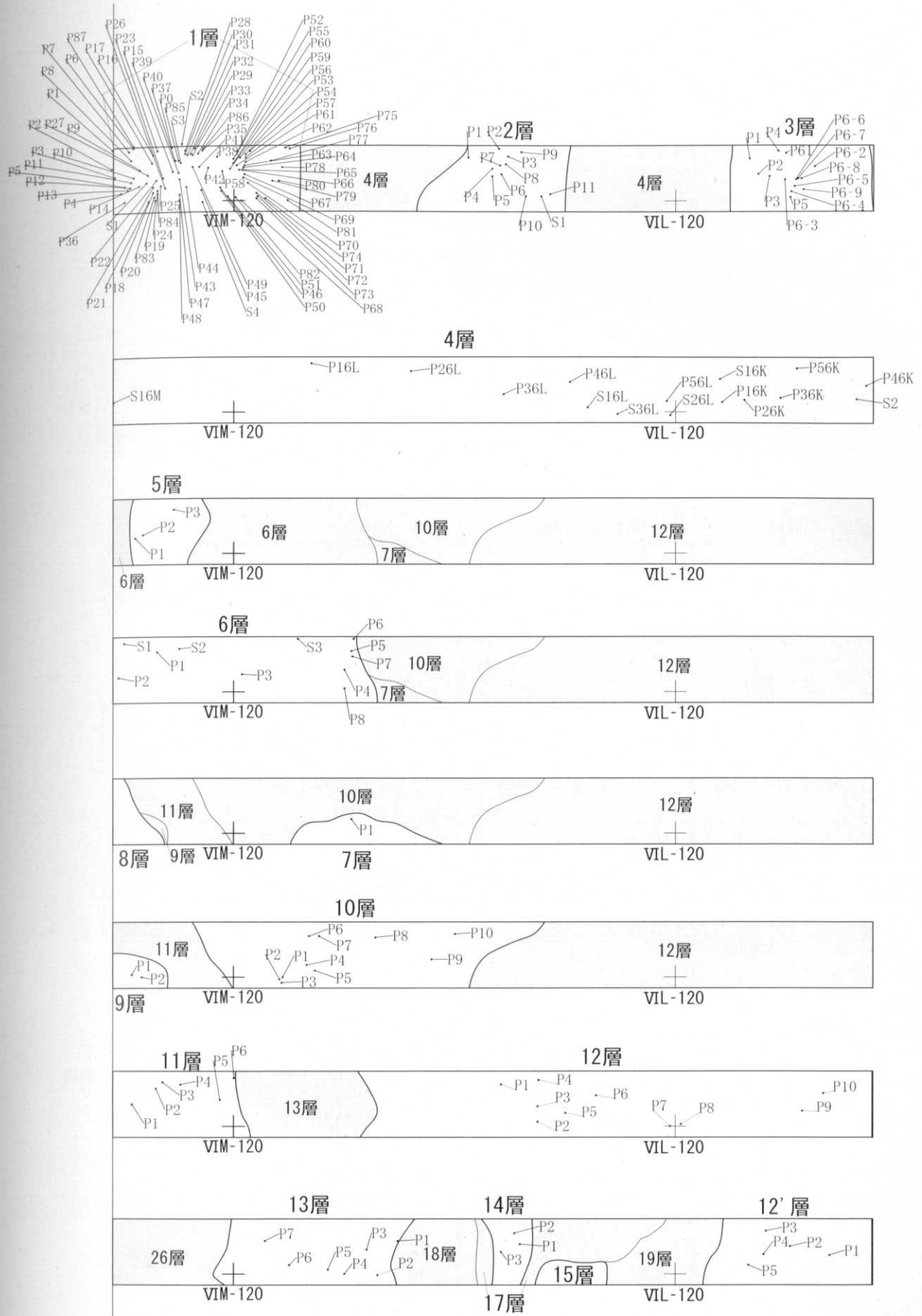


23図 1 トレンチ土層断面

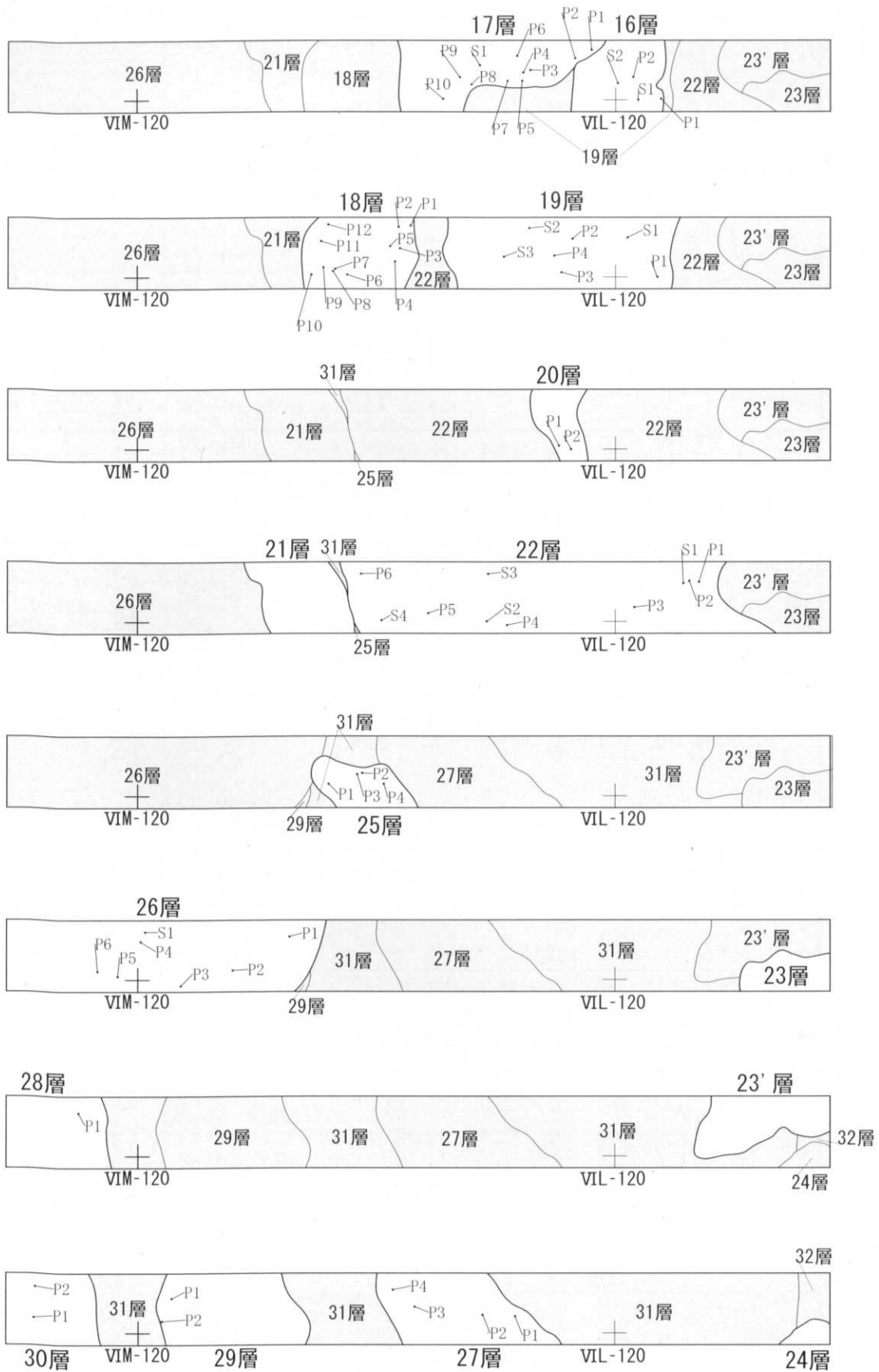
1 トレンチ土層注記

1	黒褐	10YR2/2	炭化物微量、焼土粒極微量
2	暗褐	10YR3/4	ロームと黒褐色土の混合土、浮石粒中量、炭化物微量
3	褐	10YR4/4	炭化物・白色バミス少量
4	黒褐	10YR2/2	ローム粒少量、炭化物微量
5	暗褐	10YR3/4	暗褐色土とロームとの混合土、炭化物微量
6	黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物少量、暗褐色土微量 (5・10層よりも明るく、ロームの割合多い)
7	暗褐	10YR3/4	ロームと黒褐色土の混合土、炭化物微量
8	褐	10YR4/4	ローム多量、炭化物微量
9	暗褐	10YR3/3	ロームと暗褐色土との混合層 (ロームの割合大)
10	褐	10YR4/4	ローム主体層、炭化物微量
11	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層、炭化物少量 (10層よりやや暗い、炭化物多い)
12	黒褐	10YR3/2	ローム粒少量、炭化物微量
13	暗褐	10YR2/3	白色バミス多量
14	黒褐	10YR2/3	ローム中量 (15層に似るが、炭化物なし)
15	黒褐	10YR2/3	ローム多量、炭化物微量 (12・17層より暗く、炭化物量多い)
16	黒褐	10YR2/3	炭化物・ローム粒少量
17	褐	10YR4/4	ローム主体、白色バミス少量、炭化物微量
18	黒褐	10YR2/3	炭化物中量、焼土粒極微量
19	黒褐	10YR3/2	炭化物粒～塊少量、ローム粒少量
20	暗褐	10YR3/3	炭化物多量
21	褐	10YR4/6	ローム主体、暗褐色土多量、炭化物少量
22	褐	10YR4/4	ローム主体層、特に東側で密、暗褐色土・炭化物少量
23	暗褐	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量
24	黄褐	10YR4/6	ローム主体層、炭化物・焼土粒微量
25	褐	10YR4/4	ローム主体層、暗褐色土中量、炭化物微量
26	黒褐	10YR2/3	炭化物中量、ローム粒少量 (13層より炭化物・ロームとも多い)
27	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層、白色バミス多量、炭化物少量 (22層よりロームの割合多い)
28	黒褐	10YR2/2	ローム粒少量、焼土粒、炭化物微量 (26層より暗く、炭化物少ない)
29	黒褐	10YR2/2	ローム粒・炭化物極微量
30	黒褐	10YR3/2	ローム粒・炭化物少量 (28・31層よりやや明るい)
31	黒褐	10YR2/3	ローム粒・塊少量、炭化物中量
32	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層
33	黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物・黒褐色土少量
34	黒褐	10YR3/2	炭化物少量、ローム粒微量 (31層より明るく、39層よりもくすむ)
35	黒	10YR2/1	炭化物多量
36	暗褐	10YR3/3	焼土塊状に中量入る、ローム粒少量
37	褐	10YR4/4	ロームと黒褐色土の混土層、炭化物微量 (36層より明るい)
38	褐	10YR4/4	炭化物極微量 (31層・39層よりも明るい、39層より炭化物少)
39	暗褐	10YR3/4	炭化物少量、ローム塊少量
40	暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量、焼土粒微量
41	にぶい黄褐	10YR4/3	砂質ローム主体
42	黒褐	10YR2/2	砂質ローム塊下部に密、炭化物微量
43	暗褐	10YR3/3	浮石粒中量
44	黄褐	10YR5/6	ローム主体、暗褐色土少量、炭化物微量
45	黒褐	10YR2/2	炭化物・白色バミス微量
46	黒褐	10YR2/3	炭化物中量、焼土粒微量 (37・49層より暗い)
47	黒	10YR1/1.7	炭化物主体、ローム粒、焼土粒微量
48	黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物微量
49	暗褐	10YR3/3	炭化物筋状に微量、白色バミス微量
50	黒褐	10YR2/3	炭化物・ローム粒少量、焼土粒微量
51	黒褐	10YR2/3	ローム粒少量
52	黒褐	10YR2/3	炭化物粒・ローム粒微量
53	にぶい黄褐	10YR5/4	ローム主体、黒褐色土少量、焼土粒・炭化物微量
54	黒	10YR2/1	炭化物主体層
55	暗褐	10YR3/4	炭化物微量
56	にぶい黄褐	10YR5/4	ロームと暗褐色土との混合土
57	褐	10YR4/4	炭化物中量
58	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、暗褐色土少量 (57層より明るい)
59	黒褐	10YR2/2	ローム粒・炭化物微量
60	にぶい黄橙	10YR6/3	砂質土、炭化物微量
61	黒褐	10YR2/3	ローム粒・塊少量、炭化物微量
62	褐	10YR4/4	焼土中量、白色砂・炭化物少量
63	黒	10YR2/1	炭化物・白色バミス微量 (59層よりも暗い)
64	黒褐	10YR2/2	炭化物少量 (51・65層より暗い)
65	暗褐	10YR3/3	焼土粒・炭化物微量
66	黒褐	10YR3/2	白色バミス少量、炭化物微量
67	にぶい黄橙	10YR6/4	ロームと白色砂の混合土、砂質で粗い、焼土粒微量
68	黒褐	10YR5/4	炭化物・ローム粒微量
69	黒	10YR2/1	炭化物層
70	暗褐	10YR3/3	ローム粒微量、炭化物極微量
71	黒褐	10YR2/2	炭化物微量
72	黒褐	10YR3/2	炭化物多量、ローム粒極微量

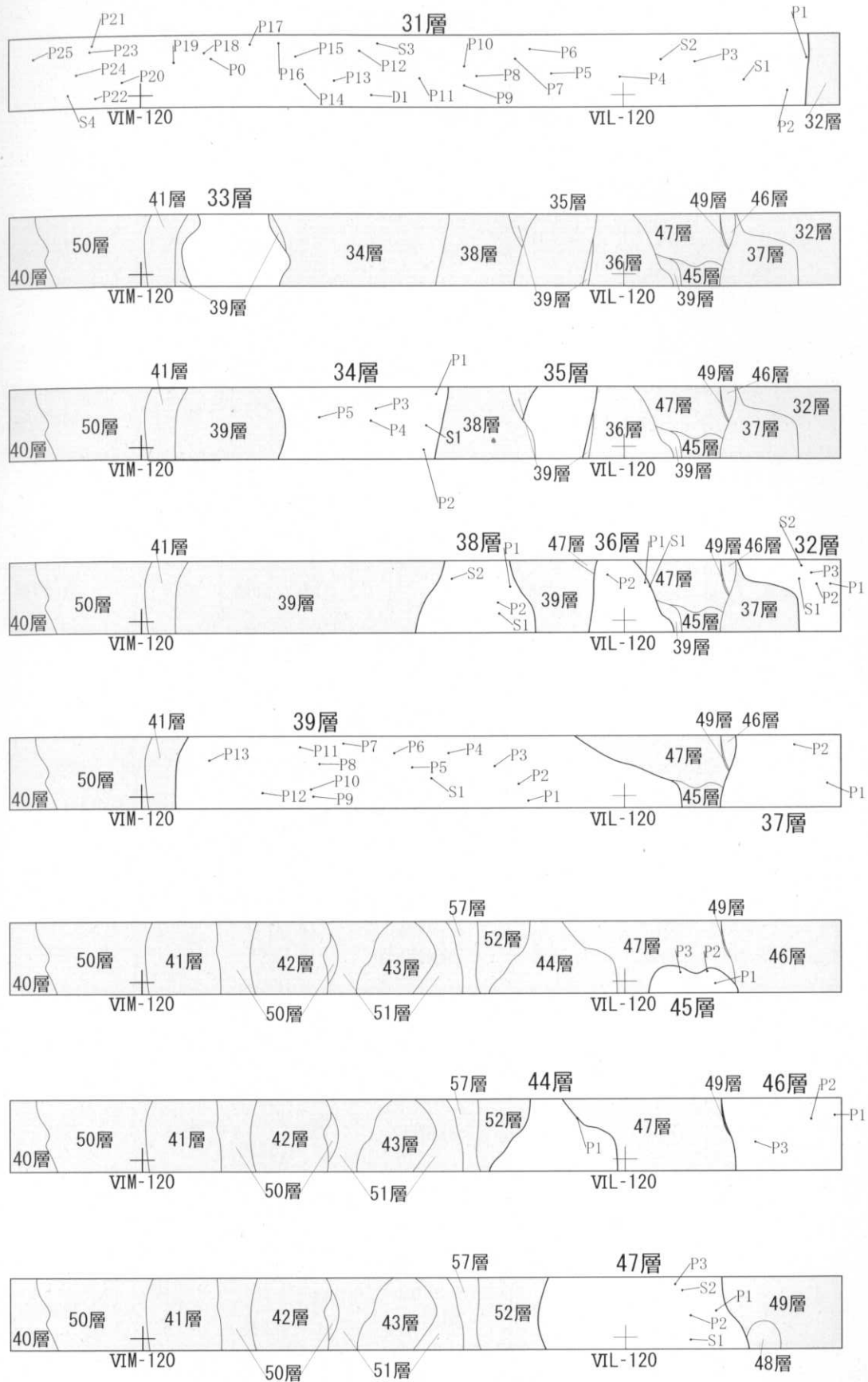
73	暗褐	10YR3/4	炭化物少量、ローム粒・焼土粒微量
74	暗褐	10YR3/3	炭化物・白色パミス微量 (76層よりも暗い)
75	黒褐	10YR3/2	ローム粒・炭化物少量
76	にぶい黄褐	10YR4/3	白色パミス中量、炭化物少量 (83層より明るく、炭化物割合少)
77	黄褐	10YR5/6	ローム主体層
78	褐	10YR4/4	ロームと黒褐色土との混合土、炭化物微量
79	黒褐	10YR2/2	炭化物中量、ローム粒微量
80	黒褐	10YR2/3	炭化物少量、ローム粒微量
81	黄褐	10YR5/8	砂質ローム主体層、黒褐色土少量、炭化物中量で部分的に筋状に入る、焼土粒微量
82	褐	10YR4/4	砂質ローム主体、黒褐色土少量 (81層よりも黒褐色土の割合多い)
83	黒褐	10YR2/3	炭化物・ローム粒少量
84	暗褐	10YR3/4	炭化物微量、焼土粒極微量
85	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒微量
86	暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量 (85層より明るく、混入物多い)
87	黒褐	10YR3/1	炭化物少量
88	暗褐	10YR3/4	炭化物・白色パミス極微量 (87層より明るく、混入物少)
89	黒褐	10YR3/1	炭化物・焼土粒微量
90	黒褐	10YR3/1	炭化物多量、ローム粒・焼土粒微量
91	黒褐	10YR2/3	ローム粒多量、炭化物・焼土粒少量
92	褐	10YR4/4	ローム多量
93	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊・炭化物少量、白色粘土塊微量
94	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒微量
95	黒褐	10YR3/3	炭化物・白色パミス少量 (90・99層より明るく、混入物少)
96	暗赤褐	5YR3/6	焼土主体、炭化物微量
97	黒	10YR2/1	
98	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、黒褐色土中量
99	黒褐	10YR2/2	炭化物中量、ローム粒少量
100	黒褐	10YR2/3	白色パミス・炭化物少量、炭化物は部分的に筋状に入る
101	暗褐	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量
102	褐	10YR4/4	ローム多量、部分的に塊状、炭化物・焼土粒微量
103	黒	10YR2/1	炭化物微量
104	にぶい黄褐	10YR4/4	ローム塊状・粒状で多量、炭化物少量、焼土粒微量
105	暗褐	10YR3/4	ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量
106	黒褐	10YR2/2	炭化物・ローム粒多量、焼土粒微量
107	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物少量
108	黄褐	10YR5/8	ローム主体、暗褐色土少量、114層との境に黒色土のごく薄層挟む
109	暗褐	10YR3/3	白色パミス、炭化物中量 (106層に比べ明るく、炭化物割合少)
110	暗褐	10YR3/3	炭化物多量、焼土粒・ローム粒少量 (109層よりやや暗く、混入物多い)
111	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層
112	赤褐	5YR4/8	焼土主体層、炭化物少量
113	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層
114	褐	10YR4/6	ローム主体、塊状ではなく、粒状の集合 (かき集めたような)、浮石・炭化物少量
115	黒褐	10YR3/2	炭化物少量
116	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層、炭化物微量
117	褐	10YR4/6	ローム多量、部分的に塊状をなす。炭化物少量
118	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊多量、炭化物微量
119	褐	10YR4/6	ローム主体、黒褐色土との混土
120	黒褐	10YR2/2	炭化物多量、ローム粒少量
121	黒褐	10YR3/2	炭化物、浮石粒少量
122	黒褐	10YR2/3	炭化物少量、灰白色粘土塊微量
123	暗褐	10YR3/3	炭化物中量、114層との境に部分的に板状の炭化物、ローム粒少量
124	黒褐	10YR2/3	ローム中量、部分的に筋状に入る。炭化物微量
125	暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒微量 (124層より明るい)
126	褐	10YR4/4	ローム多量、浮石中量
127	黒褐	10YR2/3	ローム粒・塊多量、炭化物少量 (128層よりやや暗く、混入物多い)
128	黒褐	10YR3/2	炭化物・焼土粒少量
129	黒褐	10YR3/2	炭化物多量、白色パミス少量
130	褐	10YR4/6	ロームと黒褐色土との混土層、炭化物微量
131	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層、黒褐色土・炭化物微量
132	黒	10YR2/1	炭化物主体層
133	暗褐	10YR3/4	ローム粒多量、炭化物中量、焼土粒微量
134	黒	10YR2/1	炭化物主体層
135	黄褐	10YR5/6	ローム主体、炭化物微量
136	黒褐	10YR2/3	ローム粒・炭化物少量
137	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、塊状に入る、黒褐色土少量、炭化物微量
138	黒褐	10YR2/2	ローム粒・塊少量、炭化物微量
139	暗赤褐	5YR3/6	焼土主体層、炭化物微量
140	褐	10YR4/6	ローム主体層、黒褐色土少量、炭化物微量
141	黄褐	10YR5/8	ローム層
142	暗赤褐	5YR3/6	焼土主体層、炭化物少量
143	黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物微量
144	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層



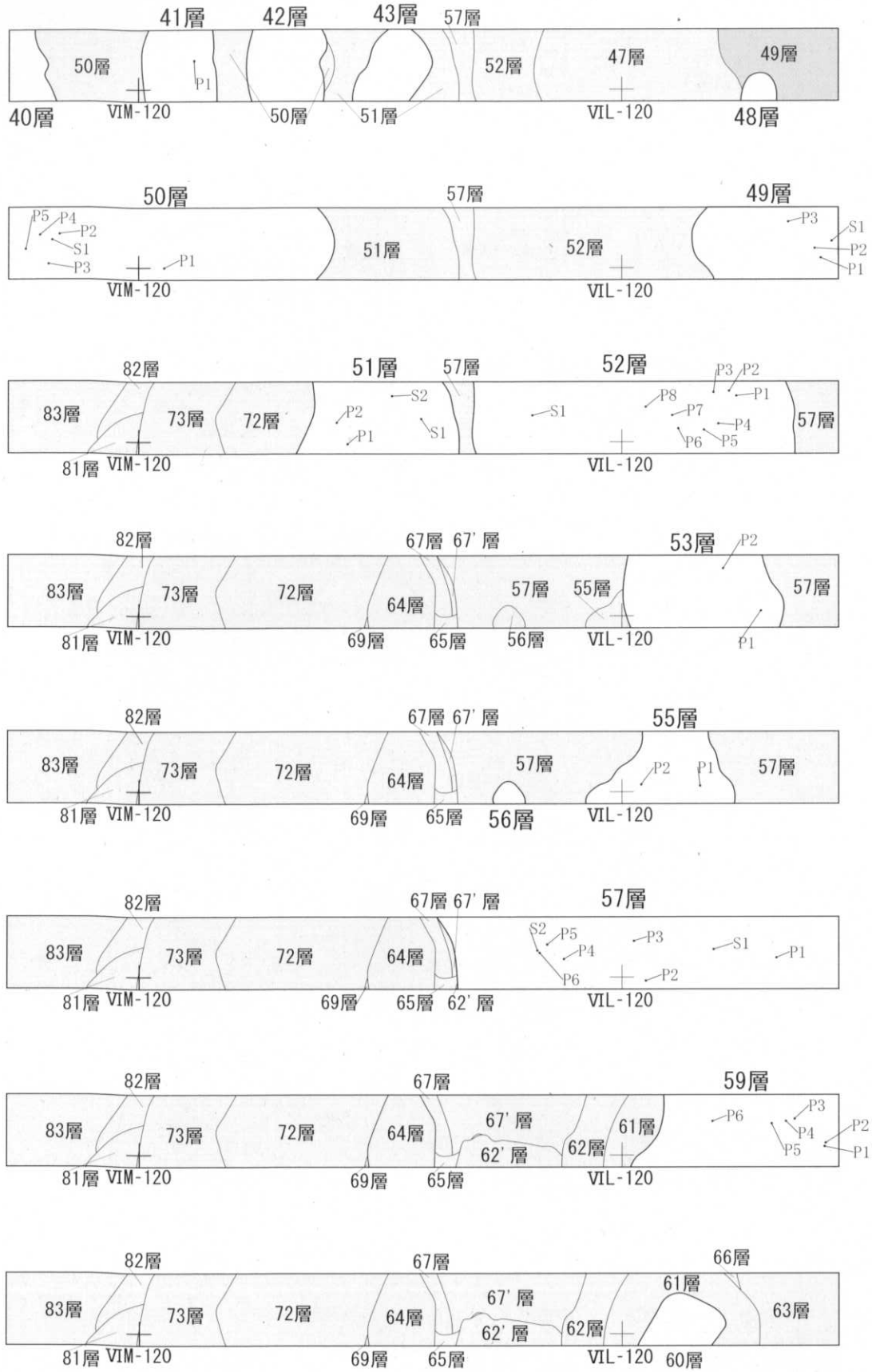
24图 第1~15層分布图



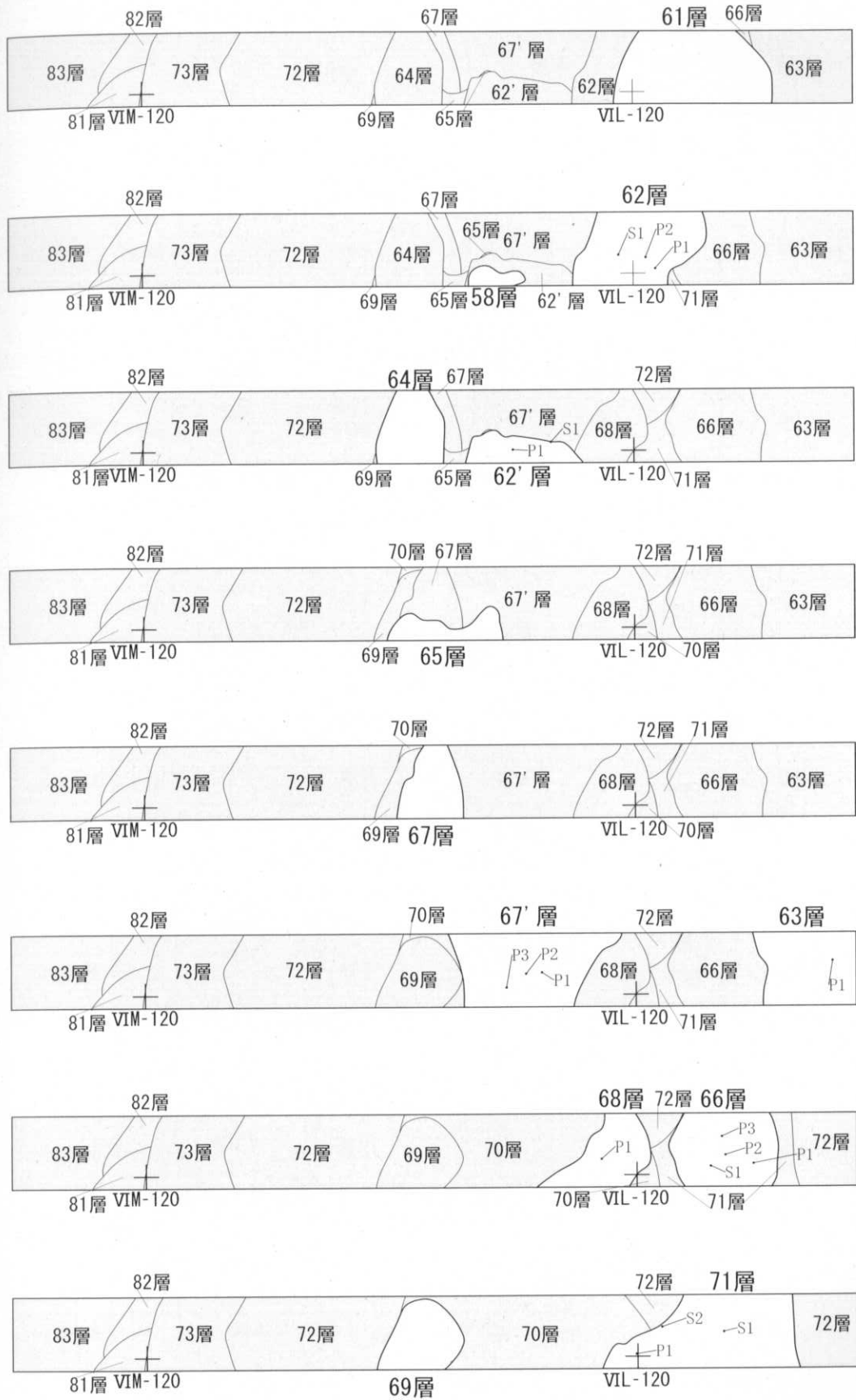
25图 第17~30層分布图



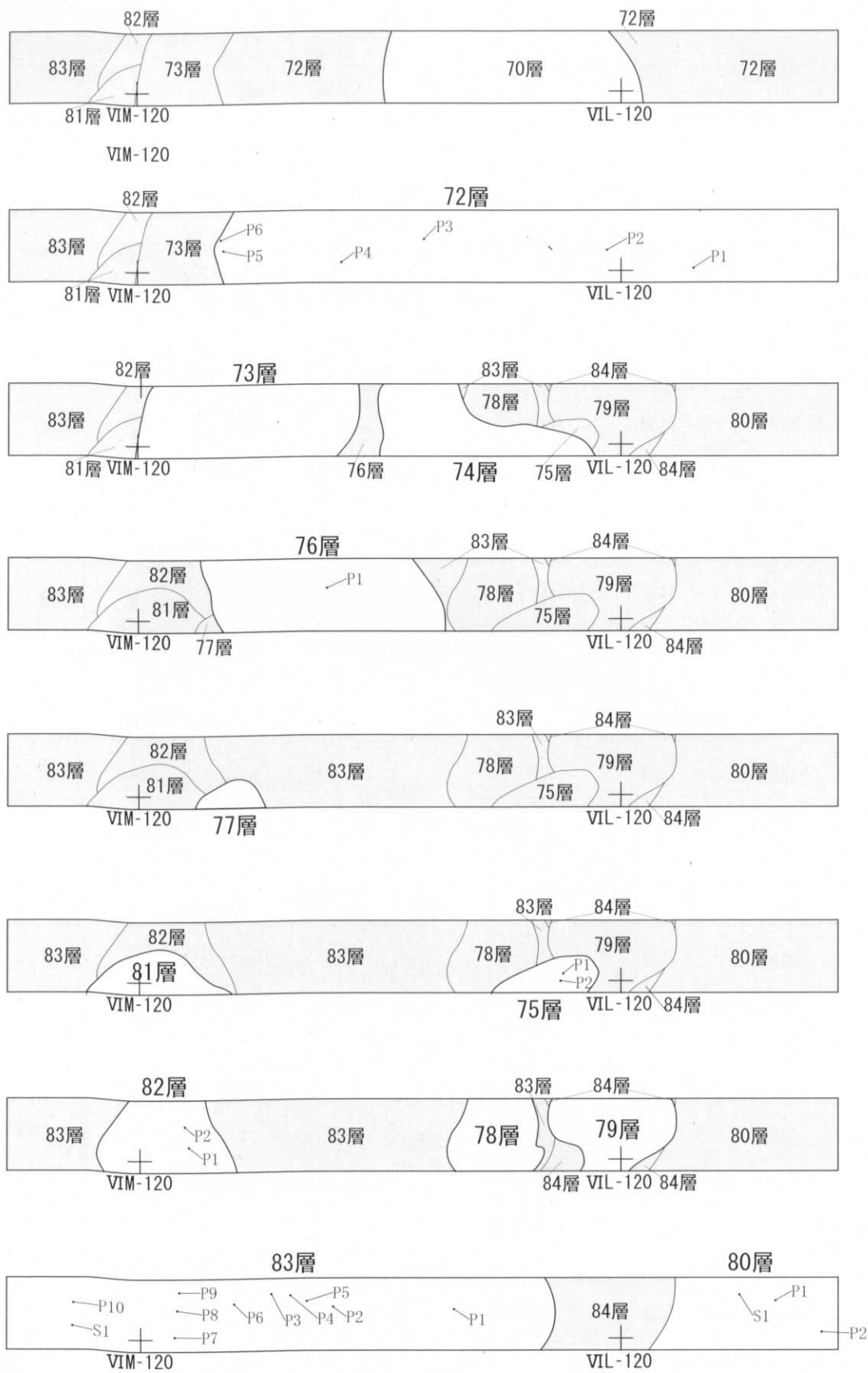
26図 第31~47層分布図



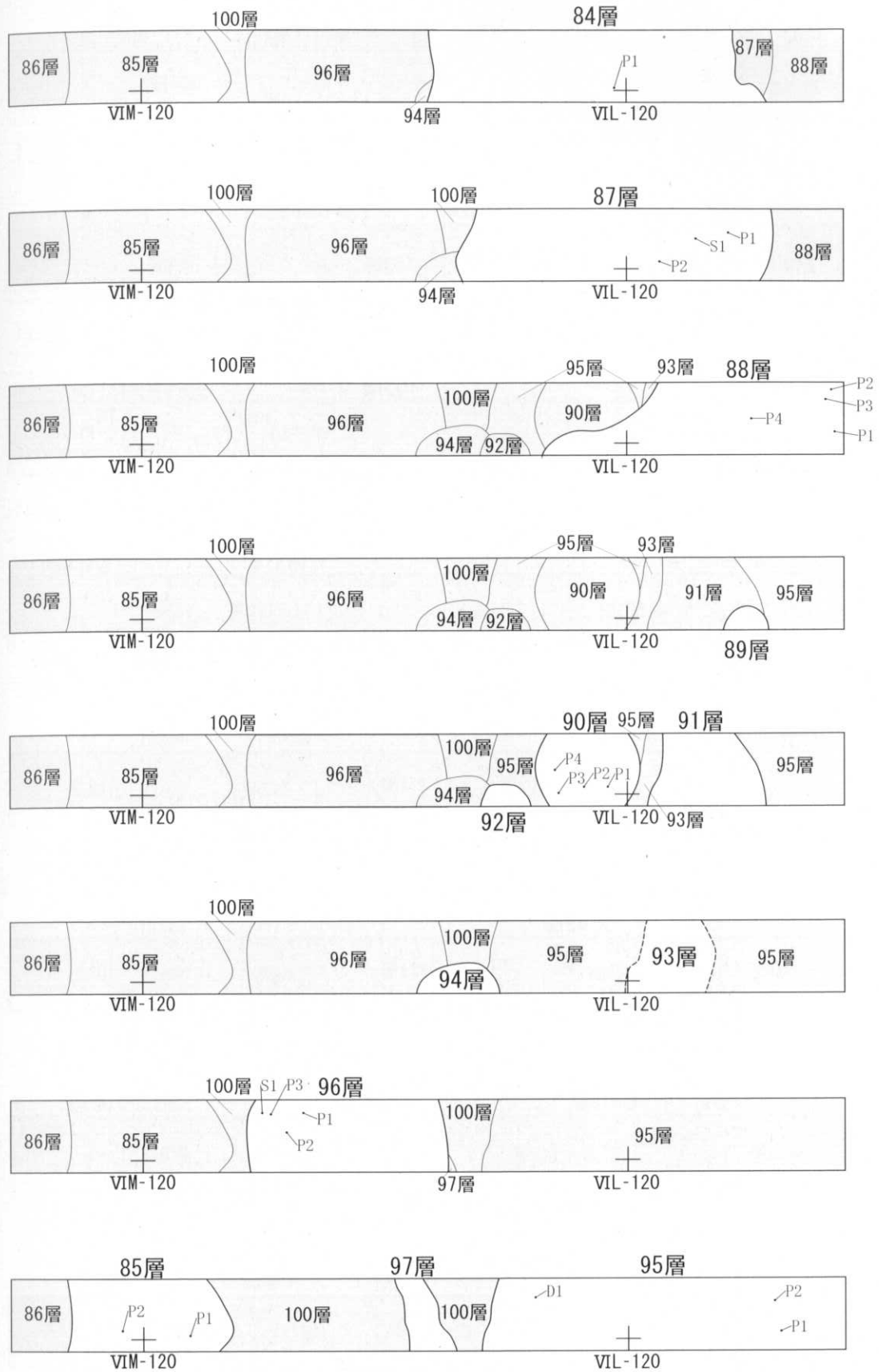
27図 第40~60層分布図



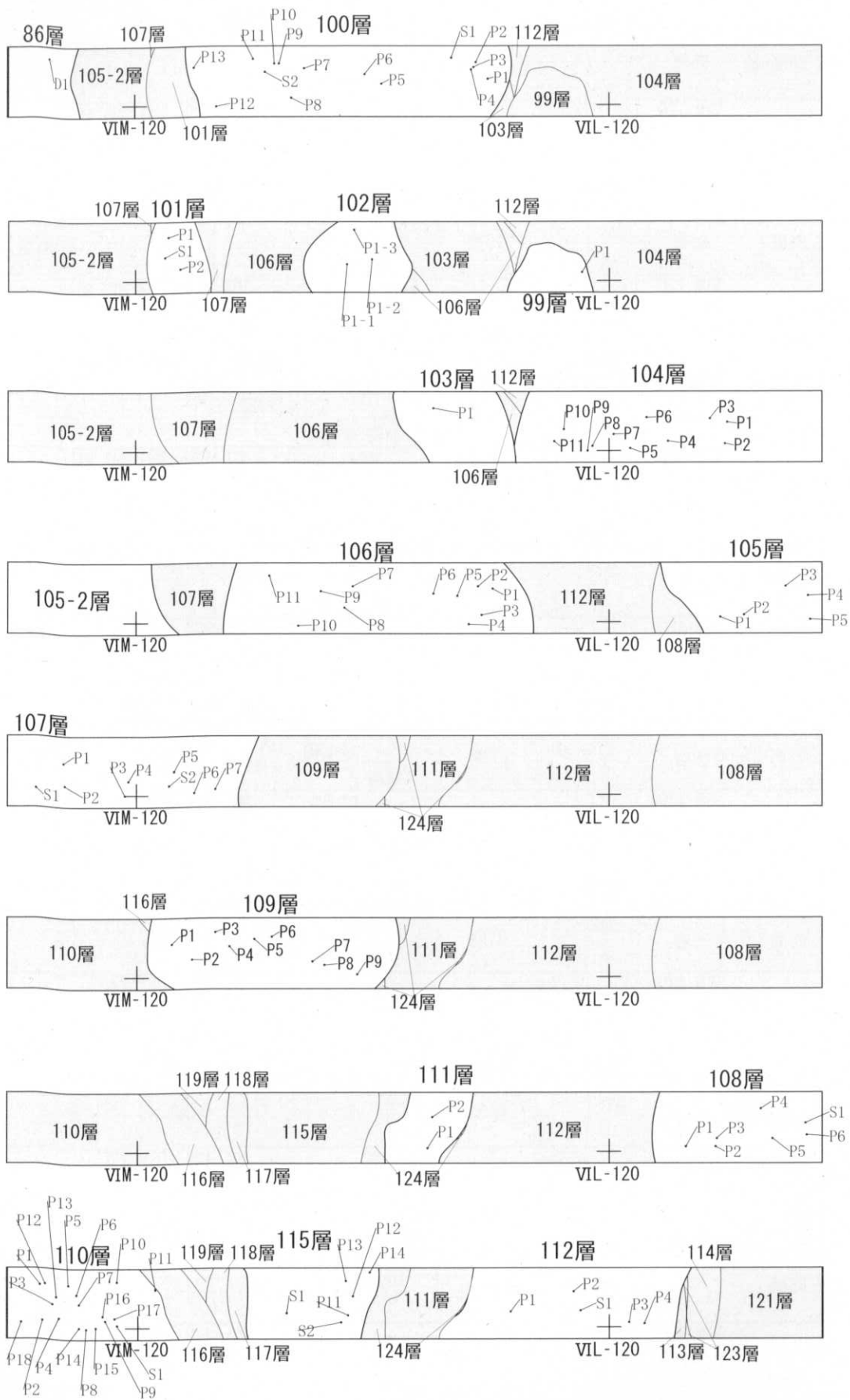
28図 第61~71層分布図



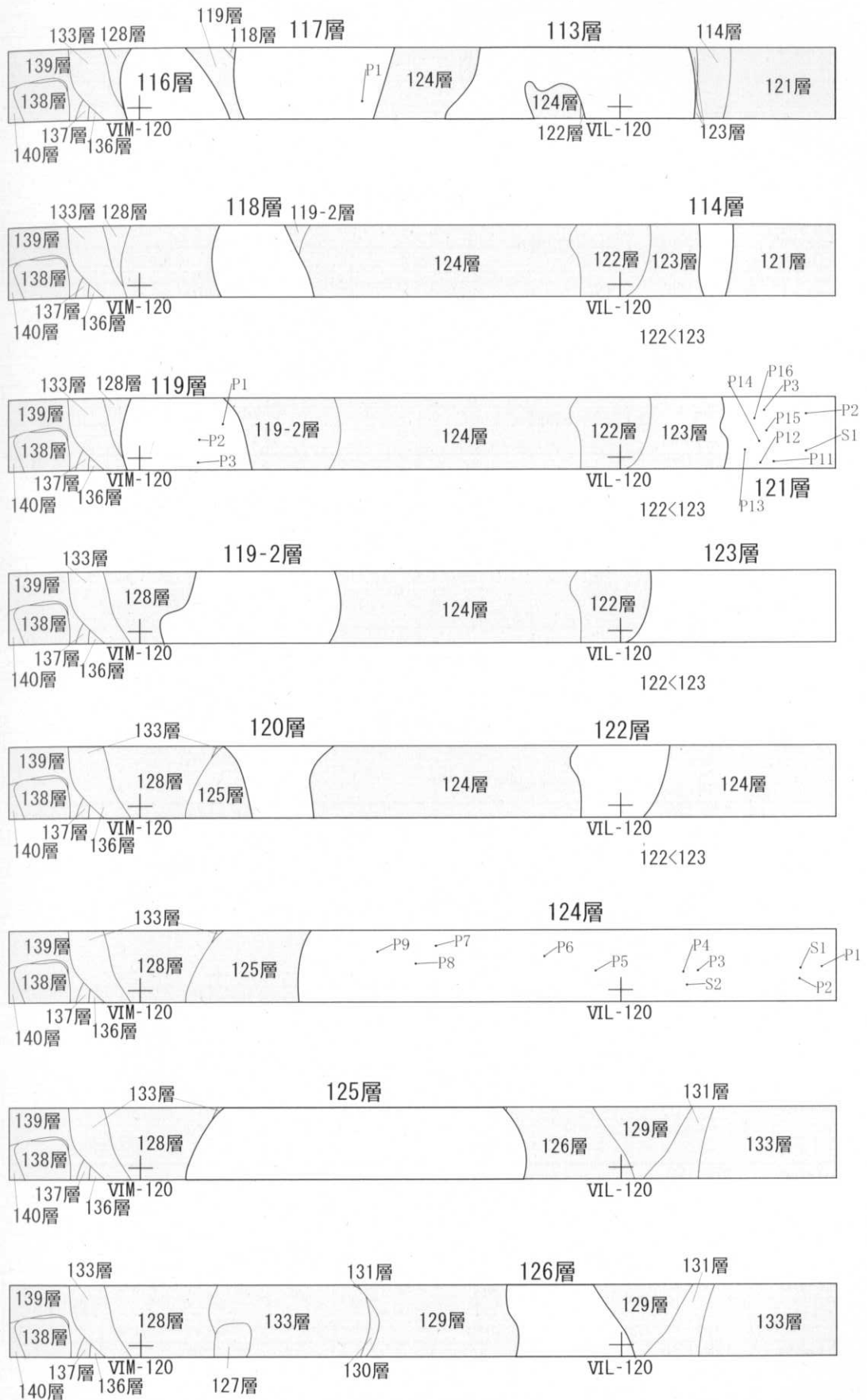
29図 第70~83層分布図



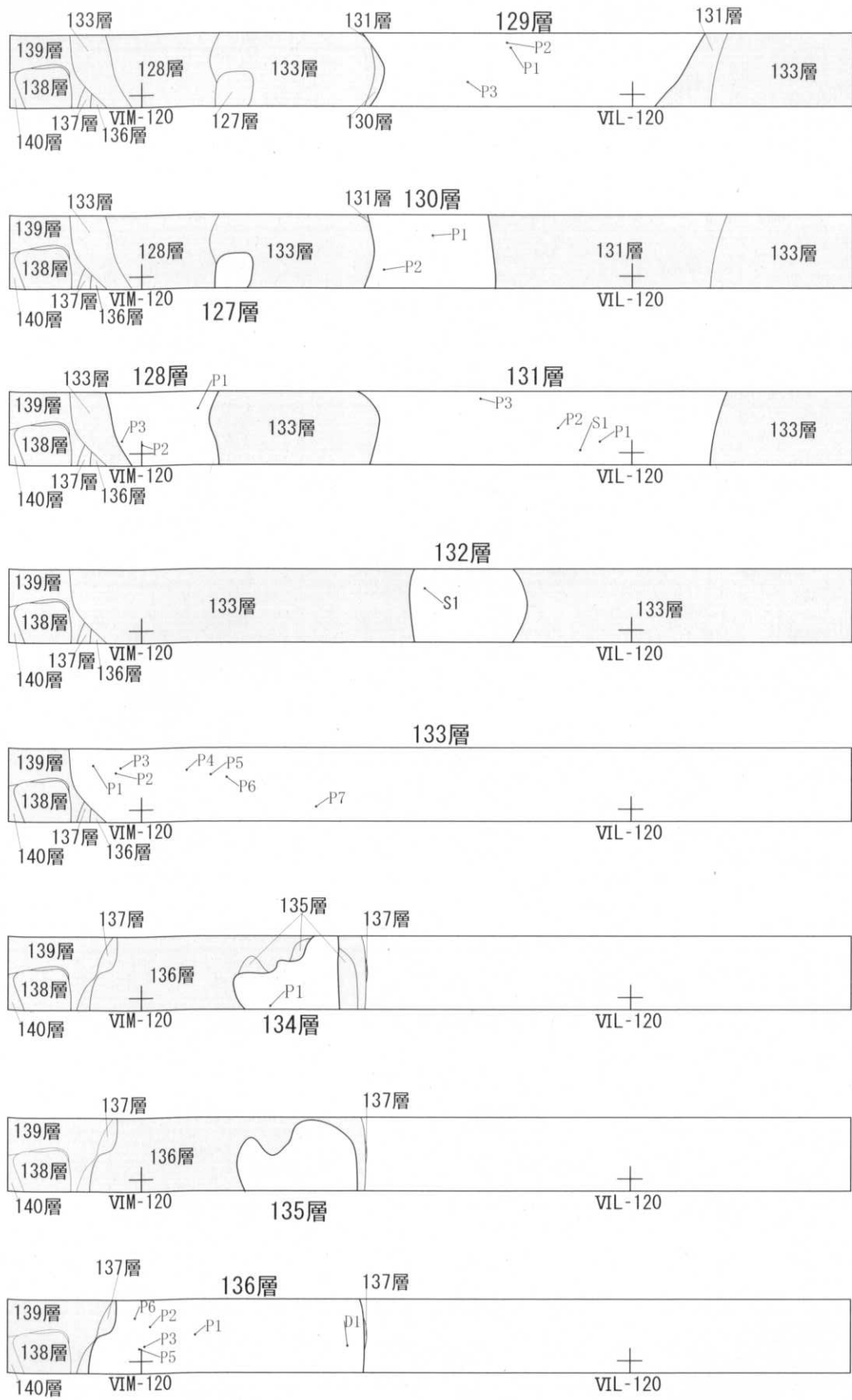
30図 第84~96層分布図



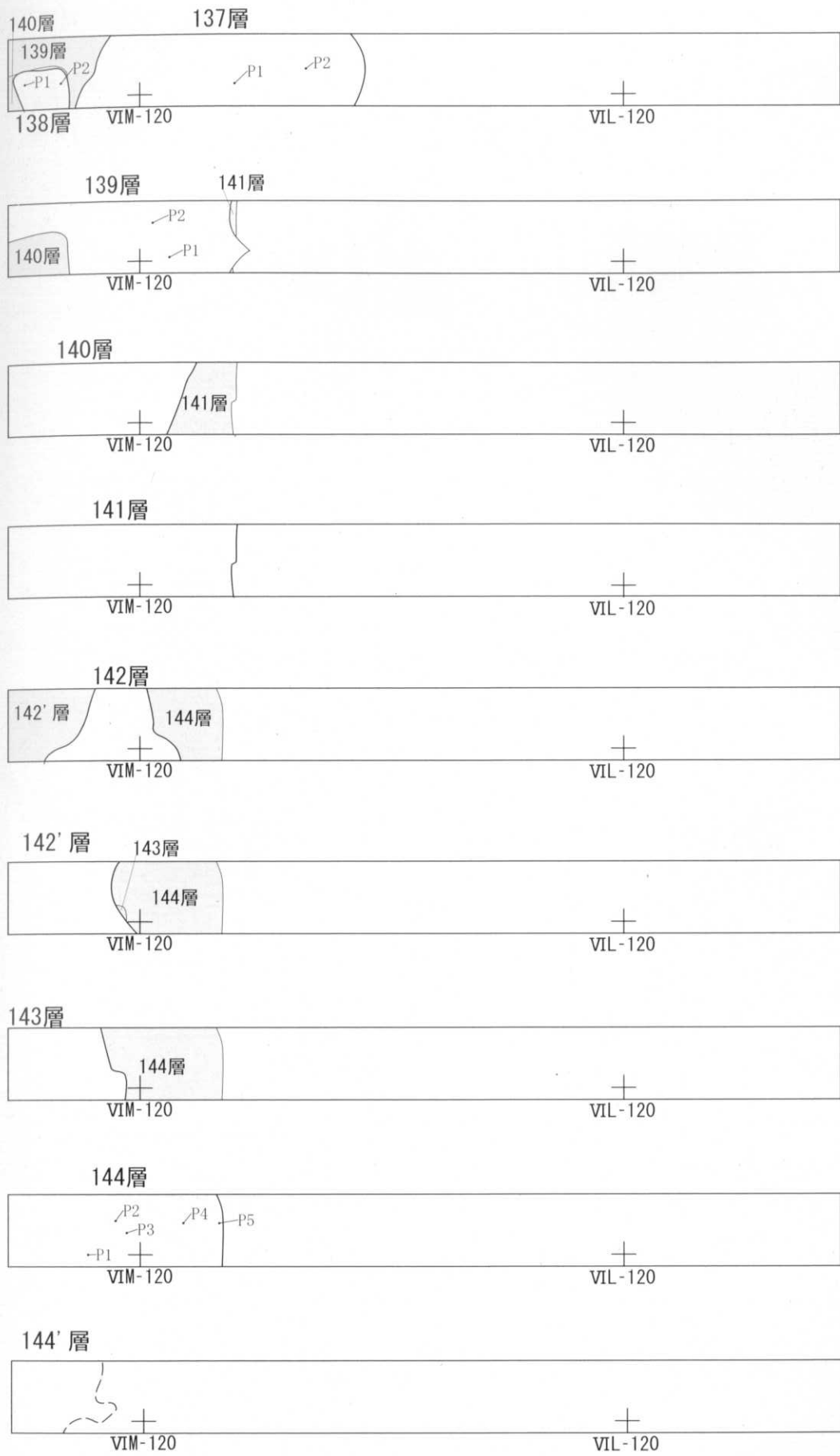
31図 第86~115層分布図



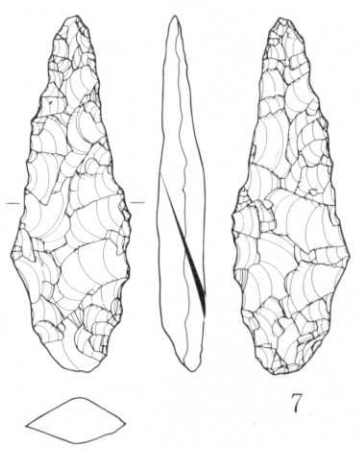
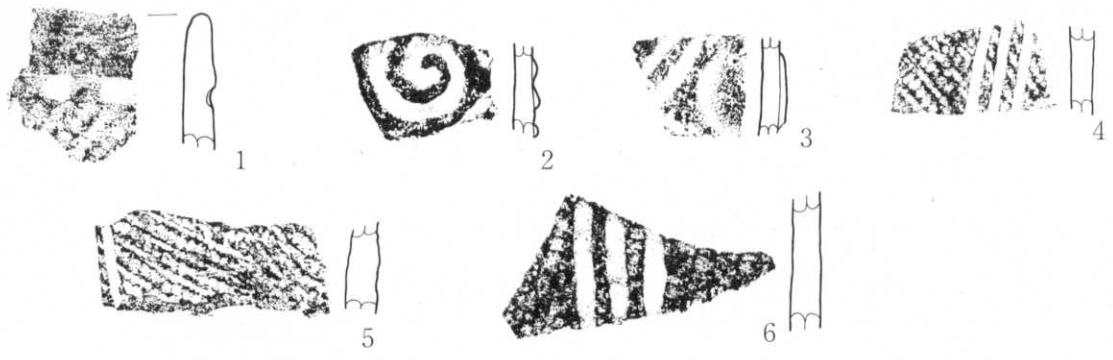
32図 第116~127層分布図



33図 第129~137層分布図

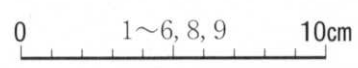
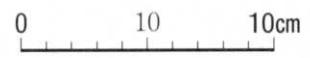
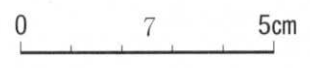


34図 第137~144層分布図

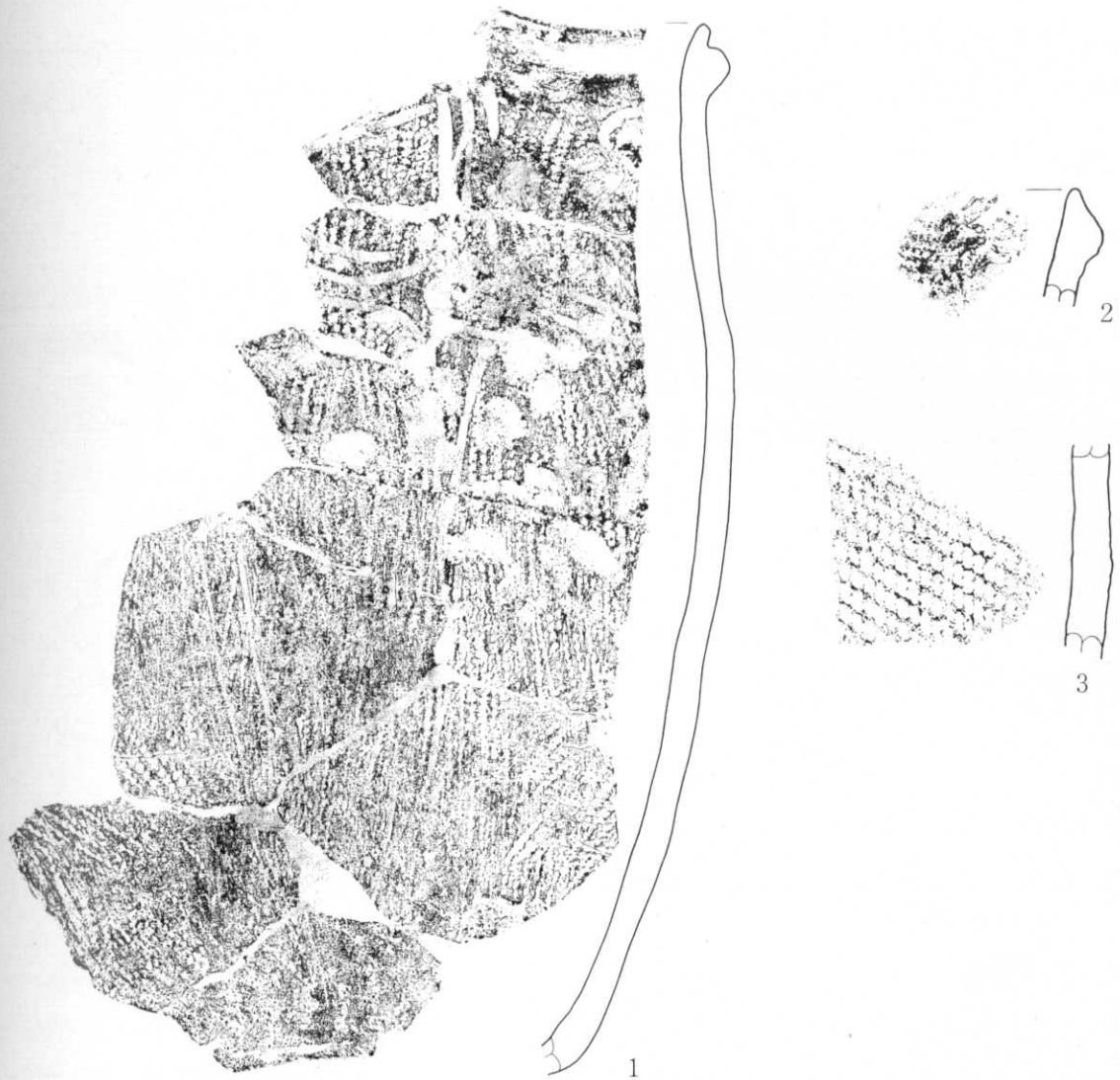


Ⅲ-1層

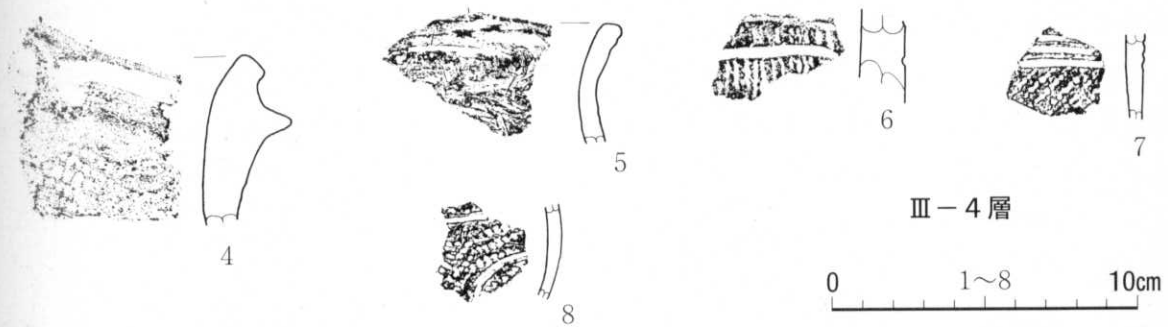
Ⅲ-2層



35図 1トレンチⅢ-1・2層出土遺物



Ⅲ-3層



Ⅲ-4層

36図 1 トレンチⅢ-3・4層出土遺物

第5層

VIM-119・120に幅約70cm、最大厚8cmで分布する。層上面はやや起伏が見られる。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とする。暗褐色土とロームとの混合土で、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第6層

VIL・M-119・120で最大厚10cmで広がる。ほぼ水平に堆積するが、上面はやや起伏がある。堆積土は黄褐色ローム(10YR5/6)土を主体とし、炭化物が少量、暗褐色土が微量含まれる。下部の第10層よりも明るく、ロームの割合が多い。出土遺物は土器・石器がわずかに出土したに過ぎない。出土土器は最花式である。石器は有茎の石鏃が出土した。

第7層

VIL-119・120に幅約1.4m、最大厚7cmで分布する。西側は3cmほどで薄く水平であるが、東側は厚みを増し、やや盛り上がった堆積状況である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とする。ローム土と黒褐色土との混合土で、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第8層

VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚7cmで分布する。水平な堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、ロームが多量、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第9層

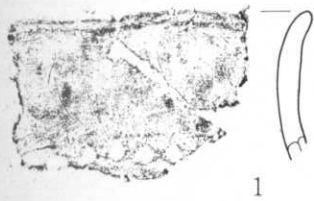
VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚7cmで分布する。水平な堆積である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ロームと暗褐色土との混合土層である。第8層に比べてロームの混入割合が大きい。出土遺物は、土器は最花式土器などがわずかに出土した。

第10層

VIL・M-119・120に幅約3.2m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。層中央部は3cm程度と薄い。堆積土は褐色(10YR4/4)土でローム土を主体とし、炭化物が微量に含まれる。出土遺物は、土器は中期後半のもので少量出土した。

第11層

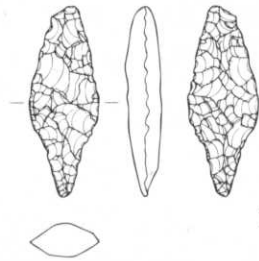
VIL・M-119・120に幅約1.2m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層上面はやや起伏がある。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土でローム土を主体とする。炭化物が少量含まれ、第10層に比べるとやや暗い色調で、炭化物の混入が多い。出土遺物は、土器は榎林式の細片が少量出土した。



1

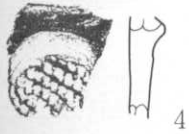


2



3

Ⅲ-6層

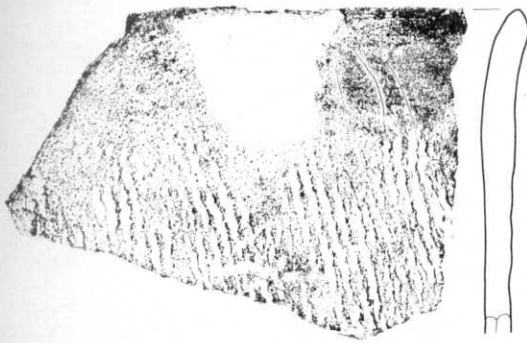


4



5

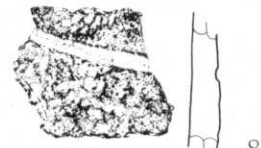
Ⅲ-9層



6



7

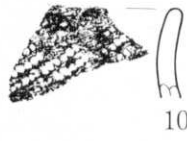


8

Ⅲ-10層



9



10

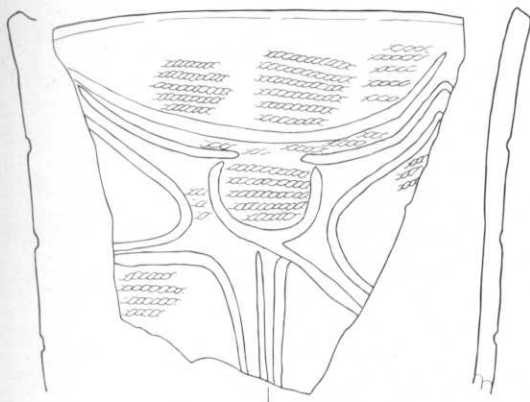


11



12

Ⅲ-11層



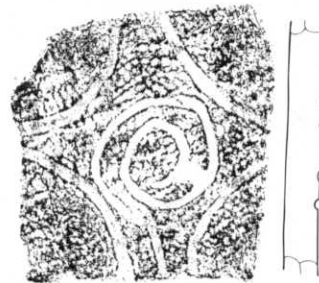
13



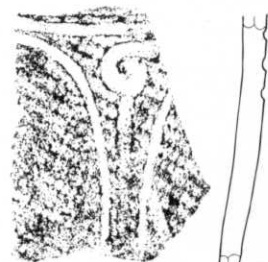
14



15

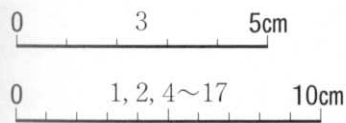


16



17

Ⅲ-12層



37図 1トレンチⅢ-6・9・10・11・12層出土遺物

第12層

VIL-119・120に幅約4.7m、最大厚12cmである。他の層に比べると広い分布で、ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。37-13・16は半円ないし渦巻状の沈線の周囲を4から5条の曲線状沈線が囲うモチーフである。37-17は渦巻状沈線が上を横位沈線、両側を曲線状に挟まれたような文様が施文される。

第12'層

VIL・M-119・120に幅約1.4m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。層東側でやや厚みを増す。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土で、白色浮石・焼土粒がごく微量含まれる。当初第12層と同一層としていたが、本層の色調がやや明るいいため分層した。遺物は、土器は中期後半のもので少量出土した。

第13層

VIL・M-119・120に幅約1.7m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR2/3)土主体で、白色浮石が多量に含まれる。出土遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。

第14層

VIL-119・120に幅約0.45m、最大厚6cmで分布する。第17・18層間の窪み状の部分に堆積した状態である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、ロームが中量含まれる。第15層に似るが、本層には炭化物は混入しない。出土遺物はない。

第15層

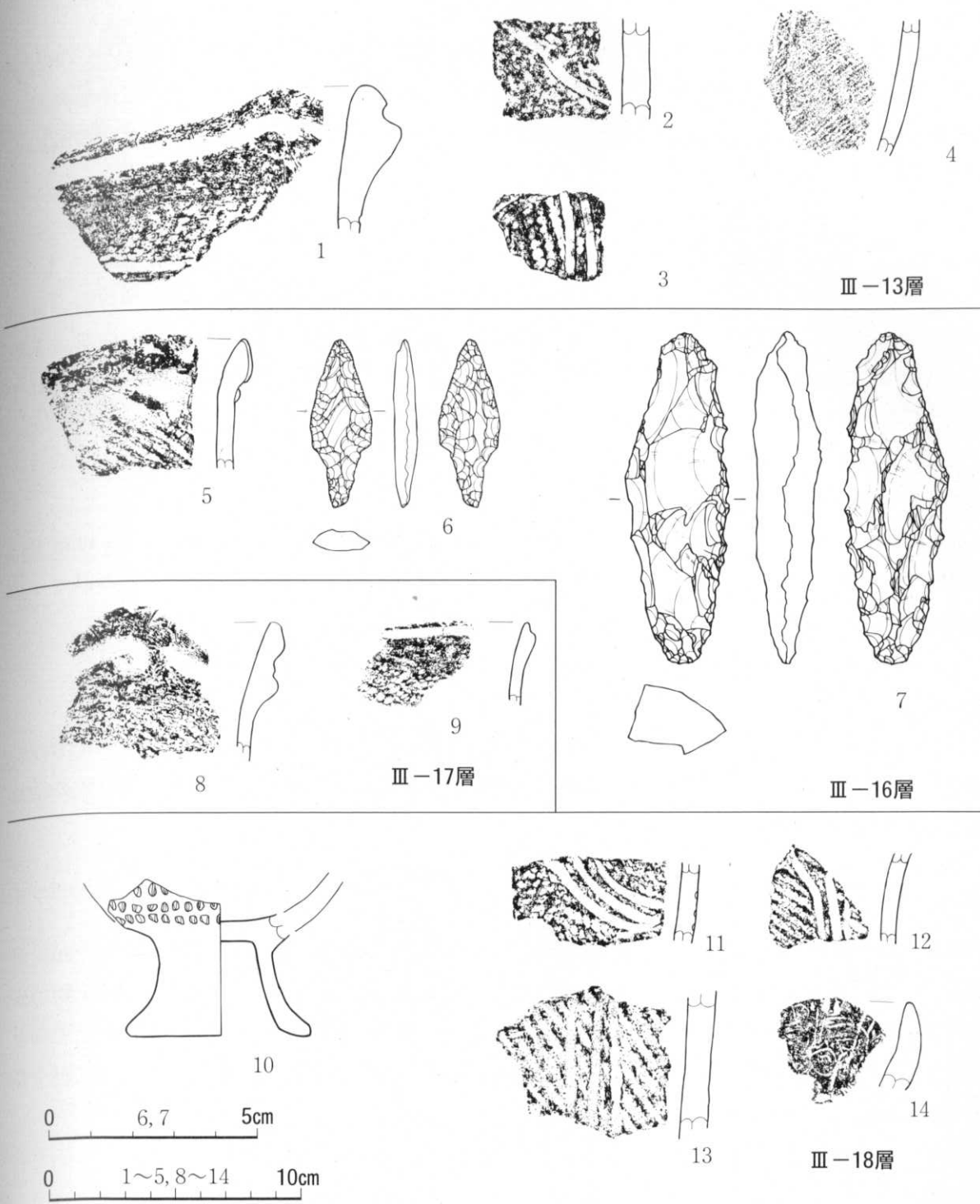
VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ロームが多量、炭化物が微量含まれる。上下の第12・17層より色調が暗く、炭化物量が多い。出土遺物はない。

第16層

VIK・L-119・120に幅約0.75m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器はごくわずかに出土した。石器は有茎石鏃が1点、スクレイパーが1点出土した。

第17層

VIL-119・120に幅約1.75m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土でローム土を主体とし、白色浮石が少量、炭化物が微量に含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。



38図 1 トレンチⅢ-13・16・17・18層出土遺物

第18層

VIL-119・120に幅約1.0m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物が中量、焼土粒が極微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が主体である。曲線状の沈線を施文したものが多い。38-10は台付鉢形土器であるが、型式学的には榎林式のものとは思われない。

第19層

VIK・L-119・120に幅約1.9m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層西側は3cm程度と薄い。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物粒や塊が少量、ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器片が少量出土した。石器は剥片、石皿?、磨痕のある礫がそれぞれ1点出土した。チップも少量出土した。

第20層

VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚6cmで分布する。第22層の窪み状の部分に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物が多量に含まれる。遺物は、土器は中期後半のものがごく少量出土した。

第21層

VIL-119・120に幅約0.8m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は褐色(10YR4/6)土でローム土を主体とする。暗褐色土が多量、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は榎林式の細片がごく少量出土したに過ぎない。

第22層

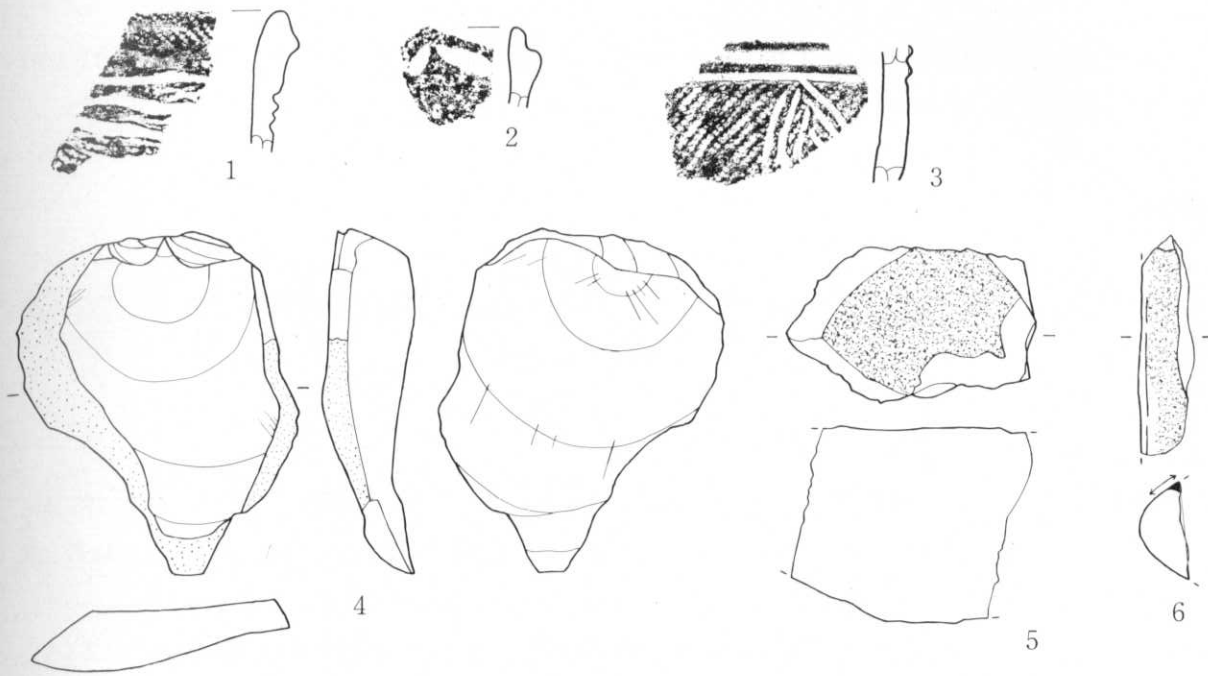
VIK・L-119・120に幅約3.5m、最大厚9cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層上面はやや起伏がある。堆積土は褐色(10YR4/4)土のローム主体で、特に東側では純層を成す。暗褐色土・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。39-10は本層出土土器と第20層出土土器とが接合した資料で、地文のみの土器である。石器は有茎鏃(14)、石鏃の未製品(15)、チップが中量出土した。

第23層

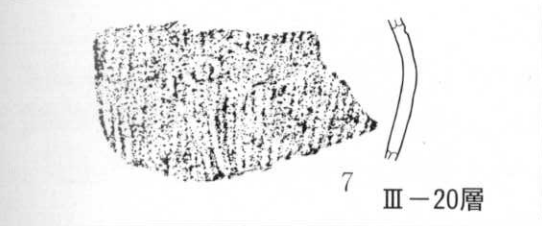
VIK-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土で、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第23'層

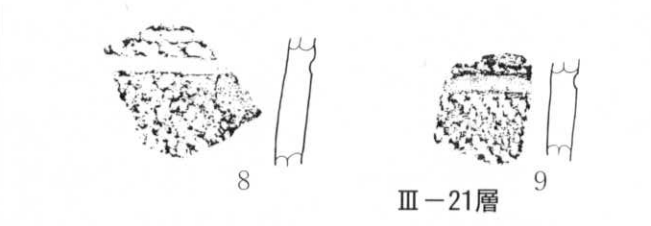
VIK-119・120に幅約1.15m、最大厚4cmで狭い範囲に分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土主体で、焼土・黄褐色ロームブロックが多量に含まれる。遺物は出土しなかった。



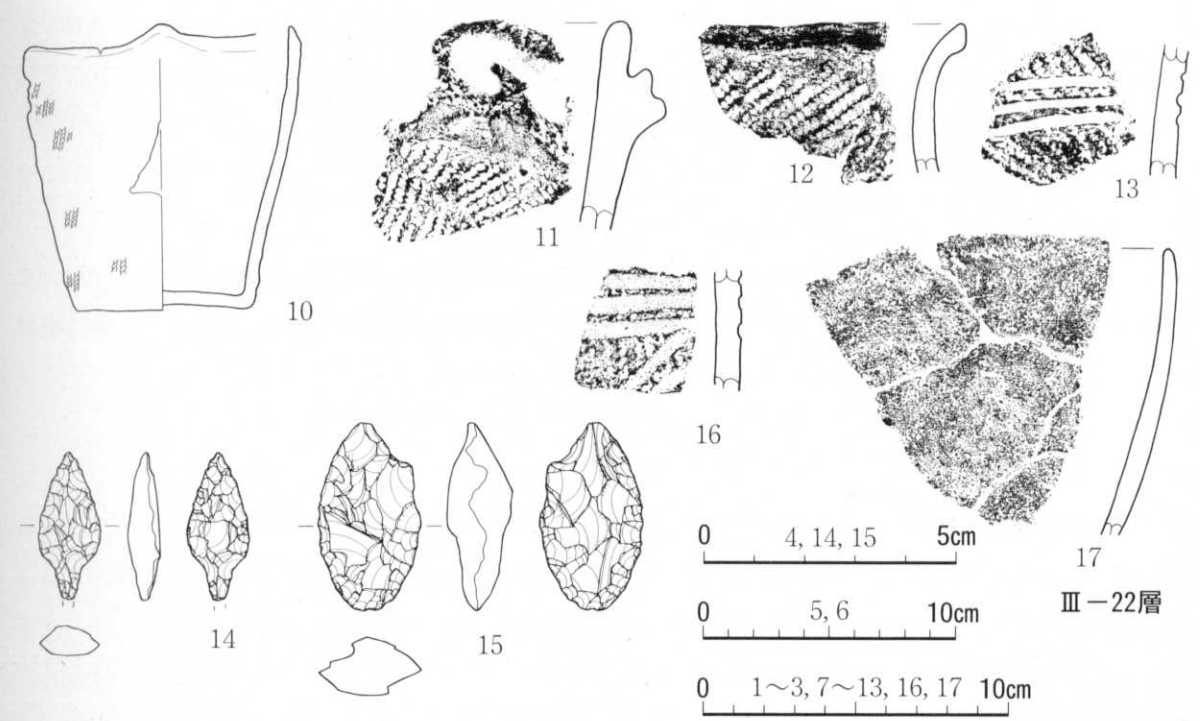
III-19層



III-20層



III-21層



III-22層

39図 1 トレンチⅢ-19・20・21・22層出土遺物

第24層

VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黄褐色(10YR4/6)土のローム主体で、炭化物や焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第25層

VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は褐色(10YR4/4)土のローム主体層で、暗褐色土が中量、炭化物が微量含まれる。遺物は、中期後半の土器片がごく少量出土した。

第26層

VIL・M-119・120に幅約2.7m、最大厚12cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、層厚は部分によって異なる。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物が中量、ローム粒が少量含まれる。第13層に比べ、炭化物・ローム粒・塊とも多い。遺物は、土器は榎林式土器片が少量出土した。石器は、先端部が尖頭状で、急角度の40-8は石錐の可能性はある。ほかに、磨痕のある礫が出土している。

第27層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土のローム土を主体とし、白色浮石が多量、炭化物が少量含まれる。上層の第22層よりロームの割合が多く、混入物の割合は少ない。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量出土した。

第28層

VIM-119・120に幅約0.9m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒が少量、焼土粒・炭化物が微量含まれる。上層の第26層より色調が暗く、炭化物の混入割合が少ない。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量出土した。

第29層

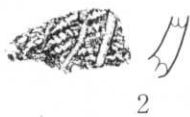
VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚も薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が極微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量出土した。

第30層

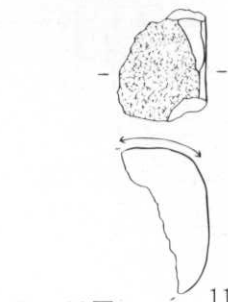
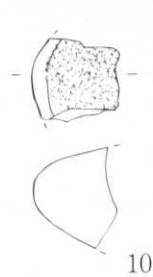
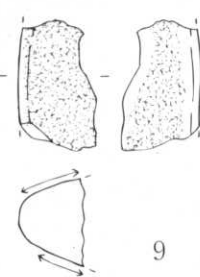
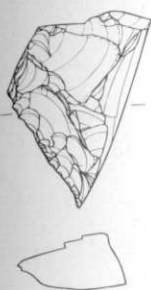
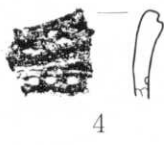
VIM-119・120に幅約0.75m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。上下層の第28・31層より色調がやや明るい。遺物は、土器は中期中～後半の破片がごく少量出土した。

第31層

VIK~M-119・120に幅約6.7m、最大厚12cmで広く分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層厚は部



III-25層



III-26層



12



13

III-27層

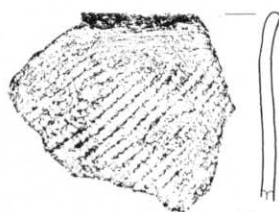


14

III-28層



15

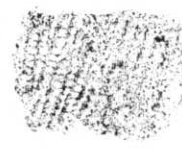


16

III-29層



17



18

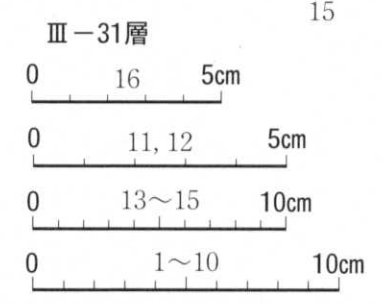
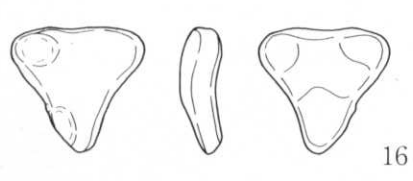
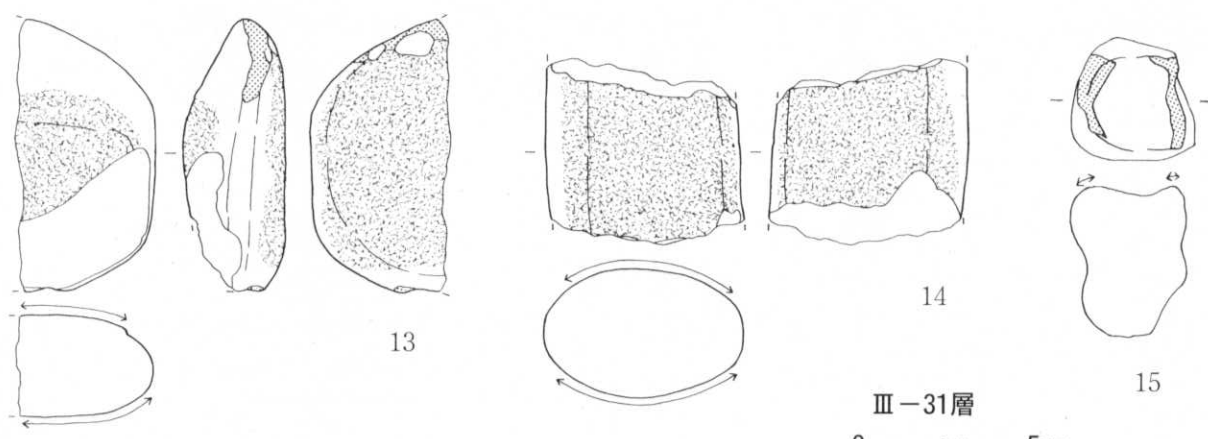
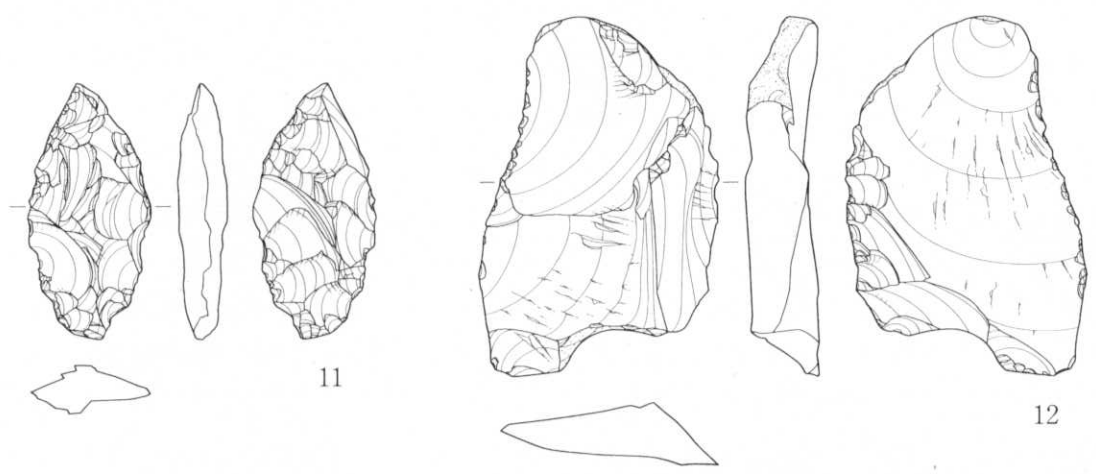
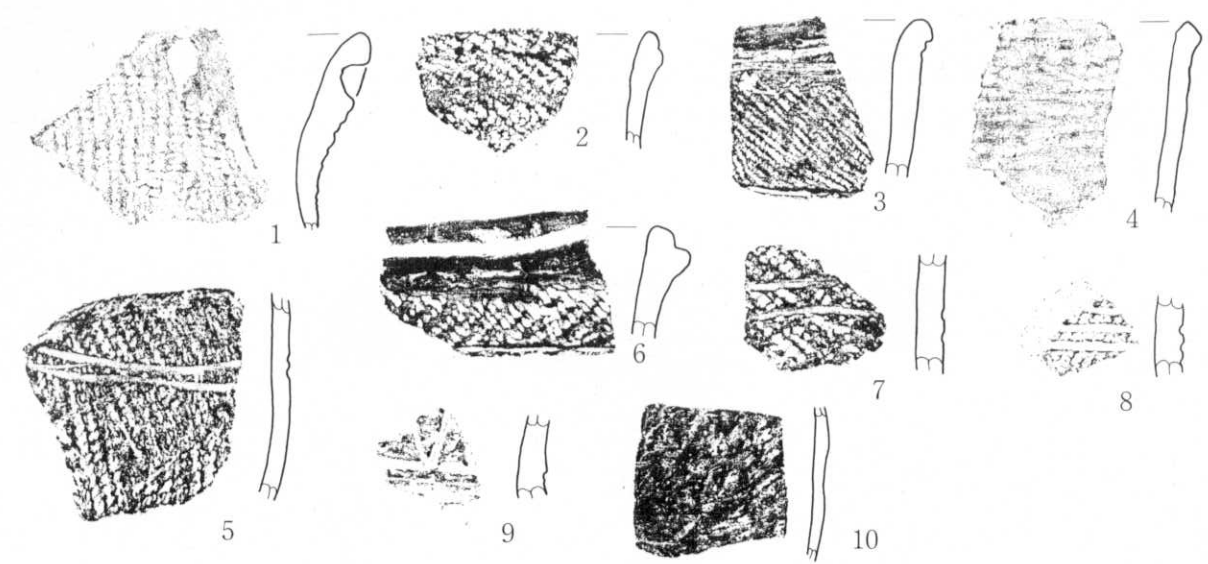
III-30層

0 8 5cm

0 9, 10, 11 10cm

0 1~7, 12~18 10cm

40図 1 トレンチ III-25・26・27・28・29・30層出土遺物



41図 1 トレンチIII-31層出土遺物

分によって異なる。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ローム粒・塊が少量、炭化物が中量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器の破片が出土した。浅い沈線が施文されたものが多い。石器は石槍や、両面を加工した41-11は石鏃の未製品の可能性がある。ほかに使用痕のある剥片(41-12)、磨痕のある礫(41-13・14)、敲打痕のある礫(41-15)、チップが少量出土した。土製品では三角型土製品が1点出土した。やや湾曲しており、表裏とも無文である。

第32層

VIK-119・120に幅約0.85m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土の混入物を含まないローム主体である。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。石器は、茎部にアスファルトが付着する有茎石鏃(42-4)とUフレイクがそれぞれ1点出土した。

第33層

VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黄褐色(10YR5/6)土のローム主体層で、炭化物・黒褐色土が少量含まれる。遺物は、榎林式土器片がごく少量出土しただけである。

第34層

VIL-119・120に幅約1.5m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も一定である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物が少量、ローム粒が微量含まれる。上層の第31層より明るく、第39層よりもくすんだ色調である。遺物は、土器は円筒上層d式～榎林式土器片が少量出土した。ほかに環状石製品が出土した。垂飾品と思われる。

第35層

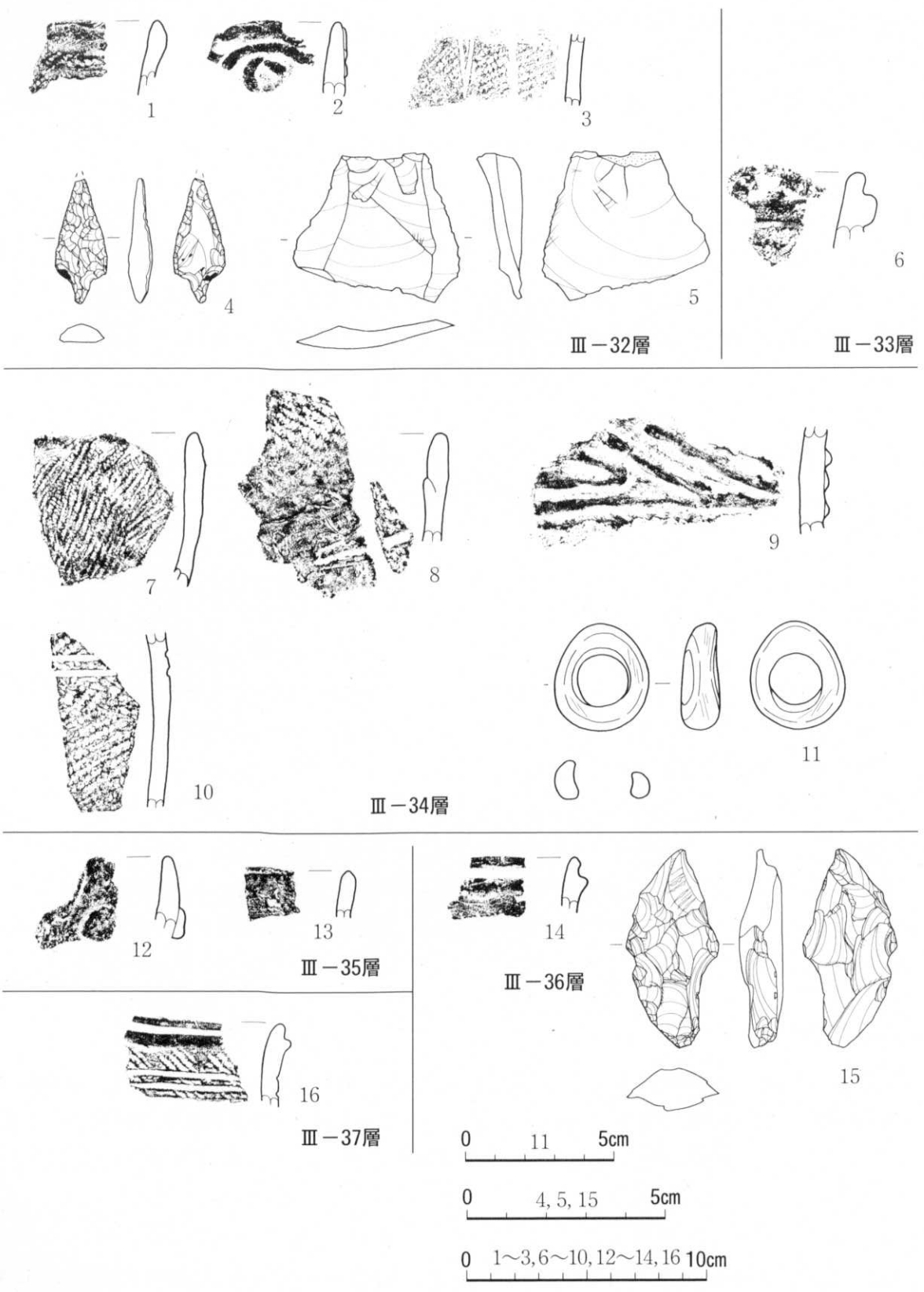
VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も一定する。堆積土は黒色(10YR2/1)土主体で、炭化物が多量に含まれる。遺物は、土器の小片がごく少量出土したに過ぎない。

第36層

VIK・L-119・120に幅約0.7m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も一定する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、焼土が塊状に中量、ローム粒が少量含まれる。遺物は、榎林式土器の小片がごく少量出土した。石器は、42-15は両面加工され、石鏃の未製品の可能性がある。

第37層

VIK・L-119・120に幅約1.0m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土が主体としたロームと黒褐色土の混合土層である。炭化物が微量含まれる。第46層より明るい色調である。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量、石器チップが少量出土した。



42図 1 トレンチⅢ-32・33・34・35・36・37層出土遺物

第38層

VIL-119・120に幅約1.0m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、炭化物がごく微量含まれる。上下層である第31・39層よりも色調が明るく、第39層に比べ炭化物の混入割合が少ない。遺物は、土器は中期後半の土器片がごく少量出土した。43-2は鍔付土器の破片である。石器は、横形の石匙(43-3)、Uフレイク(43-4)がそれぞれ1点出土した。

第39層

VIK・L-119・120に幅約4.2m、最大厚17cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、層上面はやや起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、炭化物・ローム塊が少量含まれる。遺物は、土器は中期中葉から後葉の土器片が出土した。44-3は本層出土土器と、第34層出土土器が接合したものである。石器は、有茎鏃(44-13)、削器あるいは搔器と考えられるもの、チップが少量出土した。44-16は焼成粘土塊である。

第40層

VIM-119・120に幅約0.4m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第41層

VIM-119・120に幅約0.6m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)の砂質ローム主体とする。

第42層

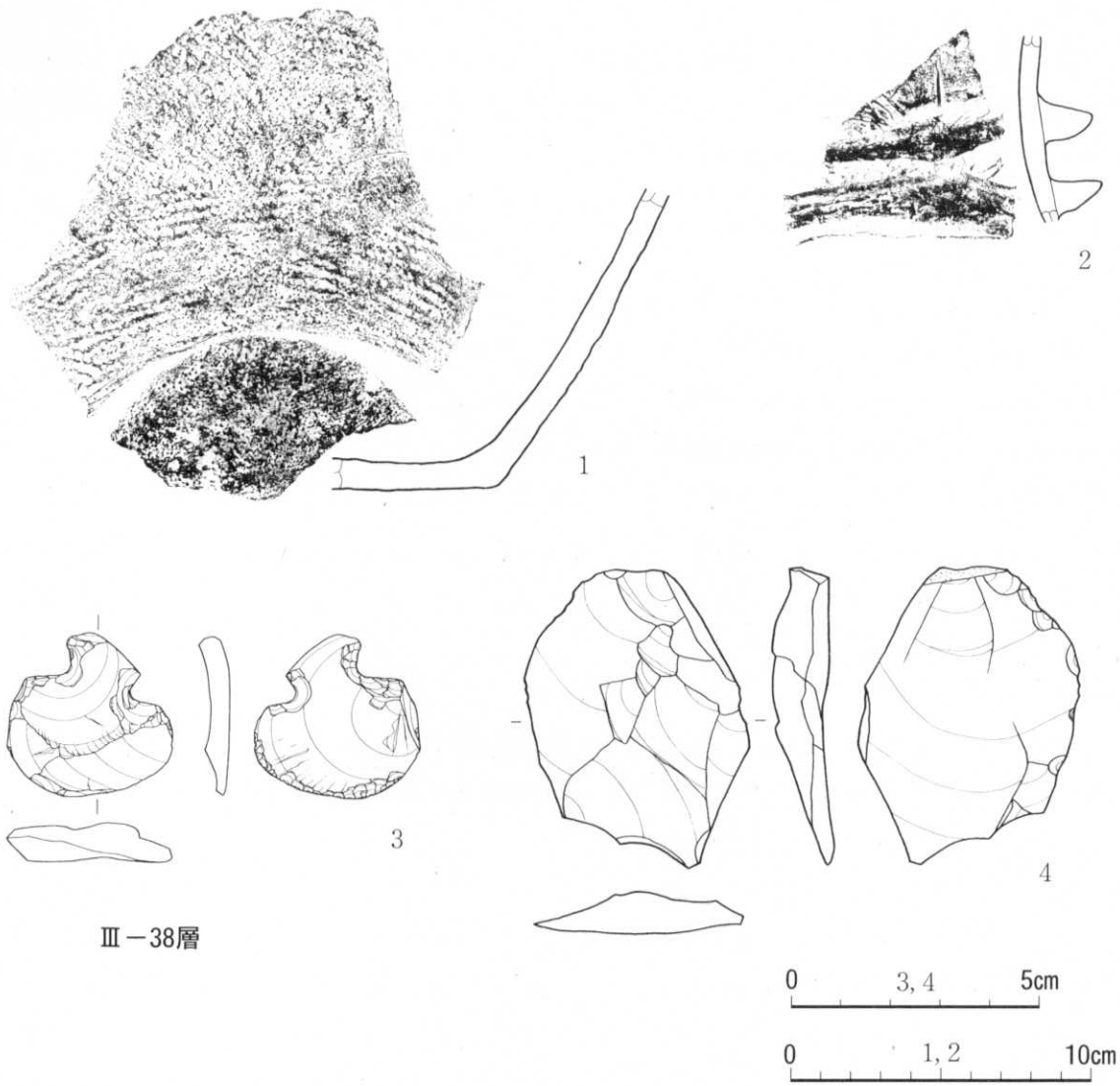
VIL-119・120に幅約0.65m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。層上面はやや起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、砂質ローム塊が混入し、特に下部で密である。他に炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第43層

VIL-119・120に幅約0.55m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、浮石粒が中量含まれる。遺物は出土しなかった。

第44層

VIL-119・120に幅約1.1m、最大厚6cmで分布する。層厚は均一でほぼ水平に堆積するが、東側から西側にやや低い堆積状況である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)土のロームが主体で、暗褐色土が少量、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。



Ⅲ-38層

43図 1 トレンチⅢ-38層出土遺物

第45層

VIK-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。層厚は均一でほぼ水平に堆積するが、東側から西側へ若干傾斜する。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、炭化物・白色浮石が微量含まれる。遺物は、円筒上層d式土器の小片がごく少量出土した。

第46層

VIK-119・120に幅約1.0m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、炭化物が中量、焼土粒が微量含まれる。上下層の第37・49層に比べ色調が暗い。遺物は、榎林式土器の小片がごく少量出土した。

第47層

VIK・L-119・120に幅約1.7m、最大厚5cmで分布する。層厚が均一でほぼ水平の堆積であるが、東側から西側へ若干傾斜する。堆積土は炭化物が主体で黒色(10YR1.7/1)を呈し、ローム粒や焼土粒が微量混入する。遺物は、土器は中期中葉から後葉の土器小片がごく少量出土した。石器は有茎鏃が2点出土した。

第48層

VIK-119・120に幅約0.25m、最大厚5cmで分布する。第49層の間隙に入り込んだような堆積状況である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム主体層で炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第49層

VIK-119・120に幅約1.2m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、部分的に第52・54層の間隙に入り込んだような堆積状況を示す部分もある。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物が筋状に微量含まれる。遺物は、中期中葉から後葉の土器小片がごく少量出土した。

第50層

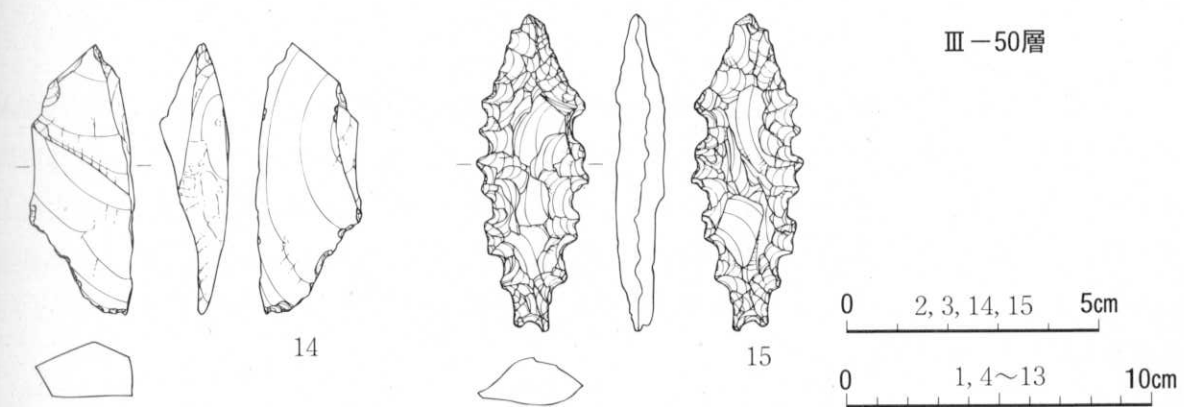
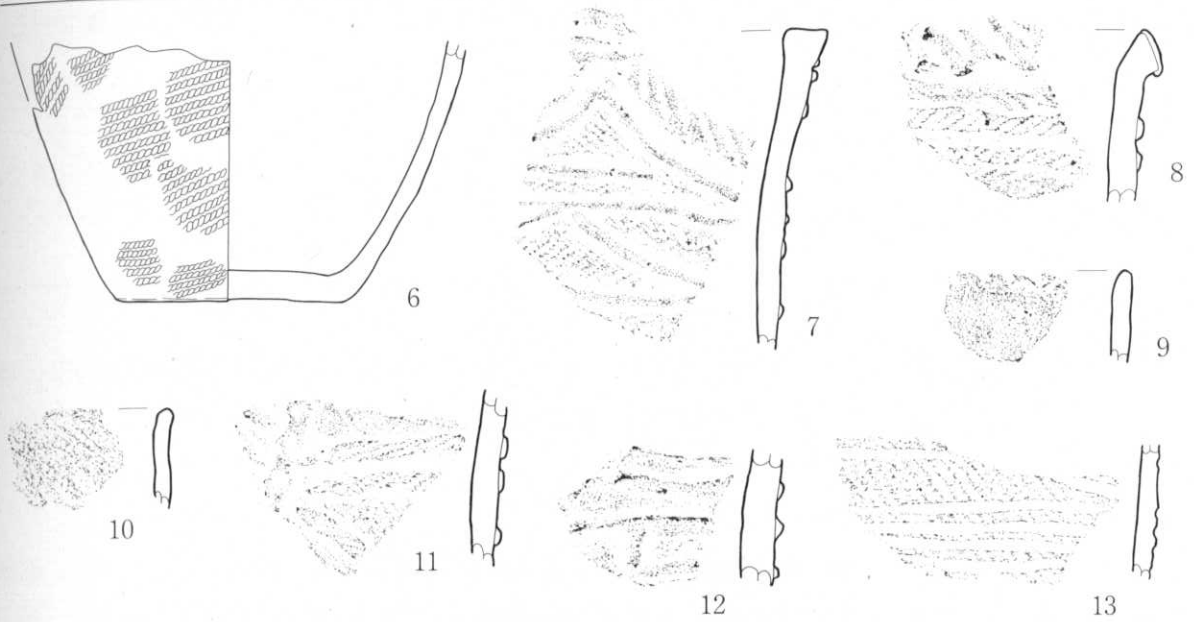
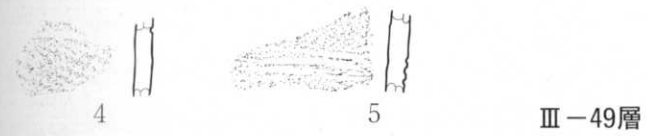
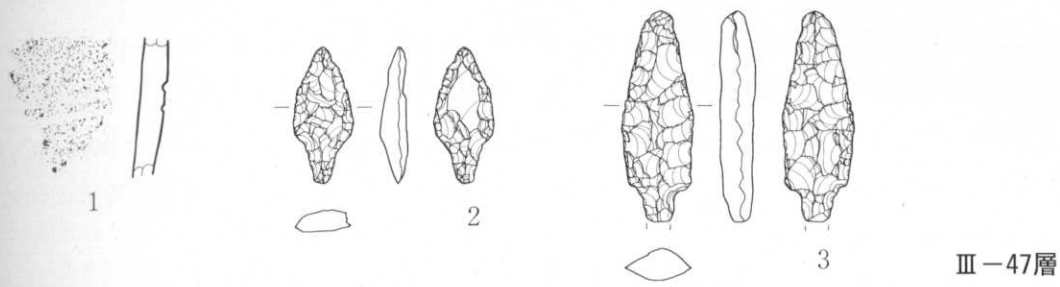
VIL・M-119・120に幅約2.7m、最大厚16cmで分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層上面はやや起伏があり、層厚も一定しない。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物・ローム粒が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式が主体で、e式土器も若干混じる。石器は被熱痕と使用痕のある剥片(45-14)、異形石器が各1点、チップが少量に出土した。

第51層

VIL-119・120に幅約1.35m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面は起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/3)主体で、ローム粒が少量混入する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が少量出土した。石器は剥片が出土した。



44図 1 トレンチ III-39・45・46層出土遺物



45図 1 トレンチⅢ-47・49・50層出土遺物

第52層

VIK・L-119・120に幅約2.65m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層中央が第53・55・56層の間に落ち込んだように堆積する。その部分の層厚は厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・ローム粒が微量混入する。遺物は、土器は沈線文が施文されたものが出土している。46-7・11には曲線状のモチーフが、46-10はカギ状のモチーフが見られる。石器は磨痕のある礫が1点、チップが少量出土した。

第53層

VIK-119・120に幅約1.3m、最大厚5cmで分布する。層厚は均一で、ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)のローム土が主体で、黒褐色土少量、焼土粒・炭化物が微量含まれる。出土遺物は、口縁部に多条の横位沈線が施文された土器片が出土した。遺物の出土量はごく少量である。

第54層

VIK-119・120に幅約0.35m、最大厚3cmで分布する。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物が主体で、非常に狭い範囲の広がりである。遺物は出土しなかった。

第55層

VIK・L-119・120に幅約1.2m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央部が厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第56層

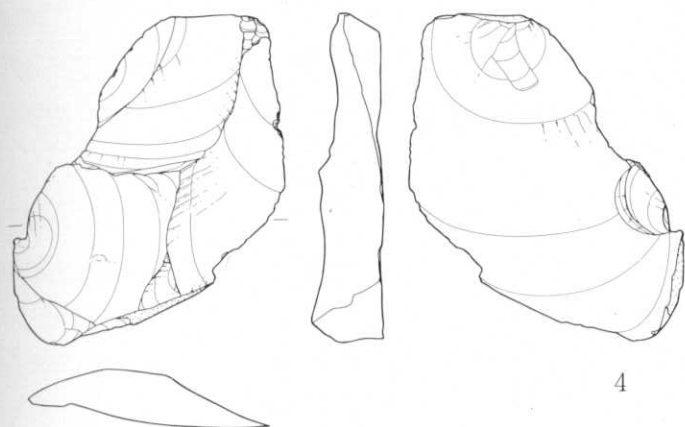
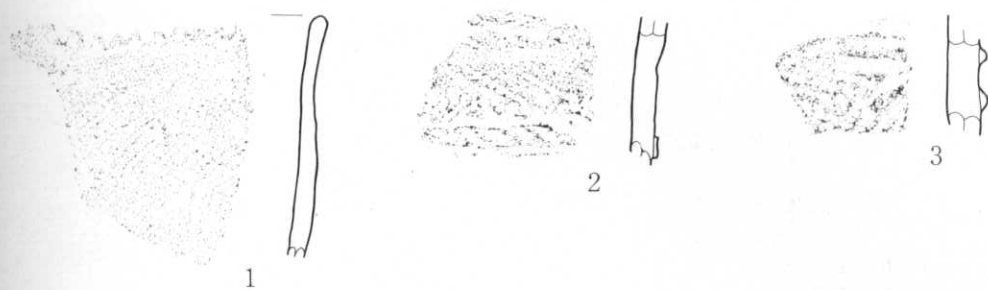
VIL-119・120に幅約0.3m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央が最も厚い。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)土が主体で、暗褐色土との混合土である。遺物は出土しなかった。

第57層

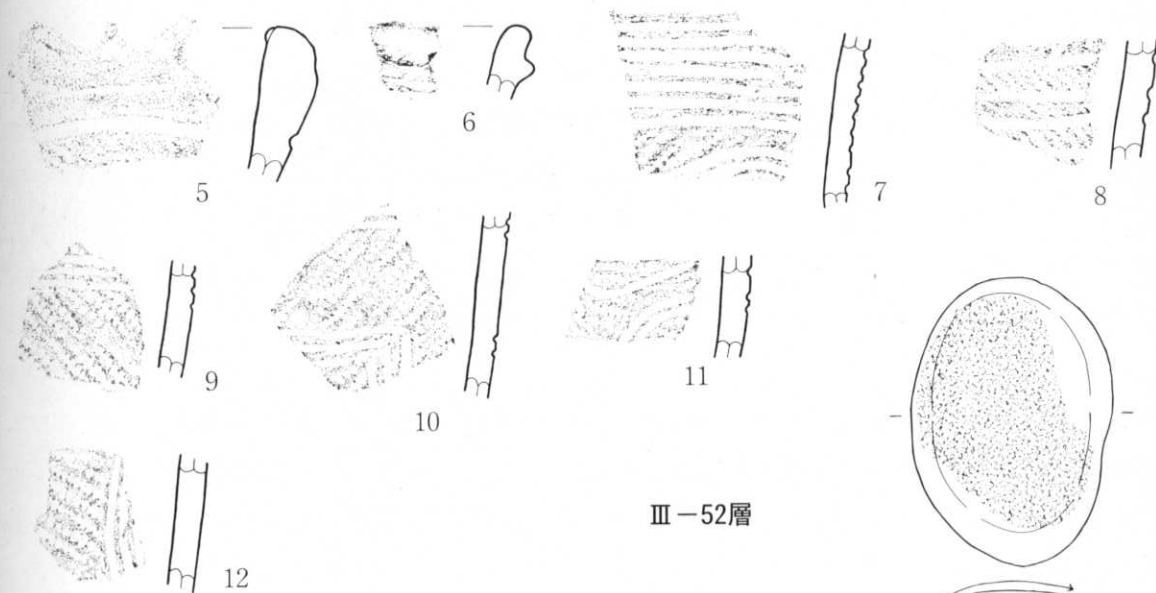
VIK・L-119・120に幅約3.3m、最大厚11cmで分布する。堆積に若干の起伏はあるものの、ほぼ水平の堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土が主体で、炭化物が中量混入する。遺物は、土器は円筒上層e土器片が出土した。47-1は上半部を復元しえたもので、横位沈線が多段に施文された円筒上層e式土器である。他の土器片にも沈線が施文されたものが多い。石器は有茎鏃(47-5)、被熱痕のある剥片(47-6)が出土しており、両面加工石器(47-7)は、石鏃の未製品の可能性がある。他に石錐1点(47-8)が出土した。

第58層

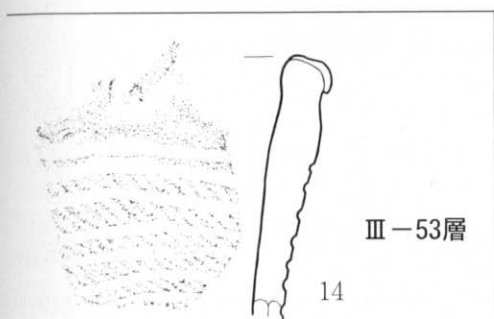
VIL-119・120に幅約0.5m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム主体層で暗褐色土が少量含まれる。上層の第57層より明るい色調である。遺物は横位沈線が施文された土器小片が出土した。



Ⅲ-51層



Ⅲ-52層



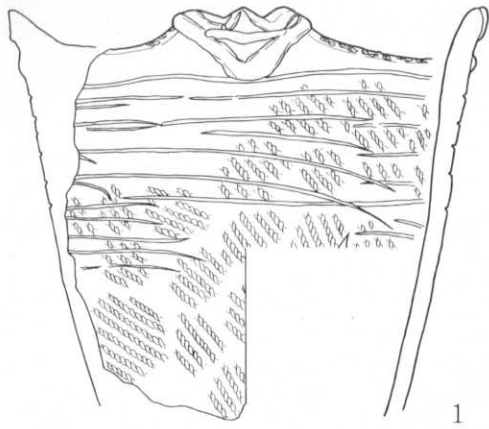
Ⅲ-53層

0 4 5cm

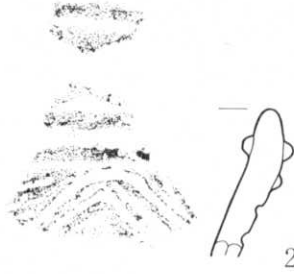
0 13 10cm

0 1~3, 5~12, 14 10cm

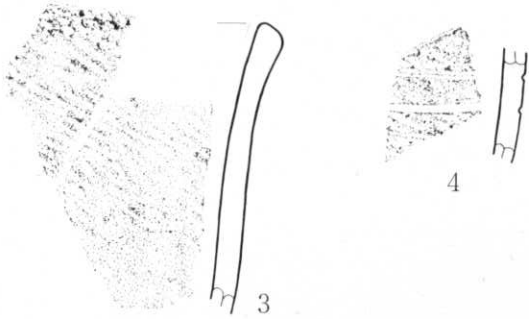
46図 1 トレンチⅢ-51・52・53層出土遺物



1



2



3



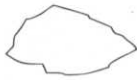
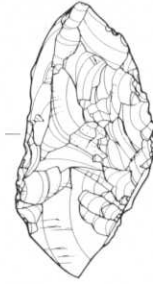
4



5



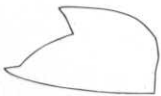
6



7



8



III-57層

0 5~8 5cm

0 1~4 10cm

47図 1トレンチIII-57層出土遺物

第59層

VIK・L-119・120に幅約1.7m、最大厚18cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、東側で層厚を増し、他の層に比べても厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が微量含まれる。遺物は、円筒上層d土器片が少量出土した。48-2は口縁部で、口唇部に刻みが巡る。石器チップが少量出土した。

第60層

VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は砂質のにぶい黄褐色(10YR6/3)土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第61層

VIK・L-119・120に幅約1.4m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面は起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/3)主体で、ローム粒・塊が少量、炭化物が微量混入する。遺物は、土器は沈線が施文された小片が少量に出土した。

第62層

VIK・L-119・120に幅約0.95m、最大厚4cmで分布する。東側に若干傾斜して堆積するが、層厚が均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)土が主体で、焼土が中量、白色砂・炭化物が少量混入する。遺物は、土器は復元しえたものが1点と中期中葉の土器片がごく少量、石器は石鏃が2点出土した。48-9は口縁部から胴上半部まで約1/4が復元でき、地文のみが施文されたもので、第57層出土土器と接合したものである。石器は、有茎鏃(48-14・15)が2点出土した。48-15の茎部にはアスファルトが付着している。また、チップが少量出土した。

第62'層

VIL-119に幅約0.95m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面は起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、黄褐色ロームブロック・白色粘土が多量に混入する。当初第62層と同一層としてとらえていたが、第62層よりも色調が暗いために分層した。遺物は出土しなかった。

第63層

VIK-119・120に幅約0.85m、最大厚8cmで分布する。層厚は均一で、東側に向かって傾斜する。堆積土は黒色(10YR2/1)土が主体で、炭化物・白色浮石が微量含まれる。上層の第59層よりも色調が暗い。遺物は、横位沈線が施文された土器片が出土しただけである。

第64層

VIL-119・120に幅約0.70m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚もほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、炭化物少量含まれる。上下層の第51・65層よりも色調が暗い。遺物は出土しなかった。



48図 1 トレンチⅢ-58・59・61・62・63・66層出土遺物

第65層

VI L-119・120に幅約0.95m、最大厚6cmで狭い範囲に分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、焼土粒・炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第66層

VI K-119・120に幅約0.9m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、白色浮石が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は横位沈線が施文された小片がごく微量、石器は有茎鏃(48-18)、削器あるいは搔器(48-19)が出土した。

第67層

VI L-119・120に幅約0.55m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も一定である。堆積土はにぶい黄橙色(10YR6/4)のロームと白色砂の混合土である。砂質で粗い。焼土粒が微量混入する。遺物は、土器は円筒上層e土器片が出土した。49-1は復元し得たもので、口縁部から胴部上半に地文が施文される。突起部下のボタン状貼付は剥落している。この土器は、第50層から出土した土器と接合したものである。石器は、被熱痕のある有茎石鏃(49-6)、敲打による凹をもつ礫がそれぞれ1点出土した。

第67'層

VI L-119・120に幅約0.85m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も一定である。堆積土は褐色(7.5YR4/6)土で、焼土が多量に含まれる。当初第67層と同一層としていたが、焼土粒の多さにより分層した。遺物は、土器は円筒上層e土器小片がごく少量と敲磨器類が出土しただけである。

第68層

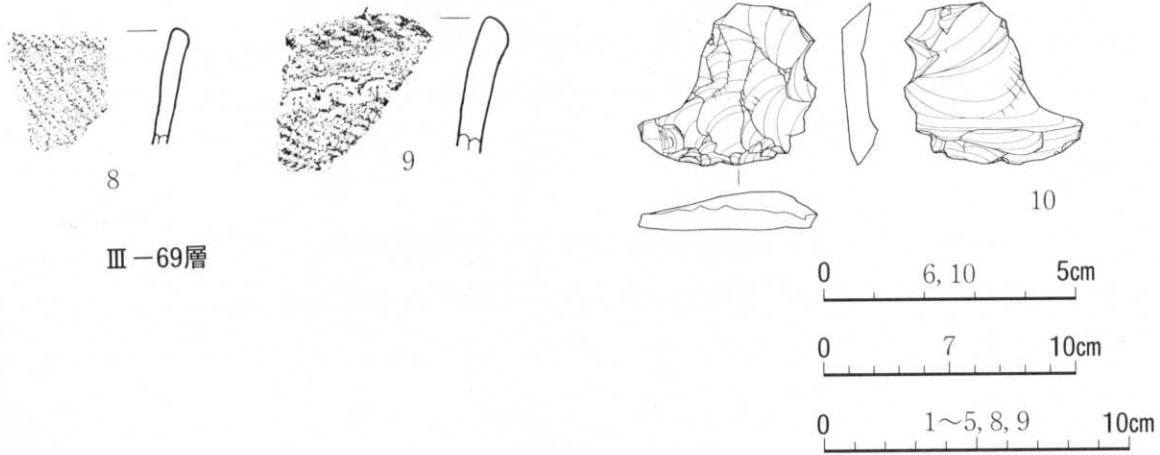
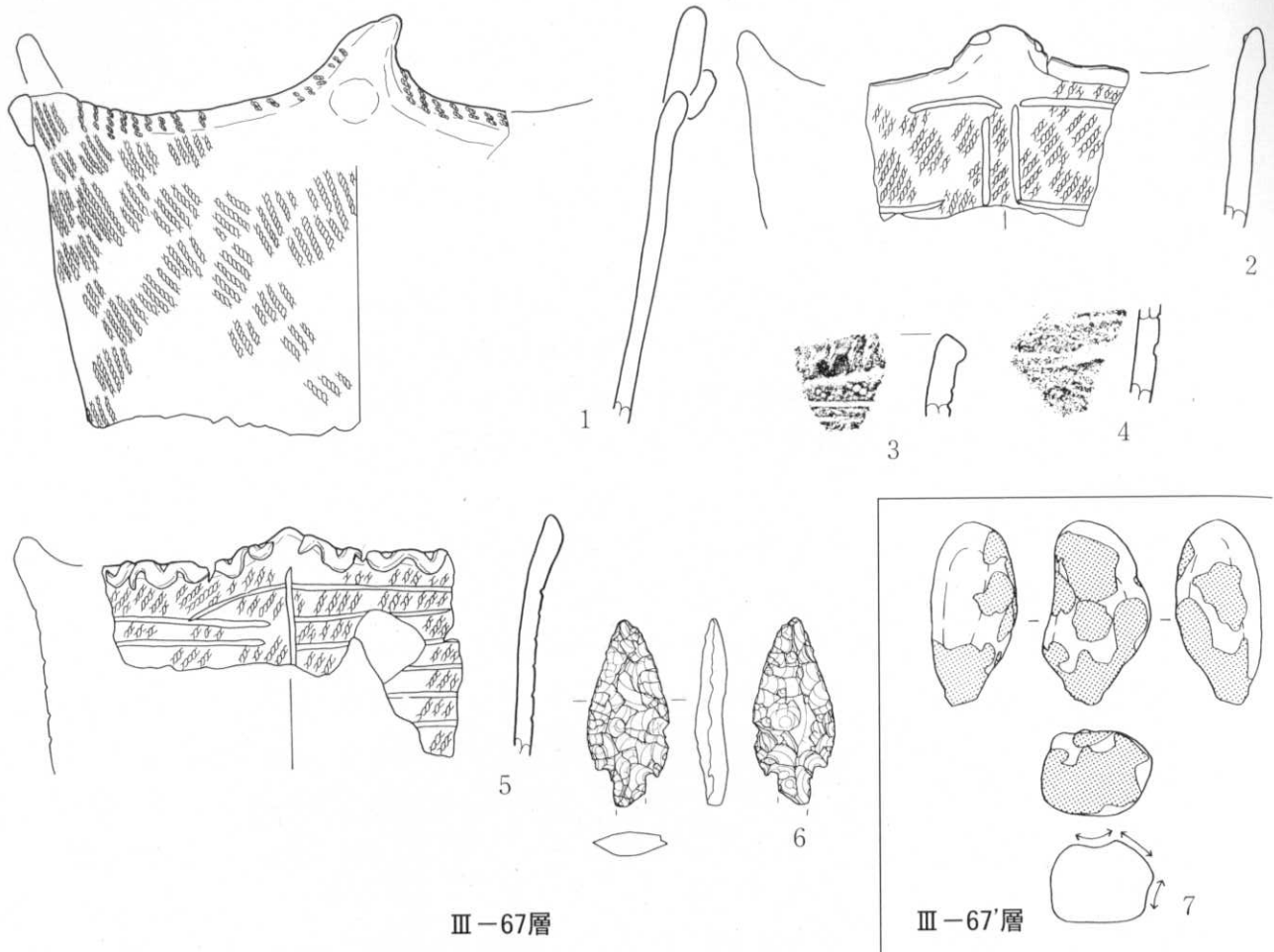
VI K・L-119・120に幅約1.2m、最大厚5cmで分布する。やや東側に傾斜するが、ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR5/4)土が主体で、ローム粒・炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第69層

VI L-119・120に幅約0.6m、最大厚2cmで分布する。ほぼ水平に、第70層の落ち込みに入り込んだように堆積する。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物層である。遺物は、土器は中期中葉の土器小片がごく少量、石器は剥片が出土した。

第70層

VI K・L-119・120に幅約2.1m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層中央がやや厚い。堆積土は砂質の暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム粒が微量、炭化物がごく微量含まれる。遺物



49図 1 トレンチⅢ-67・67'・69層出土遺物

は、土器は中期中葉の土器片が少量、石器は有茎鏃が1点、チップが中量出土した。

第71層

VIK・L-119・120に幅約1.8m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層東側は厚くなる。堆積土は黒褐色(10YR2/2)主体で、炭化物が微量混入する。遺物の出土量はわずかである。土器では円筒上層e式土器片がごく少量出土した。石器では石鏃が有茎鏃(50-6)、尖基鏃(50-7)が2点、チップが中量出土した。

第72層

VIK・L-119・120に幅約5.2m、最大厚10cmで分布する。最大厚の部分を除けば、全体に5cm以下と薄い。東側に向かって緩く傾斜して堆積するが、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土が主体で、炭化物が多量、ローム粒がごく極微量混入する。遺物は、土器は中期中葉の土器片が少量出土した。石器は削器ないし搔器(51-4~6)、被熱痕のある剥片(51-7)、使用痕のある剥片、石器断片、チップが多量に出土した。

第73層

VIL-119・120に幅約1.8m、最大厚6cmで分布する。層厚はほぼ均一で、水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、炭化物が少量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、中期中葉の土器小片がわずかに出土しただけである。

第74層

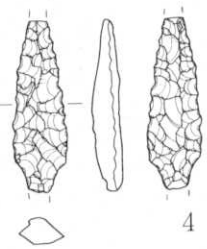
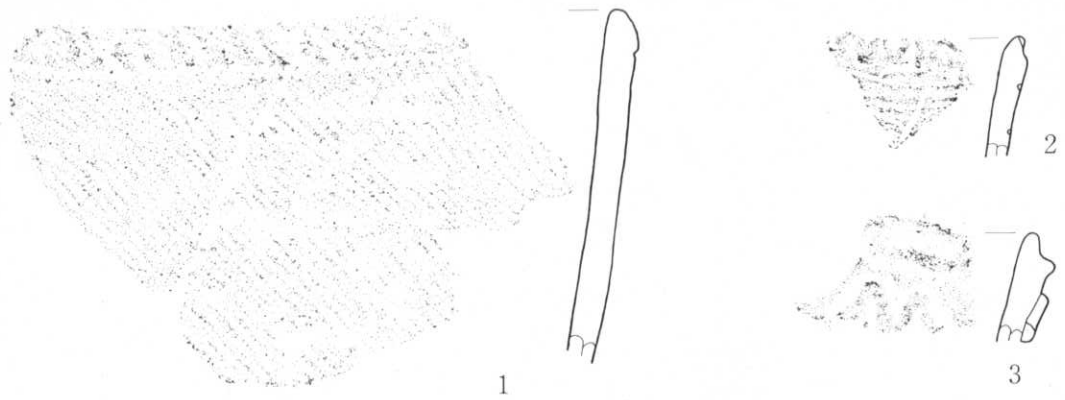
VIL-119・120に幅約1.8m、最大厚7cmで分布する。若干東側に傾斜するものの、ほぼ水平な堆積である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、炭化物・白色浮石が微量含まれる。西側の第76層よりも色調が暗い。遺物は出土しなかった。

第75層

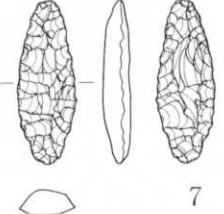
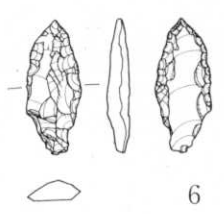
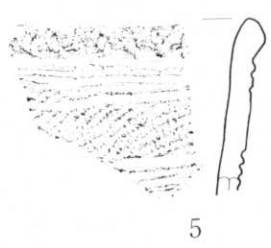
VIL-119・120に幅約0.75m、最大厚4cmで狭い範囲に分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、中期中葉の土器片がごく少量出土しただけである。

第76層

VIL-119・120に幅約1.8m、最大厚7cmで分布する。東側に向かって低く傾斜しながら堆積し、層厚は均一である。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土主体で、白色浮石が中量、炭化物が少量含まれる。下層の第83層より色調が明るく、炭化物の混入割合が少ない。遺物は、中期中葉の土器片がごく少量出土しただけである。



Ⅲ-70層

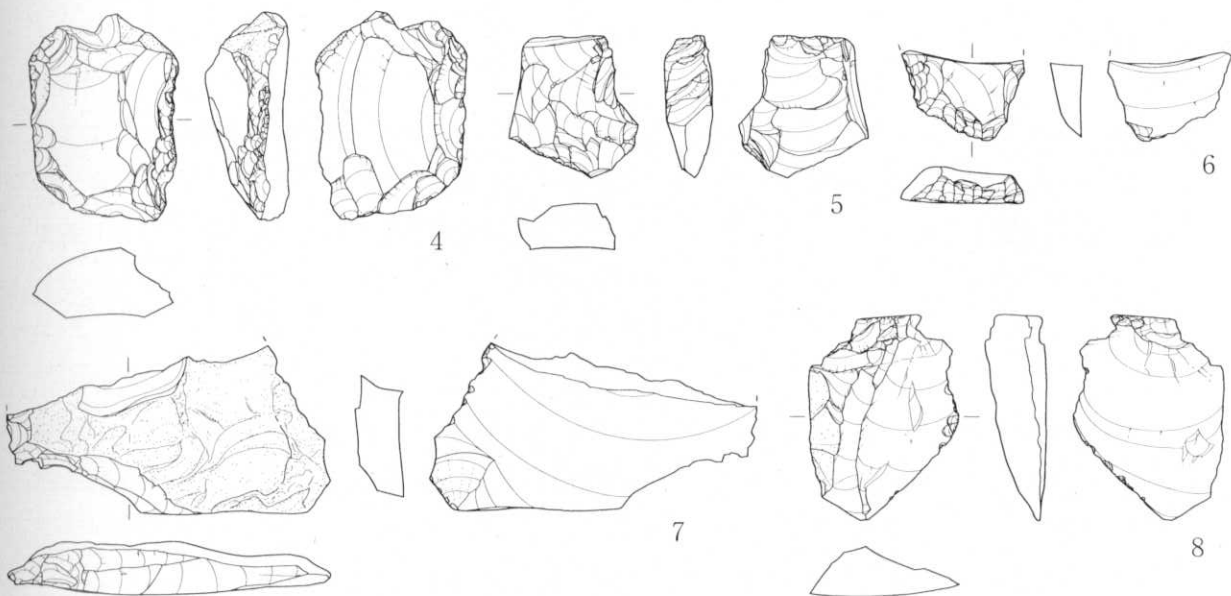
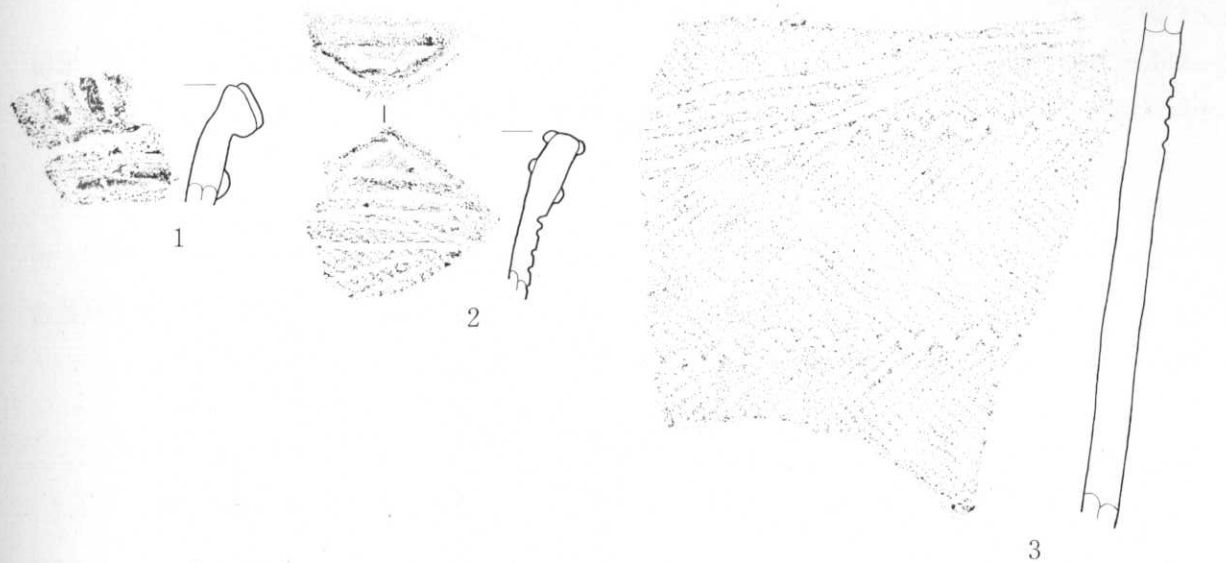


Ⅲ-71層

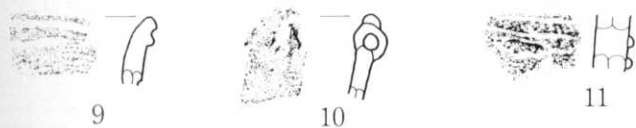
0 4, 6, 7 5cm

0 1~3, 5 10cm

50図 1 トレンチⅢ-70・71層出土遺物



III-72層



III-73層

0 4~8 5cm

0 1~3, 9~11 10cm

51図 1 トレンチIII-72・73層出土遺物

第77層

VIL-119・120に幅約0.5m、最大厚5cmでごく狭い範囲に分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム主体層である。遺物は出土しなかった。

第78層

VIL-119・120に幅約0.7m、最大厚3cmでごく狭い範囲に分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体で、ロームと黒褐色土との混合土である。炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第79層

VIK・L-119・120に幅約1.05m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、炭化物が中量、ローム粒が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第80層

VIK-119・120に幅約1.7m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、第84・87層の間隙に落ち込み層中央が厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物が少量、ローム粒が微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器片が少量出土した。52-5は胴下半部が復元しえたもので、無文である。石器は有茎鏃が1点出土した。

第81層

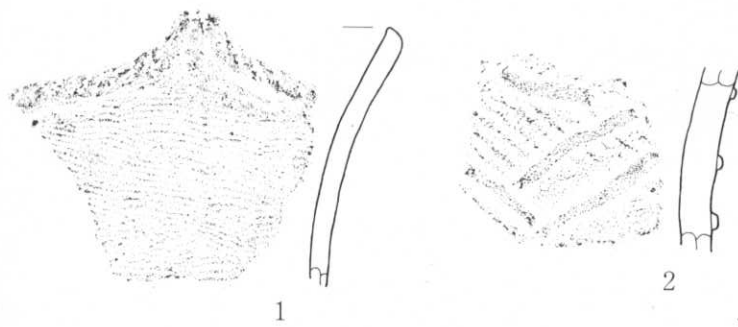
VIL・M-119・120に幅約1.2m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央が厚い。堆積土は黄褐色(10YR5/8)の砂質ローム主体層で、黒褐色土が少量、炭化物が中量混入する。炭化物は部分的に筋状に入る。遺物は出土しなかった。

第82層

VIL・M-119・120に幅約0.9m、最大厚5cmで分布する。第83層の落ち込みに堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)の砂質ロームが主体で、黒褐色土が少量混入する。上層の第81層よりも黒褐色土の混入割合が多い。遺物は出土しなかった。

第83層

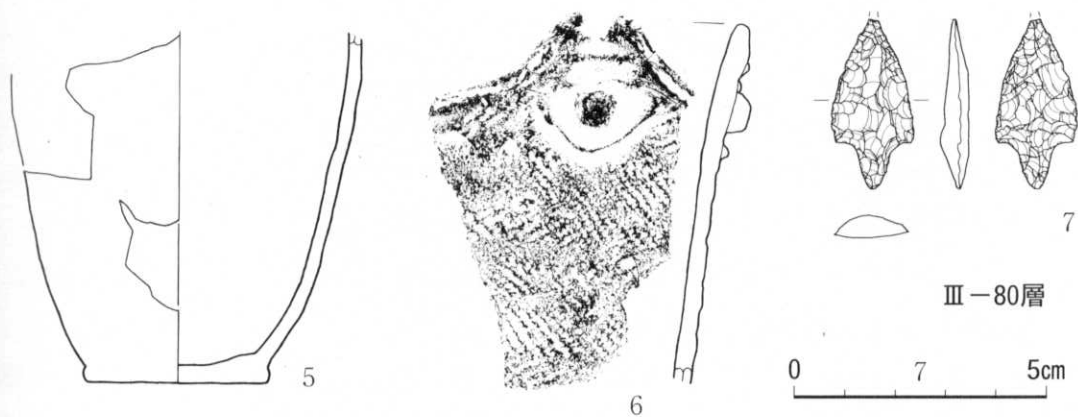
VIL・M-119・120に幅約4.4m、最大厚6cmで分布する。西側ではほぼ水平な堆積であるが、東側で落ち込む。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が少量出土した。石器は、削器ないし搔器(53-5・6)、二次加工剥片(53-7)、Uフレイク(53-8)、チップが少量出土した。



III-75層



III-76層

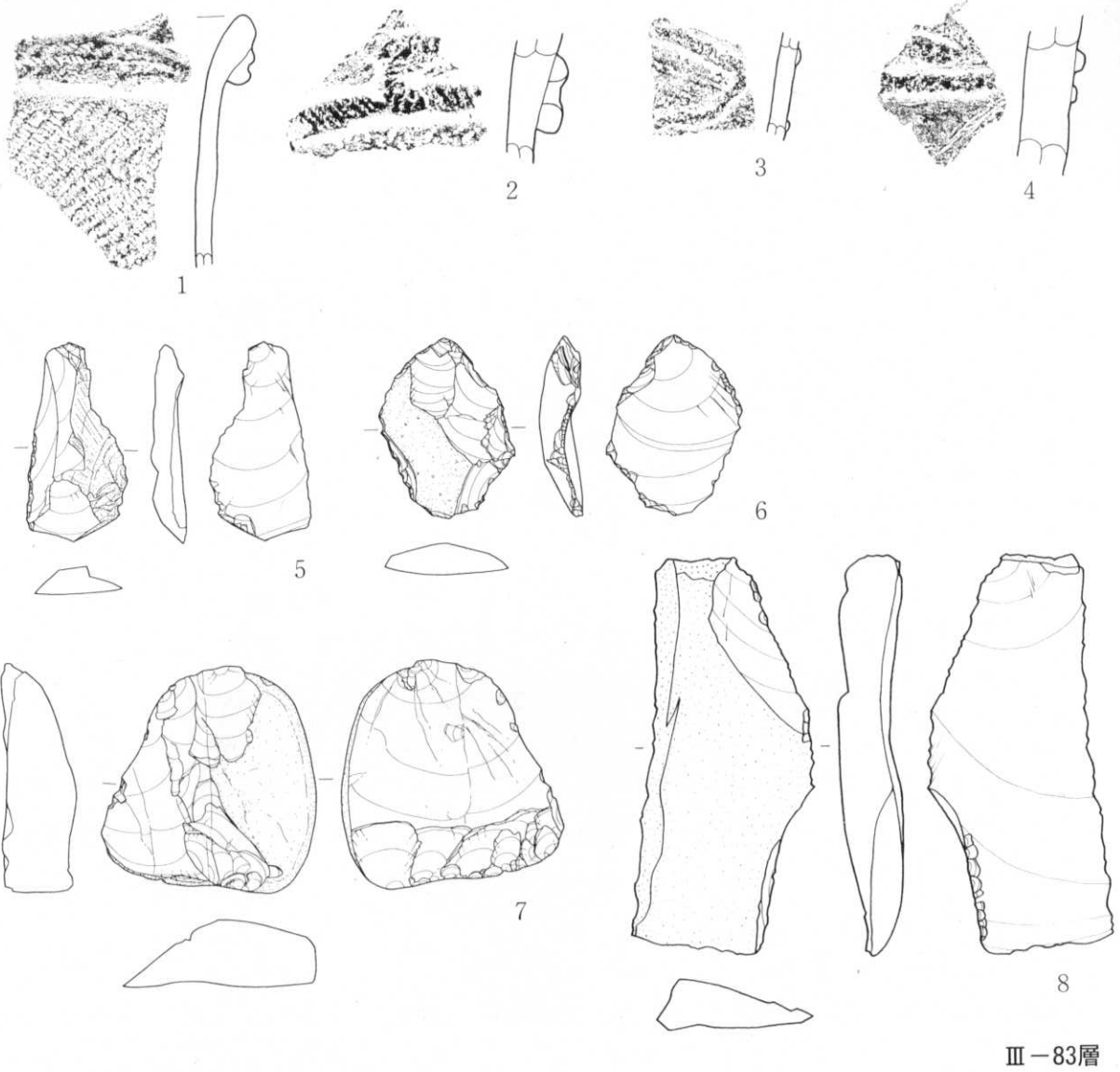


III-80層

0 7 5cm

0 1~6 10cm

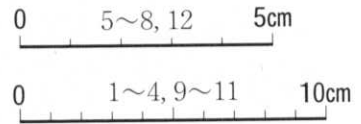
52図 1 トレンチ III-75・76・80層出土遺物



Ⅲ-83層



Ⅲ-84層



53図 1 トレンチⅢ-83・84層出土遺物

第84層

VIK・L-119・120に幅約2.4m、最大厚9cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、若干の凹凸はあるものの、層厚もほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、炭化物微量、焼土粒ごく微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器小片がごく少量、石器は有茎鏃の基部の破片が1点、チップが中量出土した。

第85層

VIL・M-119・120に幅約1.3m、最大厚13cmで分布する。ほぼ水平に堆積で、第86・101層の間隙に入り込んだ部分で厚くなる。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は石器チップが少量出土した。

第86層

VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚4cmで分布する。層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、炭化物・ローム粒が少量含まれる。東側の第85層より色調が明るく、混入物の割合が多い。遺物は出土しなかった。

第87層

VIK・L-119・120に幅約1.8m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土主体で、炭化物が少量混入する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が少量出土した。石器では、縦形石匙の末端部と推定される断片、チップが少量出土した。ほかに石製品が1点出土した。台または脚部の可能性があるものと思われる。

第88層

VIK・L-119・120に幅約2.4m、最大厚12cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層東側で厚さを増す。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土で、炭化物・白色浮石がごく微量含まれる。上層の第87層より色調が明るく、混入物の割合が少ない。遺物は、土器は円筒上層d式土器の小片が少量出土した。石器では、使用痕のある剥片(55-8)、末端部に整形加工が施された使用痕のある剥片(55-9)、石核(55-10)のほかにチップが少量出土した。

第89層

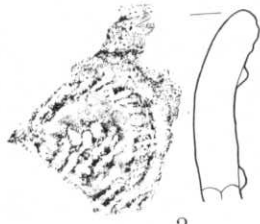
VIK-119・120に幅約0.3m、最大厚3cmでごく狭く分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土主体で、炭化物・焼土粒が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第90層

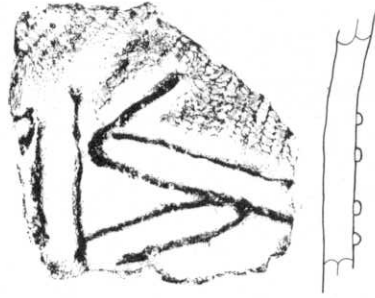
VIK-119・120に幅約1.1m、最大厚3cmで分布する。若干東側に低く傾斜するものの、ほぼ水平な堆積で、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器片がごく少量出土した。



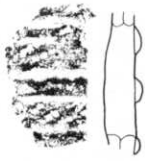
1



2



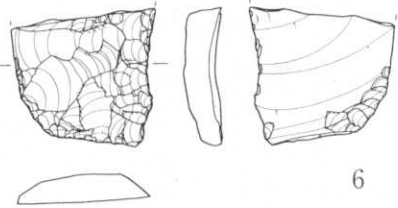
3



4



5



6



7

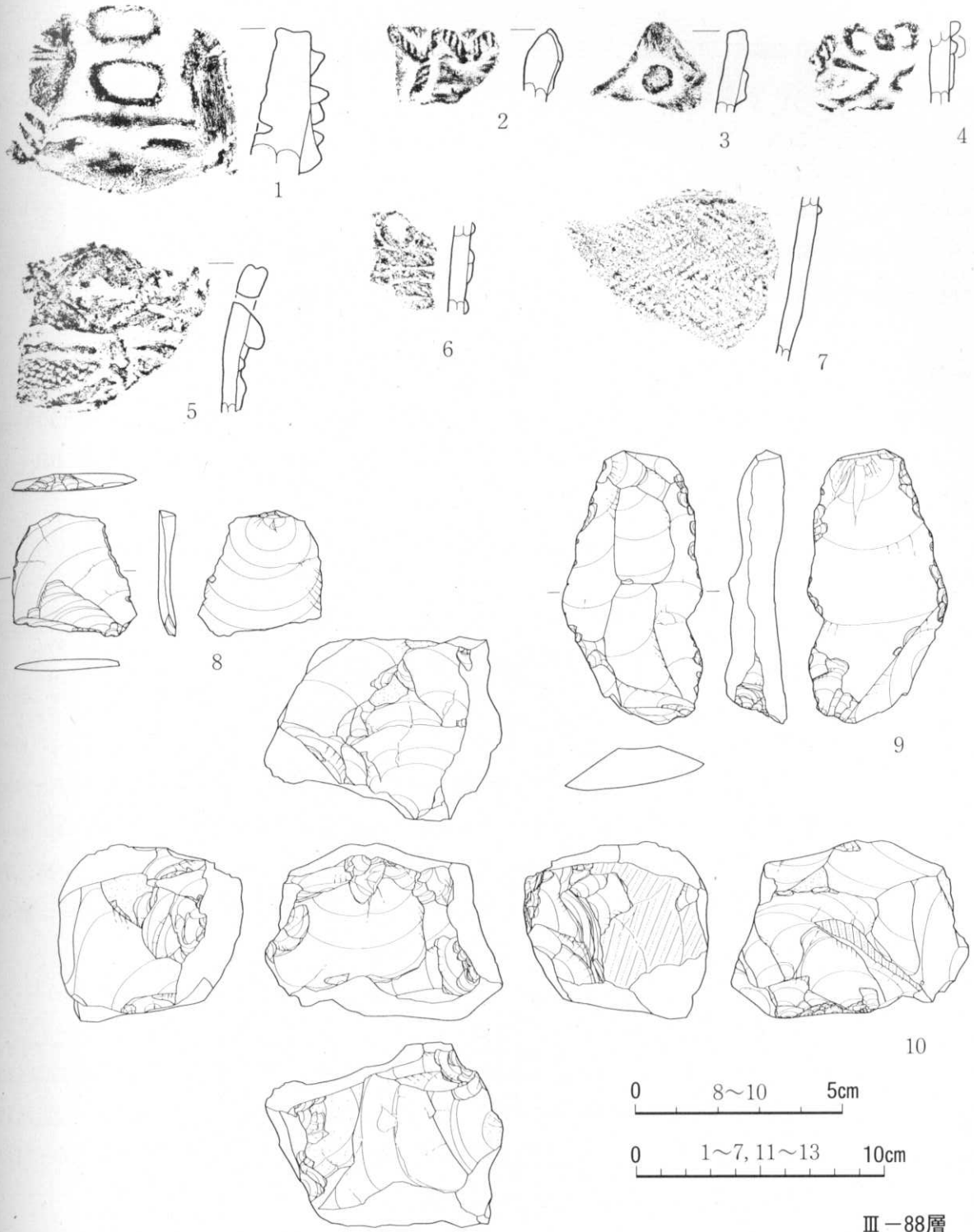
Ⅲ-87層

0 7 5cm

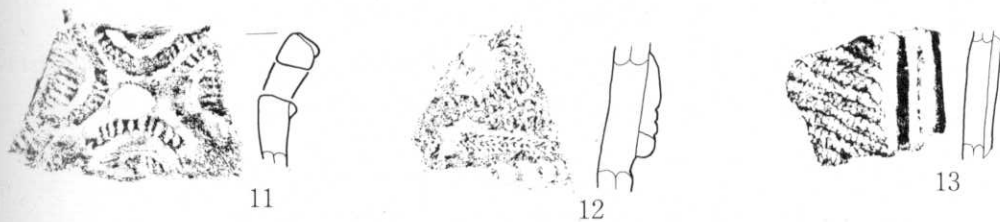
0 6 5cm

0 1~5 10cm

54図 1 トレンチⅢ-87層出土遺物



III-88層



III-90層

55図 1 トレンチⅢ-88・90層出土遺物

第91層

VIK-119・120に幅約1.0m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、ローム粒が多量、炭化物・焼土粒が少量混入する。遺物は出土しなかった。

第92層

VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚3cmでごく狭く分布する。第94・95層の落ち込みに堆積する。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体でロームが多量に含まれる。遺物は出土しなかった。

第93層

VIK-119・120に幅約0.5m、最大厚3cmで分布する。第95層の落ち込みに堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、ローム粒・塊・炭化物が少量、白色粘土塊が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第94層

VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚7cmでごく狭く分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第95層

VIK・L-119・120に幅約3.05m、最大厚13cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面には起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR3/3)土主体で、炭化物・白色浮石が少量含まれる。上下層の第90・99層より色調が明るく、混入物の割合が少ない。遺物は、土器は中期中葉の土器小片がごく少量、石器は断片(56-3)、削器ないし搔器(56-4・5)、石器チップが多量に出土した。そのほか、無文の土偶の腕部が出土した。胸部の突起は剥落している。

第96層

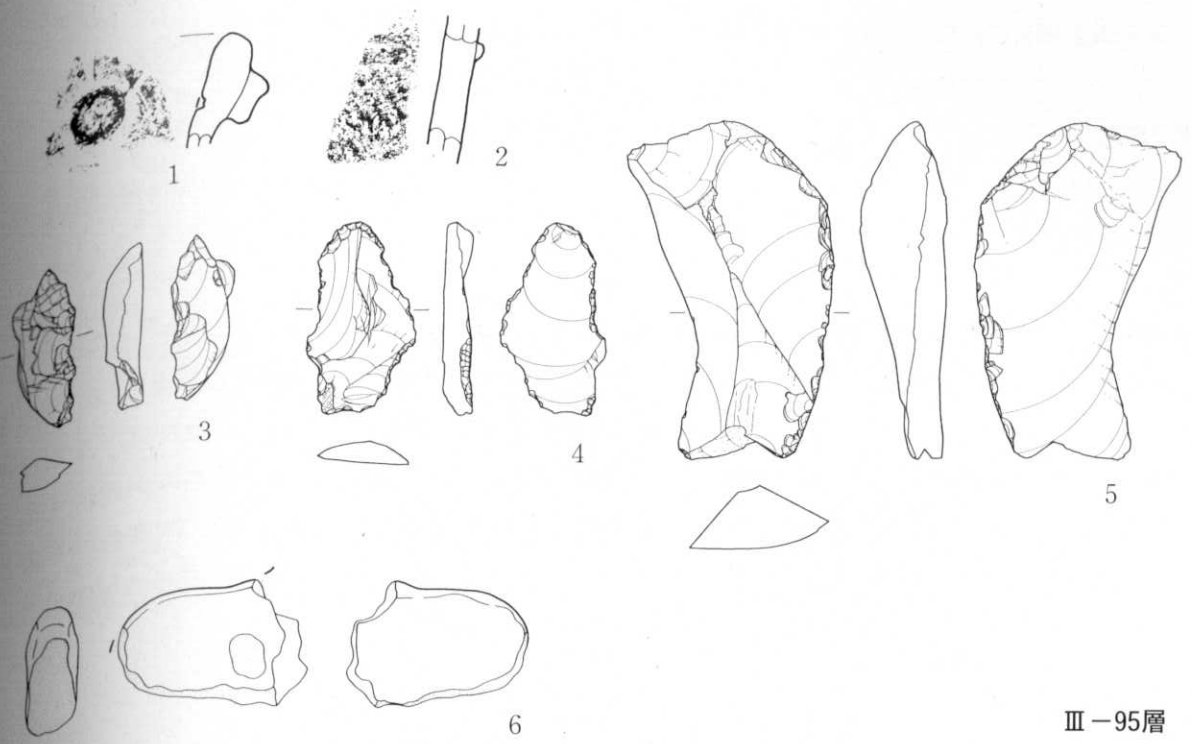
VIL-119・120に幅約1.7m、最大厚7cmで分布する。東側に向かって低く傾斜するが、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗赤褐色(5YR3/6)の焼土が主体で、炭化物微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器小片が出土した。石器は、分類上のその他(56-10・11)が出土している。56-11には煤が付着している。チップも少量出土した。

第97層

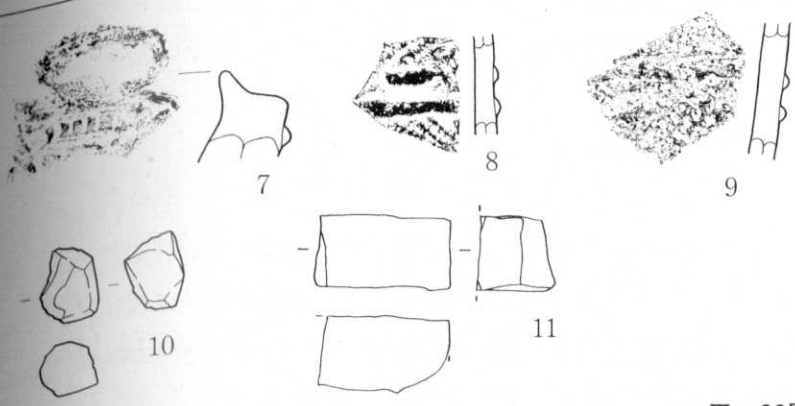
VIL-119・120に幅約0.3m、最大厚3cmで分布する。第100層の落ち込みに堆積する。堆積土は黒色(10YR2/1)土主体である。遺物は、中期中葉の土器小片がごく少量出土しただけである。

第98層

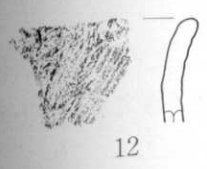
VIL-119・120に幅約0.15m、最大厚3cmでごく狭く分布する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)



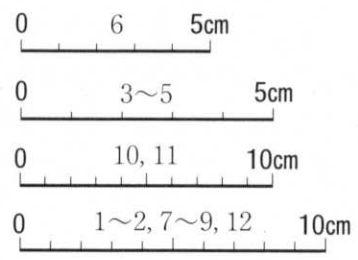
III-95層



III-96層



III-97層



56図 1 トレンチIII-95・96・97層出土遺物

のローム主体層で、黒褐色土が中量含まれる。遺物は出土しなかった。

第99層

VIL-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。非常に薄い堆積層である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、炭化物が中量、ローム粒が少量混入する。遺物は出土しなかった。

第100層

VIL-119・120に幅約2.7m、最大厚3cmで分布する。東側に低く傾斜する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、白色浮石・炭化物が少量含まれる。炭化物は部分的に筋状に入る。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が出土した。貼り付け隆帯上面は無文のものが多いが、57-7は刻みが連続するものである。石器は、石鏃未製品(57-9)、メノウ製の使用痕のある剥片(57-10)、削器ないし搔器(57-11・12)、磨痕のある礫(57-13)、チップも中量出土した。ほかに、土偶の腕部が1点出土した。縄文の回転施文後、直線状の縄文押圧が加えられている。

第101層

VIL-119・120に幅約0.55m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、ローム粒・炭化物が少量混入する。遺物は、中期中葉の土器小片が少量出土した。

第102層

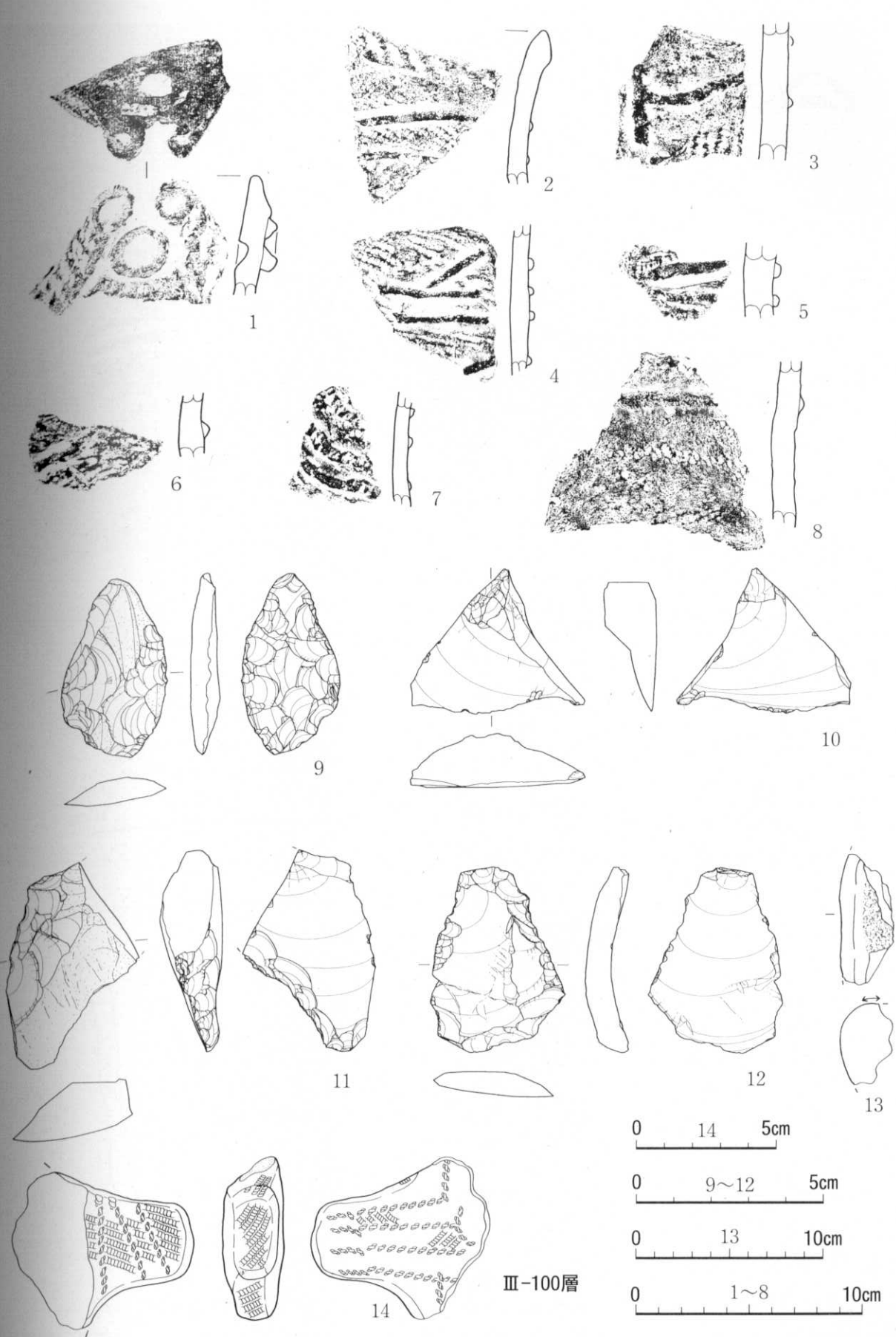
VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚7cmで分布する。東側に低く傾斜し、若干の凹凸はあるが、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体で、ローム粒が多量、部分的には塊状に、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d・e式の復元し得た地文のみの土器や円筒上層d式土器小片が少量出土した。石器では、使用痕のある剥片(58-6)が1点出土した。

第103層

VIL-119・120に幅約0.8m、最大厚5cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。堆積土は黒色(10YR2/1)土が主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は口唇部に刻み、胴部に条痕が施文された土器が出土した。この土器は第104層出土土器と接合した。

第104層

VIK・L-119・120に幅約2.7m、最大厚10cmで分布する。層西側では層厚も均一で、ほぼ水平に堆積する。東側では薄くなり高くなる。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/4)土が主体で、ローム土が塊状・粒状で多量、炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器が出土した。59-1は胴下半の破片である。他には隆帯を貼り付けたものが多い。59-4は無文である。石器は使用痕のある剥片(59-6・7)のほか、チップが中量出土した。



Ⅲ-100層

57図 1トレンチⅢ-100層出土遺物



1



2



3

Ⅲ-101層



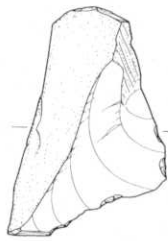
4



5

0 6 5cm

0 1~5, 7 10cm



6

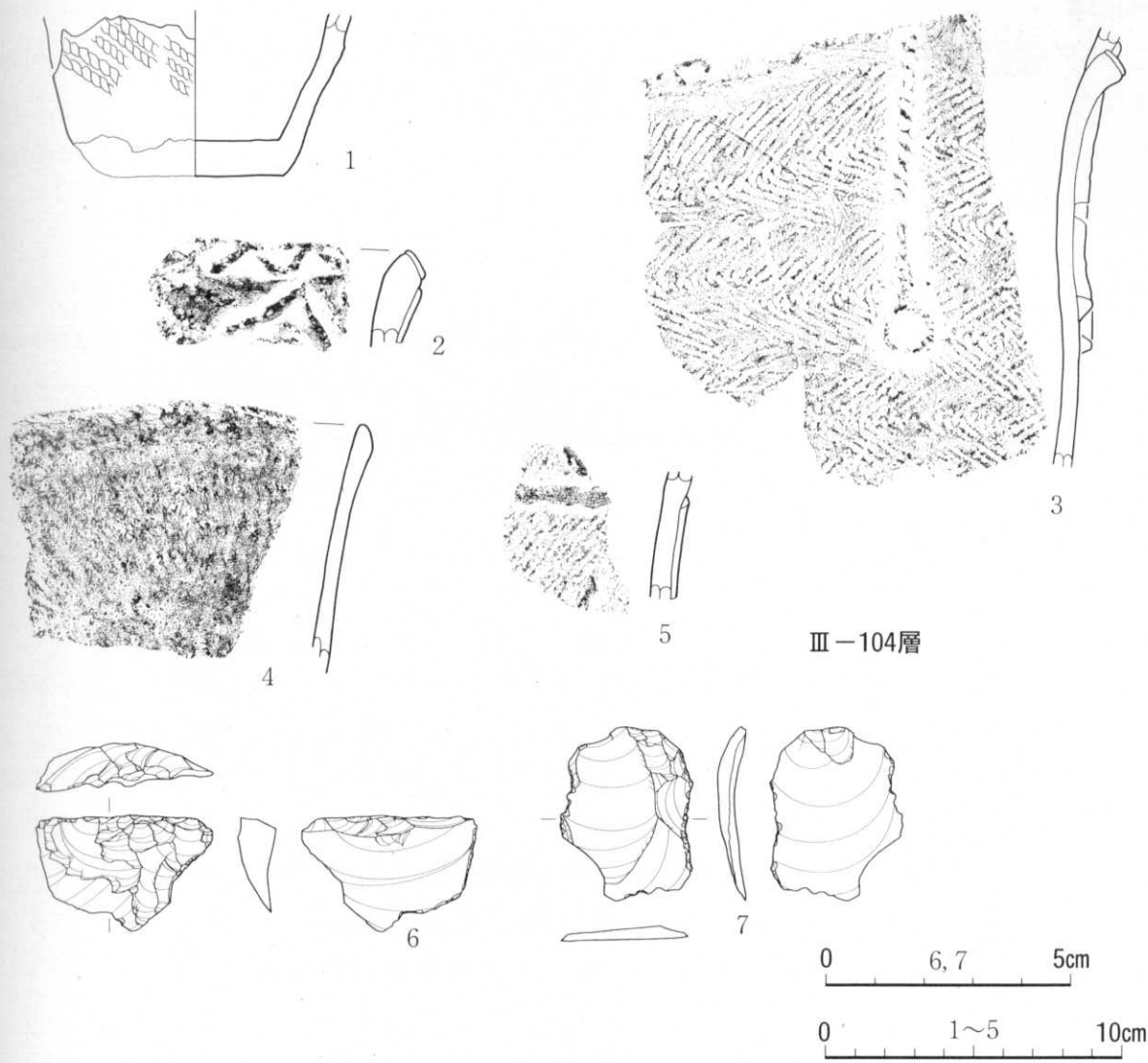
Ⅲ-102層



7

Ⅲ-103層

58図 1トレンチⅢ-101・102・103層出土遺物



59図 1 トレンチⅢ-104層出土遺物

第105層

VIK-119・120に幅約1.4m、最大厚5cmで分布する。東側に高く傾斜し、層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、ローム粒が少量、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式やd式土器片が出土した。石器は有茎鏃(60-7)が1点出土した。ほかに不明石製品が1点出土した。

第106層

VIL-119・120に幅約2.5m、最大厚15cmで分布する。東側に向かって低く傾斜するが、層厚は若干の凹凸はあるがほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、炭化物・ローム粒が多量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は他の層に比べると多量に出土した。円筒上層d式が主体であるが、円筒上層c式土器片も含まれる。前者は地文施文後に、後者は無文面に隆帯が貼り付けられている。石器は敲打痕と磨痕をもつ礫が1点、チップも中量出土した。

第107層

VIL・M-119・120に幅約2.2m、最大厚17cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層である。炭化物が少量含まれる。遺物は多量に出土した。土器はいずれも破片のみであるが、円筒上層c土器を主体とし、上層b式・上層d式も含まれる。石器も多数出土した。削器ないし搔器(63-1)、剥片(63-2)、Uフレイク(63-3)、石鏃の未製品と推定される両面加工石器(63-4)、敲打による凹をもつ礫(63-5)、煤が付着するその他(63-6)、被熱した磨痕のある礫(63-8)がある。63-7は全面が磨られ、黒化した軽石である。また、チップも多量に出土した。63-9は焼成粘土塊で、窪んだ1面には指紋が観察される。

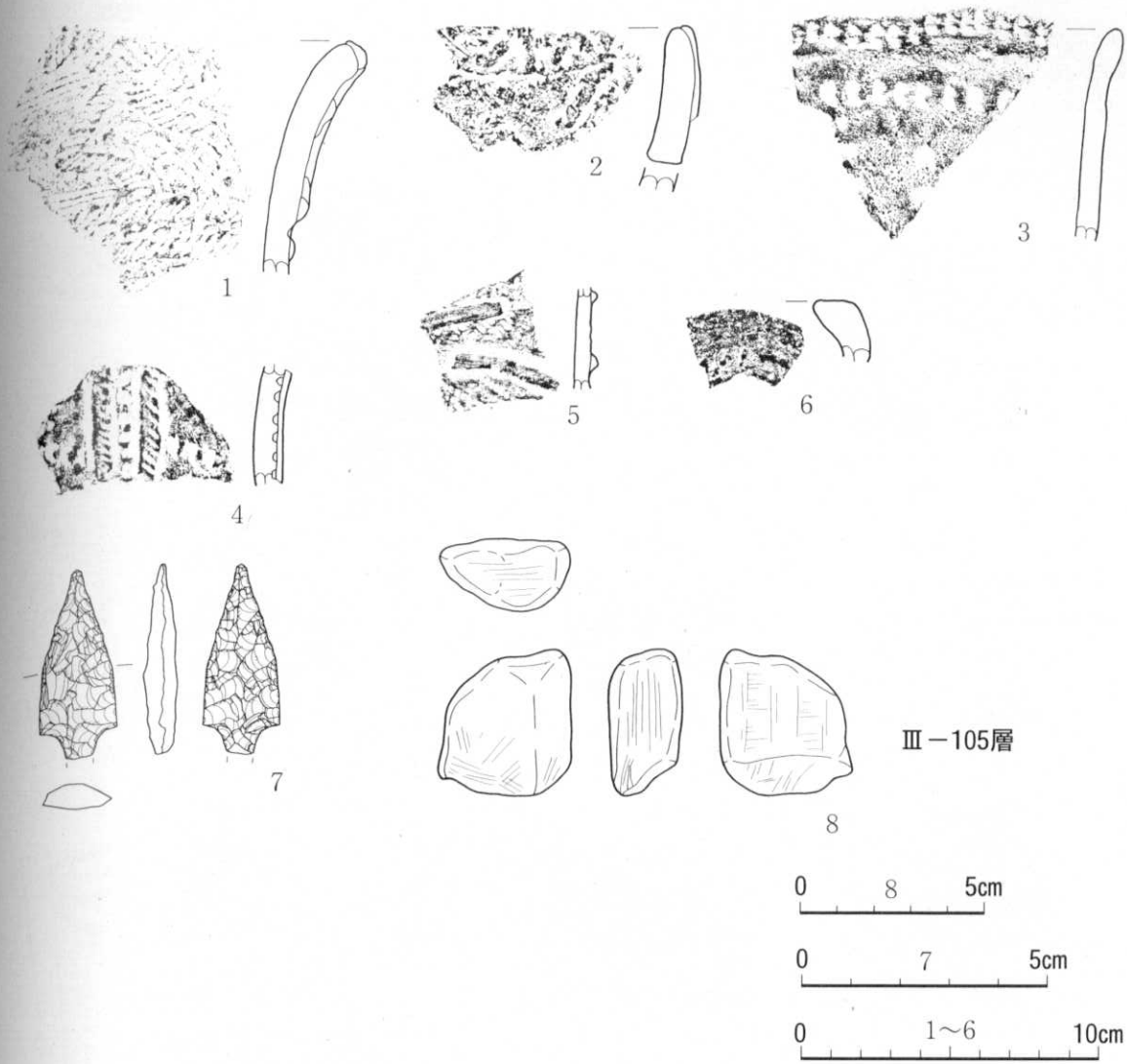
第108層

VIK-119・120に幅約1.4m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/8)のローム主体層で、暗褐色土が少量含まれる。下層の第114層との境には黒色土のごく薄層を挟む。遺物は、土器は円筒上層b式・上層c式土器片が少量出土した。64-2は縄文原体による馬蹄形押圧が、64-3は円形の工具による刺突が施文されている。石器は、煤が付着し敲打による凹をもつ礫(64-5)、チップも少量出土した。

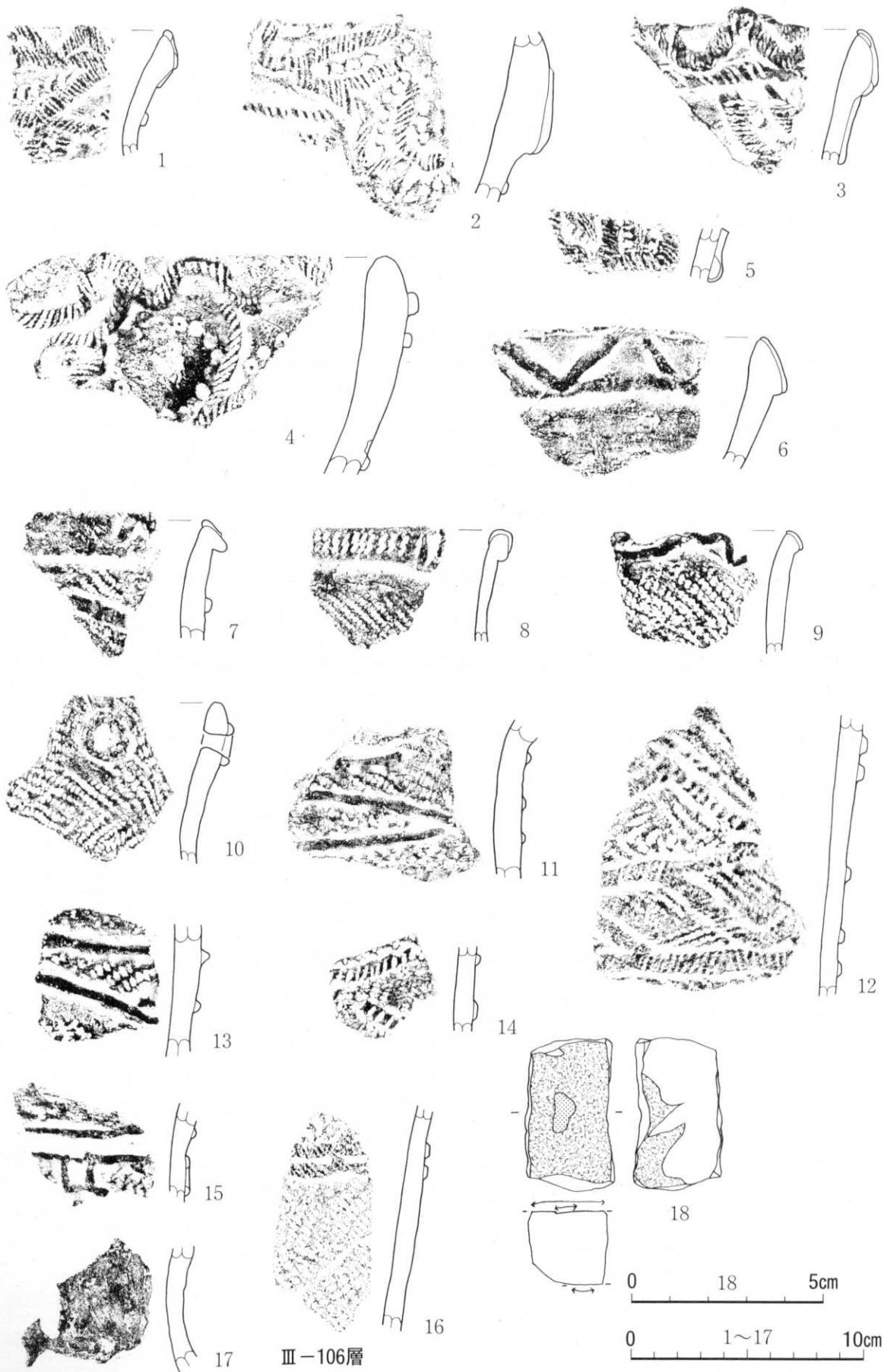
第109層

VIL-119・120に幅約2.2m、最大厚20cmで分布する。東側に低く傾斜する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、白色浮石、炭化物が中量混入する。上層の第106層に比べ色調が明るく、炭化物の混入割合が少ない。

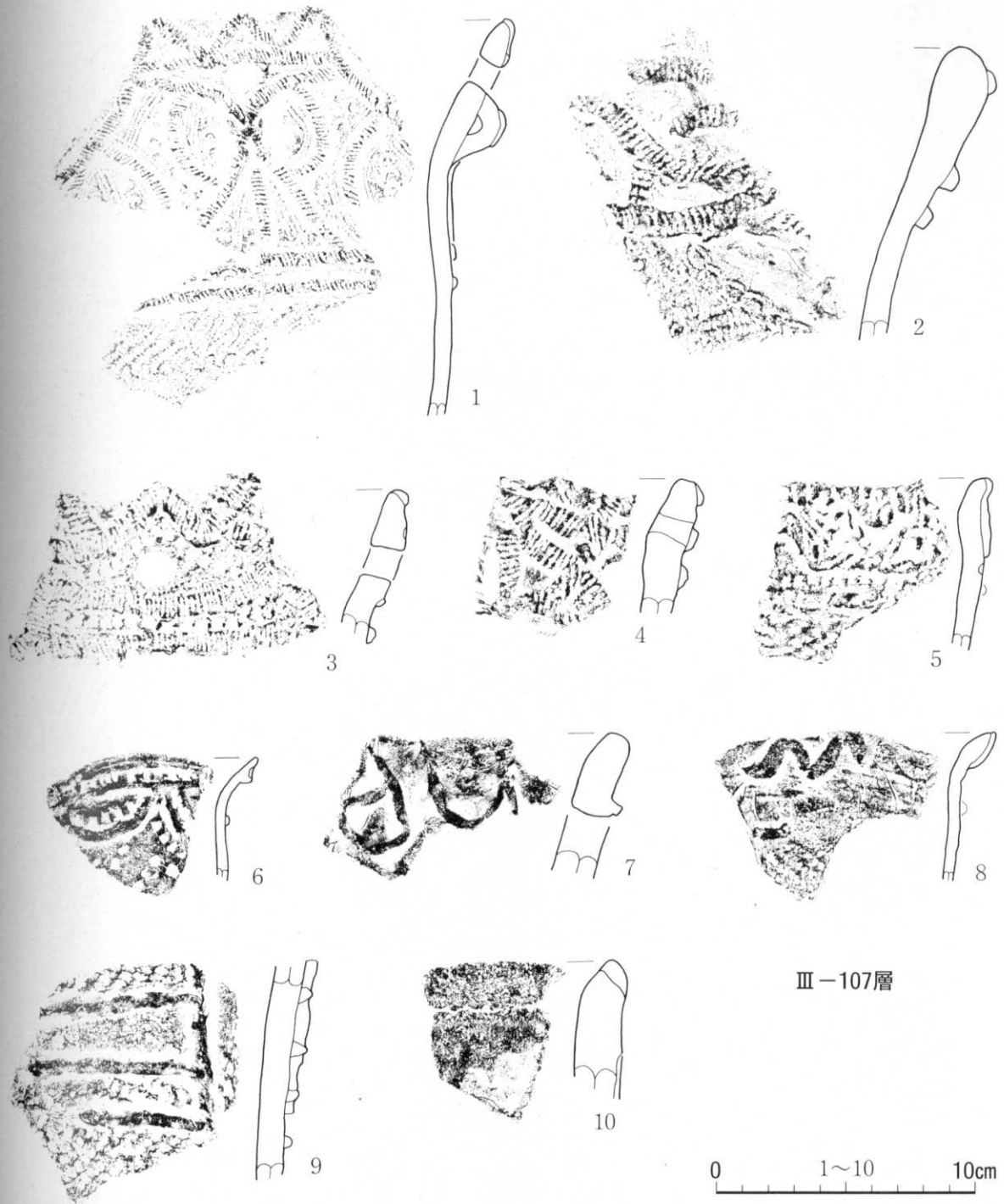
遺物は、土器は復元可能なものを含み多量に出土した。65-1は口縁部まで地文を施文後に刺突が口縁部に平行と横位隆帯間に連続するもので、65-3は3段の横位の縄文押圧の間に縄文原体による馬蹄形押圧が巡るものである。破片も含め円筒上層b式に位置づけられるものが主体である。石器は有茎鏃(66-1)、使用痕のある剥片(66-2)、磨痕と敲打痕をもつ礫(66-3)や、チップも多量



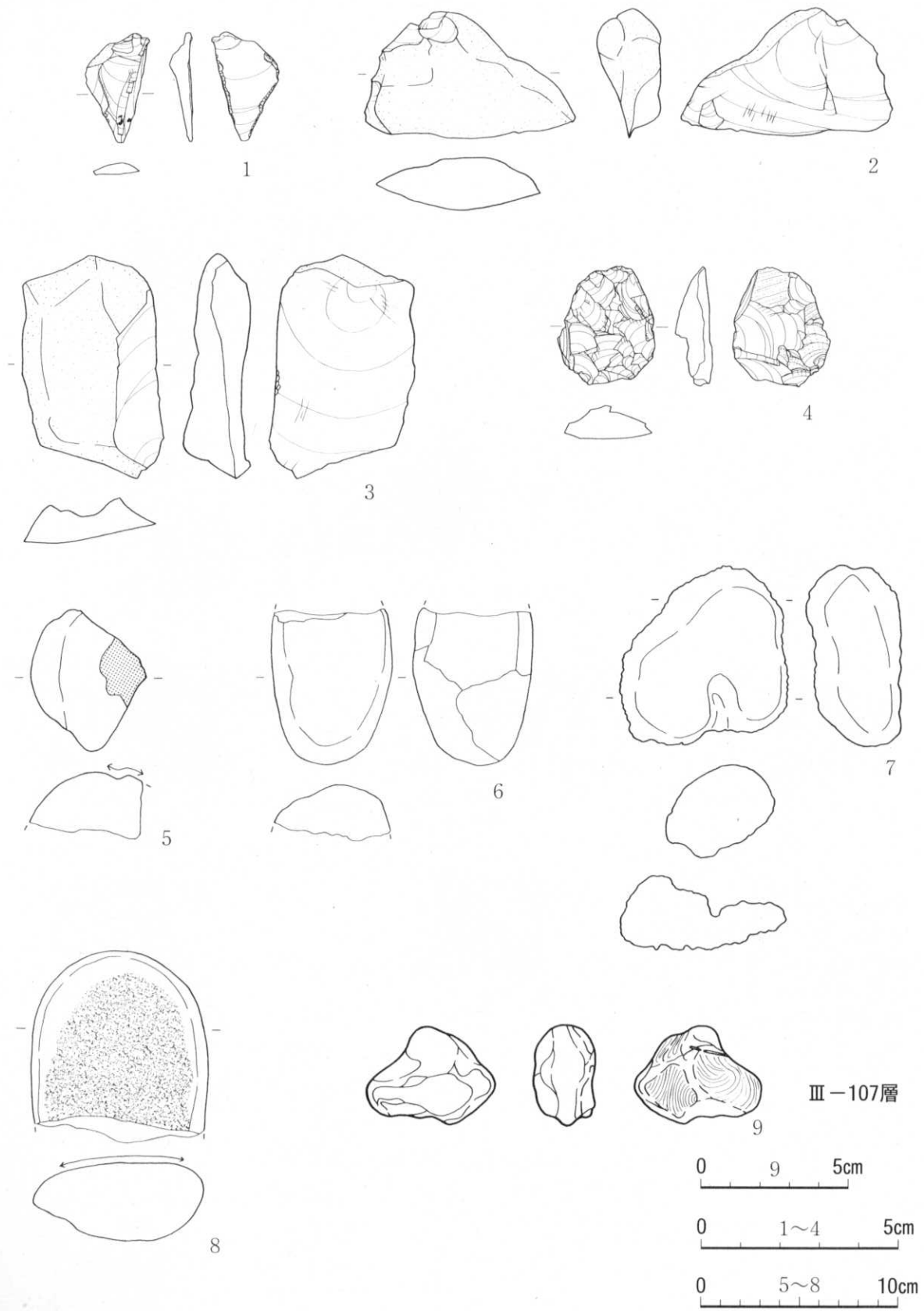
60図 1 トレンチⅢ-105層出土遺物



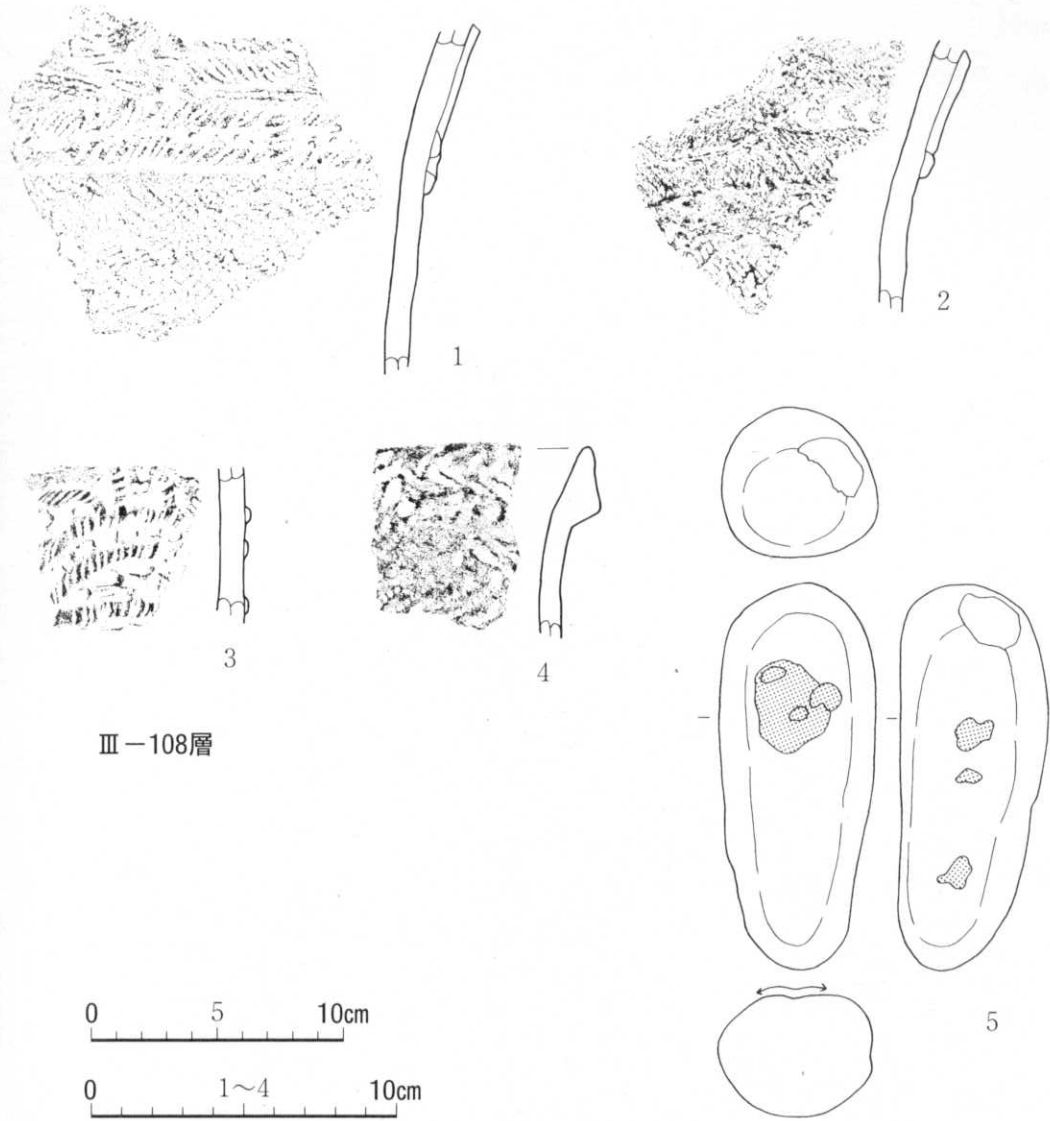
61図 1 トレンチⅢ-106層出土遺物



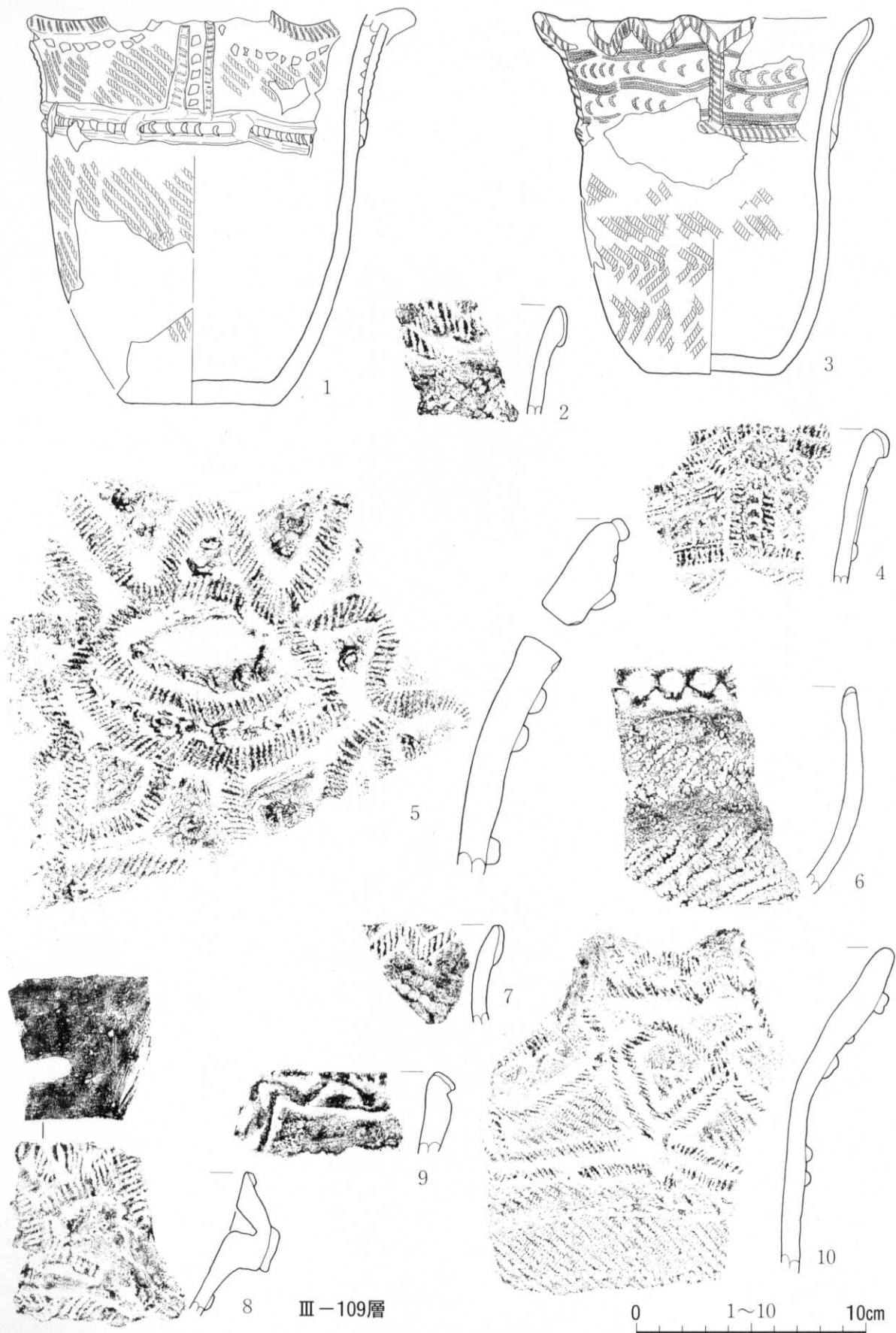
62図 1 トレンチⅢ-107層出土遺物(1)



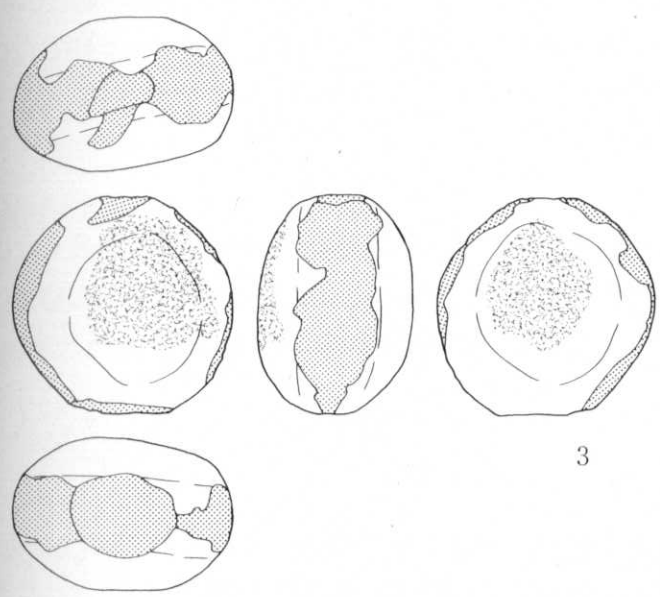
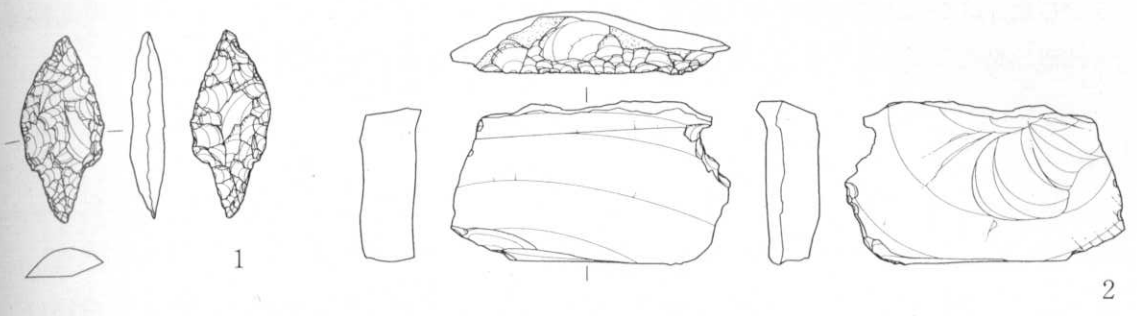
63図 1 トレンチⅢ-107層出土遺物 (2)



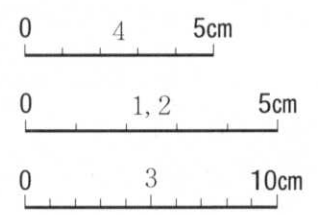
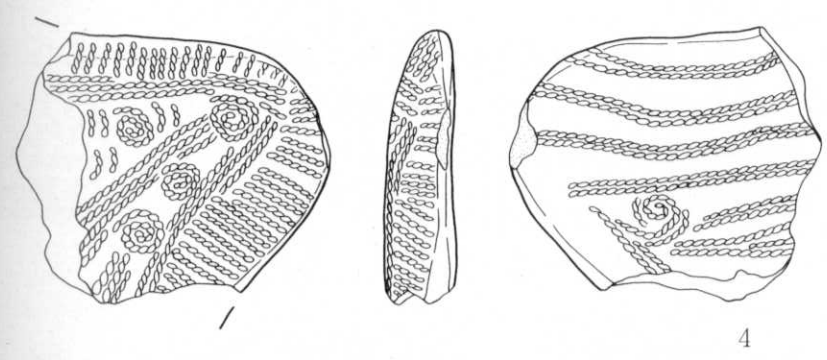
64図 1 トレンチⅢ-108層出土遺物



65図 1 トレンチⅢ-109層出土遺物 (1)



Ⅲ-109層



66図 1 トレンチⅢ-109層出土遺物 (2)

にが出土した。ほかに土偶の腕部が1点出土した。表面には、直線状と渦巻状・曲線状の縄文押圧が施文される。裏面には2条1単位で多段の横位縄文押圧と渦巻状押圧が観察される。

第110層

VIL・M-119・120に幅約1.85m、最大厚25cmで分布する。認識の仕方もあるが、本トレンチでは最も厚い層で、ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物が多量、焼土粒・ローム粒が少量含まれる。上層の第109層より色調がやや暗く、混入物の割合が多い。遺物は、土器は復元可能なものも含め、円筒上層b・c式土器を主体に出土した。67-1はある程度復元できたもので、口縁部には刺突が密に連続する。石器は使用痕のある剥片(67-8)、全面が磨られた軽石(67-9)が出土したほか、チップも多量に出土した。

第110'層

VIL・M-119・120に幅約0.8m、最大厚9cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央が最も厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、焼土粒が中量、黄褐色ローム粒が少量含まれる。当初第110層と同一層としていたが、本層の色調がやや明るく、焼土粒の混入割合が多いため分層した。遺物は出土しなかった。

第111層

VIL-119・120に幅約0.5m、最大厚3cmで分布する。東側に若干傾斜して堆積する。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。遺物は、円筒上層b式土器の小片がごく少量出土した。

第112層

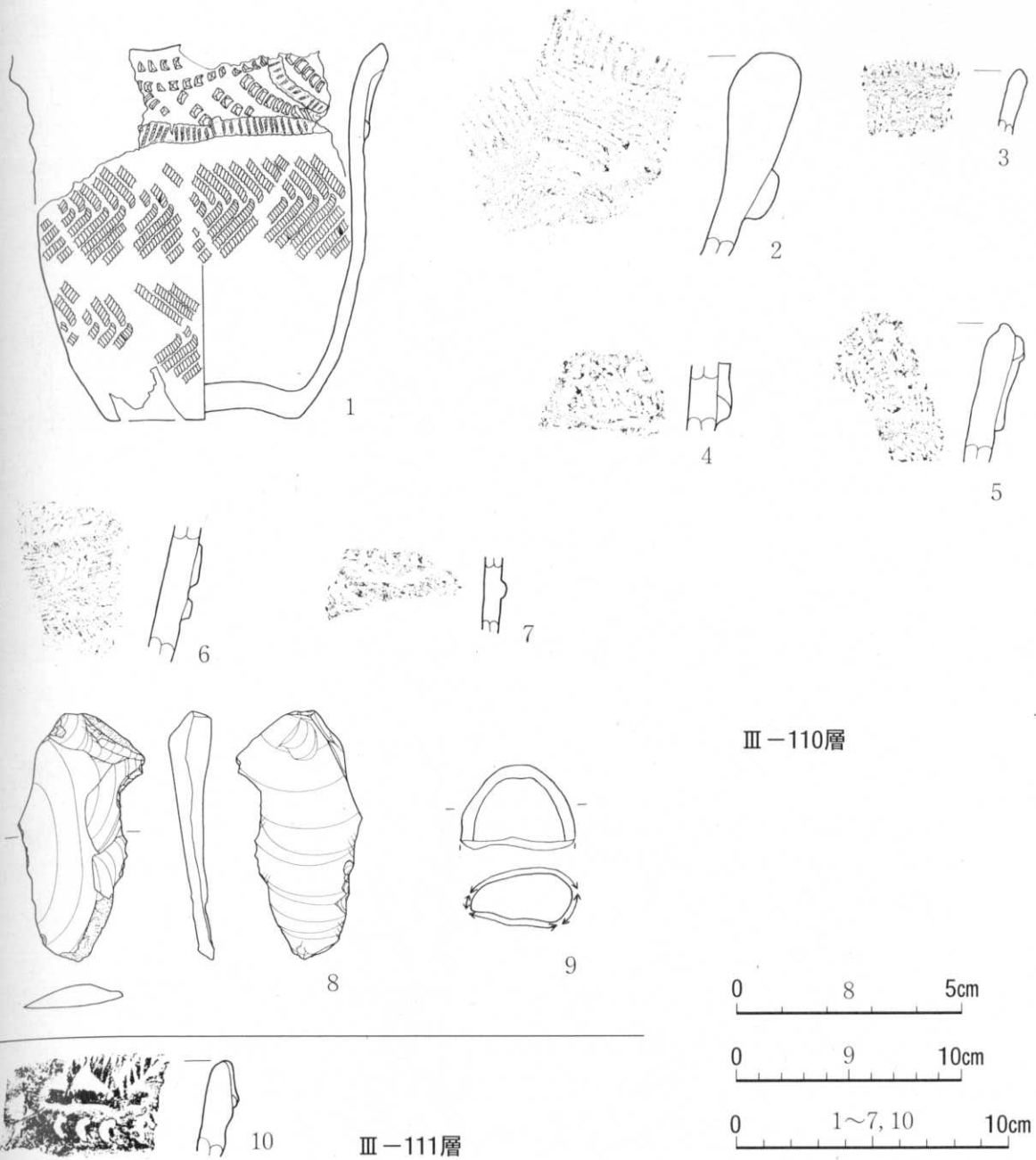
VIK・L-119・120に幅約2.0m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚はほぼ同じであるが、西側は5cmと薄くなる。堆積土は赤褐色(5YR4/8)の焼土主体層で、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式土器片が少量出土した。石器は、敲打による凹をもつ礫(68-7)のほか、チップも中量出土した。

第113層

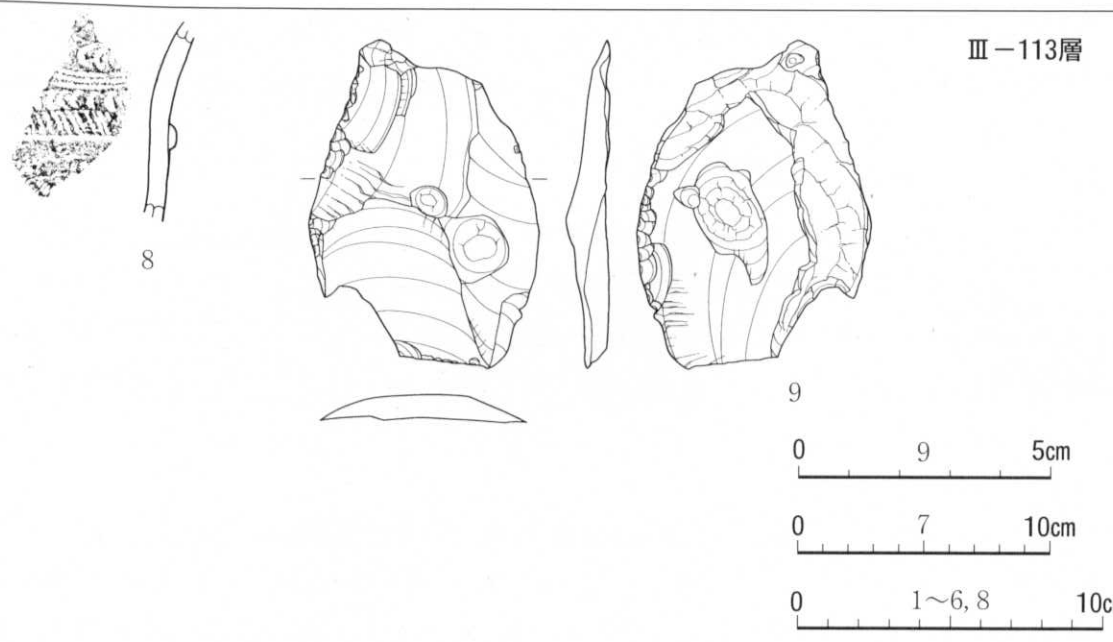
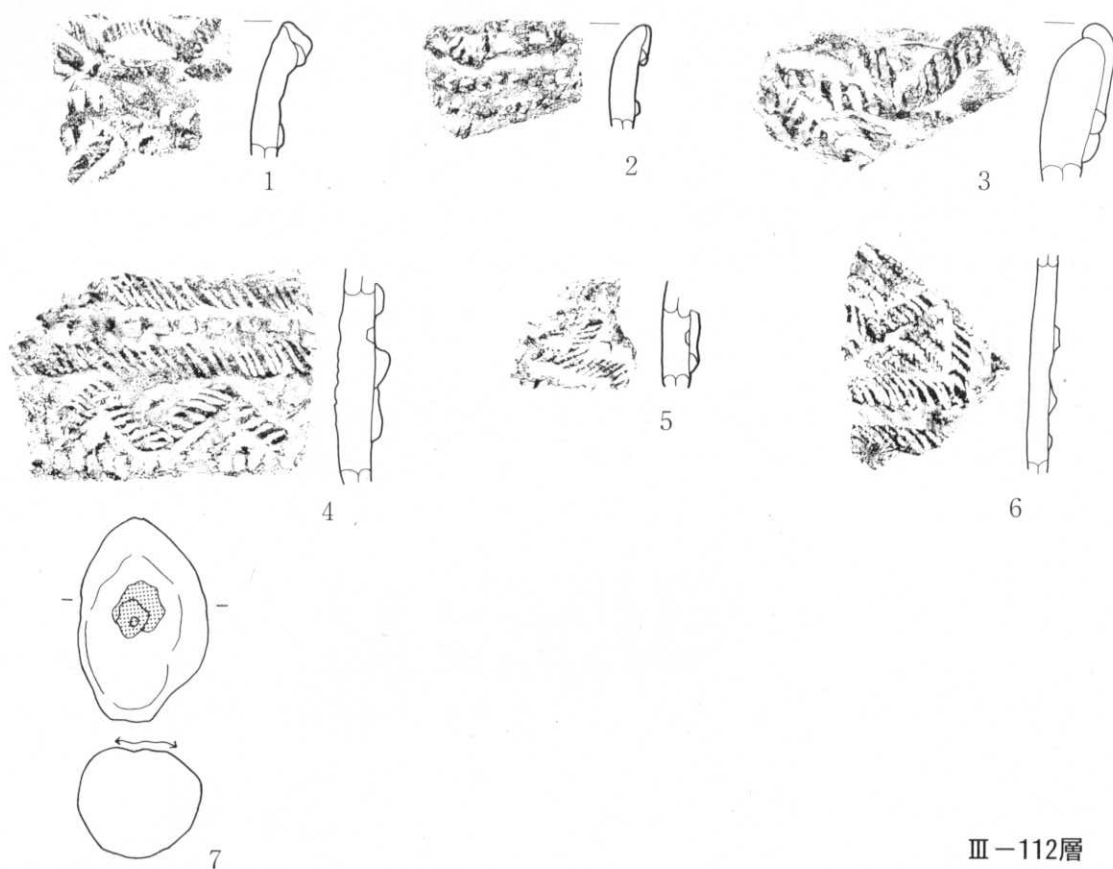
VIL-119・120に幅約0.85m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。断面図では表現しきれないが、厚さ1cm以下の非常に薄い炭化物層が、トレンチ東端まで第122~124層の上面に広がっていた。遺物は被熱した削器ないし搔器(68-9)が1点出土しただけである。

第114層

VIK-119・120に幅約1.4m、最大厚10cmで分布する。層上面ラインは西側ではほぼ水平で、層厚も均一であるが、トレンチ東端では盛り上がったように高くなり、層厚も増す。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層である。ロームは塊状ではなく、かき集めたような粒状の密集した状態である。浮石・



67図 1 トレンチⅢ-110、111層出土遺物



68図 1 トレンチⅢ-112、113層出土遺物

炭化物少量ローム土が塊状・粒状で多量含まれる。遺物は出土しなかった。

第115層

VIL-119・120に幅約1.7m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物が多量に含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式片や円筒上層式土器胴部片、石器は磨痕と敲打痕をもつ礫(69-3)が出土した。

第116層

VIL・M-119・120に幅約0.7m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい褐色(10YR4/3)のローム土主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は石器チップが少量出土しただけである。

第117層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚もほぼ均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)土主体である。ロームが多量に入り、部分的には塊状をなす。ほかに炭化物が少量含まれる。遺物は土器小破片がごく少量出土した。

第118層

VIL-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚もほぼ均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、ローム粒・塊が多量、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第119層

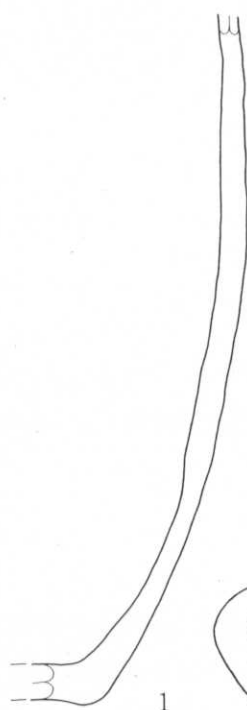
VIL・M-119・120に幅約0.8m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土主体層で、黒褐色土との混合土である。遺物は、土器は円筒上層b・c式土器片がごく少量出土した。石器では、使用痕のある剥片(70-3)、二次加工剥片(70-4)がそれぞれ1点出土した。

第120層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第121層

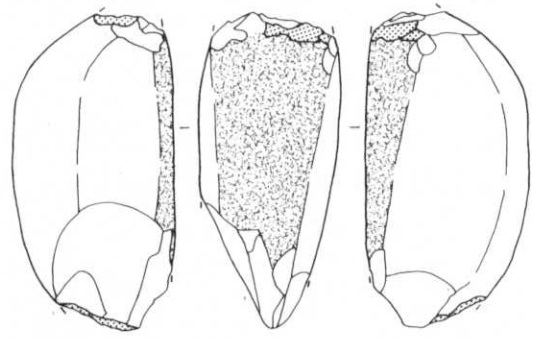
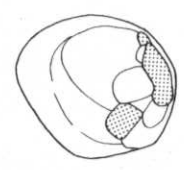
VIK-119・120に幅約1.0m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物・浮石が少量混入する。遺物は出土しなかった。



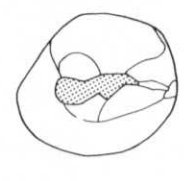
Ⅲ-117層

0 3 10cm

0 1, 2, 4 10cm

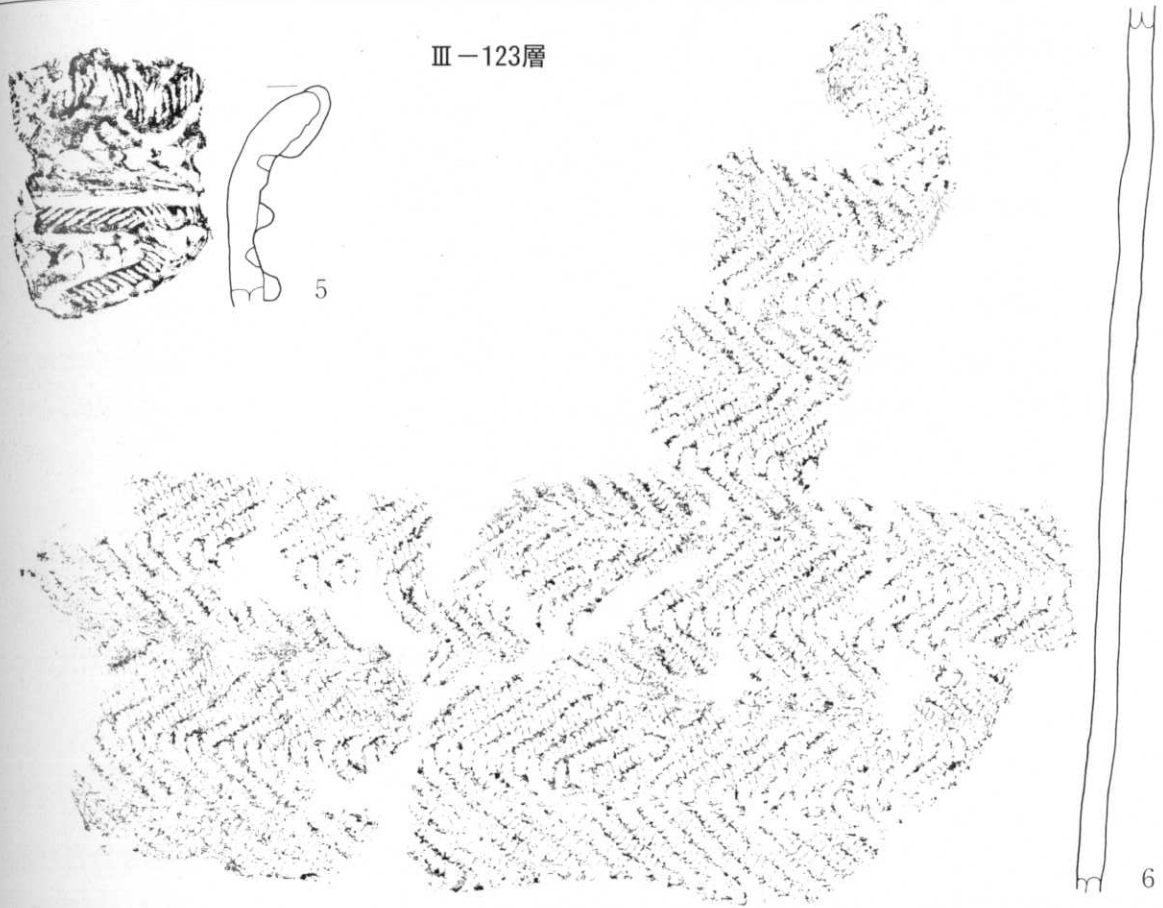
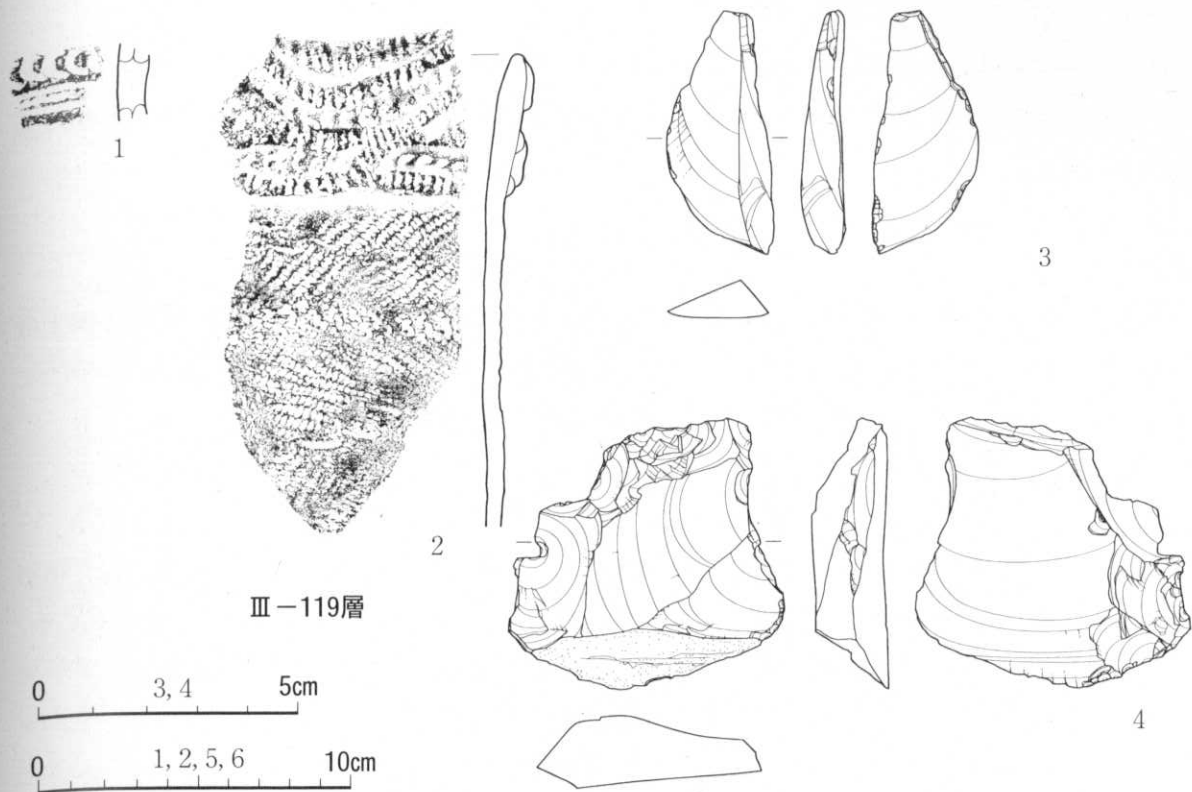


3



Ⅲ-115層

69図 1 トレンチⅢ-115、117層出土遺物



70図 1 トレンチⅢ-119、123層出土遺物

第122層

VIK・L-119・120に幅約0.8m、最大厚5cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚は中央部が最も厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、炭化物が少量、灰白色粘土塊が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第123層

VIK-119・120に幅約1.8m、最大厚8cmで分布する。若干東側に低く傾斜して堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、炭化物が中量、ローム粒が少量混入する。第114層との境に部分的に板状の炭化物が狭在する。遺物は、円筒上層c式土器片などが少量出土した。

第124層

VIK・L-119・120に幅約4.5m、最大厚17cmで分布する。層厚は中央が最も厚く、東側へ低く傾斜する。層上面は若干の起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、ロームが中量混入する。部分的には筋状に入る。ほかに炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b式土器片などが少量、石器は基部にアスファルト?が付着する凹基鏃(71-4)、全面が磨られた軽石(71-5)やチップも少量出土した。71-6は石製品で、碗状に刳り貫かれたものである。

第125層

VIL-119・120に幅約2.8m、最大厚8cmで分布する。若干東側に傾斜するが、ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、炭化物・ローム粒が微量含まれる。上層の第124層よりも色調が明るい。遺物は、土器は円筒上層b式片が少量、石器は有茎鏃(71-11)が1点とチップが少量出土した。

第126層

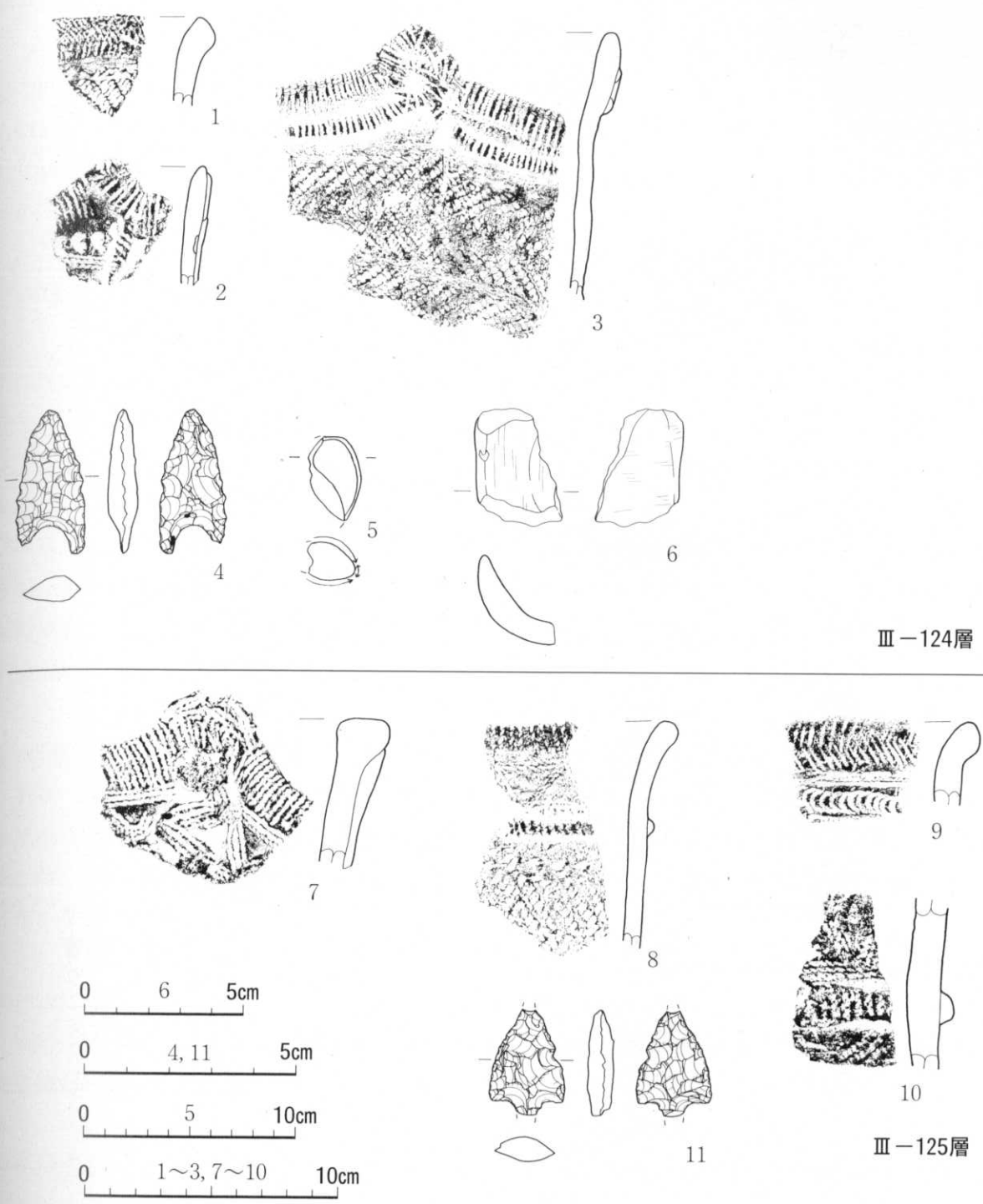
VIK・L-119・120に幅約0.8m、最大厚5cmで分布する。層上面は起伏があるが、ほぼ水平に堆積する。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体でロームが多量、浮石が中量含まれる。遺物は出土しなかった。

第127層

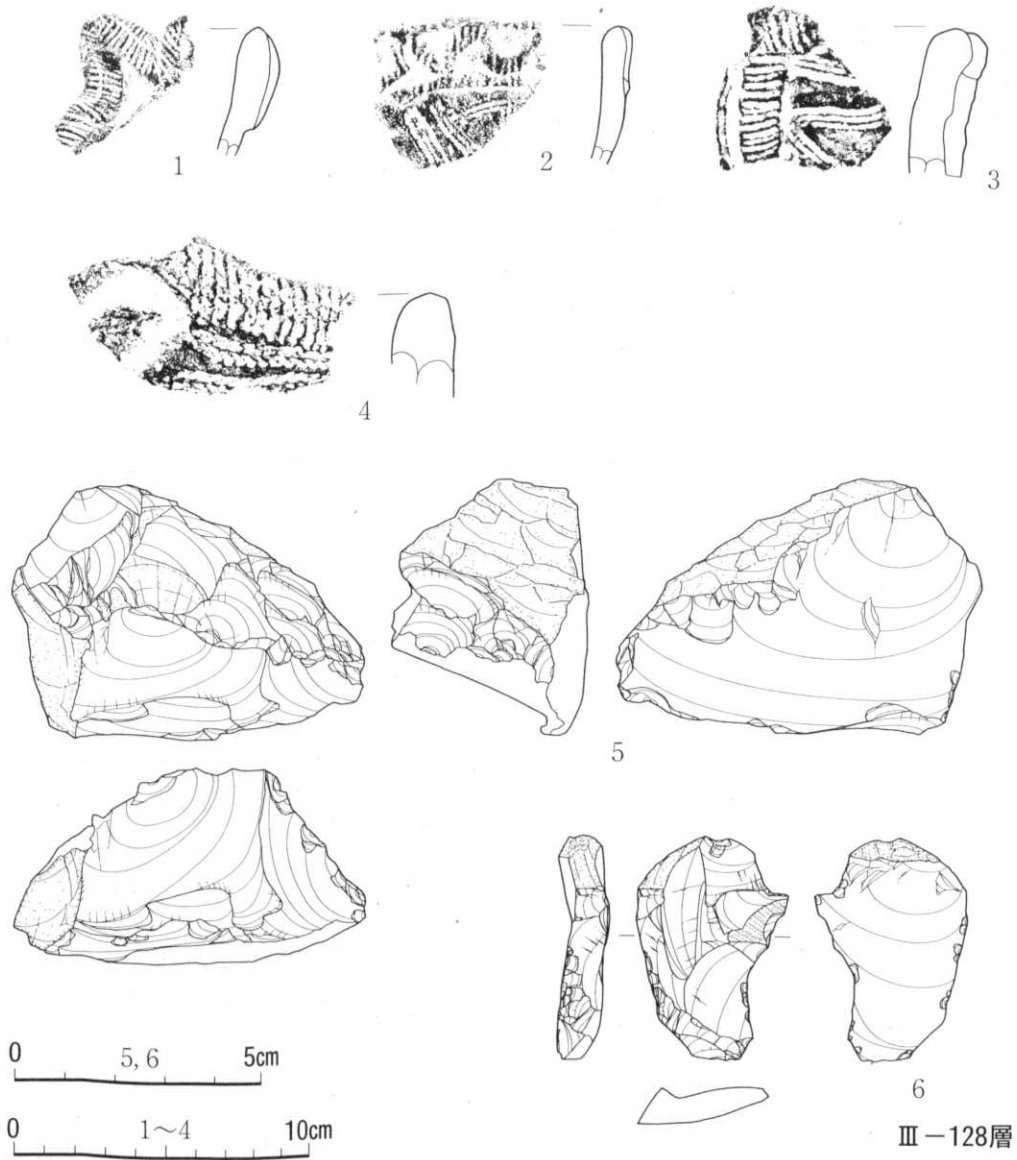
VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。第128・133層の間隙の落ち込みへ堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体である。ローム粒・塊が多量、炭化物が少量含まれる。西側の第128層より色調がやや暗く、混入物の割合が多い。遺物は出土しなかった。

第128層

VIL・M-119・120に幅約0.8m、最大厚4cmで分布する。東側に低く段状に傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は、土器では円筒上層a式土器小片が少量出土した。石器では剥片(72-5)、削器ないし搔器(72-6)のほか、



71図 1 トレンチⅢ-124、125層出土遺物



III-128層

72図 1 トレンチIII-128層出土遺物

チップが少量出土した。

第129層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚6cmで分布する。若干東側に低く傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物が多量、白色浮石が少量混入する。遺物は、土器は円筒上層式土器小片が少量出土した。

第130層

VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)土を主体とし、ローム土と黒褐色土との混合土層である。炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第131層

VIK・L-119・120に幅約2.7m、最大厚11cmで分布する。層上面は起伏があり、層厚も一定ではないが、ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム主体層で、黒褐色土・炭化物が微量混入する。遺物は、土器は円筒上層式土器の小片がごく少量出土し、石器では石筥(73-7)が出土した。チップも少量出土した。

第132層

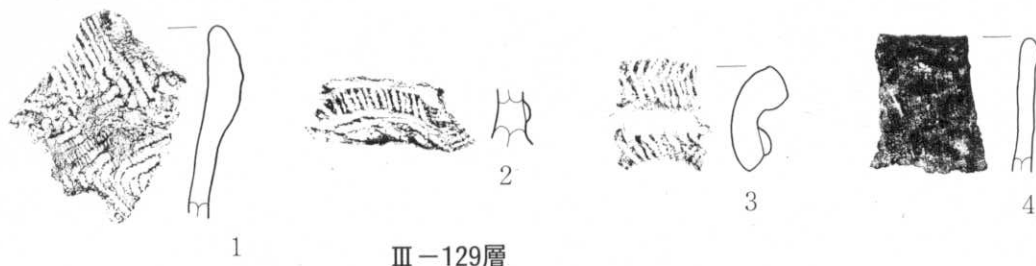
VIL-119・120に幅約0.8m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も薄く均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物主体層である。遺物は、土器は円筒上層a式土器小片がごく少量出土した。石器では、尖頭部に衝撃剥離がみられる有茎鏃(73-9)、削器ないし搔器(73-10)がそれぞれ1点出土した。

第133層

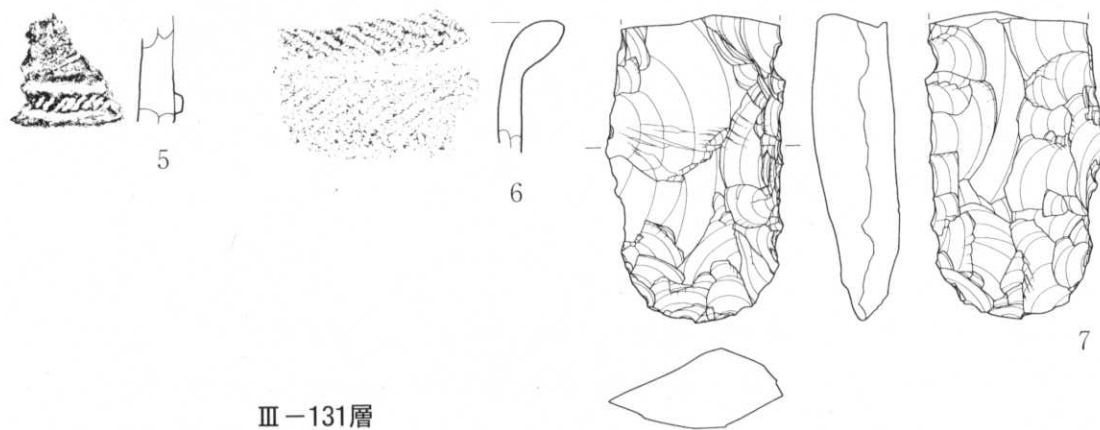
VIK~M-119・120に幅約6.4m、最大厚11cmで分布する。層西側では東側に向かって低く傾斜し、層東側では第IV層に接し水平に堆積する。層厚はほぼ一定である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、ローム粒が多量、炭化物が中量、焼土粒が微量混入する。遺物は、円筒上層b・c式土器片などが出土した。74-9は鉢形で、全面に刺突がある。石器は削器ないし搔器(74-12)が1点、チップも少量出土した。ほかに土製品が2点出土した。74-13は土偶の上半身部で、表裏面とも無文である。頭部には窪みがある。74-14は焼成粘土塊である。

第134層

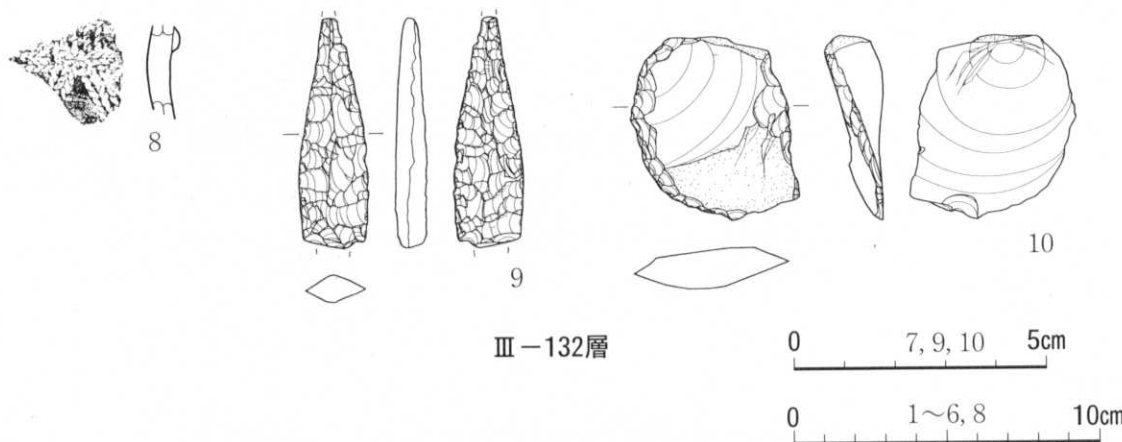
VIK・L-119・120に幅約0.9m、最大厚3cmで分布する。東側へ低く傾斜し、層厚は均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物主体層である。遺物は出土しなかった。



III-129層



III-131層

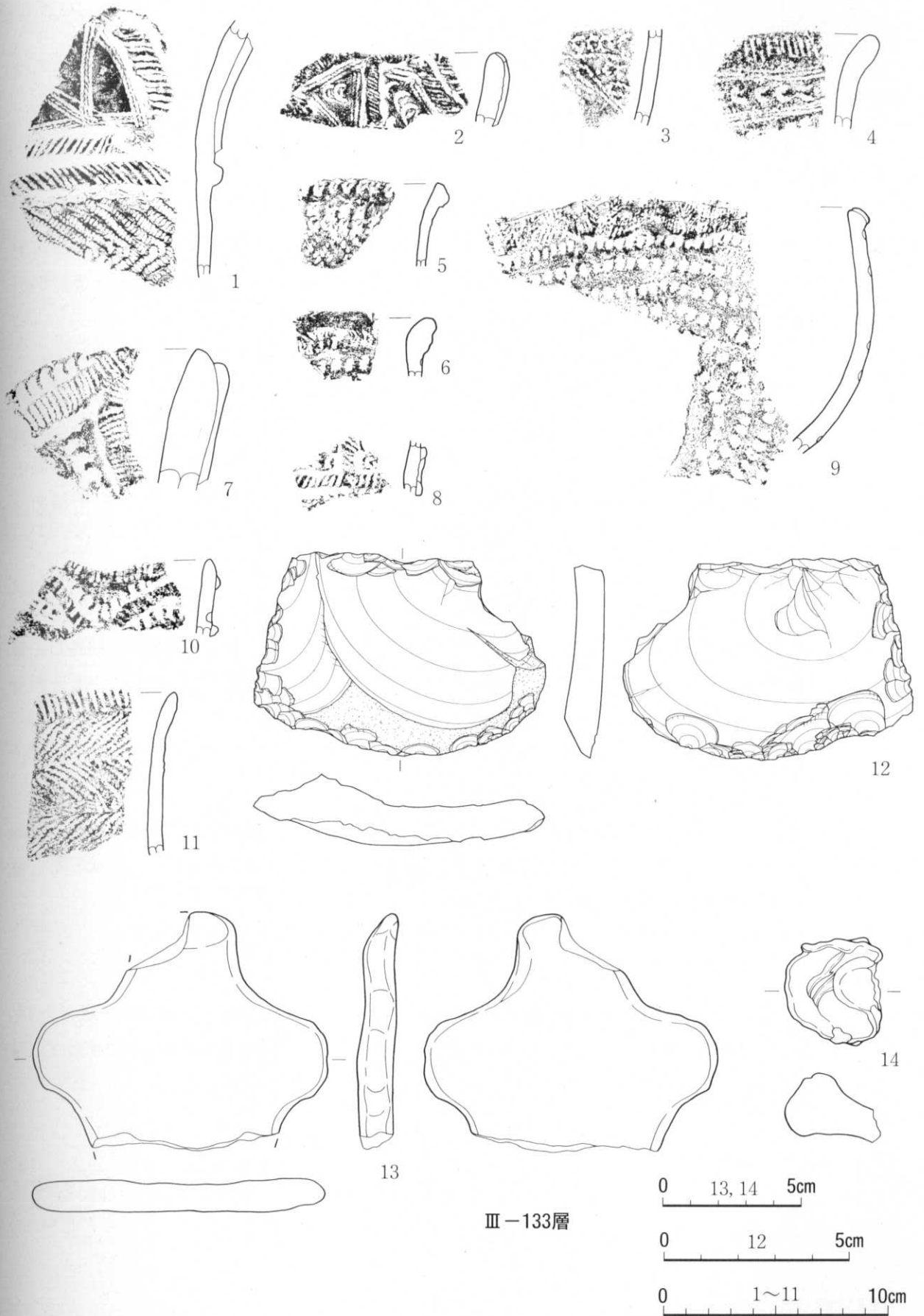


III-132層

0 7, 9, 10 5cm

0 1~6, 8 10cm

73図 1 トレンチ III-129、131、132層出土遺物



74図 1 トレンチⅢ-133層出土遺物

第135層

VIL-119・120に幅約1.0m、最大厚4cmで分布する。東側に傾斜し、層厚は均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム土主体層で、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第136層

VIL・M-119・120に幅約2.2m、最大厚9cmで分布する。東側へ低く傾斜し、層厚はほぼ一定する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体でローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層式土器小片が少量、土製品は中央に穿孔のある垂飾品?(75-4)、無文のミニチュア土器(75-5)が出土した。

第137層

VIL・M-119・120に幅約2.4m、最大厚11cmである。東側へ低く傾斜し、部分的に違いはあるが層厚はほぼ一定である。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム主体層で、塊状に混入する。黒褐色土が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、円筒上層a式土器小片などが少量出土したほか、石器チップも少量出土した。

第138層

VIM-119・120に幅約0.4m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。若干東側に低く傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、ローム粒・塊が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は土器は円筒上層a式土器小片がごく少量出土した。

第139層

VIL・M-119・120に幅約1.9m、最大厚6cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は暗赤褐色(5YR3/6)の焼土主体層で、炭化物が微量混入する。遺物は、土器は円筒上層式土器の胴部片がごく少量出土した。

第140層

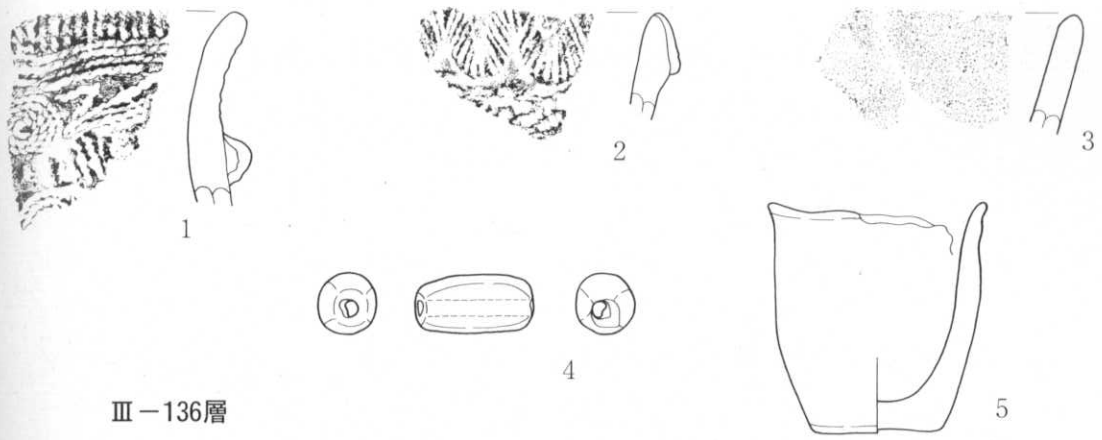
VIL・M-119・120に幅約1.5m、最大厚10cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚は一定である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層で、黒褐色土が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層式土器小片がごく少量、石器は敲打痕のある礫(75-15)が出土した。

第141層

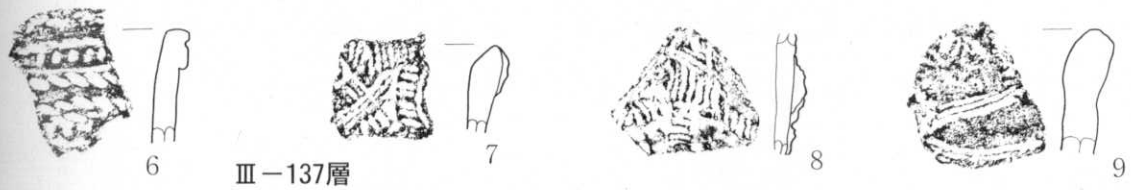
VIL・M-119・120に幅約1.9m、最大厚11cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚はほぼ一定である。堆積土は黄褐色(10YR5/8)のローム層である。遺物は出土しなかった。

第142層

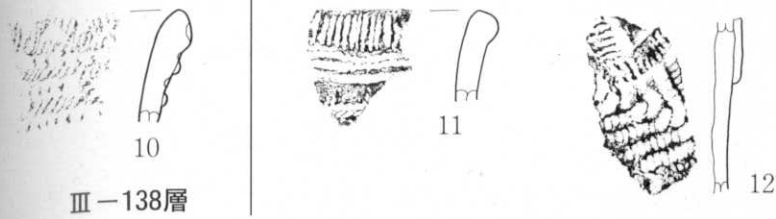
VIL・M-119・120に幅約0.9m、最大厚4cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚も薄くほぼ均一



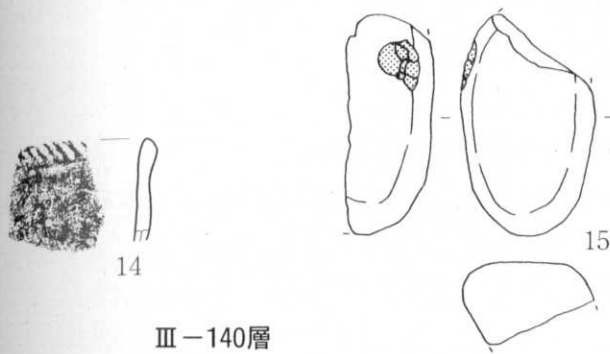
Ⅲ-136層



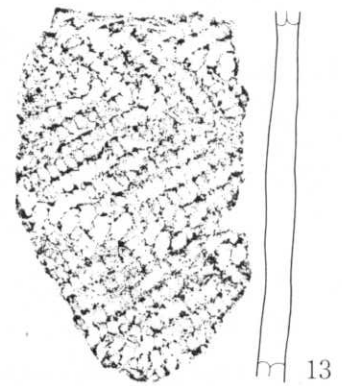
Ⅲ-137層



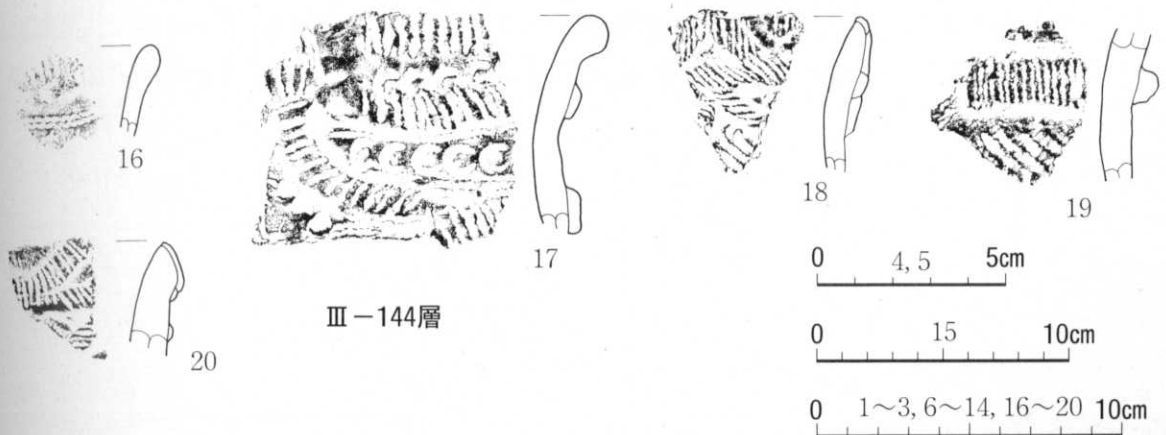
Ⅲ-138層



Ⅲ-140層



Ⅲ-139層



Ⅲ-144層

75図 1 トレンチⅢ-136、137、138、139、140、144層出土遺物

である。堆積土は暗赤色 (5YR3/6) の焼土主体層である。炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第142'層

VIM-119・120に幅約0.6m、最大厚4cmで分布する。若干東側に傾斜し、層厚は薄くほぼ均一である。堆積土は暗赤色 (5YR3/6) 土の焼土主体であるが、ブロック状の焼土塊が中量含まれる。これにより、第142層とは分層した。遺物は出土しなかった。

第143層

VIM-119・120に幅約0.9m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は中央が最も厚い。堆積土は黄褐色 (10YR5/6) のローム主体層で、炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第144層

VIL・M-119・120に幅約1.9m、最大厚3cmで分布する。第IV層に接し、ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒色 (10YR1.7/1) の炭化物主体層である。遺物は円筒上層 b 式土器片が少量出土した。

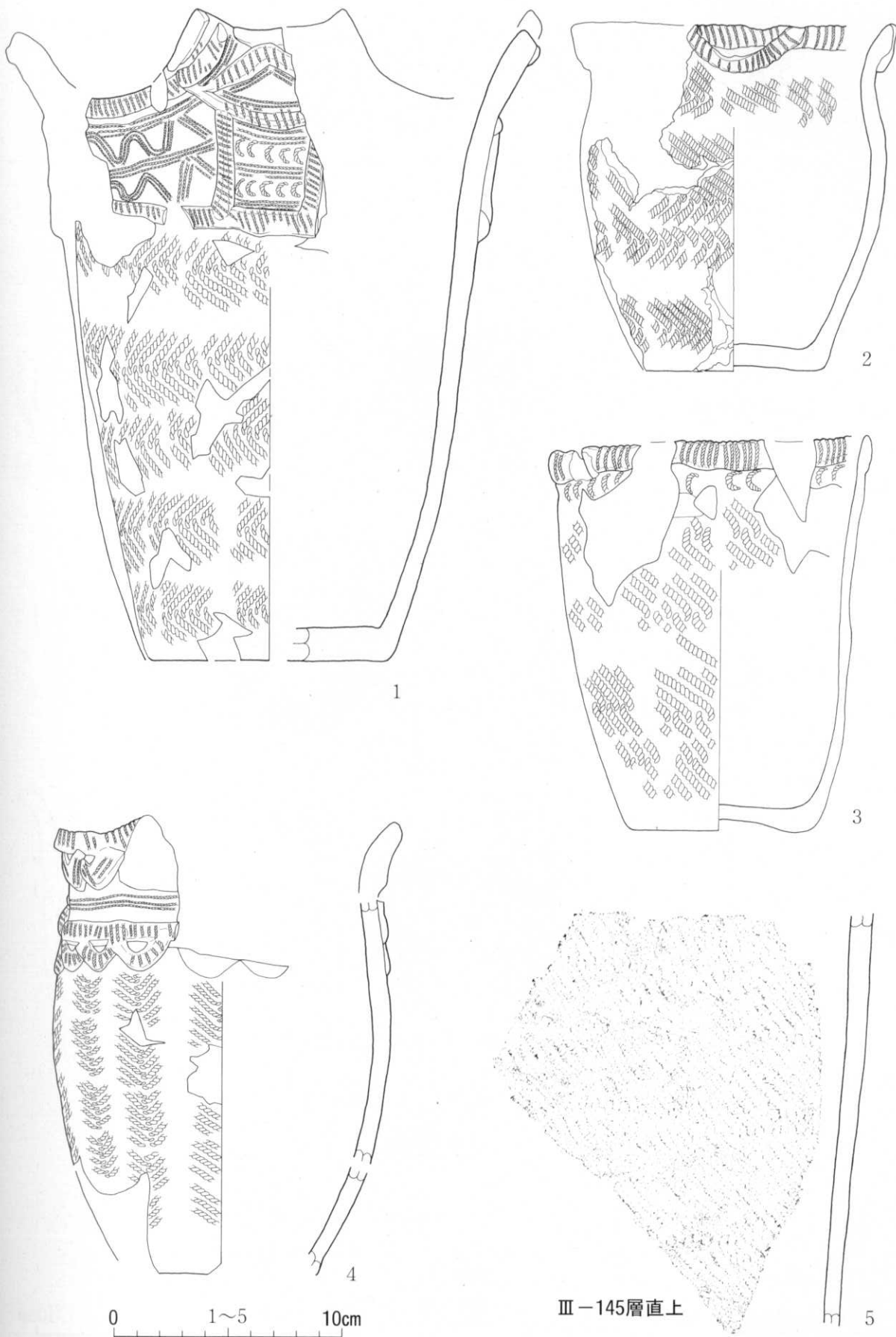
第144'層

VIL・M-119・120に幅約0.35m、最大厚2cmで分布する。第IV層に接し、ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄色褐色 (10YR4/3) のローム土主体層である。非常に薄く堆積する。遺物は出土しなかった。

なお第145層直上からは、円筒上層 a・b 式土器が復元個体を含み多数出土した。76-1 は波頂部下の2条の貼付隆帯間に馬蹄形押圧が見られる。76-3 は平縁の頸部に馬蹄形押圧が一巡する。石器は石筥ないし石槍と思われる両面加工石器 (78-1)、不定形石器、敲打痕と磨痕をもつ礫 (78-5) が出土した。78-6 は焼成粘土塊である。

第IV層 (=第145層)

厚さ20~40cmである。堆積土は黒褐色 (10YR2/1) 土で、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期円筒下層式土器片が少量、石器は削器ないし搔器 (79-9・11)、敲打痕のある礫 (79-10) が出土した。

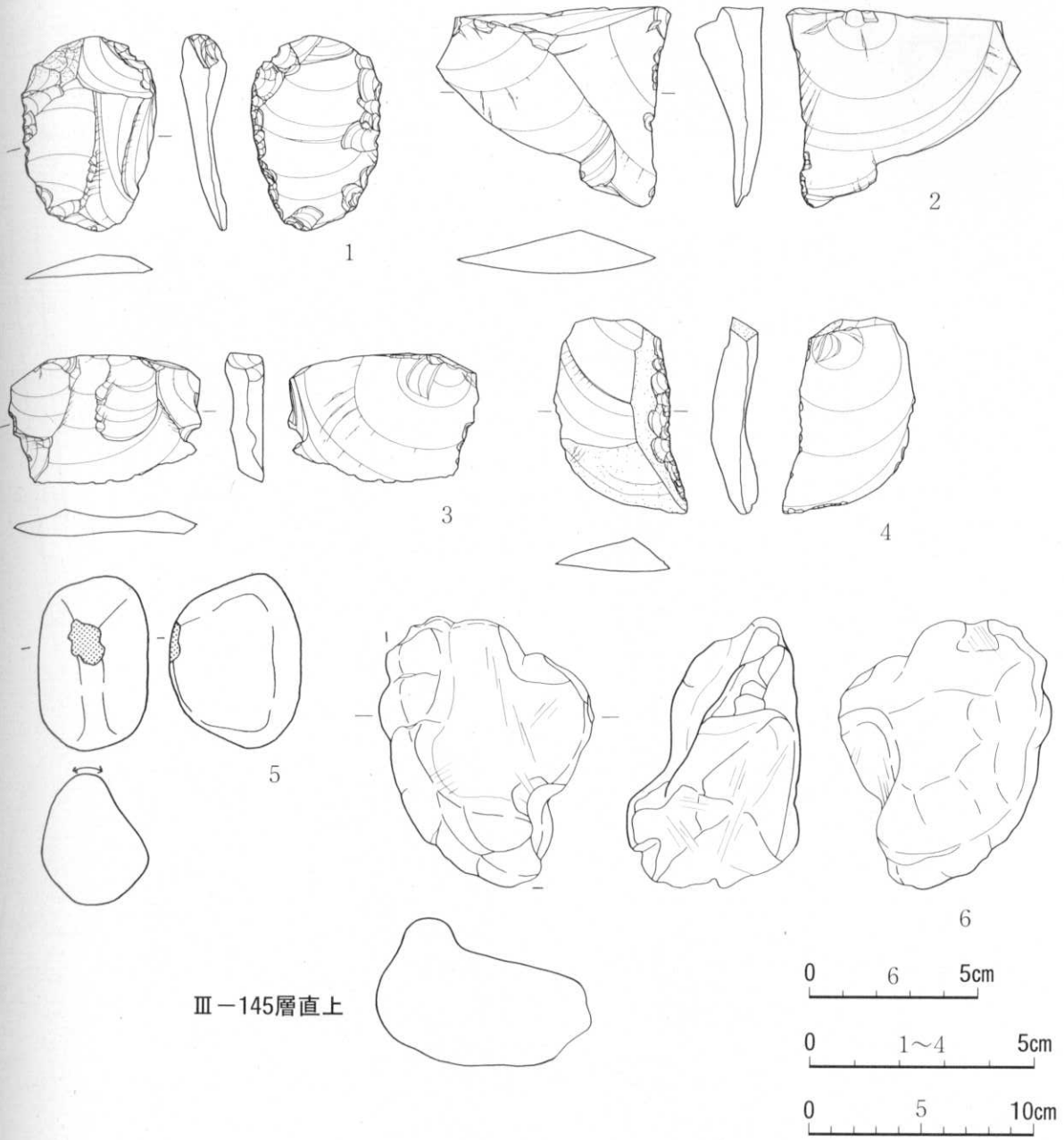


Ⅲ-145層直上

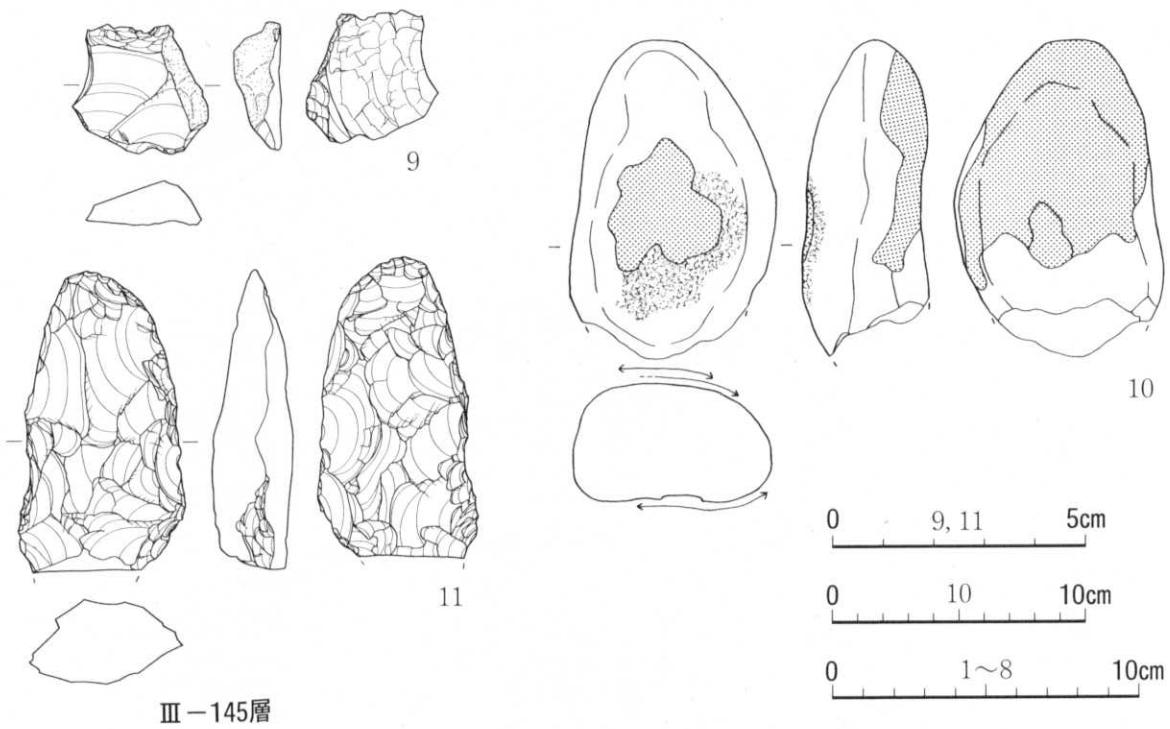
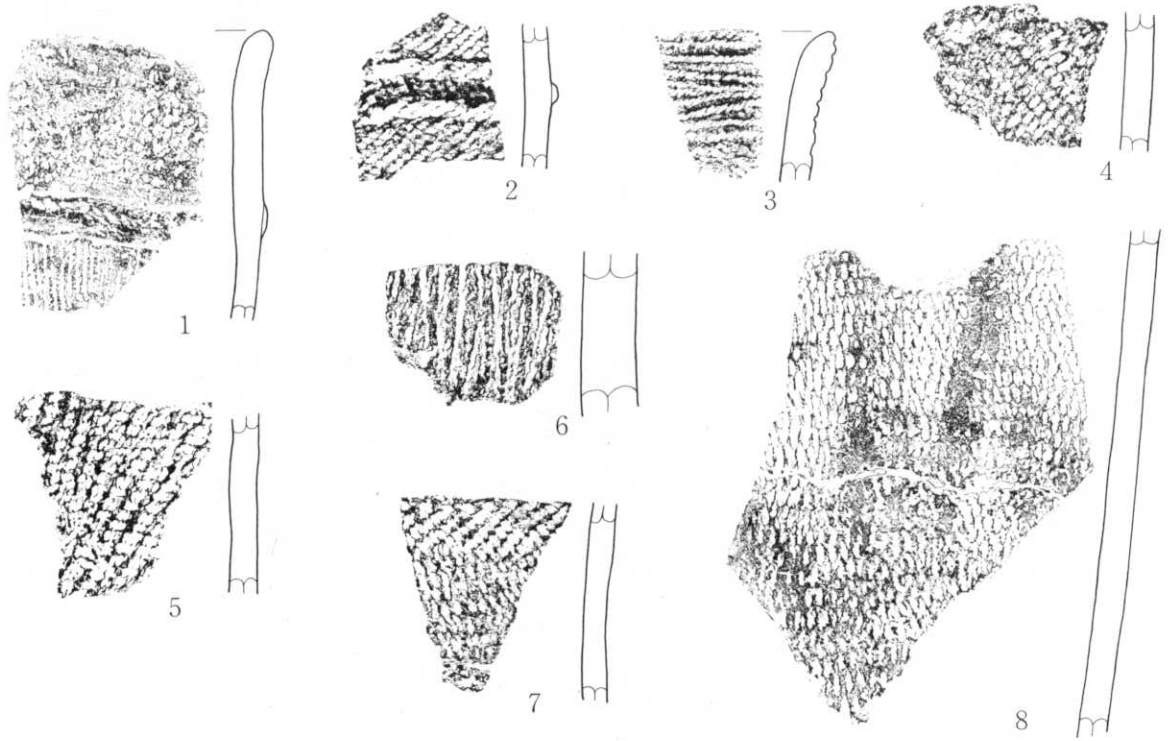
76図 1 トレンチⅢ-145層直上出土遺物 (1)



77図 1 トレンチⅢ-145層直上出土遺物 (2)

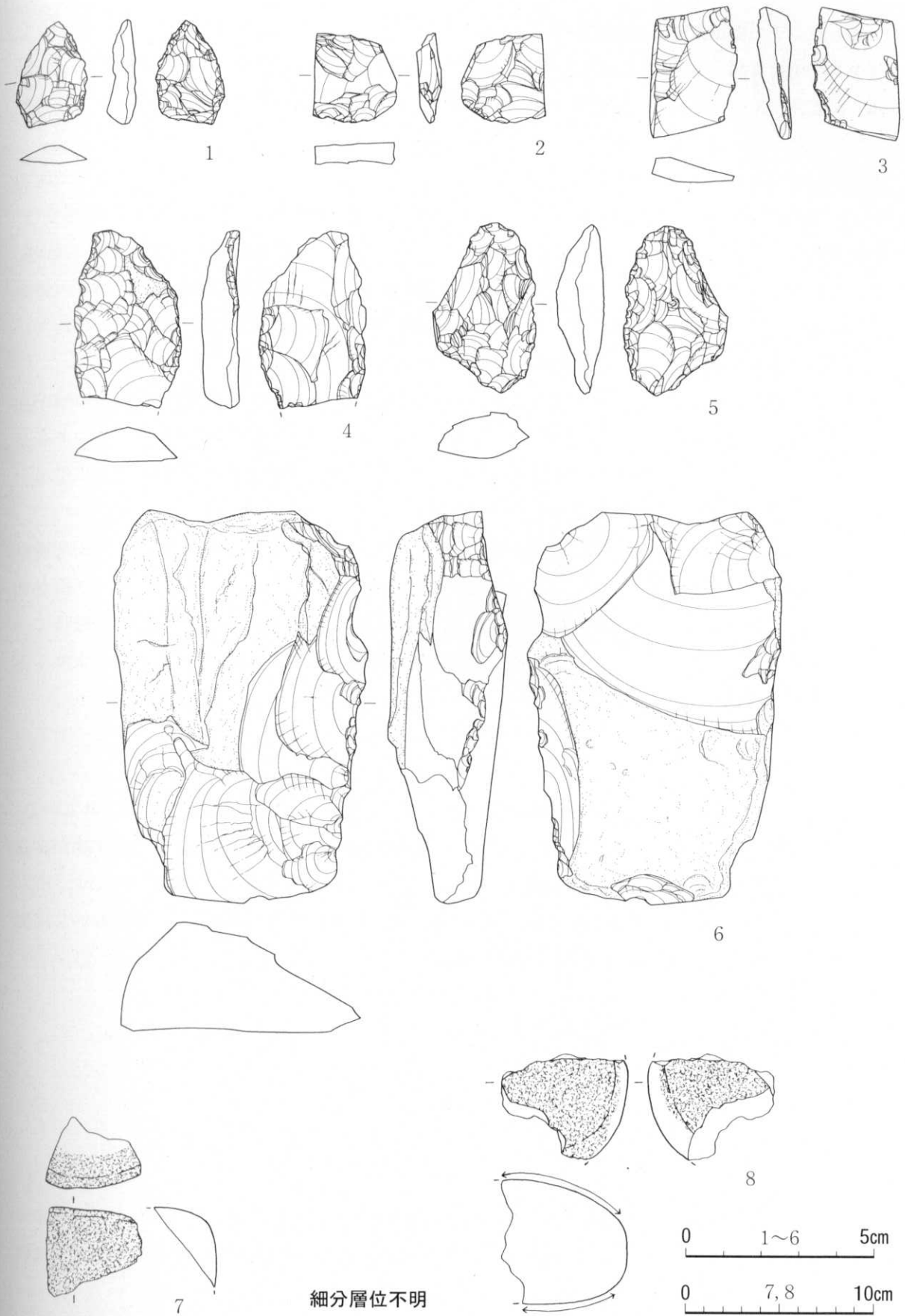


78図 1 トレンチⅢ-145層直上出土遺物 (3)



Ⅲ-145層

79図 1 トレンチⅢ-145層直上出土遺物



80図 1 トレンチ細分層位不明出土遺物

(2) 4トレンチの検出遺構と出土遺物

4トレンチはVIM～P-119に位置する。120ラインに沿って設定したトレンチを、北側に50cm幅で拡張した範囲である。確認面の標高は、18.9～18.8mと平坦である。確認面から第IV層上面までの厚さは150～175cmである。第IV層の厚さは28～47cmである。

本トレンチからの検出遺構は盛土層を除去後に土坑を1基検出した。これについては、すでに報告済み（青森県教委2005『三内丸山遺跡27』青森県埋蔵文化財調査報告書第405集）であるので割愛し、写真掲載のみに止める。時期は、盛土層下の確認であることから、中期初頭以前のものと考えられる。また、第57層で6個の礫の集積を検出した。同様の遺構は、同じ南盛土内でも検出されており（青森県教委2006『三内丸山遺跡30』青森県埋蔵文化財調査報告書第423集）、配石遺構として報告されている。そのためこれを踏襲し、配石遺構として報告する。第57層の項で触れる。

盛土部分は89層に細分した。時期は最花式期から円筒上層a式期である。層厚は10cmほどの層が多いが、最大厚が25cmにもなる層も見られ、1トレンチに比べると厚い層として認識した。このトレンチの記載に当たっては、各層の広がりや厚さ、構成する土質、出土遺物について触れることにする。

以下に、各層の堆積土と出土遺物について述べる。

なお、本トレンチのほぼ中央で風倒木痕が確認された。幅2.9m、深さ約70cmの規模で、盛土を攪乱している。風倒木内部も分層し、4トレンチの通し番号を付している。第6～10、19～23、26層が相当する。これら風倒木内からも遺物は出土している。それらについては4トレンチの記載の最後に一括して触れることにする。層ごとの記載には上記の風倒木内堆積土は含めないものとする。また、草木根と見られる攪乱も4カ所確認された。

第1層

VIN・O-119・120に幅約2.0m、最大厚25cmで分布する。層東側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒褐色（10YR2/3）土を主体とし、炭化物が多量に、ローム粒・焼土粒が少量含まれる。遺物は、土器は最花式土器片を主体に、多量に出土した。82-7は無文で、台部の可能性もある。82-9は底部に格子状の圧痕が見られる。石器は削器ないし搔器（82-10）、両面加工石器（82-11～14）が計5点出土した。

第2層 欠番

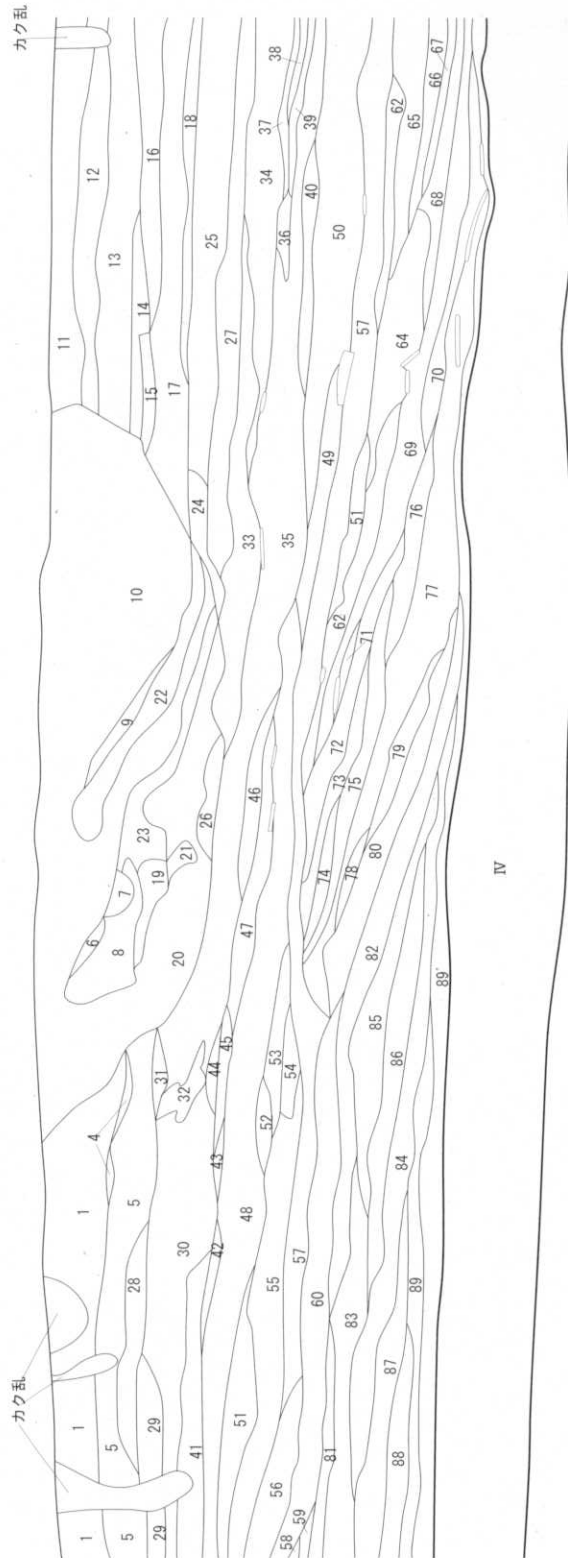
第3層 欠番

第4層

VIN-119・120に幅約0.6m、最大厚3cmで分布する。第5層の落ち込みに入り込んだように堆積する。堆積土は黒褐色（10YR3/2）土を主体とし、ローム粒が多量、褐色土が中量、炭化物が微量含まれる。第1層より暗い色調である。遺物は出土しなかった。

北壁

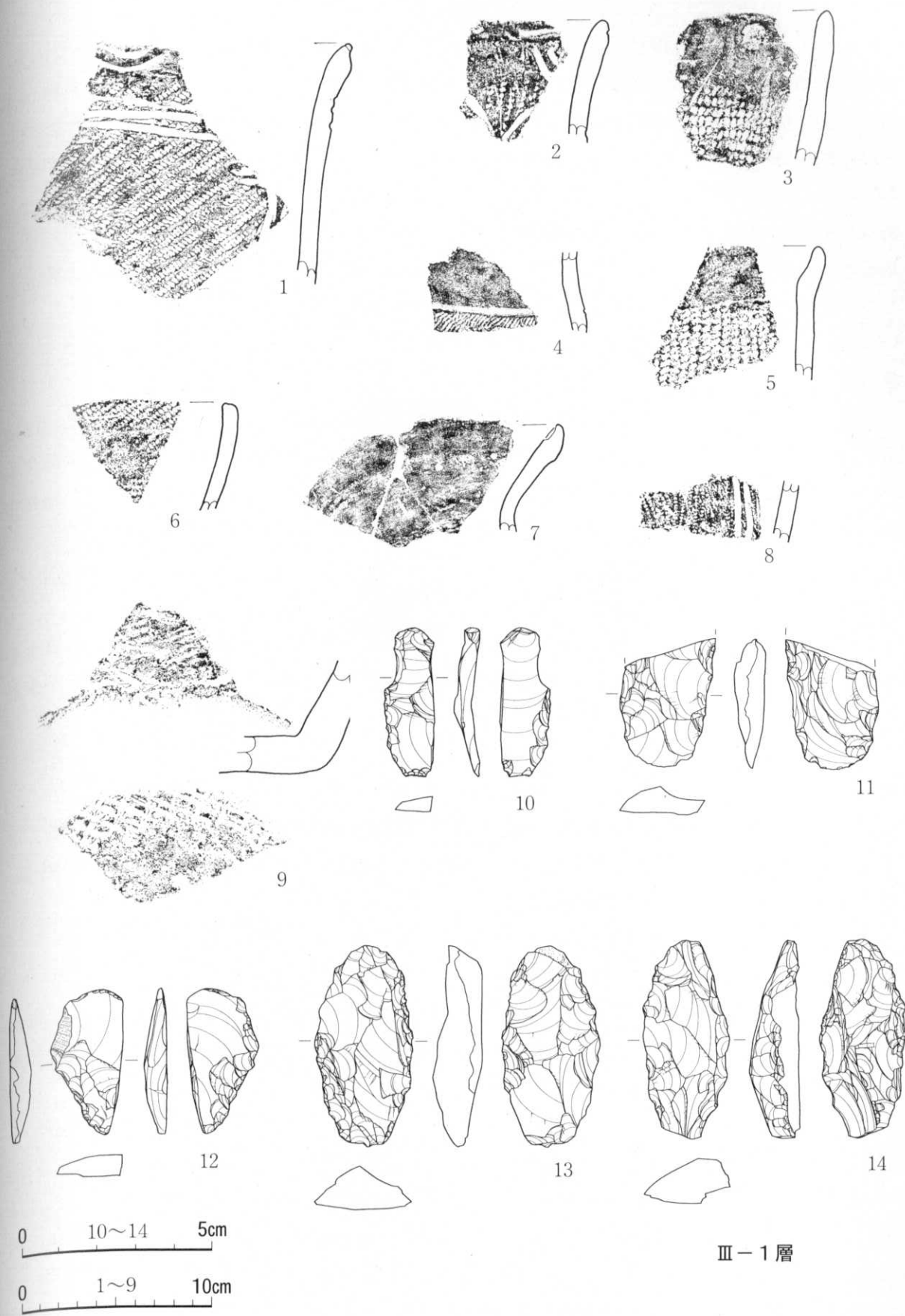
— 19.30m



81図 4トレンチ北壁土層断面

4トレンチ土層注記

1	黒褐	10YR2/3	炭化物中量、焼土粒・ローム粒少量
2	欠		
3	欠		
4	黒褐	10YR3/2	ローム粒多量、褐色土中量、炭化物微量 (1層より暗い)
5	暗褐	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量
6	黒	10YR2/1	風倒木堆積土
7	黒褐	10YR2/3	風倒木堆積土、炭化物・ローム粒少量
8	褐	10YR4/4	風倒木堆積土、炭化物微量
9	暗褐	10YR3/3	風倒木堆積土、炭化物少量
10	黒	10YR1.7/1	風倒木堆積土、炭化物少量、焼土粒微量
11	黒褐	10YR2/2	炭化物微量、焼土粒極微量
12	褐	10YR4/4	ローム主体、暗褐色土少量
13	黒褐	10YR3/2	ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量
14	黒褐	10YR2/2	炭化物、焼土粒微量
15	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物微量
16	暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量
17	黒褐	10YR3/2	炭化物・灰白色粘土粒中量、ローム粒微量
18	褐	10YR4/4	ローム主体、炭化物・黒褐土微量
19	暗褐	10YR3/3	風倒木堆積土、炭化物少量
20	黒	10YR2/1	風倒木堆積土、ローム粒多量、炭化物少量 (1層と同じ?)
21	にぶい黄褐	10YR5/4	風倒木堆積土、ローム主体、炭化物少量
22	褐	10YR4/6	風倒木堆積土、炭化物少量、焼土粒微量
23	暗褐	10YR3/3	風倒木堆積土
24	褐	10YR4/6	ロームと黒褐土との混土层
25	暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物・灰白色粘土粒少量
26	褐	10YR4/6	風倒木堆積土、ローム主体、炭化物・焼土粒含む
27	褐	10YR4/4	ローム多量、炭化物・焼土粒少量
28	暗褐	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量
29	暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量、28・30層よりも明るい
30	黒褐	10YR3/2	炭化物多量、ローム粒・灰色粘土少量、35層と同一層
31	褐	10YR4/6	ローム主体、暗褐色土中量、炭化物少量
32	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、炭化物少量
33	暗褐	10YR3/4	ロームと黒褐土との混土、34層より明るく、27層より暗い
34	暗褐	10YR3/3	炭化物・灰白色粘土粒多量、ローム粒・焼土粒微量
35	黒褐	10YR2/2	炭化物中量、焼土粒・ローム粒少量
36	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物微量
37	黒	10YR2/1	炭化物層
38	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒微量
39	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊多量、炭化物微量
40	黒	10YR2/1	ローム粒微量
41	暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量
42	にぶい黄褐	10YR5/4	ローム主体層、43層と同一
43	にぶい黄褐	10YR5/4	ローム主体層
44	褐	10YR4/4	ローム主体、黒褐土少量
45	黒褐	10YR2/2	炭化物微量
46	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物微量、43層と同一?
47	暗褐	10YR3/4	炭化物・焼土粒少量
48	黒褐	10YR3/2	ローム粒・炭化物多量、灰白色粘土少量、焼土粒微量
49	黒褐	10YR3/1	炭化物多量
50	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物少量
51	黒褐	10YR2/2	炭化物中量、ローム粒少量、灰色粘土・焼土粒微量
52	褐	10YR4/4	ローム主体、炭化物少量、焼土粒微量
53	暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量、焼土粒微量
54	黒褐	10YR3/2	炭化物多量、ローム粒・焼土粒微量
55	暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量、焼土粒ごく微量
56	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒多量
57	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊・炭化物多量、焼土粒微量
58	暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量
59	黒褐	10YR2/2	炭化物・焼土粒少量
60	暗褐	10YR3/3	ローム塊・粒少量、炭化物・浮石粒少量
61	黒	10YR2/1	炭化物多量
62	褐	7.5YR4/6	焼土多量、炭化物中量
63	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒・ローム粒少量
64	暗褐	10YR3/3	黒褐土とロームの混合土
65	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊・炭化物多量、焼土粒微量
66	黄褐	10YR5/8	ローム主体層、炭化物多量、灰白色粘土粒・焼土粒微量
67	暗褐	10YR3/4	ローム粒少量
68	黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物微量
69	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層
70	黒褐	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物・焼土粒少量
71	にぶい黄橙	10YR6/3	粘土主体、密なブロック状、暗褐色土少量混入
72	暗褐	10YR3/3	炭化物少量、焼土粒微量
73	黒	10YR2/1	炭化物層、暗褐色土少量
74	褐	10YR4/6	ローム主体、黒褐土少量
75	暗褐	10YR3/4	ローム塊多量、炭化物少量
76	黒褐	10YR2/2	ローム粒・炭化物少量
77	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物中量、焼土粒微量
78	黒褐	10YR3/1	炭化物微量
79	暗褐	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量
80	黒褐	10YR2/3	ローム粒・炭化物少量 (79層より暗い)
81	褐	10YR4/6	暗褐色斑状、ローム粒少量
82	黒	10YR2/1	炭化物層
83	暗褐	10YR3/3	炭化物多量、ローム粒・灰色粘土少量、褐色土斑状
84	褐	10YR3/3	ローム主体層、密なブロック状で縮まりなし、炭化物微量
85	暗褐	10YR3/3	炭化物・焼土粒中量
86	褐	10YR4/6	ローム主体、緻密でしまり強、炭化物極微量
87	暗褐	10YR3/4	ローム粒少量、炭化物微量
88	黒褐	10YR3/2	炭化物少量
89	黒褐	10YR2/2	粘性強、炭化物少量



82図 4トレンチⅢ-1層出土遺物

第5層

VIN・O-119・120に幅約2.1m、最大厚15cmで分布する。層東側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム粒が多量に、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器を主体に、多量に出土した。83-1は口唇部に凹状沈線が施文され胴部は地文のみの土器である。また、83-15は沈線で同心円が描かれている。石器も多数出土した。石鏃の未製品(83-17)、剥片(83-18)、石錐(83-19)、使用痕のある剥片(84-1)、異形石器の可能性のある両面加工石器(84-2)、削器ないし搔器(84-3)、使用痕のある剥片(84-4・5)、剥片(84-6)、磨痕のある礫(84-7)がある。ほかに、土製品として、土偶の右胸片が1点、ミニチュア土器の底部片が2点出土した。

第11層

VIM-119・120に幅約1.5m、最大厚13cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が微量、焼土粒がごく微量含まれる。遺物は、土器は最花式土器小片を主体に、ごく微量に出土した。86-3は縦位の沈線が施文されている。石器では、石器断片(86-4)、削器ないし搔器(86-5)がそれぞれ1点出土した。

第12層

VIM-119に幅約1.6m、最大厚12cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム土を主体とし、暗褐色土が少量に含まれる。遺物は出土しなかった。

第13層

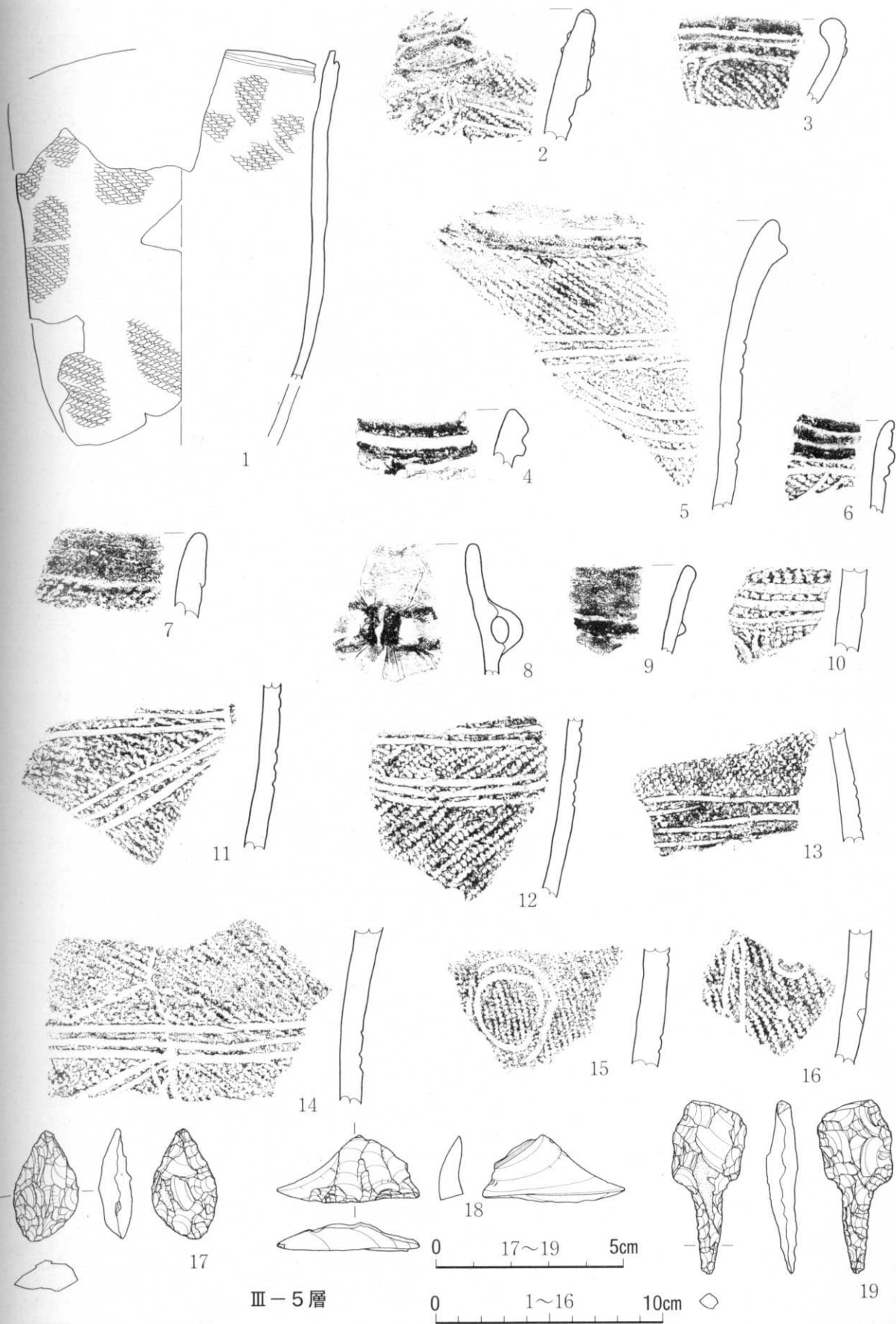
VIM-119・120に幅約1.65m、最大厚14cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第14層

VIM-119・120に幅約0.9m、最大厚6cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

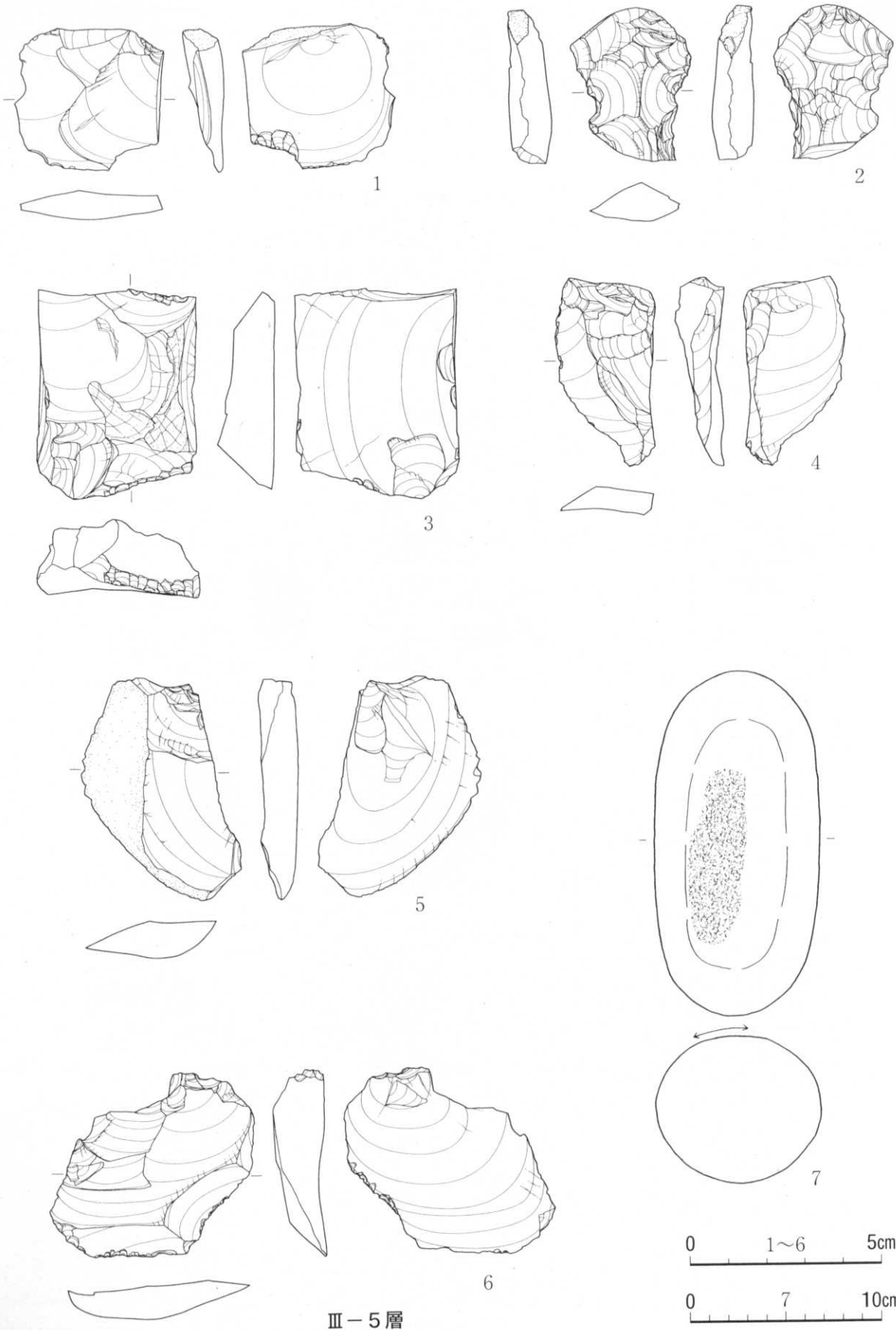
第15層

VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚4cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚は薄くほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

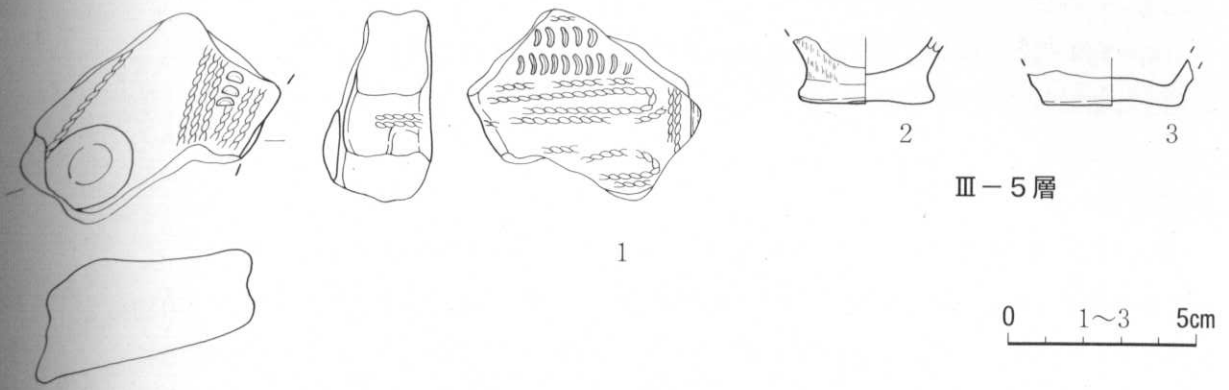


III-5層

83図 4トレンチIII-5層出土遺物(1)



84図 4トレンチIII-5層出土遺物(2)



85図 4トレンチⅢ-5層出土遺物(3)

第16層

VIM-119・120に幅約1.2m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、東側に向かって厚くなる。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第17層

VIM-119・120に幅約2.05m、最大厚15cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚は風倒木側がやや厚いもののほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物・灰白色粘土粒が中量、ローム粒が微量含まれる。遺物は、石器は被熱痕のある有茎鏃(86-18)、磨痕と敲打による凹みをもつ礫(86-19)が出土した。

第18層

VIM-119・120に幅約1.45m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚は薄く、ほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム土を主体とし、炭化物・黒褐色土が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第24層

VIM・N-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。層東側はほぼ水平な堆積で、西側は第27・33層の落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土は褐色(10YR4/6)土を主体とし、ロームと黒褐色土との混合土層である。遺物は、円筒上層式土器の突起部片が出土した。

第25層

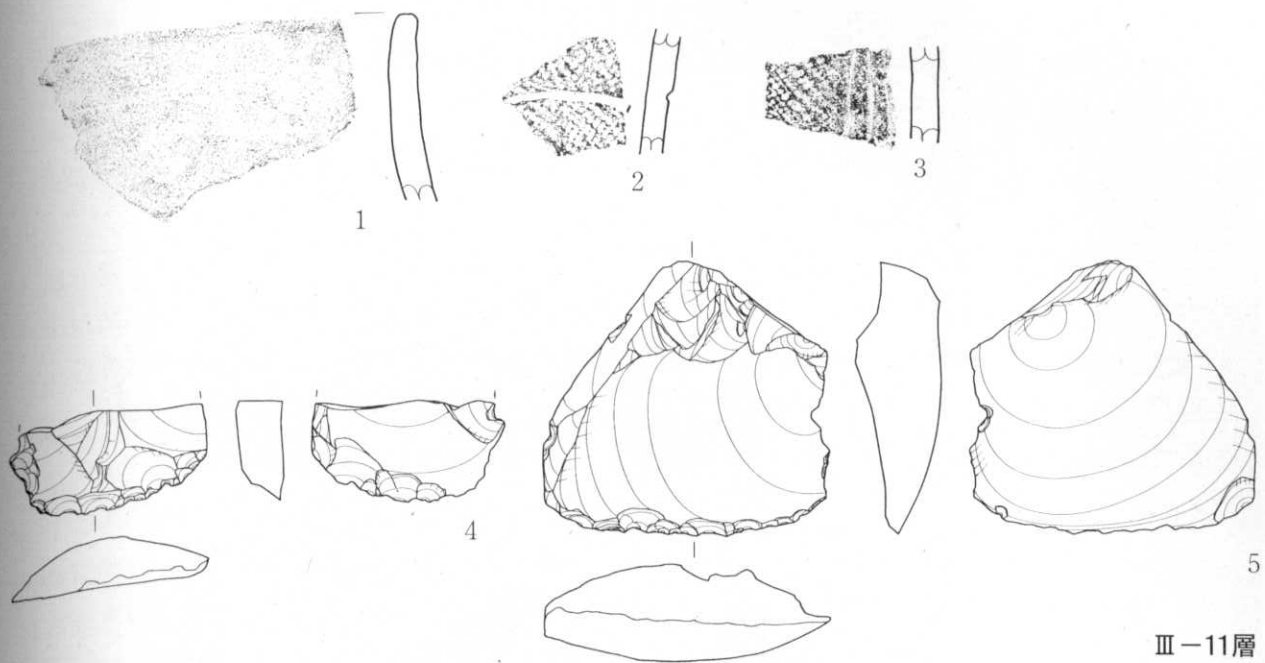
VIM-119・120に幅約1.9m、厚さ15cmで分布する。いく分東側へ低く傾斜し、層厚も増すようだが、ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物・灰白色粘土粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層e式土器片が少量出土した。沈線文が施文されたものや地文のみのものがある。石器では、石鏃の未製品(87-12)、磨痕のある礫(87-13・14)が出土した。

第27層

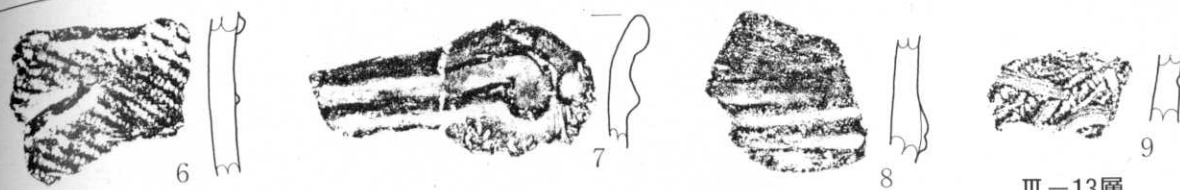
VIM・N-119・120に幅約2.2m、最大厚11cmで分布する。やや東側へ低く傾斜し、層厚は薄くなるが、ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、ローム粒が多量、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第28層

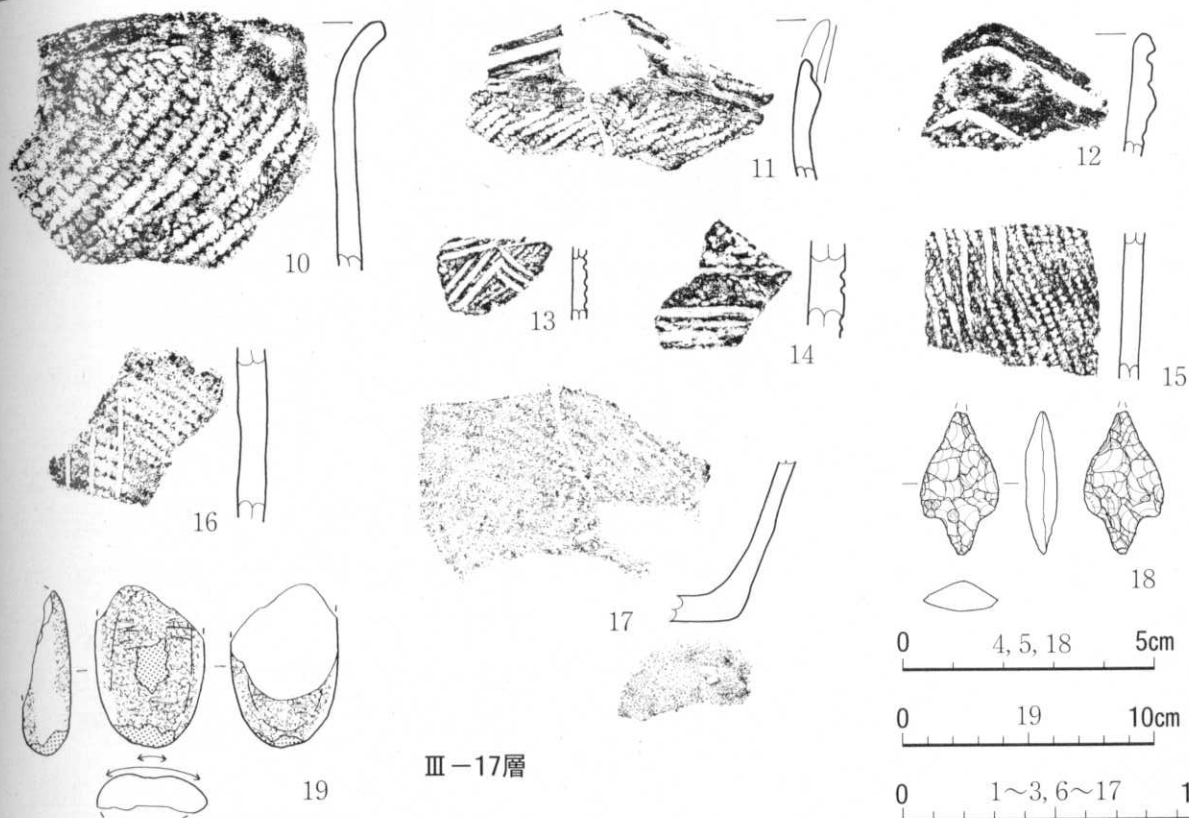
VIM-119・120に幅約1.0m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。



Ⅲ-11層



Ⅲ-13層



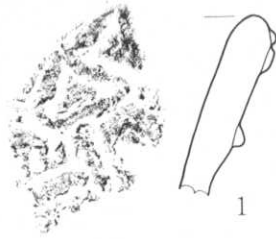
Ⅲ-17層

0 4, 5, 18 5cm

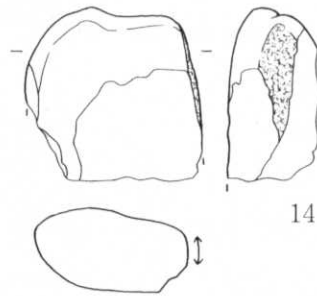
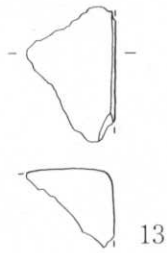
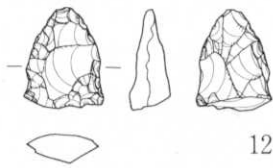
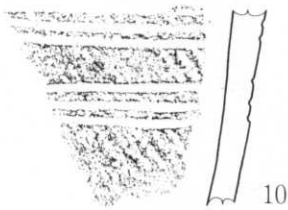
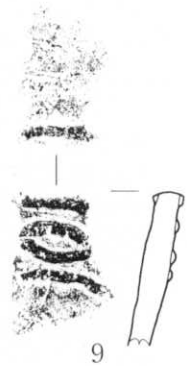
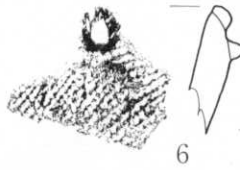
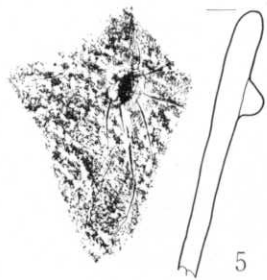
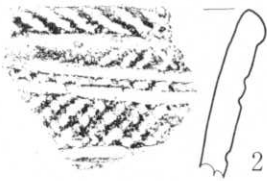
0 19 10cm

0 1~3, 6~17 10cm

86図 4トレンチⅢ-11・13・17層出土遺物



III-24層



III-25層

0 12 5cm

0 13, 14 10cm

0 1~11 10cm

87図 4トレンチIII-24・25層出土遺物

第29層

VIN・O-119・120に幅約0.7m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、第30層の落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。上下層の第28・30層よりも明るい色調である。遺物は出土しなかった。

第30層

VIN・O-119・120に幅約1.9m、厚さ26cmで分布する。全体的にやや東側へ傾斜し、層厚も増す。第32層で分断されるが、第35層と同一層である可能性が高い。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒・灰色粘土が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が多量に出土した。地文施文後の貼付隆帯が施文されたものが多い。89-2は復元個体であるが、他の出土土器より古い段階のものである。また、89-4は波頂部下に渦巻き状沈線が描かれている。石器も多量に出土した。有茎鏃(89-5・8)、石鏃を転用した石錐(89-6)、欠損している石鏃(89-7)、石鏃未製品(89-9)、使用痕のある剥片(89-10・12・14・15)、縦形石匙(89-13、90-1)、被熱している石器断片(90-2)、削器ないし搔器(90-3)、ハンマーの可能性もある敲打痕のある礫(90-4)、磨痕のある礫(90-5・7)、敲打による凹をもつ礫(90-6)、石棒(90-8)がある。土製品は、中央に穿孔のある丸玉(91-1)、半割したクルミ核の内側に粘土を押しつけたクルミ押圧土製品(91-2・3)が出土した。

第31層

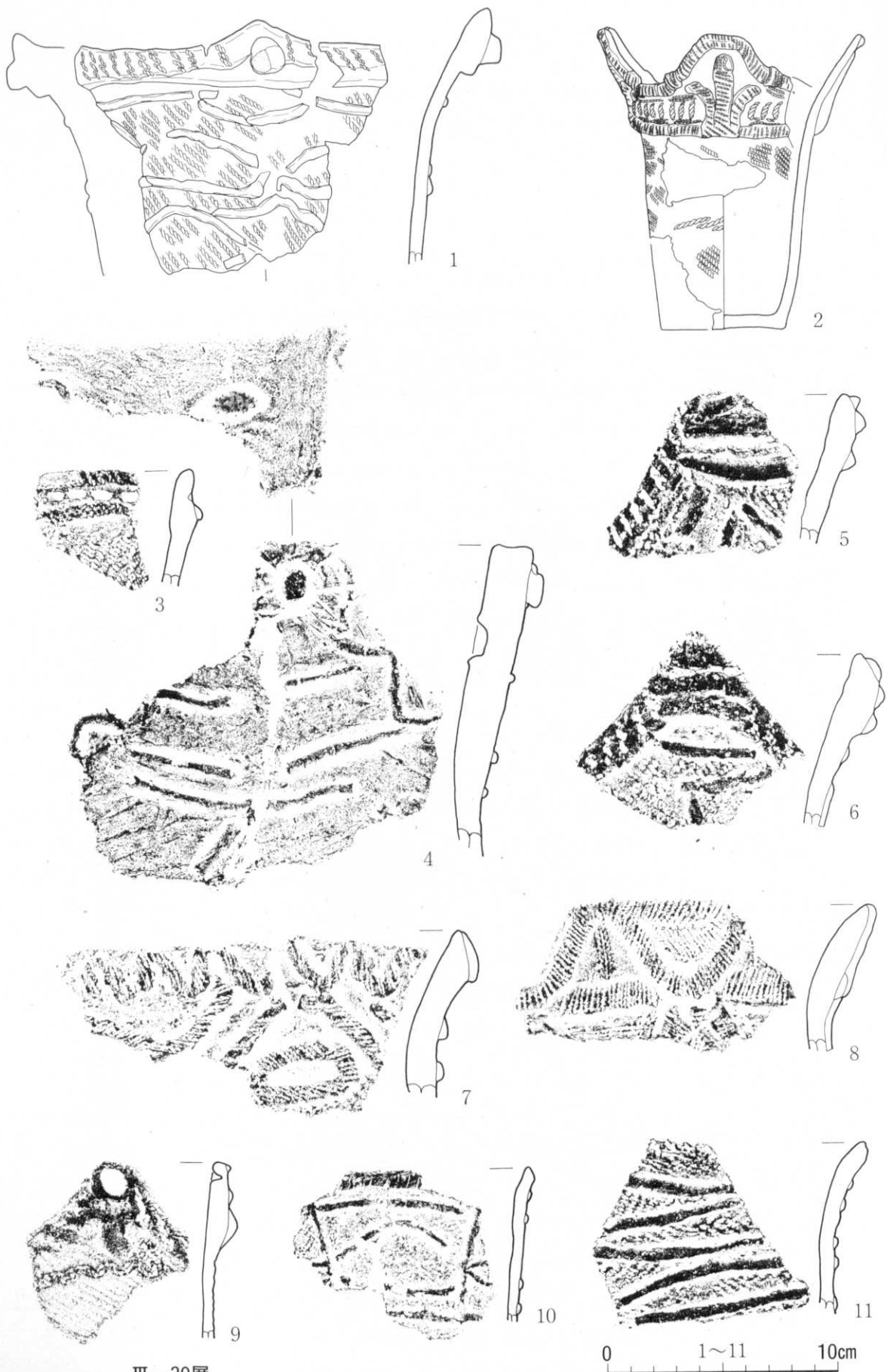
VIN・O-119・120に幅約0.3m、最大厚7cmで狭い範囲に分布する。第35層の落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、暗褐色土が中量、炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第32層

VIM・N-119に幅約0.3m、最大厚15cmで分布する。層の堆積状況から、攪乱により形成されたものと考えられる。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム土を主体とし、炭化物が少量に含まれる。遺物は出土しなかった。

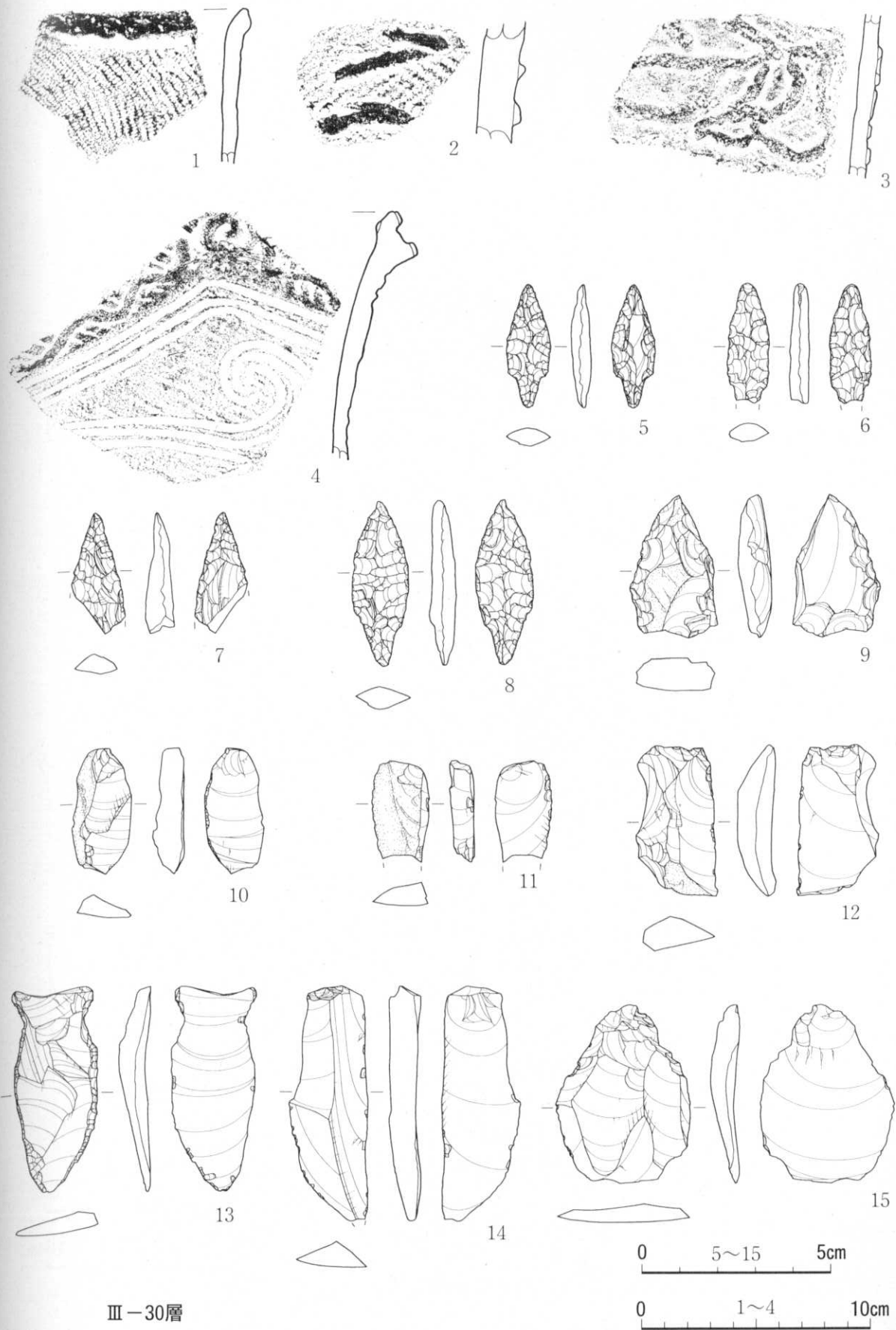
第33層

VIM・N-119・120に幅約2.15m、最大厚14cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。若干東側へ傾斜し、層厚を減じながら堆積する。層上面はやや起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体としたロームと黒褐色土との混合土である。上下層の第34層より明るく、第27層より暗い色調である。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体に出土した。91-8は横位と渦巻き状の沈線文が施文されたものである。石器では、使用痕のある剥片(91-9~11)、磨痕のある礫(91-12)が出土した。

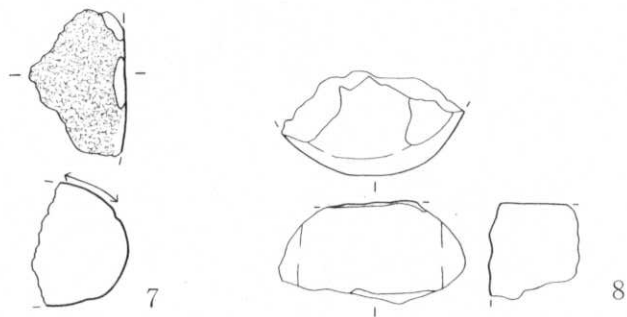
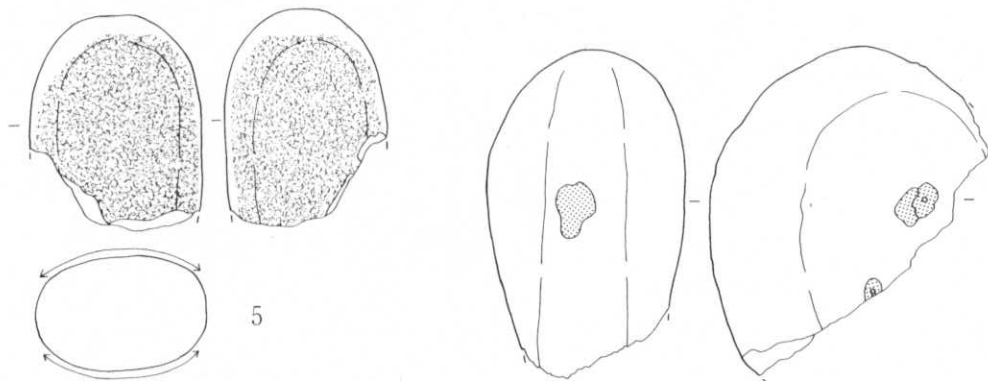
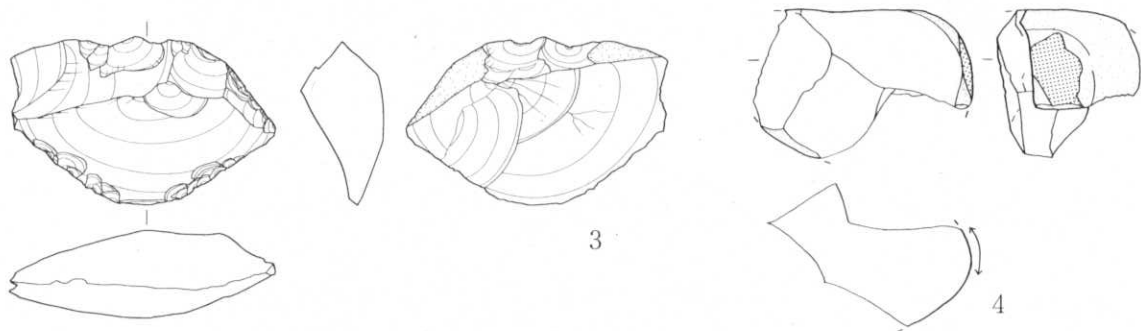
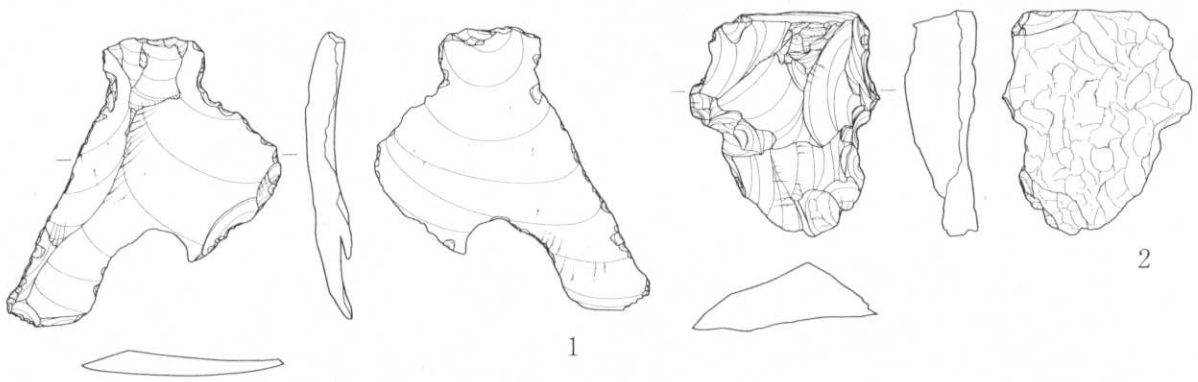


III-30層

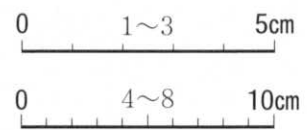
88図 4トレンチIII-30層出土遺物(1)



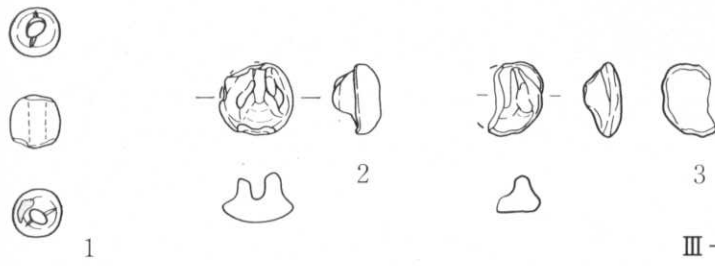
89図 4トレンチⅢ-30層出土遺物(2)



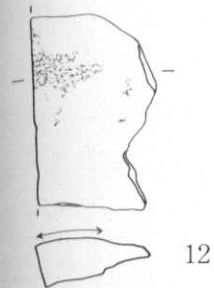
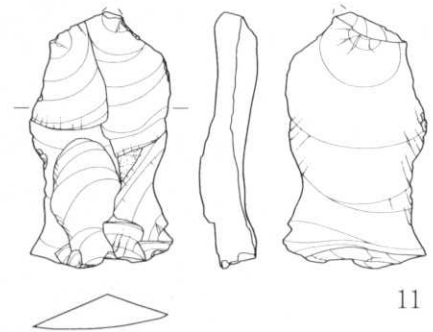
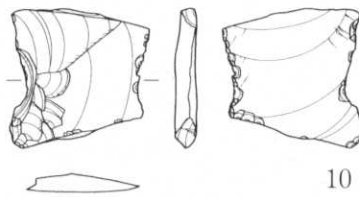
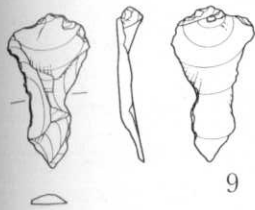
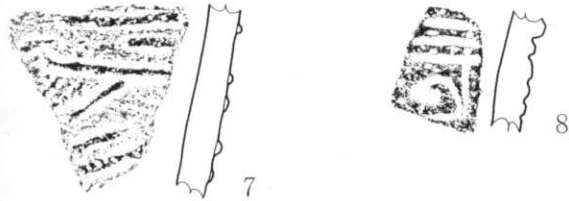
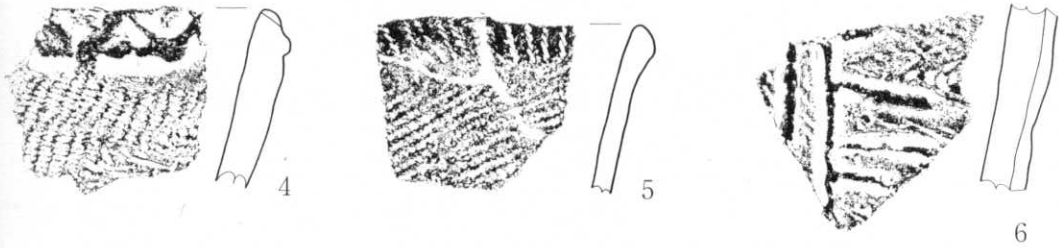
Ⅲ-30層



90図 4トレンチⅢ-30層出土遺物(3)



Ⅲ-30層



Ⅲ-33層

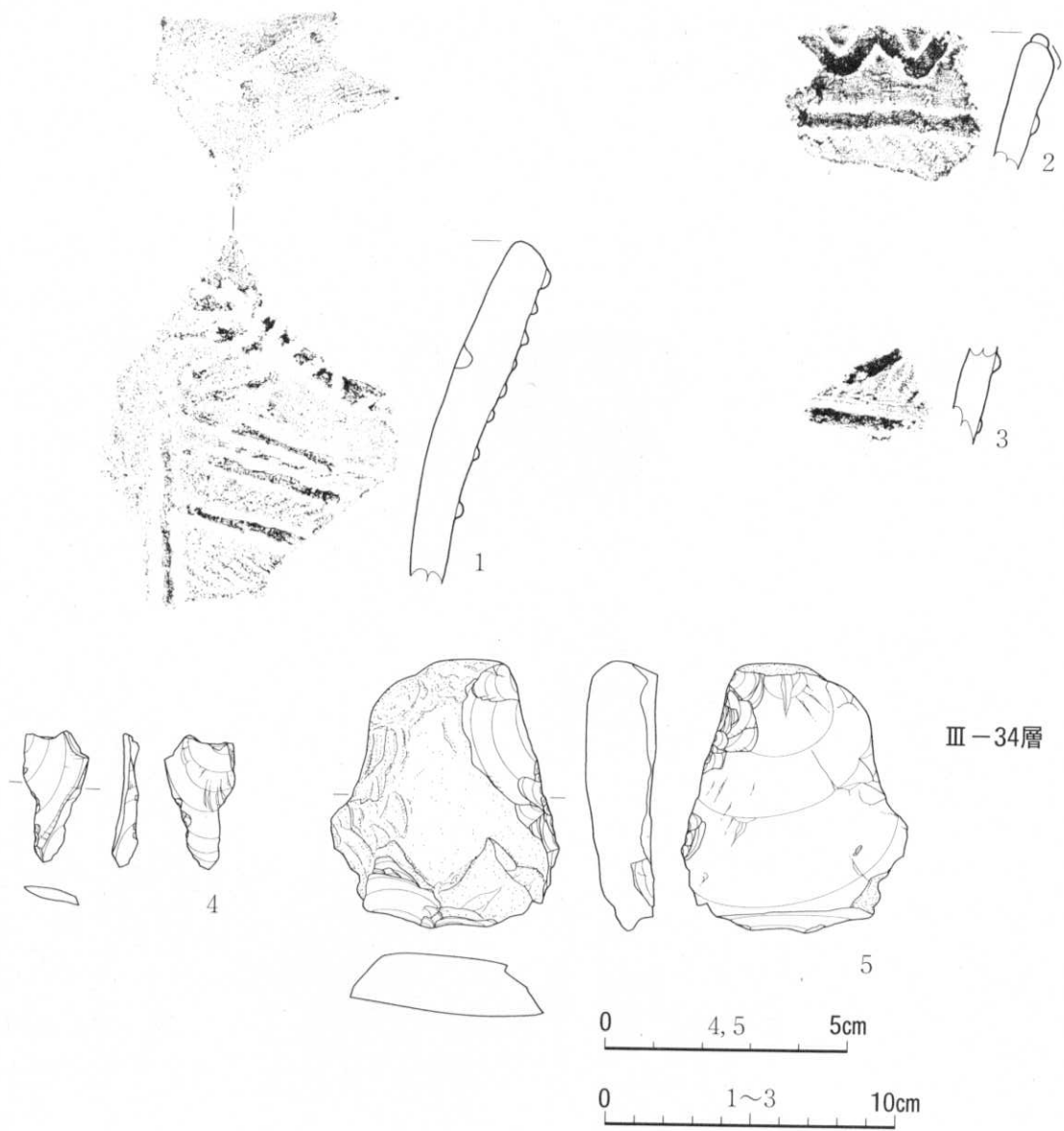
0 1~3 5cm

0 9~11 5cm

0 12 10cm

0 4~8 10cm

91図 4トレンチⅢ-30層出土遺物(4)・33層出土遺物



92図 4 トレンチⅢ-34層出土遺物

第34層

VIM-119・120に幅約1.8m、最大厚15cmで分布する。若干東側へ傾斜するものの、ほぼ水平な堆積で、厚さは西側で薄くなる。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物・灰白色粘土粒が多量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体に少量出土した。石器は使用痕のある剥片(92-4)、玉髓製の削器ないし搔器(92-5)が出土した。

第35層

VIM・N-119・120に幅約4.3m、最大厚22cmで分布する。上面の一部を風倒木によって壊されている。東側へ向かって低く傾斜して堆積し、層厚は東側で薄くなる。上述のように、第30層と同一層である可能性が高い。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が中量、焼土粒・ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器はある程度復元し得たものを含めて多量に出土した。円筒上層d式土器が主体である。94-1は貼付隆帯間に刺突が加わるものである。石器では、使用痕のある剥片(94-10)、凹基鏃(94-11)、二次加工剥片(94-12)、ハンマーの可能性のある敲打痕が観察される礫(95-1)が出土した。

第36層

VIM-119・120に幅約0.35m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第37層

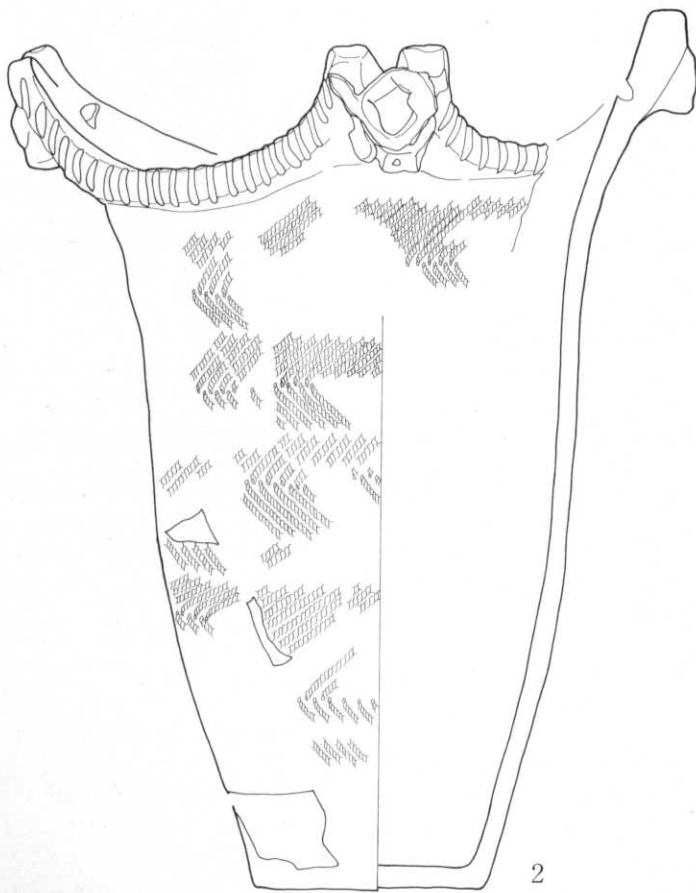
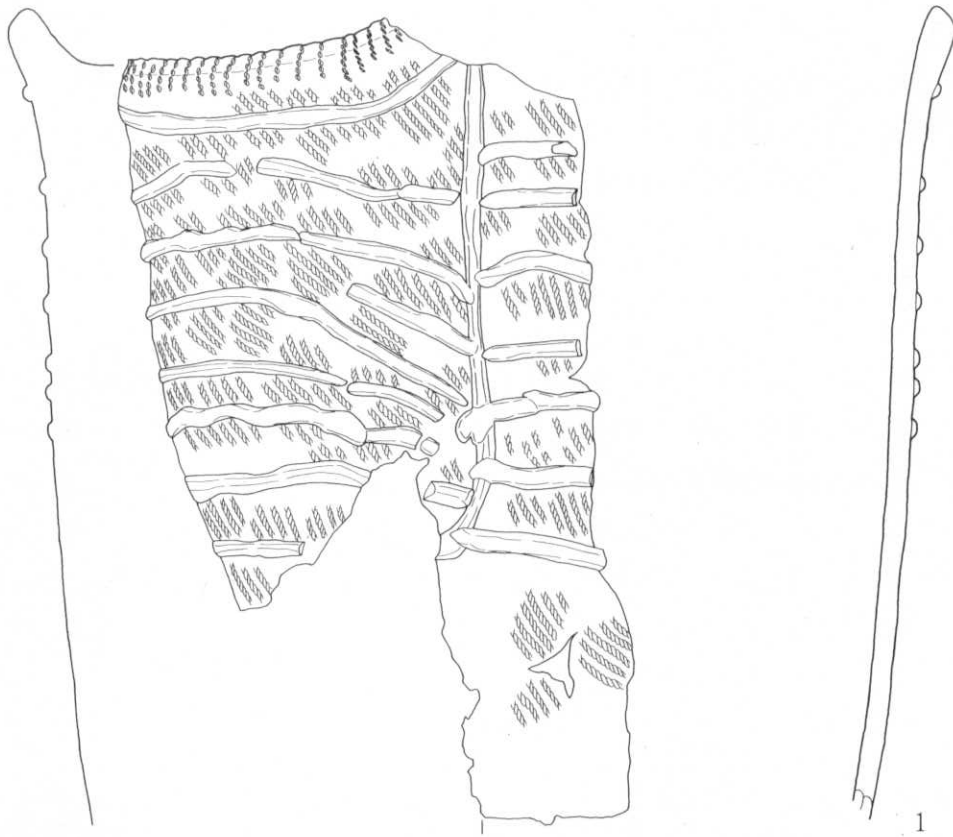
VIM-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。やや東側へ低く傾斜して堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物層である。遺物は、土器は円筒上層d式土器片がごく少量出土した。また、土製品では、95-3は棒状の側縁に刻みを入れたものが、石製品では軽石製で「J」字状に成形したもの(95-4)が出土した。

第38層

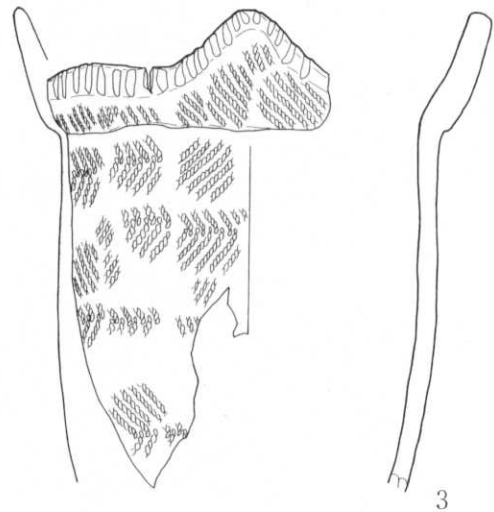
VIM-119・120に幅約0.4m、最大厚3cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、円筒上層d式土器片が少量出土した。96-1は比較的大型の破片で、第37層から出土した破片と接合したものである。

第39層

VIM-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は薄く均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・塊が多量、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

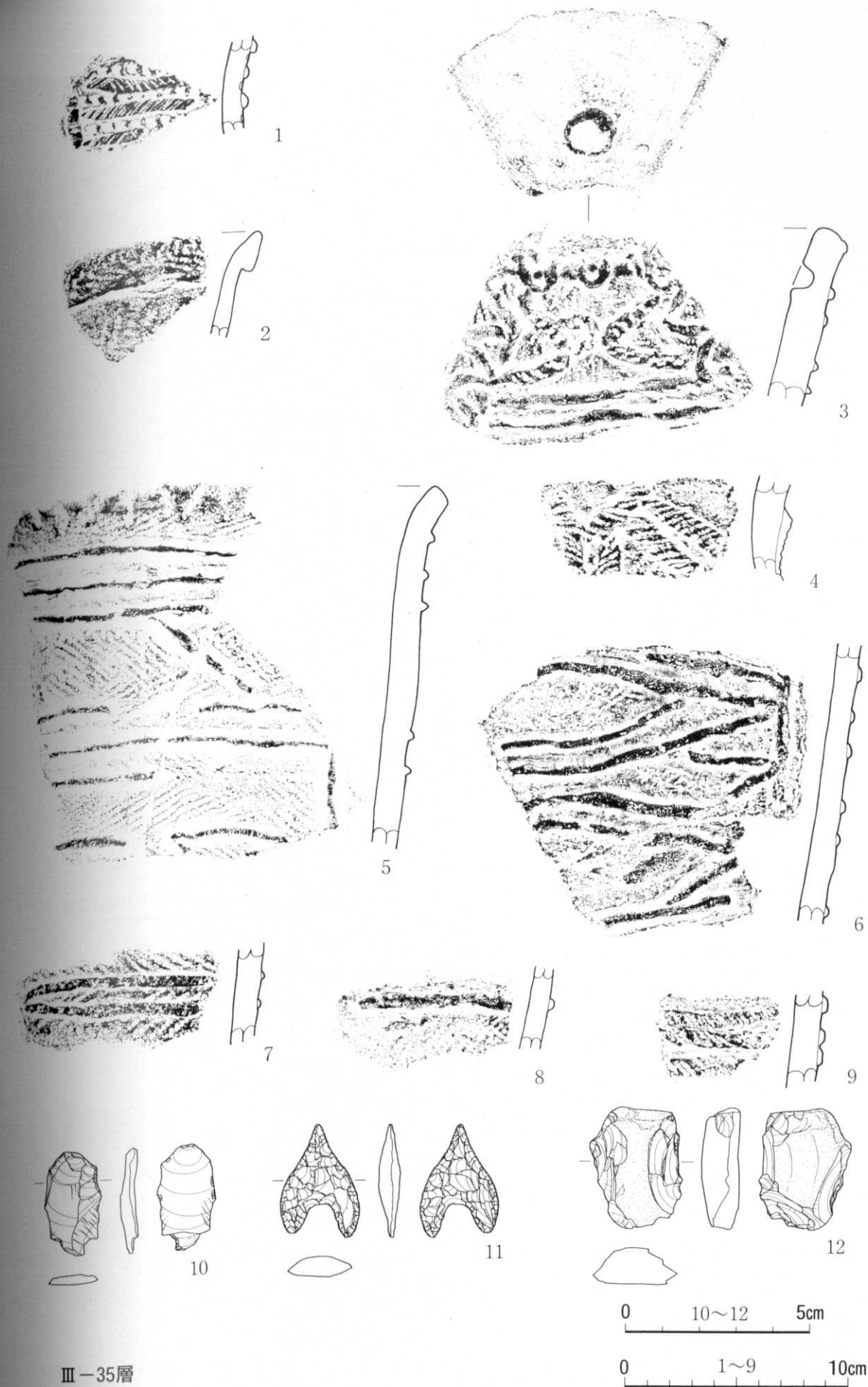


Ⅲ-35層



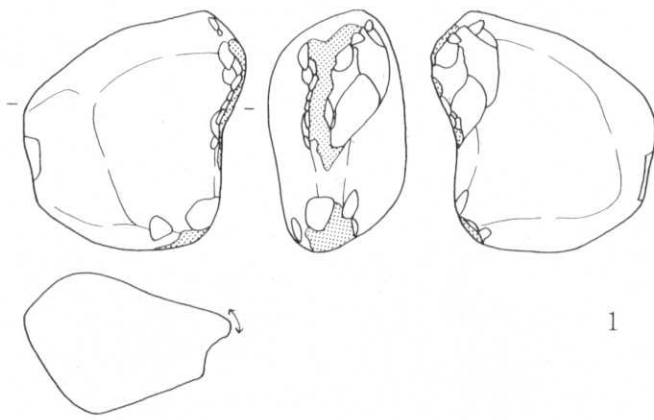
0 1~3 10cm

93図 4トレンチⅢ-35層出土遺物 (1)



Ⅲ-35層

94図 4 トレンチⅢ-35層出土遺物 (2)



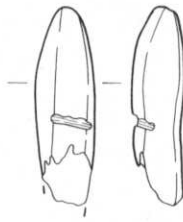
1

Ⅲ-35層

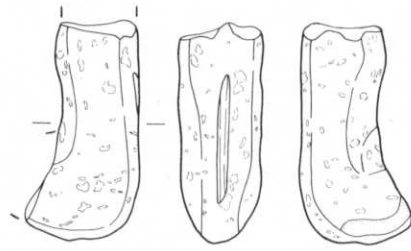


2

Ⅲ-37層



3



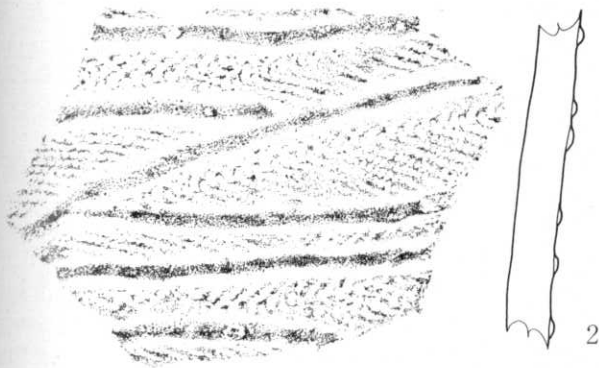
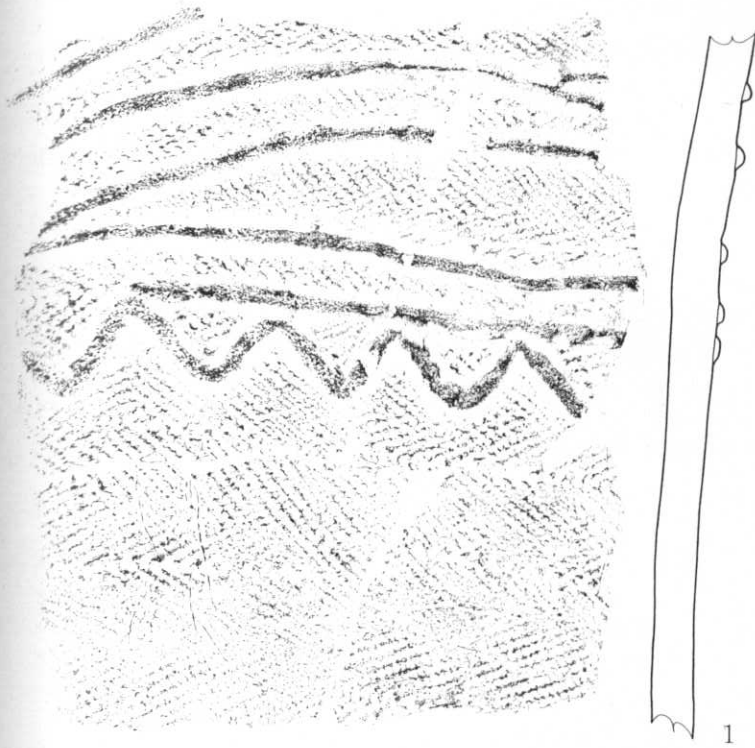
4

0 3,4 5cm

0 1 10cm

0 2 10cm

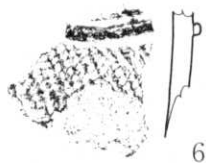
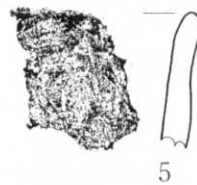
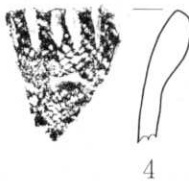
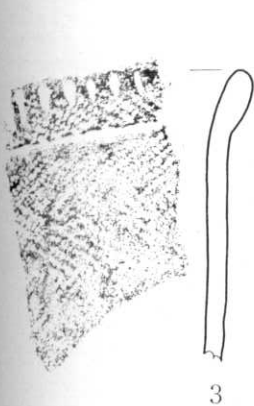
95図 4トレンチⅢ-35層出土遺物 (3)・37層出土遺物



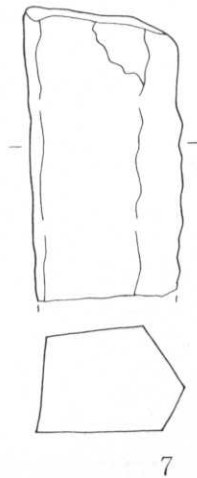
0 7 10cm

0 1~6 10cm

Ⅲ-38層



Ⅲ-40層



96図 4 トレンチⅢ-38・40層出土遺物

第40層

VIM-119・120に幅約1.0m、厚さ6cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は黒色(10YR2/1)土を主体とし、ローム粒が微量含まれる。遺物は、土器では円筒上層d式土器の小片などがごく少量出土した。96-5は無文の口縁部である。石器では角柱状の礫(96-7)が1点出土した。

第41層

VIN・O-119・120に幅約1.2m、最大厚10cmで分布する。やや東側へ傾斜して堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体として、多量に出土したが、復元し得たものはなかった。97-1は貼付隆帯間に縄文原体による馬蹄形押圧が施文される。97-6・7は突起部内面に盲孔のあるものである。石器では、削器ないし搔器(98-1)、磨痕のある礫(98-2)、敲打痕のある礫(98-3)がそれぞれ1点出土した。

第42層

VIN-119に幅約0.55m、最大厚4cmで分布する。第48層の小さな落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)のローム土を主体とする。第43層と同一層と見られる。遺物は出土しなかった。

第43層

VIN-119・120に幅約0.3m、最大厚3cmで分布する。第42層と同一層と考えられる。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)のローム土が主体である。遺物は出土しなかった。

第44層

VIN-119・120に幅約0.35m、最大厚4cmでごく狭い範囲に分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム土を主体とし、黒褐色土が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片などがごく少量出土した。また、ミニチュア土器の底部片(98-5)が出土した。縄文が施文されている。

第45層

VIN-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。第43・47層の間隙に入り込んだように堆積する。東側へ向かってやや傾斜する。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

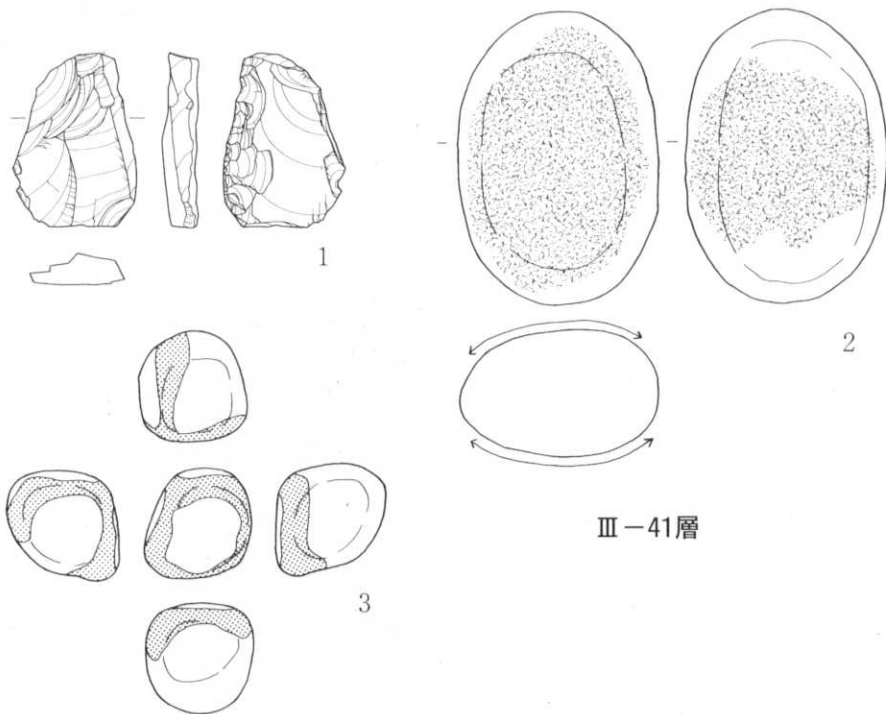
第46層

VIN-119・120に幅約0.8m、最大厚6cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が微量含まれる。第43層と同一層の可能



Ⅲ-41層

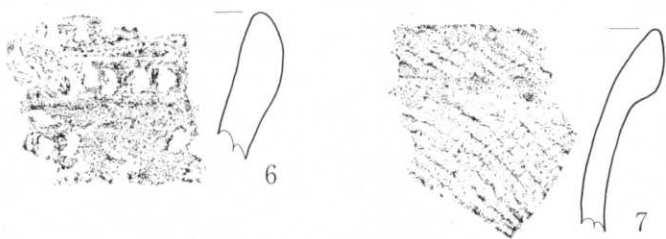
97図 4トレンチⅢ-41層出土遺物(1)



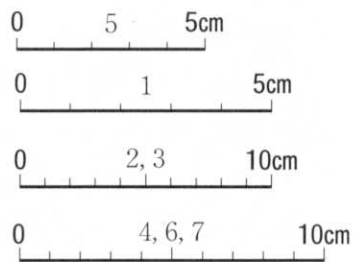
Ⅲ-41層



Ⅲ-44層



Ⅲ-46層



98図 4 トレンチⅢ-41層出土遺物 (2)・44・46層出土遺物

性がある。遺物は、中期中葉の土器小片がごく少量出土した。98-6は口唇部に刺突が施文されたものである。

第47層

VIN-119・120に幅約1.25m、最大厚9cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第48層

VIN・O-119・120に幅約3.8m、最大厚19cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層中央が最も厚い。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が多量、灰白色粘土が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片を主体とし多量に出土した。99-1・2は貼付隆帯間に刺突が加わるものである。99-4は無文面に隆帯が貼付けられている。石器の出土量も多い。有茎鏃(99-8~10・12)が4点、両面加工石器(99-11)、異形石器(99-13)、敲打痕のある礫(99-14)がそれぞれ1点出土した。

第49層

VIM・N-119・120に幅約1.1m、最大厚7cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土を主体とし、炭化物が多量に含まれる。遺物は台石?(100-1、2)が出土した。

第50層

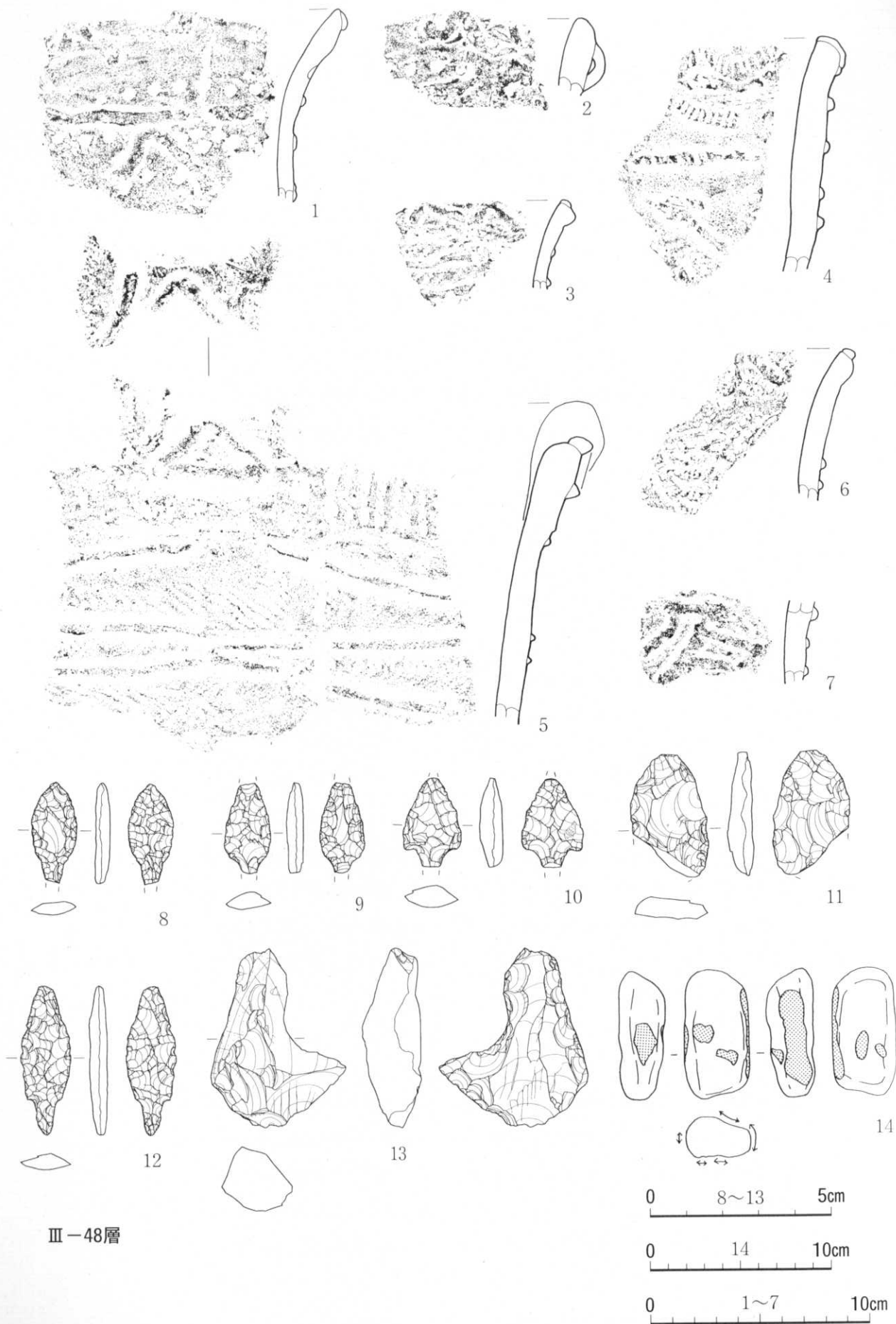
VIM-119・120に幅約2.0m、厚さ20cmで分布する。東側へ低く層厚を増しながら、傾斜して堆積する。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器小片などが少量出土した。101-7は鉢形の土器である。石器は玉髓製の有茎鏃(101-8)、磨痕と敲打痕をもつ礫(101-9)が出土した。ほかに環状土製品が1点出土した。側面に抉り状に沈線が一巡する完形品である。

第51層

VIN・O-119・120に幅約1.15m、最大厚14cmで分布する。やや東側へ傾斜して堆積する。第55層の落ち込みに入り込んだ部分が最も厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が中量、ローム粒が少量、灰色粘土・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b・c式土器小片を主体とし少量出土した。復元し得たものはない。石器はアスファルトが付着する石錐(101-14)、磨痕のある礫(101-15)が出土した。

第52層

VIN-119に幅約0.35m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。堆積土は褐色(10YR4/4)のロー



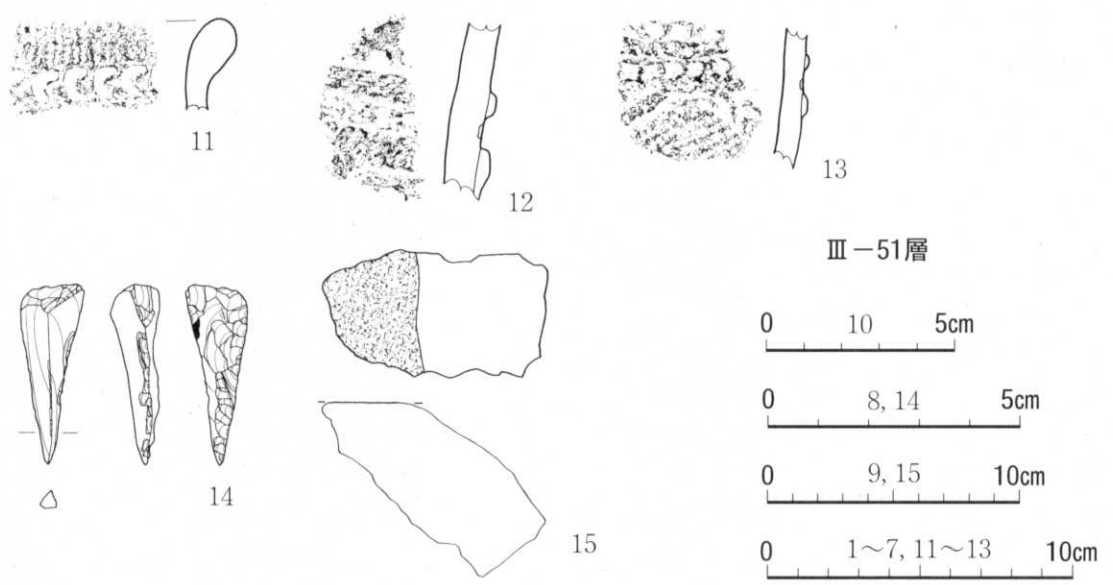
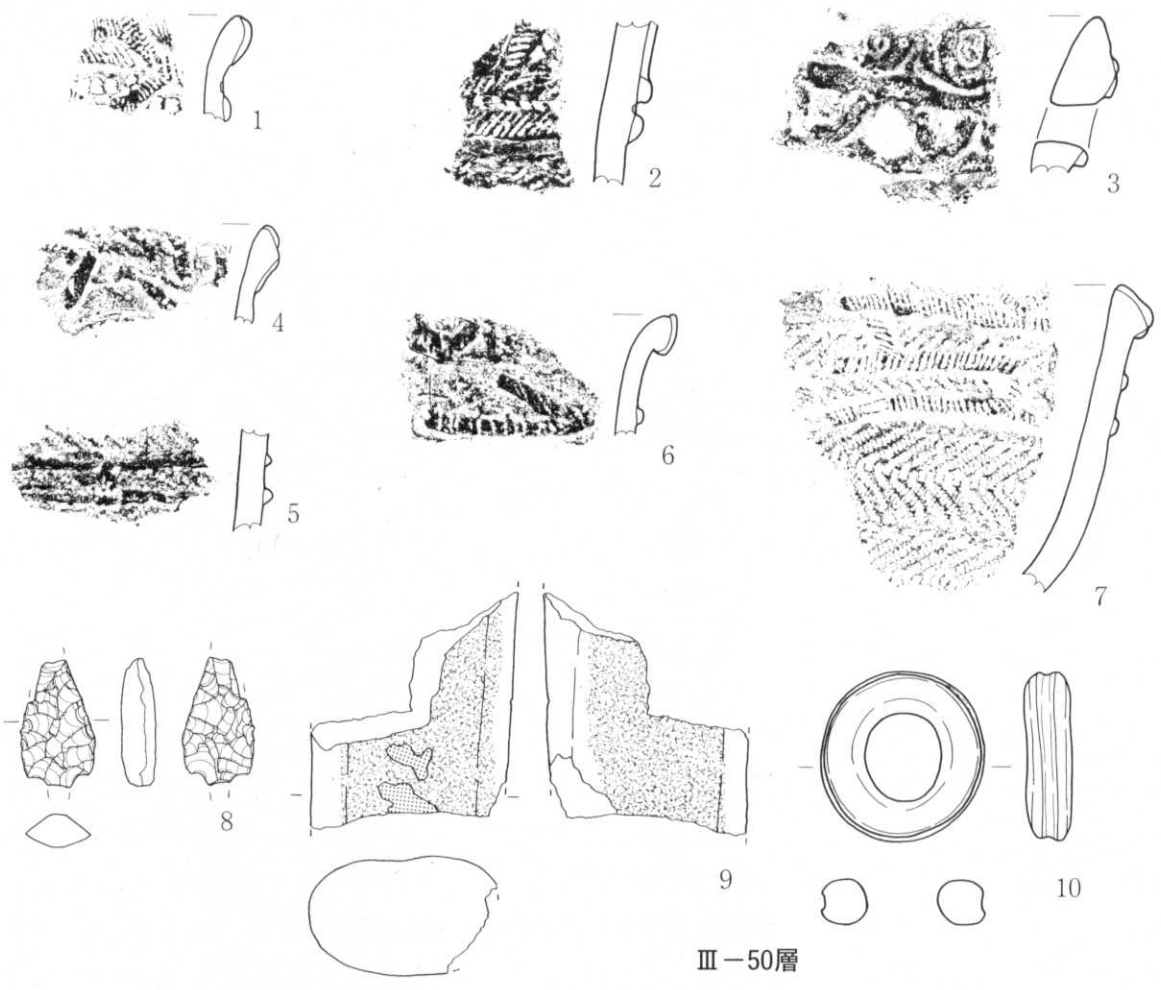
Ⅲ-48層

99図 4トレンチⅢ-48層出土遺物



Ⅲ-49層

100図 4 トレンチⅢ-49層出土遺物



101図 4 トレンチⅢ-50・51層出土遺物

ム土を主体とする。炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第53層

VIN-119・120に幅約0.75m、最大厚7cmで分布する。東側へやや傾斜しながら堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、炭化物・ローム粒が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第54層

VIN-119・120に幅約0.45m、最大厚7cmでごく狭い範囲に分布する。東側へやや傾斜しながら堆積する。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第55層

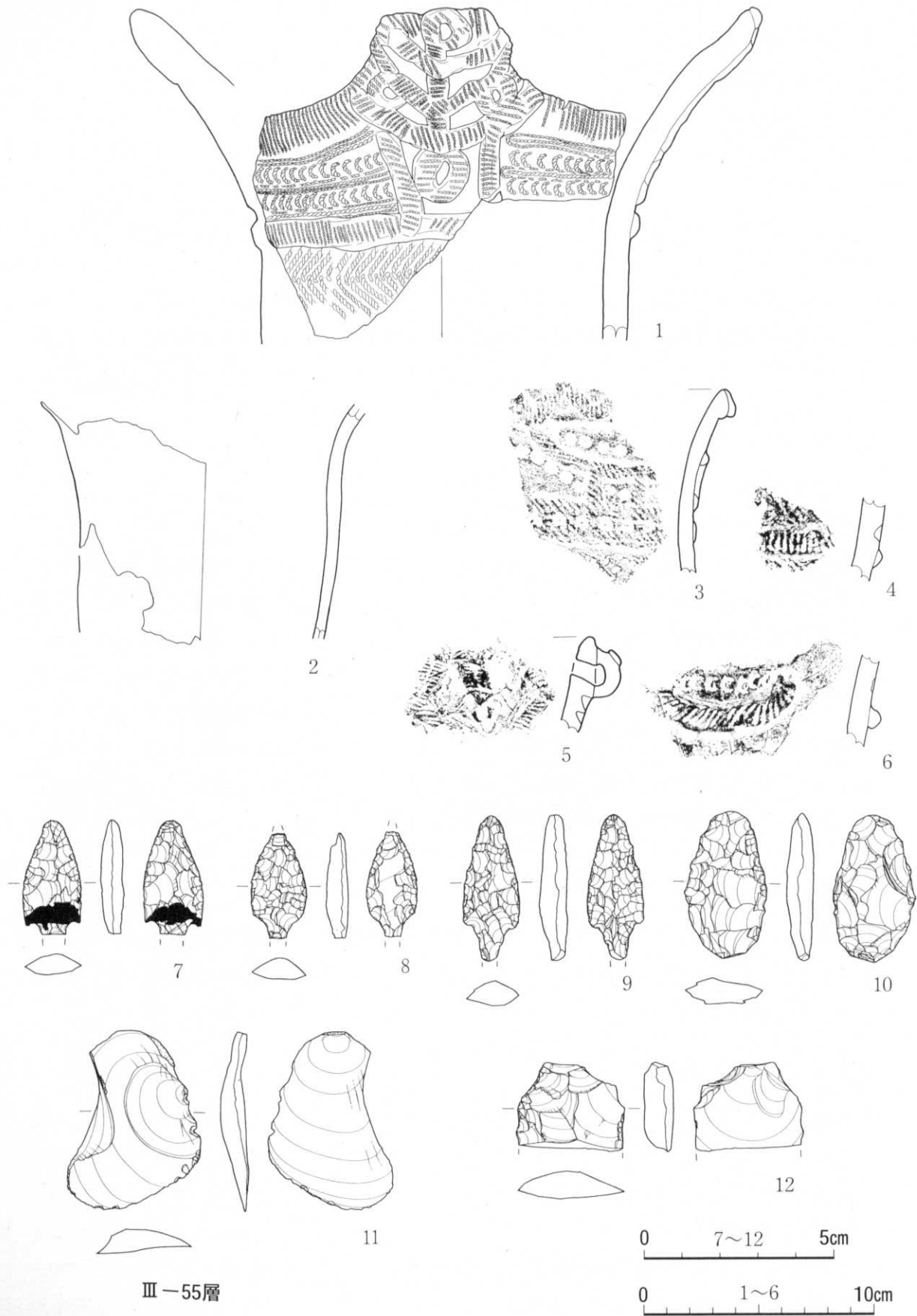
VIN・O-119・120に幅約1.9m、最大厚15cmで分布する。東側へ向かって傾斜して堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量、焼土粒がごく微量含まれる。遺物は、土器は復元個体を含み多量に出土した。円筒上層b・c式土器が主体である。102-1は貼付隆帯間に縄文原体の馬蹄形押圧が施文されたもの、102-2は無文の口縁部である。102-3・5は刺突が観察される。石器の出土量も多い。茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(102-7)、有茎鏃(102-8・9)、玉髓製の石鏃未製品(102-10)、使用痕のある剥片(102-11)、削器ないし搔器(102-12)、使用痕のある剥片(103-1)、二次加工剥片(103-2)、石核(103-3)、使用痕のある剥片(103-4)、メノウ製の削器ないし搔器(103-5)、磨痕と敲打痕をもつ礫(103-6)などが出土した。また103-8は垂飾と見られる土製品で、頂部には横方向の穿孔があり、下は逆V字状に延びるものと思われる。103-7は半分に割れた蛇紋岩?製のケツ状耳飾りである。

第56層

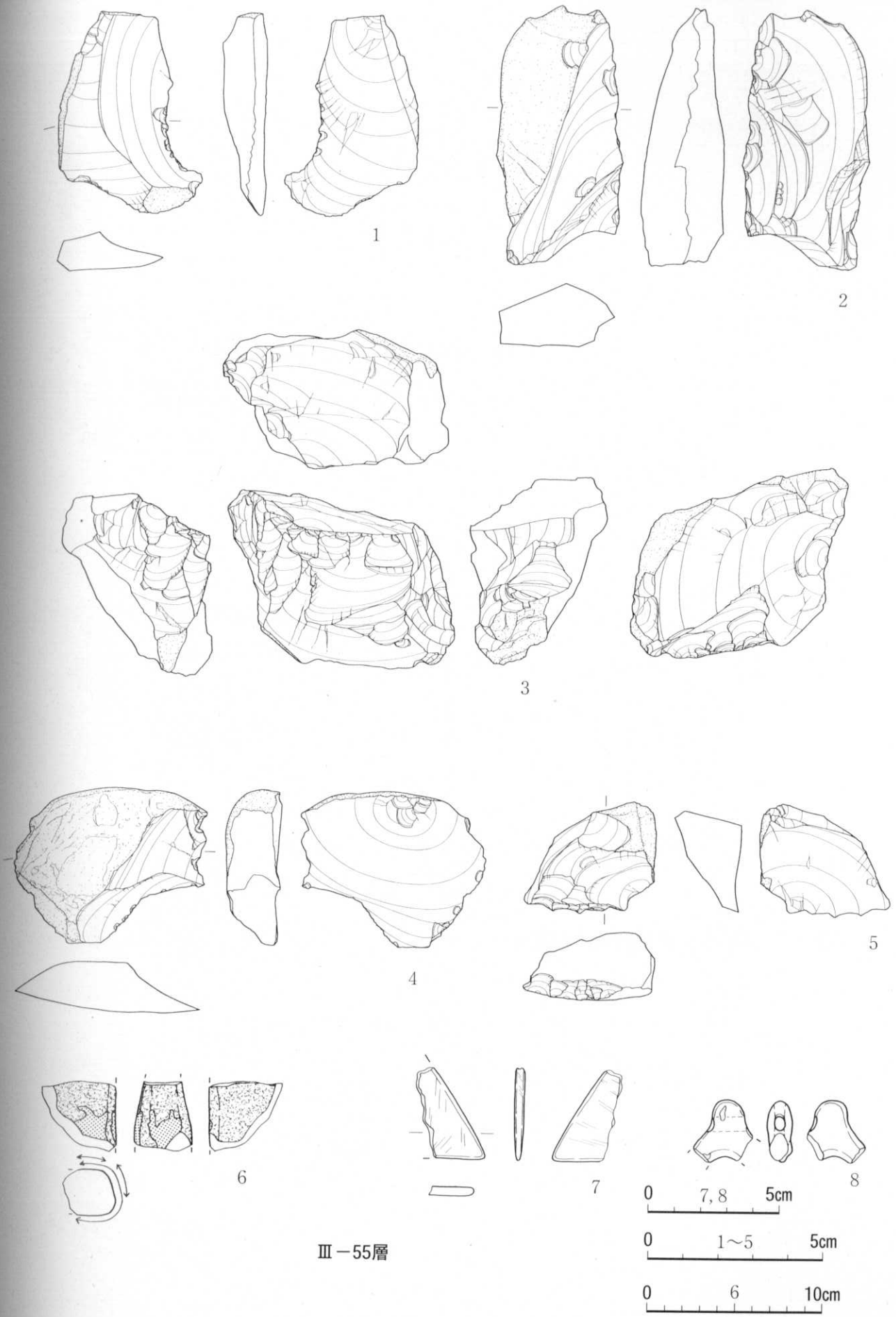
VIO-119・120に最大厚15cmで分布する。東側に傾斜して堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物・焼土粒が多量に混入する。遺物の出土量は少ない。円筒上層b式土器片と石棒(104-4)が1点出土した。

第57層

VIN-119・120に幅約6.1m、最大厚15cmで分布する。本トレンチ大部分を横断する広い層として認識した。東側へやや傾斜して堆積し、層厚は若干の差はあるもののほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c・d式土器片を主体に多量に出土した。復元し得たものはない。105-6は口唇部に沿って刻み状の刺突が2段に施文されたものである。105-12は口唇部が肥厚した無文の土器である。石器の出土量も多い。有茎鏃(105-14・15)、刃部に光沢がみられる縦形石匙(106-1)、磨痕のある礫(106-2)、敲打による凹をもつ礫(106-3)、砥石(106-4)、磨痕と敲打痕をもつ礫(106-5)が出土した。

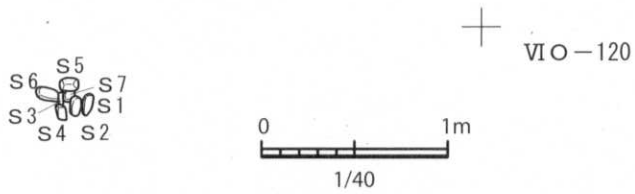
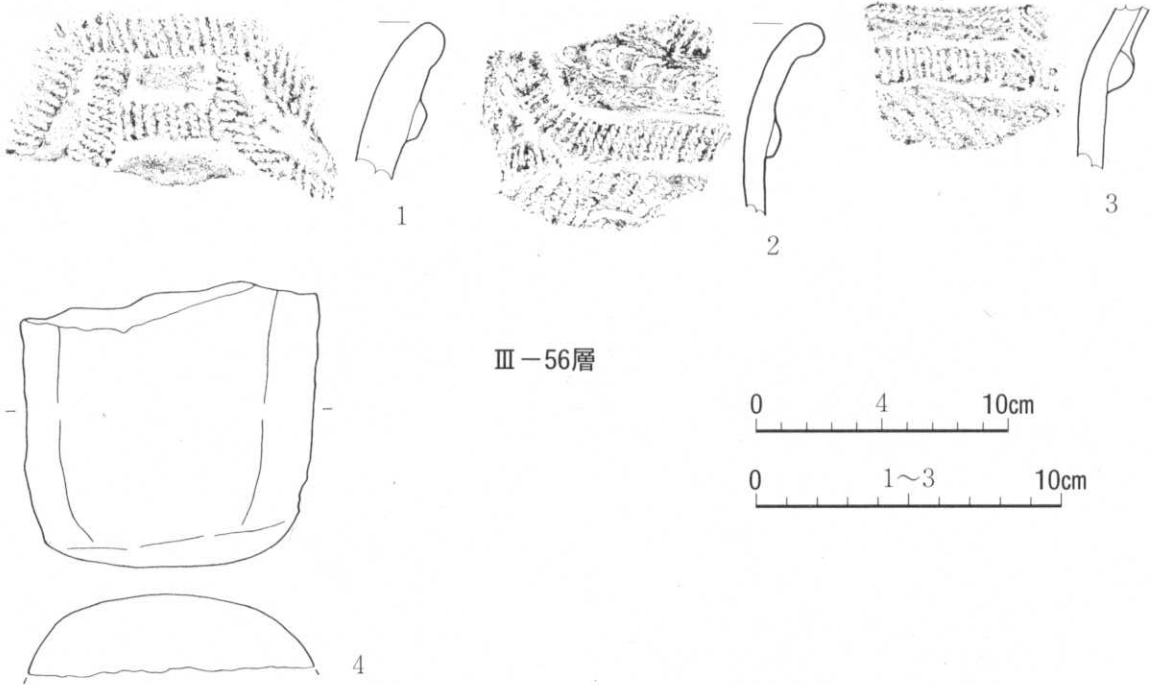


102図 4トレンチⅢ-55層出土遺物(1)



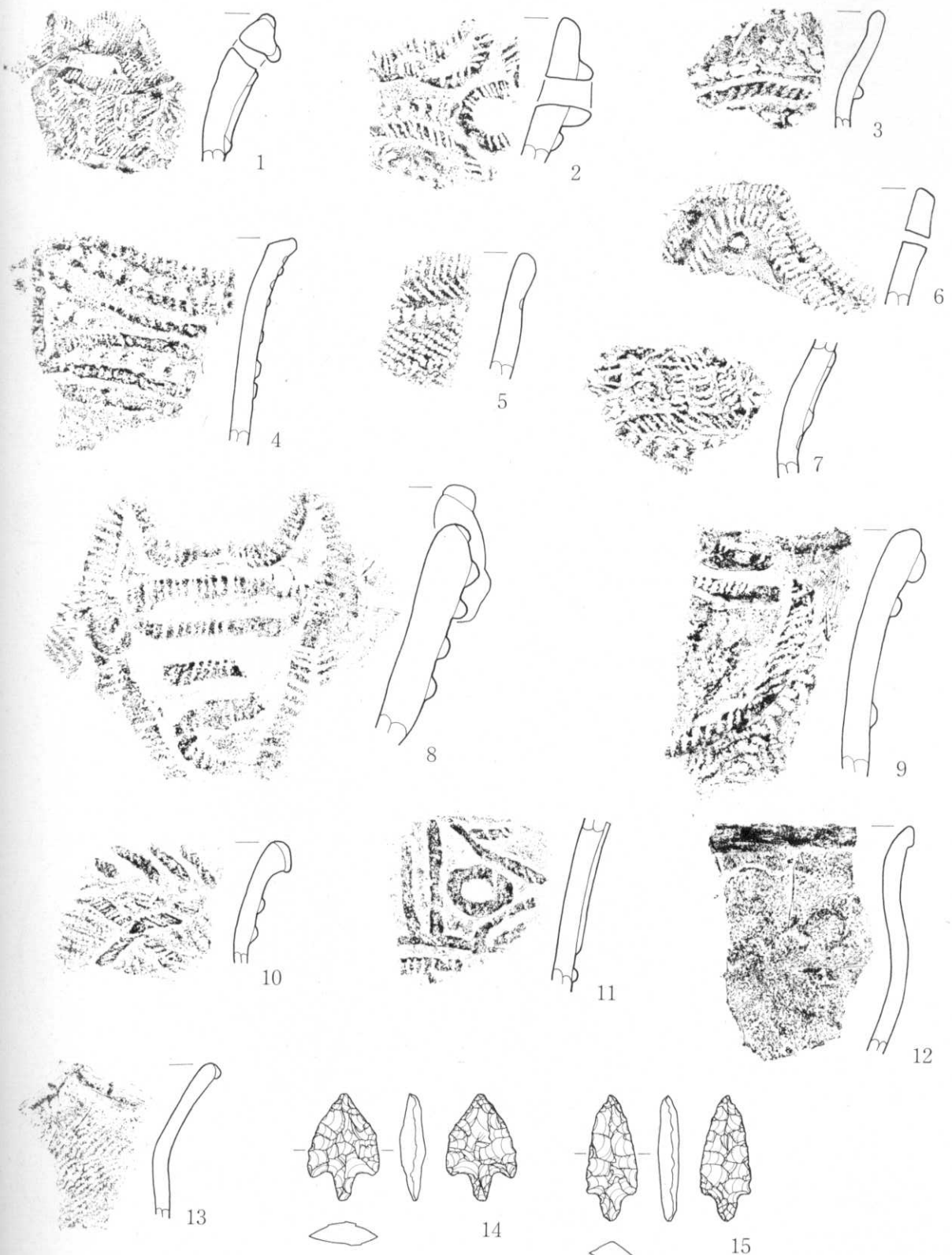
Ⅲ-55層

103図 4トレンチⅢ-55層出土遺物(2)

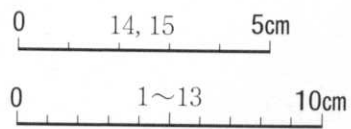


第57層中検出の配石遺構

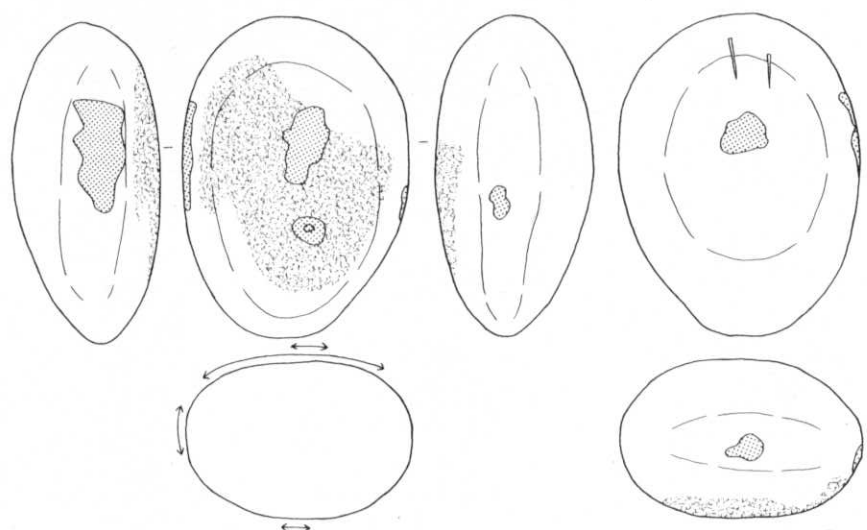
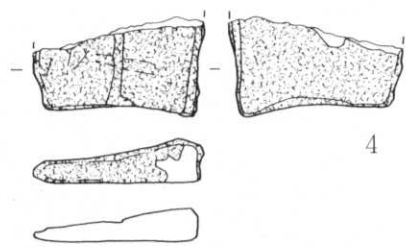
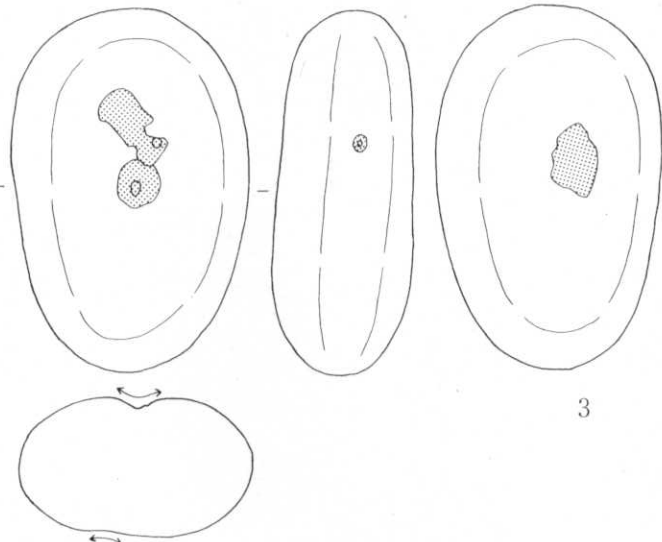
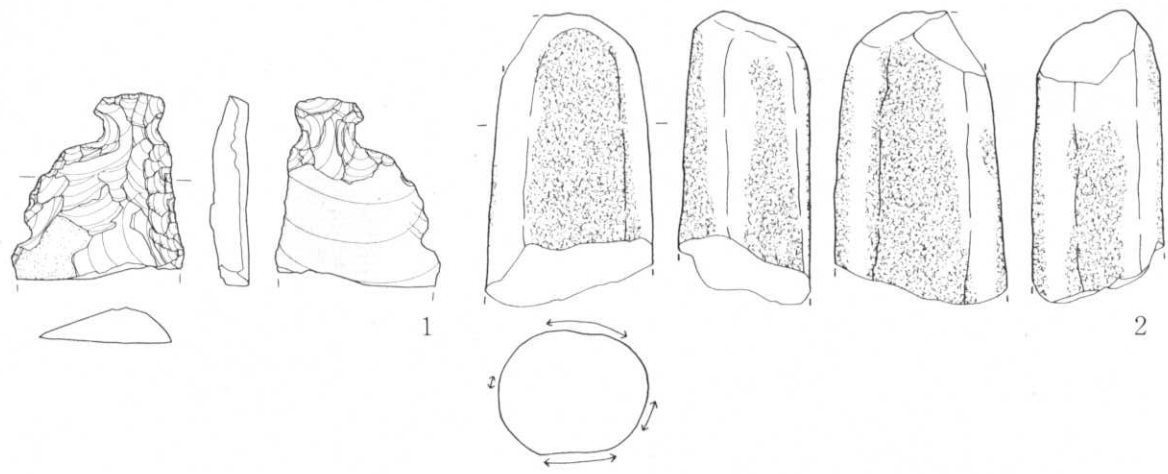
104図 4トレンチⅢ-56層出土遺物



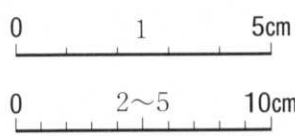
Ⅲ-57層



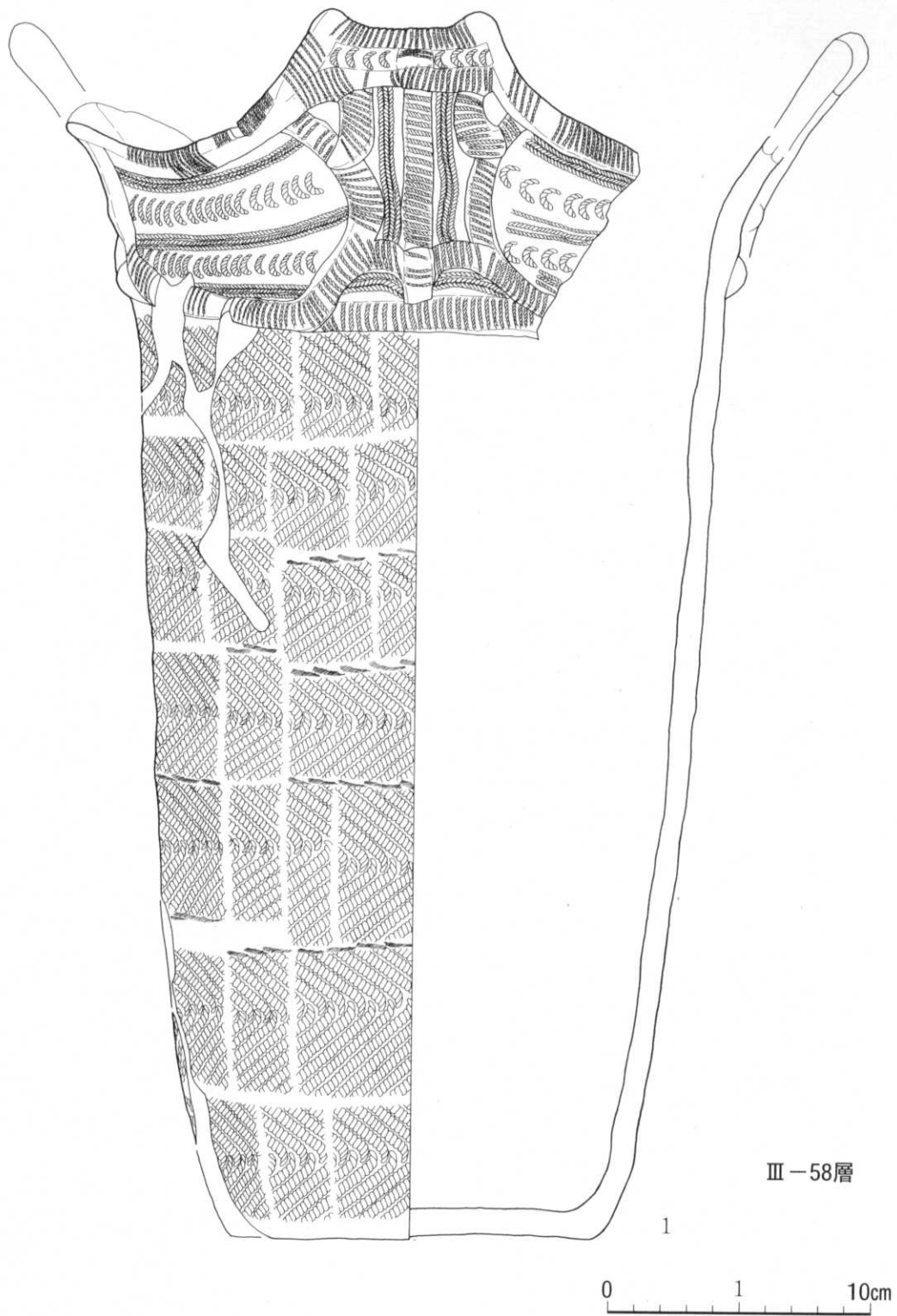
105図 4 トレンチⅢ-57層出土遺物 (1)



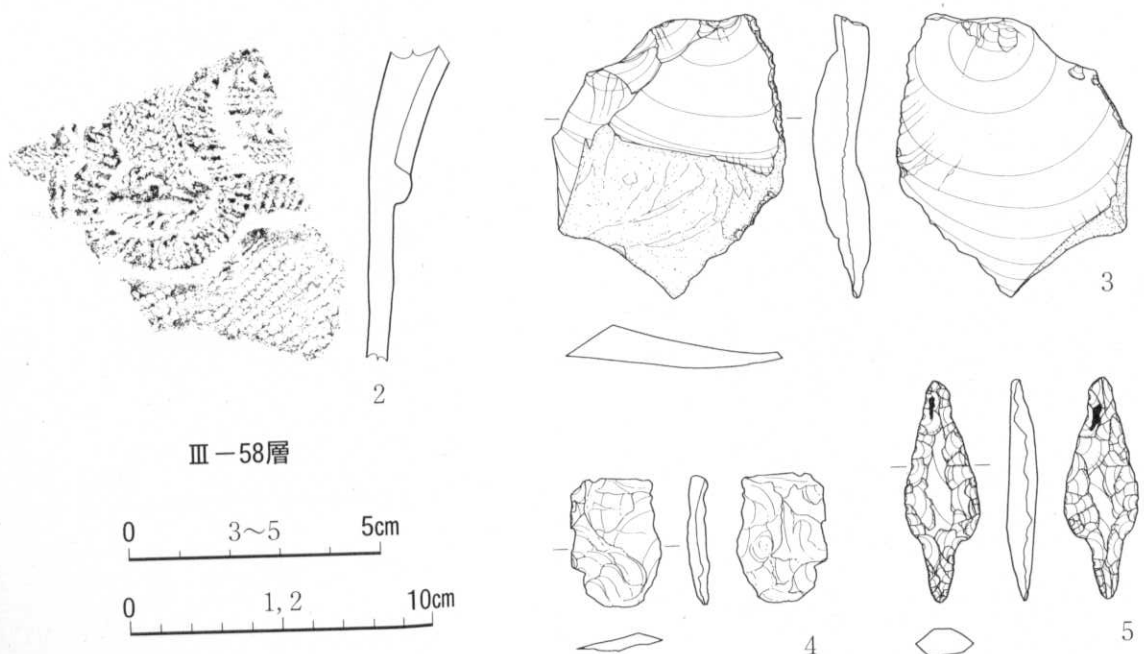
Ⅲ-57層



106図 4トレンチⅢ-57層出土遺物(2)



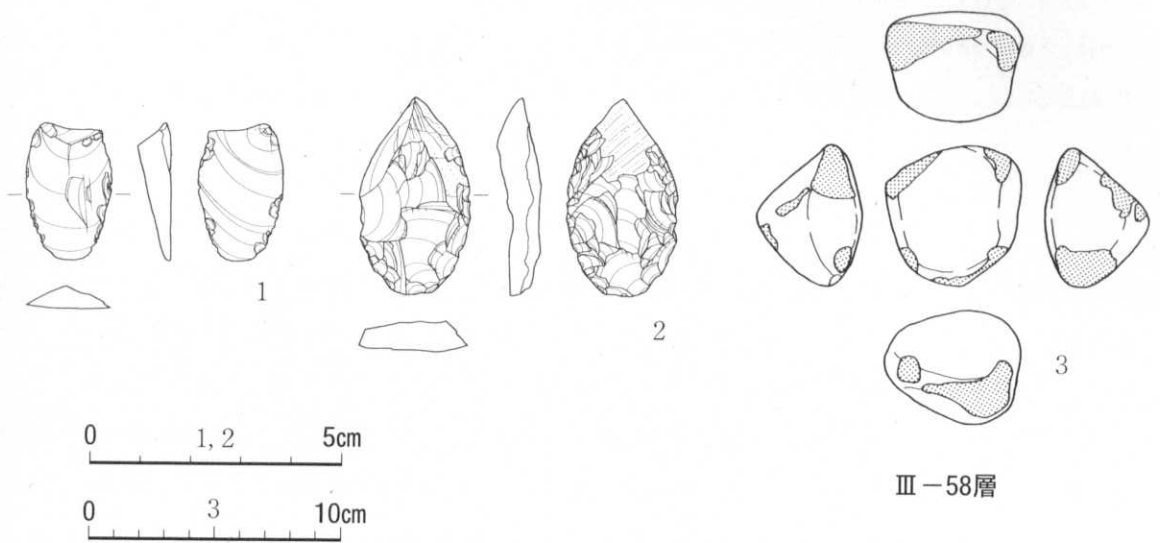
107図 4 トレンチⅢ-58層出土遺物 (1)



Ⅲ-58層

0 3~5 5cm
0 1, 2 10cm

108図 4トレンチⅢ-58層出土遺物(2)



109図 4 トレンチⅢ-58層出土遺物 (3)

配石遺構 VIO-120に位置する。第57層精査中に礫のまとまりを確認した。東西35cm、南北20cmの小範囲に7個の礫が分布する。それぞれの礫は丸みのあるもので、いずれも自然礫である。付属する遺構等はない。また、これと確実に伴う遺物はなかった。遺構の時期は、円筒上層bないしc式期である。

第58層

VIO-119・120に幅約0.07m、最大厚5cmで分布する。水平に堆積するようであるが、ごく一部だけが本トレンチに現れているため、規模は不明である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量混入する。遺物は、カードの記入ミスにより、直下の第59層と混同している可能性のあるものがある。土器は円筒上層b式土器片を主体として出土した。復元し得たものも含まれる。107-1は波頂部下の貼付以外の口縁部に縄文原体による馬蹄形押圧が一巡するものである。石器は削器ないし搔器(108-3)、被熱した剥片(108-4)、有茎鏃(108-5)がそれぞれ1点出土した。ほかに使用痕のある剥片(109-1)、石鏃の未製品(109-2)、敲打痕のある礫(109-3)である。

第59層

VIN・O-119・120に幅約0.2m、最大厚6cmで分布する。水平に堆積するようであるが、ごく一部だけが本トレンチに現れているため、規模は不明である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は上記の第58層と混同しているものがあり、本層出土遺物である可能性もある。

第60層

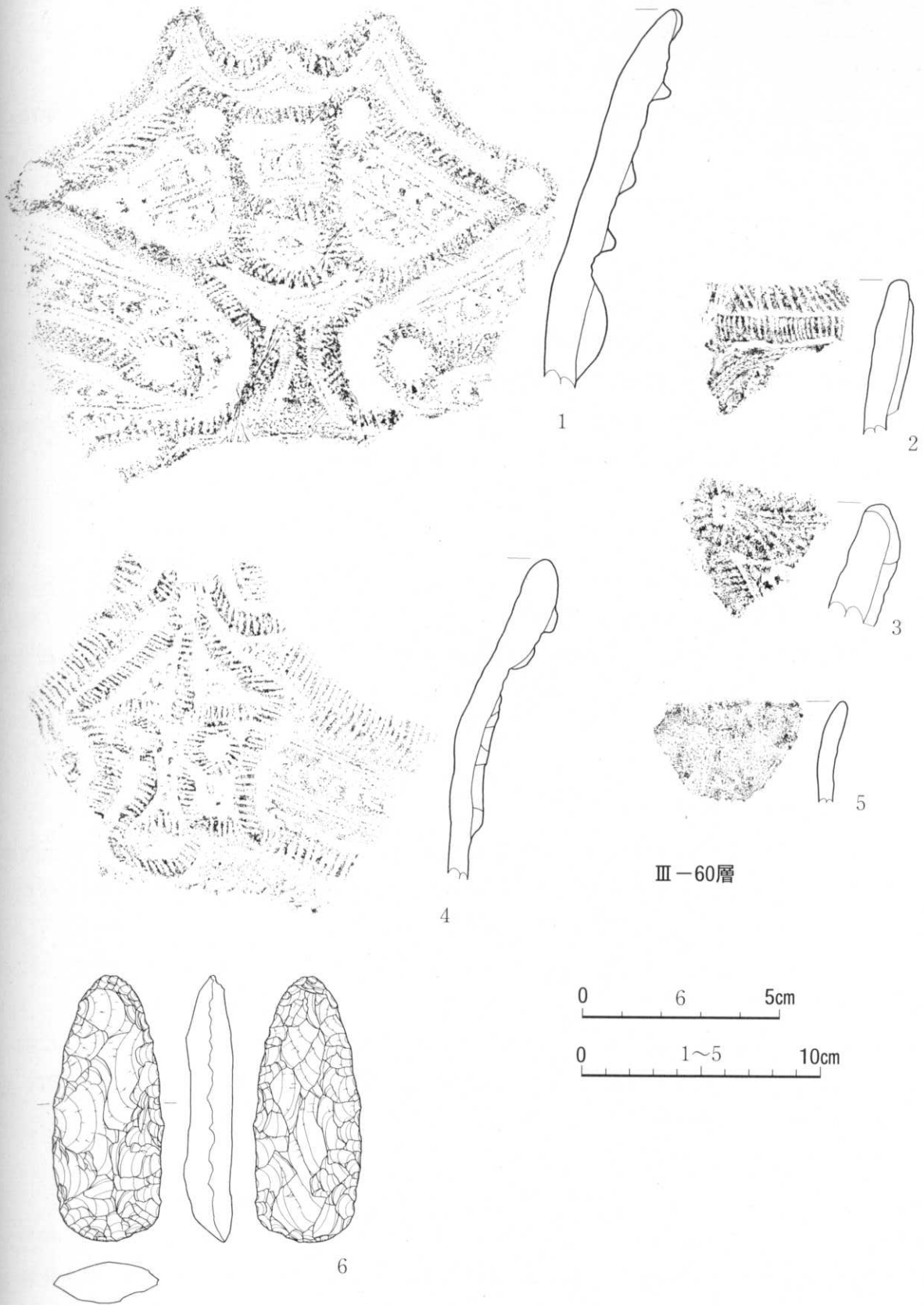
VIN・O-119・120に幅約2.25m、厚さ10cmで分布する。層西側では東側へやや傾斜し、水平方向への堆積となる。層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム塊・粒が少量、炭化物・浮石粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b式土器片など少量出土した。110-1や110-4は貼付間や口縁部を一巡する馬蹄形押圧が施文されたものである。110-5は無文の土器口縁部である。石器は石筥(110-6)が出土した。

第61層

VIM・N-119・120に幅約1.05m、最大厚7cmで分布する。東側へやや傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土は黒色(10YR2/1)土を主体とする。炭化物が多量に含まれる。遺物は、円筒上層b式土器片がごく少量出土した。

第62層

VIM-119・120に幅約1.55m、最大厚6cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層上面にやや起伏があるが、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(7.5YR4/6)土を主体とする。焼土が多量、炭化物が中量含まれる。遺物は、円筒上層c式土器片がごく少量出土した。波頂部片で貫通孔があり、その両側に円形の貼付が付けられている。



110図 4 トレンチⅢ-60層出土遺物

第63層 欠番

第64層

VIM-119・120に幅約1.1m、最大厚17cmで分布する。東側へやや傾斜しながら堆積する。層厚は一定ではなく、第62・68層の間隙部分が厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、黒褐色土とローム土の混合土である。遺物は、土器は円筒上層b式土器とc式土器片が出土した。石器は有茎鏃(111-7)が1点出土した。

第65層

VIM-119・120に幅約1.05m、最大厚14cmで分布する。東側へ向かってやや傾斜して堆積する。層上面にやや起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・塊、炭化物が多量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式土器片がごく少量出土した。隆帯間に円形の刺突が施文される。石器は使用痕のある剥片(111-10)が1点出土した。

第66層

VIM-119・120に幅約0.85m、最大厚7cmで分布する。東側へ向かってやや傾斜して堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/8)のローム主体層で、炭化物が多量、灰白色粘土粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c・d式土器小片がごく少量出土した。地文施文後に隆帯が貼付けられたものである。111-12はミニチュア土器である。下部が厚くなる鉢形の破片で、無文である。

第67層

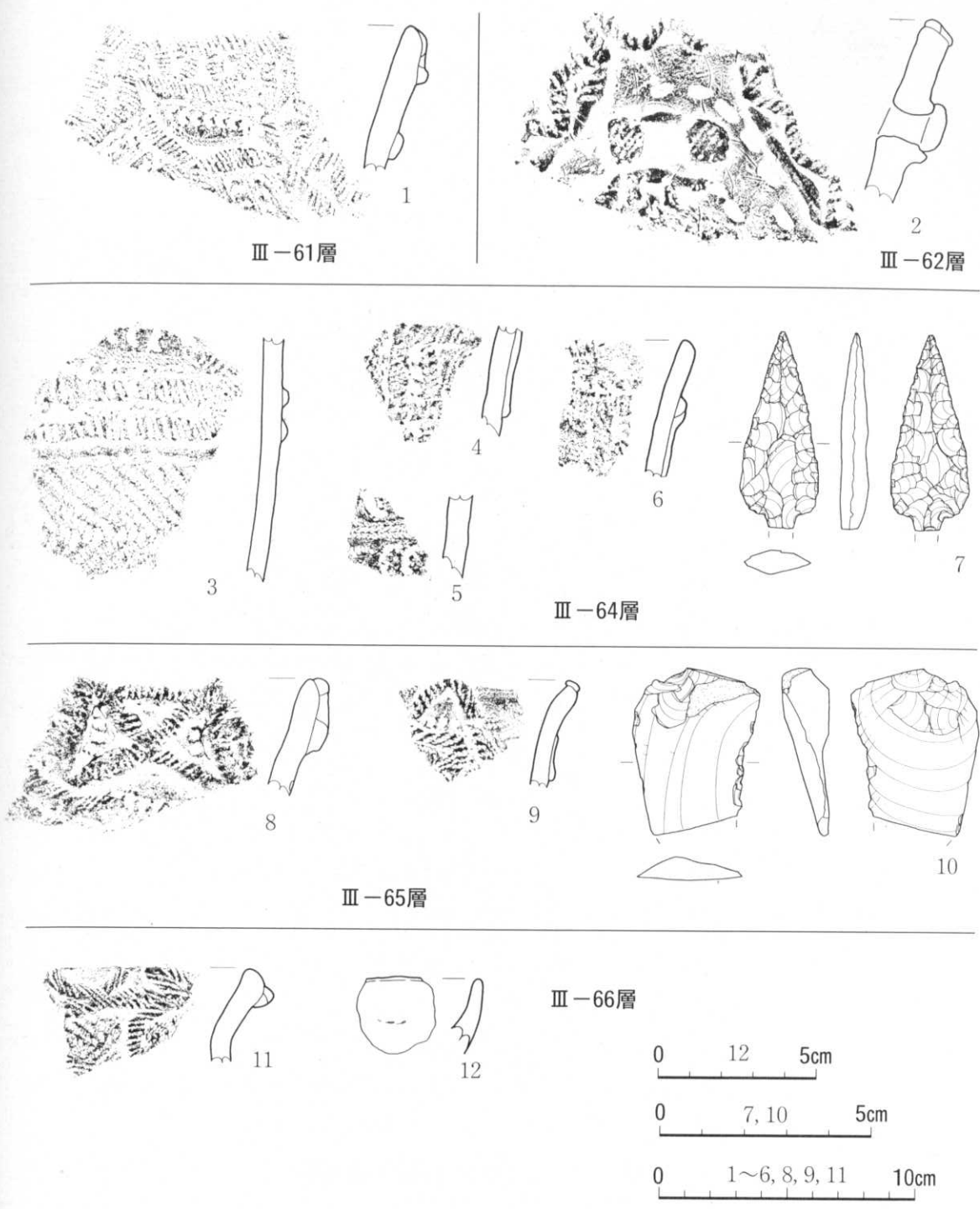
VIM-119・120に幅約0.7m、最大厚4cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第68層

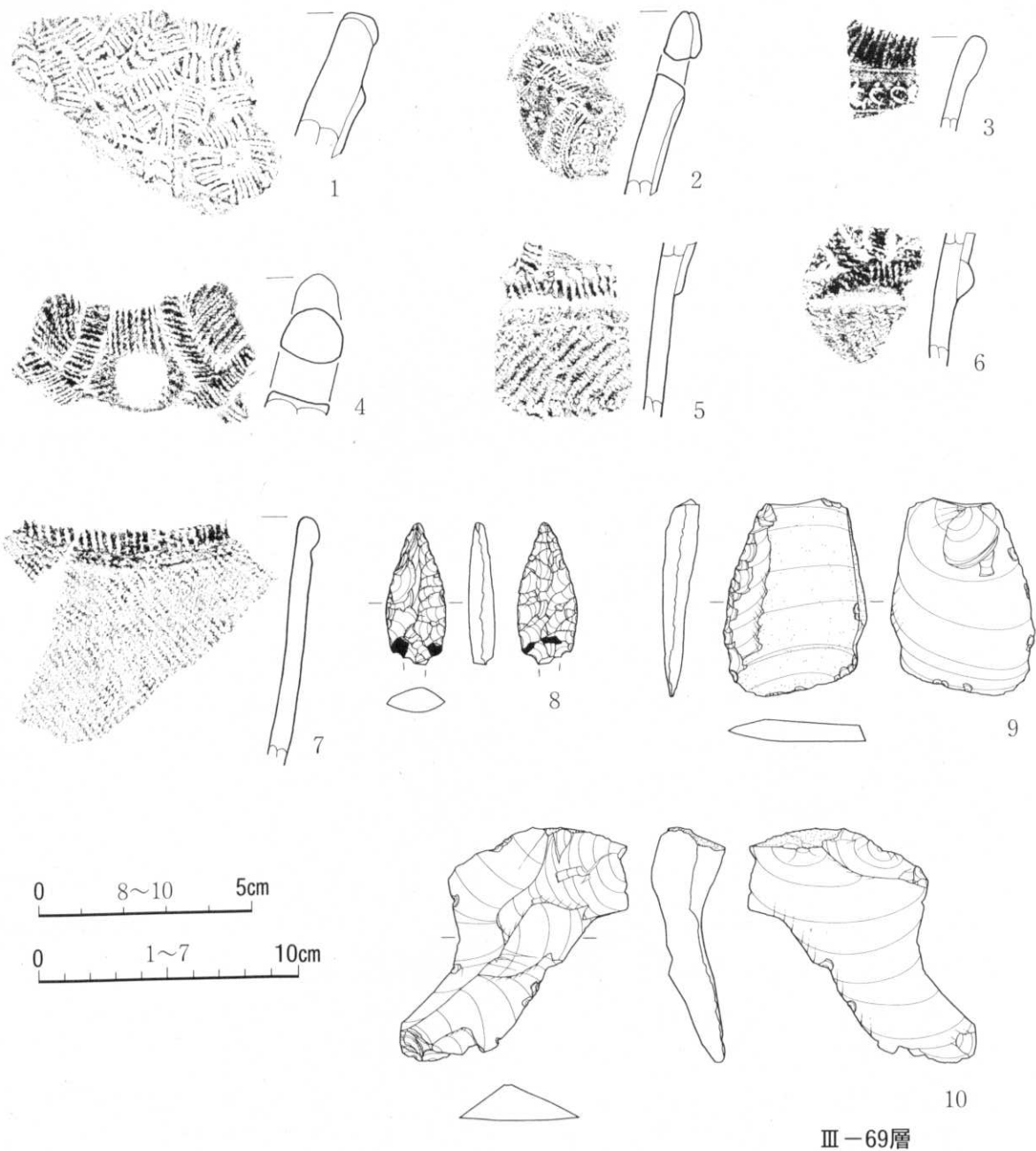
VIM-119・120に幅約1.25m、最大厚10cmで分布する。東側へやや傾斜して堆積し、層上面は部分的に起伏があるが、それ以外はほぼ均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム土が主体で、炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第69層

VIM・N-119・120に幅約2.95m、最大厚12cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。層厚は中央部がやや厚くなっているが、それ以外はほぼ均一である。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。遺物は、土器は円筒上層b式土器小片を主体として少量出土した。復元し得たものはない。112-1・2のように煩雑な貼付間に縄文原体による馬蹄形押圧が加えられる。石器では、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(112-8)、削器ないし搔器(112-9)、使用痕のある剥片(112-10)



111図 4トレンチⅢ-61・62・64・65・66層出土遺物



III-69層

112図 4 トレンチ III-69層出土遺物

がそれぞれ1点出土した。

第70層

VIM-119・120に幅約1.6m、厚さ7cmで分布する。東側へやや傾斜して堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ローム粒が中量、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第71層

VIN-119・120に幅約0.4m、最大厚4cmで、ごく狭い範囲に分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土はにぶい黄橙色(10YR6/3)の粘土を主体とする。密なブロック状を呈し、暗褐色土は少量混入する。遺物は、円筒上層b式土器片がごく少量出土した。113-1は隆帯間と口縁部全体に縄文原体による馬蹄形押圧が施されている。

第72層

VIN-119・120に幅約1.4m、最大厚9cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とする。炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、円筒上層b式土器小片がごく少量出土した。113-5は大型の破片であるが、前期末のものとは判断され、型式学的に見ても時期決定の資料とはならない。

第73層

VIN-119・120に幅約1.15m、最大厚5cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物層である。暗褐色土が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第74層

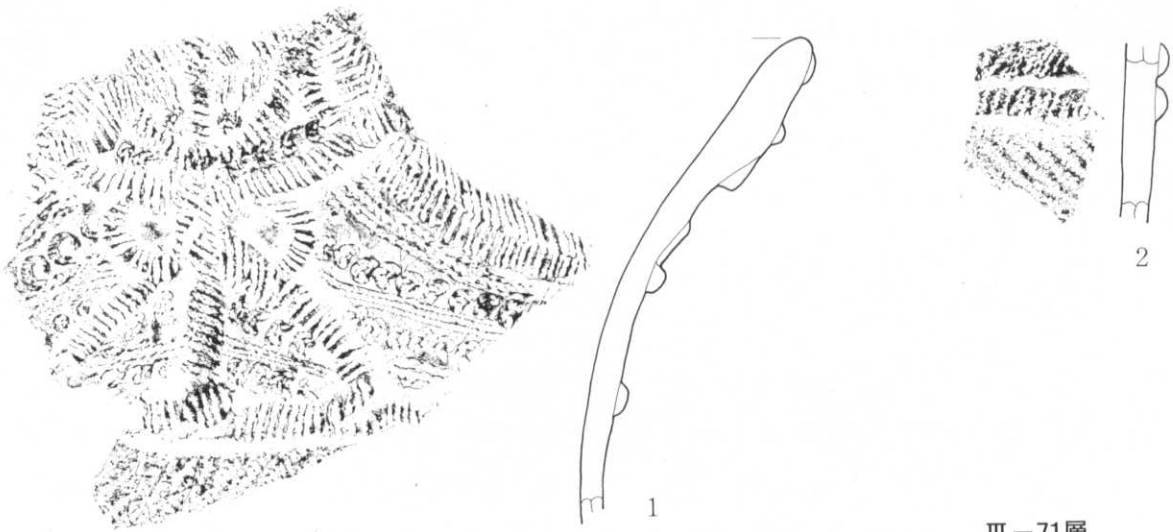
VIN-119・120に幅約0.6m、最大厚4cmで分布する。東側へ低く傾斜しながら堆積する。層厚は一定である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層で、黒褐色土が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第75層

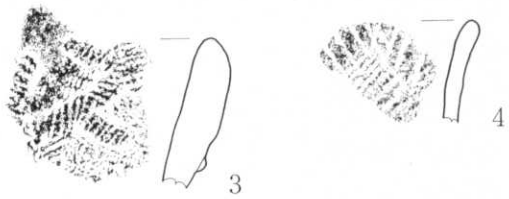
VIN-119・120に幅約1.5m、最大厚6cmで分布する。東側へ向かって傾斜して堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム塊が多量、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は口唇部に刻みが巡り、胴部に条痕が施文された土器片が出土した。石器は縦型石匙(114-2)が1点出土した。

第76層

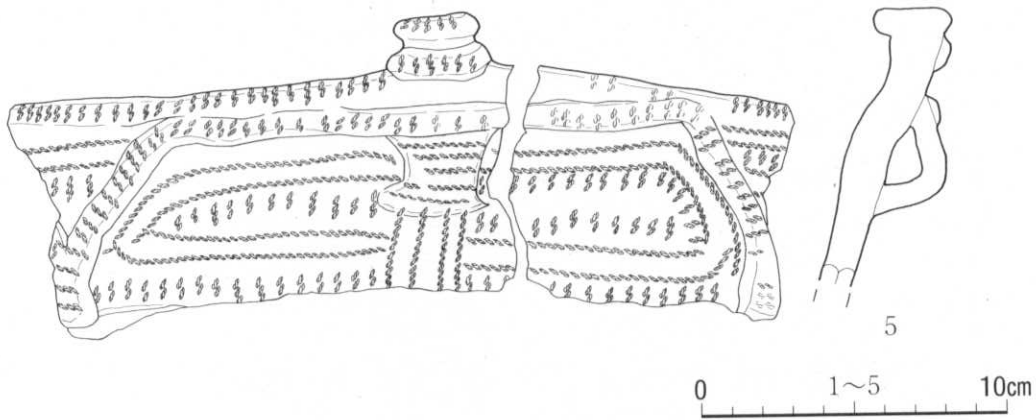
VIM・N-119・120に幅約0.95m、最大厚8cmで分布する。東側へ向かって傾斜しながら堆積する。



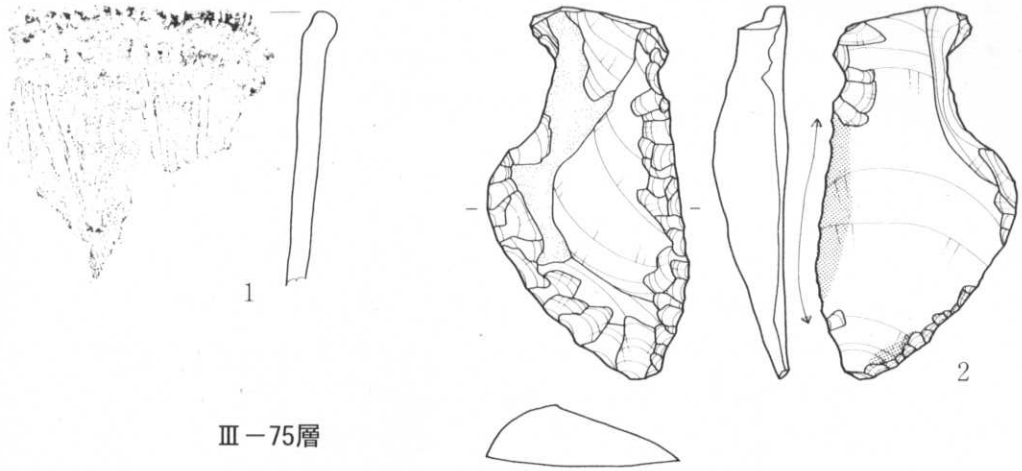
Ⅲ-71層



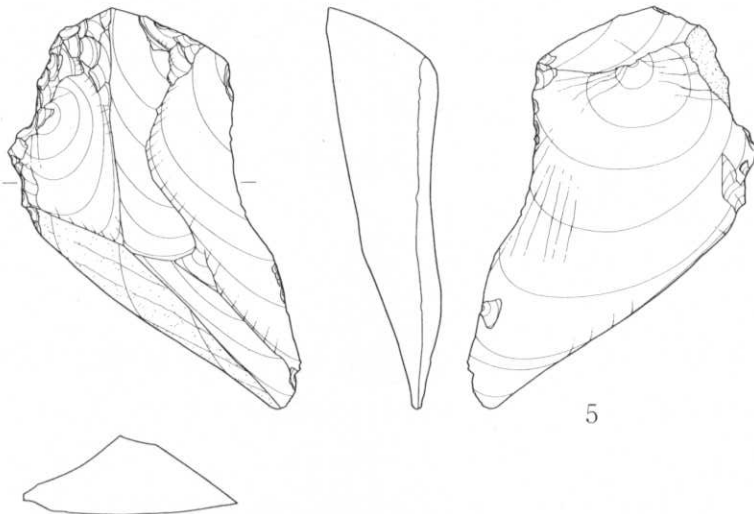
Ⅲ-72層



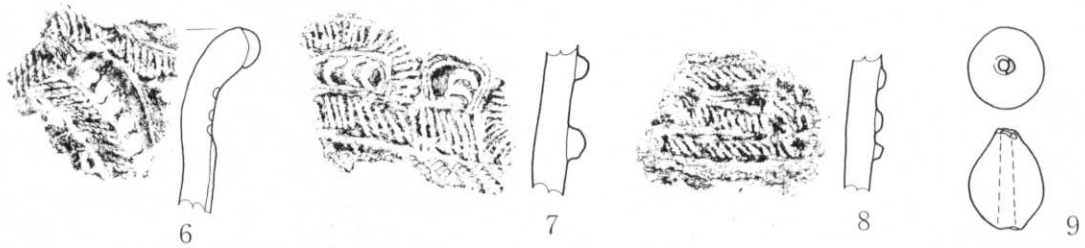
113図 4 トレンチⅢ-71・72層出土遺物



Ⅲ-75層



Ⅲ-76層



Ⅲ-77層

0 9 5cm

0 2, 5 5cm

0 1, 3, 4, 6~8 10cm

114図 4トレンチⅢ-75・76・77層出土遺物

層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は地文のみの破片がごく少量出土した。114-3はある程度復元し得たもので、全面に結束第一種羽状縄文が施文された台付鉢形土器である。石器は使用痕のある剥片(114-5)が出土した。

第77層

VIM・N-119・120に幅約3.3m、最大厚17cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積する。層厚は一定せず、層中央部が最も厚い。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層で、炭化物が中量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b式土器とc式土器小片がごく少量出土した。また、114-9は土製品でラグビーボール状の形状で長軸中央に貫通孔がある。

第78層

VIN-119・120に幅約0.4m、最大厚4cmで、ごく狭い範囲に分布する。東側へ傾斜して堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土が主体で、炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第79層

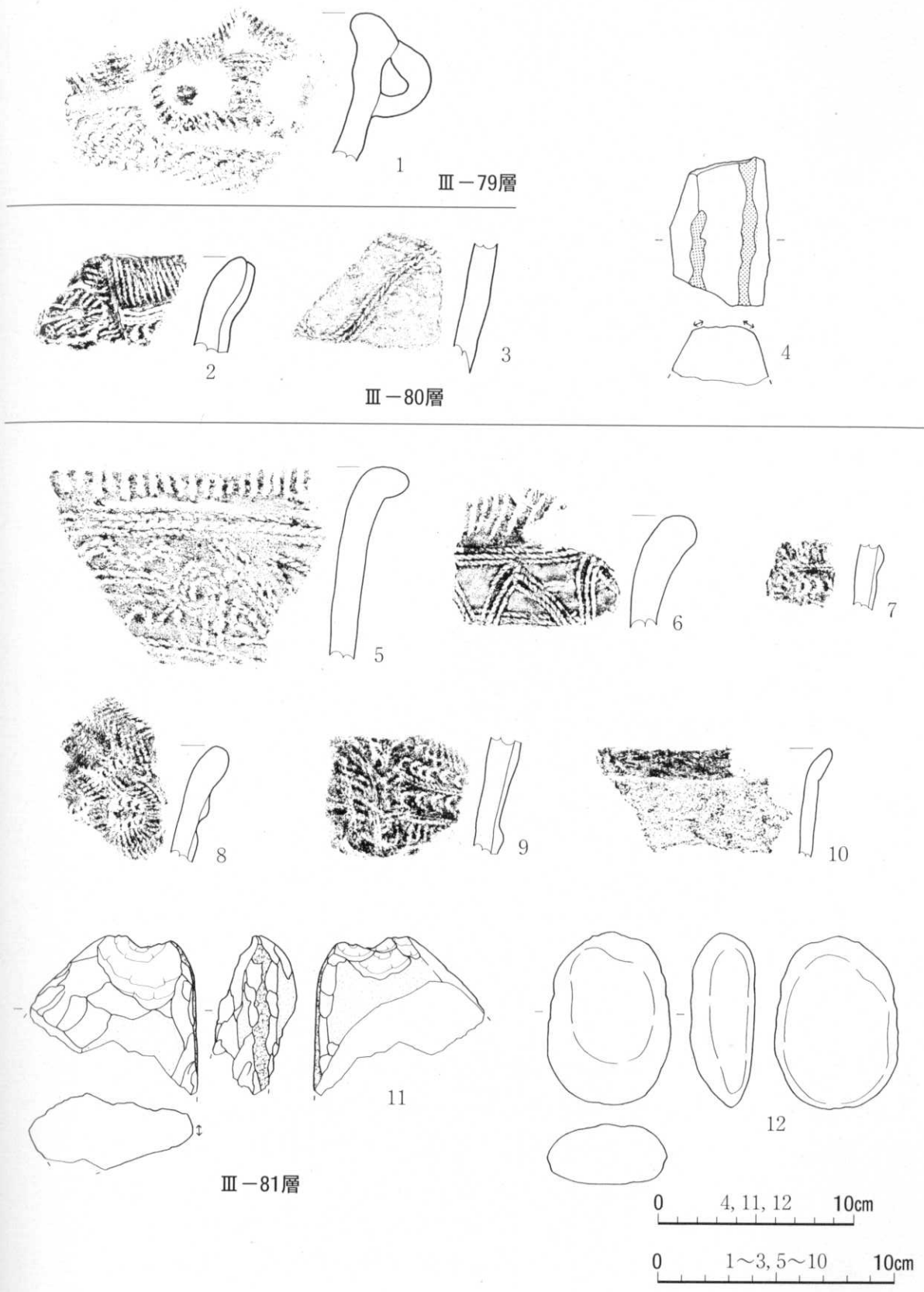
VIN-119・120に幅約0.8m、最大厚8cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。層厚は部分的に若干異なるものの、ほぼ均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器がごく少量出土した。115-1は波頂部下に橋状の隆帯が貼付けられたもので、口唇部上面の縄文原体押圧以外は地文のみである。

第80層

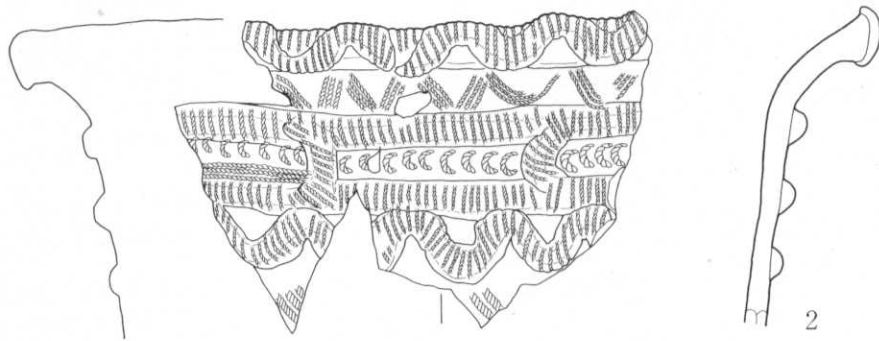
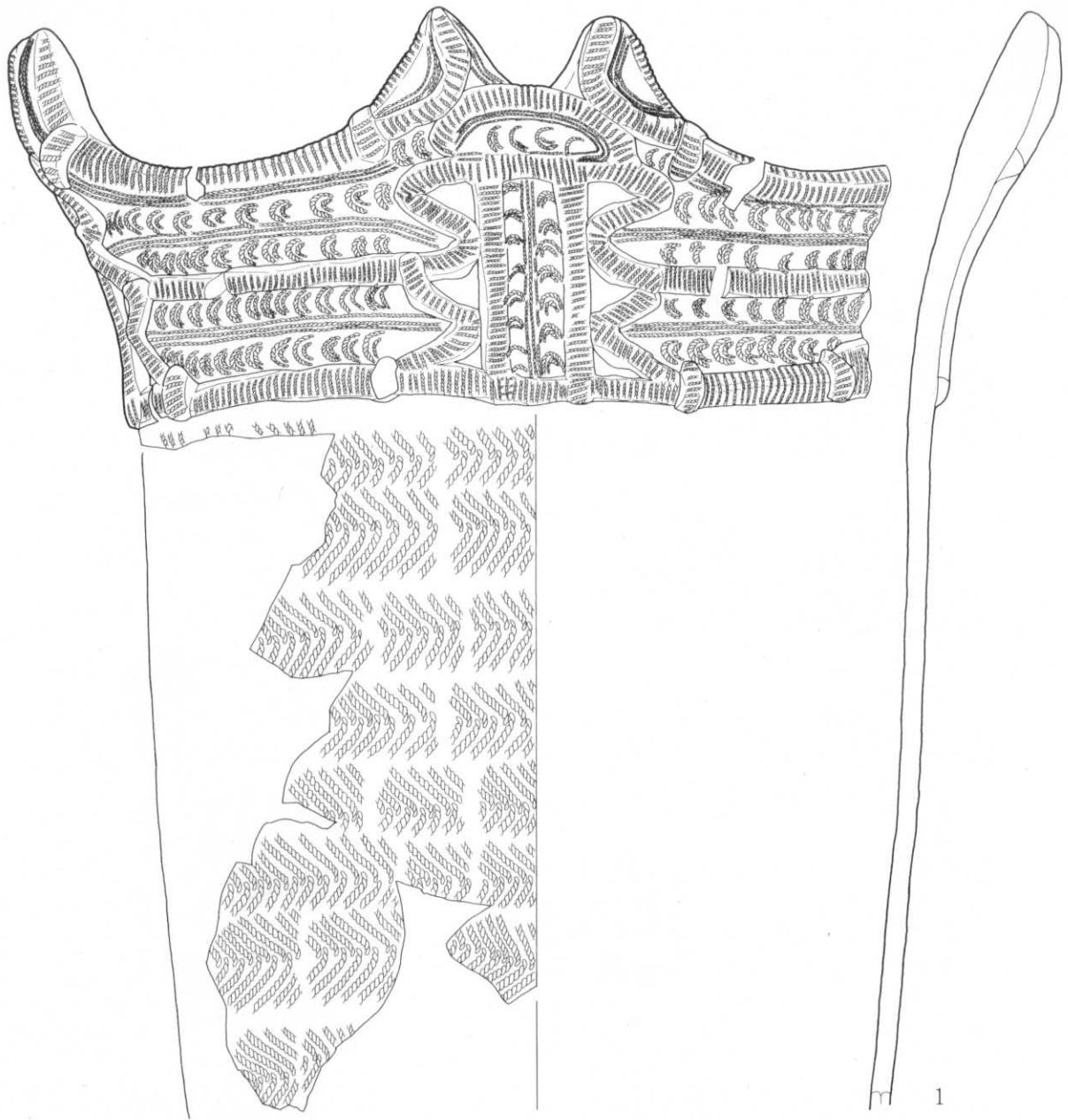
VIN-119・120に幅約1.65m、厚さ12cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。層厚は部分的に若干違いはあるものの、全体的にはほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。上層の第79層に比べると暗い色調である。遺物は、土器は円筒上層b式土器の小片がごく少量出土した。また、石器では敲打痕のある角柱状の礫(115-4)が1点出土した。

第81層

VIN・O-119・120に幅約0.95m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/6)土を主体とする。暗褐色土が斑状に入り、ローム粒が少量混入する。遺物は、円筒上層a式土器・上層b式土器片が少量出土した。115-5・6は鋸歯状の縄文原体押圧が、115-7・9は縄文原体による馬蹄形押圧が施されている。また115-10は口唇部が「く」の字状に屈曲する無文の土器である。石器は抉りのある半円状扁平打製石器(115-11)、全面が磨られた軽石(115-12)がそれぞれ1点出土した。



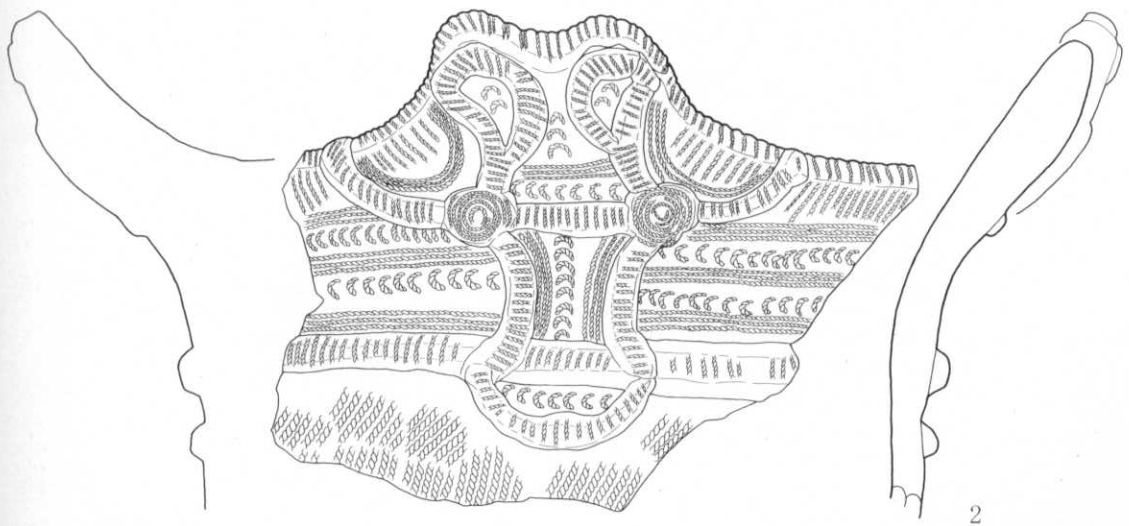
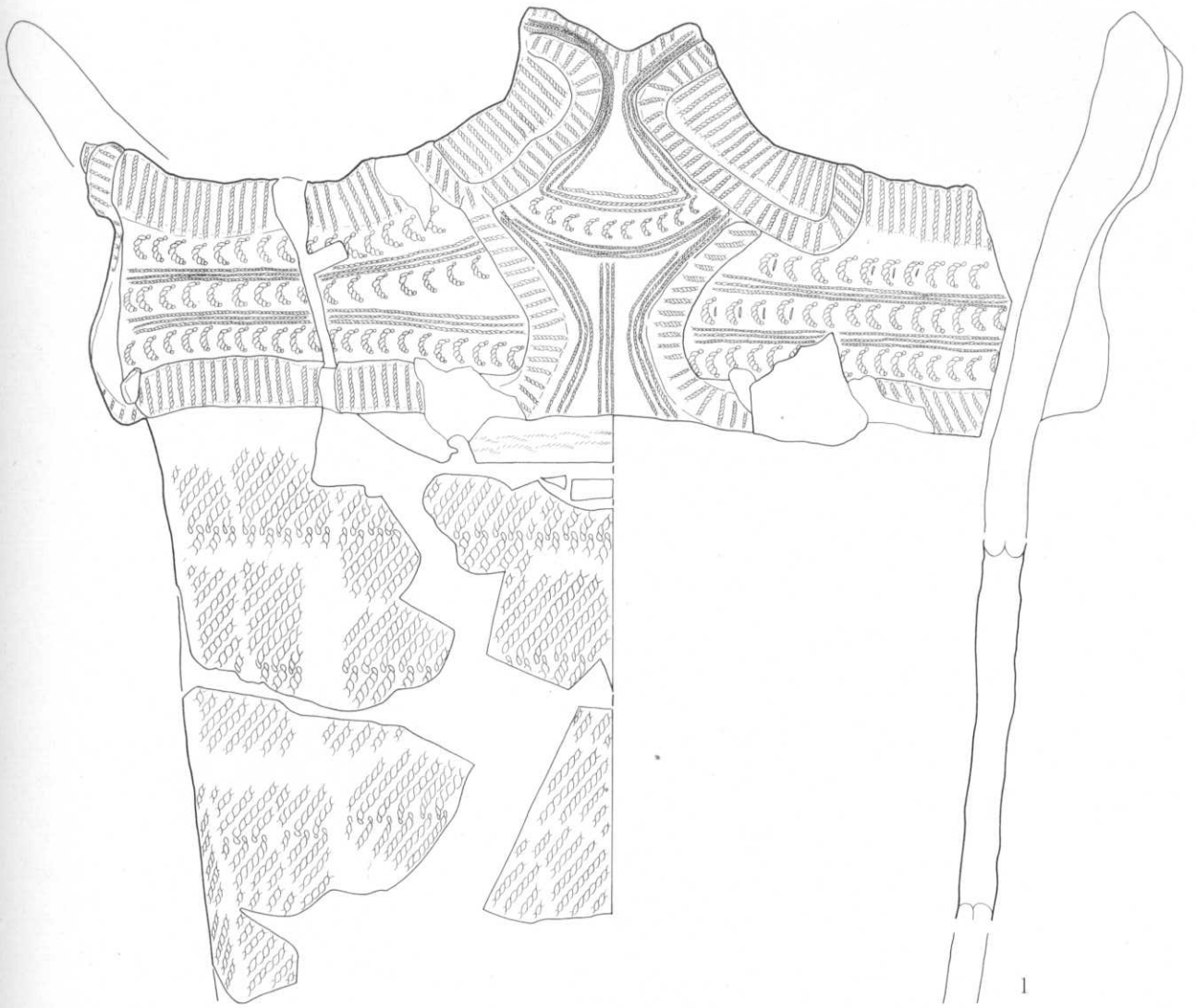
115図 4トレンチⅢ-79・80・81層出土遺物



Ⅲ-82層

0 1, 2 10cm

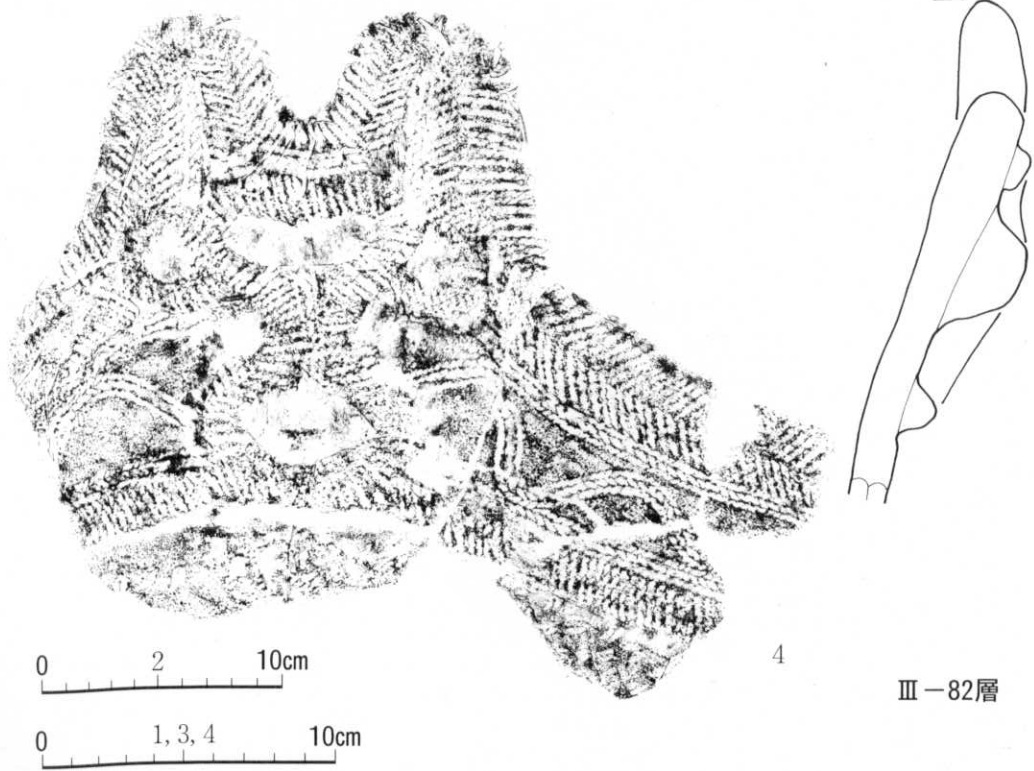
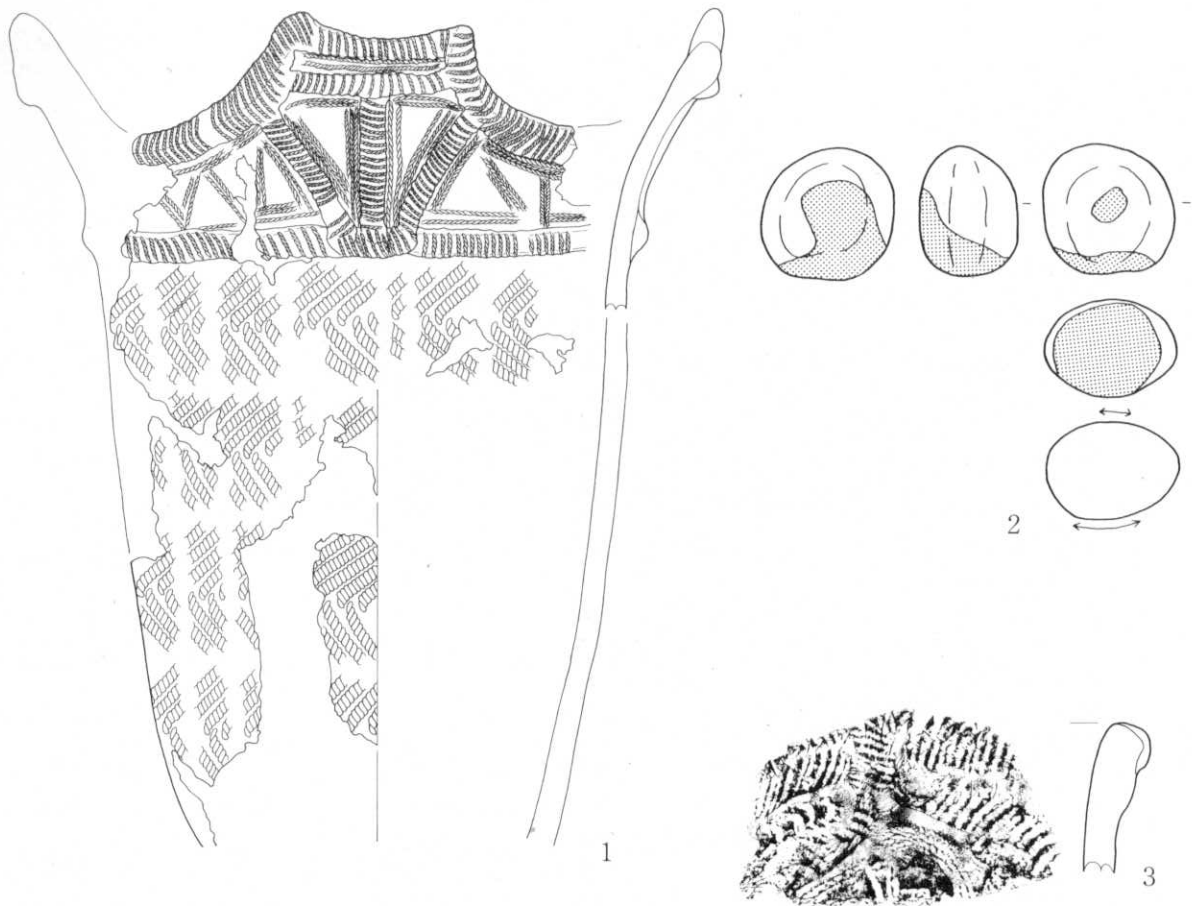
116図 4 トレンチⅢ-82層出土遺物 (1)



Ⅲ-82層

0 1, 2 10cm

117図 4トレンチⅢ-82層出土遺物(2)



Ⅲ-82層

118図 4トレンチⅢ-82層出土遺物 (3)

第82層

VIN-119・120に幅約2.9m、最大厚11cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物を主体とする。遺物は、土器は複数の復元個体を含み多数出土した。116-1・2、117-1・2は波頂部下の隆帯間や口縁部全体に馬蹄形押圧が施文される土器である。117-1は馬蹄形押圧の中央に爪の圧痕が観察される部分もある。116-2は縄文原体による鋸歯状と馬蹄形押圧が多段に施文されたものである。118-1・4は鋸歯状押圧が口縁部を一巡するものである。石器は敲打痕のある礫(118-2)が1点出土した。

第83層

VIN・O-119・120に幅約1.6m、最大厚14cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は若干異なる部分もあるがほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、炭化物が多量、ローム粒・灰色粘土が少量、褐色土が斑状に含まれる。遺物は、土器は復元個体を含み多量に出土した。119-1・3などは口縁部全体に縄文原体による馬蹄形押圧が施文されたもので、120-1・4には鋸歯状押圧が施文される。また、120-4には鋸歯状押圧と馬蹄形押圧が上下に施文されている。石器も多数出土した。剥片石器では尖基鏃(121-1)、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(121-2)、有茎鏃(121-3・4)、玉髓製の石鏃未製品(121-5)、削器ないし搔器(121-6)、削器ないし搔器(121-7・8)、剥片(121-9)、削器ないし搔器(122-1~3)があり、礫石器では磨痕のある礫(122-4)、敲打痕のある礫(122-5・6、123-1・2)、全面が磨られた軽石(123-3~5)がある。ほかに土製品では、土偶が1点(123-6)、土器片利用円盤が1点(123-7)出土した。土偶は腕部で、馬蹄形押圧と直線状の押圧が組み合わされている。土器片利用円盤は前期末の土器が使われている。

第84層

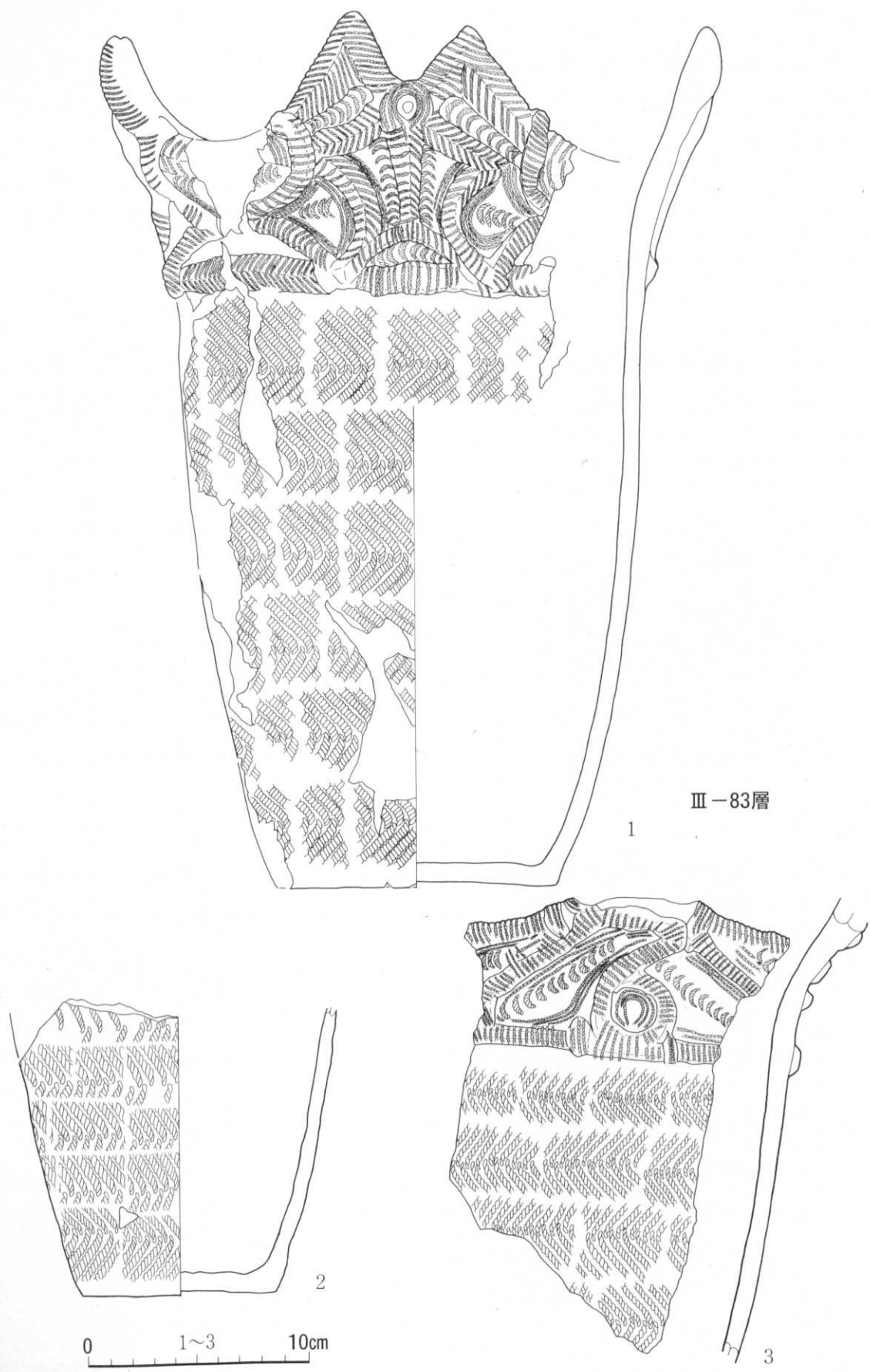
VIN-119・120に幅約2.9m、最大厚10cmで分布する。東側へ若干傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ一定である。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム主体層で、締まりのない密なブロック状を呈し、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期末から中期初頭の土器が出土した。124-1は口唇部から胴部まで地文のみの土器である。124-7は底部で、底面にスダレ状の圧痕が観察される。石器では、削器ないし搔器(124-8)、敲打による凹をもつ礫(124-9)、磨痕のある礫(124-10)、全面が磨られた軽石(124-11)がそれぞれ1点出土した。

第85層

VIN-119・120に幅約1.75m、最大厚14cmで分布する。東側へ向かって傾斜して堆積する。層厚は中央部が最も厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物・焼土粒が中量含まれる。遺物は、土器は上部2/3を復元し得たものが出土し、波頂部以外に馬蹄形押圧が巡るものである。石器は角柱状の礫(125-2)が出土した。

第86層

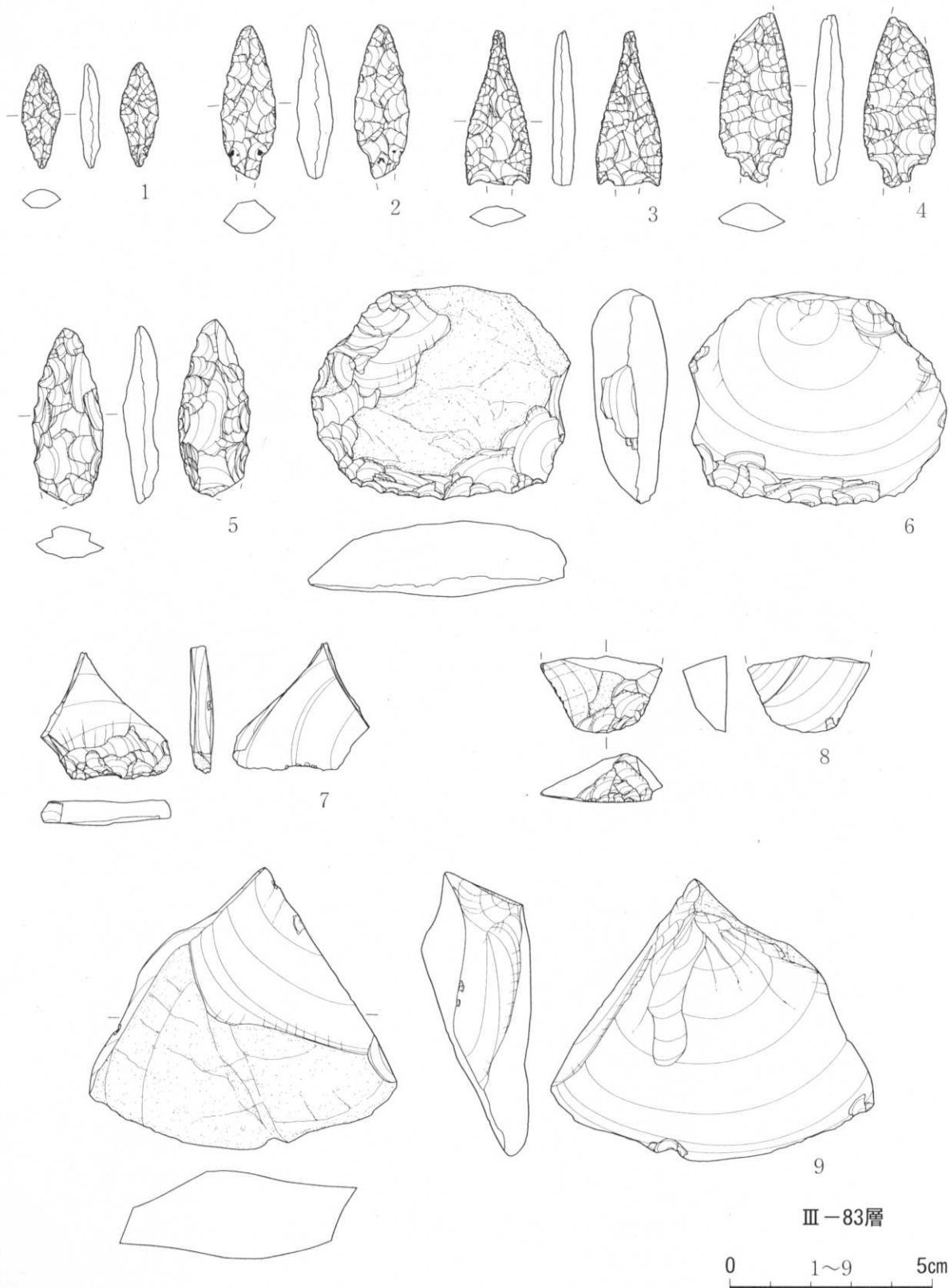
VIN-119・120に幅約1.8m、最大厚9cmで分布する。東側へ向かって若干傾斜しながら堆積する。



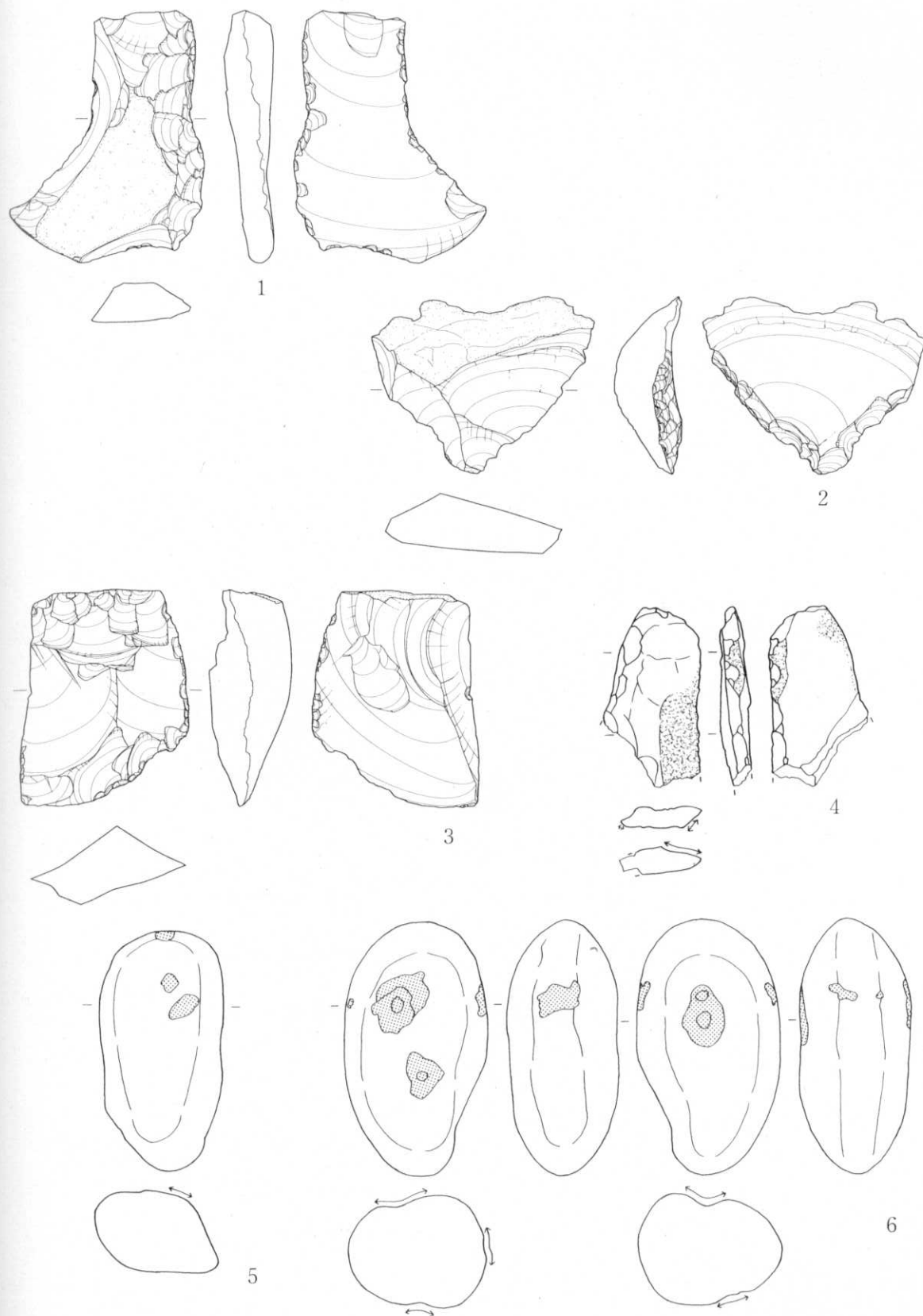
119図 4トレンチIII-83層出土遺物 (1)



120図 4 トレンチⅢ-83層出土遺物 (2)



121図 4トレンチⅢ-83層出土遺物(3)

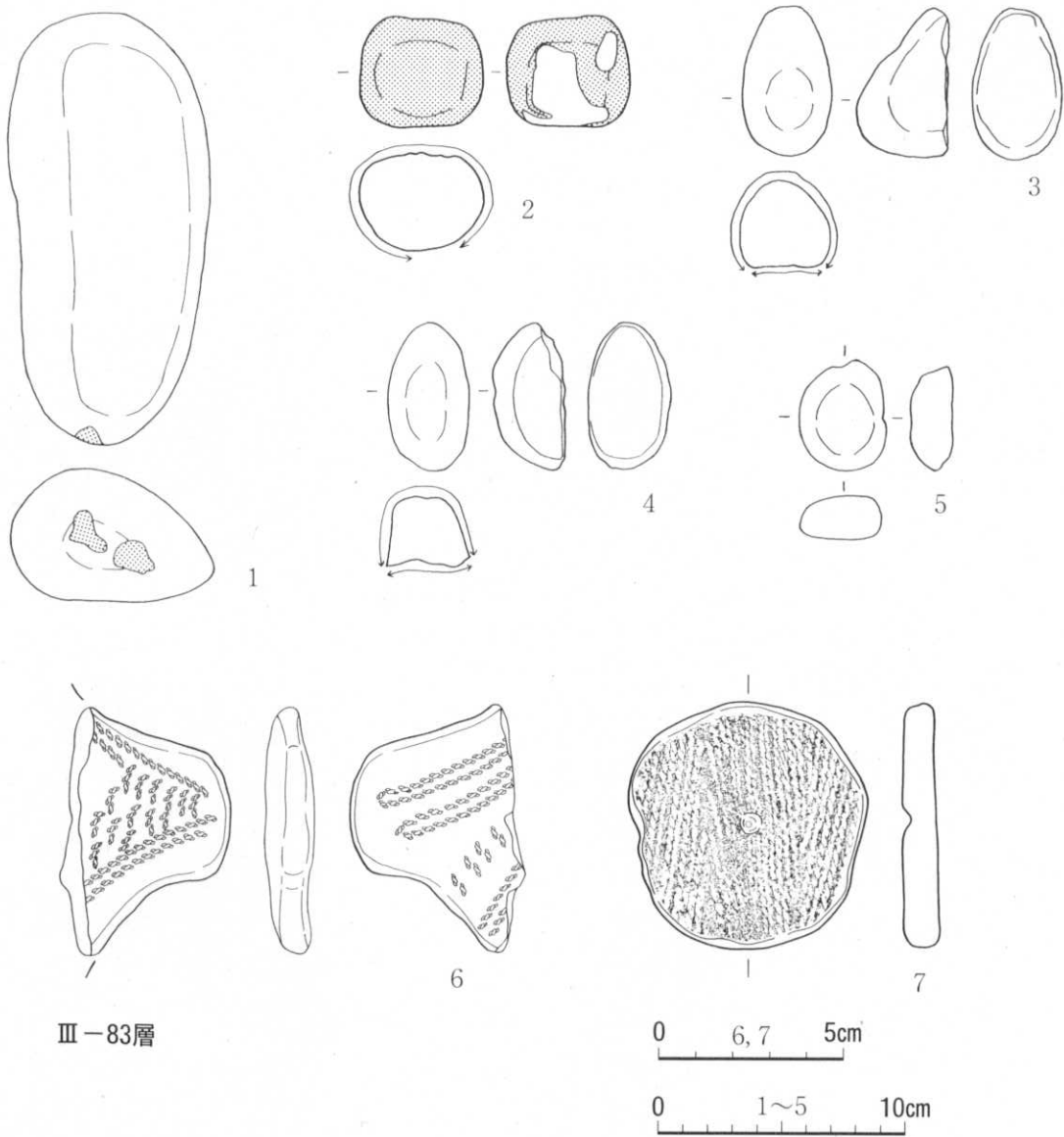


Ⅲ-83層

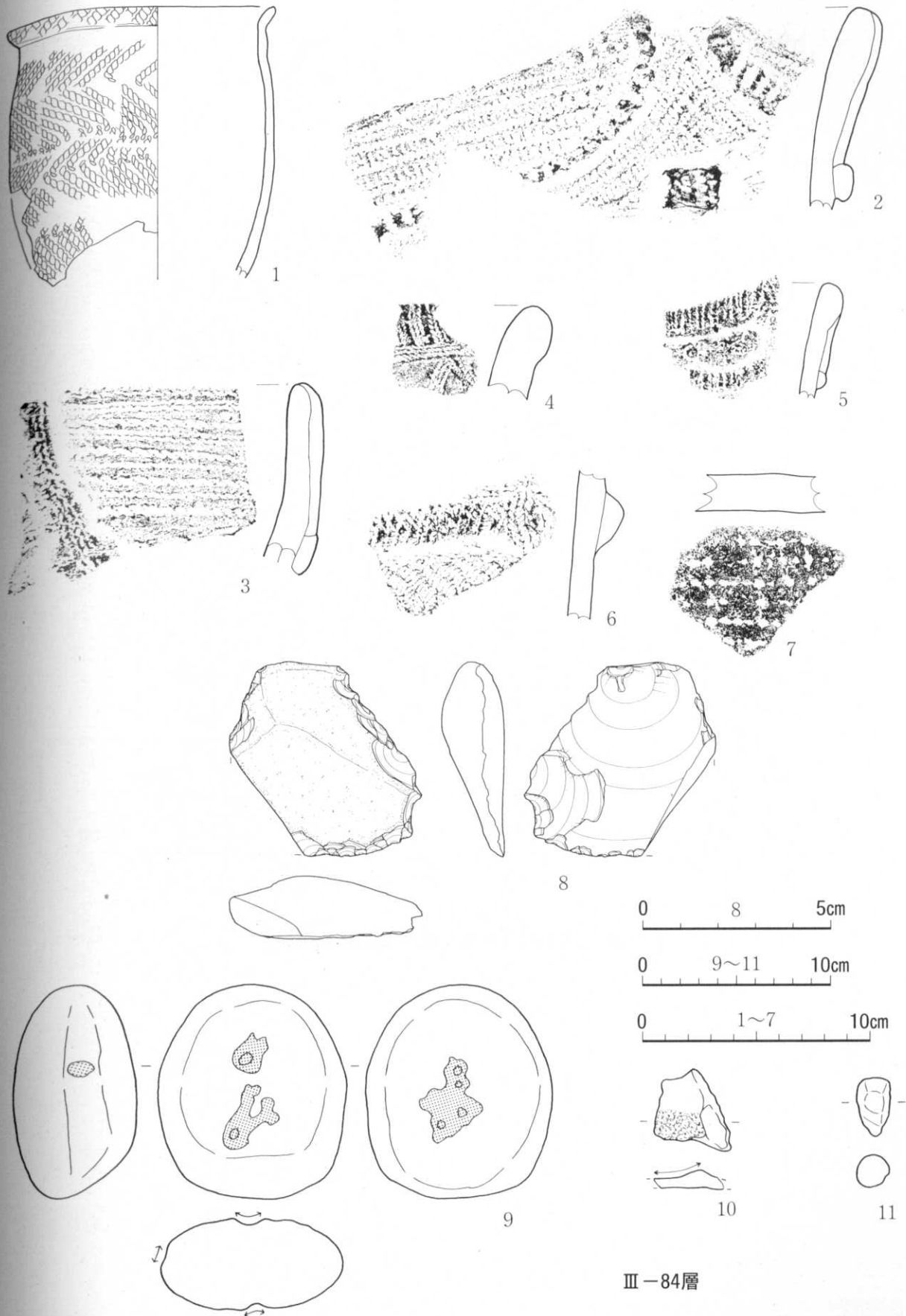
0 1~4 5cm

0 5, 6 10cm

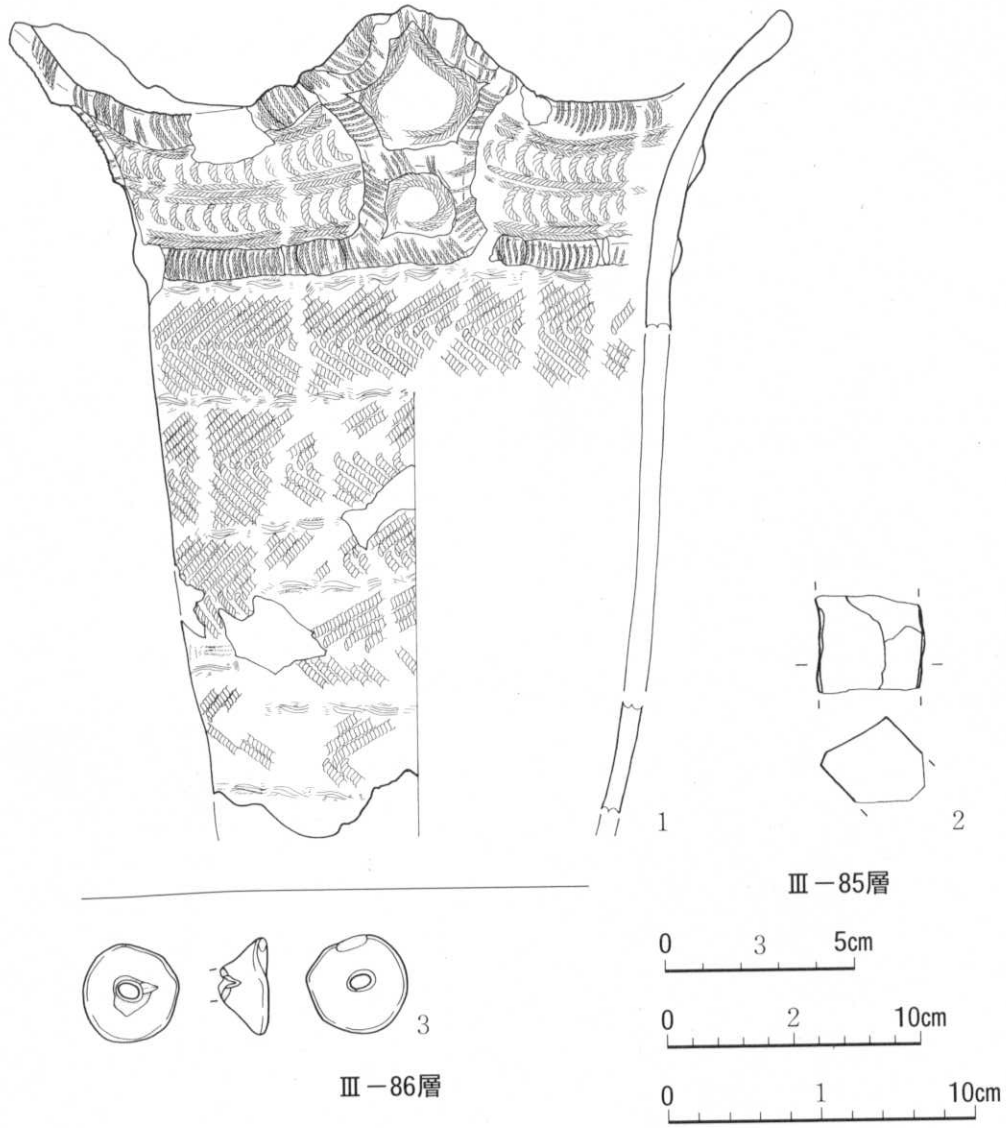
122図 4 トレンチⅢ-83層出土遺物 (4)



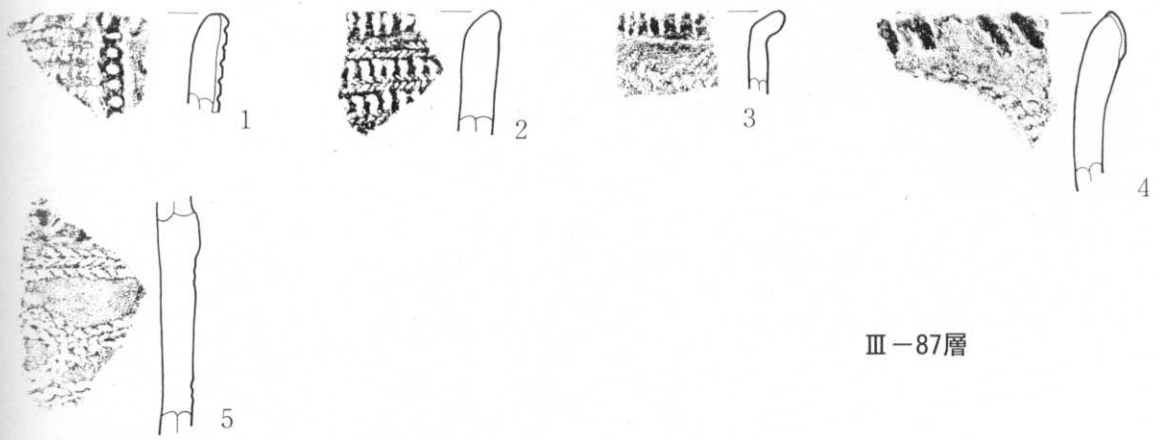
123図 4トレンチIII-83層出土遺物 (5)



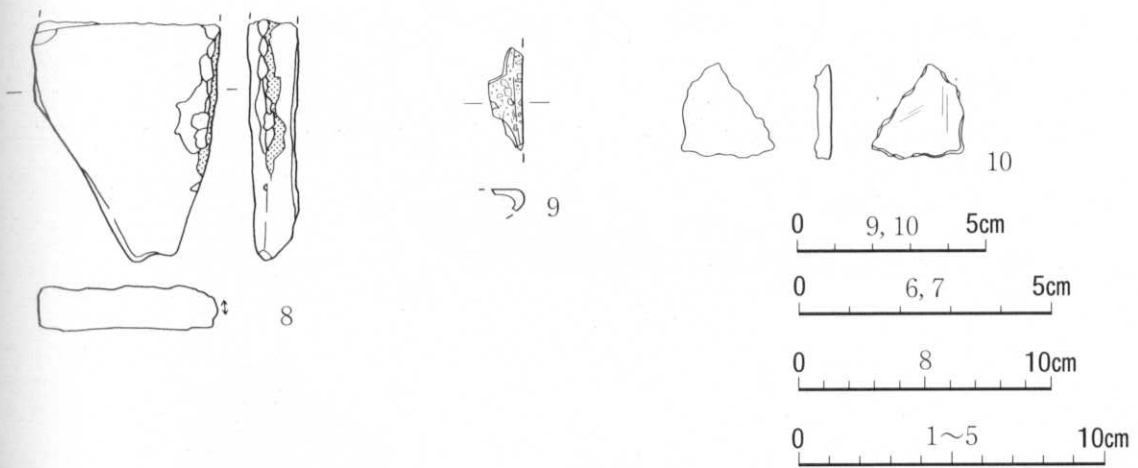
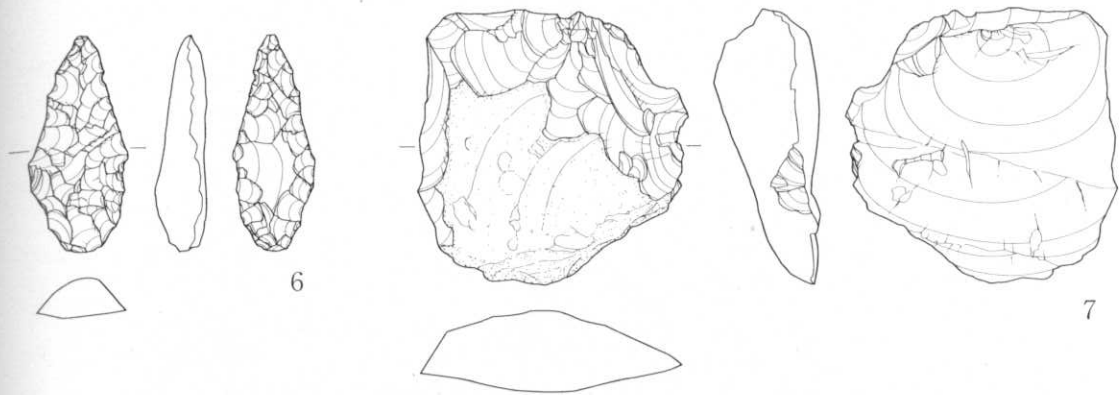
124図 4トレンチIII-84層出土遺物



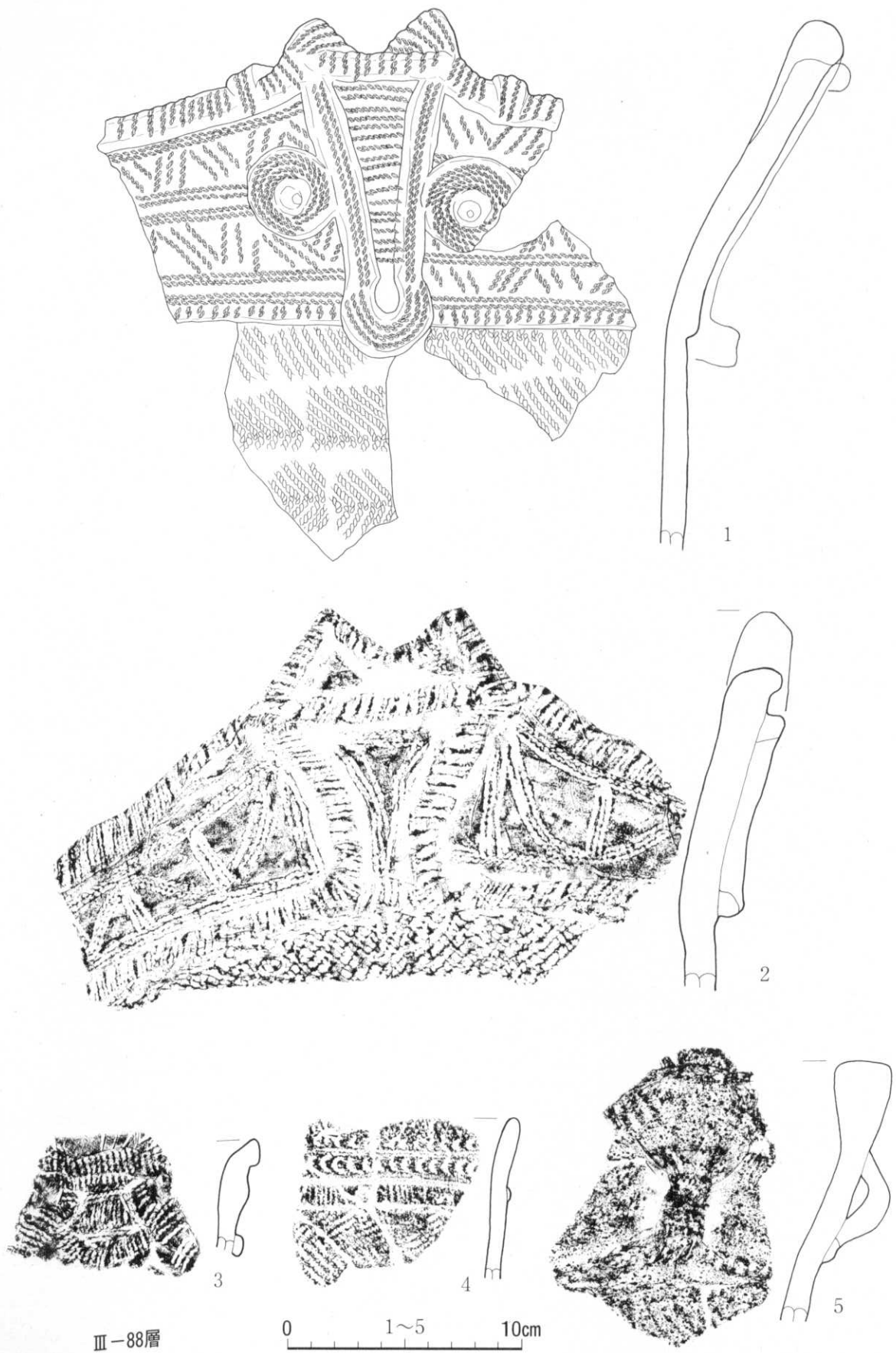
125図 4 トレンチ III-85・86層出土遺物



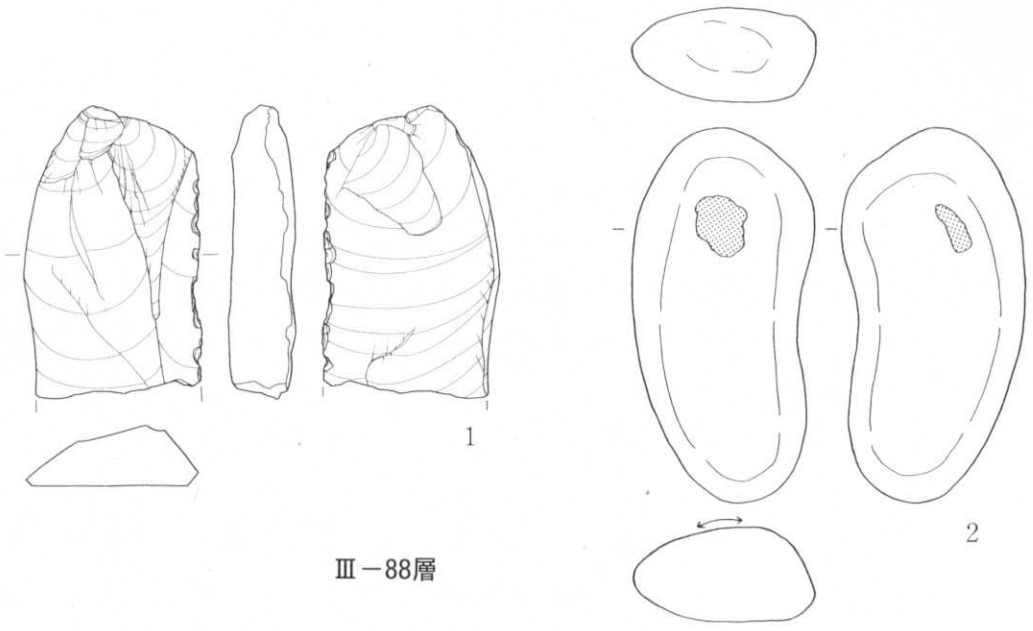
Ⅲ-87層



126図 4トレンチⅢ-87層出土遺物



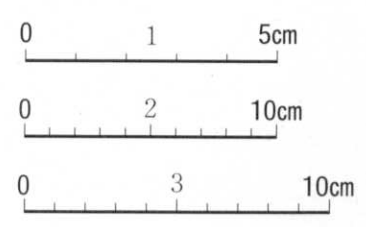
127図 4トレンチⅢ-88層出土遺物(1)



III-88層



III-89層



128図 4 トレンチ III-88層出土遺物 (2)・III-89層出土遺物 (1)

層厚はほぼ均一である。堆積土は緻密でしまり強い褐色(10YR4/6)のローム土が主体で、炭化物が極微量含まれる。遺物は、土製品が1点出土した。平面形が円形で、断面形が三角形のもので、中央に穿孔がある。

第87層

VIN・O-119・120に幅約1.45m、最大厚12cmで分布する。東側へやや傾斜するものの、ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期末から中期初頭の土器小片がごく少量出土した。石器は石鏃未製品(126-6)、剥片(126-7)、敲打痕のある礫(126-8)が出土した。ほかに不明土製品、被熱した獣骨片が各1点出土した。

第88層

VIN・O-119・120に幅約0.9m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土が主体で、炭化物が少量混入する。遺物は、土器は中期初頭の土器片が少量出土した。127-1・2は縄文原体による鋸歯状押圧が施文されたもので、127-1は多段に構成される。127-4は平縁で、馬蹄形押圧が一巡する。127-5は摩滅が著しく、文様が不明確である。石器は削器ないし搔器(128-2)、煤が付着した敲打痕のある礫(128-3)が出土した。

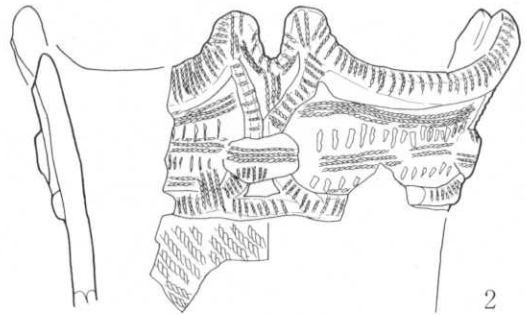
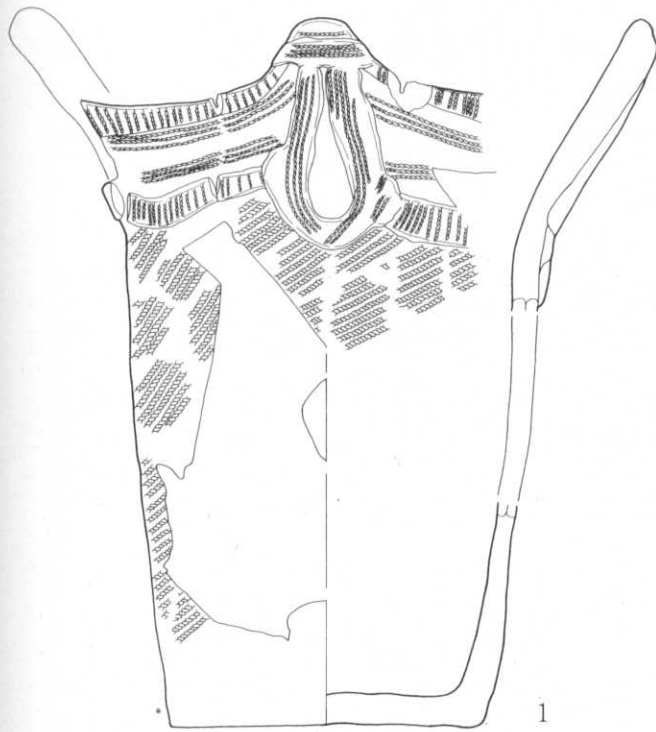
第89層

VIN・O-119・120に幅約2.2m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は粘性の強い黒褐色(10YR2/2)土が主体で、炭化物が少量含まれる。

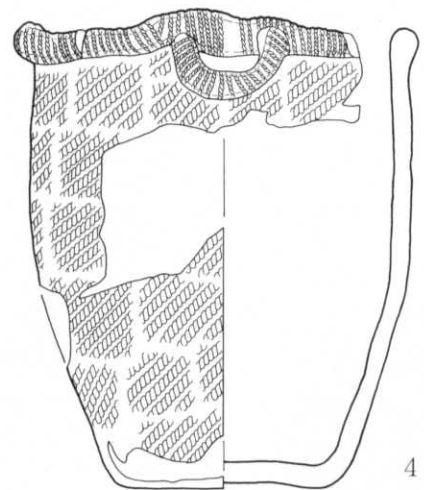
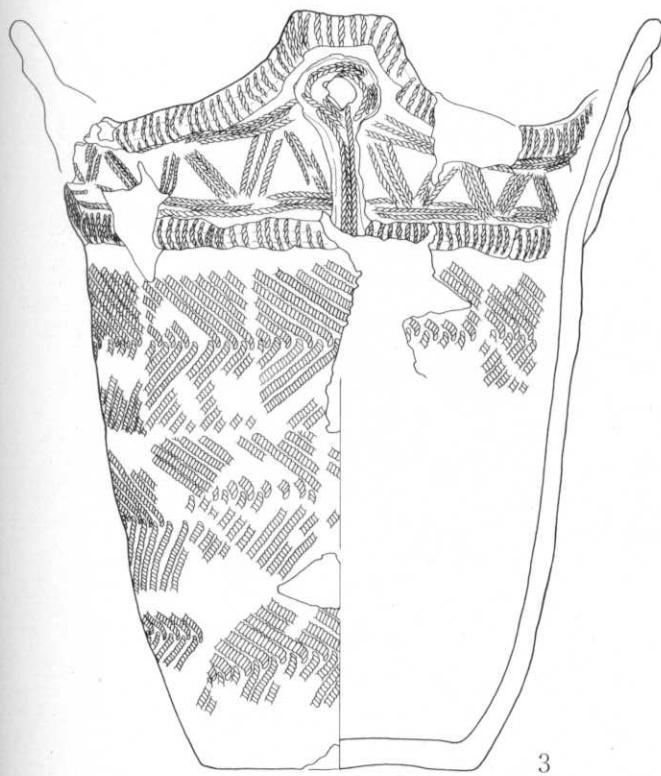
遺物は多量に出土した。土器は複数の復元個体を含む。129-3・130-1・131-1は波頂部以外に鋸歯状押圧が施文されたものである。また130-2・131-2・132-2は波頂部以外に馬蹄形押圧が施文されたものである。129-2には波頂部下と鋸歯状押圧の間に刺突が施されている。131-3は台付鉢形土器で、口縁部の横位隆帯間に馬蹄形押圧が密に巡るものである。石器の出土量も多い。使用痕のある剥片(133-8・9)、石篋かと思われる両面加工石器(133-10)、削器ないし搔器(133-11・12)、使用痕のある剥片(133-13)、全面が磨られた軽石(133-14)などがある。

第89'層

VIN・O-119・120に幅約6.1m、最大厚10cmで分布する。第IV層の上にはほぼ水平に堆積する。層厚は部分的に若干違いはあるものの、全体的にはほぼ均一である。堆積土は黒褐色土を主体とし、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は復元個体を含む円筒上層a式土器が多量に出土した。134-1は縄文原体による鋸歯状押圧が施文されたものである。135-6は馬蹄形押圧が観察される。また、石器は半円状扁平打製石器(136-1)、敲打痕のある擦切具(136-2)、磨痕と敲打痕をもつ礫(136-3)、全面が磨られた軽石(136-4)、角柱状の礫(136-5)、敲打痕のある礫(136-6)などが出土した。有茎鏃(137-1)、凹基鏃(137-2)、削器ないし搔器(137-3・4)、使用痕のある剥片(137-5)、剥片(137-6)、上面にコーン?の痕跡がみられる両極石器(137-7)、刃部に光沢がみられる使用

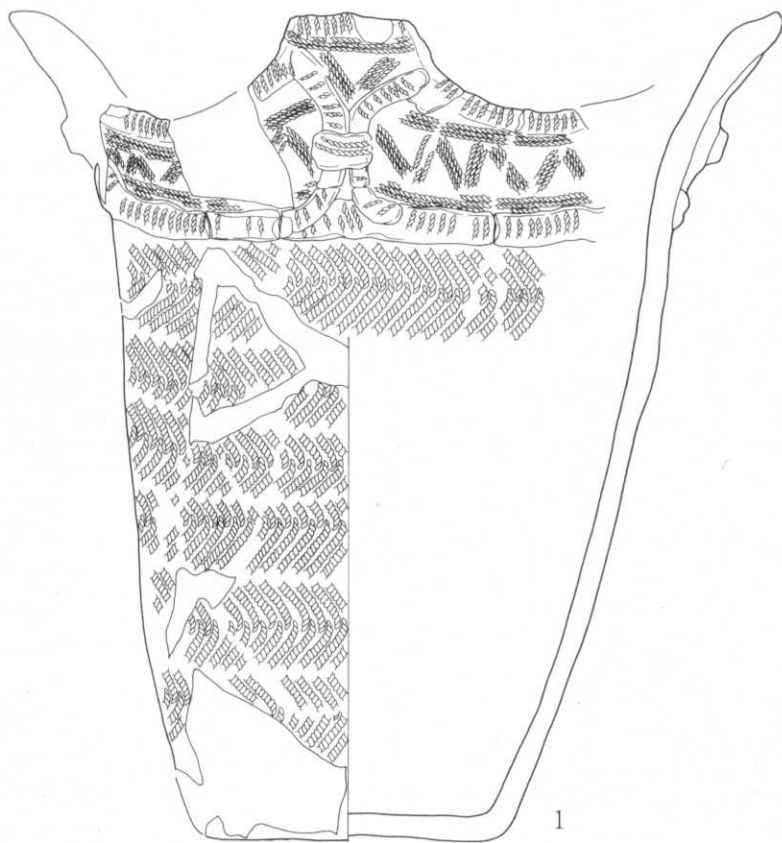


Ⅲ-89層

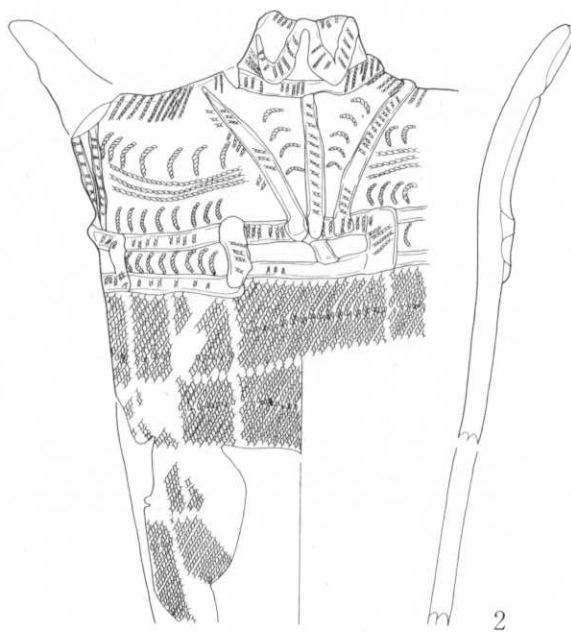


0 1~4 10cm

129図 4トレンチⅢ-89層出土遺物(2)

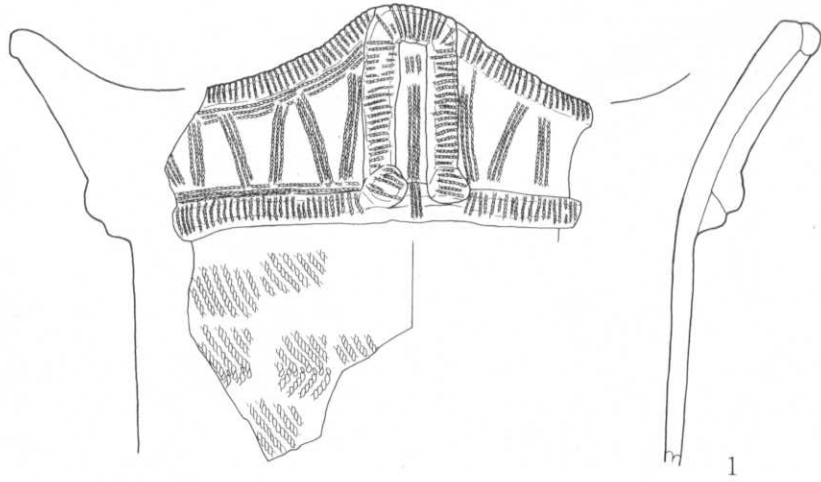


Ⅲ-89層

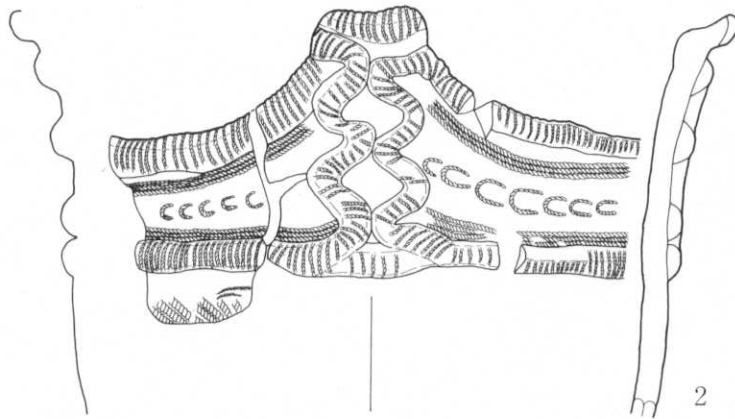


0 1, 2 10cm

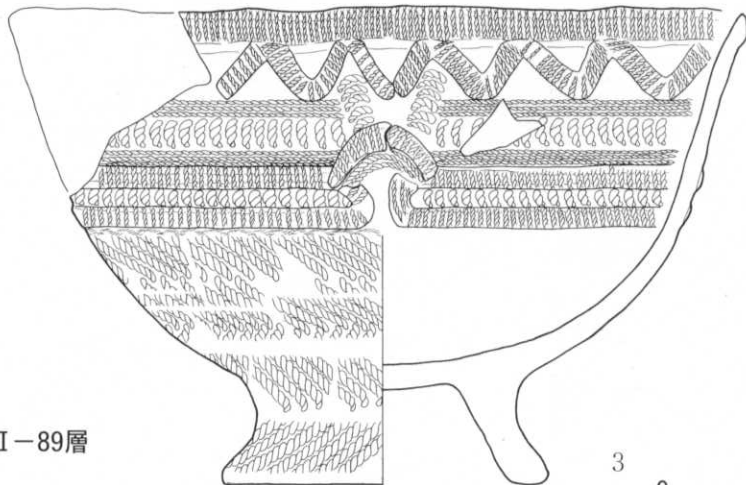
130図 4 トレンチⅢ-89層出土遺物 (3)



1



2

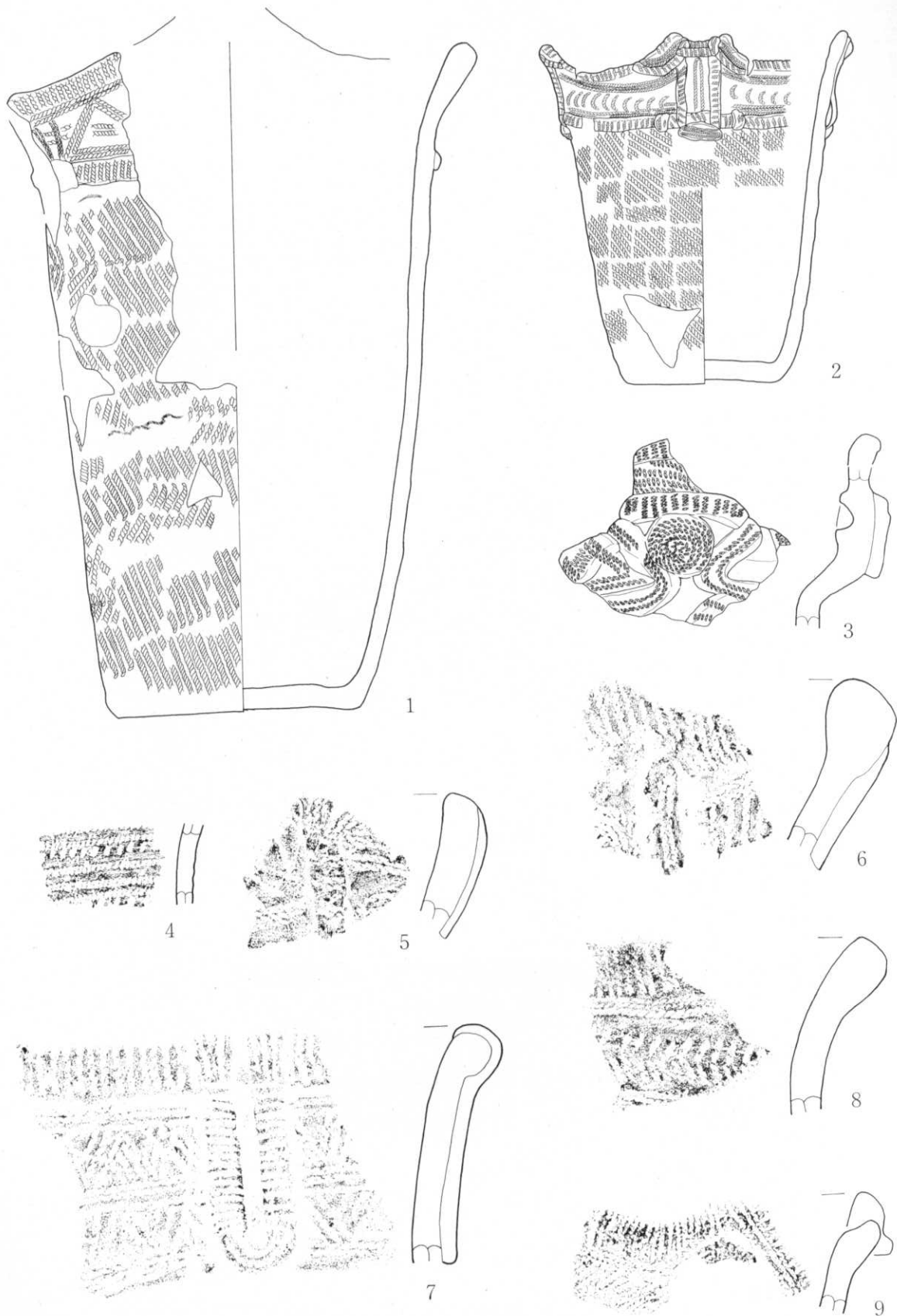


Ⅲ-89層

3

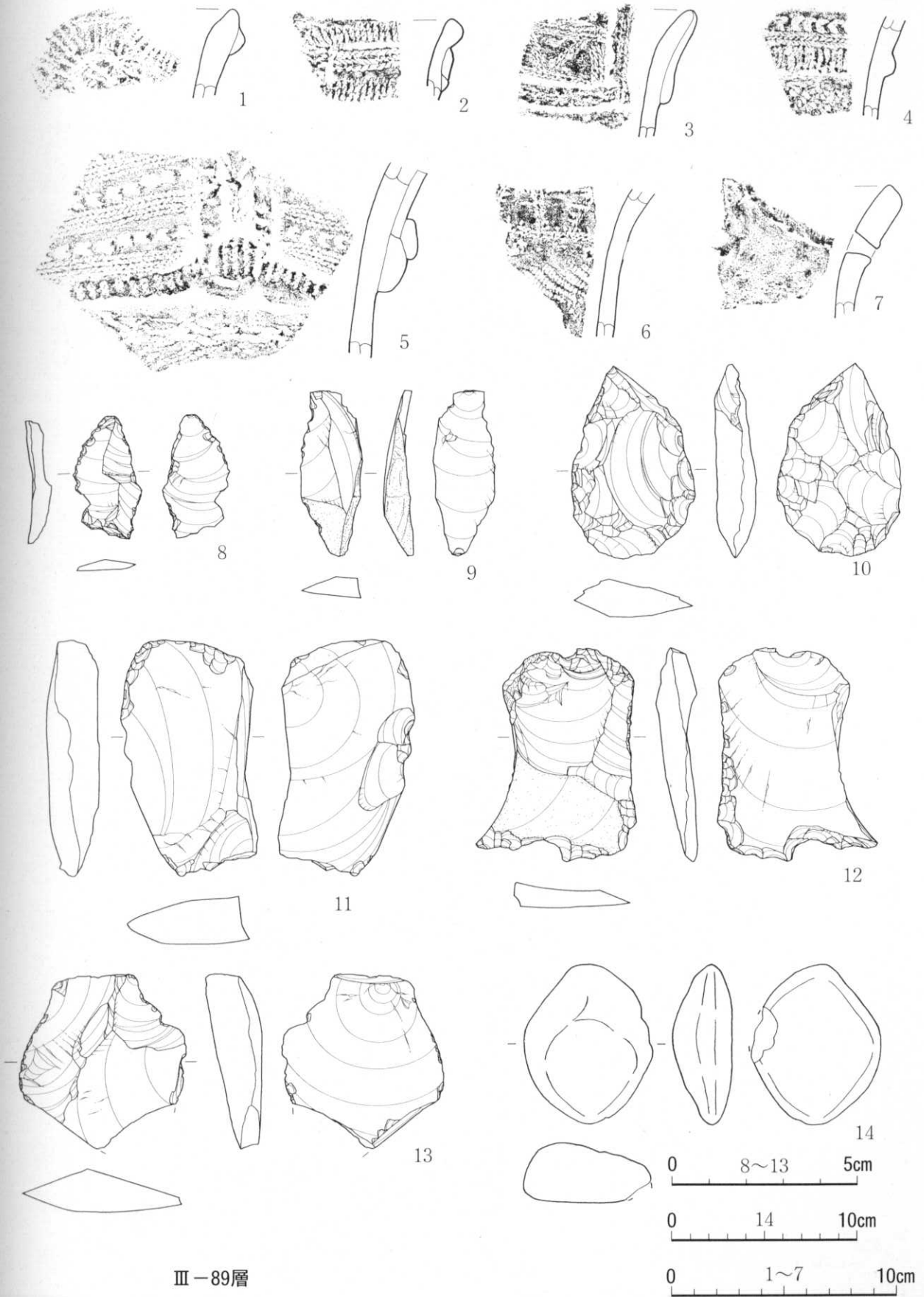
0 1~3 10cm

131図 4 トレンチⅢ-89層出土遺物 (4)



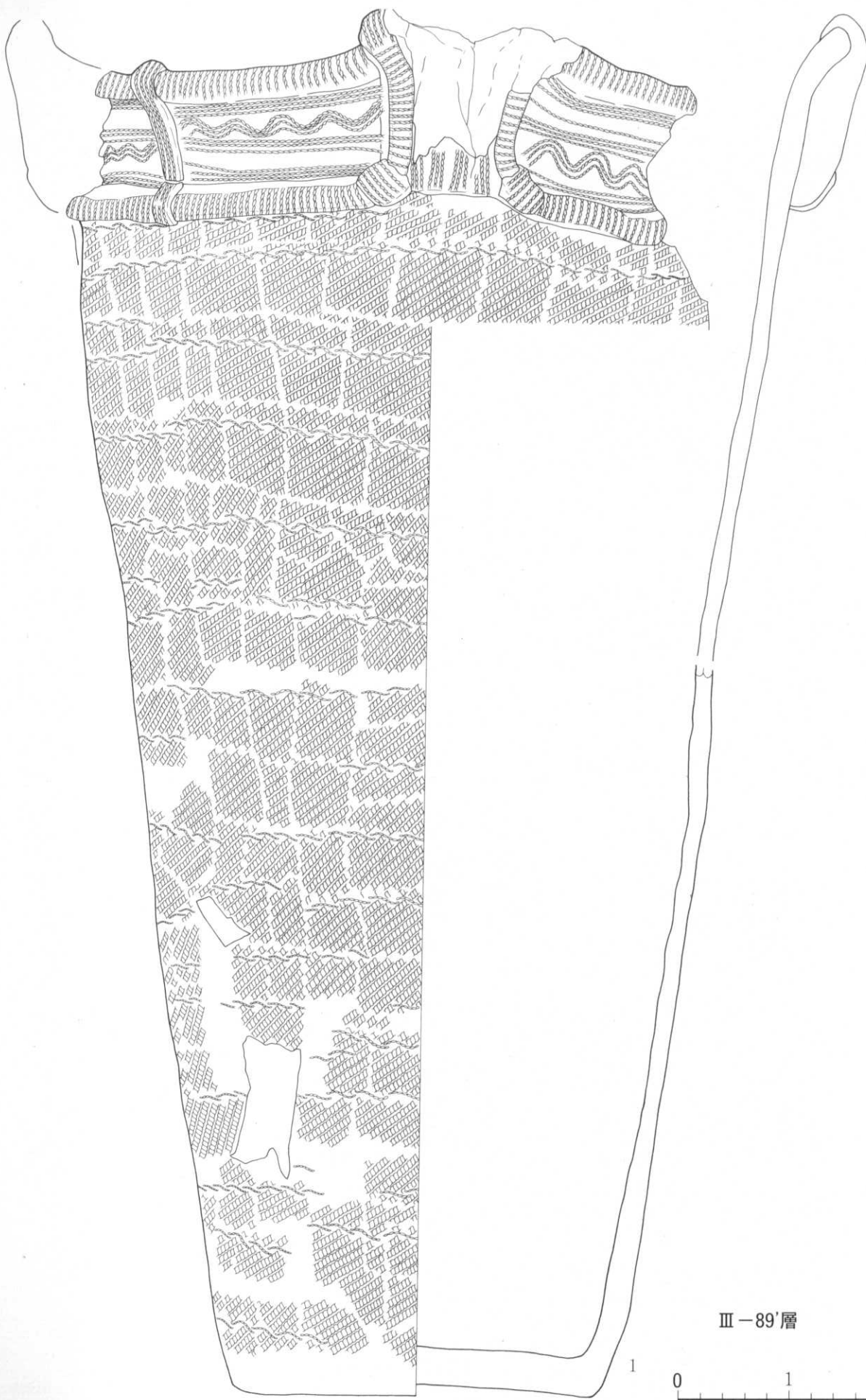
III-89層

132図 4 トレンチ III-89層出土遺物 (5)

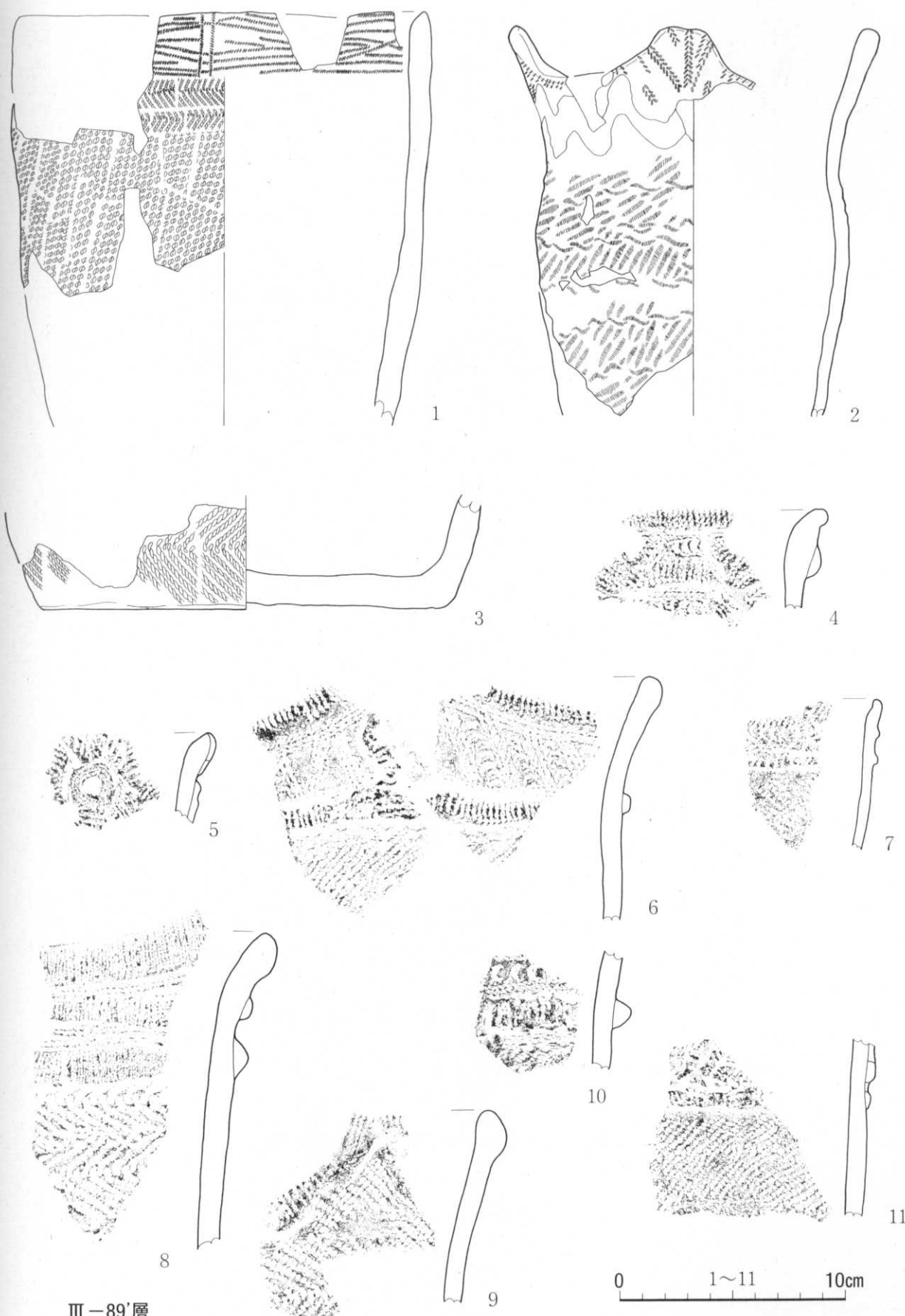


Ⅲ-89層

133図 4トレンチⅢ-89層出土遺物(6)



134図 4 トレンチⅢ-89'層出土遺物(1)

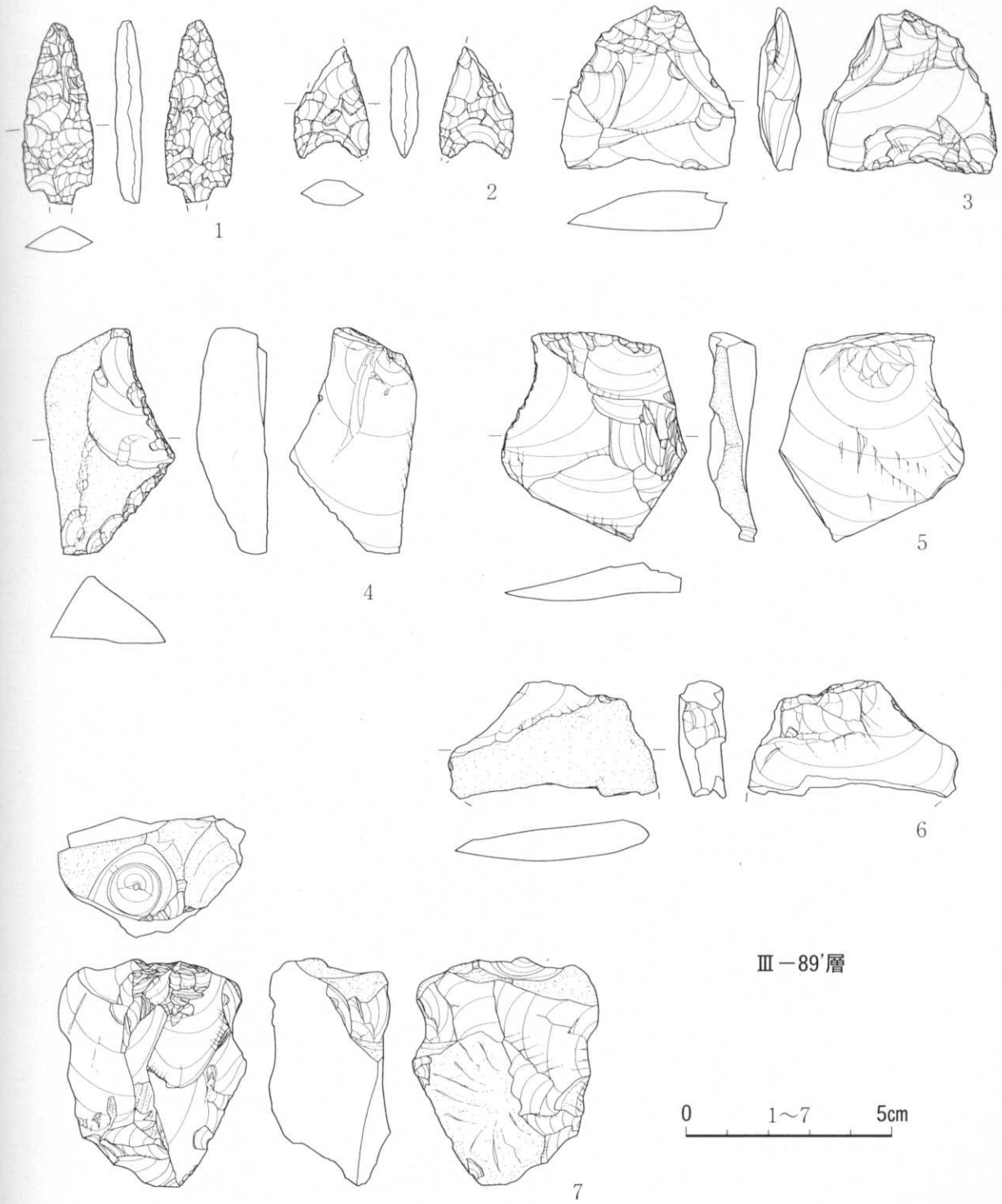


III-89'層

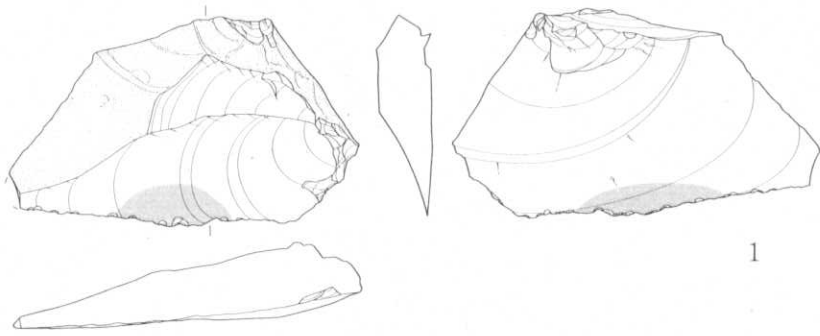
135図 4 トレンチ III-89' 層出土遺物 (2)



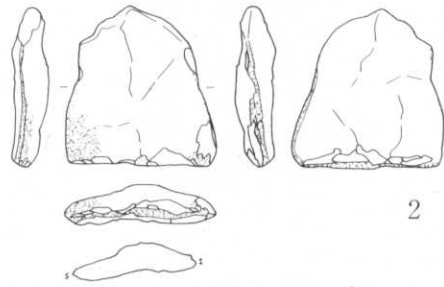
136図 4 トレンチⅢ-89'層出土遺物(3)



137図 4 トレンチⅢ-89'層出土遺物(4)

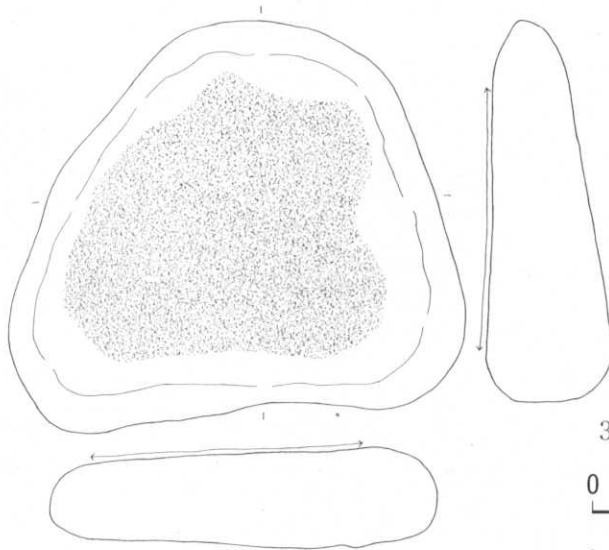


1



2

Ⅲ-89'層

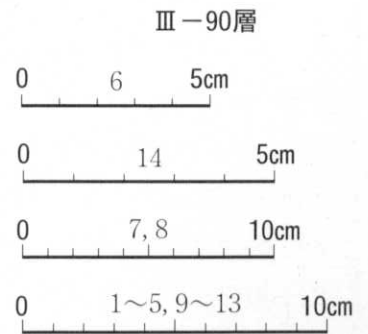
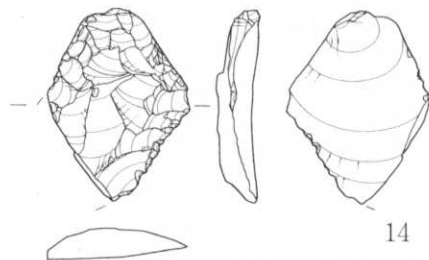
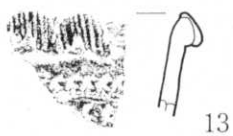
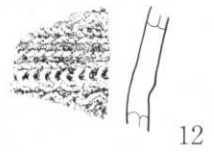
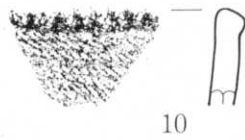
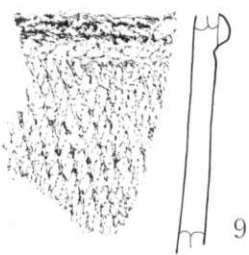
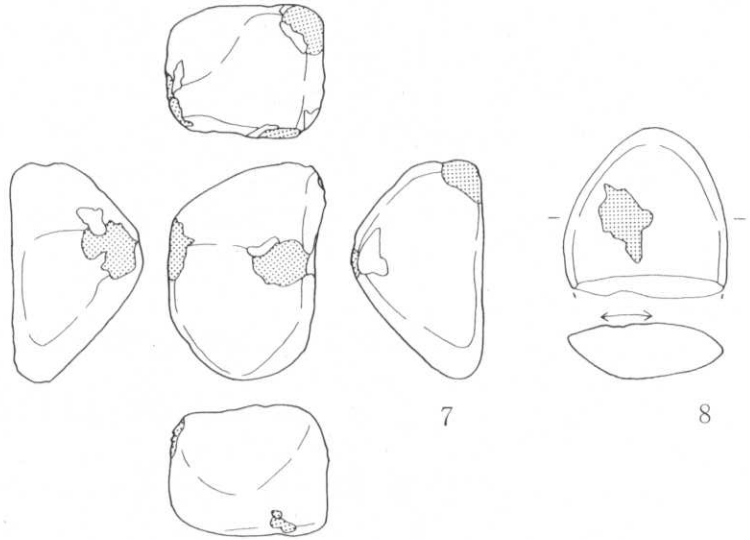
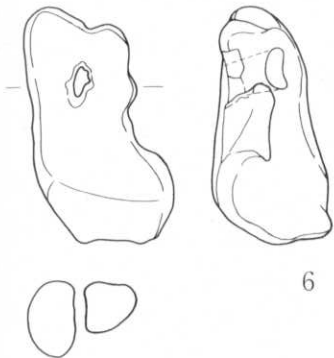
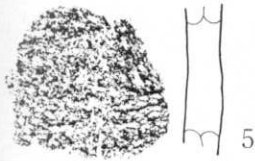
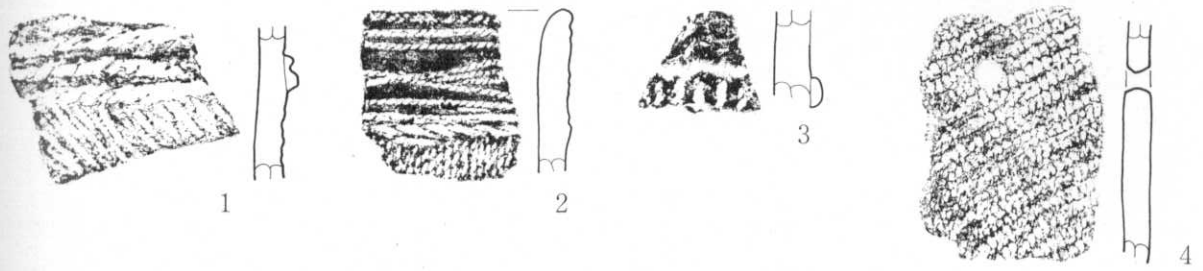


3

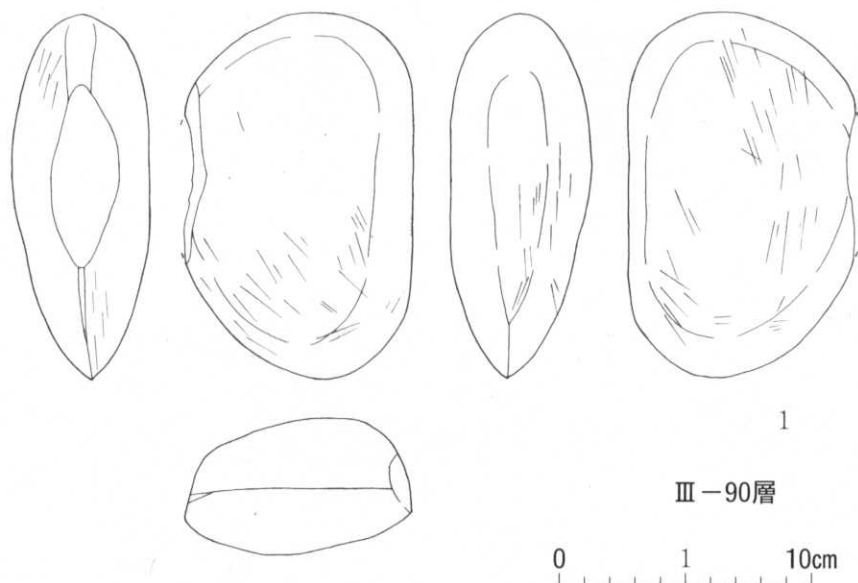
0 1, 2 5cm

0 3 10cm

138図 4 トレンチⅢ-89'層出土遺物(5)



139図 4トレンチⅢ-90層出土遺物 (1)



140図 4 トレンチⅢ-90層出土遺物 (1)

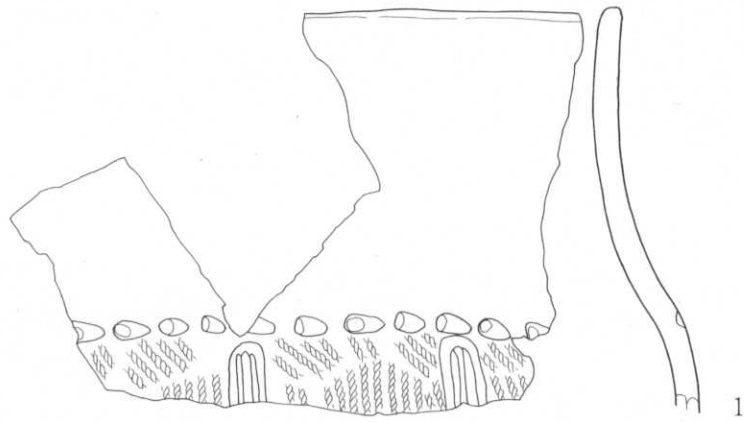
痕剥片 (138-1)、磨痕のある礫 (138-2)、石皿 (138-3) が出土した。

第Ⅳ層 (=第90層)

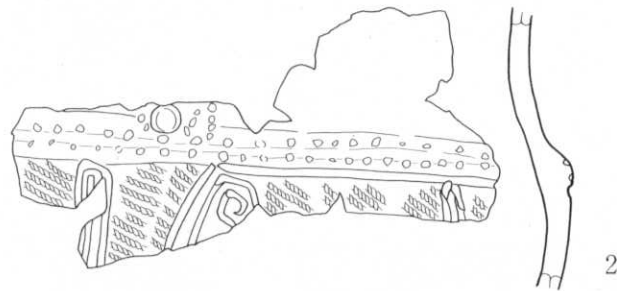
VIM・O-119・120に幅約6.1m、最大厚50cmで分布する。ほぼ水平に均一な厚さで堆積する。堆積土は黒褐色 (10YR2/1) 土で、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期の円筒下層式土器が少量出土した。石器では、敲打痕のある礫 (139-7・8)、削器ないし搔器 (139-14)、磨製石斧の未製品 (140-1) が出土した。

風倒木痕 (=第6~10・19~23・26層)

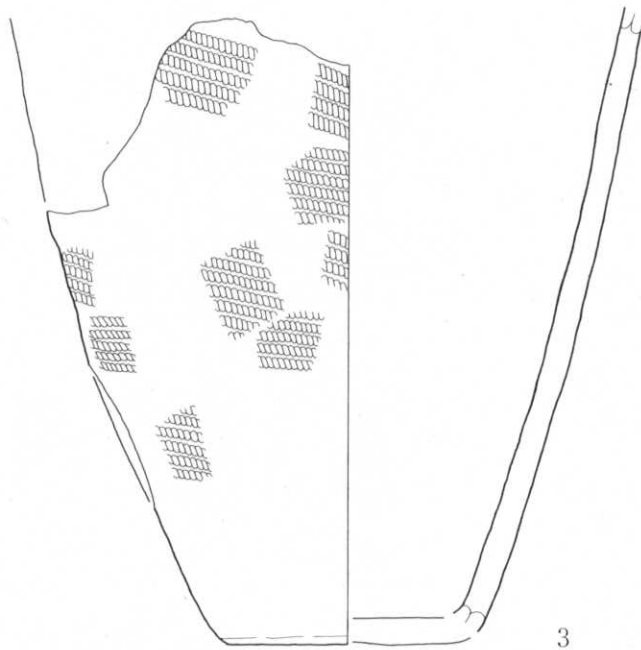
VIM・O-119・120に幅約2.9m、最大厚70cmで広がる。堆積土は黒色土を主体とし、ローム土、褐色土などが東側に傾斜しながら混入する。全体に炭化物や焼土粒が入る。遺物は多量に出土した。土器は円筒上層b式から最花式まで出土しているが、攪乱土層であり時期毎のまとまりをもつものではない。いずれも破片のみで、復元しえたものはない。石器は、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃 (142-16)、被熱している有茎鏃 (142-17)、凹基鏃 (143-1)、両面加工石器 (143-2)、石槍 (143-3)、使用痕のある剥片 (143-4)、削器ないし搔器 (143-5~7・9)、使用痕のある剥片 (143-8)、被熱している裂片 (144-1)、コーン痕跡?のある石核 (144-2)、ハンマーかと推定される石核 (144-3)、両面加工石器 (144-4)、砂岩製の砥石 (144-5)、半円状扁平打製石器 (144-6)、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃 (146-1)、両面加工石器 (146-2)、削器ないし搔器 (146-3)、石核 (146-4)、敲打痕のある礫 (146-5)、全面が磨られた軽石 (146-6) など多量に出土した。



1



2

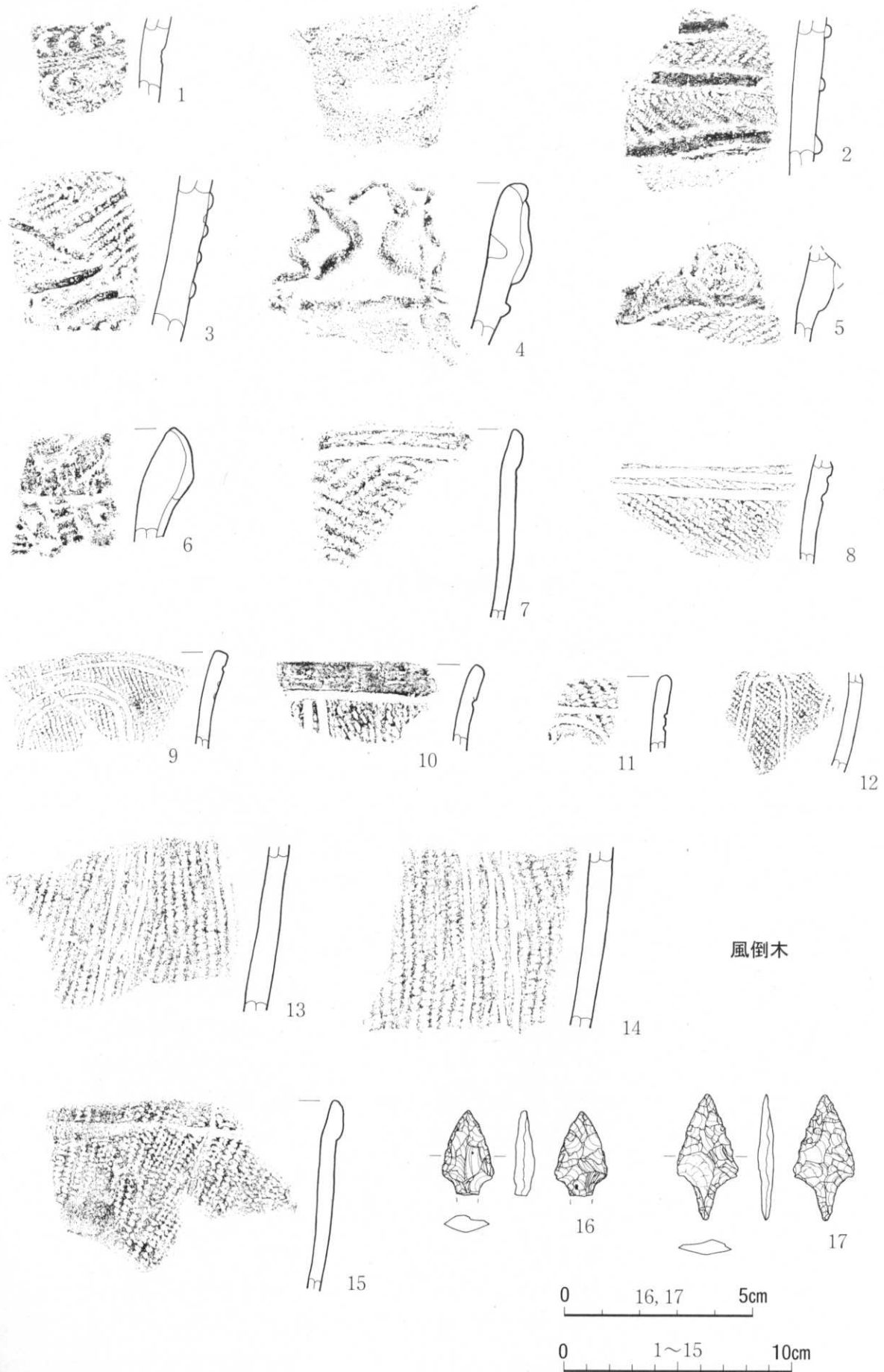


3

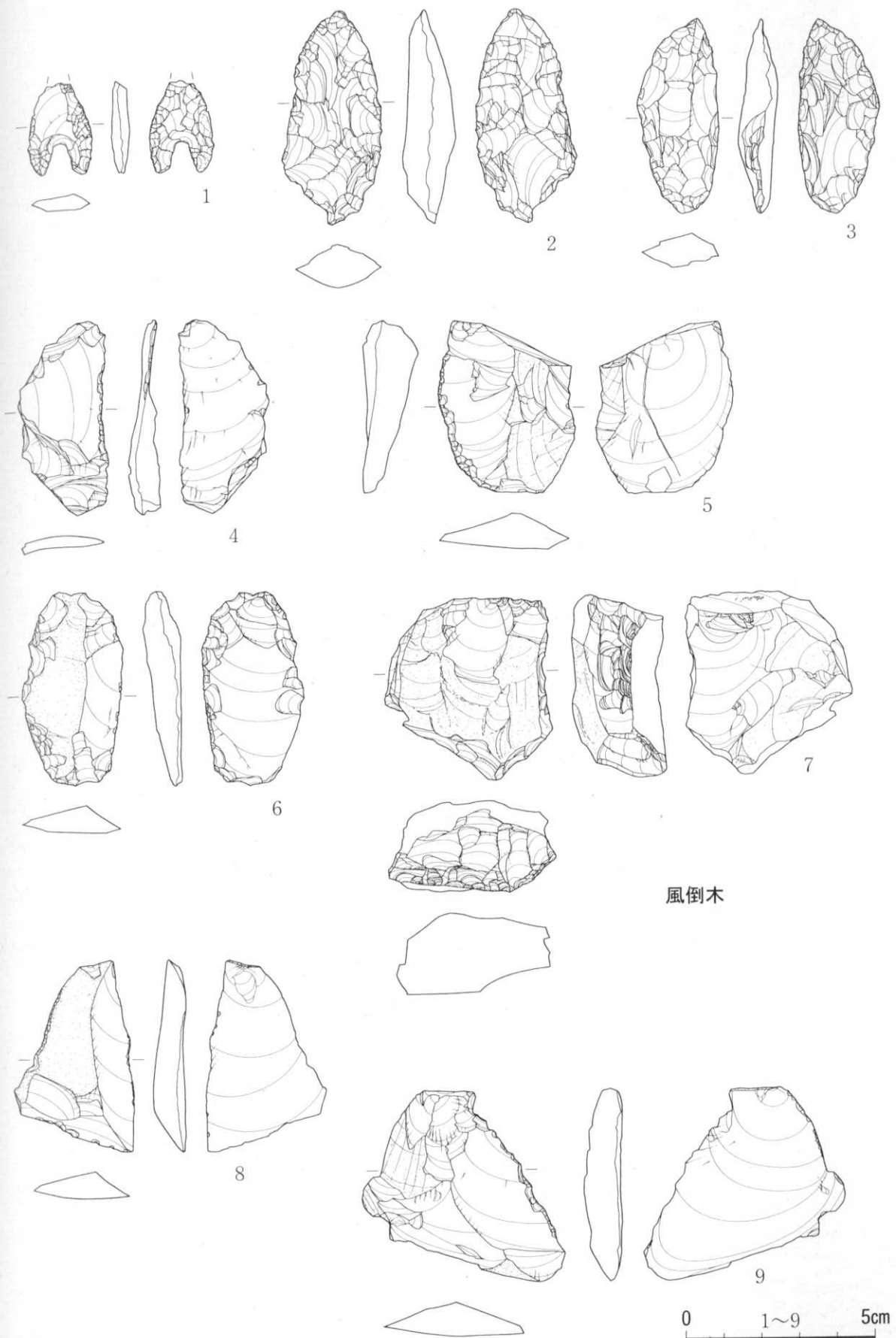
風倒木

0 1~3 10cm

141図 4トレンチ風倒木出土遺物(1)

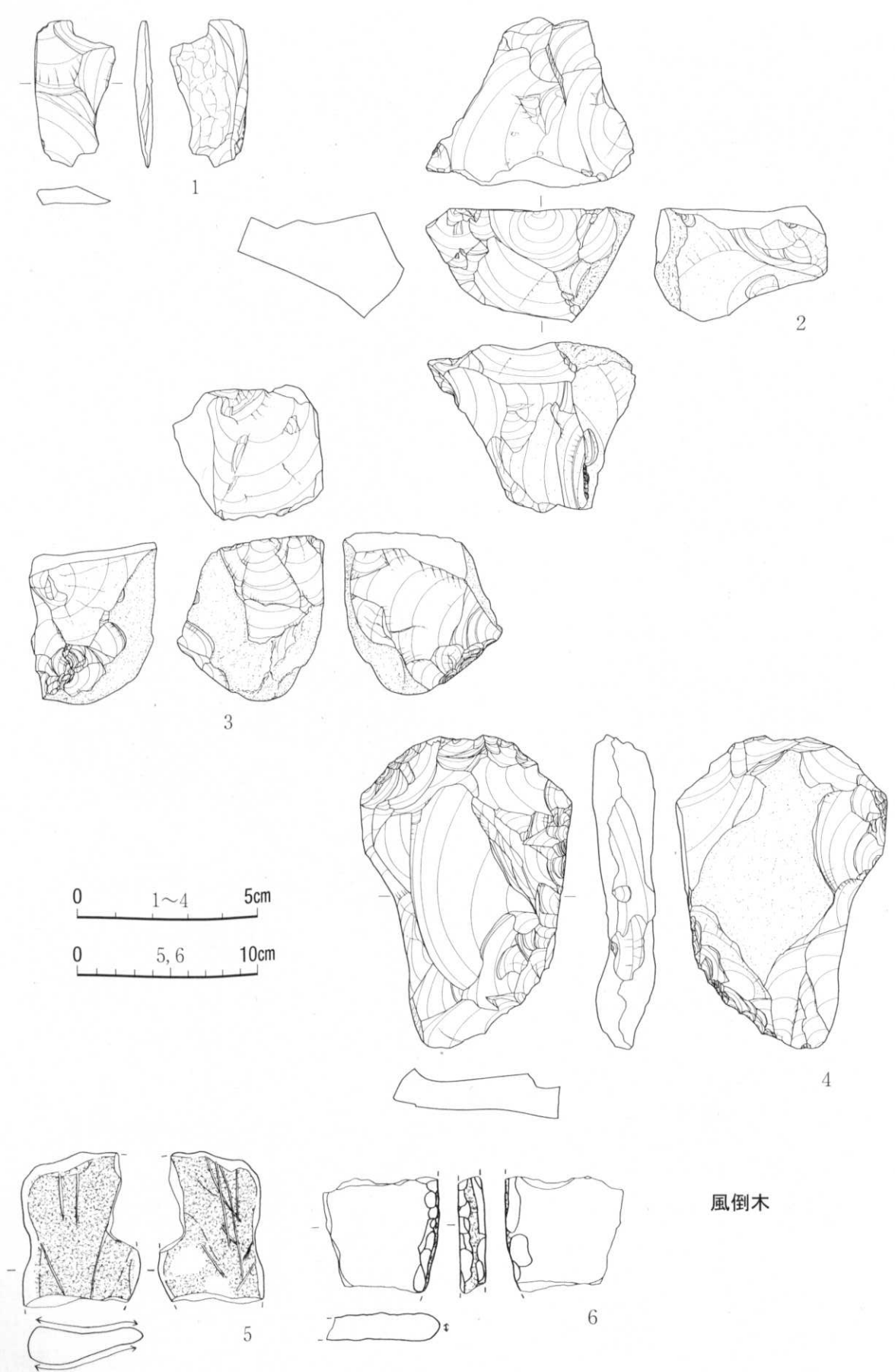


142図 4トレンチ風倒木出土遺物 (2)

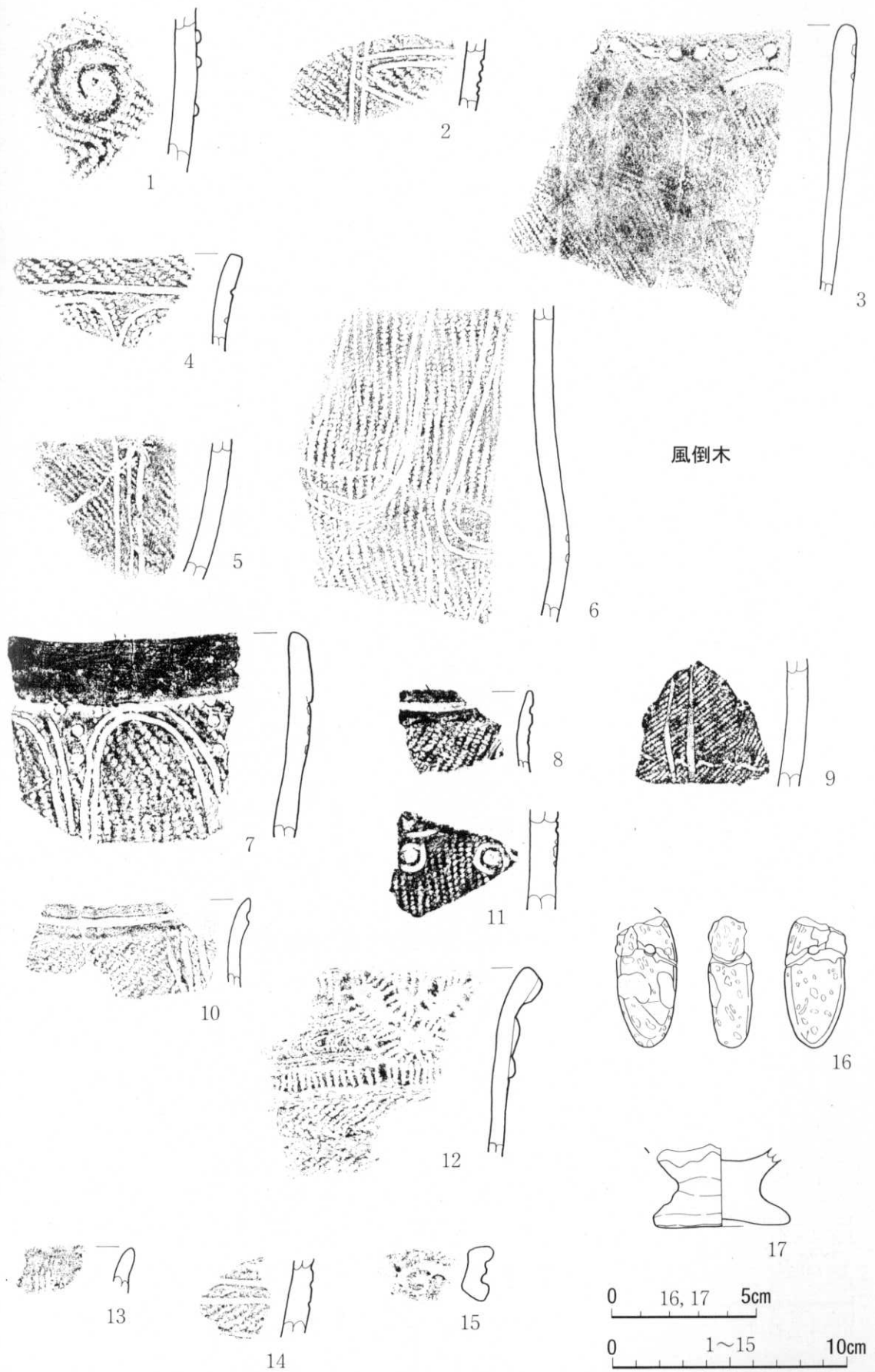


風倒木

143図 4トレンチ風倒木出土遺物 (3)

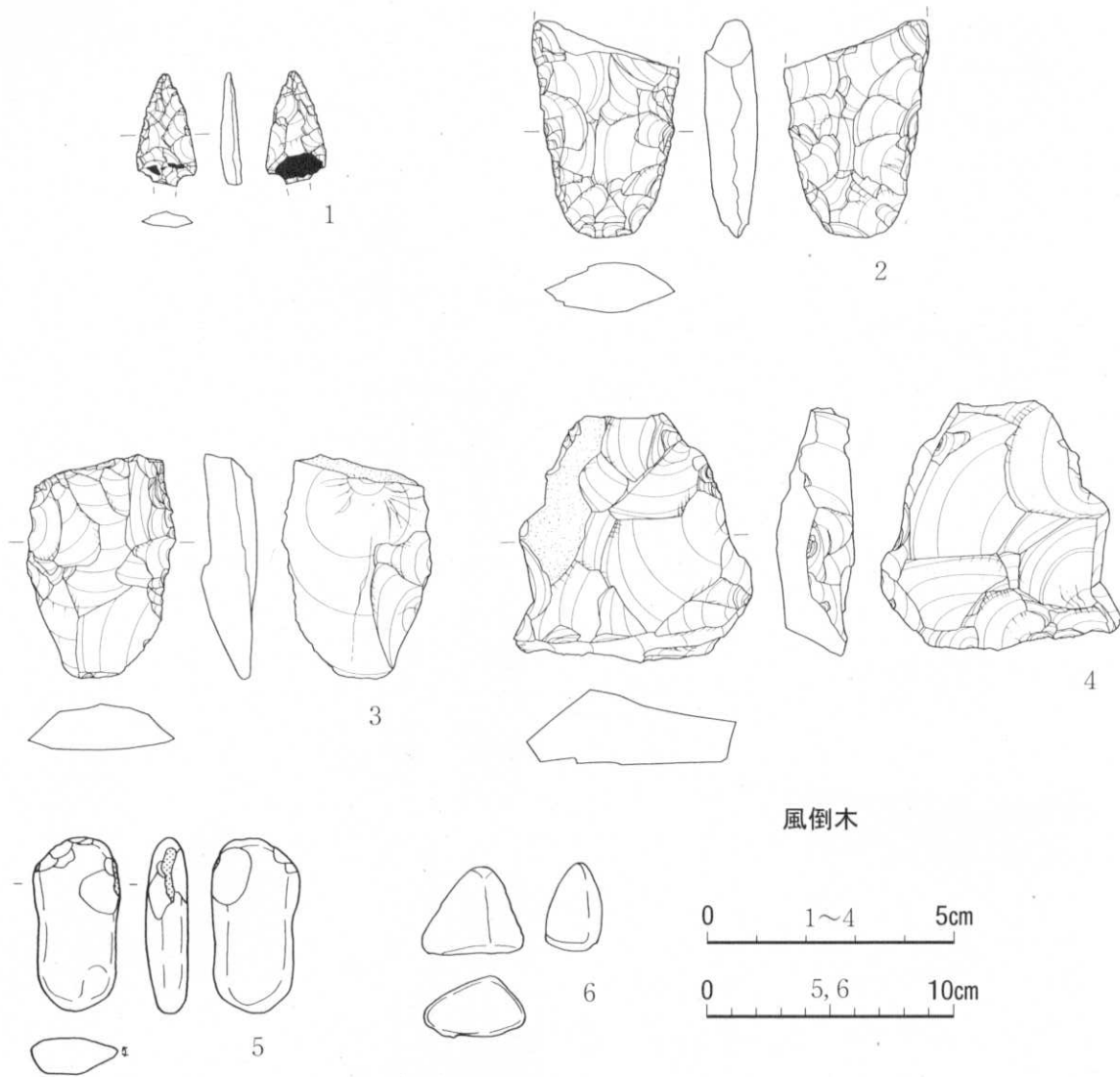


144図 4トレンチ風倒木出土遺物 (4)

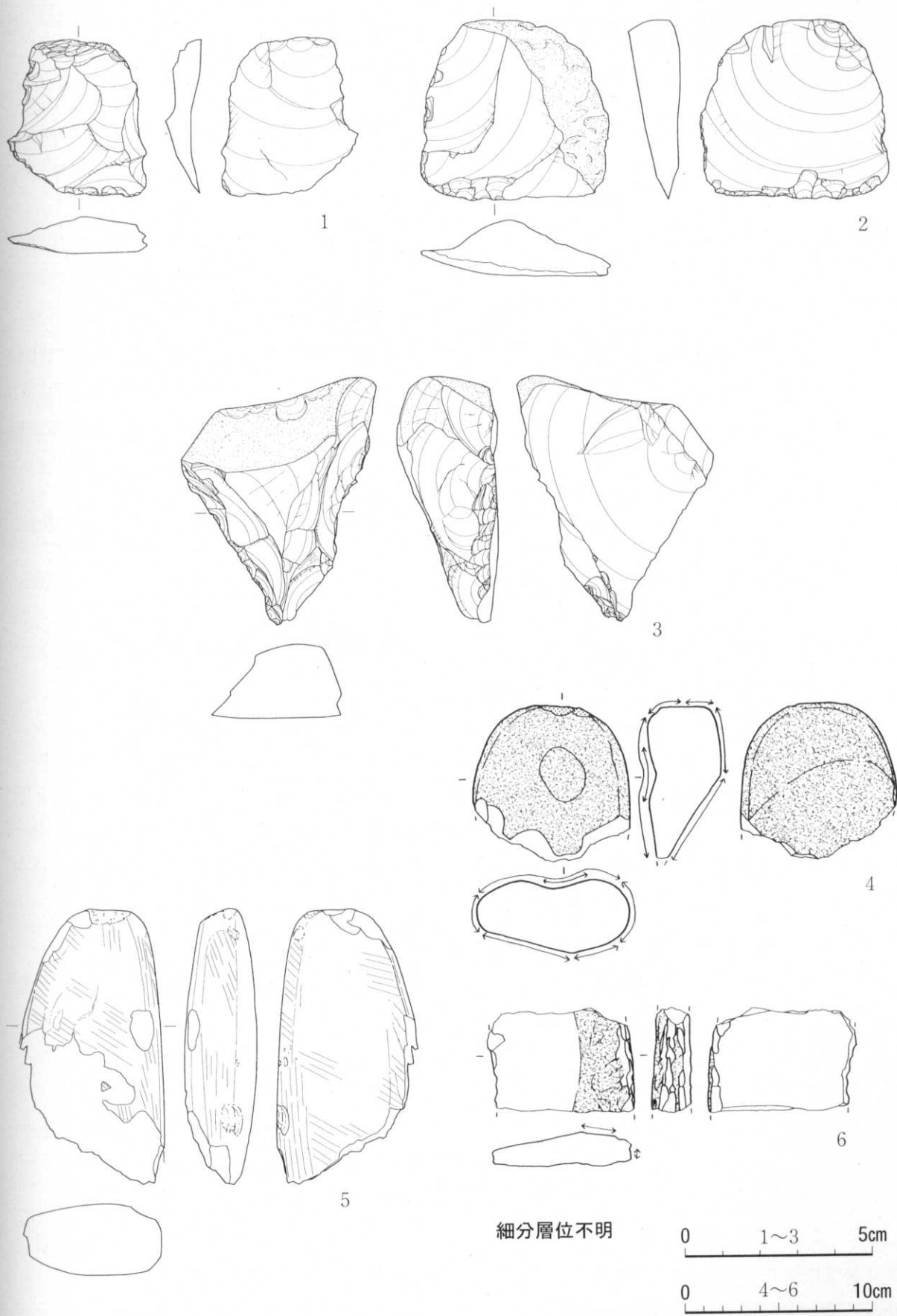


風倒木

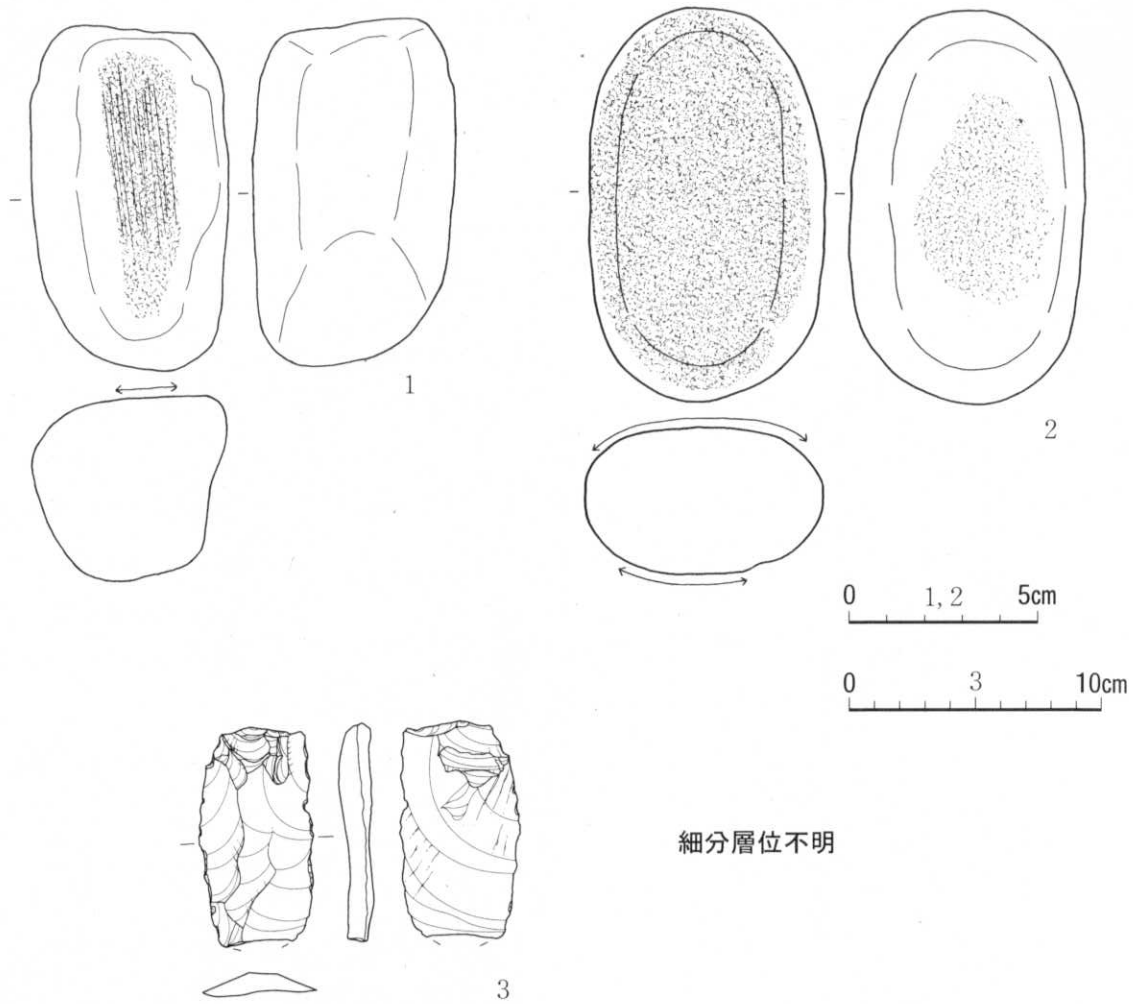
145図 4トレンチ風倒木出土遺物 (5)



146図 4トレンチ風倒木出土遺物 (6)



147図 4トレンチ細分層位不明出土遺物 (1)



148図 4トレンチ細分層位不明出土遺物(2)

(3) ポイント4の検出遺構と出土遺物

ポイント4はVIM-119、1トレンチと4トレンチの間に位置する。土層観察用に残しておいた各トレンチの交点に、順に番号を付しポイント4と呼称したものである。遺跡整備に当たって1トレンチと4トレンチを通じて見学用通路とすることになり、両トレンチの間の約75cm四方を調査した。確認面の標高は、19.15mである。確認面から第IV層上面までの厚さは166~172cmである。第IV層の厚さは26~30cmである。

本トレンチからの検出遺構は、第IV層上面で土器埋設遺構を確認した。これについては、盛土層の記載の後に触れる。

盛土部分は16層に分層し、23層に細々分した。時期は最花式期から円筒上層a式期である。ここで最も注意したのが、1・4トレンチとの土層の対応である。薄く狭い層の連続である盛土層では、上下関係が非常にわかりにくいため、やや大つかみではあっても、確実に連続ないし上下関係が明確な層を確認し、1・4トレンチへの連絡とすることにした。大つかみであるがため、1・4トレンチとの連続が判断できる層に関しては、細々分を行った。当然、1トレンチと4トレンチの細分層は連続するとは限らない。また、1・4トレンチの層が、特に層端では、隣接する層と区分しにくくなっていることも多く、土層の把握に苦慮したことも少なくなかった。

このトレンチの記載に当たっては、各層の広がりや厚さ、構成する土質、出土遺物について触れることにする。

以下に、各層の堆積土と出土遺物について述べる。

第1層

VIM-119・120で厚さ13~20cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチの第1層、4トレンチの第11層に相当する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、土器は最花式土器を主体に、少量出土した。口縁部は折り返し状の無文帯、胴部は2~3条の縦位沈線が施文される。石器は未製品と思われる尖基鏃(150-8)、石槍と推定される両面加工石器(150-9)片がそれぞれ1点出土したほか、容器と思われる石製品が1点出土した。

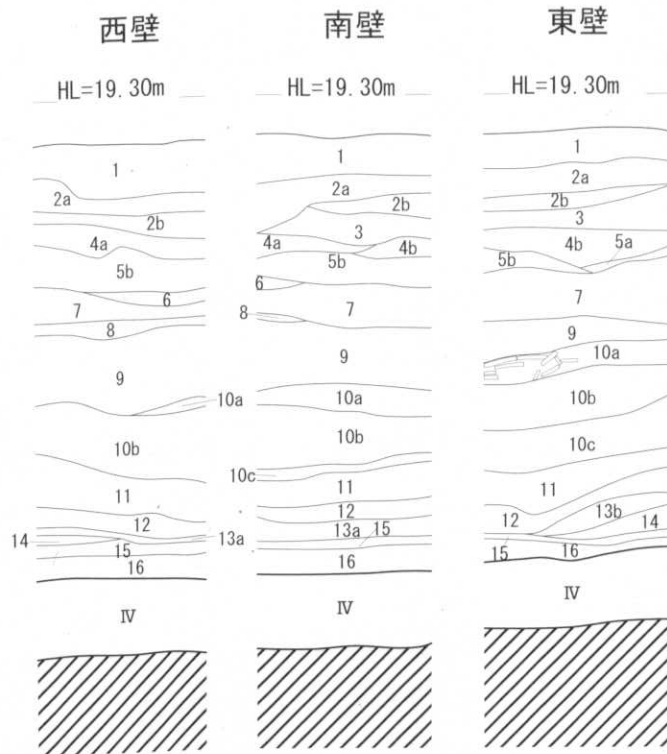
第2層 第2a層と第2b層の2つに分層した。

第2a層

VIM-119・120に厚さ6~14cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチの第4・6層、4トレンチの第12層に相当する。わずかに南側へ傾斜して堆積する。遺物は、土器は最花式土器の小片を主体に、少量出土した。口縁部は折り返し状の無文帯、胴部は曲線状・カギ状の沈線が施文されている。石器は削器ないし搔器(151-6)が1点出土した。

第2b層

VIM-119・120に厚さ0~5cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチでは消滅してしまうが、4トレンチでは第13層に相当する。わずかに南側へ傾斜して堆積する。遺物は土器が椀林式土器の小片を主体に、少量出土した。口縁部は折り返し状の無文帯、胴部は直線状・曲線状の沈線

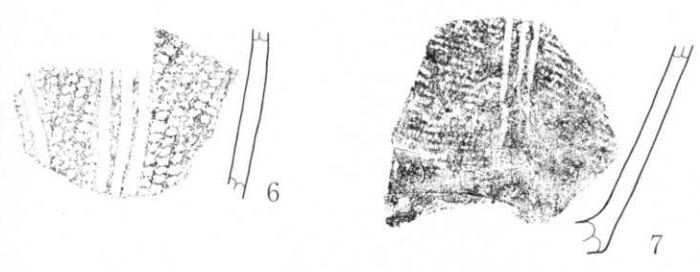
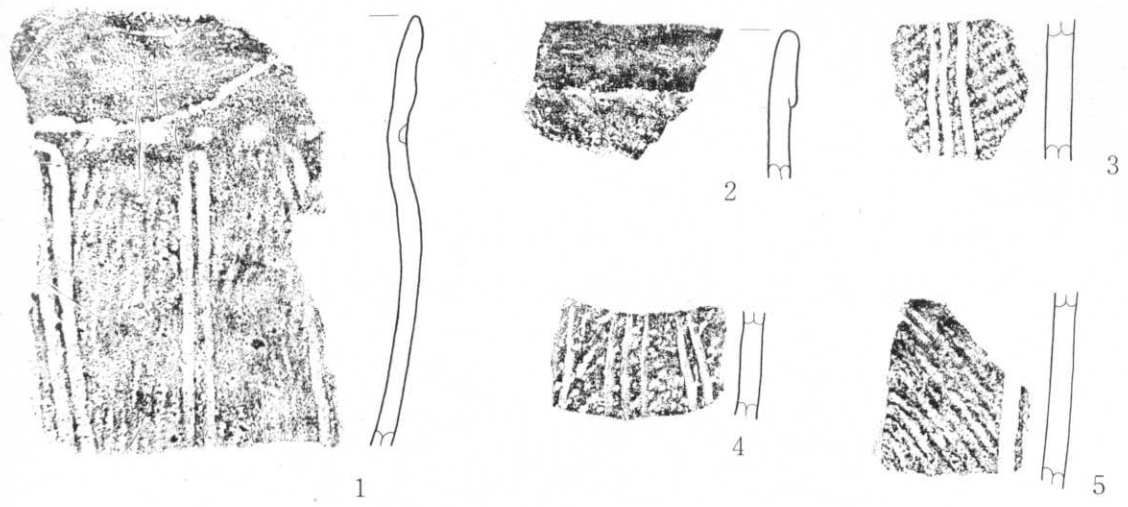


ポイント4 土層断面図

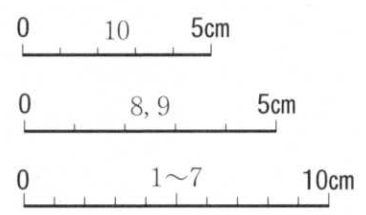
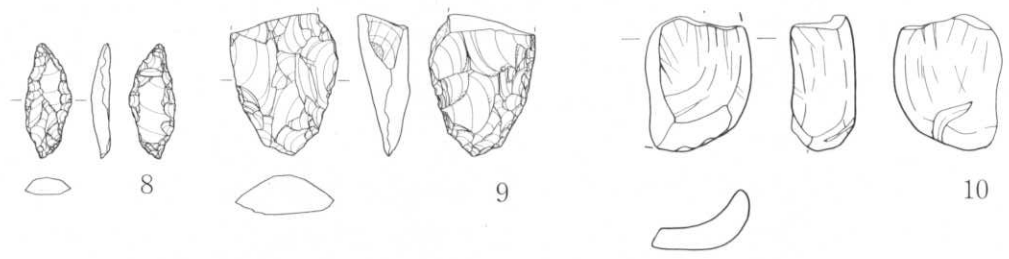
層対応表

4トレンチ	ポイント4	1トレンチ
11	1	1
12	2a	4・6
13	2b	
	3	8・9・11
16	4a	
	4b	26
	5a	28
17・18	5b	
25	7	30・31・40・50
27	8	
34・35・37・38・39	9	83
	10a	86・107
50	10b	107
	10c	110
57・65	11	140
66	12	141
67	13a	
	13b	142
68	14	143
69	15	144

149図 1・4トレンチ、ポイント4土層対応表



Ⅲ-1層



150図 ポイント4 Ⅲ-1層出土遺物

が施文されている。

第3層

VIL・M-119・120に厚さ0～17cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、第1トレンチの8・9・11層に相当し、第4トレンチでは消滅する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、土器は円筒上層d・e式、榎林式土器が少量に出土した。151-13・16は隆帯の貼り付け、151-17・18は横位沈線が、151-19は太い渦巻き状沈線が施文されている。石器は擦切具（151-20）が1点出土した。

第4層 第4a層と第4b層の2つに分層した。

第4a層

VIM-119・120に厚さ0～14cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチでは消滅し、4トレンチの第16層に相当する。わずかに南側へ傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片がごく少量出土した。

第4b層

VIM-119・120に厚さ0～5cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチの第26層に相当し、4トレンチでは消滅する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、土器は円筒上層d・e式土器の小片がごく少量出土した。石器では茎部にアスファルト？が付着する有茎鏃（151-25）が1点出土した。

第5層 第5a層と第5b層の2つに分層した。

第5a層

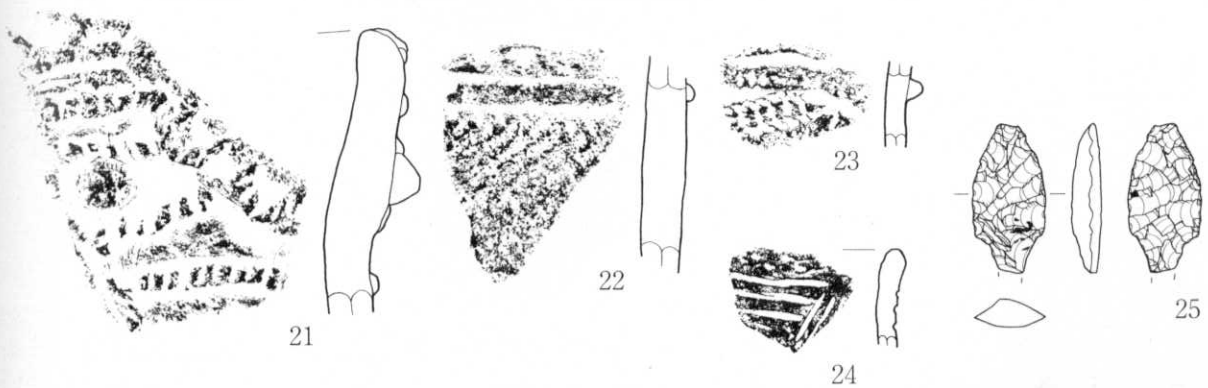
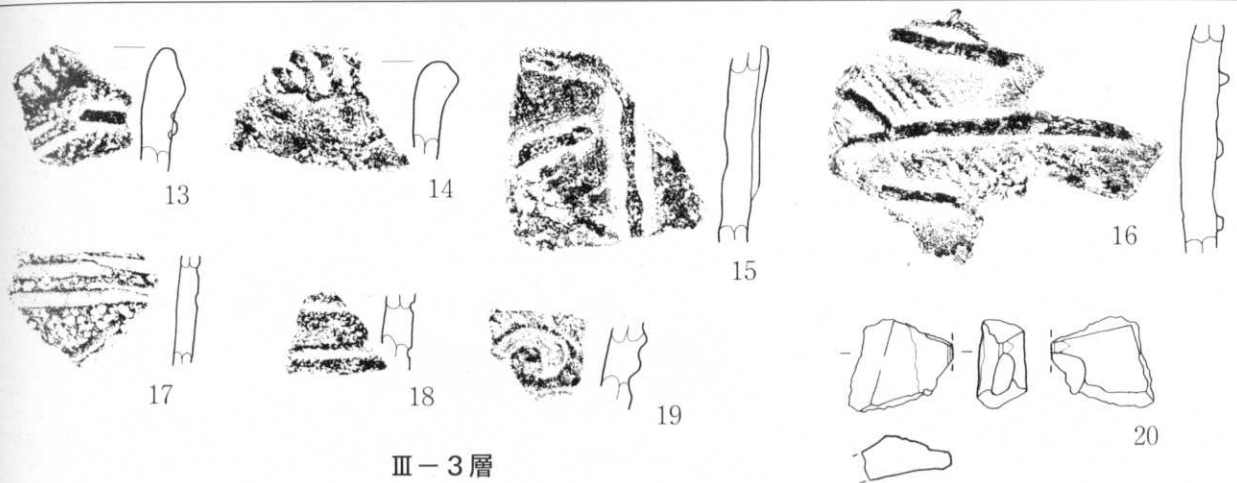
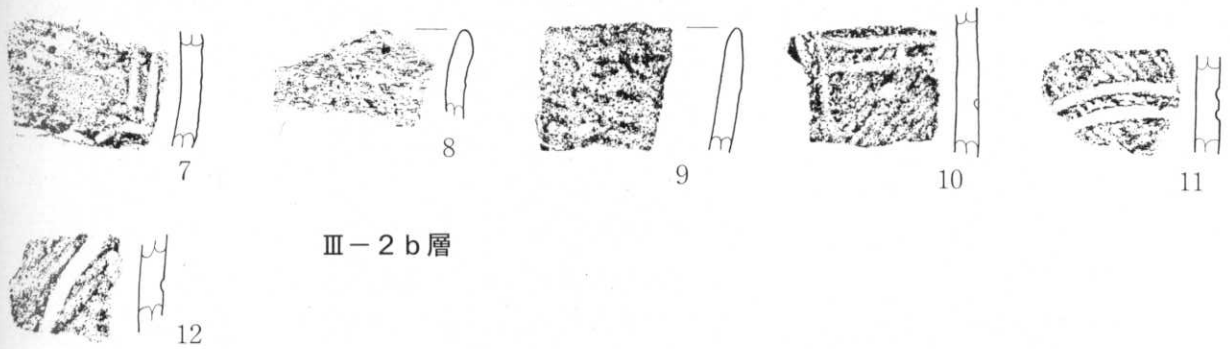
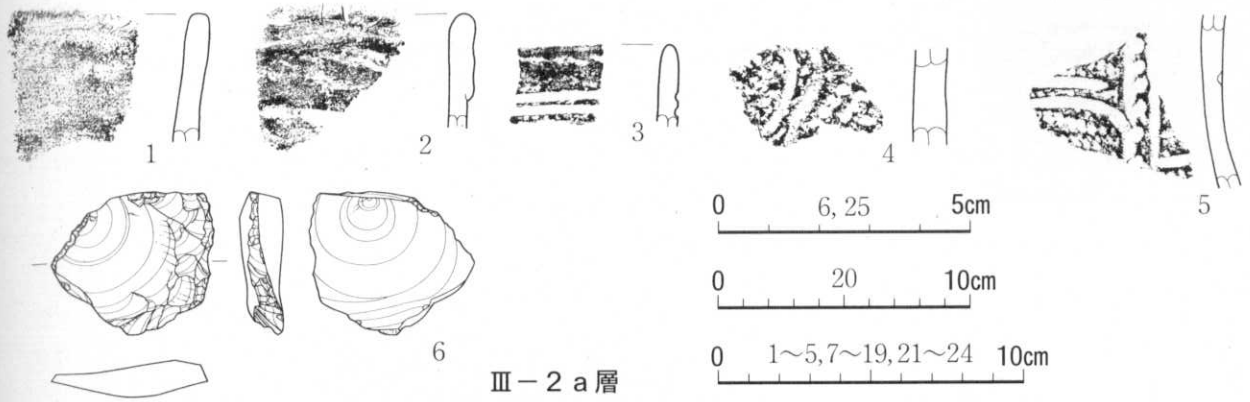
VIM-119・120に厚さ0～3cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチの第28層に相当し、4トレンチでは消滅する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層d式土器や榎林式土器片がごく少量出土した。152-3は凹状沈線が施文された口唇部である。石器は、剥片石器では被熱している有茎鏃（152-4）、削器ないし搔器（152-5）、礫石器では敲打による凹と磨痕をもつ礫（152-6）が出土した。

第5b層

VIM-119・120に厚さ0～18cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチでは消滅し、4トレンチでは第17・18層に相当する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、榎林式土器片を主体に少量出土した。152-9は波頂部に渦巻き状沈線、それ以外の口唇部には回転縄文が施文されたものである。

第6層

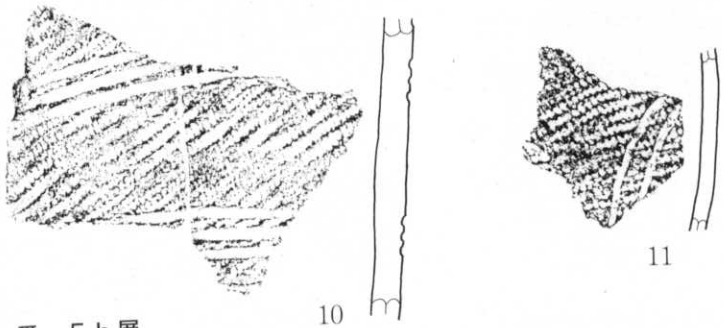
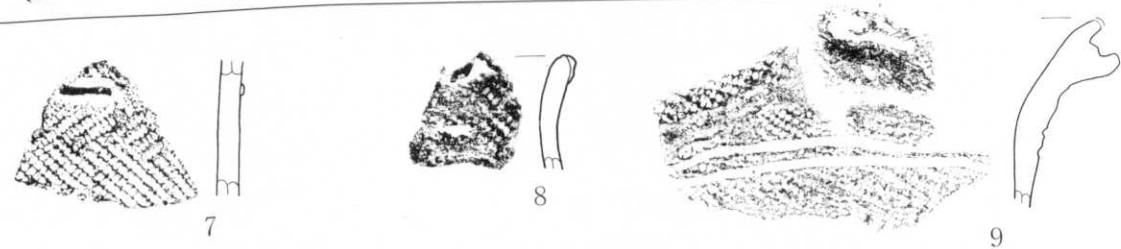
VIM-119・120に厚さ0～6cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチ・4トレンチともには現れてこない狭い範囲に広がる。ほぼ水平に堆積する。遺物は出土しなかった。



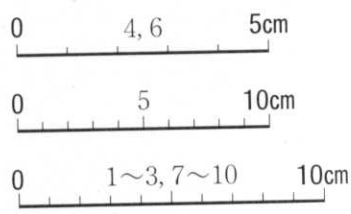
151図 ポイント4 III-2 a・2 b・3・4 b層出土遺物



Ⅲ-5 a層



Ⅲ-5 b層



152図 ポイント4 Ⅲ-5 a・5 b層出土遺物

第7層

VIM-119に厚さ5~29cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とする。1トレンチでは第30・31・40・50層に相当し、比較的幅の広い層としてとらえた。ほぼ水平に堆積する。4トレンチでは第25層に相当する。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体に、上層c・e式土器もわずかに混じる。石器は有茎鏃(153-6)、石鏃(153-7)、削器ないし搔器(153-8)、使用痕のある剥片(153-9・10)が出土した。

第8層

VIM-119・120に、厚さ0~6cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、4トレンチでは第27層に相当し、1トレンチでは消滅する。ほぼ水平に堆積する。出土遺物は、基部にアスファルト?が付着する凹基鏃(153-11)が1点出土したのみである。

第9層

VIM-119・120に厚さ5~30cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とする。1トレンチでは第83層に相当し、4トレンチでは第30・34・36~38層に相当する。ほぼ水平に堆積する。4トレンチ側では細分が可能であったが、層の対応を重視し幅の広い層としてとらえた。遺物は、土器は上半部が復元しえたものや破片が少量出土した。154-1は地文のみの円筒上層dまたはe式土器で、破片は上層d式が主体である。また、取り上げ時のミスにより、第10層と混同している石器がある。使用痕のある剥片(154-5・6)、削器ないし搔器(154-7)が第9~10層から出土した。

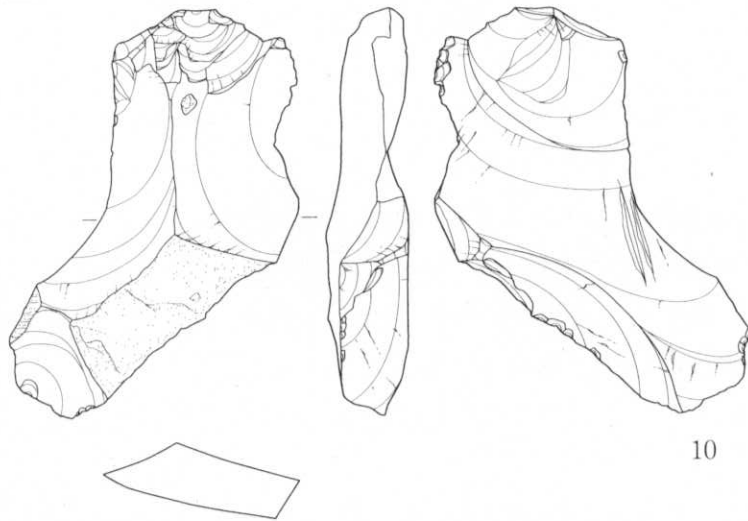
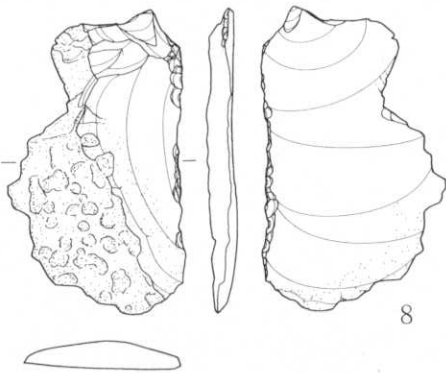
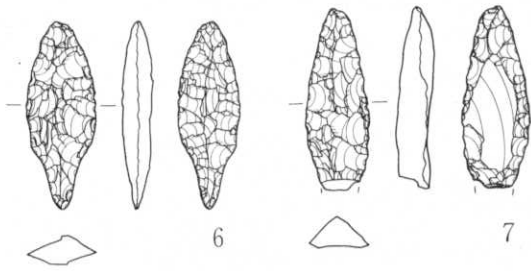
第10層 第10a~第10c層の3つに分層した。

第10a層

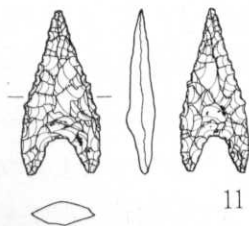
VIM-119・120に厚さ0~11cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチ第86層が相当し、4トレンチでは消滅する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物土器が多量に出土した。復元しえたものはなく、全て破片資料である。いずれも円筒上層d式に相当するものである。地文施文後に隆帯を貼り付け、上面は無文のものが多い。155-5は鉢形である。

第10b層

VIM-119・120に厚さ11~26cmで分布する。他の層に比べると厚い層として認識される。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチ第107層が相当し、4トレンチでは第50層に相当する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は土器は上半部が復元しえたもののほか、破片がごく少量出土した。157-1は地文に隆帯が貼付けられた円筒上層d式土器で、破片も上層d式が主体である。石器は両極石器(158-1)、削器ないし搔器(158-2)、縦形石匙(158-3)、削器ないし搔器(158-4)、使用痕のある剥片(158-5・6)、全面が磨られ、一部黒化している軽石(158-7)が出土した。そのほかに土偶の腕・胸部(158-8)が出土した。表裏面とも3条単位の縄文押圧で施文され、菱形状・X字状の構成である。腕部と胸突起上面には渦巻状の縄文押圧がある。



Ⅲ-7層

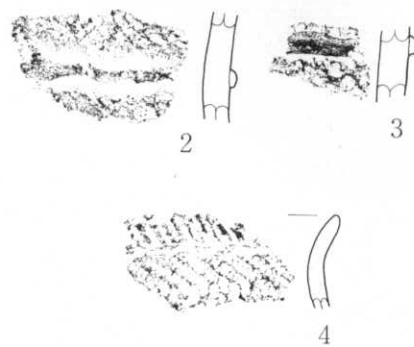
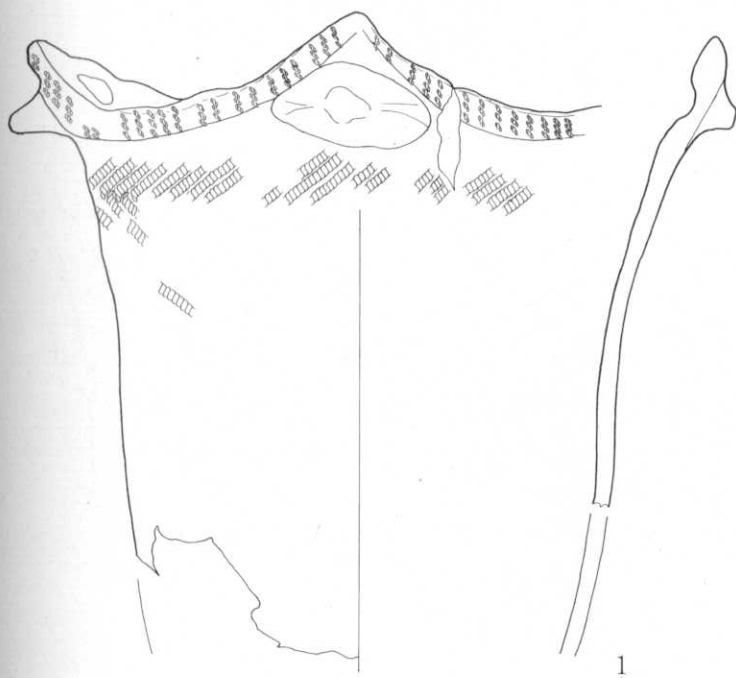


Ⅲ-8層

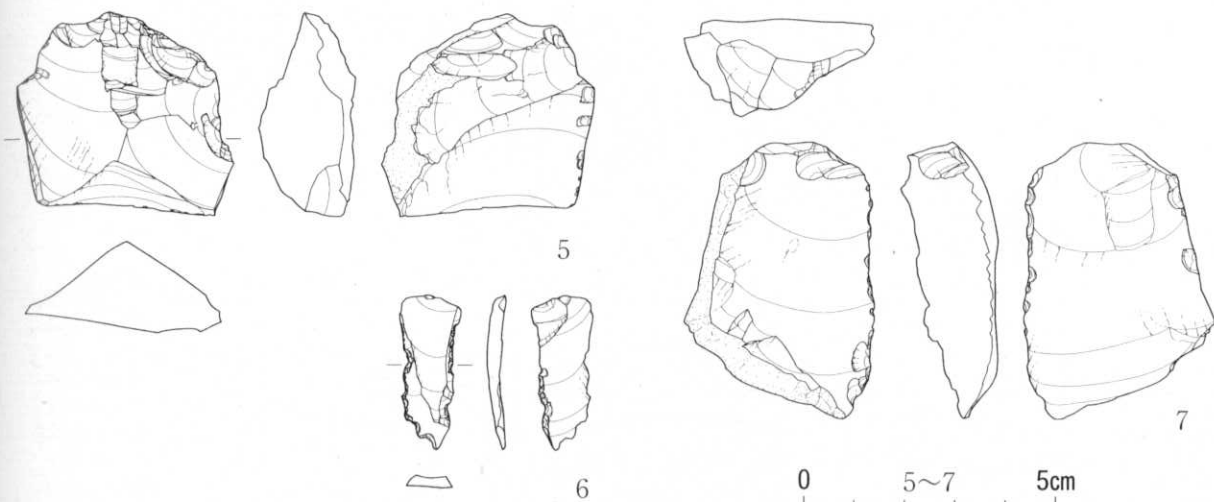
0 6~11 5cm

0 1~5 10cm

153図 ポイント4 Ⅲ-7・8層出土遺物

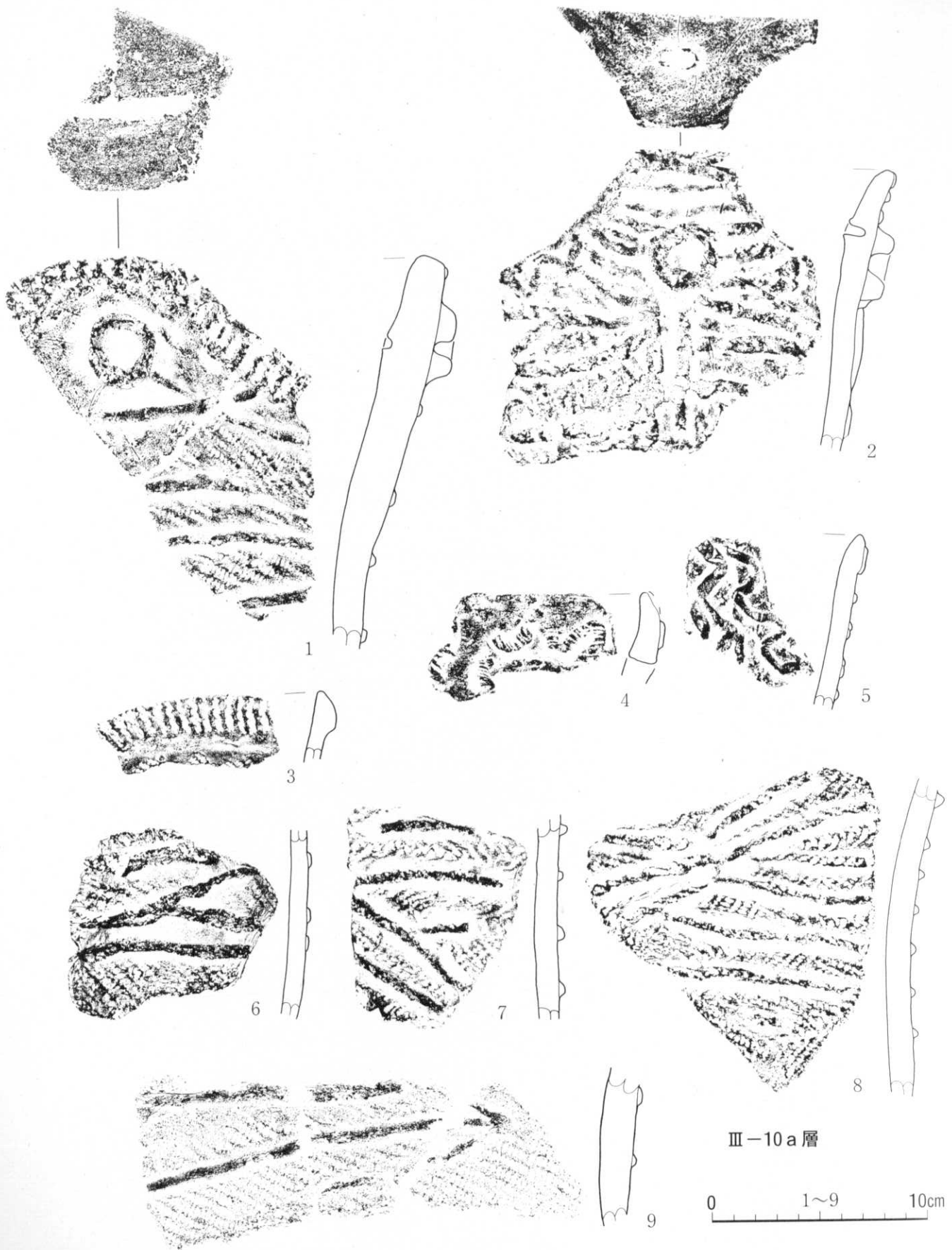


Ⅲ-9層

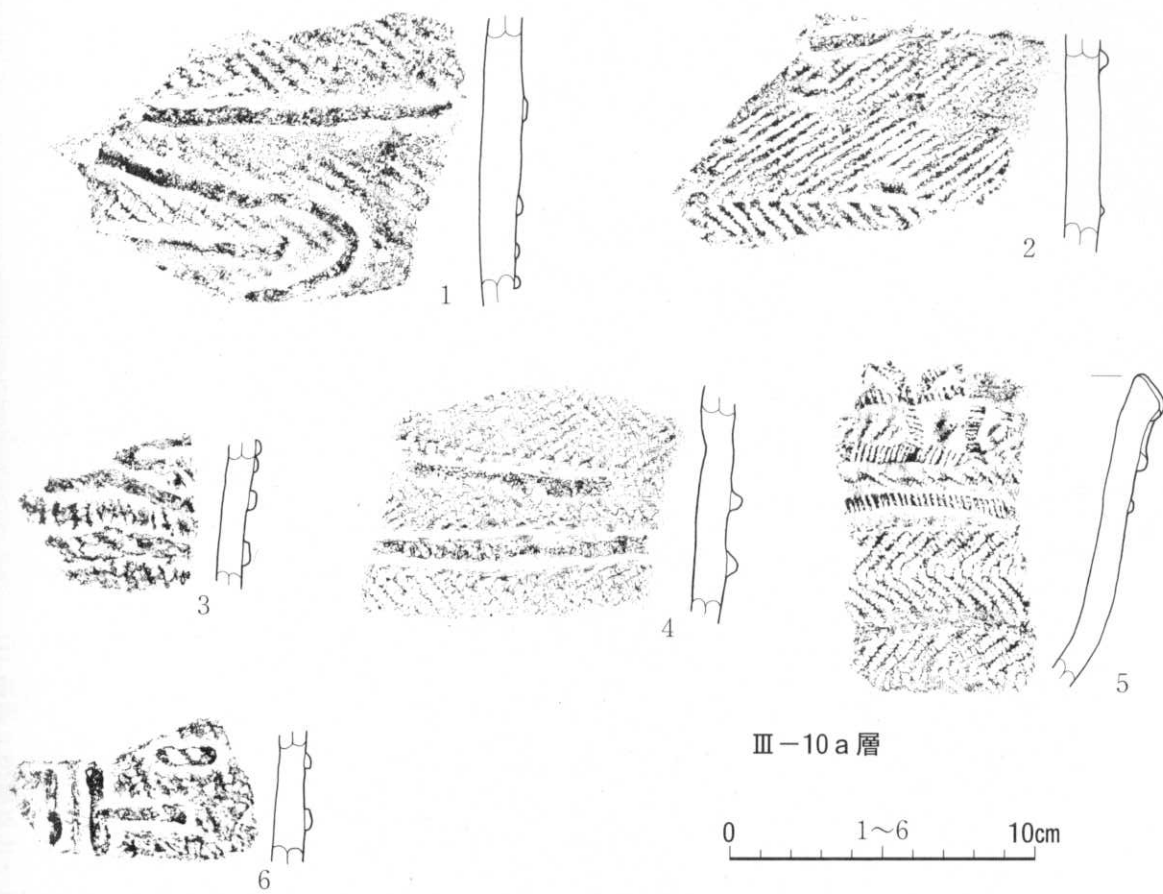


Ⅲ-9・10層

154図 ポイント4 Ⅲ-9、9・10層出土遺物



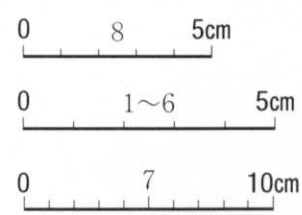
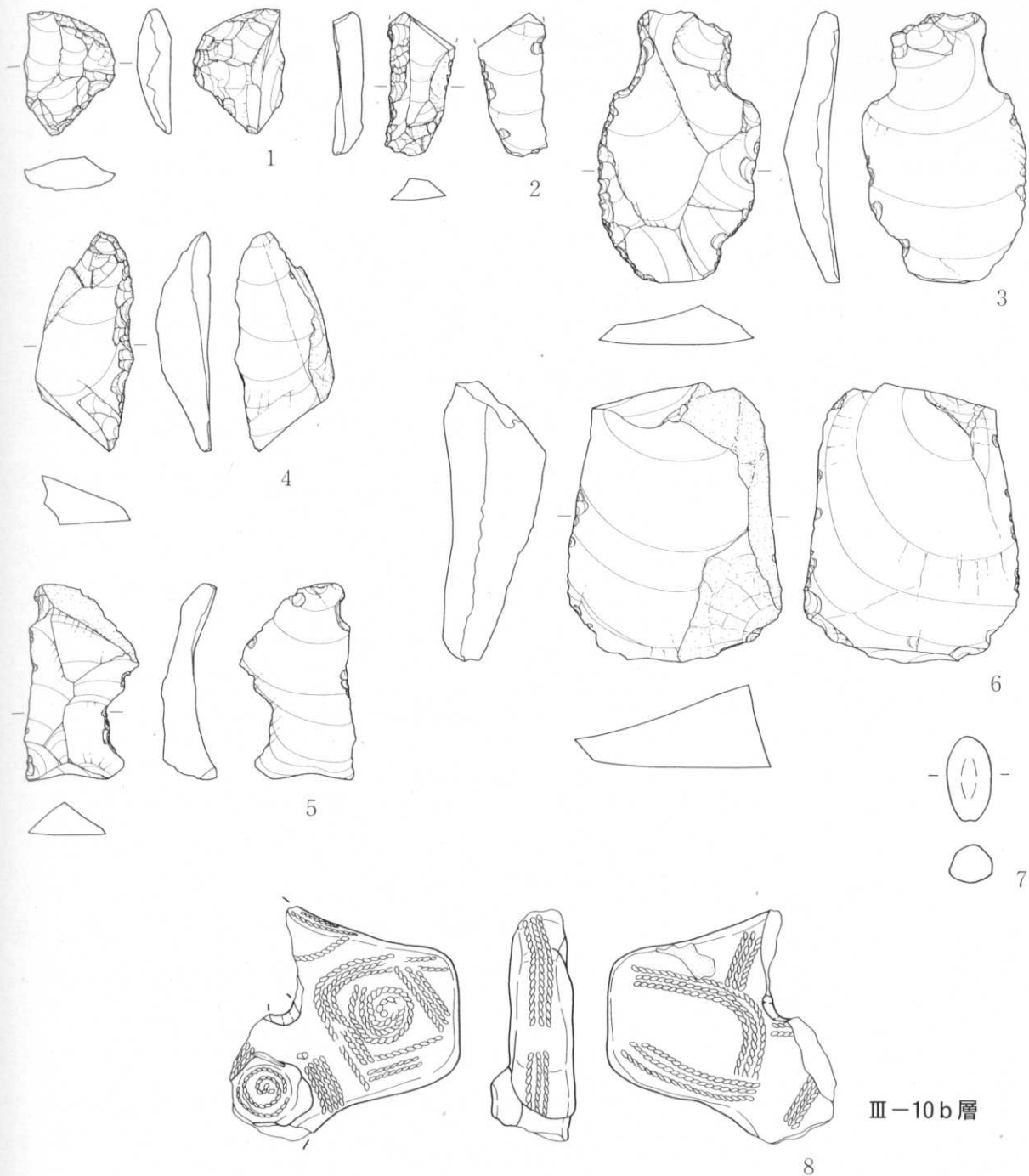
155図 ポイント4 III-10a層出土遺物(1)



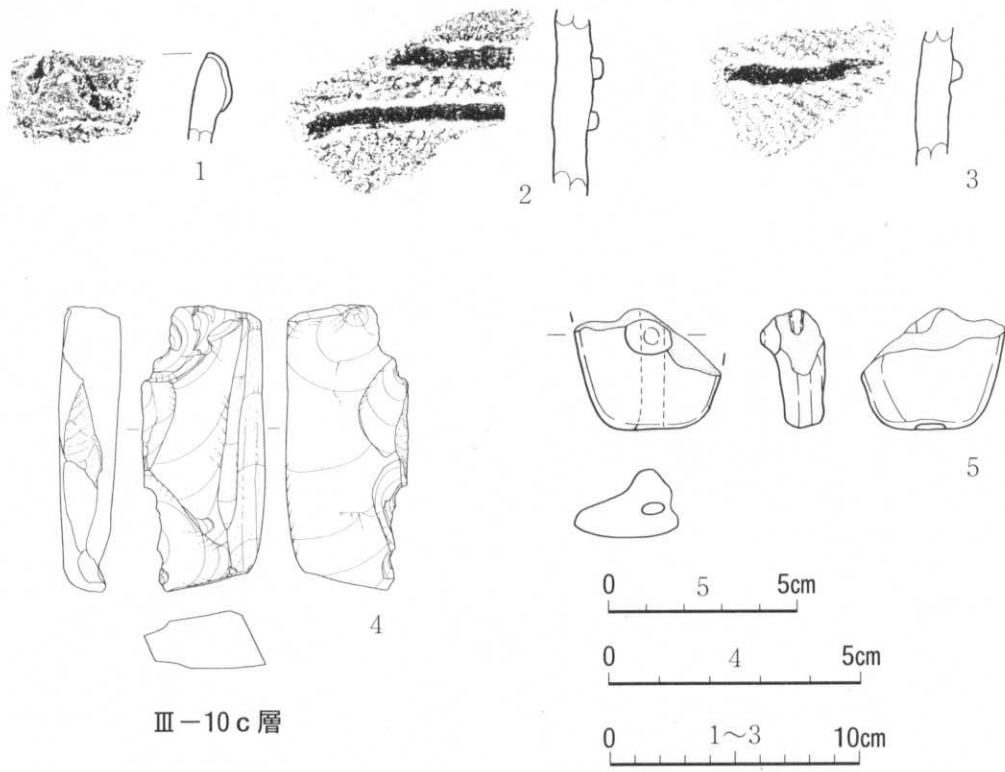
156図 ポイント4 III-10a層出土遺物(2)



157図 ポイント4 III-10b層出土遺物(1)



158図 ポイント4 III-10b層出土遺物(2)



159図 ポイント4 III-10c 層出土遺物

第10c層

VIM-119・120に厚さ0～19cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチ第110層が相当し、4トレンチでは消滅する。なお、1トレンチ・4トレンチ双方に現れてこない、範囲の狭い薄層が第10b層との間に狭在するが、一括して扱った。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は少量の円筒上層d式土器片のほか、二次加工剥片(159-4)が1点出土した。159-5は無文の土偶の脚部である。縦に貫通孔がある。

第11層

VIM-119・120に厚さ6～15cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチでは第140層に相当し、4トレンチでは第57・65層に相当する。南側に低く傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が主体である。石器では有茎鏃(160-5)、剥片(160-6)、横形石匙(160-7)が出土した。

第12層

VIM-119・120に厚さ4～11cmで分布する。堆積土は黄褐色のローム土を主体とし、1トレンチでは第141層に相当し、4トレンチでは第66層に相当する。南側に低く傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層b式土器片がごく少量出土した。また土製品が1点出土した。鐸形土製品の鈕部に似ており、穿孔が見られる。

第13層 第13a層と第13b層の2つに分層した。

第13a層

VIM-119・120に厚さ0～4cmで薄く分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、4トレンチの第67層に相当し、1トレンチでは消滅する。南側へやや傾斜して堆積する。遺物は円筒上層b式土器片がごく少量出土したにすぎない。

第13b層

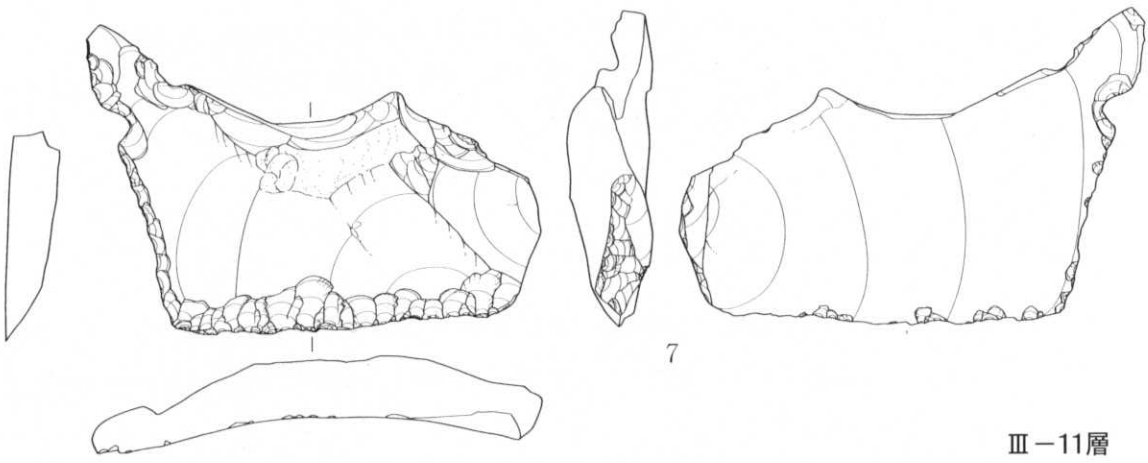
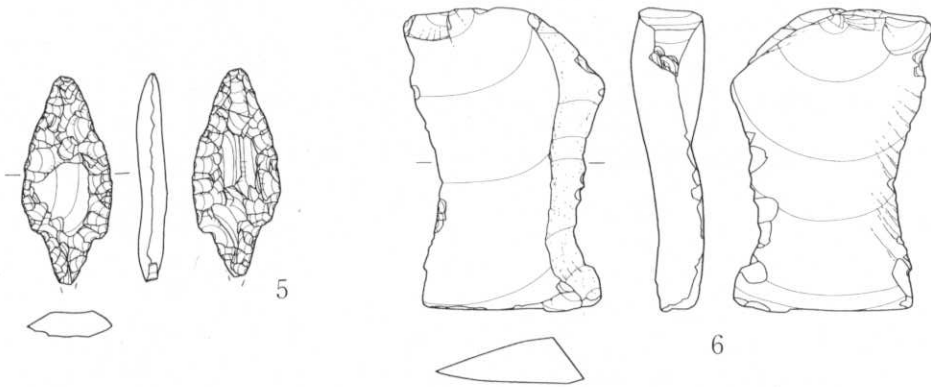
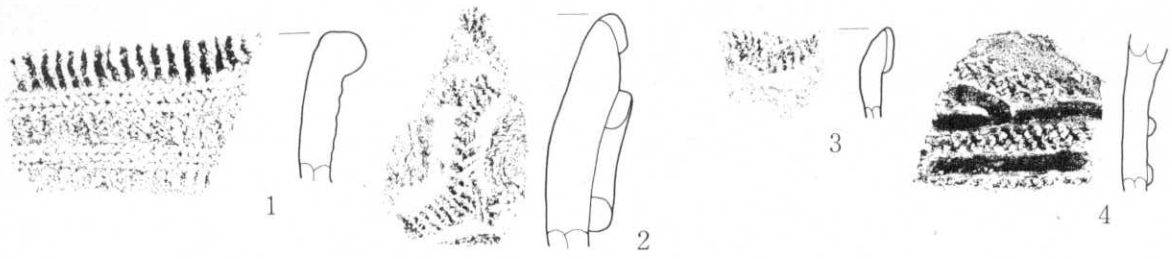
VIM-119・120に厚さ0～8cmで分布する。堆積土は暗赤褐色の焼土を主体とし、1トレンチでは第142層に相当し、4トレンチでは消滅する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は出土しなかった。

第14層

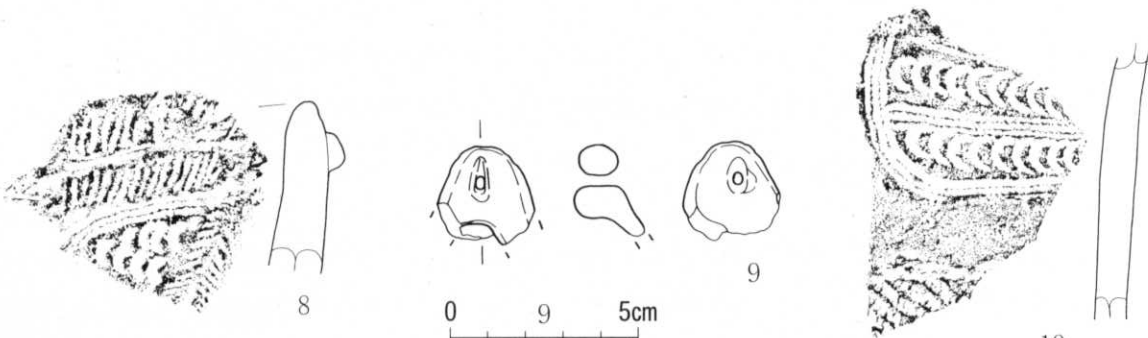
VIM-119・120に厚さ0～9cmで分布する。堆積土は黄褐色のローム土を主体とし、1トレンチでは第143層に相当し、4トレンチでは第68層に相当する。南側にやや傾斜して堆積する。遺物は出土しなかった。

第15層

VIM-119・120に厚さ2～5cmで分布する。堆積土は黒色の炭化物を主体とし、1トレンチでは第144層に相当し、4トレンチでは第89層に相当する。ほぼ水平に堆積する。遺物は多量に出土した。1



Ⅲ-11層



Ⅲ-12層

0 9 5cm

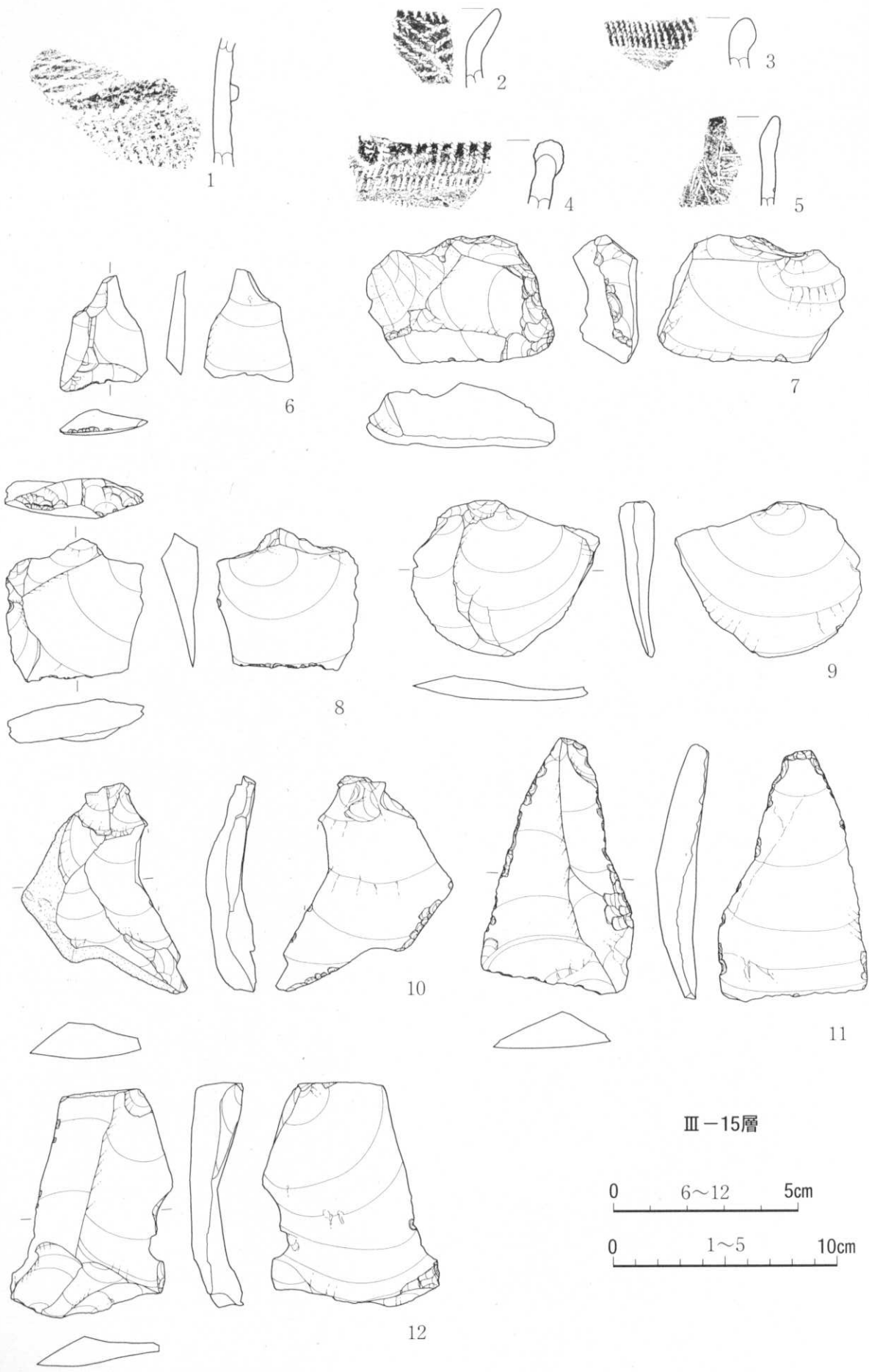
0 5~7 5cm

0 1~4, 8, 10 10cm

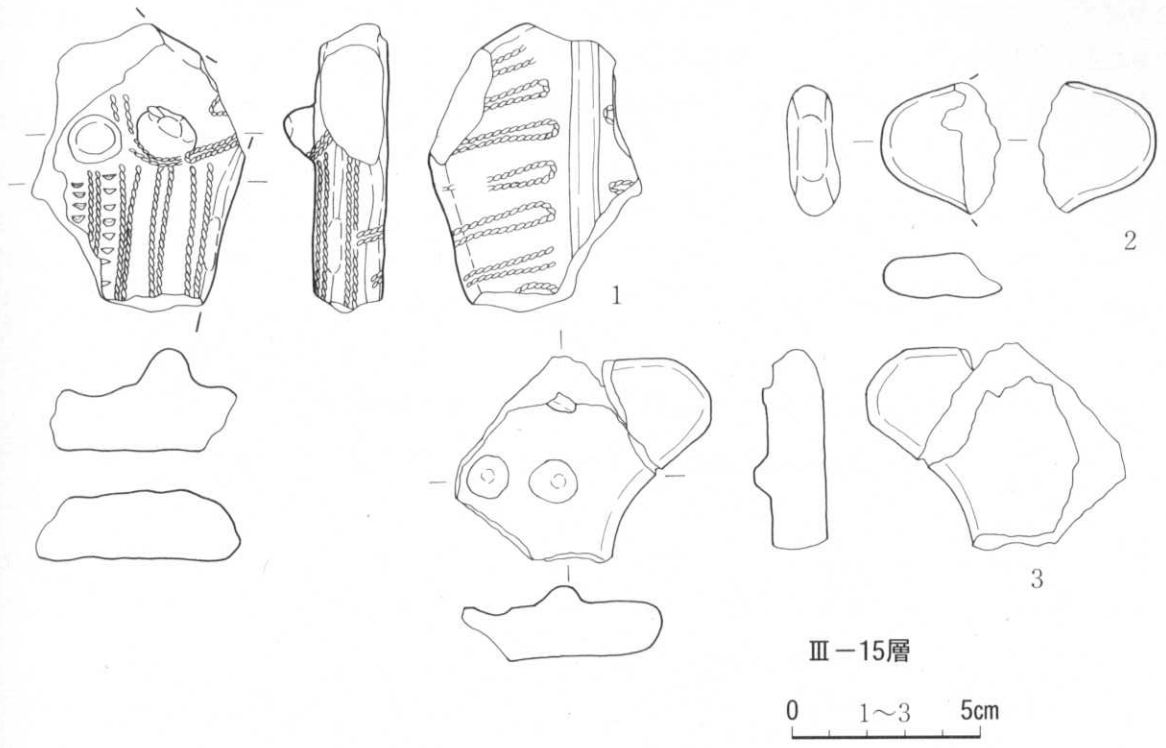
160図 ポイント4 Ⅲ-11・12層出土遺物



161図 ポイント4 III-15層出土遺物



162図 ポイント4 III-15層出土遺物 (1)



163図 ポイント4 III-15層出土遺物 (2)

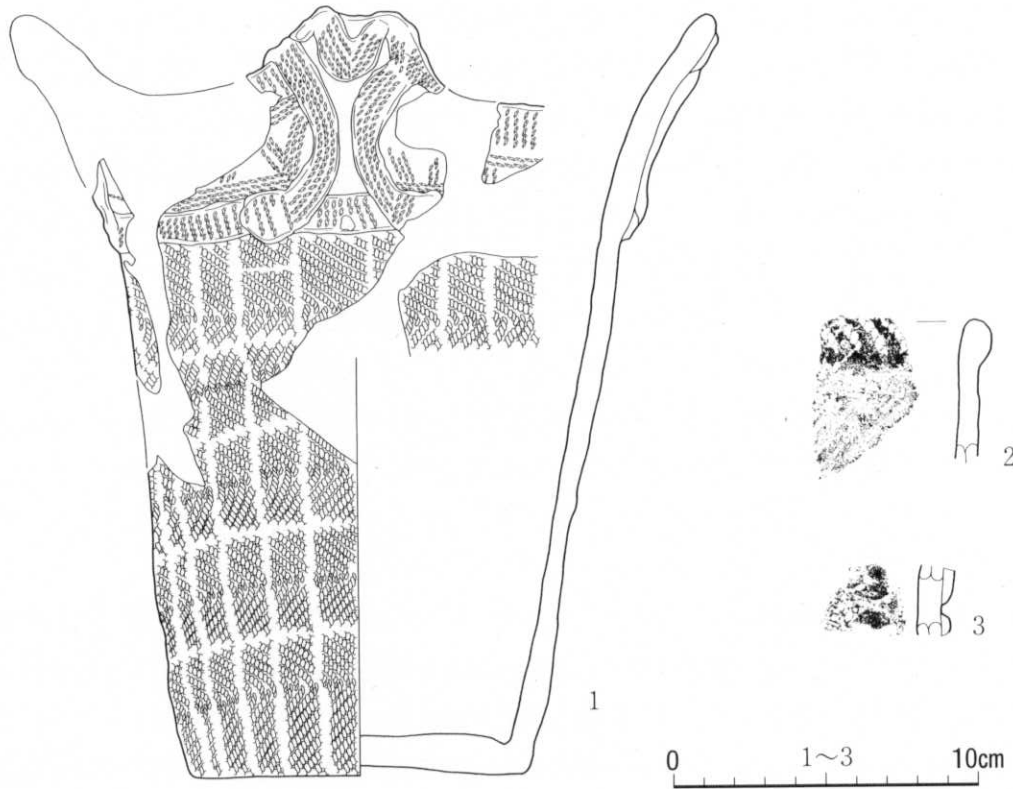
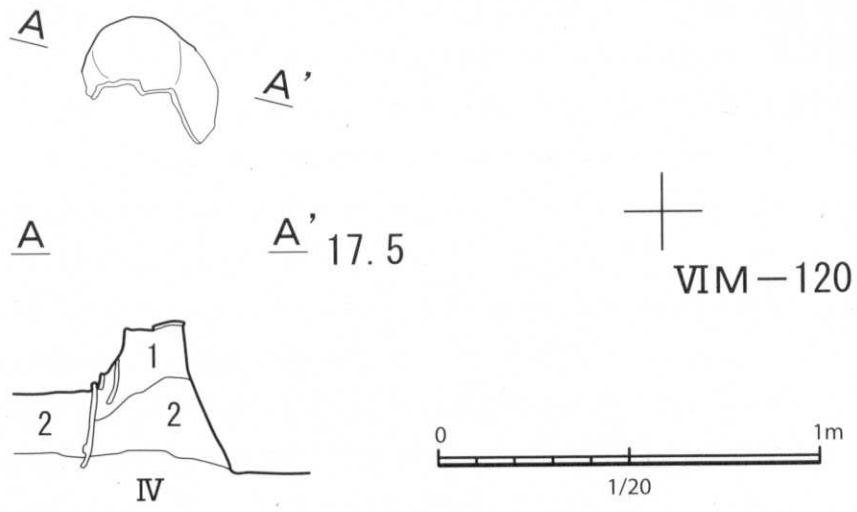
トレンチの第145層直上、4トレンチの89・89'層に対応するものと考えられる。土器は復元可能なものを含む。162-1は波頂部下の縦位隆帯間と口縁部に一巡する爪形刺突が、縄文押圧とともに施文されたものである。ほかの復元個体は地文のみのものが多い。162-5は条線状の細い沈線で矢羽状や縦横のモチーフが描かれている。石器も多量に出土した。使用痕のある剥片(162-6・8)、剥片(162-7・9・12)、使用痕のある剥片(162-10・11)がある。ほかに、土偶が4点出土した。163-1は左胸から胴部で、縄文押圧と細かい刺突が施文されている。163-2は無文の腕部である。163-3は腕部と胸部が接合したものである。

なお、本層を除去後に埋設土器を1基確認した。これについて記載する。

第794号埋設土器

VIM-119に位置する。南盛土ポイント4第15層精査後、底部を確認した。当初は、盛土の廃棄された底部と認識していたが、掘り下げていったところ、倒立している土器であることを確認した。埋設方法は倒立状態で、掘り方は周囲の大半が第IV層の黒色土であったこともあり、確認できなかった。堆積土は2層に分層した。第1層は黒褐色土(10YR2/1)を主体とする。第2層は黒褐色土(10YR2/1)を主体とする。第IV層との区別はやや曖昧である。土器内部からの出土遺物はない。出土した土器は円筒上層a式土器で、本遺構の時期は出土層位、出土土器から判断して円筒上層a式期である。

(小笠原・木村・水谷)



164図 第794号埋設土器

4. 小結

(1) 円筒上層式土器の変遷

今回報告した資料は、南盛土の出土層位を詳細な検討を加えながら取り上げた資料である。層の範囲や厚さの認定にあたっては、平面や先行トレンチによる平面・断面双方の確認を行なった。上層から掘り下げ、出土遺物は必要に応じてドットマップを作成した。トレンチ調査で範囲が狭かったこともあり、遺物の分布や出土状況には有意な特徴は見出せなかった。

出土土器は、円筒上層 a 式から最花式まで 7 型式である。これらを、1 トレンチでは約 150 層に分層し、4 トレンチも含めると細かな分層も含めると 240 層にもなる。円筒上層式土器及びその後の大木式系土器については、これまで層位的な関係を示す出土例が少なく、本資料はその変遷を考える上では貴重な資料になりうるものである。しかし第 8. 1 節で触れたとおり、トレンチの幅は約 50cm と狭く、破片資料が多く器形や文様の全体像を知る資料はごく限られる。また、盛土は恒常的な廃棄行為による堆積が繰り返されたものと想定され、土器片の流入・攪乱などが十分想定される。また、全ての層から土器が出土しているわけではなく、出土量も異なるため、属性分析が量的に堪えない部分もある。

いくつかの制約はあるものの、本項では各層の出土土器から円筒上層式土器と後続する大木式系土器の変遷を、従来の見解と照合していくことにする。

円筒上層式期や後続する大木式系土器の変遷については、これまで多数論じられているのは周知のとおりである。型式の設定当初から、分類の指標となる文様は明確だったし、若干の異なりはあるにせよ各研究者により示された分類には共通点が多く、今日まで踏襲されてきている。型式学的な検討に加え、調査事例の増加に伴い、竪穴住居跡など一括性の高い出土状況の中でのまとまりなどを見ても首肯しうるものだったのである。

なお、円筒式土器や大木式系土器などの土器文化としての様式の遷移についても多くの論考があるが、ここでは単に時間的な変遷についてのみ触れる。

1) 基本事項の確認

まず、中期の土器群を検討するに当たり、最も基本的な再確認の作業を行う。従来の編年案がおおむね妥当なものであることを担保するためである。調査範囲が狭く、器面全体の文様構成が不明なものが多いが、メルクマールとされる文様指標も含めて再検討していく。

1・4 トレンチでは各層が薄く、分布範囲も狭いものが多い。層位的な上下関係を持たなければ新旧関係を明らかにすることは困難である。そのため、1・4 トレンチとも遺物が比較的多く出土している複数の層を縦断するラインを、2 本ずつ任意に設定した。1 トレンチでは東から約 0.45m と 4.9m 付近、4 トレンチでは東から約 0.5m と 5m 付近に垂直方向のラインを仮設し、上下（新旧）関係を明確にした上で、それを横断する層からの出土土器を検討対象とした。

様々な属性の中で主に着目したのは、従来から分類指標とされた文様などである。それらについて検討を行った。

各属性の消長を示したのが 1 表である。

①口縁部の断面形状と②胴部文様帯の地文の有無、③口縁部の文様に大きく分けている。

①については、「肥厚した断面」は円筒上層式期にみられ、「凹状の断面」は口唇部に巡る太い沈線で大木式系土器の影響・定着によりみられ、「肥厚なし」は最花式土器にみられるもので、時間的な差異が考えられるものである。

②は無文面に直に「文様」が施文されるものと、「地文」施文後に文様が付加されるものである。

③の口縁部文様帯は、上述のとおり従来の型式分類の中で重視されてきたものである。「横位押圧」・「波状押圧」は上層 a 式の、「馬蹄形押圧」は同 b 式の、「刺突」は同 c 式の、「地文後貼付」は同 d 式の指標とされている。「沈線」は同 e 式～最花式までを含むことになるが、破片ではモチーフが判明しないものも多い。

この表を見る限り、円筒上層 d 式段階までは③の指標となる文様は、程度の差はあるが、前後型式と若干重複しながら出現・消滅していることがわかる。施文文様の変遷は、従来の編年の妥当性が支持されるとともに、型式変遷の狭間では前後型式が共存したことが、(使用や)廃棄時に表れているものと考えられる。

2) 中期土器群の変遷

(1)でみた変遷過程から、これまで考えられてきた文様変遷と同じ結果となることを示した。ここでは直接的な上下関係を持たない層も含めて、1・4 トレンチ・ポイント 4 全体を通して、中期土器群の変遷をみていきたい。

1 トレンチ第145層直上、4 トレンチ第89・89' 層出土土器

縄文原体による直線状・波状押圧が施文されたもので、一部に馬蹄形押圧もある。口唇部突起は弁状と二又がある。突起下の縦位の隆帯は1条と2条のものがある。1条の隆帯の両側に斜めにも隆帯が加わり、3条で↓状になっているものもある。2条のものでも、「8」・「U」・「X」・「Y」字状になるものがある。文様帯には直線状の縄文押圧が上下に付くものと、さらにその中間にも縄文押圧が見られ上下に区画されるものがある。それぞれの間に鋸歯状押圧や馬蹄形押圧や、稀に細いへら状の工具による刺突が巡るものがある。従来の編年では、円筒上層 a 2 式に相当する。

4 トレンチ第60・82・83層出土土器

縄文原体による馬蹄形押圧が施文されたものである。口唇部突起は弁状のものもあるが、二又の突起が主体である。突起下の隆帯は単純な垂下する隆帯ではなく、垂下する隆帯の両側に「3」状の対照的な隆帯が付属したり、「X」字状の隆帯やさらに円形や弧状の隆帯が加わるものが多い。「X」字状(変形したものも含め)の隆帯では橋状となるものも現れる。文様帯には、上下に区画する横位の直線的な縄文押圧や隆帯、「X」字状の隆帯がある。その間に縄文による馬蹄形押圧が埋められるように施文される。馬蹄形押圧は0段多条原体を用いている。従来の編年では、円筒上層 b 式に相当する。

円筒上層 a 式から b 式への変化は従来言われてきたような文様指標の変化とともに、貼付隆帯の本数や位置、使用される縄文原体の違いなども抽出できる。

1 トレンチ第106・109・110・112層、4 トレンチ55・57層出土土器

刺突文が施文されるが、前後段階の指標とした文様をもつものも一部含まれる。しかし、前項で見たとおり、前後段階の指標とも漸移的である以上、型式学的に刺突文が施文されたものが施文された

ものを扱う。ただし、集成図には同一層から出土したものを併せて示す。破片資料が多く、全体を知るものはほとんどない。隆帯のモチーフは前段階と同様のものが見られ、刺突がその間を埋める。つまり、前段階の馬蹄形押圧が刺突に置換されたものと考えることができる。刺突には竹管状、円形、へら状などがある。従来編年では、円筒上層 c 式に相当する。

4 トレンチ第30・35層、ポイント4 第10 a・10 b 層出土土器

胴部まで粘土紐の貼付による文様が施文されたものである。口唇部の弁状の突起は角が丸味を帯びたものや、二又というよりも弁状の突起の中央に切れ込みを入れたようなものもある。三角形状の突起も増える。突起下の縦位の隆帯がないものは前段階から見られるが、この段階で顕著となる。地文は結束第一種が多いが、単節縄文も増加する。地文施文後に貼り付けられる隆帯は、細いものが多く、上面が素文のものと、縄文が回転・押圧されるものがある。モチーフはいわゆる胸骨文が主体である。その弧を三角形状や垂直に連結するものも見られる。縦位の区画がないものもあるものと同様のモチーフであるが、あたかも45°回転したようなモチーフとなるものもある。また、口唇部への刻みや縄文原体押圧、突起貼付のみで、文様帯をもたないものも一定量存在する。従来編年では、円筒上層 d 式に相当する。

1 トレンチ第39・57・62・67層、4 トレンチ第25層出土土器

沈線によって胸骨文およびそれに類するモチーフが施文されたものである。突起は三角形状の山形突起が主体である。文様モチーフを知るものは少ないが、横位に直線的に重層するもの、突起下に対照の「コ」の字状となるもの、縦位の区画がなく山形状となるものなどがある。また、地文のみのものが前段階同様に一定量あり、(正確ではないが)半数近くに上るものと思われる。地文は結束第一種もわずかに見られるが、単節縄文が主体となる。従来編年では、円筒上層 e 式に相当する。

1 トレンチ第12・13・17・31・37層、4 トレンチ第5・13・17層、ポイント4 第5 b 層出土土器

口唇部に凹状沈線が施文されたものである。より下層に当たる4 トレンチ第17層出土土器の口唇部は突起部の渦巻きが不明確で、沈線が浅いなど、1 トレンチ出土土器に比べ、前段階の要素として考えられるものである。文様帯のモチーフが不明確なため明言できないが、4 トレンチ第5層出土土器は横位の沈線と弧状の沈線の組み合わせである。より上層の1 トレンチ第12層では、4方向の弧状の沈線の中央に円形や渦巻状の沈線が配されているものと、弧状の沈線がより直線的に水平・垂下した中央に渦巻状の沈線が配されたものがある。これらは従来編年では、榎林式に相当する。

1 トレンチ第1・3層、4 トレンチ第1層、ポイント4 第1層出土土器

口唇部が無文帯となり、胴部に垂下する沈線が施文されるものが特徴的である。全体の器形、文様モチーフがわかるものはない。口縁部が無文帯で、その下に刺突列があるもの、口唇部に凹状の沈線が巡るものがある。胴部文様は垂下する逆U字状の沈線、上下に4方向から対峙する弧状の沈線、渦巻状の沈線と垂下する沈線が組み合わされたものなどがある。しかし、破片資料がほとんどでこれ以上言及できる点はない。従来編年では、最花式に相当する。

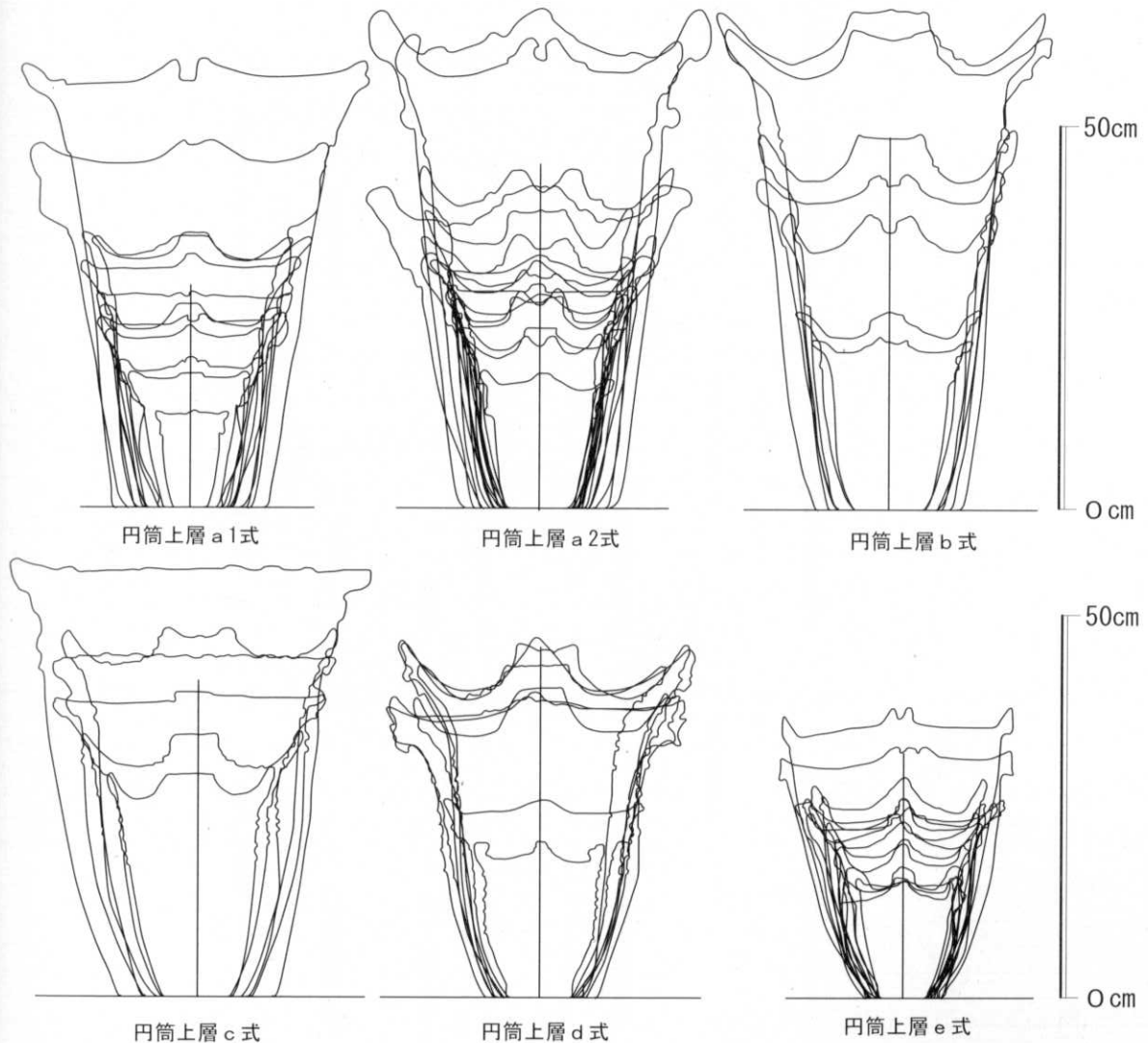
なお、参考までに三内丸山遺跡から出土した各型式の器形の変遷を165図に示した。

本報告資料では、必ずしも質・量的に十分ではない型式もあるが、円筒土器や後続する大木式系土器の変遷の概略について触れてきた。特に円筒上層 a・b 式の変遷は、特に馬蹄形押圧や地文のあり

方について従来の理解よりもやや進めることができたものと思われる。少量でもあり詳しくは触れなかったが、榎林式土器については、横位の沈線下に弧状の沈線が施文された土器よりも、弧状の沈線に囲まれた中央に円形・渦巻状の沈線が施文された土器が上層から出土しており、時間差によるものである可能性が高い。

3) 盛り土出土土器の意義

本遺構出土土器のように、同時に使われた（廃棄された）土器が複数個体あり、それらが漸移的な変化をする場合、（連続した流れの中にある）複数の属性を観察していることになる。土器型式の認識は、それらを再構築したものである。これまで見てきたように、同一層中での複数の型式が出土することは、実際の使用や廃棄にあたり、それらの属性が同時存在した時期があることが想定される。土器（に関わる様々な属性）が、同一土器文化圏内である時期に一齐に新しい属性をもった土器に切り替わる可能性も否定できないが、漸移的な変化を想定するほうが、より実態に近いものと考えられる。盛土の出土土器は、そうした連続性を示しているものと言える。型式はそれらを構成する（特徴づける）属性の有無と量的変化によって設定されていることを、本盛土出土資料はあらためて示しているものである。盛土を考古学的に分析する大きな意味や価値といえることができる。（小笠原）



165図 円筒上層式各型式ごとの器形

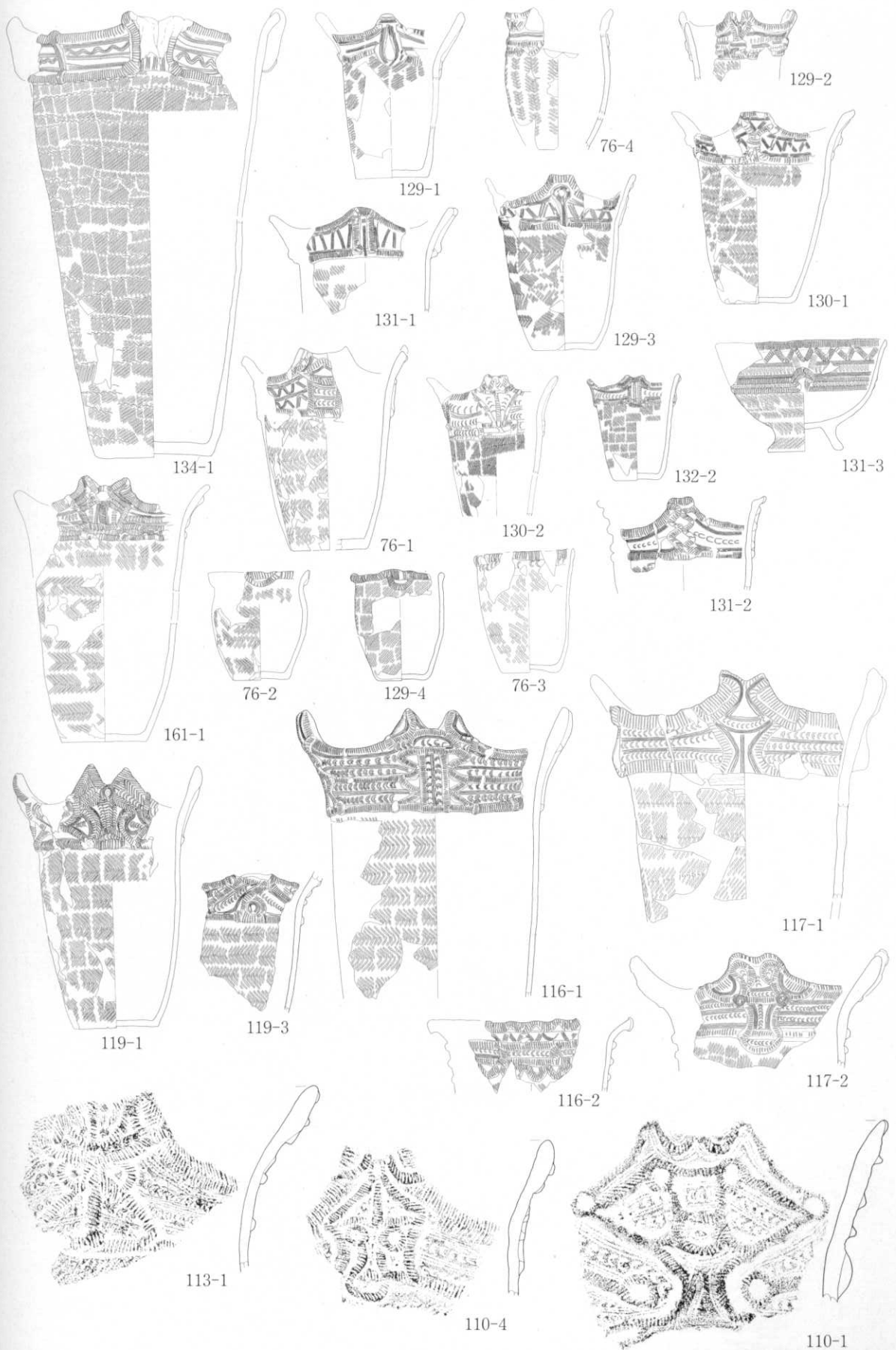
	口縁部			文様帯		口縁部文様					
	肥厚なし	凹状断面	肥厚断面	地文	文様	横位押圧	波状押圧	馬蹄形押圧	刺突	地文後貼付	沈線
1F3層											
1F12層											
1F31層											
1F37層											
1F46層											
1F52層											
1F57層											
1F71層											
1F72層											
1F87層											
1F88層											
1F105層											
1F108層											
1F123層											
1F133層											
1F145層											

	口縁部			文様帯		口縁部文様					
	肥厚なし	凹状断面	肥厚断面	地文	文様	横位押圧	波状押圧	馬蹄形押圧	刺突	地文後貼付	沈線
1F1層											
1F6層											
1F13層											
1F31層											
1F39層											
1F50層											
1F72層											
1F77層											
1F100層											
1F106層											
1F107層											
1F109層											
1F110層											
1F119層											
1F133層											
1F145層											

	口縁部			文様帯		口縁部文様					
	肥厚なし	凹状断面	肥厚断面	地文	文様	横位押圧	波状押圧	馬蹄形押圧	刺突	地文後貼付	沈線
4F17層											
4F25層											
4F38層											
4F35層											
4F50層											
4F57層											
4F69層											
4F77層											
4F89層											
4F89'層											

	口縁部			文様帯		口縁部文様					
	肥厚なし	凹状断面	肥厚断面	地文	文様	横位押圧	波状押圧	馬蹄形押圧	刺突	地文後貼付	沈線
4F1層											
4F5層											
4F30層											
4F41層											
4F48層											
4F55層											
4F57層											
4F60層											
4F83層											
4F85層											
4F89層											
4F89'層											

1表 属性消長表



166图 出土土器集成图(1)



167图 出土土器集成图(2)



168图 出土土器集成图 (3)

(2) 1・4トレンチ、ポイント4から見る南盛土の形成過程

盛土は、一定範囲を持つ人為的な廃棄の連続で形成されたものである。しかも、短期間に一気に造られたものではなく、中期初頭から後葉までの期間に徐々に高さを増したことは、出土遺物から明らかである。その範囲は第8. 2節で述べたとおりであるが、各層の特徴や出土遺物で判断される各層の堆積時期から、その形成過程を考えていく。

廃棄された土砂は、主に第VI層起源のローム土、黒色土、焼土、炭化物などである。焼土や炭化物はローム土や黒色土に混在することが多いが、遺物やその他の混入物を含まない純層で堆積することも少なくない。特に盛土形成初期段階のより下層（円筒上層b式期まで）でローム土、焼土、炭化物の純層（やその連続した堆積）が目立つ。焼土・炭化物は人為的によることは確実であるが、焼土は粒状・塊状でその場で被熱したものではなく、多くは廃棄されたものである。焼土や炭化物の形成には、調理や暖房、土器の焼成などの日常的な要因や、何らかの祭祀行為に伴う火の使用なども可能性としてはあるかもしれない。

これらの廃棄された土砂は、各層の断面で見ると限りほぼ均一な厚さである。各種土砂の廃棄の際に、何らかの運搬具を用い、それをひっくり返すなどして捨てたとすれば、大小はともかく、小山のような形状になるものと思われる。しかし、層の多くは最大厚が10cm未満で、均一な層厚であることから、ある程度均すと行った行為が行われた可能性が高い。傾斜した層はともかく、盛土の堆積層中央部は常に水平に近い状態であることも注目される。

169図は1・4トレンチ、ポイント4の断面図の各層を時期ごとに分けたものである。遺物は全ての層から出土しているわけではなく、出土土器が無い場合、どちらに属するか判断しにくい層もあるものの、傾向としては十分読み取ることができる。円筒上層a式期の層は4トレンチで見られるが、1トレンチでは第IV層上面で遺物が出土しているだけで、面的には広がらない。円筒上層b式期の層は、4トレンチ西側では水平に堆積するが、東側や1トレンチでは東に向かって傾斜する。円筒上層c・d式期の層も大局的には同様である。円筒上層e式期の層は、4トレンチでは水平に堆積し、1トレンチの上層d式期の層が傾斜している部分を覆うように堆積する。榎林式期の層は、1・4トレンチとも下位層の上面全体に堆積している。最花式期の層は、遺物が出土しない層があり不明な点も多いが、さらにその上に部分的であるが堆積する。

以上をまとめると、円筒上層b式期では4トレンチ西側でより厚く堆積し、4トレンチ東側以東はその端部に当たると判断される。円筒上層a式期の堆積層は薄い。上層c・d式期では、傾斜する層が東側の1トレンチで見られることから、上層b式期の層を覆い、平坦面を拡大しながら東側へと広がっていることがわかる。円筒上層e式期では、さらに上層d式期に造られた傾斜面を覆うように堆積し、榎林式期では以前の層に覆うように堆積する。このことから、1・4トレンチ部分では西側から東側へ向かって盛土が拡大していったことがわかる。もちろん、この範囲より盛土全体の範囲は広いので、盛土の初期の段階の堆積層は4トレンチよりもさらに東側になるものと思われる。このように、時期によって盛土が主に堆積する場所が異なっており、単純に「深さ÷年数=1年間の堆積厚」や「深さ÷層数=廃棄の隔年数」とはならないことは明らかである。

土器型式ごとに分けた最大厚は、円筒上層a式期が約20cm、円筒上層b式期が約50cm、円筒上層c

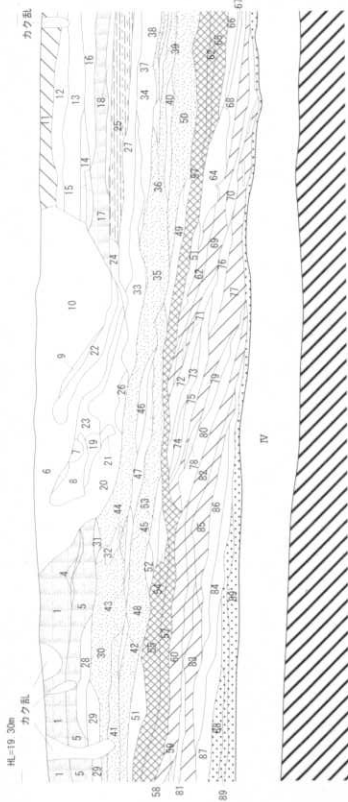
式期が約40cm、円筒上層 d 式期が約50cm、円筒上層 e 式期が約60cm、榎林式期が約40cm、最花式期が約30cmとなる。最大厚の計測地点は型式ごとに異なるため、これらの和=盛土の厚さにはならない。円筒上層 a 式期が他型式期に比べ薄い、上述のように分布域の端部に当たっていることや、次項で触れるように土砂の廃棄が、第6 鉄塔地区に見られるように台地北端斜面で活発だったことが考えられるが、後者の土砂の廃棄は台地北端斜面に主体があった可能性が高い。盛土の形成は円筒上層 a 式期から開始されているものの、その段階の形成層は薄いものと考えられる。円筒上層 b 式期から円筒上層 e 式期は、最大厚はいずれもほぼ同じである。しかし、この断面観察では、前型式の層を完全に覆うように土砂が堆積していることから、後続する型式の方が平面的な広がりが大きく、土砂の堆積量も多くなっていると判断される。榎林式期において最大厚は減少しているものの、面的な広がり確認でき、拡大していたことがわかる。しかし、最花式期では層の薄さもさることながら、面的な広がり縮小している。

この現象は、集落規模を反映しているものと考えられる。円筒上層式前半期の遺構数は必ずしも判然としないが、盛土を見る限り、人々の活発な動きがあったことを示している。また、中期中葉から後葉にかけて集落規模と連動して盛土も拡大したことが伺うことができる。

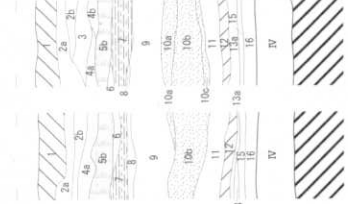
各層間には自然堆積の土層はみられない。自然の堆積が進まないうちに人為的な堆積が連続したと考えるのが妥当であろう。また、各層は断面で見ると、層の単位・境界が明瞭である。このことは、草木根などによる攪乱がほとんどなかったことを示しているものと考えられる。草が生えないような環境があったのか、生えさせないような人為的な環境があったのか判断できないが、草地になりにくいような状態だったものと見られる。

(小笠原)

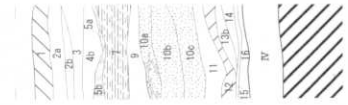
4トレンチ北壁



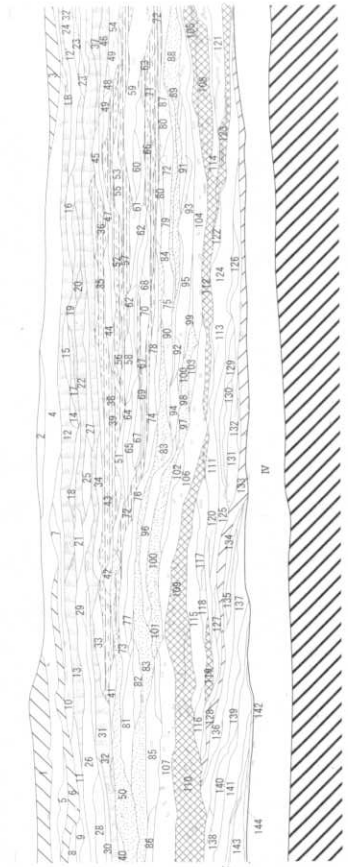
4ポイント南壁



東壁



1トレンチ北壁



畷花式期

榎林式期

円筒上層e式期

円筒上層d式期

円筒上層c式期

円筒上層b式期

円筒上層a式期



169図 時期ごとの堆積層

(3) 土偶、土・石製品について

1) 土偶

今回報告分の中で、土偶は12点で、そのうち2点は接合したため、11個体分である。破片のみで全体がわかるものはない。トレンチの総長は約17mで、調査面積は約8.5㎡である。面積当りの出土量は、約1.3個/㎡である。これを同じく中期の遺物包含層で、土砂を主体としている中期の「第6鉄塔地区」の遺物包含層と比較してみる。第6鉄塔地区（調査面積169㎡）からは、土偶が26点出土しており、面積当りの出土量は、0.153個/㎡である。

南盛土は中期のほぼ全般にわたる遺構で、土器型式ごとの堆積層の厚さも（場所によって違いはあるものの）、ほぼ等しい。台地上の緩斜面に形成され、端部を除き厚さは平均1.8mである。一方、第6鉄塔地区の包含層も中期のほぼ全般の時期を含むが、円筒上層 a 式期の堆積層がもっとも厚い。川に面した台地の北端斜面に形成された包含層で、土砂中心の廃棄物により結果的に台地が迫り出した状態となっている。最大の厚さは約2.4mである。

この2つの包含層の特徴は以下である。

	南盛土	第6鉄塔地区
共通点	<ul style="list-style-type: none"> ・人為的な土砂主体の堆積物 ・形成時期 	
大きな相違点	<ul style="list-style-type: none"> ・緩斜面に形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・台地北端斜面に形成
細部での相違点	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい堆積層 ・型式ごとの出土量に大きな違いはない ・各型式とも遺物出土量が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次堆積のローム主体(細かい堆積層が確認できる部分もあるが) ・形成時期の主体は中期初頭 ・中期初頭の遺物が多い

両者には、上記のような共通・相違点がある。土砂の廃棄という点では同じとも言えるが、土偶で見た場合には、1㎡当りの出土数は大きく異なっている。第6鉄塔地区の場合、主体的な形成時期や出土遺物の時期が中期初頭に偏っているため、出土量の違いに反映している可能性もあるものの、むしろこの違いは、盛土の性格の一側面を表しているものと考えられる。

土偶の分布の偏在性については、今後予定している南盛土の続編や北盛土の報告書などで述べることにし、ここでは詳細は触れないが、盛土からの土偶の出土数が多い事実は指摘することができる。

編年については、『青森県史 別編三内丸山遺跡』（2002 青森県：以下『県史』）で述べたこともあり、ここでは以前の知見を補足する。

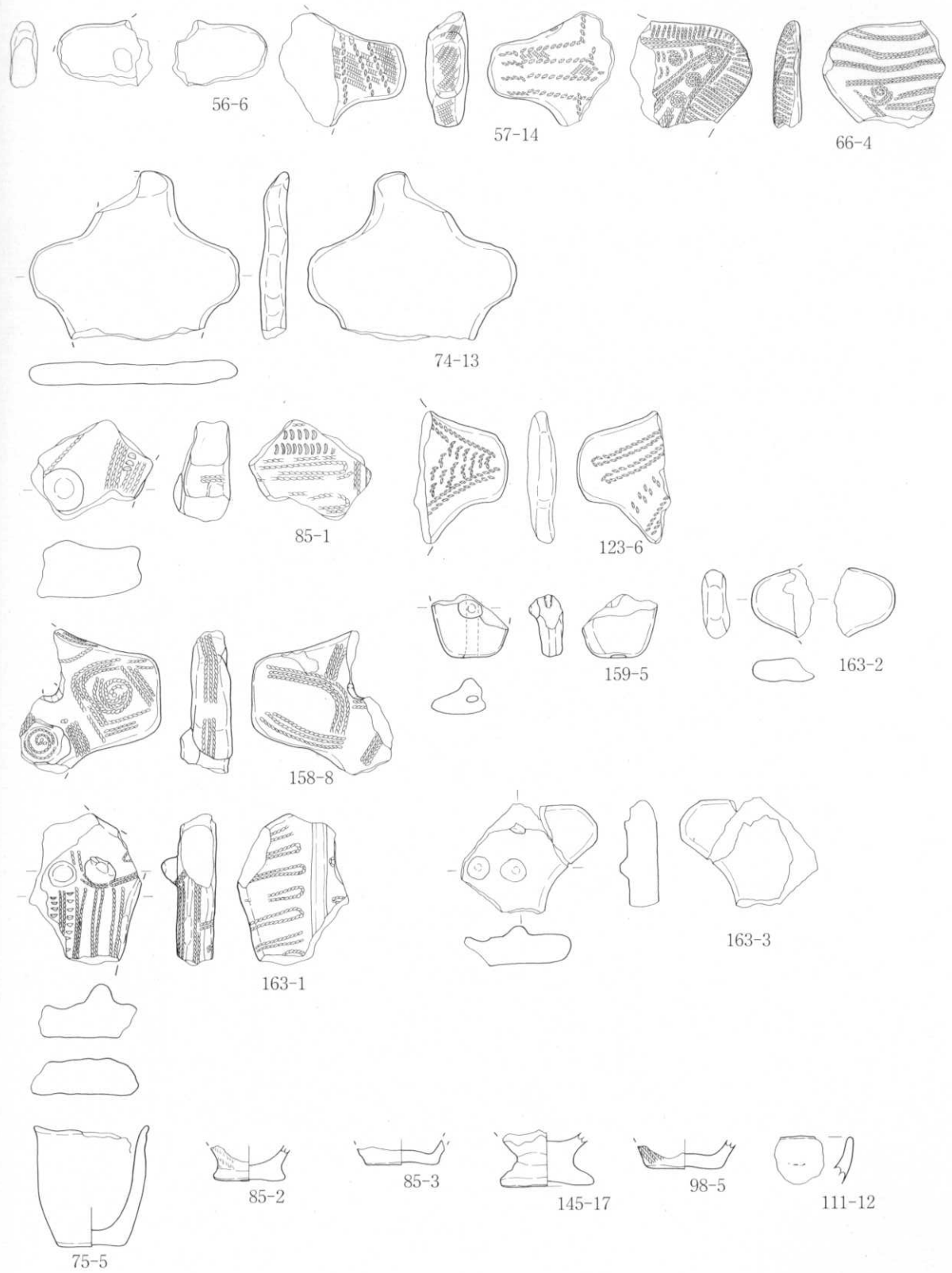
1 トレンチ第100層、ポイント4第10b層出土の土偶は、円筒上層 d 式期のものである。地文はあるものもないものがあるが、直線状・カギ状に縄文原体が押圧されるものである。また、胸突起の上面などには渦巻状の縄文原体押圧が加えられる。『県史』で円筒上層 d 式期とした第349号竪穴住居跡から胴部が出土し、別地点出土の頭部片と接合した本遺跡の中で最大の板状土偶（『三内丸山遺跡XV』105図-7）の胸突起上面の文様と共通する。

4トレンチ第83層から出土した土偶の腕部には、縄文原体による馬蹄形（爪形）押圧が見られる。『県史』でも触れたとおり、円筒上層b式土器のメルクマールと同じ文様が施文されており、土器と土偶のどちらが先に採用されるかは別として、確実に両者に施文されるもので、時期認定の根拠となりうるものであることがわかる。また平面形態では、同じく上層b式期の1トレンチ第133層から出土した無文の土偶とともに、腕部の突き出しが弱く、体部（脇の下部以下）が逆三角形になる。腕の短さとともに、肩部以下全体で見ても逆三角形の形状が引き続き製作されるようである。

2) その他の土・石製品

ミニチュア土器を除く、土・石製品は27点である（土製品の中に粘土塊含む）。それらの中で、穿孔があり、装着部位は拘らず装身具と判断されるものは、8点である。土偶と同様に第6鉄塔地区と比較すると、南盛土は1.176個/1 m²、第6鉄塔地区では0.017個/1 m²となり、南盛土が卓越する。これについてもさらに分析を進め、今後の報告において遺跡内での分布のあり方を示していきたい。

(小笠原)



170図 土偶・ミニチュア土器集成図



171图 土・石製品等集成图

南盛土1トレンチ出土土器観察表

図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備考	通番
35	1	Ⅲ-1	無文帯、刺突、RL、沈線	ミガキ	最花		401
35	2	Ⅲ-1	渦巻状貼付	ミガキ			398
35	3	Ⅲ-1	貼付				399
35	4	Ⅲ-1	LR、沈線	ミガキ	最花		400
35	5	Ⅲ-1	LR、沈線	ミガキ	最花		396
35	6	Ⅲ-1	RL、沈線	ミガキ	最花		397
35	8	Ⅲ-2	凹状沈線	ミガキ	榎林		402
35	9	Ⅲ-2	RL、沈線	ミガキ	榎林		403
36	1	Ⅲ-3	凹状沈線、RL、沈線	ミガキ	最花		1
36	2	Ⅲ-3	貼付、LR				405
36	3	Ⅲ-3	RLR	ミガキ			404
36	4	Ⅲ-4	凹状沈線、RL	ミガキ	榎林		8
36	5	Ⅲ-4	無文	ミガキ			2
36	6	Ⅲ-4	L単絡1、沈線	ミガキ	榎林		3
36	7	Ⅲ-4	LR、沈線	ミガキ	榎林		4
36	8	Ⅲ-4	LR、沈線	ミガキ	榎林		5
37	1	Ⅲ-6	無文帯、刺突	ミガキ	最花		11
37	2	Ⅲ-6	RL、沈線	ミガキ			10
37	4	Ⅲ-9	RLR、貼付	ミガキ			13
37	5	Ⅲ-9	RL、沈線				14
37	6	Ⅲ-10	RL単絡1	ミガキ			16
37	7	Ⅲ-10	沈線				15
37	8	Ⅲ-10	LR、沈線	ミガキ			17
37	9	Ⅲ-11	凹状沈線、沈線	ミガキ	榎林		18
37	10	Ⅲ-11	RL	ミガキ			20
37	11	Ⅲ-11	縄文、沈線	ミガキ	榎林		19
37	12	Ⅲ-11	RLR、沈線	ミガキ	榎林		21
37	13	Ⅲ-12	LR、沈線	ミガキ	榎林		6916
37	14	Ⅲ-12	凹状沈線	ミガキ	榎林		22
37	15	Ⅲ-12	R単絡1、沈線、刺突	ミガキ	最花		23
37	16	Ⅲ-12	RL、沈線	ミガキ	榎林		25
37	17	Ⅲ-12	縄文、沈線	ミガキ	榎林	摩滅	24
38	1	Ⅲ-13	凹状沈線、RLR、沈線	ミガキ	榎林		28
38	2	Ⅲ-13	LR、沈線		榎林		29
38	3	Ⅲ-13	RLR、沈線	ミガキ	榎林		26
38	4	Ⅲ-13	RL、沈線	ミガキ			30
38	5	Ⅲ-16	貼付	ミガキ	上d	貼付剥落	31
38	8	Ⅲ-17	凹状沈線、RLR?	ミガキ	榎林		32
38	9	Ⅲ-17	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		33
38	10	Ⅲ-18	刺突	ミガキ		台付	34
38	11	Ⅲ-18	LR、沈線	ミガキ	榎林		35
38	12	Ⅲ-18	RL、沈線	ミガキ	榎林		38
38	13	Ⅲ-18	RL、沈線	ミガキ	榎林		39
38	14	Ⅲ-18	無文			ミニチュア?	36
39	1	Ⅲ-19	RL、沈線	ミガキ	上層		40
39	2	Ⅲ-19	凹状沈線	ミガキ	榎林		41
39	3	Ⅲ-19	貼付、RL、沈線	ミガキ	榎林		42
39	7	Ⅲ-20	RL、沈線	ミガキ	榎林		46
39	8	Ⅲ-21	LR、沈線	ミガキ	榎林		48
39	9	Ⅲ-21	RL、沈線	ミガキ	榎林		49
39	10	Ⅲ-22	RL	ナデ			4720
39	11	Ⅲ-22	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		55
39	12	Ⅲ-22	LR	ミガキ			50
39	13	Ⅲ-22	RL、沈線	ミガキ	榎林		56
39	16	Ⅲ-22	縄文、沈線	ミガキ	榎林		53
39	17	Ⅲ-22	無文	ミガキ			47
40	1	Ⅲ-25	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		58
40	2	Ⅲ-25	RL、沈線	ミガキ	榎林		57
40	3	Ⅲ-26	無文	ミガキ	上層		62
40	4	Ⅲ-26	無文帯、沈線、刺突	ミガキ	榎林		61
40	5	Ⅲ-26	RL、沈線	ミガキ	榎林		60
40	6	Ⅲ-26	縄文、沈線	ミガキ	榎林		59
40	7	Ⅲ-26	LR、沈線	ミガキ	榎林		63
40	12	Ⅲ-27	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		65
40	13	Ⅲ-27	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		66
40	14	Ⅲ-28	RL	ミガキ	榎林		67
40	15	Ⅲ-29	RL、沈線	ミガキ	榎林		69

図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備 考	通番
40	16	Ⅲ-29	LR	ミガキ			70
40	17	Ⅲ-30	LR、沈線				73
40	18	Ⅲ-30	LR	ミガキ			72
41	1	Ⅲ-31	円形刺突、LR	ミガキ			83
41	2	Ⅲ-31	LR押、LR	ミガキ			75
41	3	Ⅲ-31	RL、沈線	ミガキ	榎林		79
41	4	Ⅲ-31	縄文	ミガキ			84
41	5	Ⅲ-31	LR、沈線	ミガキ			80
41	6	Ⅲ-31	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		77
41	7	Ⅲ-31	RL、沈線	ミガキ	榎林		78
41	8	Ⅲ-31	LR、沈線	ミガキ			82
41	9	Ⅲ-31	沈線	ミガキ			85
41	10	Ⅲ-31	無文	ミガキ			74
42	1	Ⅲ-32	無文	ミガキ			87
42	2	Ⅲ-32	貼付	ミガキ	上層		89
42	3	Ⅲ-32	LR、沈線	ミガキ	榎林		90
42	6	Ⅲ-33	凹状沈線、沈線	ミガキ	榎林		91
42	7	Ⅲ-34	LR	ミガキ			98
42	8	Ⅲ-34	RL、貫通孔	ミガキ			95
42	9	Ⅲ-34	貼付	ミガキ	上d		96
42	10	Ⅲ-34	LR、沈線	ミガキ	上e		93
42	12	Ⅲ-35	ボタン状貼付、	ミガキ	上層		103
42	13	Ⅲ-35	無文	ミガキ			104
42	14	Ⅲ-36	凹状沈線				105
42	16	Ⅲ-37	凹状沈線、LR、沈線	ミガキ	榎林		106
43	1	Ⅲ-38	RL	ミガキ			107
43	2	Ⅲ-38	貼付	ミガキ			108
44	1	Ⅲ-39	RL押、貼付、RL、沈線	ミガキ	上e		109
44	2	Ⅲ-39	凹状沈線	ミガキ	榎林		110
44	3	Ⅲ-39	貼付、L押、RL	ミガキ	上層		123
44	4	Ⅲ-39	貼付、L押、RL	ミガキ	上層		120
44	5	Ⅲ-39	刻み、LR	ミガキ	上層		117
44	6	Ⅲ-39	RL、沈線	ミガキ	上e		119
44	7	Ⅲ-39	RL、沈線	ミガキ	上e		122
44	8	Ⅲ-39	RL、沈線				112
44	9	Ⅲ-39	LR、沈線	ミガキ	上e		118
44	10	Ⅲ-39	LR、沈線	ミガキ			111
44	11	Ⅲ-39	縄文、沈線		上e		116
44	12	Ⅲ-39	LR押、LR、沈線	ミガキ		Ⅲ-34と接合	97
44	17	Ⅲ-45	結束第一種	ミガキ	上層		
44	18	Ⅲ-45	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		124
44	19	Ⅲ-46	貼付	ミガキ	上層		127
44	20	Ⅲ-46	RL	ミガキ	上層		125
44	21	Ⅲ-46	貼付、沈線	ミガキ	上e		126
44	22	Ⅲ-46	RL	ミガキ			129
44	23	Ⅲ-46	RL、沈線	ミガキ	上e		128
45	1	Ⅲ-47	縄文、沈線		上e		130
45	4	Ⅲ-49	RL、沈線	ミガキ	上e		131
45	5	Ⅲ-49	縄文、沈線	ミガキ	上e		132
45	6	Ⅲ-50	LR	ミガキ			6889
45	7	Ⅲ-50	貼付 (LR押)、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		137
45	8	Ⅲ-50	貼付 (LR)、結束第一種	ミガキ	上d		138
45	9	Ⅲ-50	RL押	ミガキ	上層		139
45	10	Ⅲ-50	RL	ミガキ	上層		140
45	11	Ⅲ-50	RL、貼付 (LR)	ミガキ	上d		134
45	12	Ⅲ-50	貼付	ミガキ	上d		135
45	13	Ⅲ-50	RL、沈線	ミガキ	上e		136
46	1	Ⅲ-51	LR押、LR	ミガキ	上層		143
46	2	Ⅲ-51	結束第一種、貼付 (RL)	ミガキ	上d		141
46	3	Ⅲ-51	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		142
46	5	Ⅲ-52	刻み、貼付、LR、沈線	ミガキ	上e		144
46	6	Ⅲ-52	凹状沈線	ミガキ	榎林		146
46	7	Ⅲ-52	LR、沈線	ミガキ	上e		145
46	8	Ⅲ-52	L、沈線	ミガキ	上e・榎林		149
46	9	Ⅲ-52	RL、沈線	ミガキ	上e・榎林		148
46	10	Ⅲ-52	RL、沈線	ミガキ	上e・榎林		147
46	11	Ⅲ-52	RL、沈線	ミガキ	榎林		153
46	12	Ⅲ-52	RL、沈線	ミガキ	榎林・最花		152

図番号	番号	層位	文	様	内面調整	分類	備考	通番
46	14	Ⅲ-53	刻み、貼付、LR、沈線		ミガキ	上e		155
47	1	Ⅲ-57	RL押、貼付、RL、沈線		ミガキ	上e	62層と接合	6935
47	2	Ⅲ-57	貼付、R押、沈線		ミガキ	上e		160
47	3	Ⅲ-57	R?押、R		ミガキ	上層		156
47	4	Ⅲ-57	RL、沈線		ミガキ	上e		158
48	1	Ⅲ-58						162
48	2	Ⅲ-59	貼付、LR		ミガキ	上層		165
48	3	Ⅲ-59	結束第一種、貼付		ミガキ	上d		166
48	4	Ⅲ-59	結束第一種、貼付		ミガキ	上d		163
48	5	Ⅲ-59	結束第一種、貼付		ミガキ	上d		164
48	6	Ⅲ-61	LR押、LR		ミガキ	上層		167
48	7	Ⅲ-61	RL、沈線		ミガキ	上e		169
48	8	Ⅲ-61	RL、沈線		ミガキ	上e		168
48	9	Ⅲ-62	L押、貼付、RL		ミガキ		62層と接合	6936
48	10	Ⅲ-62	貼付			上層		171
48	11	Ⅲ-62	刻み、LR		ミガキ	上層		172
48	12	Ⅲ-62	RL、沈線		ミガキ	上e		170
48	13	Ⅲ-63	LR、沈線		ミガキ	上e		173
48	16	Ⅲ-66	RL、沈線		ミガキ	上e		174
48	17	Ⅲ-66	LR、沈線		ミガキ	上e		175
49	1	Ⅲ-67	RL押、円形貼付、RL		ミガキ			6917
49	2	Ⅲ-67	貼付、LR、沈線		ミガキ	上e		176
49	3	Ⅲ-67	RL押、RL、沈線		ミガキ	上e		177
49	4	Ⅲ-67	RL、沈線		ミガキ	上e		178
49	5	Ⅲ-67	貼付、LR、沈線		ミガキ	上e		179
49	8	Ⅲ-69	RL		ミガキ	上層		181
49	9	Ⅲ-69	RL押、RL、L結回		ミガキ	上層		180
50	1	Ⅲ-70	RL押、RL			上層		183
50	2	Ⅲ-70	貼付、縄文、沈線		ミガキ	上e		182
50	3	Ⅲ-70	貼付			上層		184
50	5	Ⅲ-71	LR押、LR、沈線		ミガキ	上e		185
51	1	Ⅲ-72	貼付		ミガキ	上d		189
51	2	Ⅲ-72	貼付、RL、沈線		ミガキ	上e		188
51	3	Ⅲ-72	結束第二種、沈線		ミガキ	上e		186
51	9	Ⅲ-73	LR押、		ミガキ	上層		191
51	10	Ⅲ-73	突起部に縦横の貫通孔					192
51	11	Ⅲ-73	貼付			上d		193
52	1	Ⅲ-75	LR押、LR		ミガキ	上層		195
52	2	Ⅲ-75	結束第一種、貼付		ミガキ	上d		194
52	3	Ⅲ-76	貼付		ミガキ	上d		197
52	4	Ⅲ-76	貼付、LR押、LR		ミガキ	上層		196
52	5	Ⅲ-80	無文		ミガキ	上層		6891
52	6	Ⅲ-80	貼付、RL押、結束第一種		ミガキ	上層		198
53	1	Ⅲ-83	貼付、LR押、LR		ミガキ	上層		199
53	2	Ⅲ-83	結束第一種、貼付(R押)		ミガキ	上d		200
53	3	Ⅲ-83	貼付(刻み)		ミガキ	上d		201
53	4	Ⅲ-83	RL、貼付			上d		202
53	9	Ⅲ-84	R?押、RL		ミガキ	上層	輪積み痕残る	203
53	10	Ⅲ-84	RL			上層		204
53	11	Ⅲ-84	結束第一種、貼付(L押)		ミガキ	上d		205
54	1	Ⅲ-87	貼付、RL		ミガキ	上層		206
54	2	Ⅲ-87	結束第一種、貼付(縄文押)		ミガキ	上d		208
54	3	Ⅲ-87	LR、貼付		ミガキ	上d		209
54	4	Ⅲ-87	LR、貼付			上d		207
54	5	Ⅲ-87	結束第一種		ミガキ	上d		210
55	1	Ⅲ-88	貼付、内面に盲孔			上層		211
55	2	Ⅲ-88	貼付(L押)		ミガキ	上d		212
55	3	Ⅲ-88	貼付			上層		213
55	4	Ⅲ-88	貼付		ミガキ	上層		214
55	5	Ⅲ-88	貼付(RL押)、RL、貼付		ミガキ	上d		215
55	6	Ⅲ-88	RL?貼付		ミガキ	上d		217
55	7	Ⅲ-88	結束第一種、貼付		ミガキ	上d		216
55	11	Ⅲ-90	貼付(L押)、L押、馬蹄形押		ミガキ	上b		219
55	12	Ⅲ-90	貼付(L押)、L・R押、爪形刺突		ミガキ	上c		220
55	13	Ⅲ-90	LR、貼付		ミガキ	上d		218
56	1	Ⅲ-95	貼付、内面に盲孔			上層		221
56	2	Ⅲ-95	結束第一種?貼付		ミガキ	上d		222
56	7	Ⅲ-96	貼付(刻み)			上層		224

図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備 考	通番
56	8	III-96	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		223
56	9	III-96	RL、貼付	ミガキ	上d		225
56	12	III-97	条痕	ミガキ			226
57	1	III-100	貼付 (LR押)、内面に盲孔	ミガキ	上層		236
57	2	III-100	RL押、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		232
57	3	III-100	LR、貼付	ミガキ	上d		234
57	4	III-100	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		235
57	5	III-100	縄文、貼付	ミガキ	上d		231
57	6	III-100	LR?貼付	ミガキ	上d		229
57	7	III-100	LR?貼付	ミガキ	上d		228
57	8	III-100	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		233
58	1	III-101	貼付 (L押)	ミガキ	上層		239
58	2	III-101	LR	ミガキ	上層		240
58	3	III-101	無文	ミガキ	上層		238
58	4	III-102	貼付、RL押、RL	ナデ	上d・e		4528
58	5	III-102	RL?貼付	ミガキ	上d		241
58	7	III-103	刻み、貼付、条痕		上層		4691
59	1	III-104	RL	ミガキ		III-62層と接合	6890
59	2	III-104					244
59	3	III-104	結束第一種、貼付 (LR押)	ミガキ	上d		242
59	4	III-104	RL	ミガキ	上層		245
59	5	III-104					246
60	1	III-105	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		254
60	2	III-105	貼付、貫通孔		上d		248
60	3	III-105	刺突		上c		253
60	4	III-105	貼付 (L押)、刺突		上c		251
60	5	III-105	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		252
60	6	III-105	無文			台?	249
61	1	III-106	貼付 (L押)、爪形刺突	ミガキ	上c		272
61	2	III-106	貼付 (L押)、刺突、内面に盲孔	ミガキ	上c		260
61	3	III-106	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		266
61	4	III-106	貼付 (L押)、竹管刺突	ミガキ	上c	円形貼付剥落	263
61	5	III-106	貼付 (L押)、L押、刺突	ミガキ	上層		270
61	6	III-106	貼付	ミガキ	上層		268
61	7	III-106	貼付、RL	ミガキ	上d		255
61	8	III-106	貼付、LR押、RL	ミガキ	上層		261
61	9	III-106	貼付、RLR	ミガキ	上層		265
61	10	III-106	貼付、貫通孔、結束第一種	ミガキ	上層		259
61	11	III-106	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		264
61	12	III-106	結束第一種、貼付 (L押)		上d		257
61	13	III-106	LR、貼付		上d		269
61	14	III-106	LR、貼付 (刻み)	ミガキ	上d		256
61	15	III-106	LR、貼付	ミガキ	上d		262
61	16	III-106	貼付 (L押)、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		271
61	17	III-106	無文、スリット		上層	台部	267
62	1	III-107	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b	貫通孔	282
62	2	III-107	貼付 (L押)、L馬蹄形押、LR	ミガキ	上b	内面に盲孔	283
62	3	III-107	貼付 (L押)、刺突、貫通孔	ミガキ	上c		281
62	4	III-107	貼付 (L押)、L・R押、貫通孔	ミガキ	上層		274
62	5	III-107	貼付 (L押)、刺突、LR	ミガキ	上c		273
62	6	III-107	貼付、刺突	ミガキ	上c		277
62	7	III-107	貼付、貫通孔	ミガキ	上層		279
62	8	III-107	貼付、RL	ミガキ	上d		278
62	9	III-107	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		280
62	10	III-107	無文		上層	輪積み痕	276
64	1	III-108	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		287
64	2	III-108	貼付 (L押)、L押・馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		286
64	3	III-108	貼付 (刻み)、刺突	ミガキ	上c		284
64	4	III-108	結束第一種		上層		285
65	1	III-109	結束第一種、貼付 (刺突)、刺突	ミガキ	上c	III-106・107層と接合	6892
65	2	III-109	貼付 (L押)、RL	ミガキ	上層		292
65	3	III-109	貼付 (L押)、L押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		1689
65	4	III-109	貼付 (L押)、L押・馬蹄形押	ミガキ	上b		295
65	5	III-109	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		296
65	6	III-109	口唇貼付、結束第一種	ミガキ	上層		288
65	7	III-109	貼付 (L押)、RL	ミガキ	上層		290
65	8	III-109	貼付 (L押)	ミガキ	上層		293
65	9	III-109	貼付		上層		289

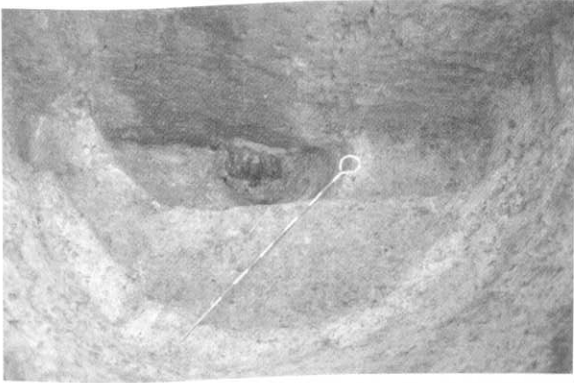
図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備 考	通番
132	6	Ⅲ-89	口縁突起、貼付 (LR押)、LR押	ミガキ	上a		662
132	7	Ⅲ-89	貼付 (LR押)、LR押	ミガキ	上a		647
132	8	Ⅲ-89	R押	ミガキ	上a		651
132	9	Ⅲ-89	口縁突起、貫通孔、貼付 (L・R押)、L・R押	ミガキ	上a		655
133	1	Ⅲ-89	口縁突起、貼付 (LR押)、LR押	ミガキ	上a		650
133	2	Ⅲ-89	貼付 (L押)、L・R押	ミガキ	上a		659
133	3	Ⅲ-89	貼付 (R押)、R押	ミガキ	上a		653
133	4	Ⅲ-89	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上a・b		657
133	5	Ⅲ-89	貼付 (LR押)、L・R押、刺突、RL (結縛)	ミガキ	上a		648
133	6	Ⅲ-89	貼付剥落痕、R押、LR	ミガキ	上a		661
133	7	Ⅲ-89	口縁貼付、突起、貫通孔	ミガキ	上層		654
134	1	Ⅲ-89	貼付 (L押)、L・R押、結束第二種	ミガキ	上層		6908
135	1	Ⅲ-89	RL単絡1押、結束第一種、RL単絡1	ミガキ	下d1		6905
135	2	Ⅲ-89	貼付 (剥落)、L・R押、L、L結回	ミガキ	上a		6906
135	3	Ⅲ-89	結束第一種	ミガキ			6907
135	4	Ⅲ-89	口縁突起、貼付 (L・R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上a・b		668
135	5	Ⅲ-89	口縁突起、貼付 (LR・L・R押)、L・R押	ミガキ	上a・b		665
135	6	Ⅲ-89	貼付 (LR押)、LR・RL押、結束第一種	ミガキ	上a		666
135	7	Ⅲ-89	口縁突起、貼付 (L押)、L押	ミガキ	上a		667
135	8	Ⅲ-89	貼付 (L押)、L押、結束第一種	ミガキ	上a		663
135	9	Ⅲ-89	口縁突起・貼付帯 (LR押)、結束第一種	ミガキ	上層		664
135	10	Ⅲ-89	貼付 (R押)、L馬蹄形押、L押、LR	ミガキ	上a		669
135	11	Ⅲ-89	貼付 (L押)、結束第一種(LR・LR?)	ミガキ	上a		670
139	1	Ⅲ-90	貼付 (RRL押)、RRL押、RRL		Ⅱ-3	繊維混入	673
139	2	Ⅲ-90	R押、LR押、多軸絡	ミガキ	下d・上a	摩滅激しい	672
139	3	Ⅲ-90	貼付 (LR押)	ミガキ	上層		675
139	4	Ⅲ-90	LR		Ⅱ-6	繊維少量混入	671
139	5	Ⅲ-90	結束第二種?		下d・上a	摩滅激しい	674
139	9	Ⅲ-90	貼付 (LR押)、LR単絡1	ミガキ	下b	繊維混入	676
139	10	Ⅲ-90	LR押		下d2・上a		679
139	11	Ⅲ-90	R押、刺突	ミガキ			677
139	12	Ⅲ-90	LR・RL押、半竹押引	ミガキ	下d2		678
139	13	Ⅲ-90	貼付 (L押)、L押、半竹刺突	ミガキ	上c		680
141	1	風倒木	無文帯、刺突、RL、沈線	ミガキ	最花		6934
141	2	風倒木	無文帯、刺突、LR、沈線	ミガキ	最花		6933
141	3	風倒木	RL	ミガキ		表面摩滅、文様不明瞭	4649
142	1	風倒木	L押、馬蹄形押	ミガキ	上a・b		693
142	2	風倒木	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		691
142	3	風倒木	結束第一種、貼付、刺突	ミガキ	上c		686
142	4	風倒木	口縁突起、貼付		上c・d		683
142	5	風倒木	口縁突起・貼付 (RL押)、LR	ミガキ	上d		692
142	6	風倒木	貼付 (R押)、半竹刺突		上c		695
142	7	風倒木	LR・RL、沈線	ミガキ	上e・榎林		684
142	8	風倒木	RL、沈線		榎林		687
142	9	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		685
142	10	風倒木	折返口縁、R単絡1、沈線	ミガキ	最花		688
142	11	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		689
142	12	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		690
142	13	風倒木	RL、沈線		榎林・最花		682
142	14	風倒木	RL、沈線		榎林・最花		681
142	15	風倒木	LR	ミガキ	大木系		694
145	1	風倒木	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		701
145	2	風倒木	RL、沈線	ミガキ	上e		698
145	3	風倒木	RL、沈線、円形刺突	ミガキ	最花		696
145	4	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		699
145	5	風倒木	LR、沈線	ミガキ	最花		700
145	6	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		697
145	7	風倒木	折返口縁、RL、沈線、竹管刺突	ミガキ	最花		702
145	8	風倒木	RL、沈線	ミガキ	榎林		705
145	9	風倒木	LR、結回、沈線	ミガキ	最花		704
145	10	風倒木	RL、沈線	ミガキ	榎林		706
145	11	風倒木	RL、沈線、円形刺突	ミガキ	最花		703
145	12	風倒木	貼付 (L押)、L・R押、結束第一種	ミガキ	上a・b		707
145	13	風倒木	RLR?、沈線		榎林・最花		
145	14	風倒木	単節斜纏文、沈線		榎林・最花		
145	15	風倒木	口唇貼付 (渦巻沈線)		榎林		

南盛土ポイトン4出土土器観察表

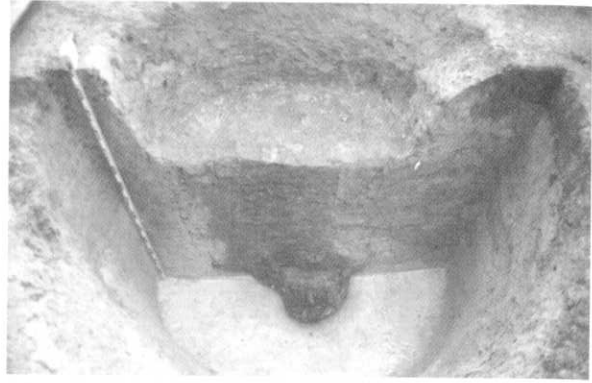
図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備 考	通番
150	1	Ⅲ-1	刺突、LR、逆U字沈線	ミガキ	最花	炭(外面)	726
150	2	Ⅲ-1	折り返し状口縁	ミガキ	榎林・最花		731
150	3	Ⅲ-1	RL、沈線	ミガキ	榎林・最花		733
150	4	Ⅲ-1	RLR、沈線	ミガキ	最花		732
150	5	Ⅲ-1	LR、沈線	ミガキ	大木系	炭(外面)	727
150	6	Ⅲ-1	RL、沈線	ミガキ	最花		734
150	7	Ⅲ-1	LR、沈線	ミガキ	最花	炭(外面)	728
151	1	Ⅲ-2a	無文帯	ミガキ	最花		736
151	2	Ⅲ-2a	折り返し状口縁	ミガキ	大木系		737
151	3	Ⅲ-2a	沈線	ミガキ	榎林		740
151	4	Ⅲ-2a	RL、沈線	ミガキ	榎林・最花		738
151	5	Ⅲ-2a	RL、沈線、円形刺突	ミガキ	榎林・最花		735
151	7	Ⅲ-2b	LR、沈線	ミガキ	榎林		742
151	8	Ⅲ-2b	波状口縁、斜行縄文(LR?)	ミガキ	大木系	器面摩滅	745
151	9	Ⅲ-2b	LR		大木系	器面摩滅	744
151	10	Ⅲ-2b	斜行縄文、沈線		榎林		743
151	11	Ⅲ-2b	LR、沈線		榎林		747
151	12	Ⅲ-2b	沈線		大木系		746
151	13	Ⅲ-3	LR押、貼付、沈線		上e		753
151	14	Ⅲ-3	貼付(RL押)	ミガキ	上d		750
151	15	Ⅲ-3	貼付		上d		749
151	16	Ⅲ-3	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		748
151	17	Ⅲ-3	RLR、沈線	ミガキ	榎林		752
151	18	Ⅲ-3	沈線		大木系		754
151	19	Ⅲ-3	渦巻き沈線	ミガキ	榎林		756
151	21	Ⅲ-4b	口縁突起、貼付、へら刻み	ミガキ	上d		757
151	22	Ⅲ-4b	結束第一種縦位、貼付		上d		758
151	23	Ⅲ-4b	貼付、L押、刺突	ミガキ	下d2		759
151	24	Ⅲ-4b	波状口縁、沈線		上e		760
152	1	Ⅲ-5a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		762
152	2	Ⅲ-5a	LR	ミガキ	大木系		761
152	3	Ⅲ-5a	口唇凹状沈線	ミガキ	榎林		763
152	7	Ⅲ-5b	LR、RL、貼付	ミガキ	上d		768
152	8	Ⅲ-5b	貼付、RL		上層		770
152	9	Ⅲ-5b	波状口縁、RL、沈線	ミガキ	榎林		775
152	10	Ⅲ-5b	LR、沈線	ミガキ	上e・榎林		766
152	11	Ⅲ-5b	RL、沈線	ミガキ	榎林・最花		769
153	1	Ⅲ-7	貼付(R押)、刺突		上c		779
153	2	Ⅲ-7	RL、LR、貼付	ミガキ	上d		782
153	3	Ⅲ-7	貼付、L押	ミガキ	上d		781
153	4	Ⅲ-7	貼付	ミガキ	上d		778
153	5	Ⅲ-7	RL、沈線		中期		777
154	1	Ⅲ-9	貼付、RL押、結束第一種	ナデ	上d・e	突起内面に盲孔	4555
154	2	Ⅲ-9	RL、貼付	ミガキ	上d		783
154	3	Ⅲ-9	RL、貼付	ミガキ	上d		786
154	4	Ⅲ-9	結束第一種、L押	ミガキ	上層		784
155	1	Ⅲ-10a	口縁突起、RL、貼付	ミガキ	上d	突起内面に盲孔	792
155	2	Ⅲ-10a	口縁突起、RL、貼付	ミガキ	上d	突起内面に盲孔	787
155	3	Ⅲ-10a	口縁貼付、RL押、RL	ミガキ	上d		802
155	4	Ⅲ-10a	弁状突起、貫通孔、貼付(R押)	ミガキ	上d		800
155	5	Ⅲ-10a	口縁突起、RL、貼付	ミガキ	上d		803
155	6	Ⅲ-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		791
155	7	Ⅲ-10a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		794
155	8	Ⅲ-10a					789
155	9	Ⅲ-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		805
156	1	Ⅲ-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		790
156	2	Ⅲ-10a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		788
156	3	Ⅲ-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		798
156	4	Ⅲ-10a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		807
156	5	Ⅲ-10a	結束第一種、貼付(L押)	ミガキ	上d	浅鉢	795
156	6	Ⅲ-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		799
157	1	Ⅲ-10b	LR押、結束第一種、貼付(R押)	ミガキ	上d		4201
157	2	Ⅲ-10b	口縁突起、橋状把手、LR押	ミガキ	上a		814
157	3	Ⅲ-10b	貼付(L押)、L・R押、単絡1押	ミガキ	上b	浅鉢	811
157	4	Ⅲ-10b	波状口縁、貼付(L押)、L・R押、単絡1押	ミガキ	上b		812
157	5	Ⅲ-10b	結束第一種、貼付(RL)	ミガキ	上層		810
159	1	Ⅲ-10c	貼付	ミガキ	上c・d		816

図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備 考	通番
159	2	Ⅲ-10c	RL、貼付	ミガキ	上d		815
159	3	Ⅲ-10c	結束第一種 (RL、?)、貼付	ミガキ	上d		819
160	1	Ⅲ-11	L押、R押		上a		824
160	2	Ⅲ-11	貼付 (L押)、L押	ミガキ	上a・b		822
160	3	Ⅲ-11	貼付 (L押)	ミガキ	上層		823
160	4	Ⅲ-11	RL、貼付	ミガキ	上d		821
160	8	Ⅲ-12	貼 (L押)、LR押、爪形刺突		上c		826
160	10	Ⅲ-13a	LR (結縛)、L・R押	ミガキ	上b		827
161	1	Ⅲ-15	貼付 (L押)、L押、刺突、結束第一種	ミガキ	上c		4707
161	2	Ⅲ-15	LR、R結回		上層		4714
161	3	Ⅲ-15	LR	ミガキ	上層		4690
161	4	Ⅲ-15	結束第一種	ミガキ	上層		4704
162	1	Ⅲ-15	貼付、単絡5、単絡1	ミガキ	下b	繊維混入	833
162	2	Ⅲ-15	口唇ヘラ刻み、R押	ミガキ	下d2		831
162	3	Ⅲ-15	波状口縁、口唇貼付、L押	ミガキ	上a・b		829
162	4	Ⅲ-15	貼付 (R単絡1押)、R単絡1押		下d2		830
162	5	Ⅲ-15	細沈線	ミガキ	上e?		828
163	5	Ⅲ-16	口縁突起、貼付、LR押	ミガキ	上a・b		836
164	1	794埋設	貼付 (LR押)、LR押、結束第一種	ミガキ	上a		4687
164	2	794埋設	LR押	ミガキ	上層		838
164	3	794埋設	貼付	ミガキ	下d2		837

写 真 图 版



ピット1 木柱検出



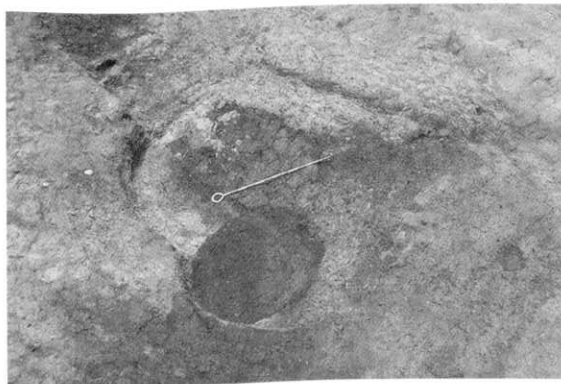
ピット1 セクション



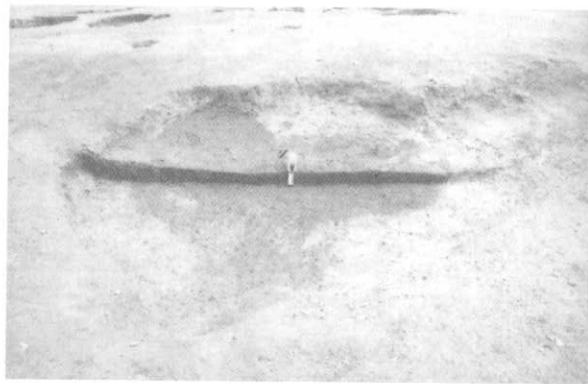
ピット1 柱痕跡確認



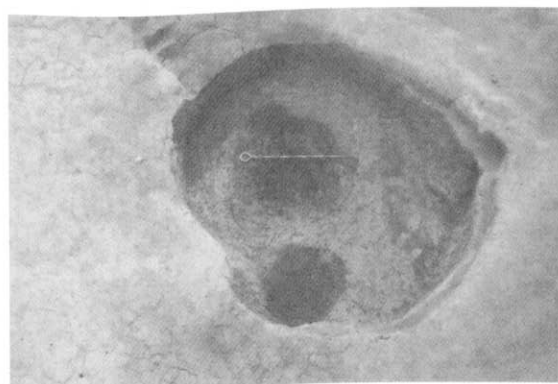
ピット1 完掘



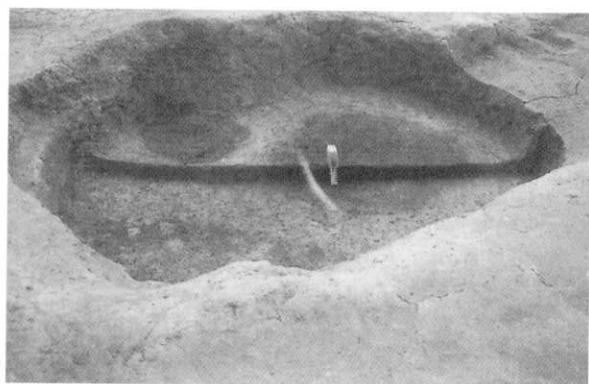
ピット2 柱痕跡確認1



ピット2 セクション1



ピット2 柱痕跡確認4

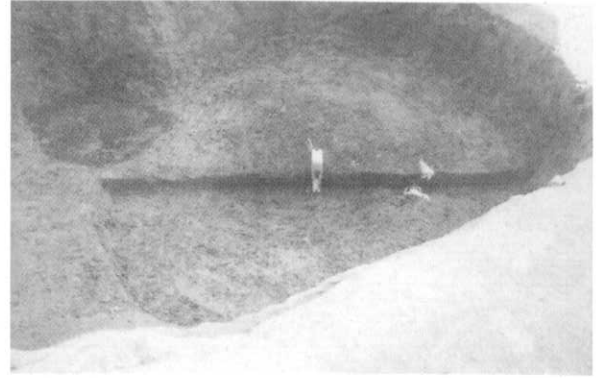


ピット2 セクション4

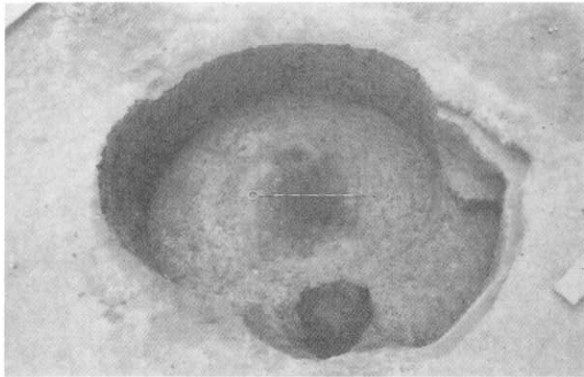
写真1



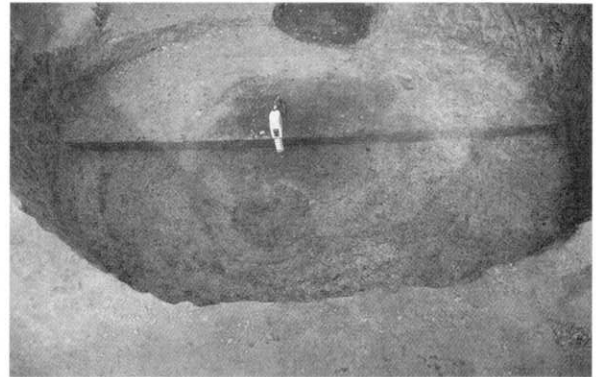
ピット2 柱痕跡確認5



ピット2 セクション6



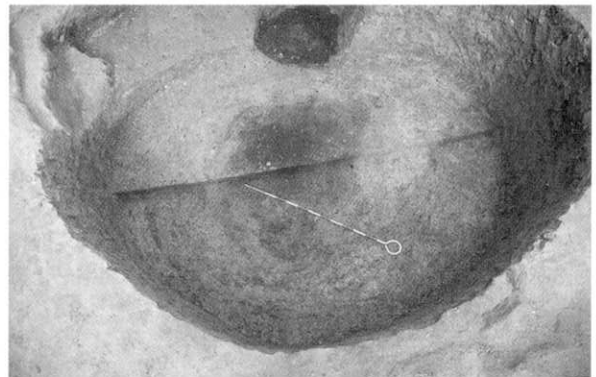
ピット2 柱痕跡確認6



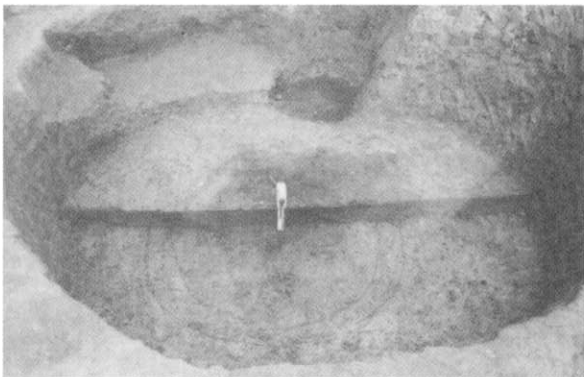
ピット2 セクション7



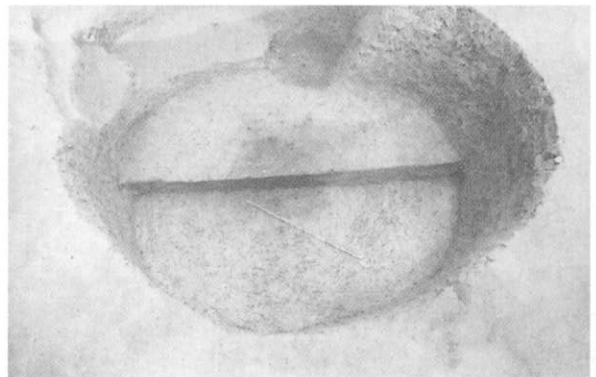
ピット2 セクション7



ピット2 柱痕跡確認7

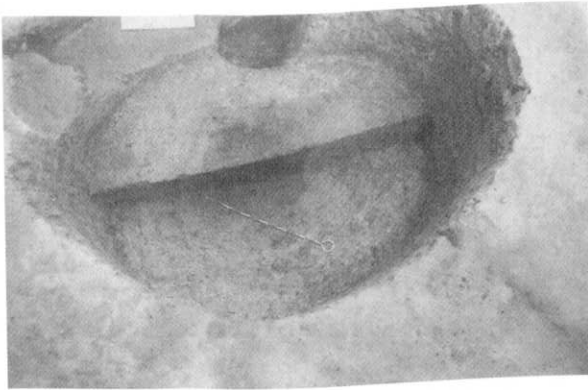


ピット2 セクション8

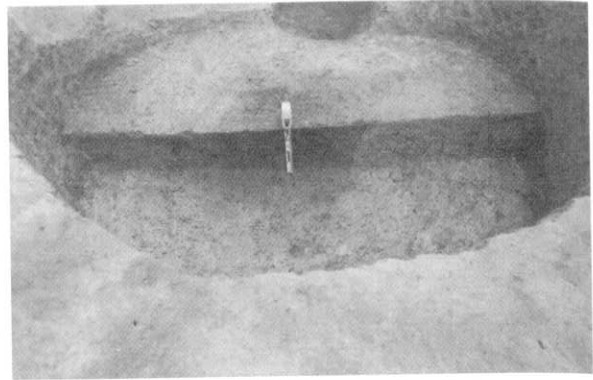


ピット2 柱痕跡確認9

写真2



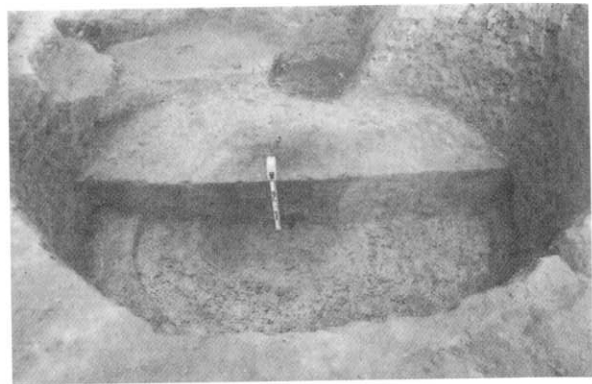
ピット2 柱痕跡確認10



ピット2 セクション10



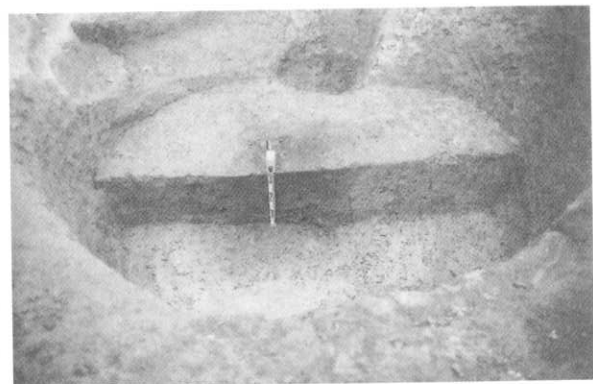
ピット2 柱痕跡確認11



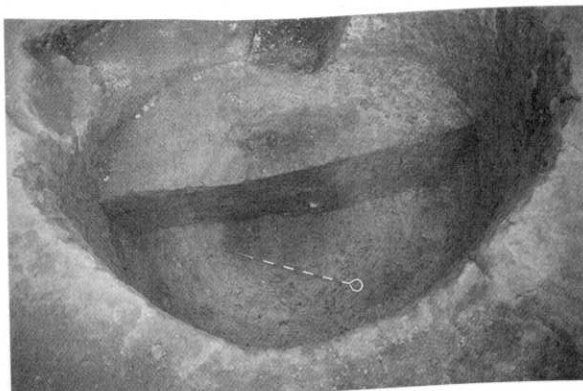
ピット2 セクション11



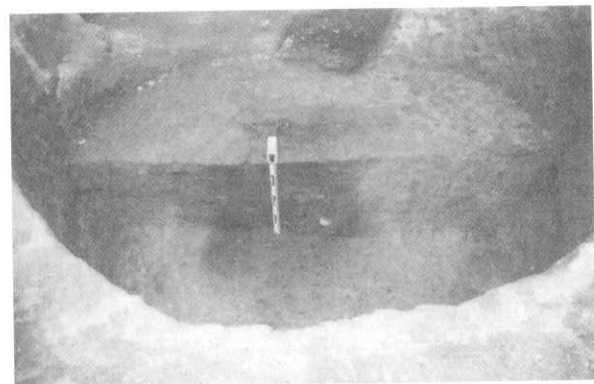
ピット2 柱痕跡確認12



ピット2 セクション12

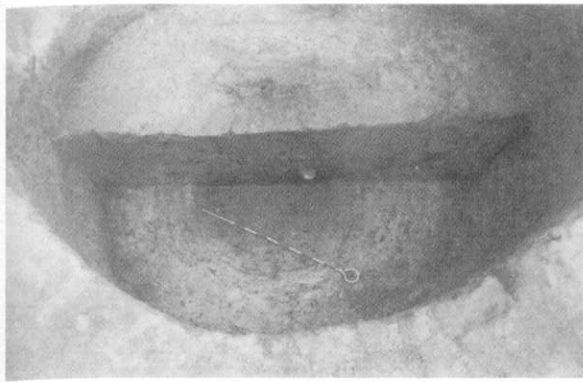


ピット2 柱痕跡確認13

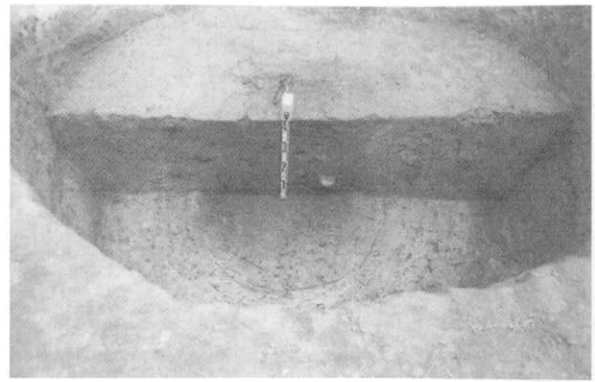


ピット2 セクション13

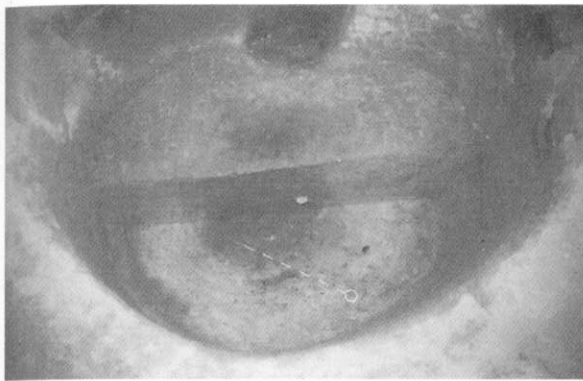
写真3



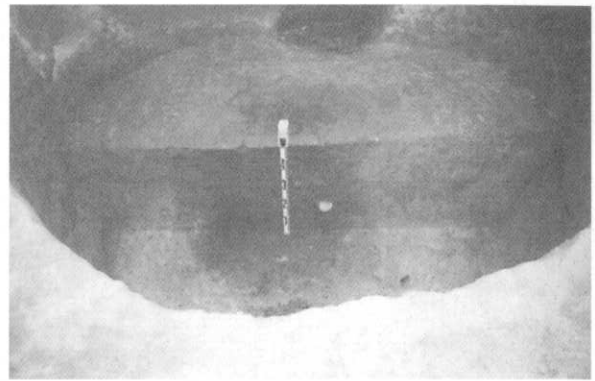
ピット2 柱痕確認14



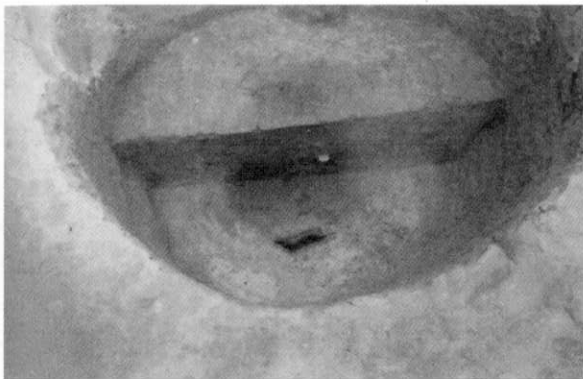
ピット2 セクション14



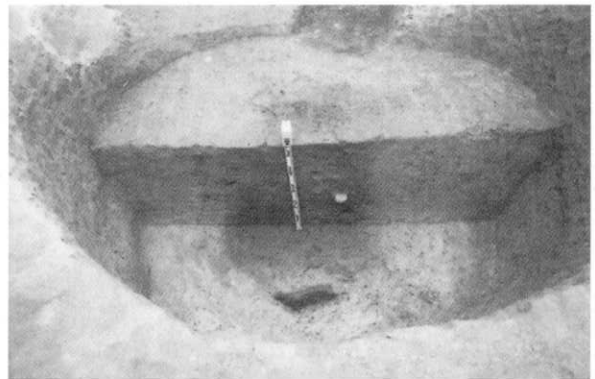
ピット2 柱痕跡確認15



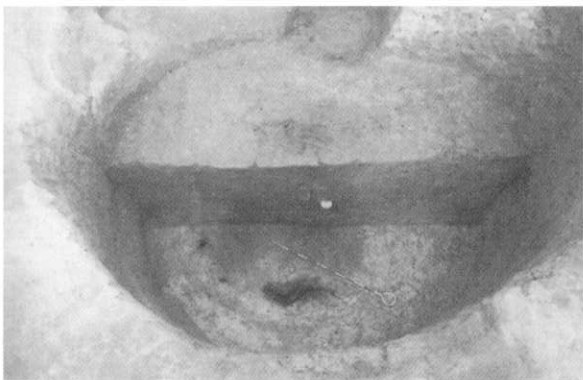
ピット2 セクション15



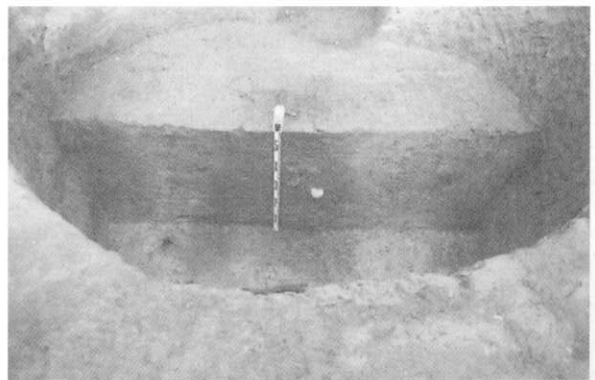
ピット2 柱痕跡確認16



ピット2 セクション16

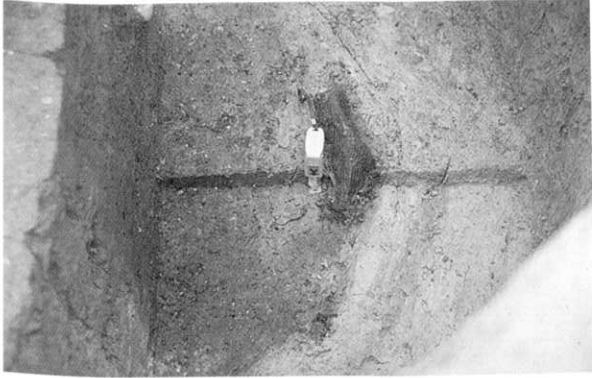


ピット2 柱痕確認17

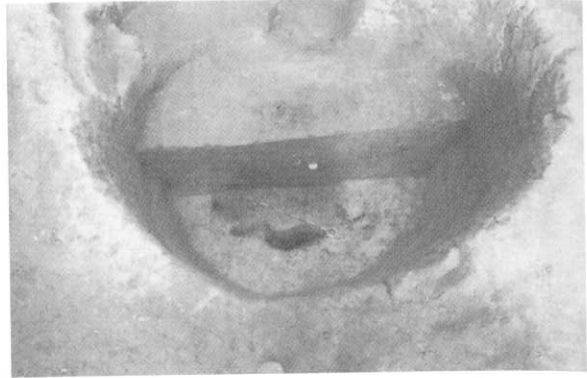


ピット2 セクション17

写真4



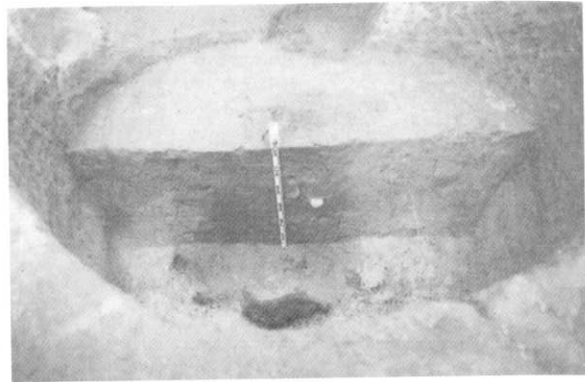
ピット2 セクション17



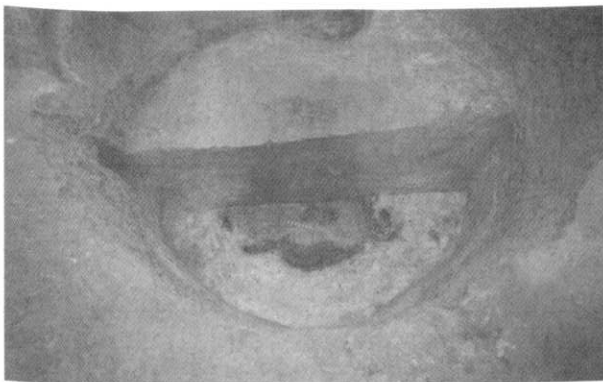
ピット2 柱痕跡確認18



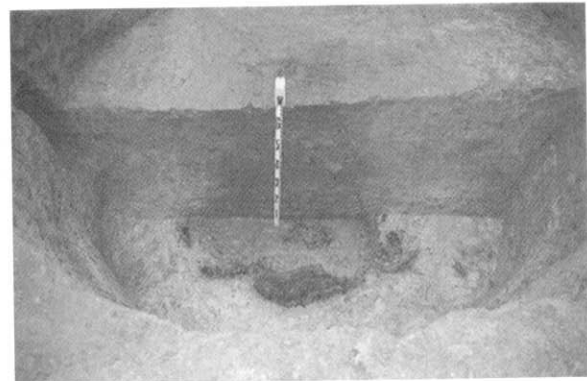
ピット2 木柱確認



ピット2 セクション18



ピット2 柱痕跡確認19



ピット2 セクション19

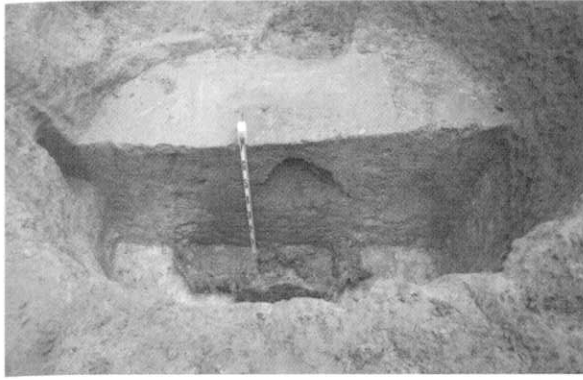


ピット2 柱痕跡確認20

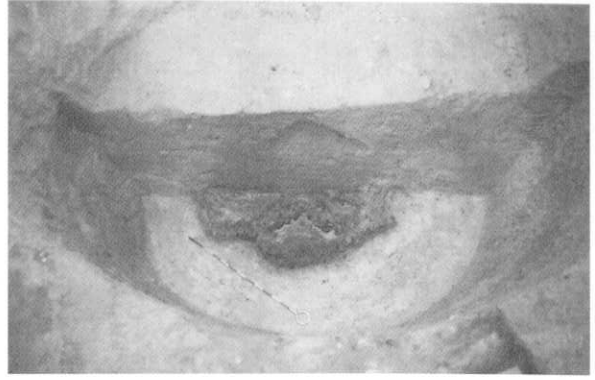


ピット2 柱痕跡確認20

写真5



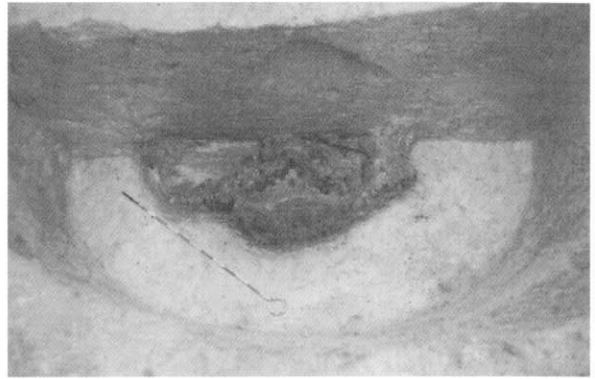
ピット2 セクション20



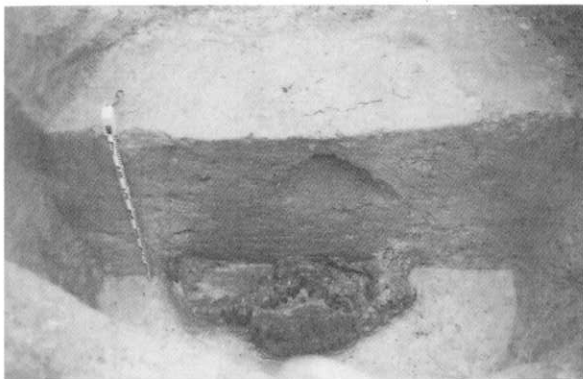
ピット2 柱痕跡確認21



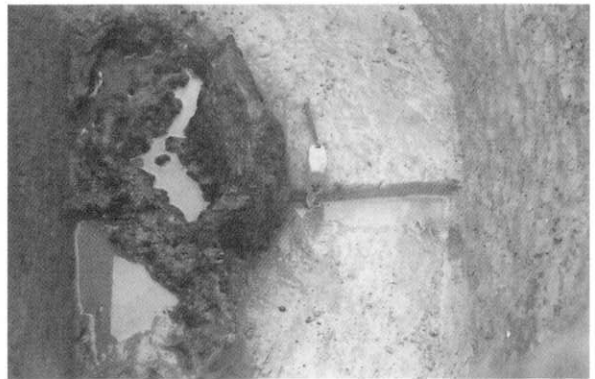
ピット2 セクション21



ピット2 木柱確認22



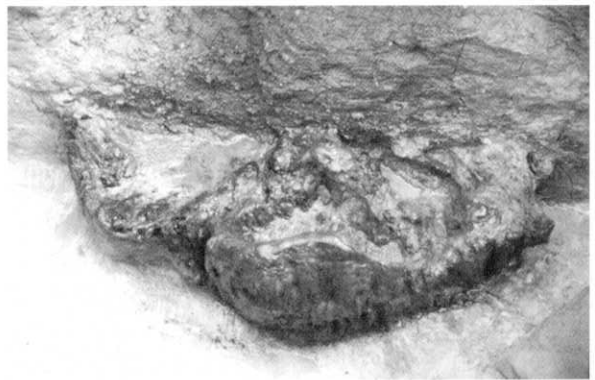
ピット2 セクション22



ピット2 セクション22



ピット2 柱痕跡確認23-1

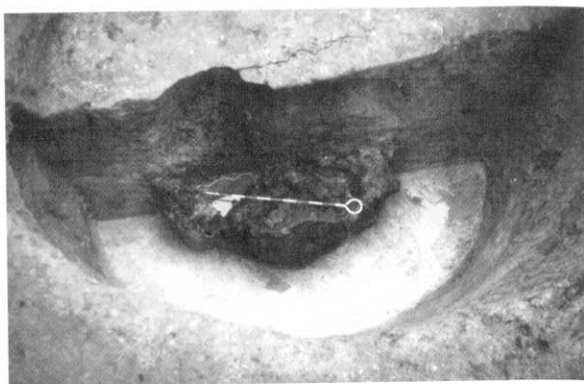


ピット2 柱痕跡確認23-2

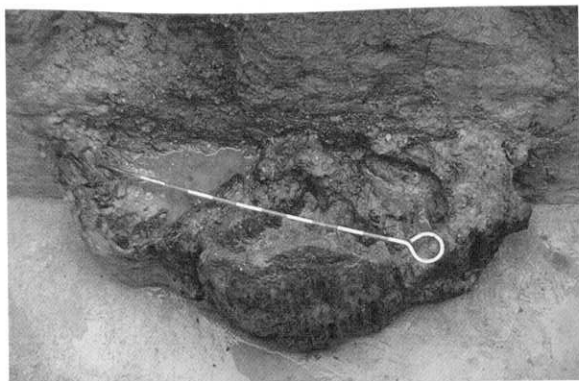
写真6



ピット2 セクション23



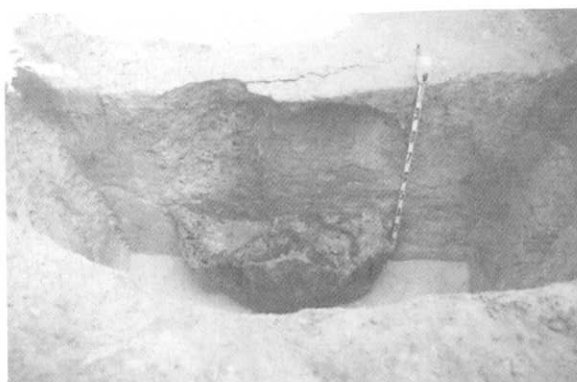
ピット2 柱痕跡確認24-1



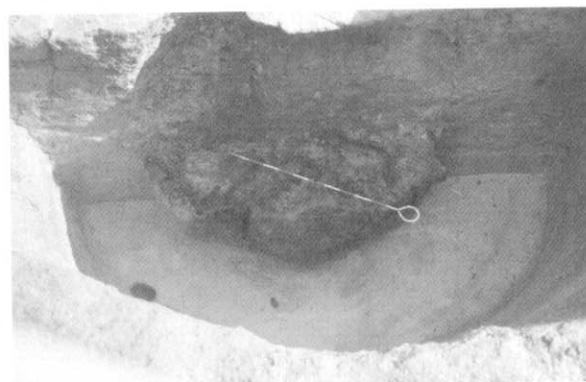
ピット2 柱痕跡確認24-2



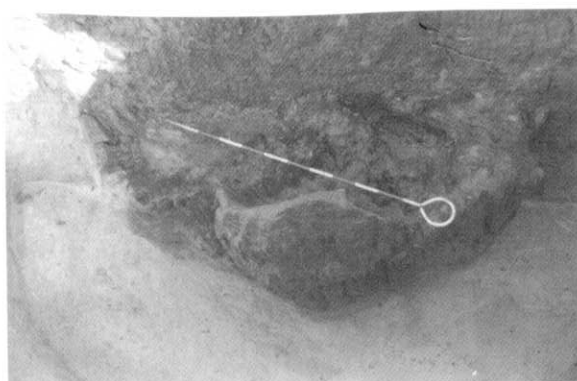
ピット2 柱痕跡確認25



ピット2 セクション25



ピット2 柱痕跡確認26-1



ピット2 柱痕跡確認26-2

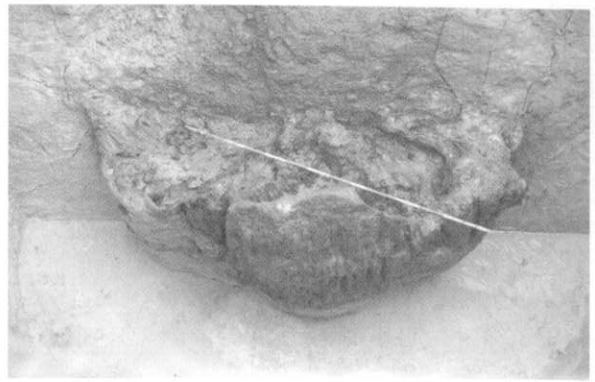


ピット2 セクション26

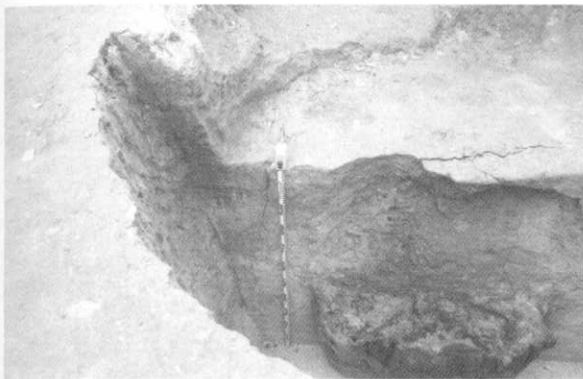
写真7



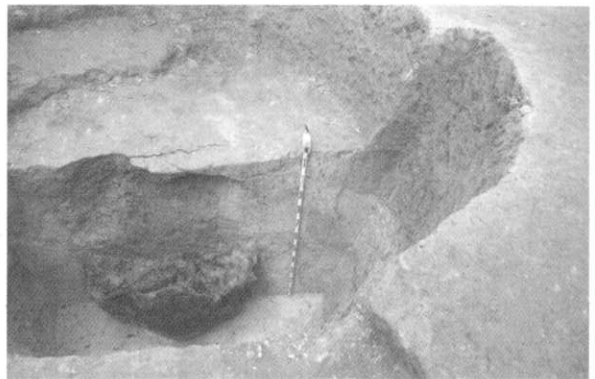
ピット2 柱痕跡確認27-1



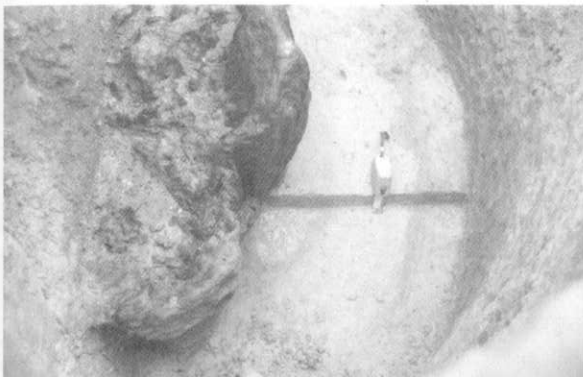
ピット2 柱痕跡確認27



ピット2 セクション27 (北側)



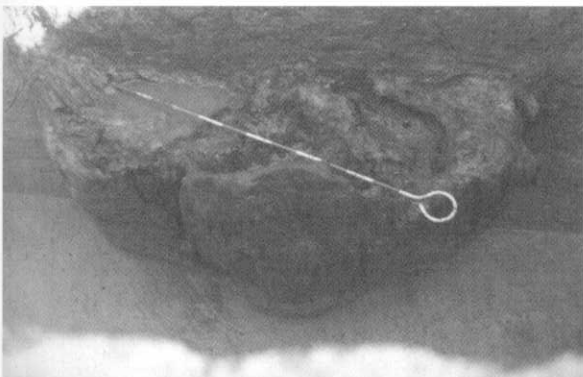
ピット2 セクション27 (南側)



ピット2 セクション27



ピット2 柱痕跡確認28-1



ピット2 柱痕跡確認28-2



ピット2 セクション28 (北側)

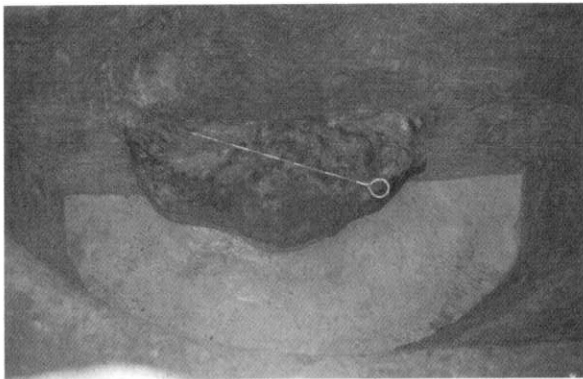
写真8



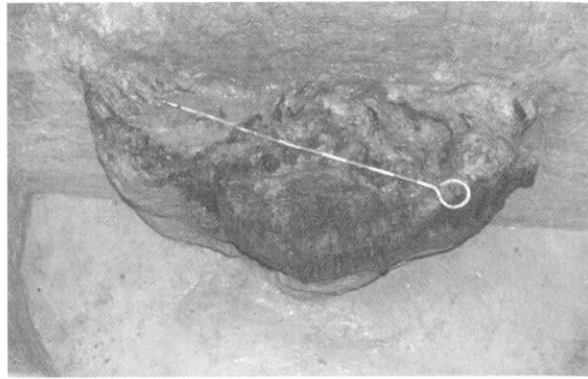
ピット2 セクション28 (南側)



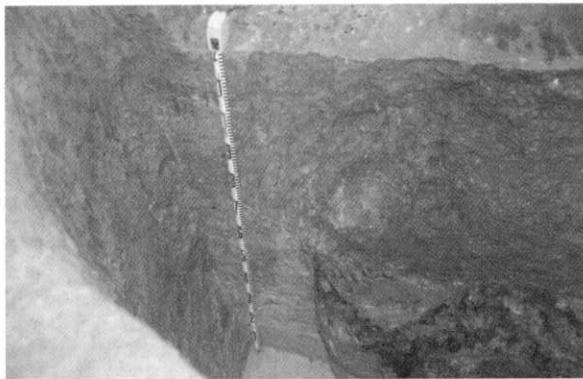
ピット2 セクション28



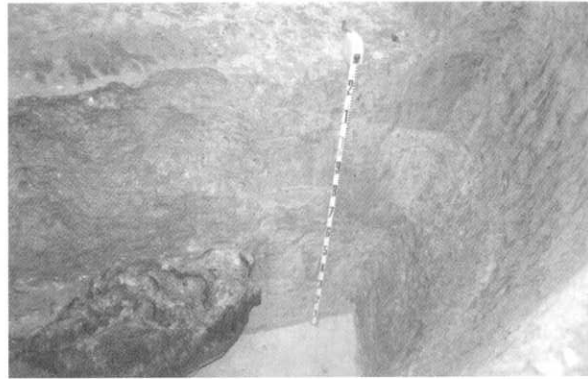
ピット2 柱痕跡確認29



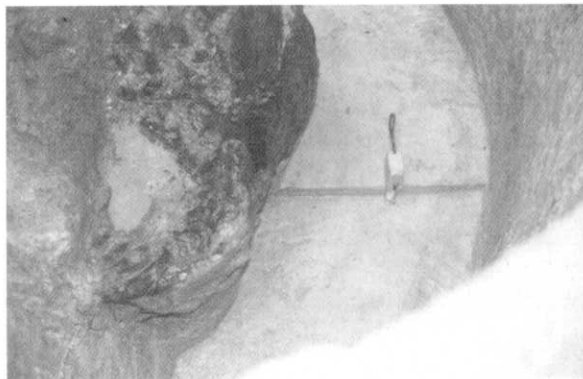
ピット2 柱痕跡確認29



ピット2 セクション29 (北側)



ピット2 セクション29 (南側)



ピット2 セクション29



ピット2 柱痕跡確認30

写真9



ピット2 セクション30 (北側)



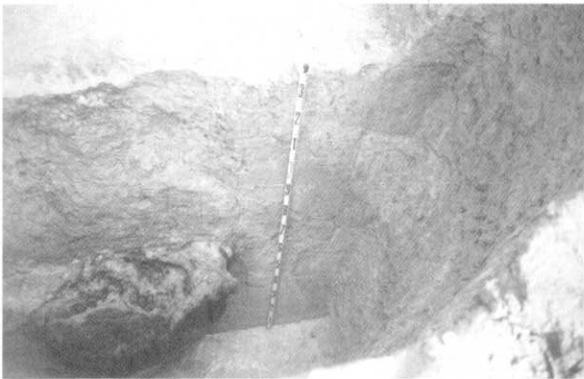
ピット2 セクション30 (南側)



ピット2 柱痕跡確認31



ピット2 セクション31 (北側)



ピット2 セクション31 (南側)



ピット2 セクション31

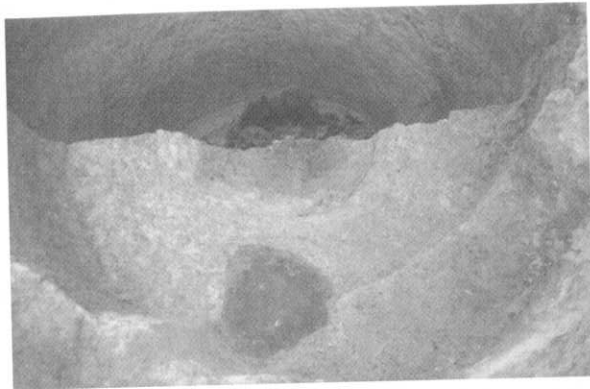


ピット2 柱痕跡確認32

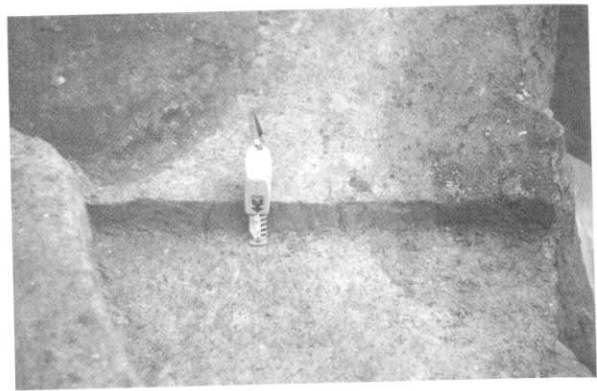


ピット2 セクション32 (北側)

写真10



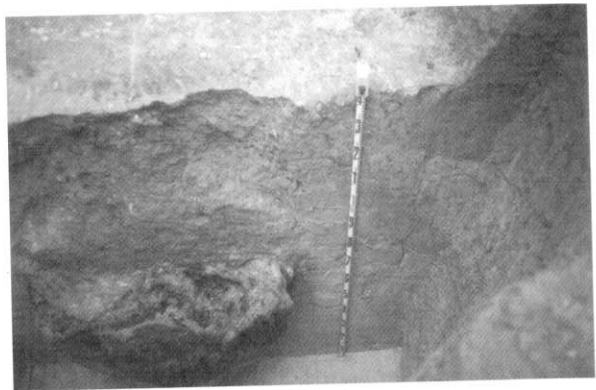
ピット2 柱痕確認7B



ピット2 セクション8B



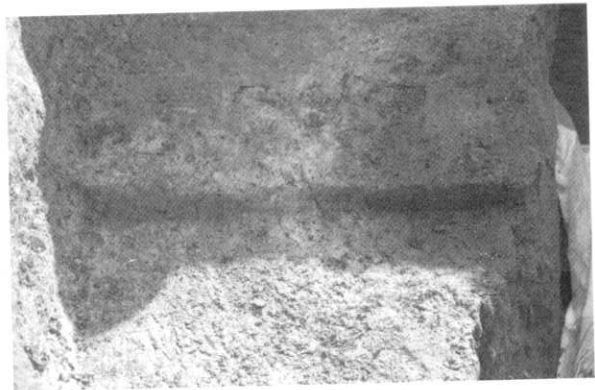
ピット2 柱痕確認9B



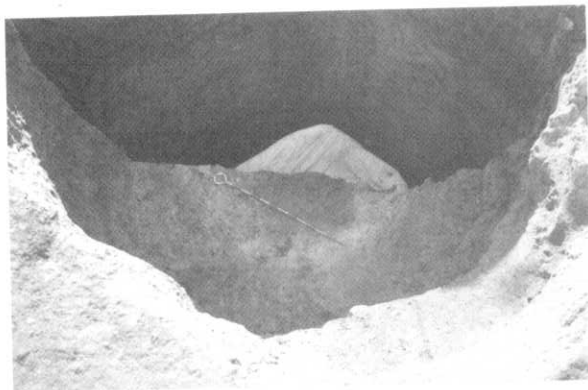
ピット2 セクション32 (南側)



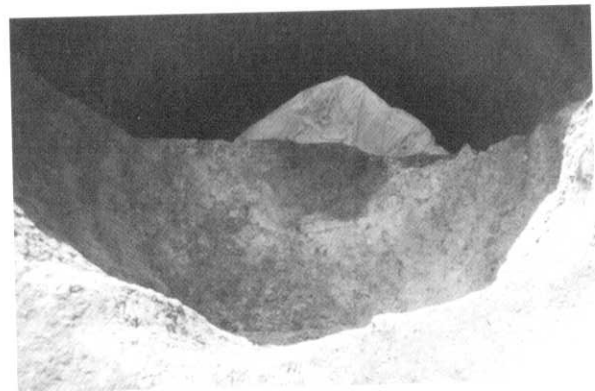
ピット2 柱痕確認11B



ピット2 セクション11B

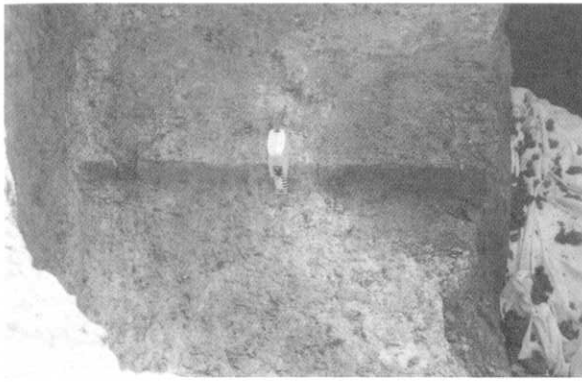


ピット2 柱痕確認12B

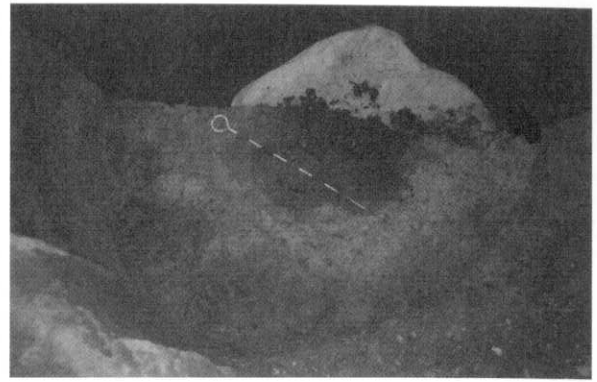


ピット2 柱痕確認13B

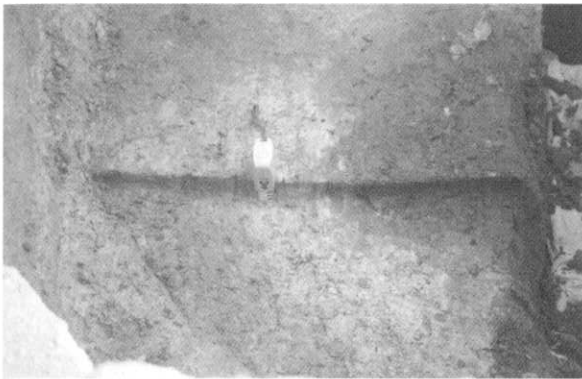
写真11



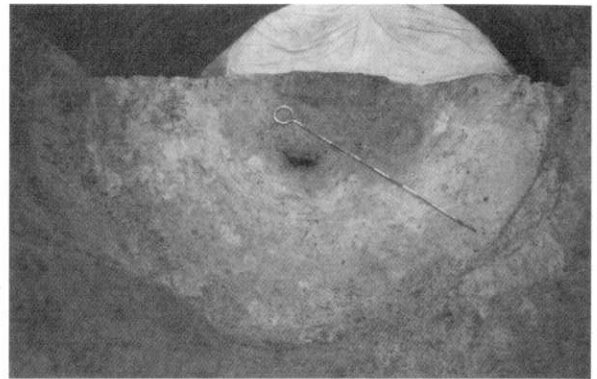
ピット2 セクション13B



ピット2 柱痕確認15B



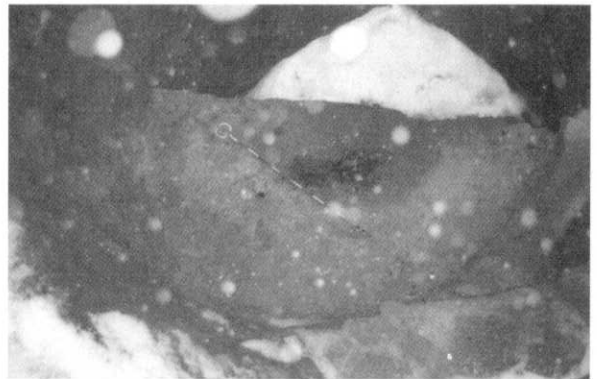
ピット2 セクション15B



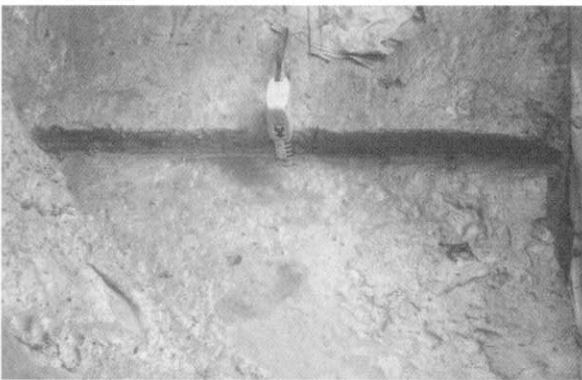
ピット2 柱痕確認16B



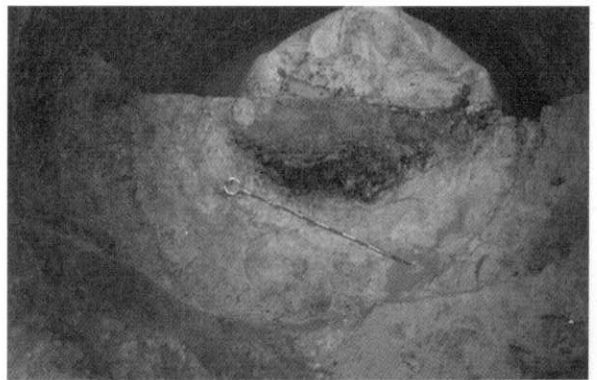
ピット2 セクション16B



ピット2 柱痕確認17B

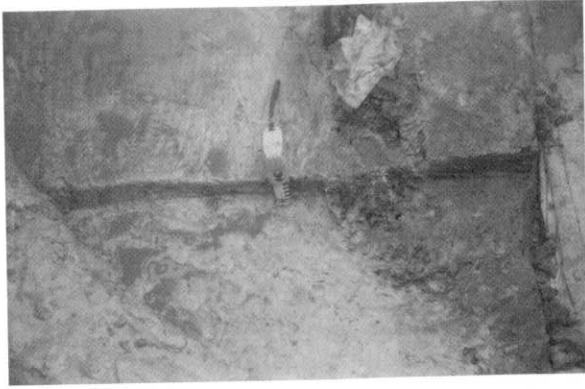


ピット2 セクション17B



ピット2 柱痕確認18B

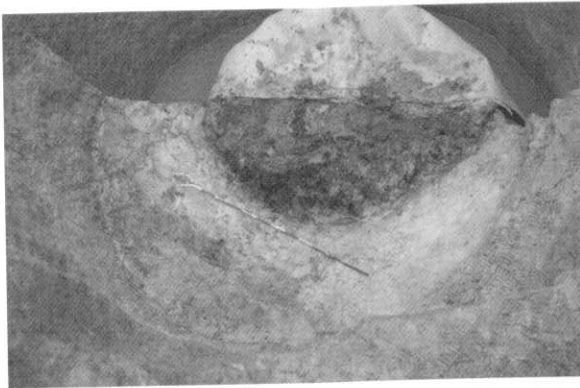
写真12



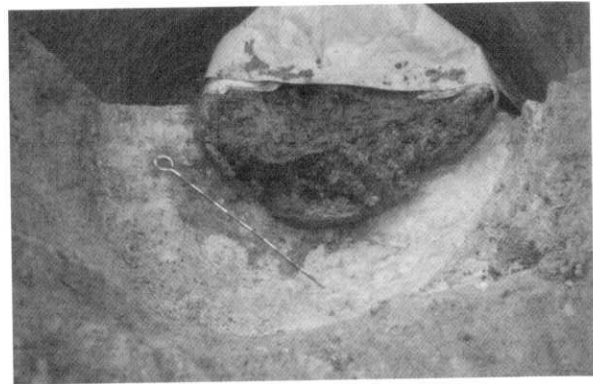
ピット2 セクション18B



ピット2 セクション19B



ピット2 柱痕確認20B



ピット2 柱痕確認22B



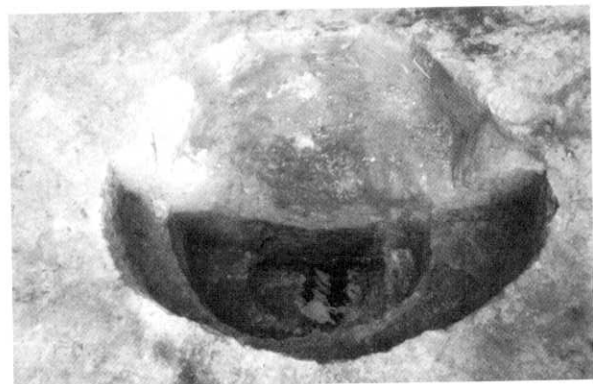
ピット2 セクション22B



ピット2 セクション24B

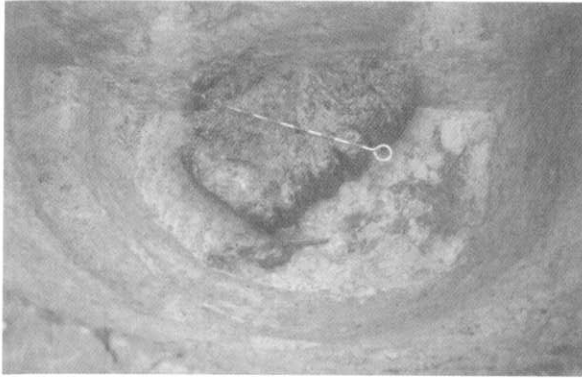


ピット2 完掘



ピット3 木柱検出

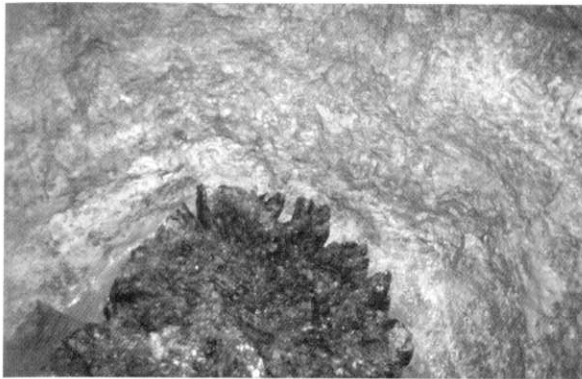
写真13



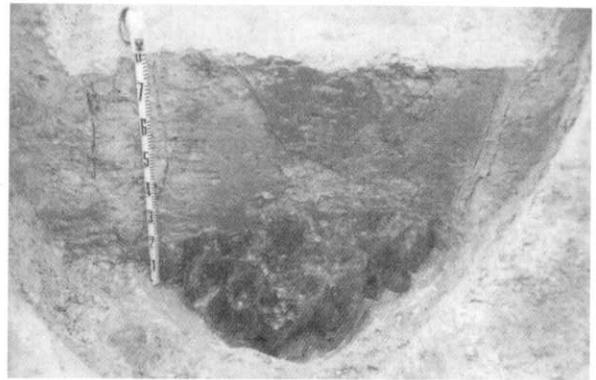
ピット3 柱痕跡確認



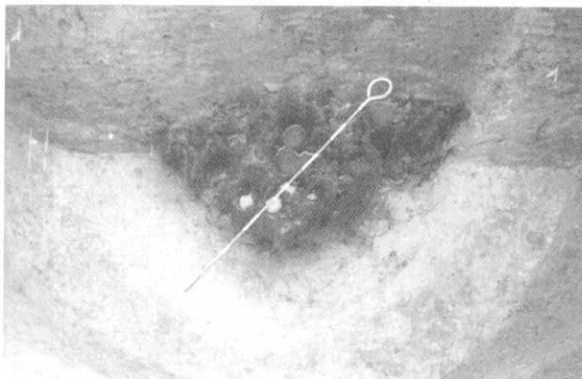
ピット3 セクション



ピット3 壁面



ピット4 木柱検出



ピット4 柱痕跡確認



ピット4 セクション

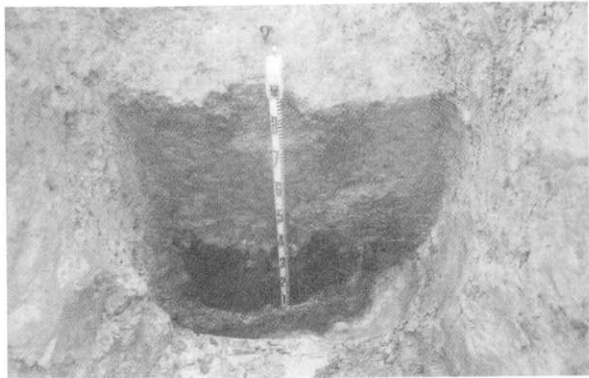


ピット4 柱痕跡確認



ピット4 完掘

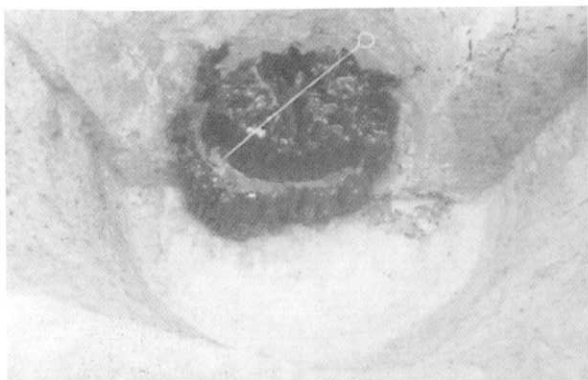
写真14



ピット5 木柱検出



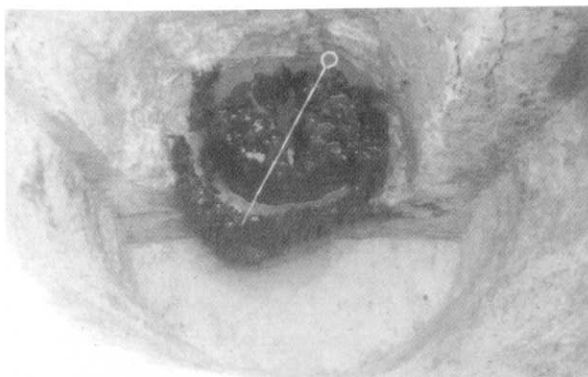
ピット5 木柱検出



ピット5 柱痕確認3



ピット5 掘り方セクション



ピット5 柱痕確認9



ピット5 完掘



ピット6 掘り方セクション



ピット6 完掘

写真15

ピット1



6-1



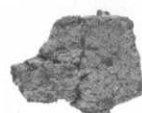
6-2



6-3



6-4



6-5



6-6



6-7

ピット2



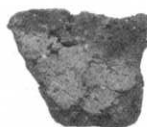
7-1



7-2



7-3



7-4



7-5



7-6



7-7



7-8



7-9



7-10



7-11



7-12



7-13



7-14



7-15



7-16



7-17



7-18



8-1

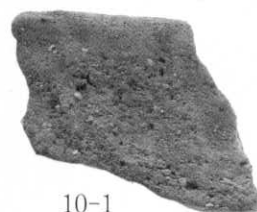


8-2



8-3

ピット3



10-1



10-2



10-3



10-4



10-5

ピット3



11-1

写真16 第26号掘立柱建物跡出土土器 (1)

ピット3



11-2



11-3



11-4



11-5



11-6



11-7



11-8



11-9



11-10



11-11



11-12

ピット4



13-1



13-2



13-3



13-4



13-5



13-6



13-7



13-8



13-9



13-10

ピット5



15-1



15-2



15-3



15-4



15-5

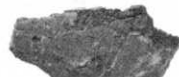


15-6



15-7

ピット6



17-1



17-2



17-3



17-5



17-4



17-6

写真17 第26号掘立柱建物跡出土土器 (2)

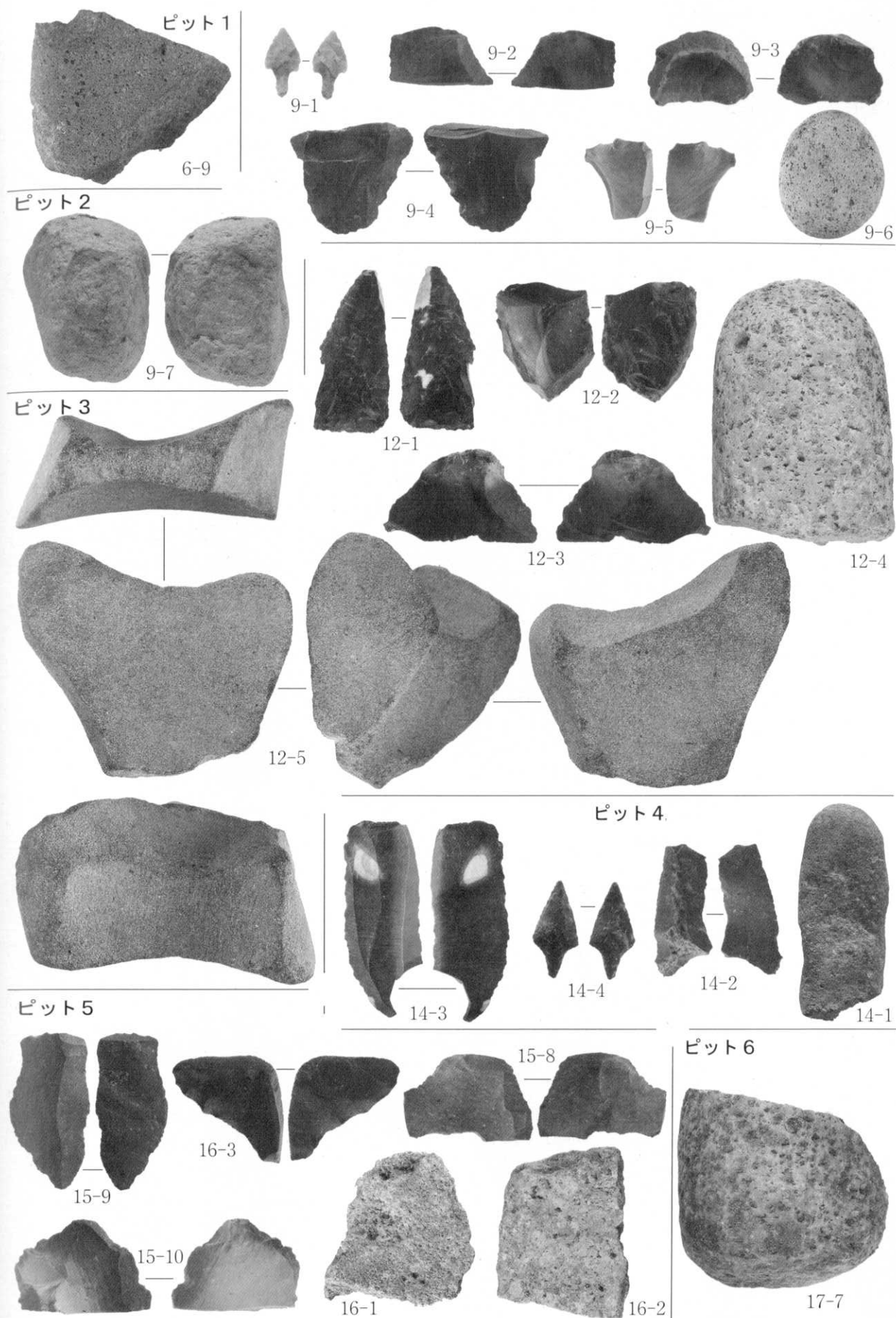


写真18 第26号掘立柱建物跡出土石器 (1)

ピット1集合写真



ピット2集合写真



ピット3集合写真



ピット4集合写真



ピット5集合写真



ピット6集合写真

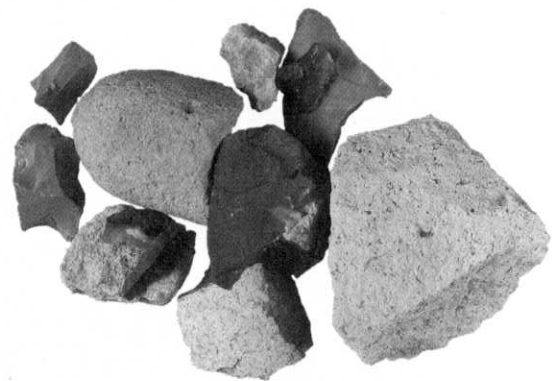
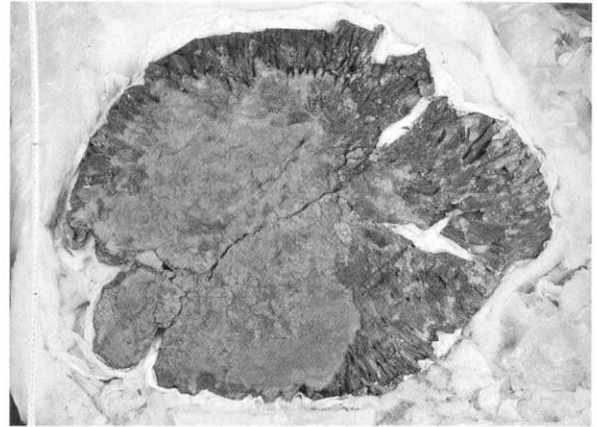
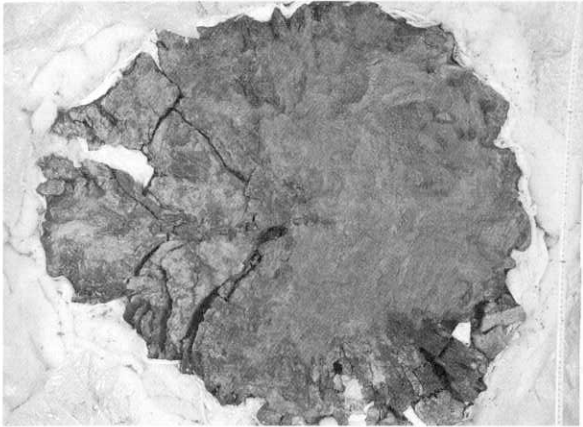
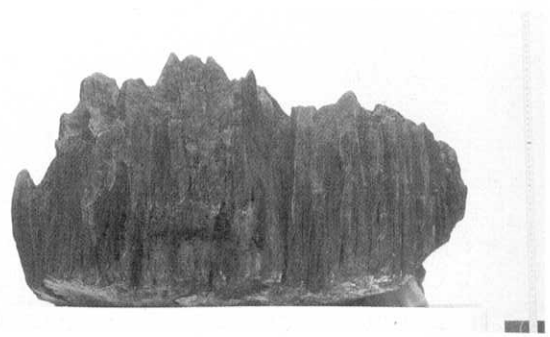


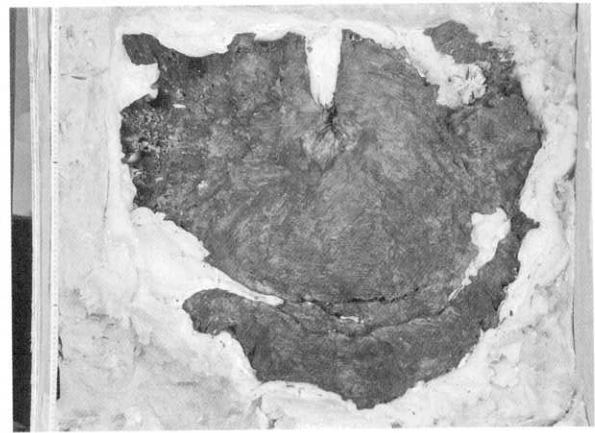
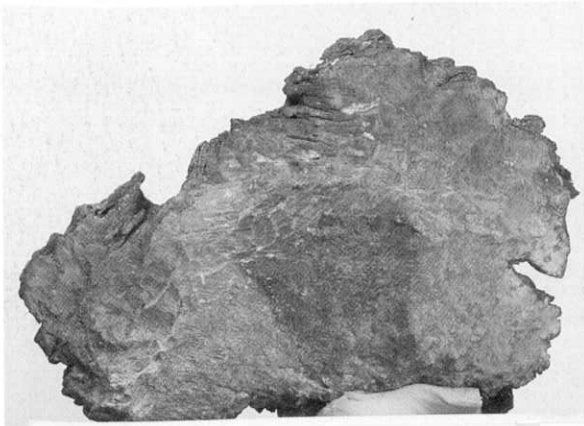
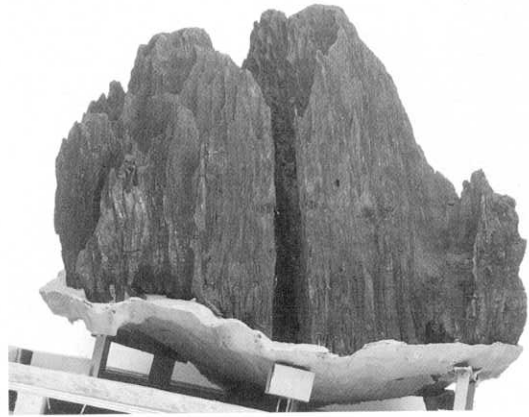
写真19 第26号掘立柱建物跡出土石器(2)



ピット2 出土木柱

ピット3 出土木柱

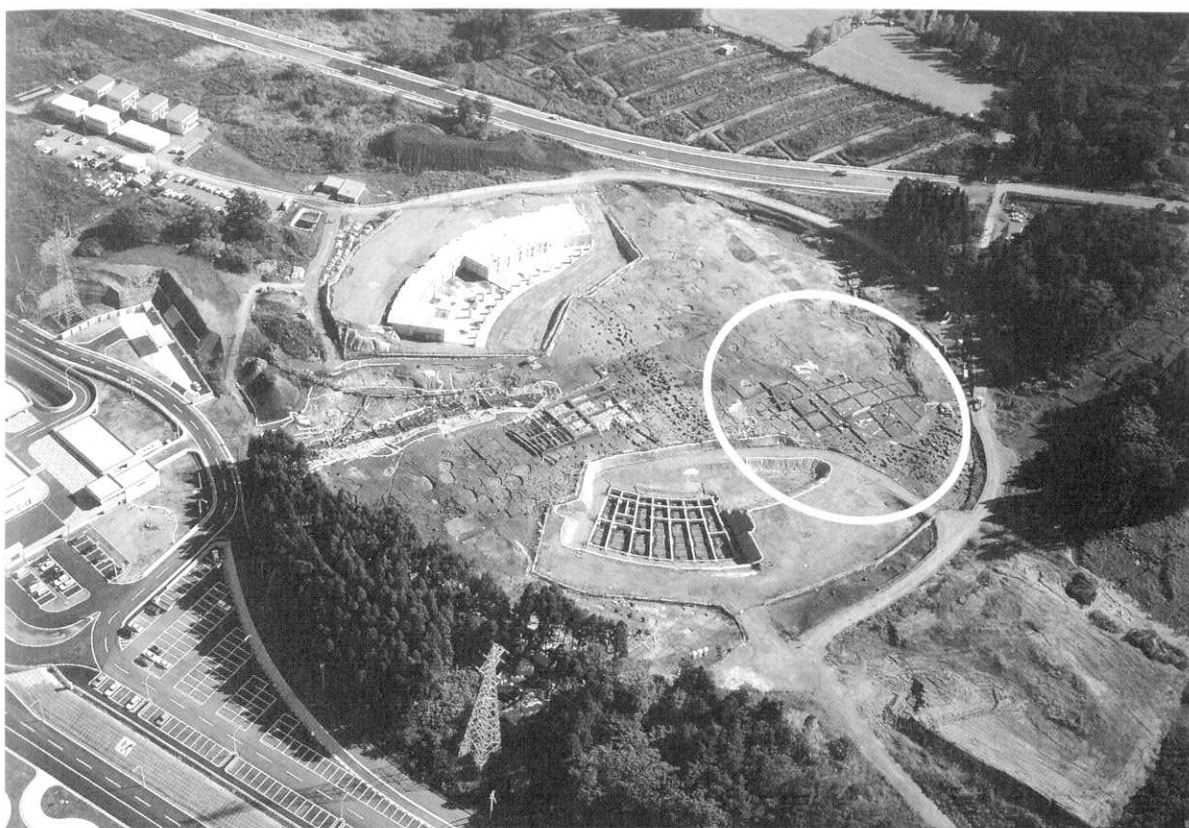
写真20



ピット4 出土木柱

ピット5 出土木柱

写真21



旧野球場建設予定地全景（白枠内に南盛土）



南盛土（白枠内の盛り上がり盛土）



1・4トレンチ土層断面（南東から）

写真22



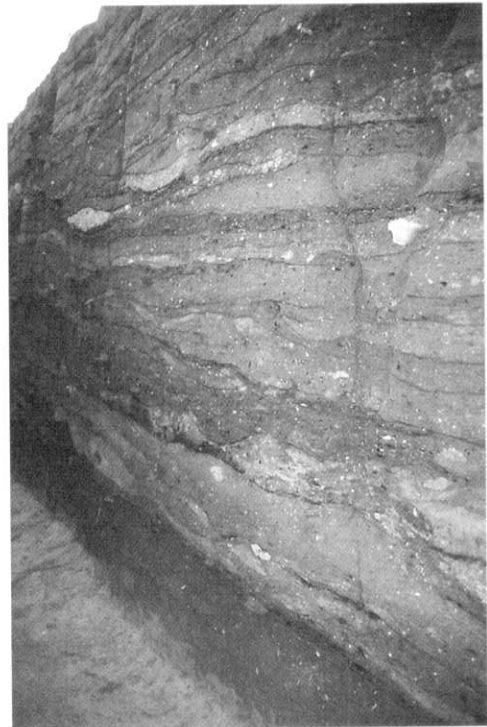
南盛土近景（南から）



南盛土近景（南東から）



南盛土近景（南から）

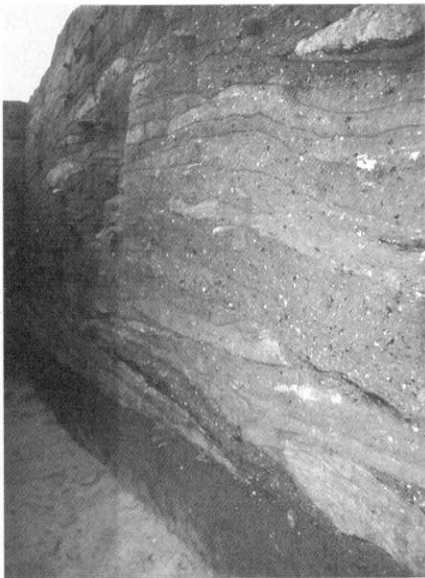


土層断面（東から）

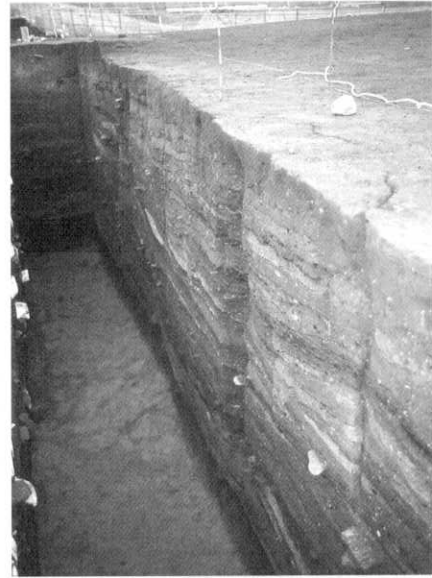
写真23



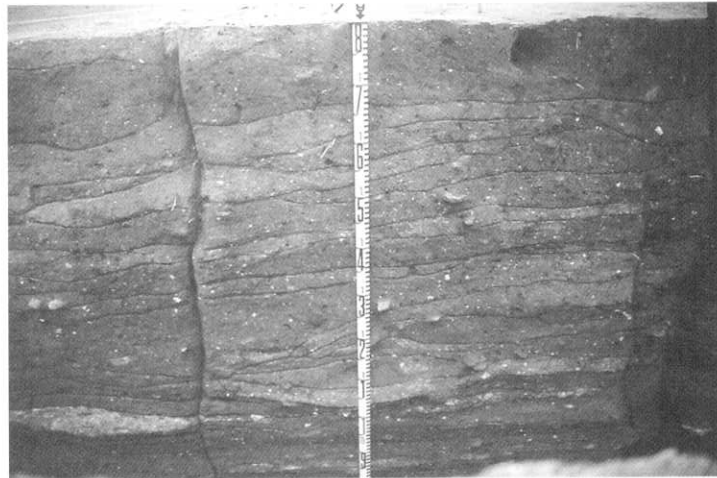
1・4トレンチ土層断面（南西から）



土層断面（東から）

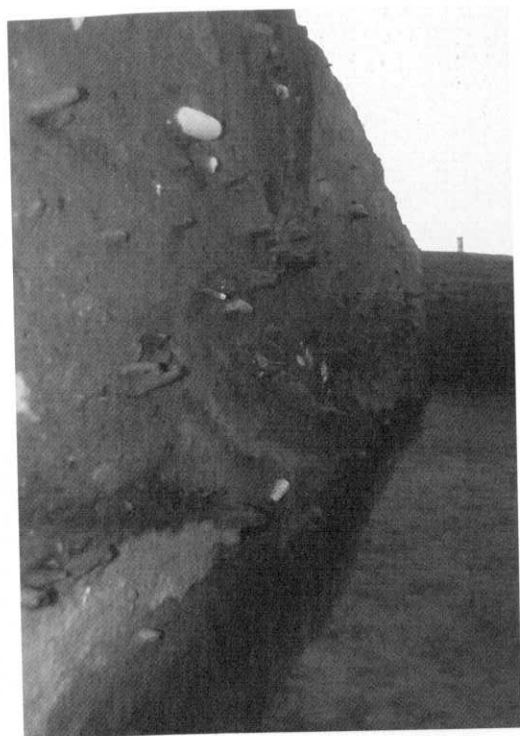


土層断面（南東上部から）

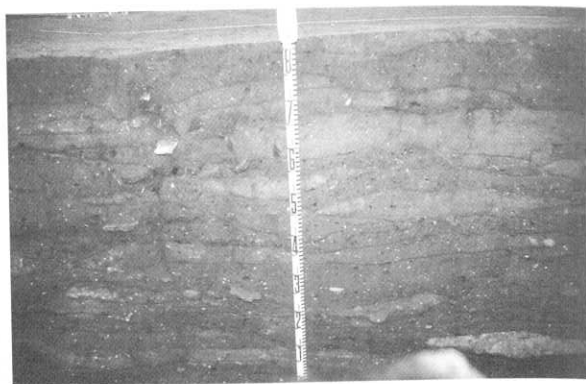


土層断面拡大

写真24



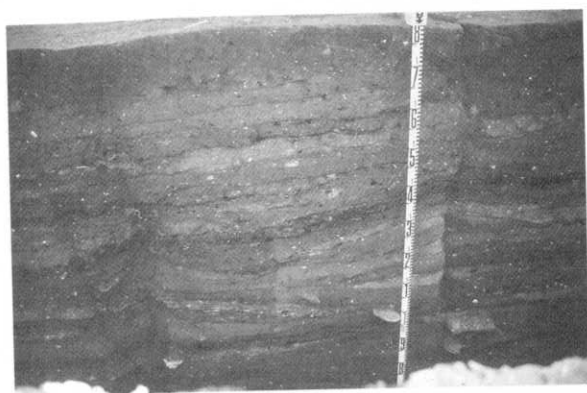
土層断面（西から）



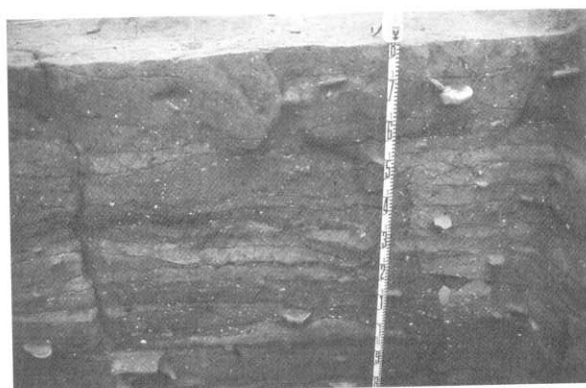
土層断面拡大



土層断面拡大



土層断面拡大



土層断面拡大



1 トレンチ作業風景

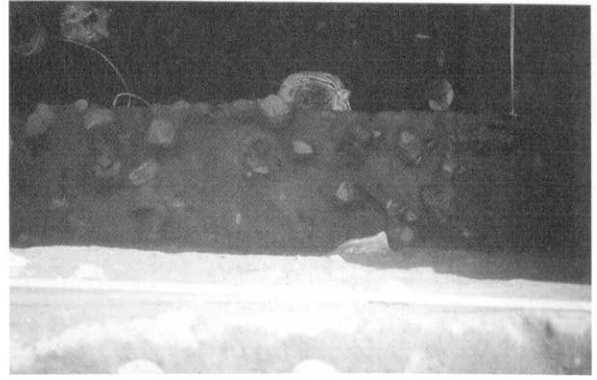


ポイント4 作業風景

写真25



1 トレンチ第38層遺物出土状況



1 トレンチ第107層遺物出土状況



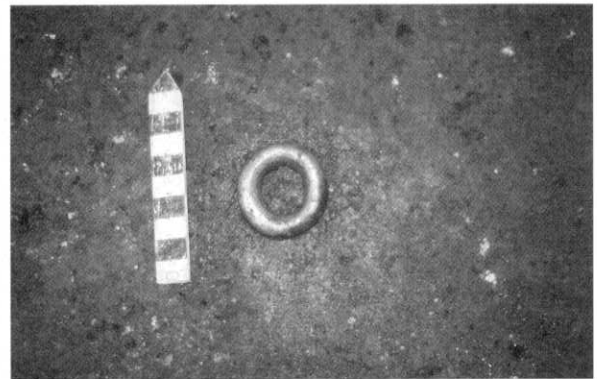
1 トレンチ第109層遺物出土状況



1 トレンチ第115層遺物出土状況



1 トレンチ第145層直上遺物出土状況



4 トレンチ第50層環状土製品出土状況

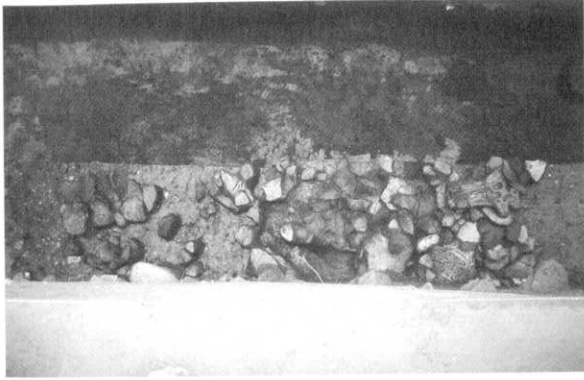


4 トレンチ第35層遺物出土状況



4 トレンチ第57層配石遺構

写真26



4 トレンチ第82層遺物出土状況



4 トレンチ第89層遺物出土状況



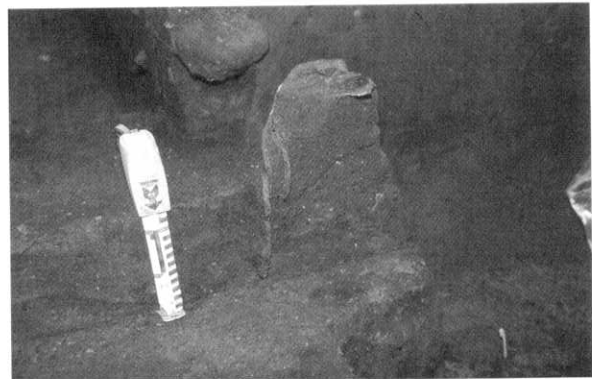
4 トレンチ第89層遺物出土状況



4 トレンチ第89層遺物出土状況



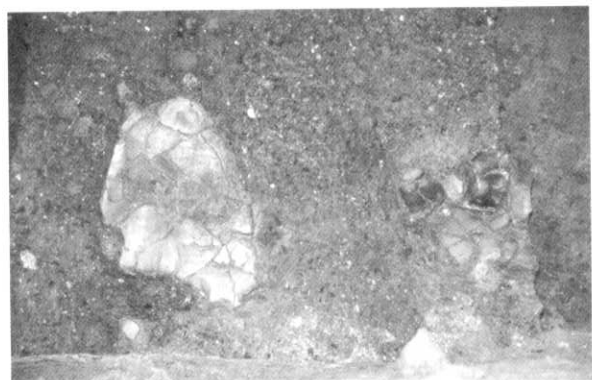
4 トレンチ第798号埋設土器確認



4 トレンチ第798号埋設土器土層断面

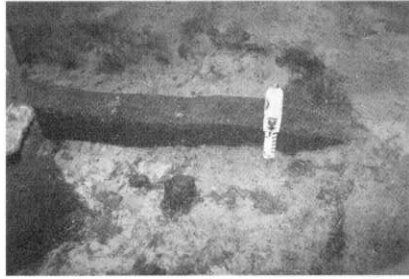


ポイント4 第10b層土偶出土状況

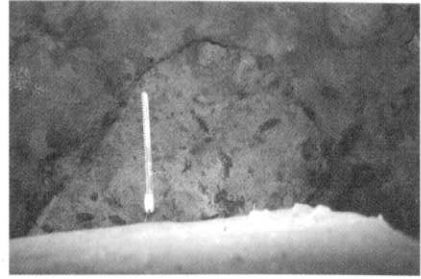


ポイント4 第15層遺物出土状況

写真27

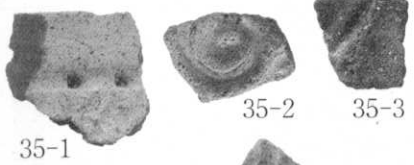


第753号土坑土層断面



第753号土坑完掘

Ⅲ-1層



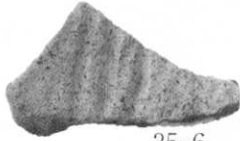
35-1

35-2

35-3

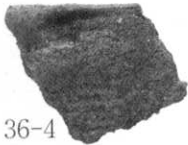


35-4



35-6

Ⅲ-4層



36-4

Ⅲ-11層



37-9



37-11

Ⅲ-12.12'層



37-14



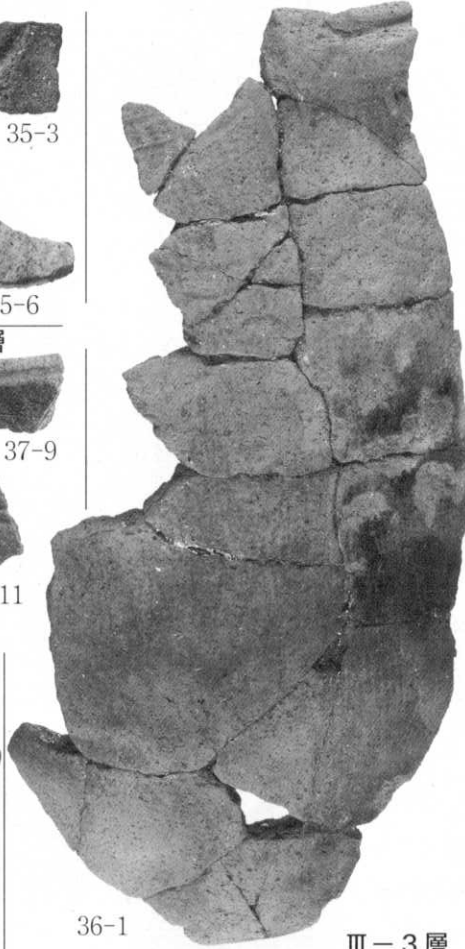
37-13



37-16



37-17



36-1

Ⅲ-3層

Ⅲ-19層



39-3



39-1

Ⅲ-22層

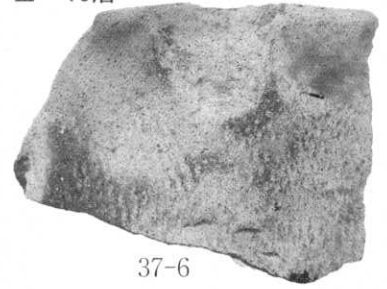


39-11



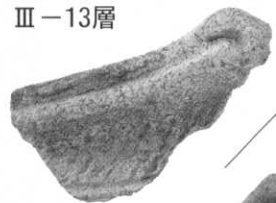
39-13

Ⅲ-10層



37-6

Ⅲ-13層



38-1

Ⅲ-17



38-2

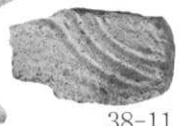


38-8

Ⅲ-18層



38-10



38-11



38-13

Ⅲ-25層



40-1

Ⅲ-26層



40-5



40-6

写真28 1トレンチ出土土器(1)

Ⅲ-27層



40-12



40-13

Ⅲ-29層



40-15

Ⅲ-31層



41-1



41-2



41-3



41-5



41-6

Ⅲ-34層



42-8



42-10

Ⅲ-37層



42-16

Ⅲ-38層



43-2

Ⅲ-39層



44-3



44-4



44-6



44-9

Ⅲ-46層



44-21



44-23

Ⅲ-49層



45-5



44-2



44-12

Ⅲ-50層



45-6



45-7



45-11



45-13



45-8

Ⅲ-51層



46-1



46-2

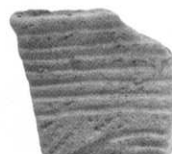
Ⅲ-52層



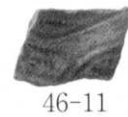
46-5



46-6



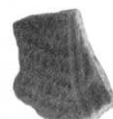
46-7



46-11



46-10



46-12

Ⅲ-53層



46-14

Ⅲ-57層



47-3



47-2



47-1

Ⅲ-59層



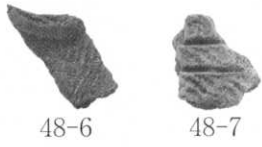
48-3



48-5

写真29 1 トレンチ出土土器 (2)

Ⅲ-61層



48-6

48-7

Ⅲ-63層



48-13

Ⅲ-66層



48-17

Ⅲ-67.67'層



49-1



49-2



49-5



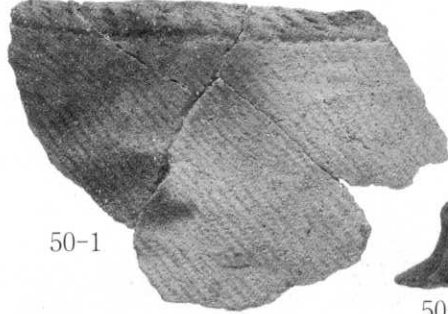
49-4

Ⅲ-69層



49-9

Ⅲ-70層

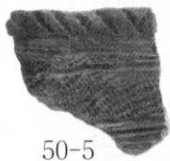


50-1



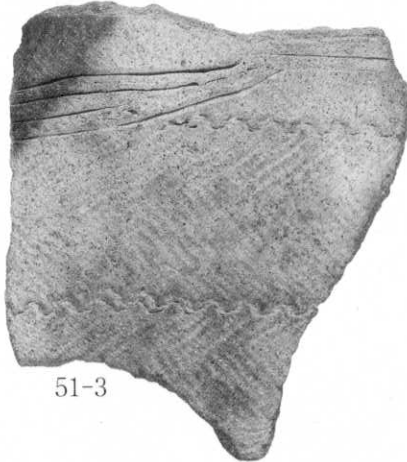
50-3

Ⅲ-71層



50-5

Ⅲ-72層



51-3



51-2

Ⅲ-75層



52-1



52-2

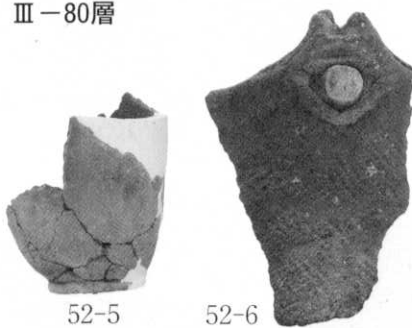
Ⅲ-76層



52-4

52-3

Ⅲ-80層



52-5

52-6

Ⅲ-83層



53-1

53-2

53-4

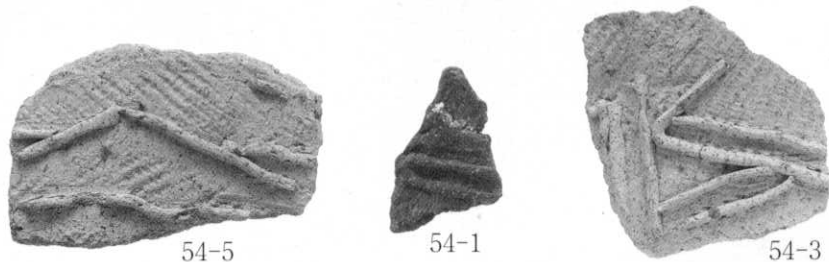
Ⅲ-84層



53-9

53-11

Ⅲ-87層



54-5

54-1

54-3

写真30 1トレンチ出土土器(3)

Ⅲ-88層



55-1



55-5



55-4



55-7

Ⅲ-90層



55-11



55-12



55-13

Ⅲ-95層



56-2

Ⅲ-96層



56-8



56-9

Ⅲ-100層



57-1



57-2



57-4



57-7



57-8

Ⅲ-101層



58-1



58-2

Ⅲ-102層



58-4

Ⅲ-103層



58-7

Ⅲ-104層



59-1



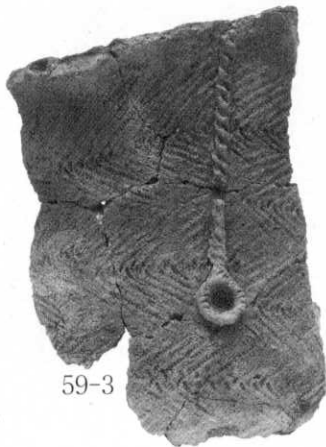
59-2



59-4



59-5



59-3

Ⅲ-105層



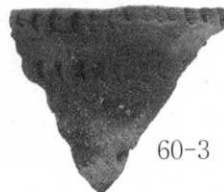
60-1



60-2



60-4



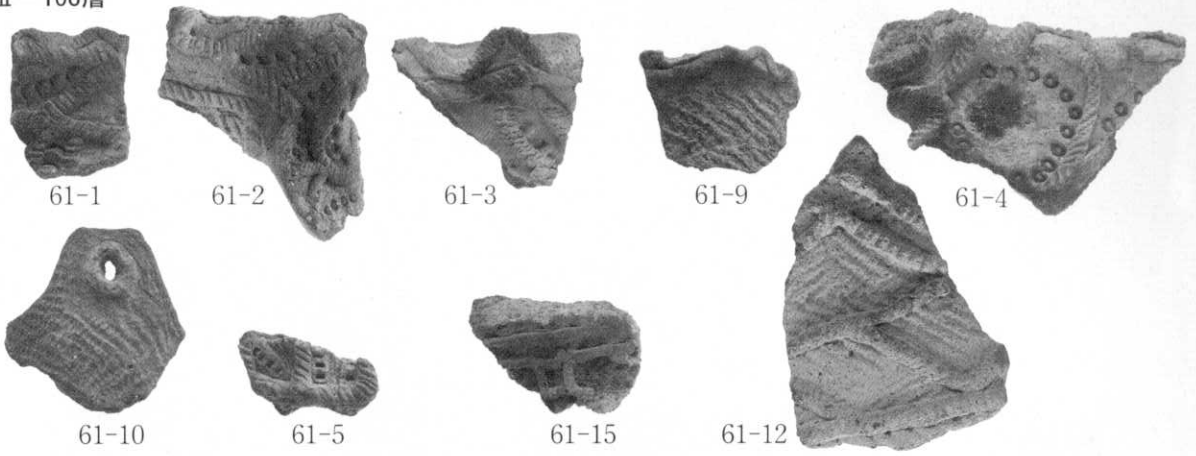
60-3



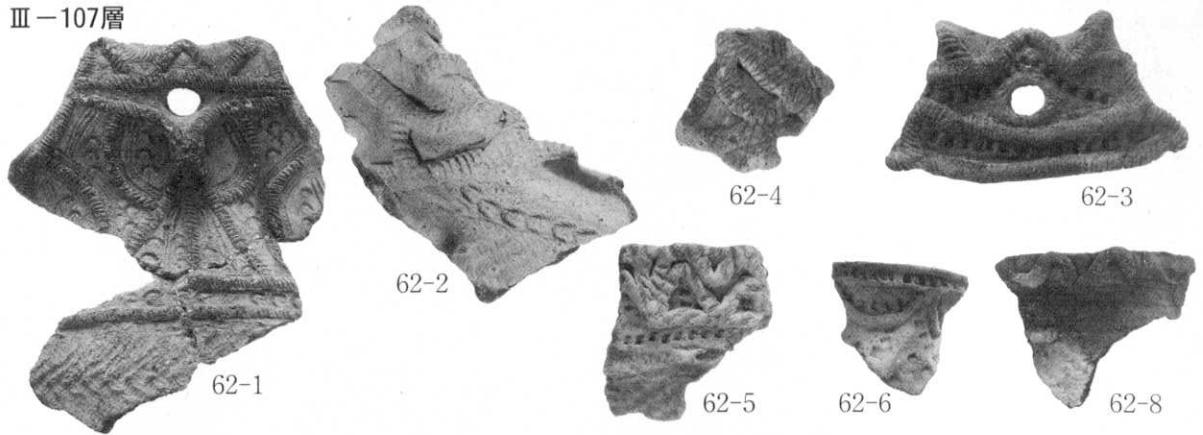
60-5

写真31 1トレンチ出土土器(4)

Ⅲ-106層



Ⅲ-107層



Ⅲ-108層



写真32 1トレンチ出土土器(5)

Ⅲ-109層



65-1



65-3



65-5



65-10



65-6



65-4

Ⅲ-110層



67-1



67-2



67-4



67-5



67-6

Ⅲ-111層



67-10

Ⅲ-112層



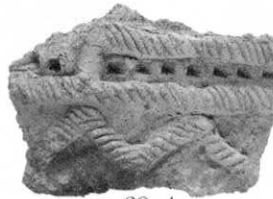
68-1



68-2



68-3



68-4



68-6



68-5

Ⅲ-113層



68-8

Ⅲ-117層



69-4

Ⅲ-115層



69-2

Ⅲ-119層



70-1



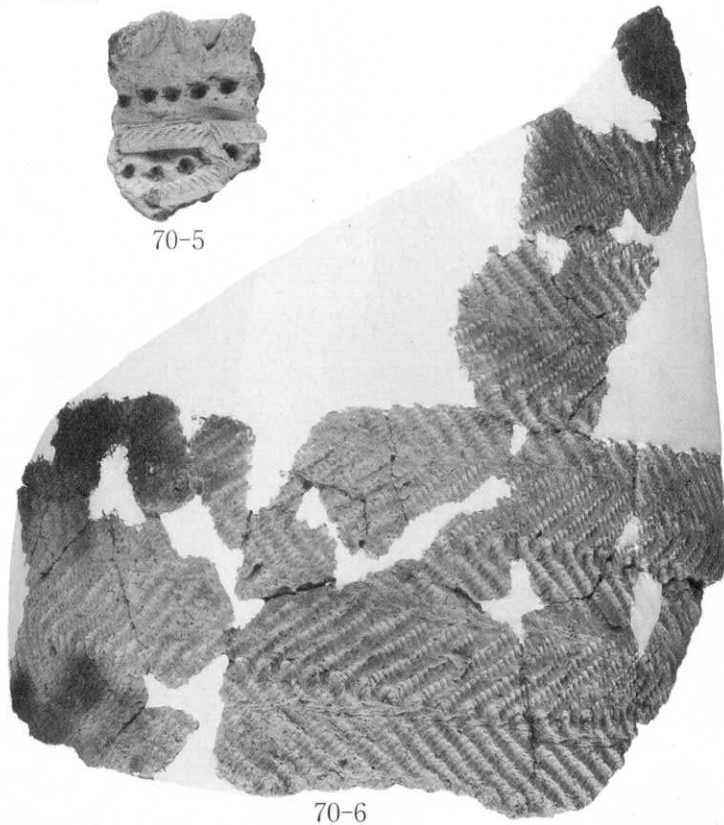
69-1



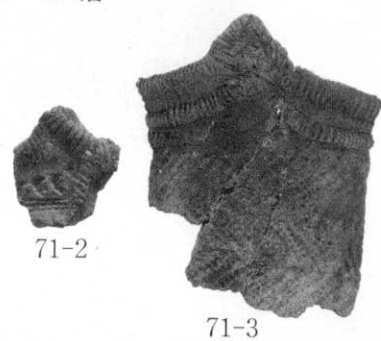
70-2

写真33 1 トレンチ出土土器 (6)

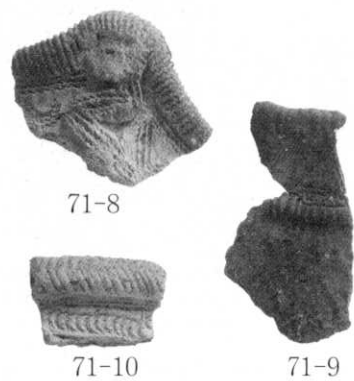
Ⅲ-123層



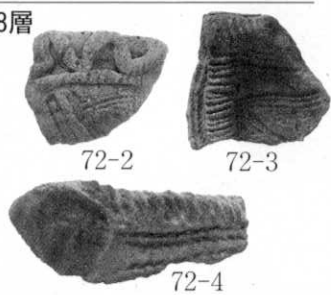
Ⅲ-124層



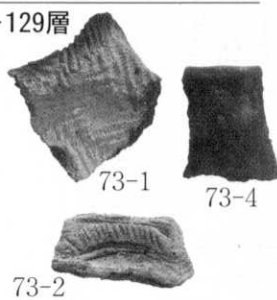
Ⅲ-125層



Ⅲ-128層



Ⅲ-129層



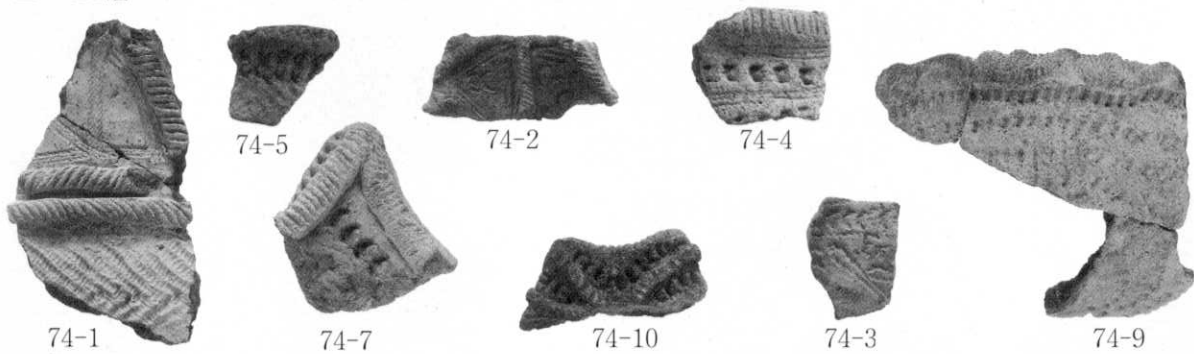
Ⅲ-131層



Ⅲ-132層



Ⅲ-133層



Ⅲ-136層



Ⅲ-137層



Ⅲ-138層

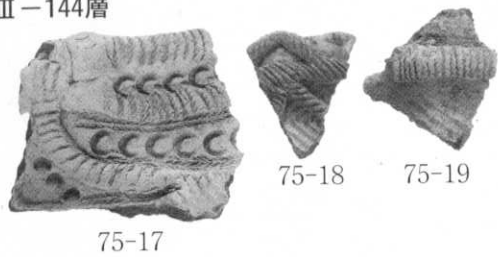


Ⅲ-139層



写真34 1 トレンチ出土土器 (7)

Ⅲ-144層



75-17

75-18

75-19

Ⅲ-145層直上



76-4



76-1



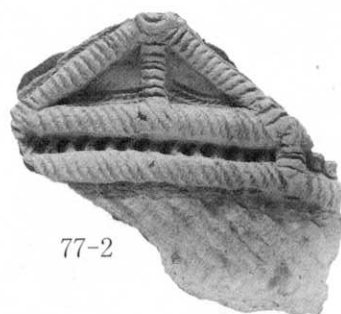
76-3



77-3



77-1



77-2



77-4



77-6



77-7



77-9



77-10

Ⅲ-145層



79-1



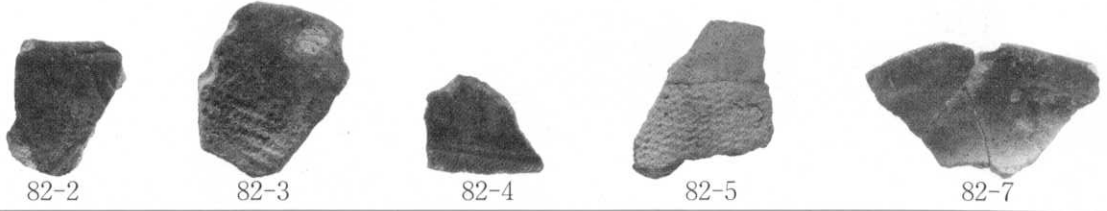
79-2



79-3

写真35 1トレンチ出土土器(8)

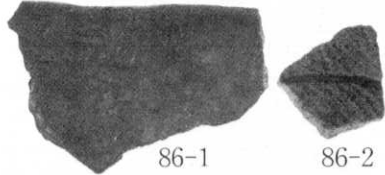
Ⅲ-1層



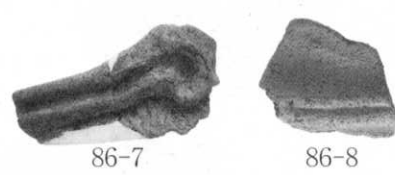
Ⅲ-5層



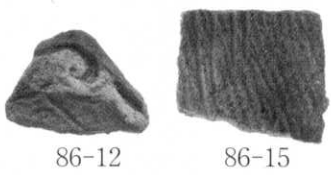
Ⅲ-11層



Ⅲ-13層



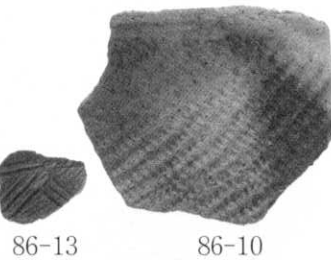
Ⅲ-17層



Ⅲ-24層



Ⅲ-25層



Ⅲ-30層

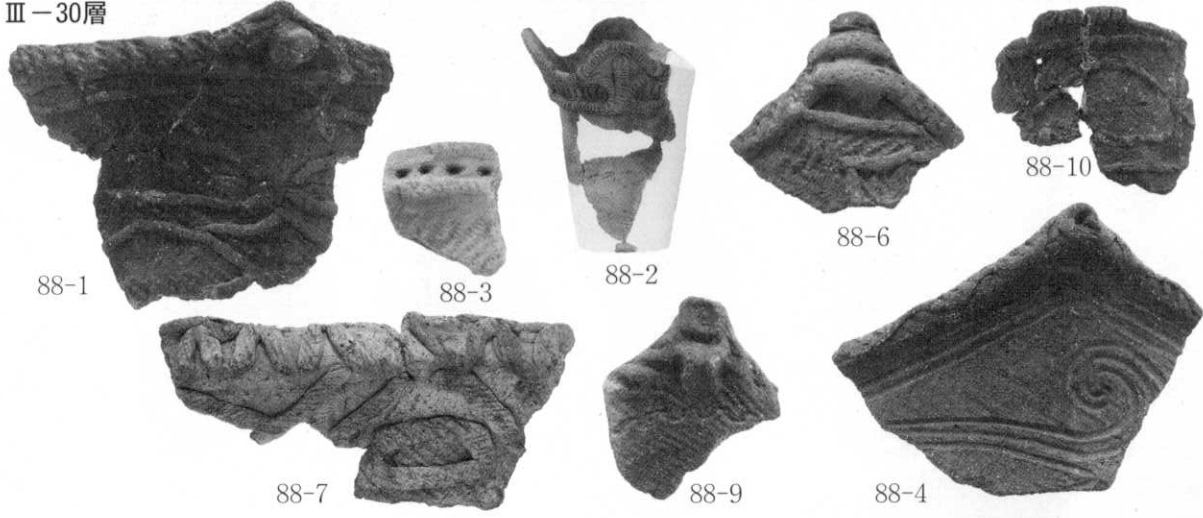
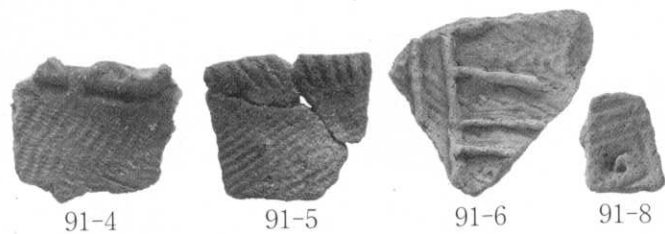
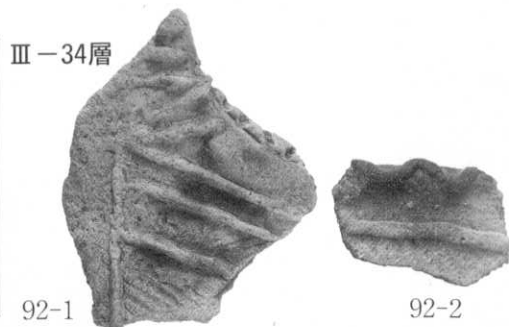


写真36 4トレンチ出土土器 (1)

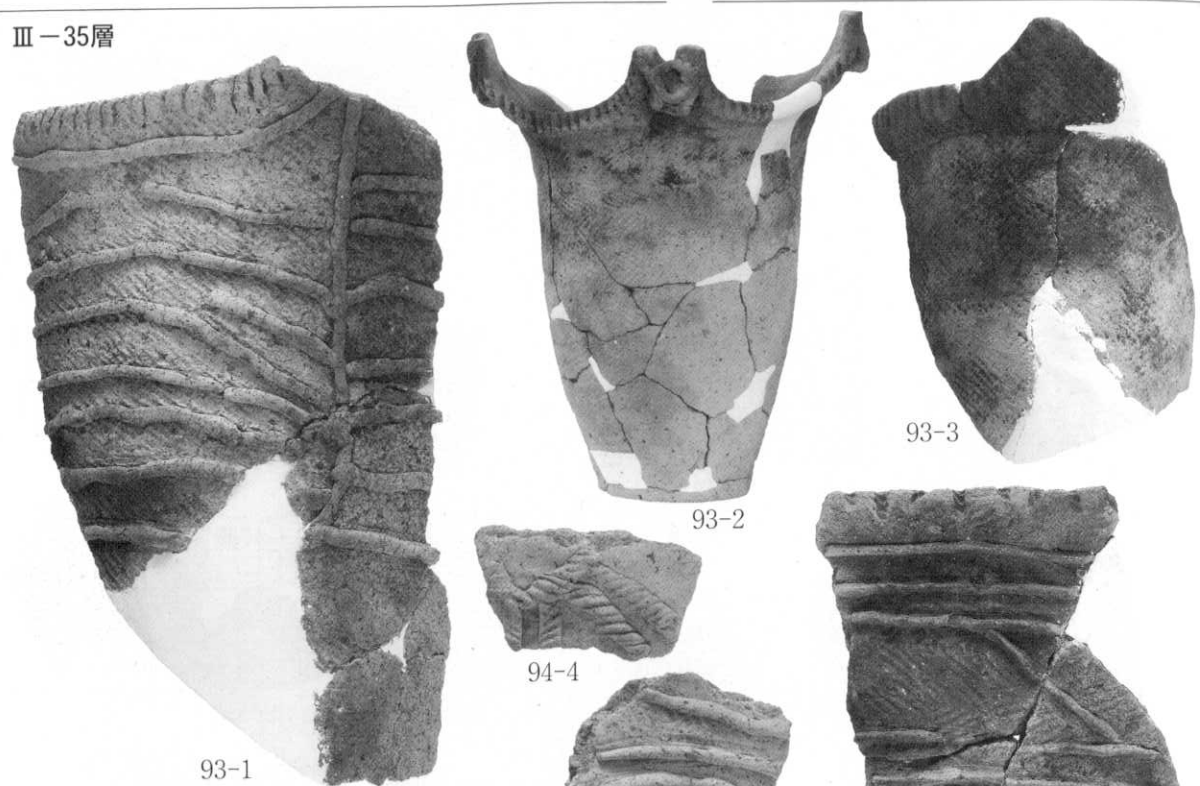
Ⅲ-33層



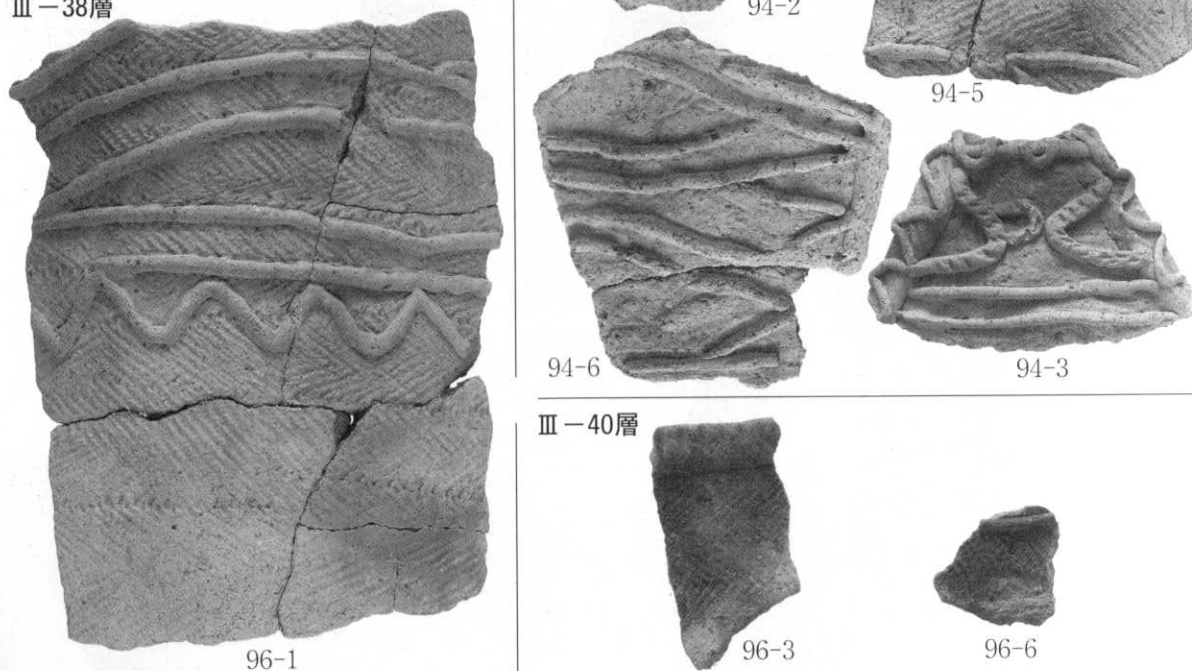
Ⅲ-34層



Ⅲ-35層



Ⅲ-38層

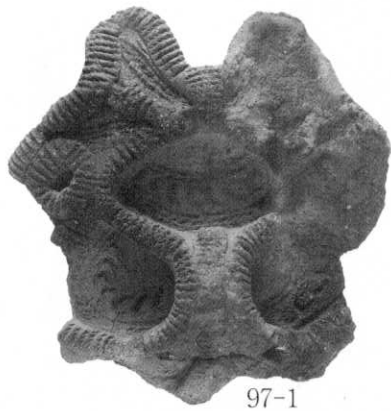


Ⅲ-40層



写真37 4トレンチ出土土器 (2)

Ⅲ-41層



97-1



97-2



97-4



97-5



97-7



97-8



97-11



97-6

Ⅲ-46層



98-4



98-6



98-7

Ⅲ-48層



99-1



99-5



99-3



99-4

Ⅲ-50層



101-1



101-3



101-6



101-7

Ⅲ-61層



101-11



101-13



101-12

写真38 4トレンチ出土土器(3)

Ⅲ-55層



102-1



102-5



102-6



102-3

Ⅲ-56層



104-1



104-2

Ⅲ-57層



105-1



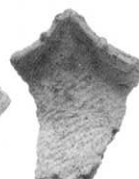
105-2



105-4



105-8



105-13



105-6



105-7



105-11

Ⅲ-58層



107-1

写真39 4トレンチ出土土器(4)

Ⅲ-58層

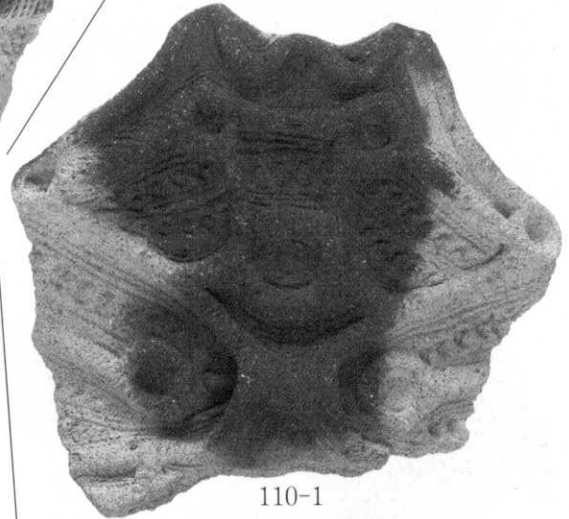


108-1



108-2

Ⅲ-60層



110-1

Ⅲ-61層



111-1

Ⅲ-62層



111-2



110-4

Ⅲ-64層



111-3



111-4

Ⅲ-65層

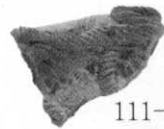


111-8



111-9

Ⅲ-66層



111-11

Ⅲ-69層



112-1



112-2



112-5



112-7

写真40 4トレンチ出土土器(5)

Ⅲ-71層



113-1

Ⅲ-72層



113-5



113-3



113-4

Ⅲ-75層



114-1

Ⅲ-77層



114-6



114-7



114-8

Ⅲ-79層



115-1

Ⅲ-80層



115-2



115-3

Ⅲ-81層



115-5



115-6

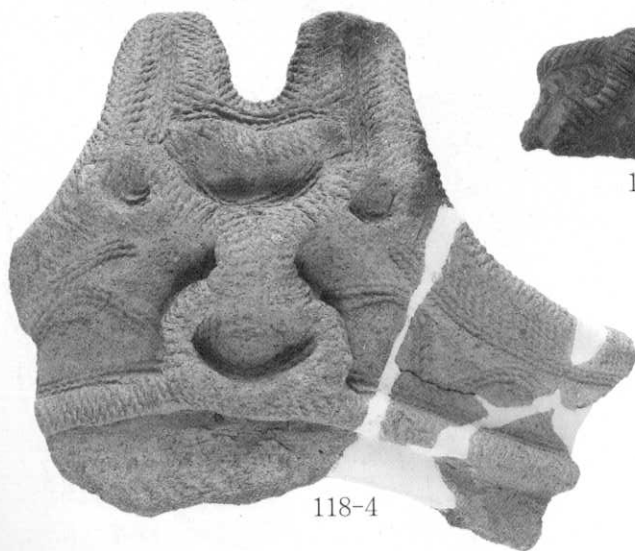


115-9

Ⅲ-82層



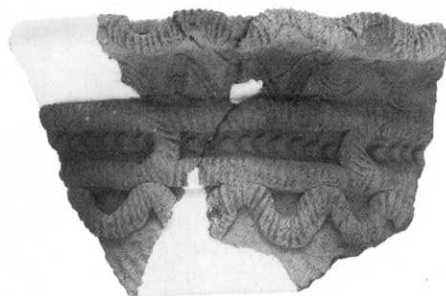
116-1



118-4



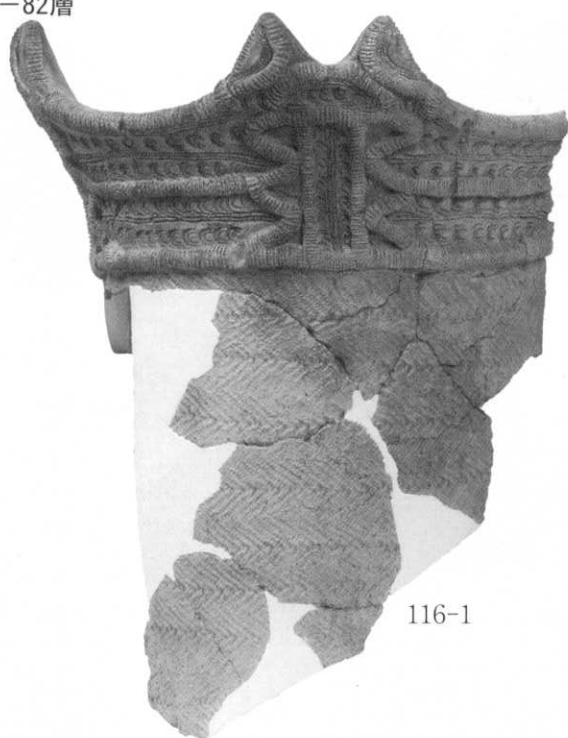
118-3



116-2

写真41 4トレンチ出土土器 (6)

Ⅲ-82層



116-1



117-1

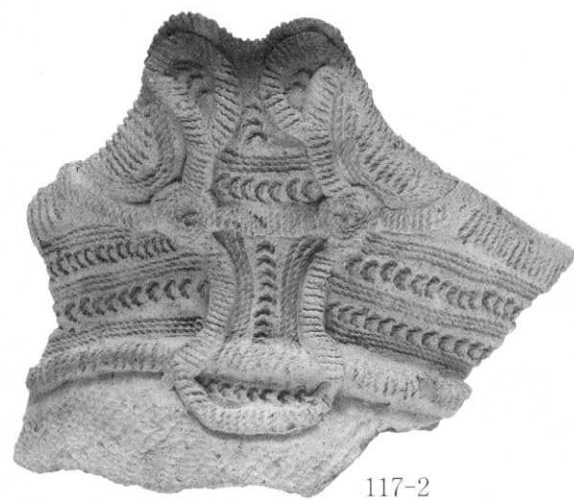
Ⅲ-83層



119-2



119-3



117-2



120-1



120-3



120-4



120-5



120-6



119-1

写真42 4トレンチ出土土器 (7)

Ⅲ-84層



124-1



124-2



124-3



124-5

Ⅲ-85層



125-1

Ⅲ-88層



127-1



127-3



127-2

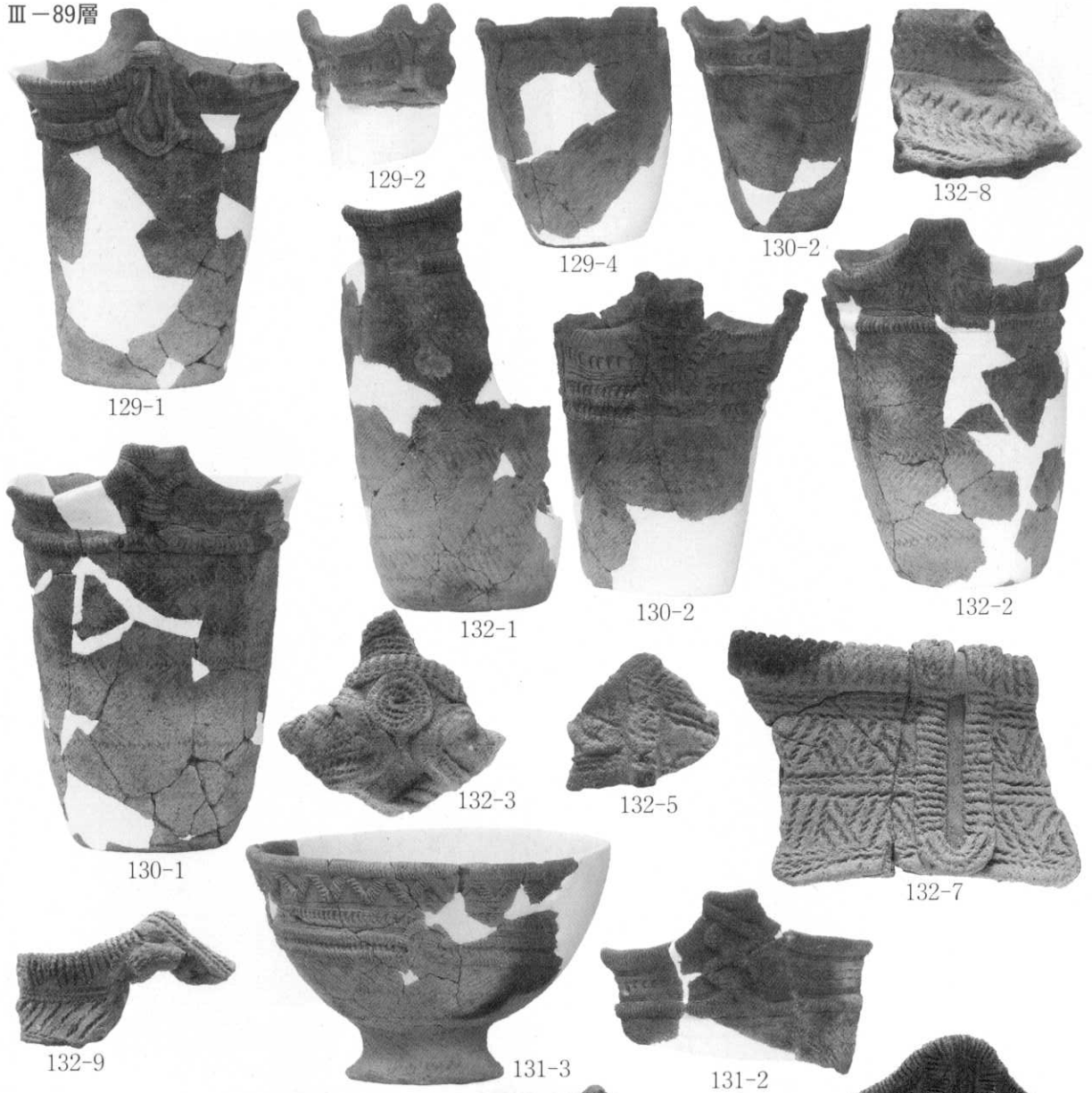
Ⅲ-89層



128-1

写真43 4トレンチ出土土器(8)

Ⅲ-89層



Ⅲ-89'層

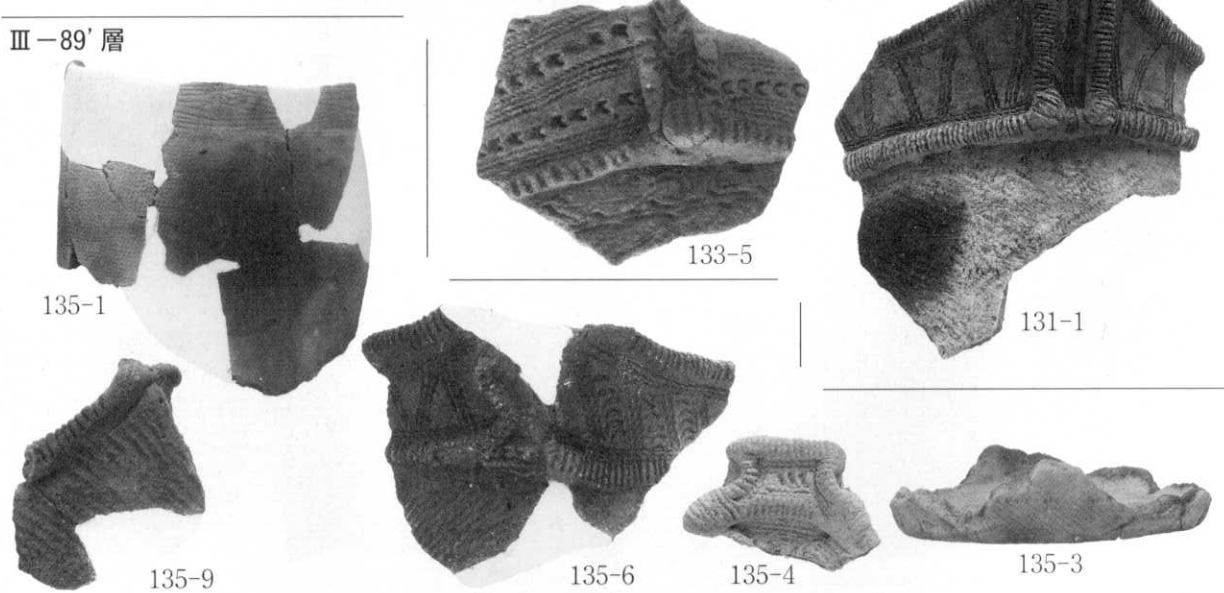


写真44 4トレンチ出土土器(9)

Ⅲ-89'層



134-1



135-2



135-8

Ⅲ-90層



139-11



139-2



139-12

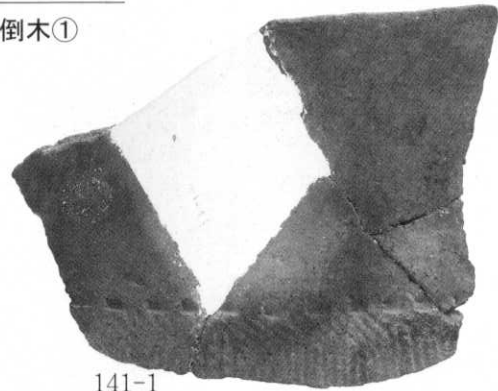


139-10



141-3

Ⅲ-風倒木①



141-1

Ⅲ-風倒木②



142-14



142-1



142-4



142-3



142-9

Ⅲ-風倒木⑤



145-2



145-9



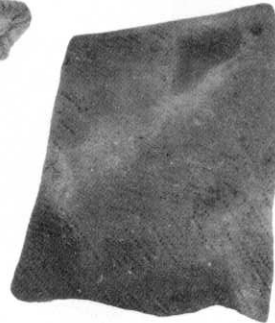
145-6



145-12



145-4



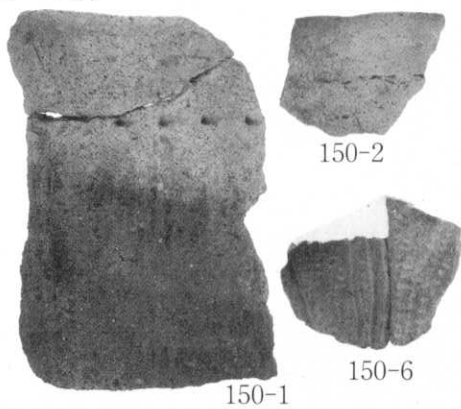
145-3



145-7

写真45 4トレンチ出土土器 (10)

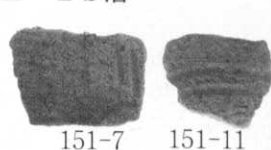
Ⅲ-1層



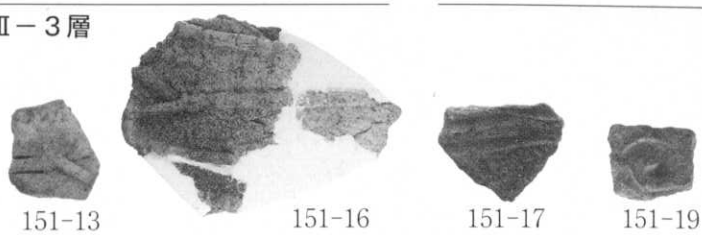
Ⅲ-2 a層



Ⅲ-2 b層



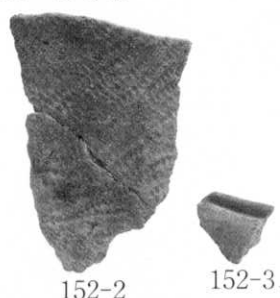
Ⅲ-3層



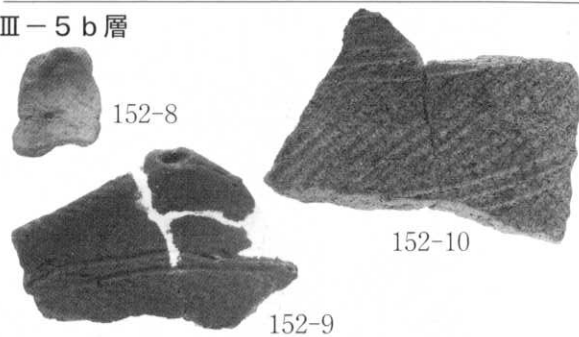
Ⅲ-4 b層



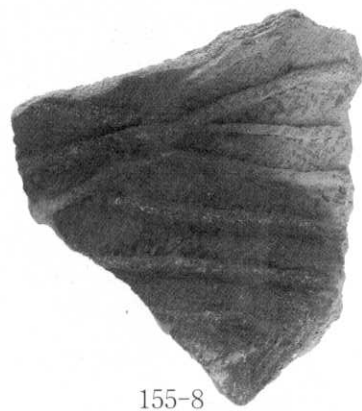
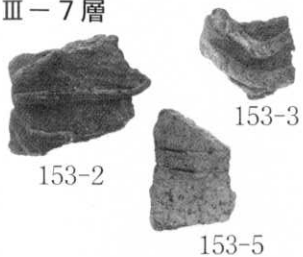
Ⅲ-5 a層



Ⅲ-5 b層



Ⅲ-7層



Ⅲ-9層



Ⅲ-10 a層

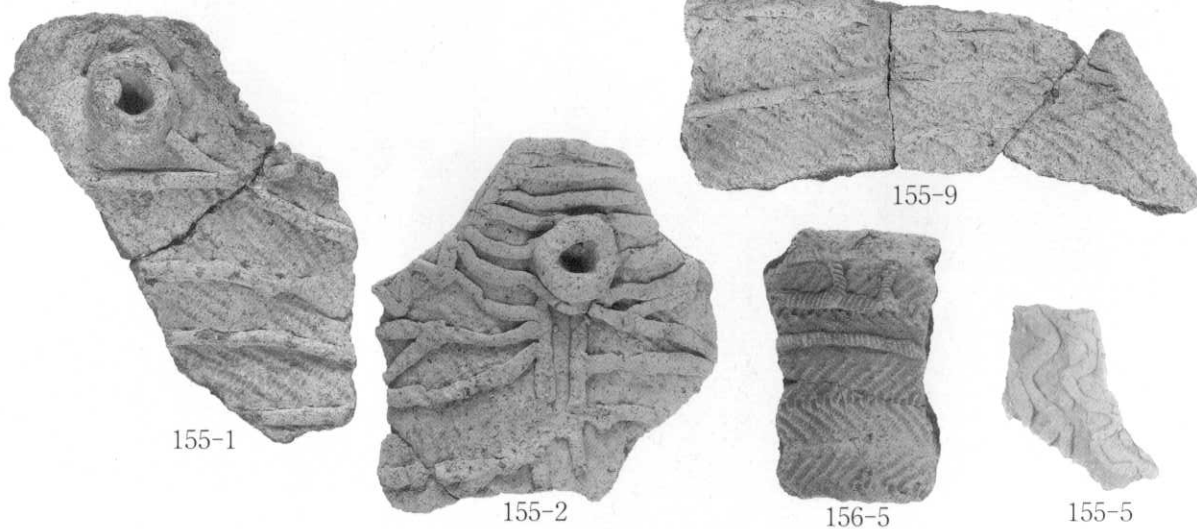


写真46 ポイント4出土土器(1)

Ⅲ-10b層



157-1



157-2



157-3

Ⅲ-10c層



159-1

159-2

Ⅲ-11層



160-2



160-4

Ⅲ-12層



160-8



160-10

Ⅲ-15層



161-1



161-2



161-4



161-3



162-4

埋設



164-1

写真47 ポイント4出土土器(2)

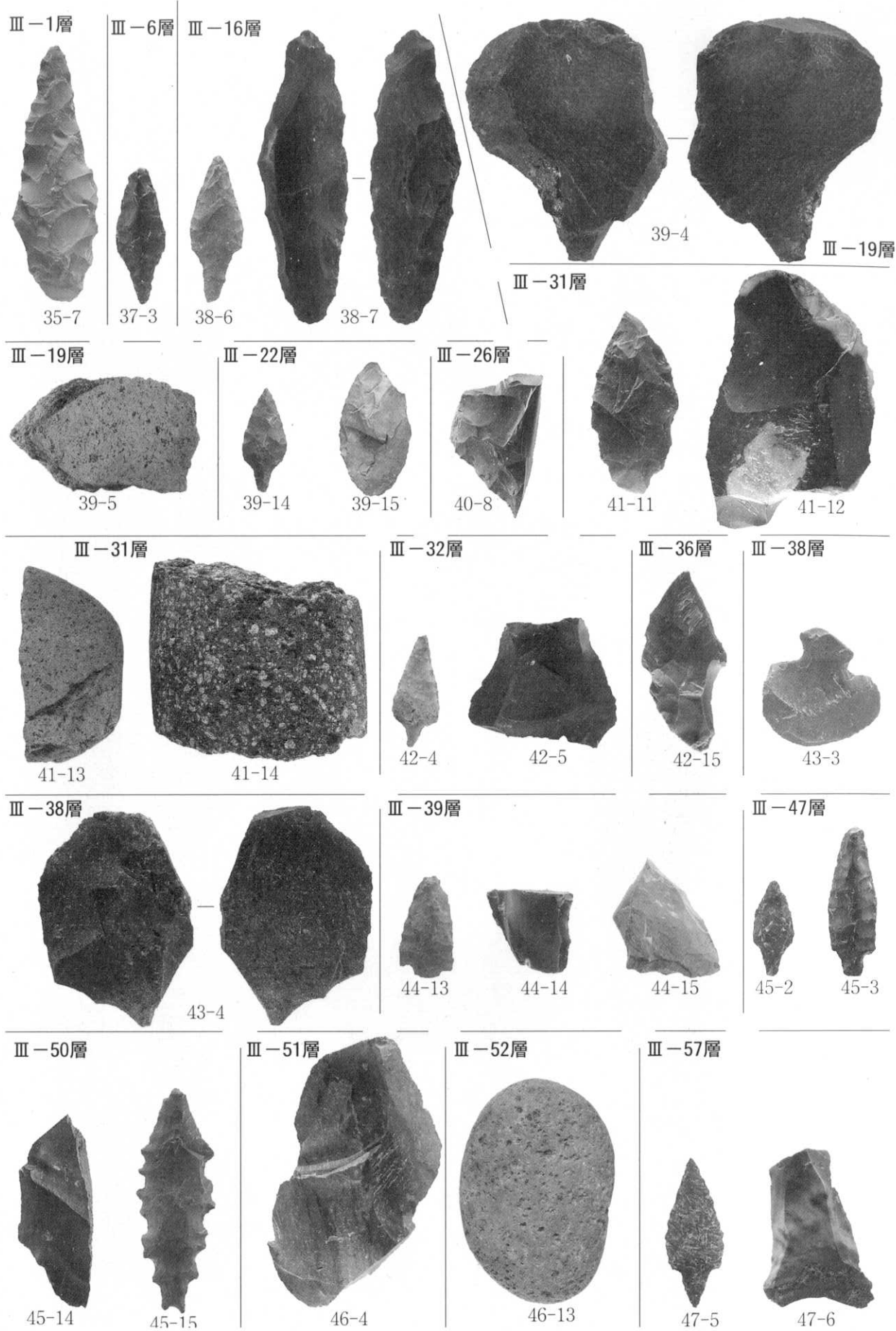


写真48 1トレンチ出土石器 (1)

Ⅲ-57層



47-7



47-8

Ⅲ-62層



48-14



48-15

Ⅲ-66層



48-18



48-19

Ⅲ-67層



49-6

Ⅲ-67'層



49-7

Ⅲ-69層



49-10

Ⅲ-70層



50-4

Ⅲ-71層



50-6



50-7

Ⅲ-72層



51-4



51-5



51-6

Ⅲ-72層



51-7



51-8

Ⅲ-80層



52-7

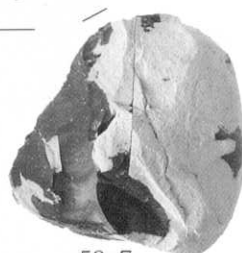


53-5

Ⅲ-83層



53-6



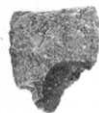
53-7

Ⅲ-83層



53-8

Ⅲ-84層



53-12

Ⅲ-87層



54-6

Ⅲ-88層



55-8



55-9

Ⅲ-88層



55-10

Ⅲ-95層



56-3

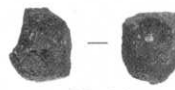


56-4



56-5

Ⅲ-96層



56-10



56-11

Ⅲ-100層



57-9



57-10



57-11



57-12

Ⅲ-102層



58-6

Ⅲ-104層



59-6

写真49 1トレンチ出土石器(2)

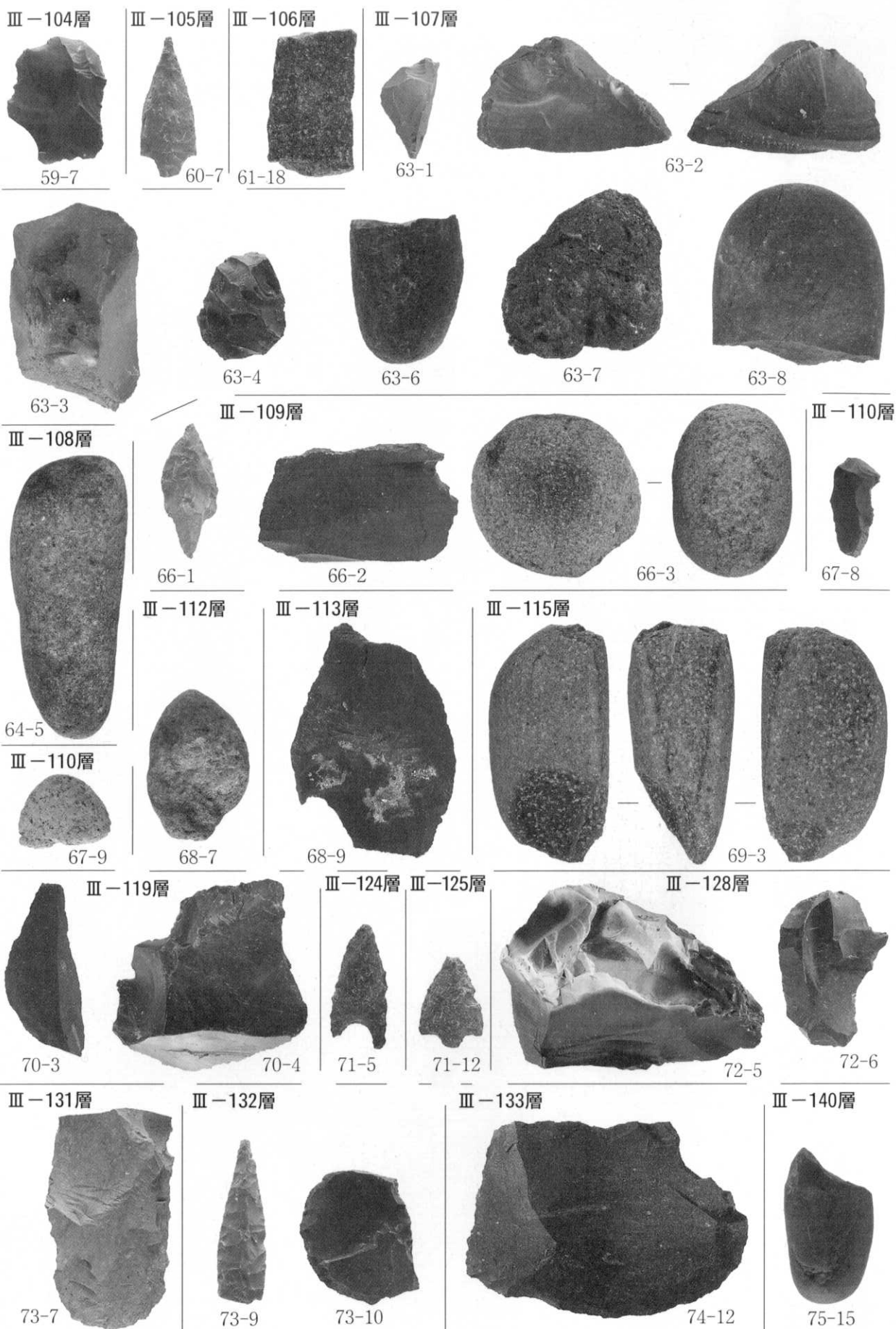


写真50 1トレンチ出土石器 (3)

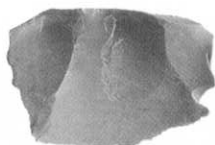


78-1



78-2

Ⅲ-145層直上

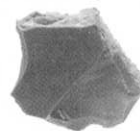


78-3



78-4

Ⅲ-145層



79-9



79-10

Ⅲ-145層



79-11

細分層位不明



80-1



80-2



80-3



80-4



80-5



80-6

Ⅲ-1層



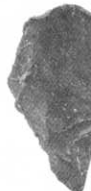
80-7



82-10



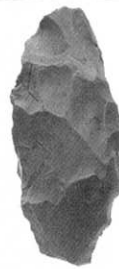
82-11



82-12



82-13



82-14

Ⅲ-5層



83-17



83-18



83-19



84-1



84-2



84-3



84-4



84-5

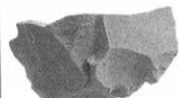


84-6



84-7

Ⅲ-11層

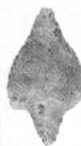


86-4



86-5

Ⅲ-17層

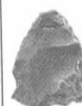


86-18



86-19

Ⅲ-25層



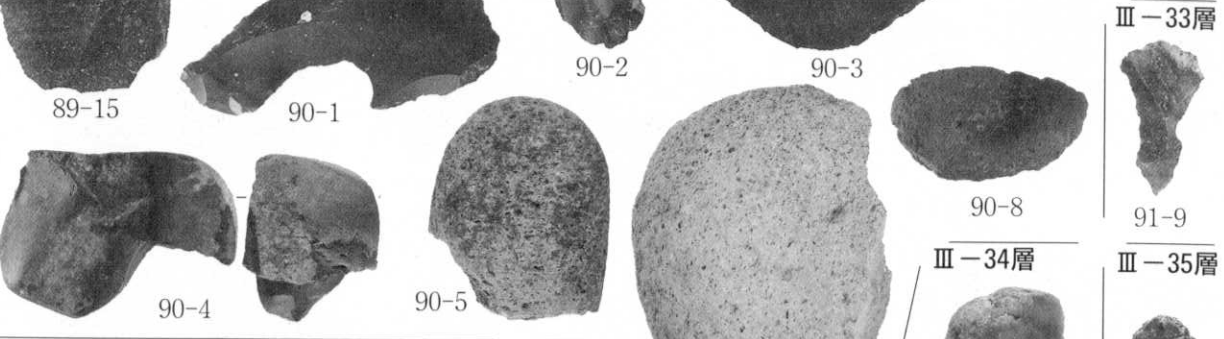
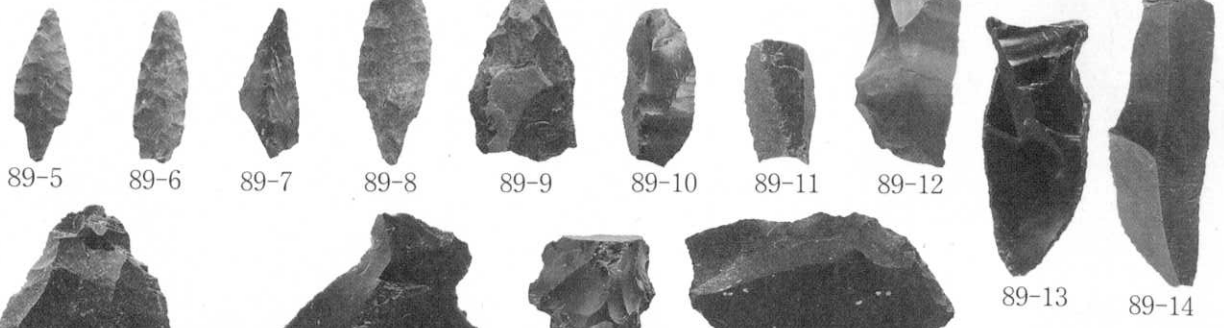
87-12



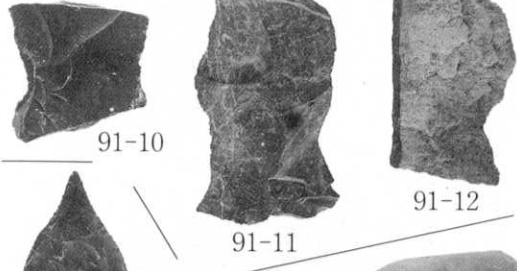
87-14

写真51 1トレンチ出土石器(4)・4トレンチ出土石器(1)

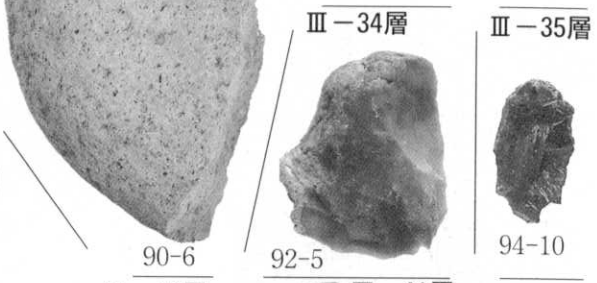
Ⅲ-30層



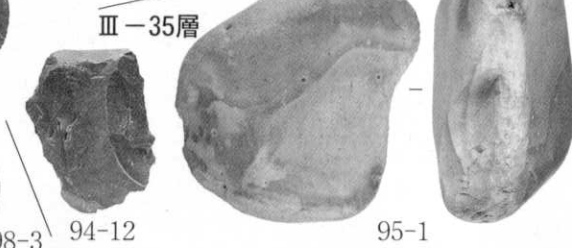
Ⅲ-33層



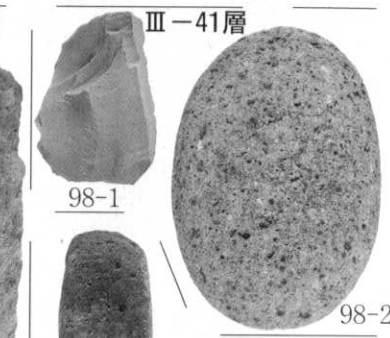
Ⅲ-34層



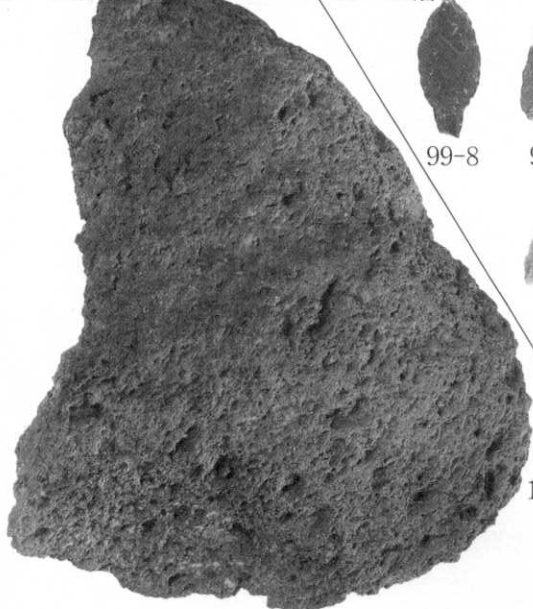
Ⅲ-35層



Ⅲ-40層



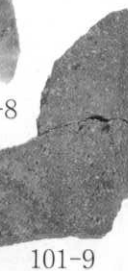
Ⅲ-49層



Ⅲ-48層



Ⅲ-50層



Ⅲ-51層

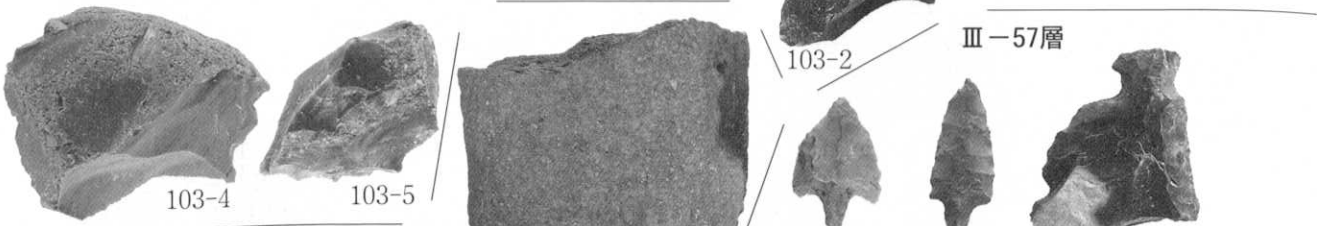


Ⅲ-55層

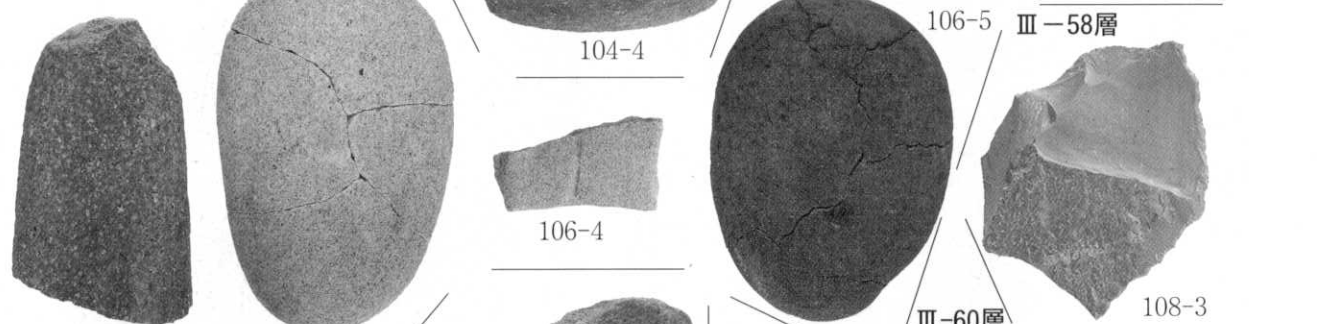


写真52 4トレンチ出土石器(2)

Ⅲ-55層



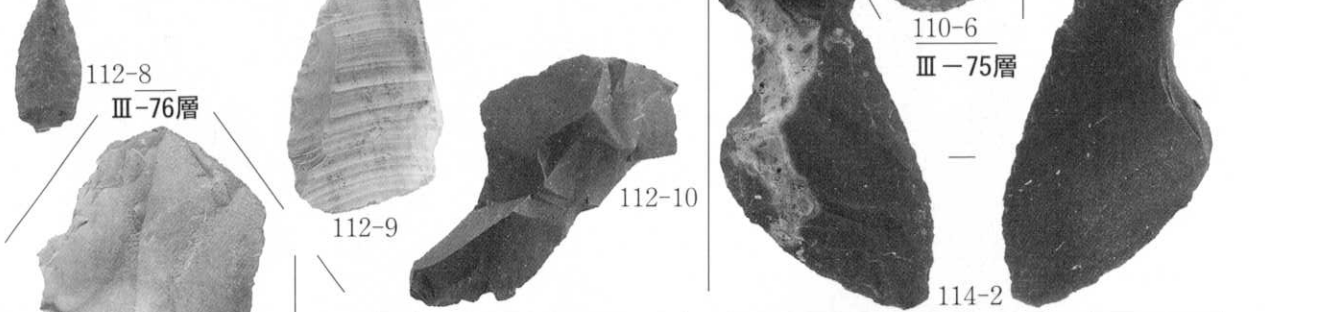
Ⅲ-57層



Ⅲ-58層



Ⅲ-69層



Ⅲ-76層

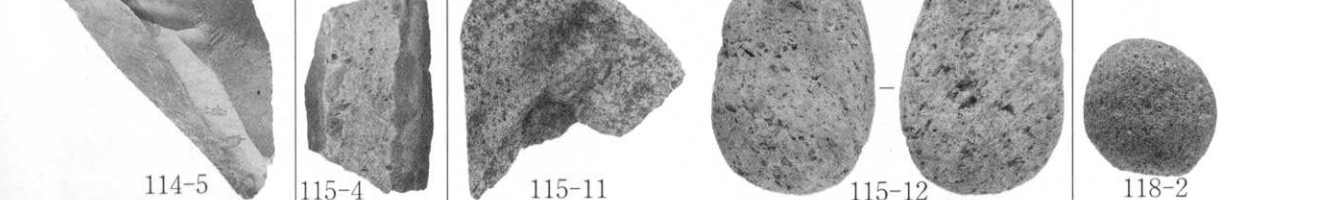
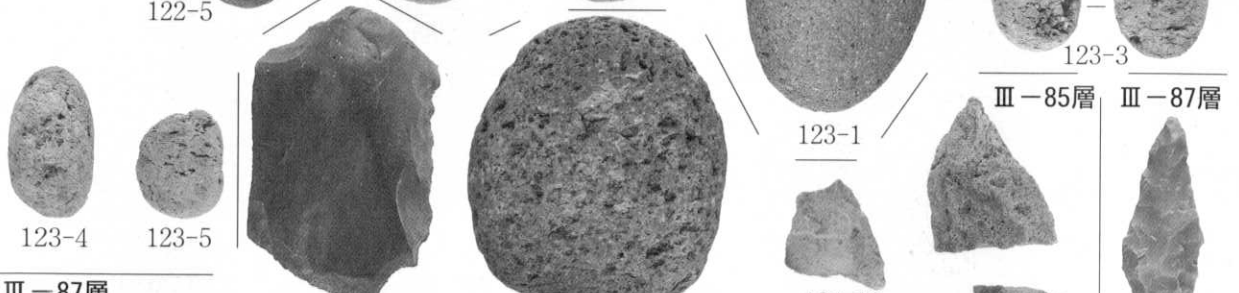
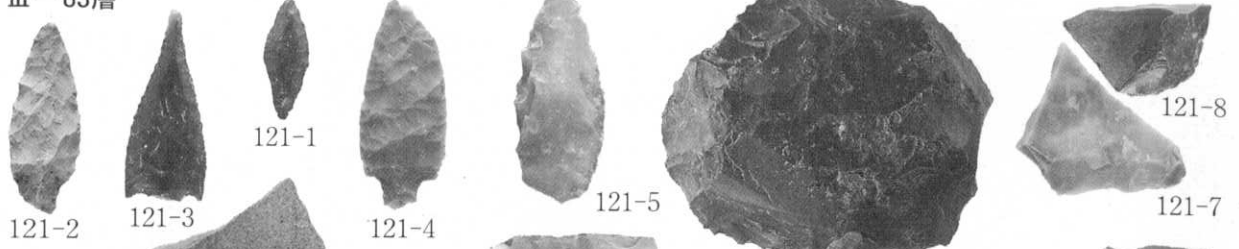


写真53 4トレンチ出土石器 (3)

Ⅲ-83層



Ⅲ-87層

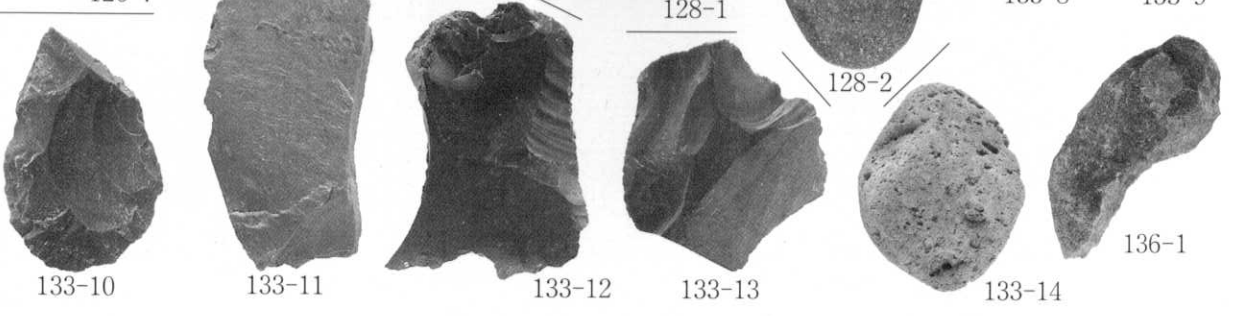
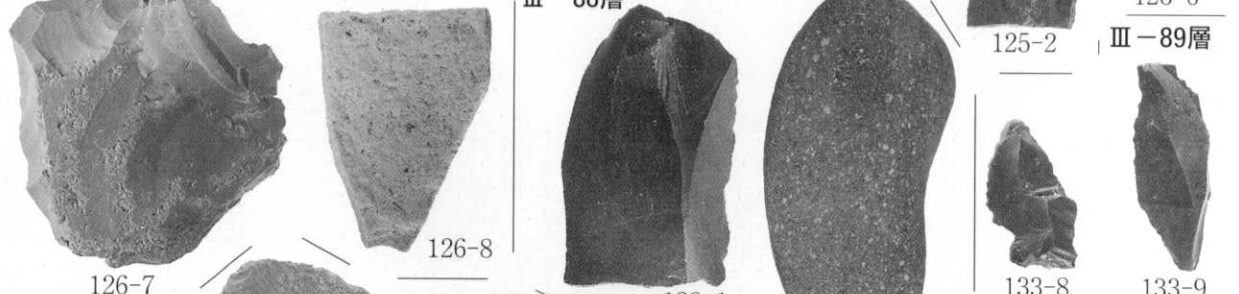
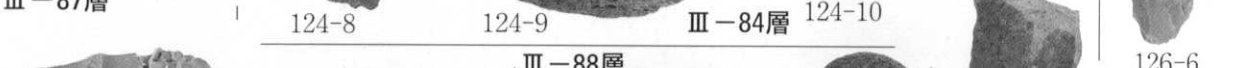


写真54 4トレンチ出土石器 (4)

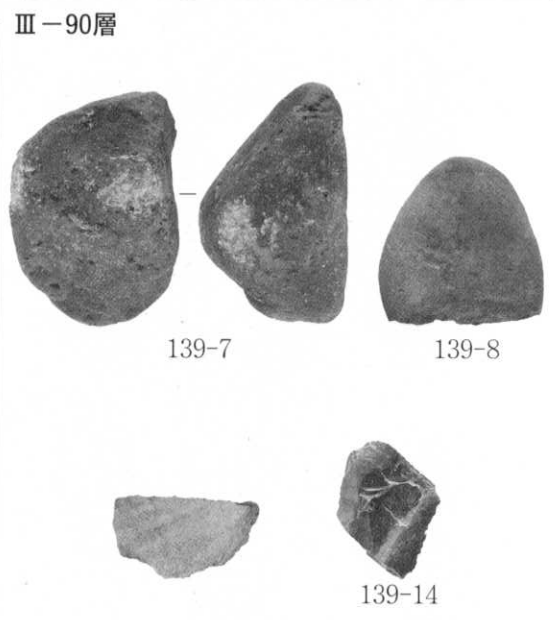
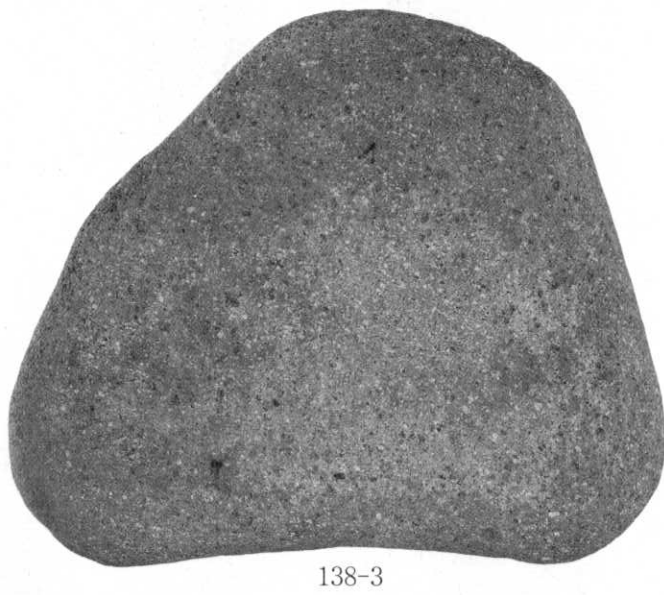
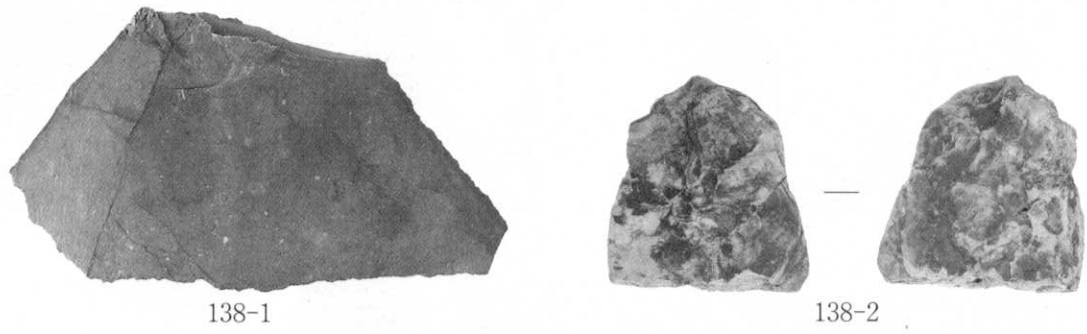
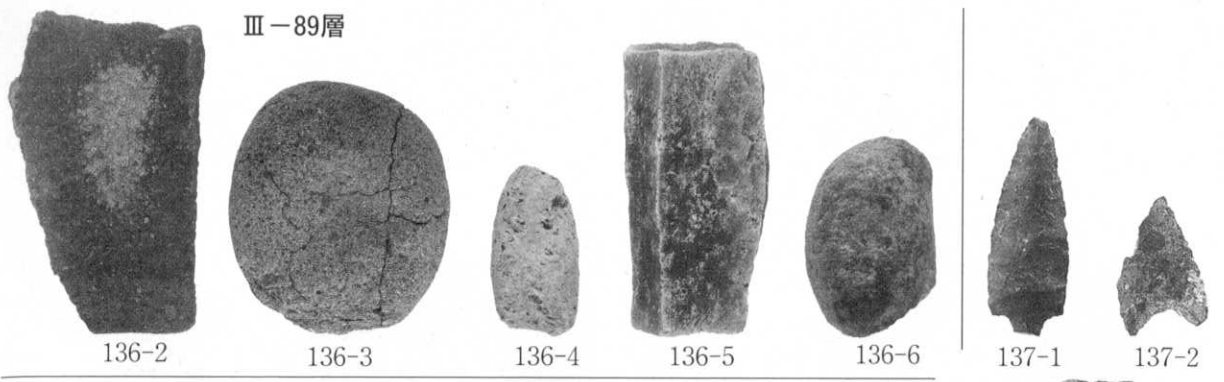
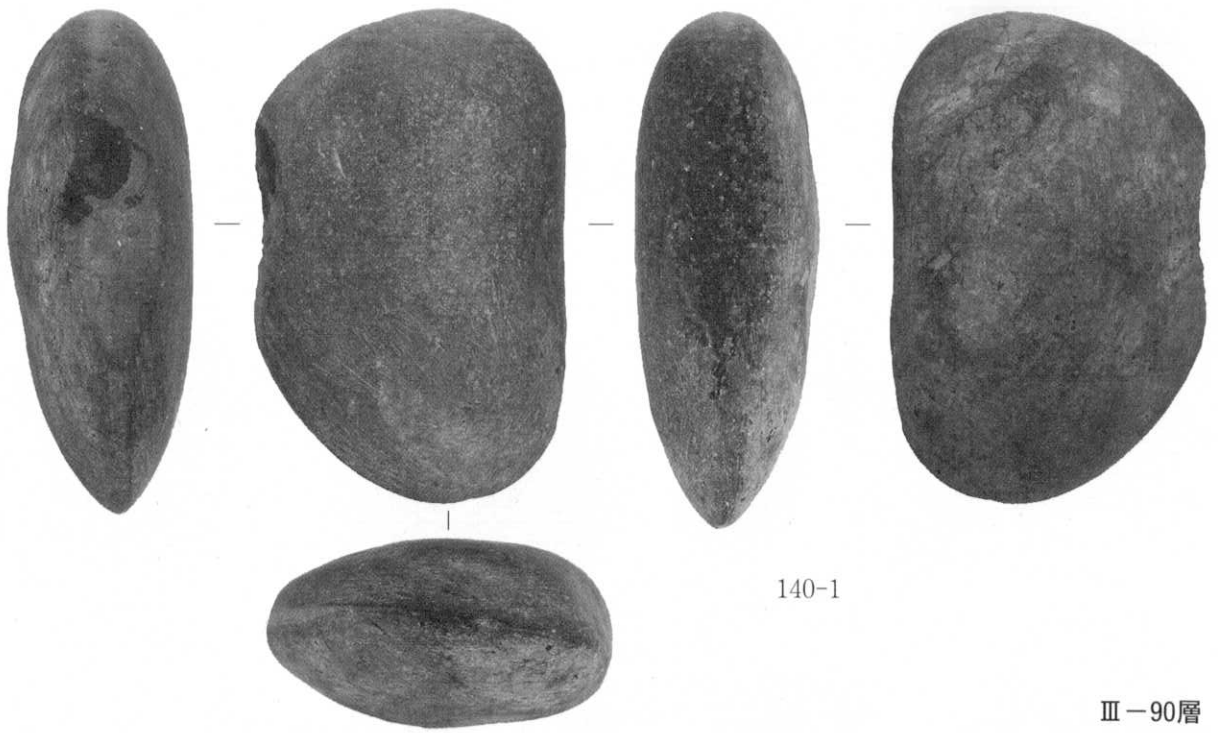


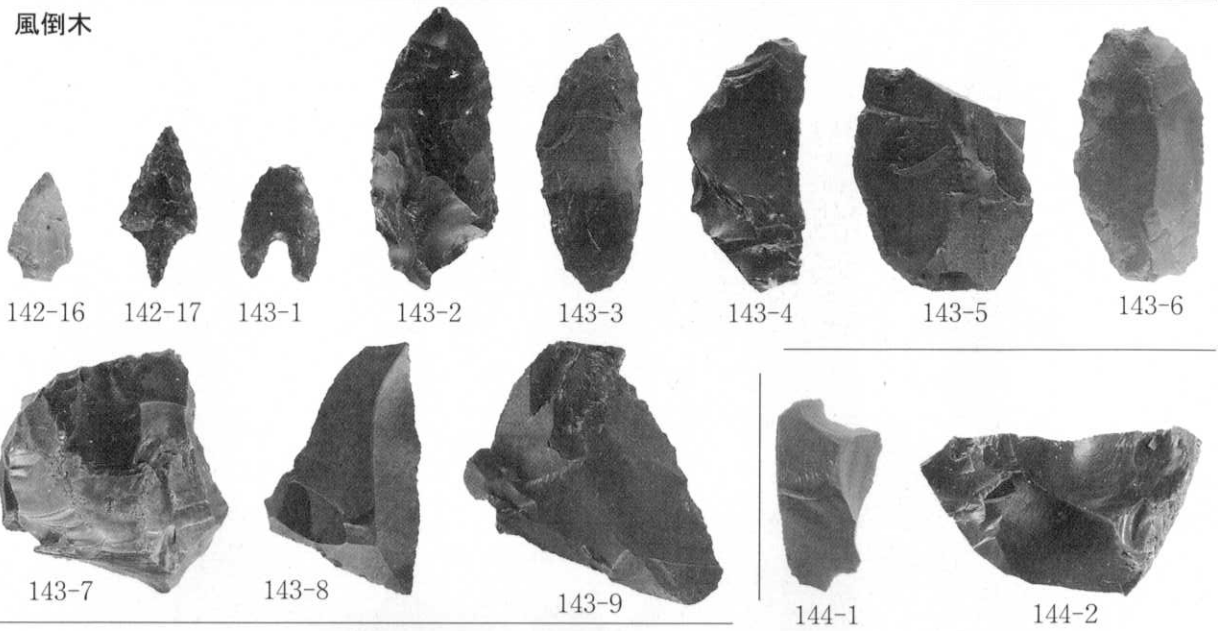
写真55 4トレンチ出土石器 (5)



140-1

Ⅲ-90層

風倒木



142-16

142-17

143-1

143-2

143-3

143-4

143-5

143-6

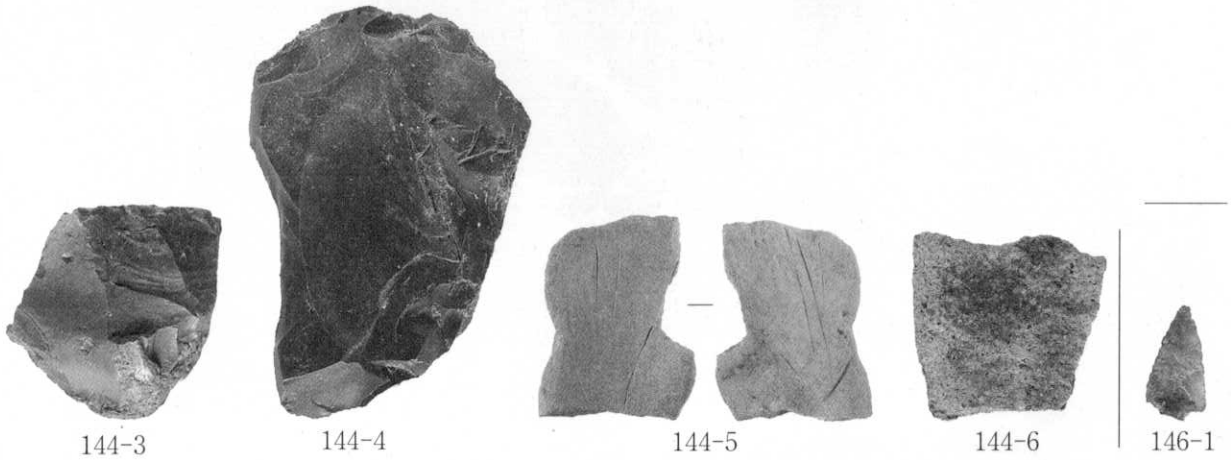
143-7

143-8

143-9

144-1

144-2



144-3

144-4

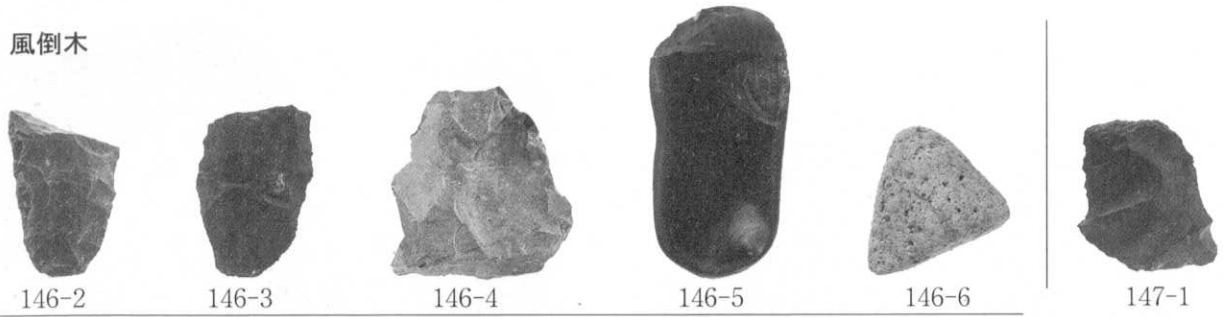
144-5

144-6

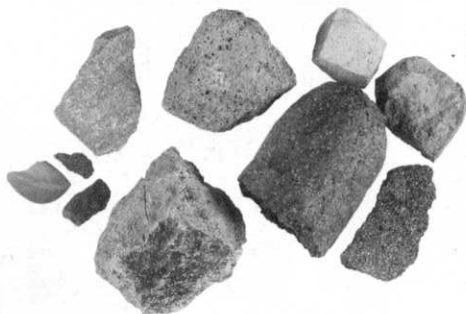
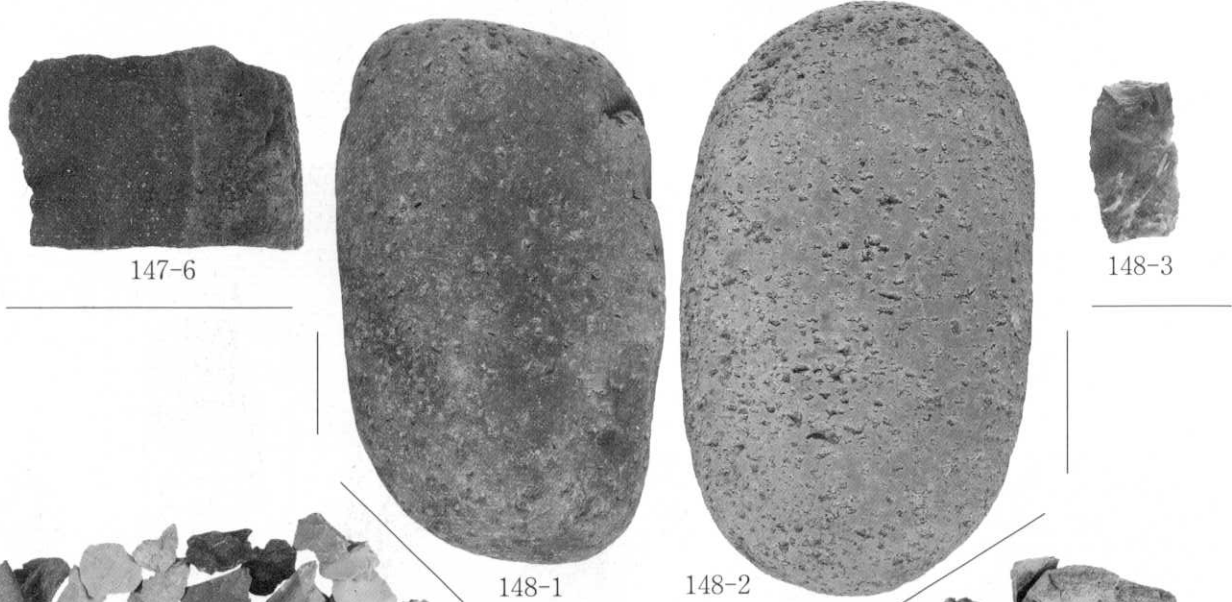
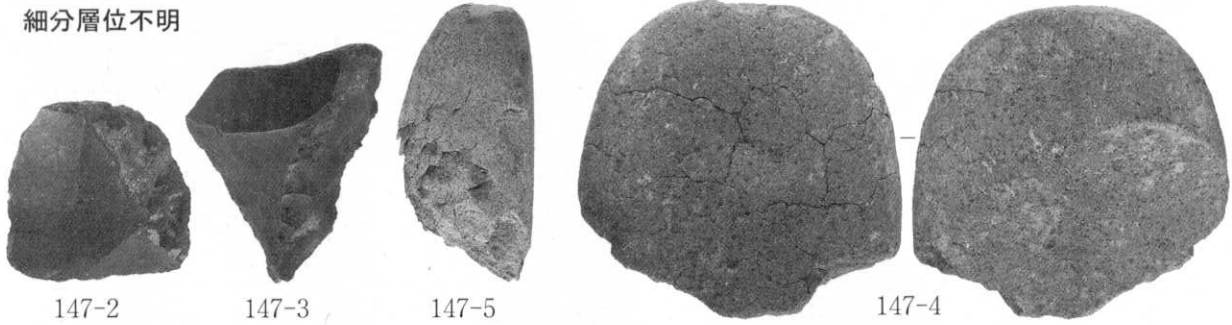
146-1

写真56 4トレンチ出土石器 (6)

風倒木



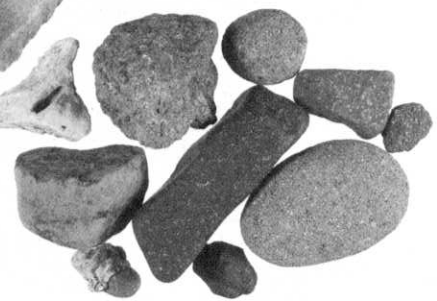
細分層位不明



4トレ割れた礫集合



4トレンチ被熟礫集合



4トレンチ礫集合

写真57 4トレンチ出土石器 (7)



写真58 ポイント4出土石器(1)

小礫集合



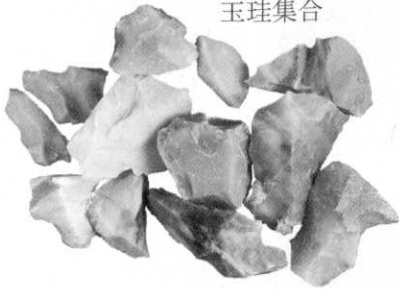
集合1-2



水晶+玉集合



玉珪集合



シルト集合



軽石集合



Ⅲ-31層



41-16

Ⅲ-34層



42-11

Ⅲ-39層



44-16

Ⅲ-87層



54-7

Ⅲ-95層



56-6

Ⅲ-107層



63-9

Ⅲ-100層



57-14

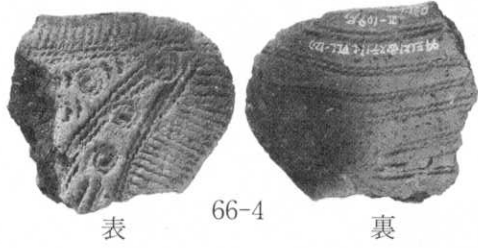
Ⅲ-105層



60-8

写真59 ポイント4出土石器(2)・1トレンチ出土土・石製品(1)

Ⅲ-109層



Ⅲ-124層



Ⅲ-136層



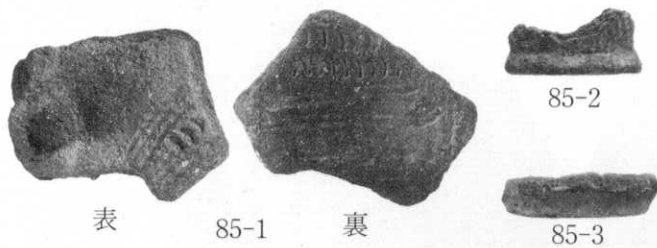
Ⅲ-133層



Ⅲ-145層直上



Ⅲ-5層



Ⅲ-30層



Ⅲ-37層



Ⅲ-44層



写真60 1トレンチ出土土・石製品(2)・4トレンチ出土土・石製品(1)

Ⅲ-50層



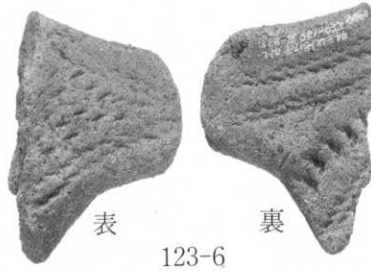
Ⅲ-55層



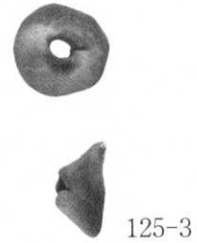
Ⅲ-66層



Ⅲ-83層



Ⅲ-86層



Ⅲ-77層



Ⅲ-90層



風倒木



Ⅲ-87層



Ⅲ-1層



Ⅲ-10b層



Ⅲ-10c層



Ⅲ-15層

Ⅲ-12層

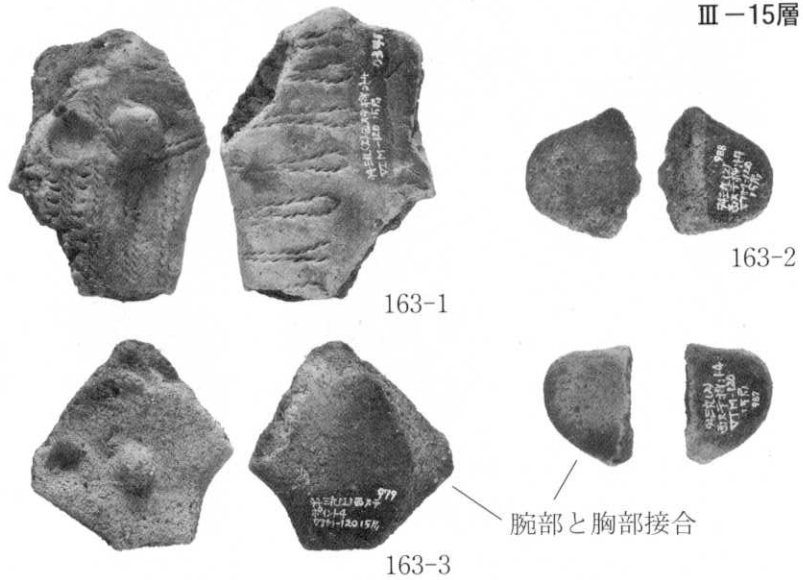


写真61 4トレンチ出土土・石製品(2)・ポイント4出土土・石製品(1)

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧（県教委発行分）

年 度	書 名	県埋蔵文化財報告書	内 容
昭和51	近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ） 三内丸山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書 —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—	第33集	昭和51年度に調査した県総合運動公園西駐車場地区の調査報告
昭和53	近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ） —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—	第47集	昭和52年度に調査した近野地区の調査報告
平成 5	三内丸山(2)遺跡Ⅱ —県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅰ—	第157集	平成4年度に調査した旧野球場建設予定地3 塁側スタンド地区検出遺構
平成 5	三内丸山(2)遺跡Ⅲ —県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財 発掘調査概報Ⅰ—	第166集	平成4～5年度の調査概要報告
平成 6	三内丸山(2)遺跡Ⅳ	第185集	平成6年度に調査した旧サッカー場建設予定地の試掘調査報告
平成 7	三内丸山遺跡Ⅴ —第1次～4次調査報告書—	第204集	平成7年度に実施した第1次～4次調査の報告
平成 7	三内丸山遺跡Ⅵ	第205集	平成4～7年度の調査概要報告
平成 8	近野遺跡Ⅴ —県営運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試 掘調査報告Ⅰ—	第216集	平成6～7年度に調査した近野地区の試掘調査報告
平成 8	三内丸山遺跡Ⅶ —第5次～7次調査概要報告書—	第229集	平成8年度に実施した第5次～7次調査の概要報告
平成 8	三内丸山遺跡Ⅷ —第6 鉄塔地区調査報告書Ⅰ—	第230集	平成4～5年度に調査した第6 鉄塔地区の検出遺構及び第Ⅲ～Ⅴc層の調査報告
平成 9	三内丸山遺跡Ⅸ —第6 鉄塔地区調査報告書Ⅱ—	第249集	平成4～5年度に調査した第6 鉄塔地区の第Ⅵa・Ⅵb層及び自然科学分野の調査報告
平成 9	三内丸山遺跡Ⅹ —旧野球場建設予定地発掘調査報告書Ⅱ—	第250集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成 9	三内丸山遺跡ⅩⅠ —第5次～7次調査報告書—	第251集	平成8年度に実施した第5次～7次調査の報告
平成 9	三内丸山遺跡ⅩⅡ —第8次～10次調査概要報告書—	第252集	平成9年度に実施した第8次～10次調査の概要報告
平成10	三内丸山遺跡ⅩⅢ —第11次～13次調査概要報告書—	第265集	平成10年度に実施した第11次～13次調査の概要報告
平成11	三内丸山遺跡ⅩⅣ —第14次～16次調査概要報告書—	第282集	平成11年度に実施した第14次～16次調査の概要報告
平成11	三内丸山遺跡ⅩⅤ —旧野球場建設予定地発掘調査報告書Ⅲ—	第283集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡ⅩⅥ —旧野球場建設予定地発掘調査報告書Ⅳ—	第288集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡ⅩⅦ —第6 鉄塔地区調査報告書Ⅲ—	第289集	平成4～5年度に調査した第6鉄塔地区の遺構外遺物に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡ⅩⅧ —第17次～19次調査概要報告書—	第309集	平成12年度に実施した第17次～19次調査の概要報告
平成13	三内丸山遺跡ⅩⅨ—第20次～22次調査概要 報告書—	第337集	平成13年度に実施した第20次～22次調査の概要報告
平成13	三内丸山遺跡ⅩⅩ —第8次・9次調査報告書—	第338集	平成9年度に実施した第8次・9次調査の報告

年 度	書 名	県埋蔵文化財報告書	内 容
平成14	三内丸山遺跡21 —第23次～25次調査概要報告書—	第361集	平成14年度に実施した第23次～25次調査の概要報告
平成14	三内丸山遺跡22 —第13次・14次・17次・20次調査報告書—	第362集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の報告
平成15	三内丸山遺跡23 —第23・26次調査報告書—	第381集	平成14・15年度に実施した第23次・26次調査の報告
平成15	三内丸山遺跡24 —第13・14・17・20次調査報告書—	第382集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の遺構外遺物に関する報告
平成15	三内丸山遺跡25 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書5 埋設土器編—	第383集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器に関する調査報告
平成16	三内丸山遺跡26 —第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査報告書—	第404集	平成9・10・11・13年度に実施した第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査の報告
平成16	三内丸山遺跡27 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書6 土坑編—	第405集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器・土坑に関する調査報告
平成16	三内丸山遺跡28 —第27・28次調査報告書—	第406集	平成16年度に実施した第27次調査の概要報告・第28次調査の報告
平成17	三内丸山遺跡29 —第19・25・27・29次調査報告書—	第422集	平成12・14・16・17年度に実施した第19・25・27・29次調査の報告
平成17	三内丸山遺跡30 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書7 掘立柱建物跡編(1)—	第423集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告1
平成18	三内丸山遺跡31 —第18・21・24次調査報告書—	第443集	平成12・13・14年度に実施し第18・21・24次調査の報告
平成18	三内丸山遺跡32 旧野球場建設予定地発掘調査報告書8 掘立柱建物跡編(2)—	第444集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告2
平成19	三内丸山遺跡33 —第30次調査報告書—	第462集	平成18年度に実施した第30次調査の報告
平成19	三内丸山遺跡34 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書9 掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—	第463集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告3と南盛土に関する調査報告1(拡張トレンチ部分)

は旧野球場建設予定地調査報告書

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんないまるやまいせき さんじゅうよん
書名	三内丸山遺跡34
副書名	旧野球場建設予定地発掘調査報告書9 掘立柱建物跡(3)・南盛土(1)
巻字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第463集
編著者名	岡田康博・木村真明・中村美杉・木村高・小笠原雅行・秦光次郎・水谷真由美
編集機関	青森県教育庁文化財保護課
所在地	〒030-8540 青森市新町二丁目3番1号 TEL 017-734-9924
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
さんないまるやまいせき 三内丸山遺跡	あおりけんあおりし 青森県青森市 おおあざさんないあざまるやま 大字三内字丸山	02201	01021	40°	140°	・1992.4.20 ～11.30	38,000	県営運動公園 拡張事業 に係る事前 調査
				48′	42′			
				40″	20″			
				日本測地系 (JGD2000)		・1993.4.12 ～12.17		
				北緯	東経			
40°	140°	・1994.4.4 ～11.18						
48′	42′							
50″	07″							

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三内丸山遺跡	集落跡	縄文時代	掘立柱建物跡 1基 (今回報告分) 南盛土(拡張トレンチ部分)	縄文土器 石器 土製品 石製品 木柱	縄文時代前・中期の 拠点集落跡の調査

青森県埋蔵文化財調査報告書第463集

三内丸山遺跡34

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書9 掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—

発行日 平成20年3月31日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室

〒030-8540 青森市新町2丁目3-1

TEL 017-734-9924 FAX 017-734-8280

印刷 株式会社 こがわ

〒038-0003 青森市大字石江字三好120-20

この印刷物は400部作成し、印刷経費は1部当たり3,413円です。